

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第208集

西近津遺跡群

西近津遺跡Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ

長野県佐久市長土呂西近津遺跡 第3・4・5次調査

2014. 3

佐 久 市
佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第208集

西近津遺跡群

西近津遺跡Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ

長野県佐久市長土呂西近津遺跡 第3・4・5次調査

2014. 3

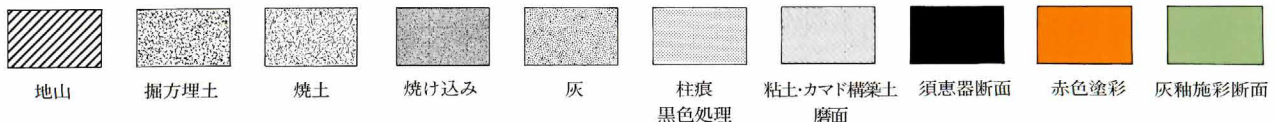
佐 久 市
佐久市教育委員会

例 言

1. 本書は佐久市に所在する西近津遺跡群西近津遺跡の第3・4・5次発掘調査報告書である。
2. 調査は第3次が市道S1-94号線改良工事、第4次が市道S1-101号線舗装工事、第5次がS-103号線改良工事に伴う記録保存調査として佐久市教育委員会が実施した。
3. 遺跡名及び所在地 西近津遺跡Ⅲ (NTⅢ) 佐久市長土呂1741-1外
西近津遺跡Ⅳ (NTⅣ) 佐久市長土呂1796-1B外
西近津遺跡Ⅴ (NTⅤ) 佐久市長土呂1183-7外
4. 調査期間及び面積
発掘調査 西近津遺跡Ⅲ 平成18年6月12日～平成18年9月20日
西近津遺跡Ⅳ 平成19年10月11日～平成20年2月28日
平成20年8月17日～平成20年12月19日
西近津遺跡Ⅴ 平成19年11月12日～平成20年1月8日
開発面積 西近津遺跡Ⅲ 850㎡ 西近津遺跡Ⅳ 1,950㎡ 西近津遺跡Ⅴ 785㎡
調査面積 西近津遺跡Ⅲ 680㎡ 西近津遺跡Ⅳ 1,510㎡ 西近津遺跡Ⅴ 580㎡
5. 本書で扱っている座標は世界測地系である。(西近津遺跡Ⅲのみ旧測地系)
6. 西近津遺跡Ⅲ・Ⅳの発掘調査・整理・報告書編集は佐々木宗昭・林 幸彦、西近津遺跡Ⅴは冨沢一明が担当した。
7. 本遺跡の出土遺物自然科学分析は、パリノ・サーヴェイ株式会社、パレオ・ラボに委託した。
8. 本書及び関係資料等は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡 例

1. 遺構の略記号は、竪穴住居址－H 竪穴状遺構－T a 掘立柱建物址－F 古墳址－O T
土坑－D 溝状遺構－M ピット－Pである。
2. 挿図の縮尺は、遺構1/80・遺物1/4が基本である。挿図毎にスケールを示した。
3. 遺構の海拔標高は各遺構毎に統一し、水系標高を標高として記した。
4. 土層の色調は1988年版「新版 標準土色帖」に基づいた。
5. 遺物挿図番号と遺物写真番号及び遺物観察表番号は一致する。
6. 調査区は公共座標の区割りにしたが、間隔は4 m×4 mに設定した。
7. 遺構名は変更等により欠番が生じている。
8. 挿図中のスクリントーンは、以下のことを示す。



目 次

例言・凡例・目次

第 I 章 発掘調査の経緯

第 1 節 経過と周辺遺跡	1
第 2 節 調査体制	1
第 3 節 調査日誌	2
第 4 節 基本層序	2
第 5 節 検出遺構・遺物の概要	2

第 II 章 西近津遺跡Ⅲ

第 1 節 竪穴住居址	5
第 2 節 掘立柱建物址	35
第 3 節 土坑	37
第 4 節 溝状遺構	38
第 5 節 ピット	39
第 6 節 遺構外出土遺物	41

第 III 章 西近津遺跡Ⅳ

第 1 節 竪穴住居址	47
第 2 節 竪穴状遺構	115
第 3 節 掘立柱建物址	115
第 4 節 土坑	117
第 5 節 溝状遺構	134
第 6 節 ピット	144
第 7 節 遺構外出土遺物	151

第 IV 章 西近津遺跡Ⅴ

第 1 節 竪穴住居址	157
第 2 節 掘立柱建物址	175
第 3 節 土坑	181
第 4 節 溝状遺構	182
第 5 節 古墳跡	186
第 6 節 ピット	186
第 7 節 遺構外出土遺物	186

第 V 章 まとめ	186
-----------	-----

付篇

図版

第1章 発掘調査の経緯

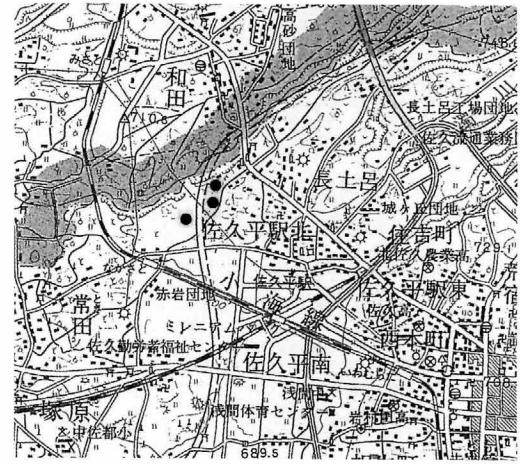
第1節 経過と周辺遺跡

西近津遺跡群は、佐久・小諸両市境を南西に流下する湧玉川左岸の田切り台地上に立地し、標高は700～713mを測る。台地の南・東側は、浅い低地で周防畑遺跡群と画されている。近津神社西からJR小海線に至る大きな遺跡群で、縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世の遺構や遺物が多く知られている。鷲林城跡が西端にある。

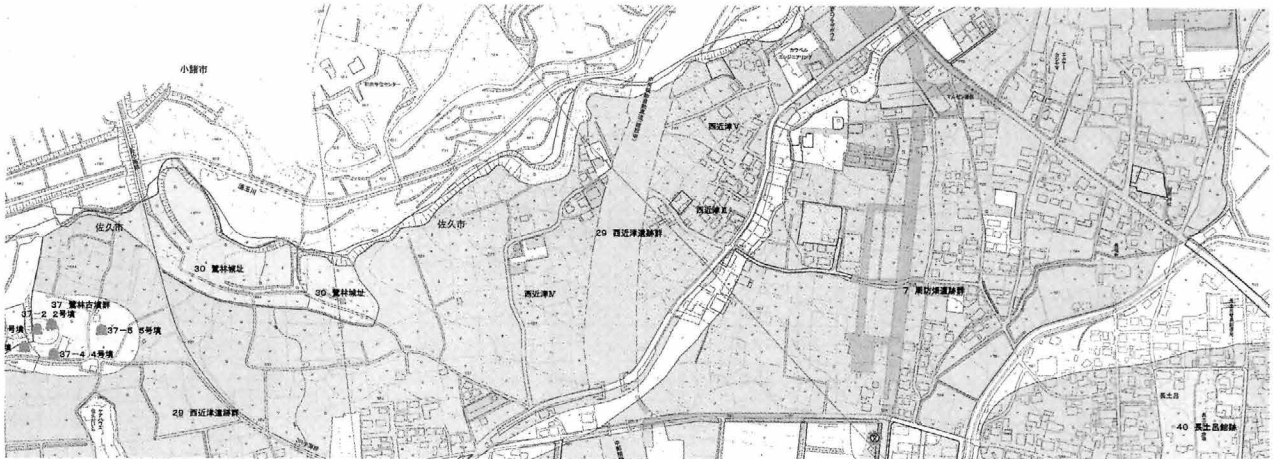
今回の調査地点に近接した長野県埋蔵文化財センターが行った中部横断自動車道に関わる発掘調査では、200軒を超える弥生時代後期、古墳時代、奈良・平安時代等の竪穴住居址をはじめ、国内最大級の弥生時代後期の住居址や古代銅印「銚子私印」が発見され注目を集めている。

付近の集合住宅建築工事に先立つ発掘調査では、弥生時代後期～平安時代の遺構が数多く検出されている。特に、西近津遺跡Ⅳに接する西近津遺跡Ⅶでは弥生後期～平安時代の竪穴住居址と共に縄文時代後期の敷石住居址や土坑と多量の遺物が発見されている。

佐久市の行う市道改良工事に伴い、平成18年度に西近津遺跡Ⅲ、平成19年度に西近津遺跡Ⅳ・Ⅴ、平成20年度に西近津遺跡Ⅳの記録保存調査を実施した。



第1図 西近津遺跡Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ位置図(1:25,000)



第2図 西近津遺跡Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ位置図(1:10,000)

第2節 調査体制

調査主体者 佐久市教育委員会 教育長 三石昌彦(平成18年度) 木内 清(平成19年度～21年5月)
土屋盛夫(平成21年5月～25年度)

事務局

社会教育部長 柳澤義春(18・19年度) 内藤孝徳(20～21年6月) 工藤秀康(21年7月～22年度)
伊藤明弘(23・24年度) 矢野光宏(25年度)

社会教育部次長 山崎明敏(19年度) 柳澤本樹(20年度) 金沢英人(21年4～6月) 藤巻 浩(23年度)

文化財課長 中山 悟(18年度～19年6月) 森角吉晴(19年7月～22年度)

吉澤 隆(23・24年度) 三石宗一(25年度)

文化財係長 高柳正人(18年度) 三石宗一(19～24年度) 比田井清美(25年度)

文化財調査係 林 幸彦(20～23年度) 須藤隆司(22年度～) 小林真寿(22年度～)

専門員 羽毛田卓也(22～24年度) 富沢一明(23年度～) 上原 学(23年度～)

文化財調査係 林 幸彦(～19年度) 並木節子(19～24年度) 富沢一明(～22年度) 上原 学(～22年度)
神津 格(18年度～21年9月) 井出泰章(21年10月～23年9月) 神津和明(23年10月～)
出澤 力(～23年6月) 久保浩一郎(24年度～)

嘱託 林 幸彦(24・25年度)

(1) 調査体制

調査担当者 林 幸彦 富沢一明 佐々木 宗昭 調査主任 森泉かよ子 調査副主任 堺 益子

調査員 赤羽根充江 浅沼勝男 浅沼ノブ江 阿部和人 安藤孝司 磯貝律子 市川明子 市川光吉

井出孝子 岩崎重子 岩松茂年 碓氷知子 白田絢佳 白田真杉 岡村千代美 小幡弘子 加藤ひろ美

柏木義雄 狩野小百合 菊池喜重 神津和子 神津千春 小林節子 小林妙子 小林百合子 小林千勝

小林よしみ 斉藤恵李 佐藤瑞希 里見理生 澤井知春 清水澄生 清水律子 副島充子 大工原達江

田中ひさ子 土屋邦子 土屋武士 中山清美 萩原宮子 橋詰勝子 橋詰信子 花里佐恵子 林美智子

林まゆみ 比田井久美子 日向昭次 広瀬梨恵子 細谷秀子 堀籠保子 森泉こずえ 横尾敏雄

柳沢孝子 柳澤 武 山元有美子 依田三男 依田美穂

第3節 調査日誌

平成18年6月12日～平成18年9月20日 西近津遺跡Ⅲ発掘調査。

平成19年10月11日～平成20年2月28日 西近津遺跡Ⅳ発掘調査。

平成19年11月12日～平成20年1月8日 西近津遺跡Ⅴ発掘調査。

平成20年8月17日～平成20年12月19日 西近津遺跡Ⅳ発掘調査。

整理作業 平成20年1月21日～3月28日・4月7日～4月18日・12月9日～21年3月31日、

平成21年4月2日～4月17日、平成22年4月1日～4月20日・8月23日～10月20日・

12月21日～23年1月20日、平成23年8月22日～11月20日、平成24年4月23日～6月20日

平成25年4月15日～5月20日、平成26年3月 報告書刊行をもって調査終了。

第4節 基本層序

調査区ほぼ全面が現道路下で、10～30cmが道路構築土であった。西近津遺跡ⅢはⅡ層耕作土直下が浅間火山流堆積層の漸移層となる地点が多い。西近津遺跡Ⅳ・Ⅴは道路の影響が少なく、遺構掘り込み面のⅤ層が見られる地点がある。遺構確認は一層の上面では困難で、浅間火山軽石流堆積層上部で行った地点が多い。

第5節 検出遺構・遺物の概要

西近津遺跡Ⅲ

遺構 竪穴住居址27軒(古墳中期1軒・後期5軒、奈良・平安17軒、不明4軒)、土坑(土坑墓含む)13基、溝状遺構2本、ピット113個

遺物 弥生後期土器(箱清水式)、土師器、須恵器、鉄製品(紡錘車・刀子等)、石製品(打製石斧・打製石鏃・砥石・磨石・敲石等)、獣骨、炭化種実。

西近津遺跡Ⅳ

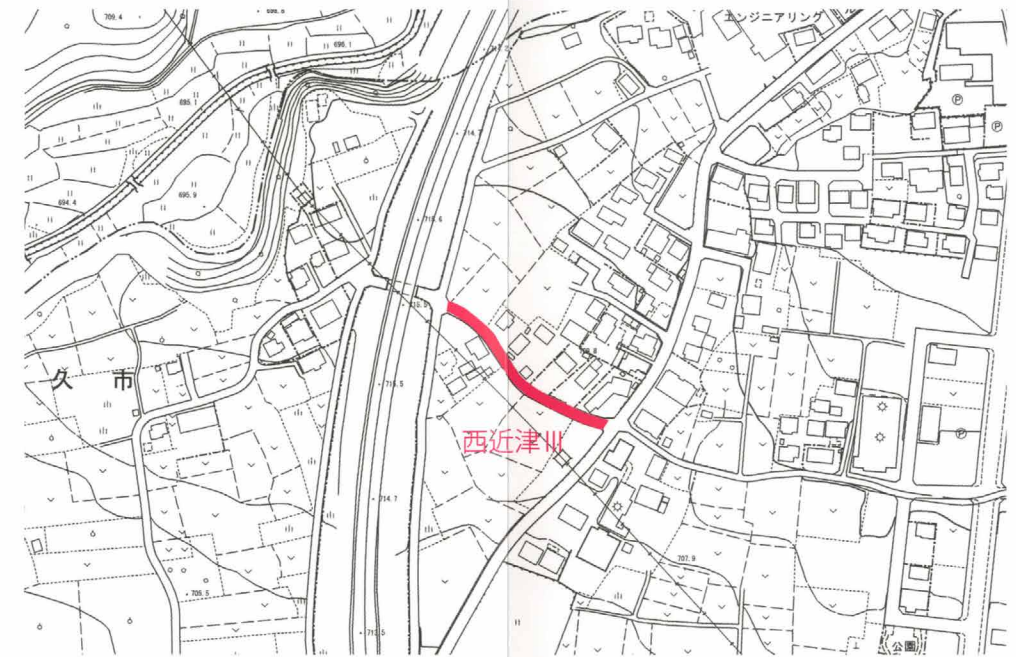
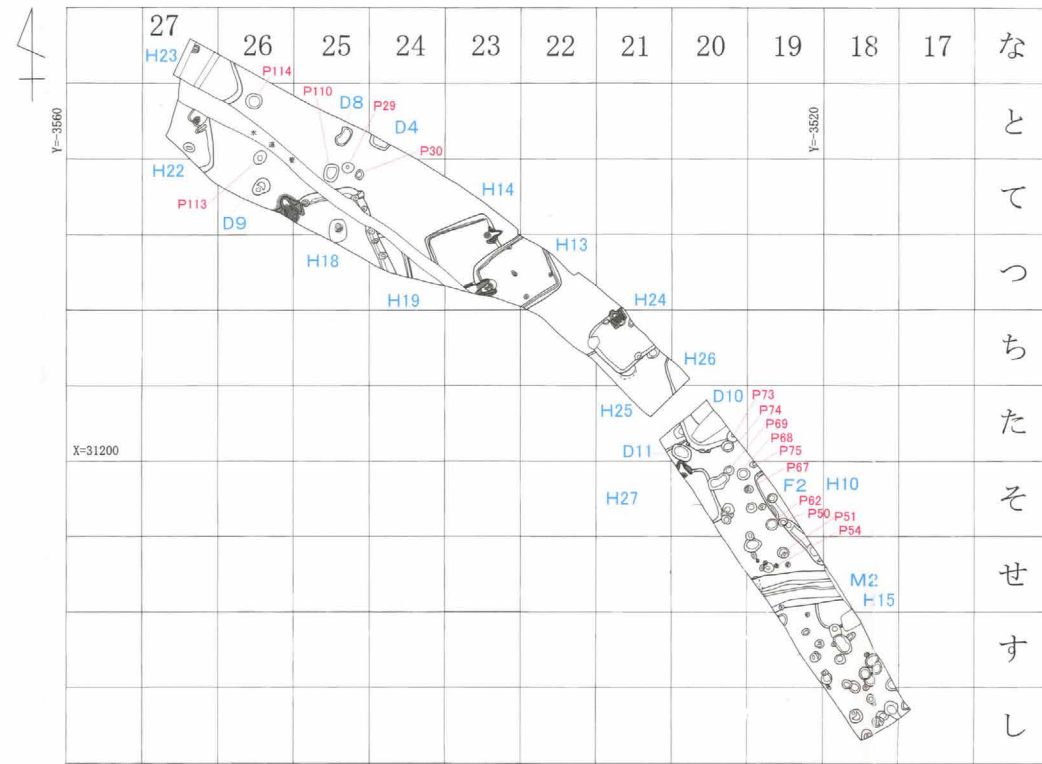
遺構 竪穴住居址52軒(弥生後期22軒、古墳後期9軒、奈良・平安14軒、不明7軒)、竪穴状遺構1棟、掘立柱建物址5棟、土坑46基、溝状遺構15本、ピット187個

遺物 縄文中期後半・後期初頭・前葉・中葉土器、弥生後期土器(箱清水式)、土師器、須恵器、鉄製品(鉄鏃・紡錘車・刀子等)、石製品(打製石斧・打製石鏃・砥石・磨石・敲石等)、玉類等、人骨、獣骨、炭化種実。

西近津遺跡Ⅴ

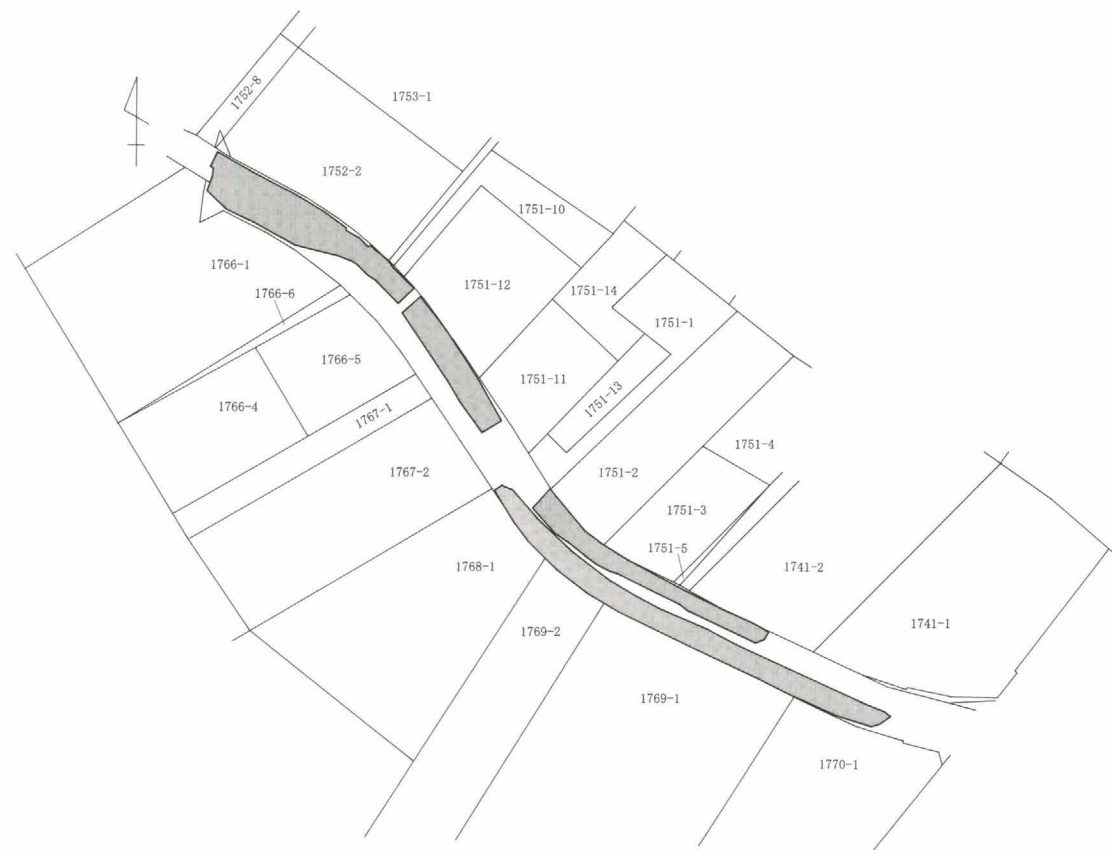
遺構 竪穴住居址19軒(弥生時代後期3軒、古墳時代中期1軒・後期9軒、奈良・平安時代6軒)、土坑(土坑墓・粘土採掘坑含む)10基、溝状遺構7本、古墳址1基、ピット88個

遺物 縄文後期中葉土器、弥生後期土器、土師器、須恵器、土製品(紡錘車等)、鉄製品(紡錘車・刀子等)、石製品(打製石斧・打製石鏃・砥石・磨石・敲石等)、獣骨、

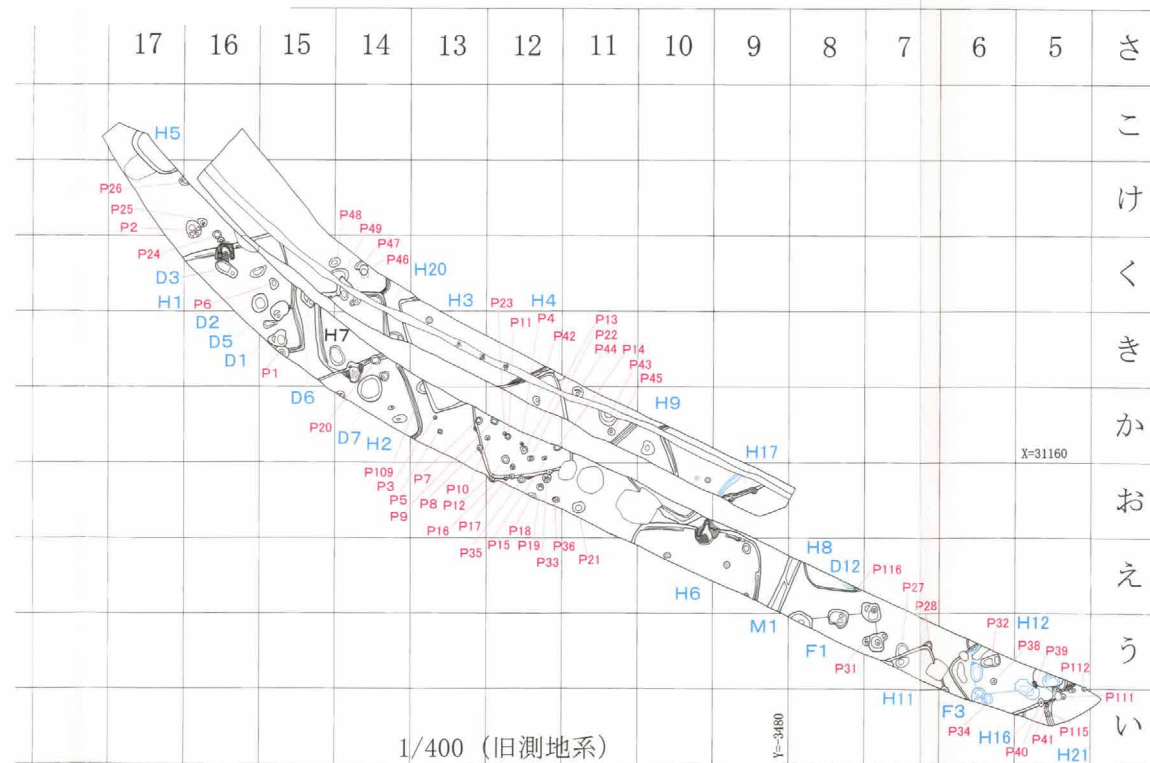


西近津遺跡Ⅲ位置図

1/5000

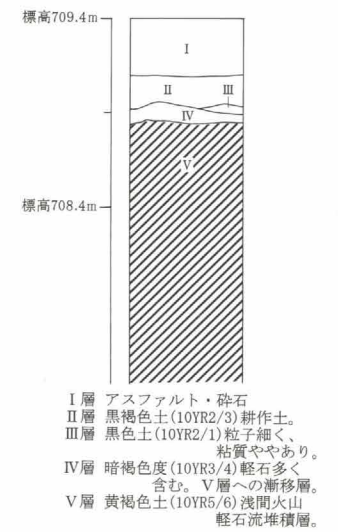


西近津遺跡調査対象地(1:1,000)



1/400 (旧測地系)

西近津遺跡Ⅲ 調査全体図

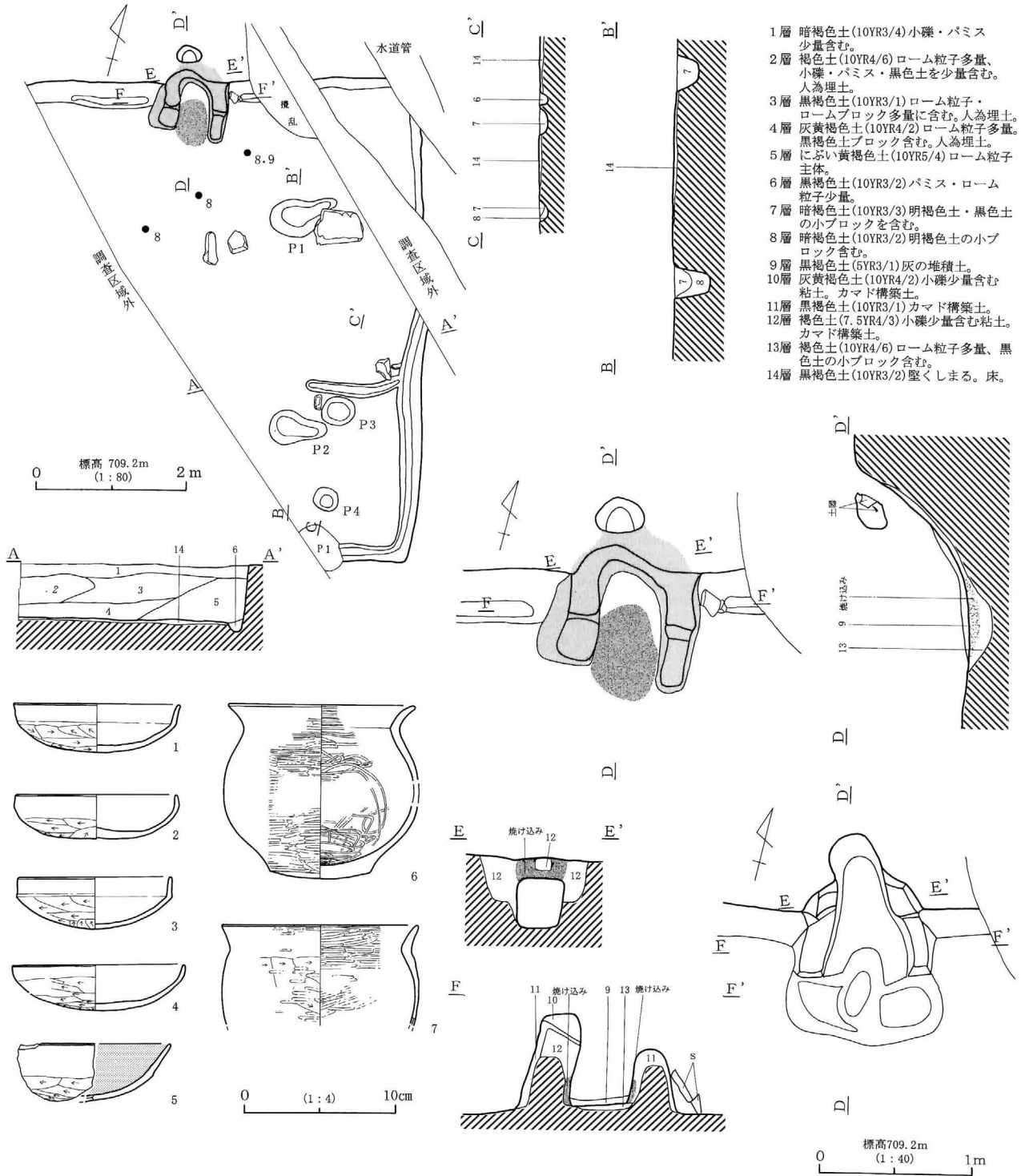


第II章 西近津遺跡III

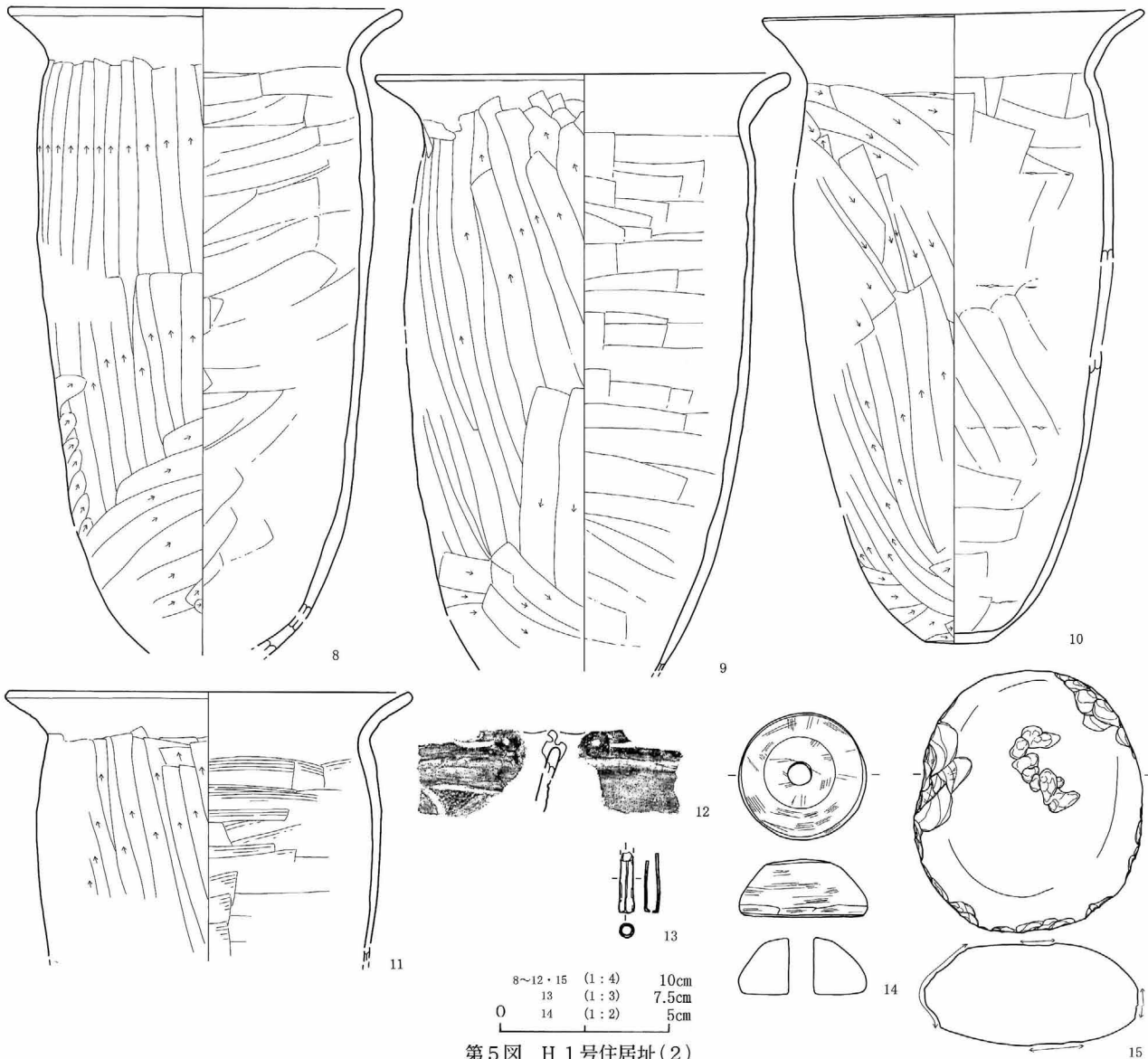
第1節 竪穴住居址

(1) H1号住居址

き・く-15・16、け-15Grにあり、D1~D3、P1、P6に切られる。カマドは北壁中央に地山削



第4図 H1号住居址(1)



第5図 H1号住居址(2)

第1表 H1号住居址出土遺物観察表

(cm)

H1		法量			成形・調整・文様				推定値()残存値<>丸底・	
No.	種別	器種	口径(長)	底径(短)	器高(厚)	内面	外面	備考	出土位置	
1	土師器	坏	11.0	-	3.2	ナデ→ヨコナデ	□縁部ヨコナデ→底部ヘラケズリ	完全実測	カマド	
2	土師器	坏	(11.0)	-	2.9	ナデ→ヨコナデ	□縁部ヨコナデ→底部ヘラケズリ	回転実測	カマドソデ No.3	
3	土師器	坏	(10.2)	-	3.4	ナデ→ヨコナデ	底部ヘラケズリ→□縁部ヨコナデ	回転実測	6C中葉~7C初頭 カマド カマドソデ No.3	
4	土師器	坏	(11.4)	-	3.1	ナデ→ヨコナデ	□縁部ヨコナデ→底部ヘラケズリ	完全実測	カマド カマドソデ No.3	
5	土師器	坏	-	-	-	ミガキ→黒色処理	□縁部ヨコナデ→底部ヘラケズリ	破片実測	Ⅲ区	
6	土師器	鉢	(12.4)	(6.7)	11.5	ミガキ	ミガキ	回転実測	Ⅰ区 Ⅲ区 Ⅳ区	
7	土師器	鉢	(13.0)	-	<6.7>	□縁部ヨコナデ・胴部ヘラナデ→ミガキ	□縁部ヨコナデ→胴部ヘラケズリ→ミガキ	回転実測	カマド	
8	土師器	壺	23.1	-	<37.8>	□縁部ヨコナデ→底部ヘラナデ	□縁部ヨコナデ→底部ヘラケズリ	完全実測	□縁部に最大径 Ⅰ区 Ⅰ区床 カマド No.1・5・6	
9	土師器	壺	24.4	-	<35.0>	□縁部ヨコナデ→底部ヘラナデ	□縁部ヨコナデ→底部ヘラケズリ	完全実測	□縁部に最大径 Ⅰ区床 Ⅱ区 カマド No.1	
10	土師器	壺	22.4	3.6	37.1	□縁部ヨコナデ→胴から底部ヘラナデ・ナデ	□縁部ヨコナデ→胴部ヘラケズリ→底部ヘラケズリ	完全実測	□縁部に最大径 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ区 カマド	
11	土師器	壺	(23.8)	-	<15.7>	□縁部ヨコナデ→胴部ヘラナデ	□縁部ヨコナデ→底部ヘラケズリ	回転実測	□縁部に最大径 Ⅰ区 Ⅱ区床	
12	縄文	深鉢	□縁部内折。小突起の円形貼付文から□縁に沿って沈線。内面円形貼付文から□縁に沿って沈線。					堀之内1		
No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置		
13	器種不明	鉄	<2.6>	<0.7>	器厚<0.6> 素材<0.1>	<1.28>	板状の素材を筒状に加工。底部は閉じた形状。	Ⅱ区		
14	紡錘車		最大径3.7	最小径2.1	1.7	33.03	孔径0.7。擦痕残る。	カマド左袖部 No.5		
15	砥石		15.3	13.3	5.8	1653.37	正裏中央と周囲に敲打痕。	Ⅱ区		

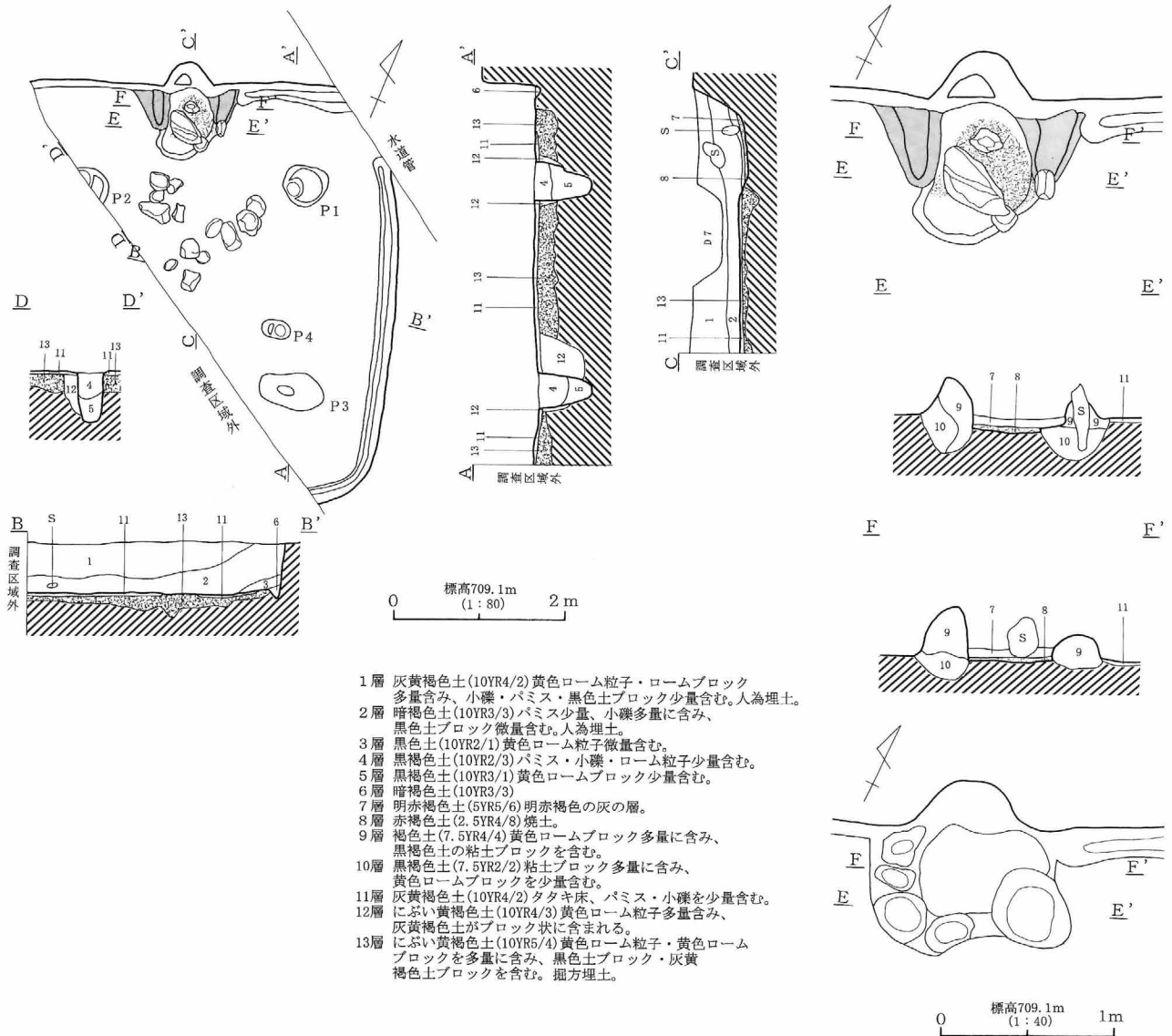
り出しで、粘土・褐色土・黒褐色土で構築されている。P1周辺床面上に散乱する熔結凝灰岩・安山岩はカマド構築に使用されたものであろうか。ピットは4個検出され、支柱穴P1・P2の柱穴間は280cmを測る。覆土2~5層は人為埋土。床は堅く締まる。東壁下・カマド脇には壁溝が巡る。P3・P4とP3脇の溝は、間仕切りの基礎であろう。遺物は、土師器1~11、縄文後期土器12、器種不明鉄器

13、滑石の紡錘車14、敲石15がある。坏は須恵器坏蓋模倣で内面黒色処理5、須恵器坏身模倣の1・3、半球状の2・4が、甕は口縁部に最大径があり底部突出せず胴が長い8～11、6・7は鉢。2～4がカマド内、14がカマド左袖部、9・10がカマド前床面から出土。覆土内からウシのツノと見られる破片出土。

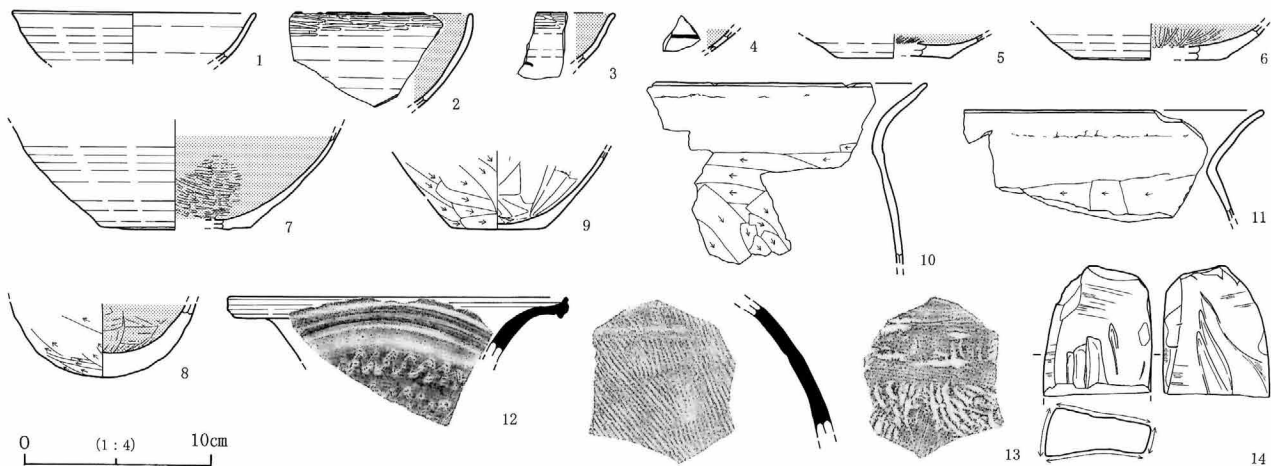
本址はこれらの遺物より小林眞寿の編年(2005聖原)古墳時代IV期- 7世紀代に位置づけられる。

(2) H 2 号住居址

か-13・14、き-14・15 Gr にあり D 7・P 20 に切れ、H 7 を切る。カマドは北壁中央に、褐色土・黒褐色土と礫で構築されている。P 1・P 2 間床面上に散乱する面取軽石・熔結凝灰岩・安山岩もカマド構築材の一部とみられる。支柱穴 P 1・P 2 および P 1・P 3 の柱穴間は240cmを測る。床は堅く平坦。カマド東から南壁下を壁溝が巡る。覆土1・2層は人為埋土。遺物は土師器1～11、須恵器甕12・13、砥石14がある。土師器坏2～6は内面黒色処理、坏5・6の底部は回転糸切りされる。3・4は墨書。7の鉢は、内面黒色処理で底部回転糸切り後手持ちヘラケズリされる。口縁部に最大径がある甕10・11は混入遺物である。本址はこれらの遺物とH 7 を切る重複関係より9世紀後半以降に位置づけられる。



第6図 H 2 号住居址(1)



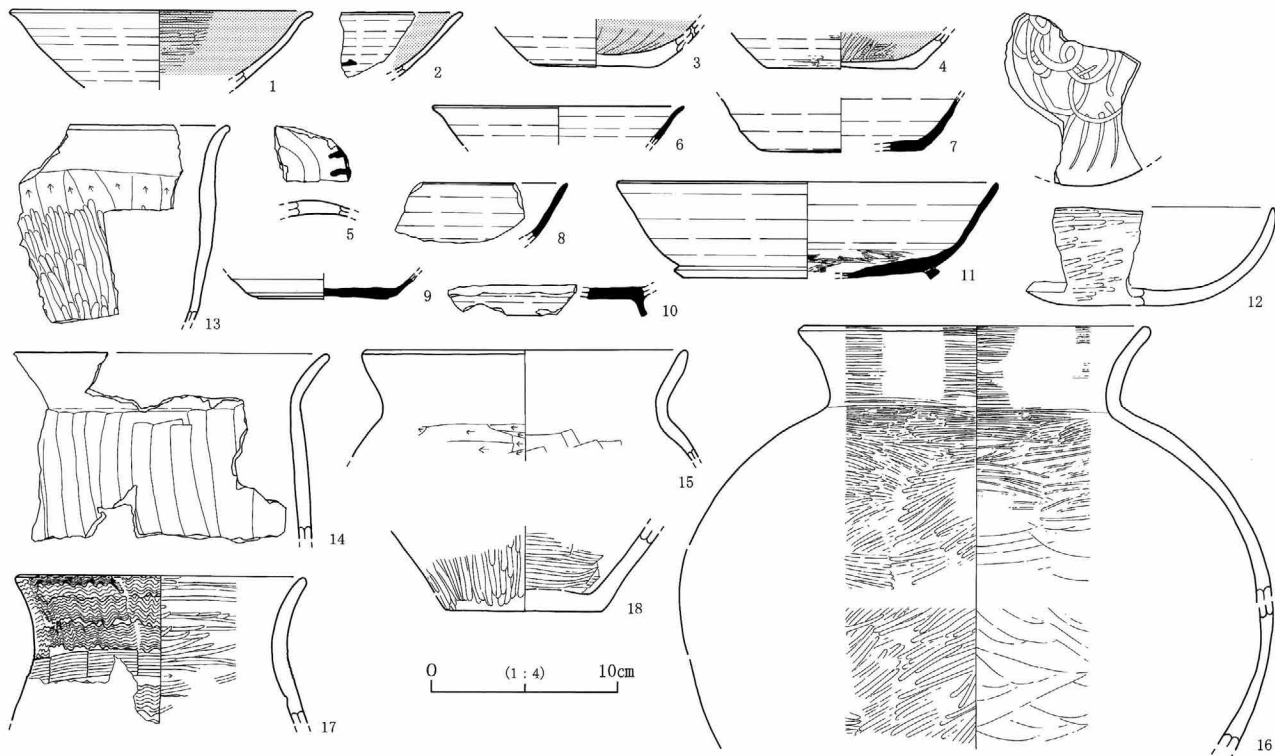
第7図 H2号住居址(2)

第2表 H2号住居址出土遺物観察表

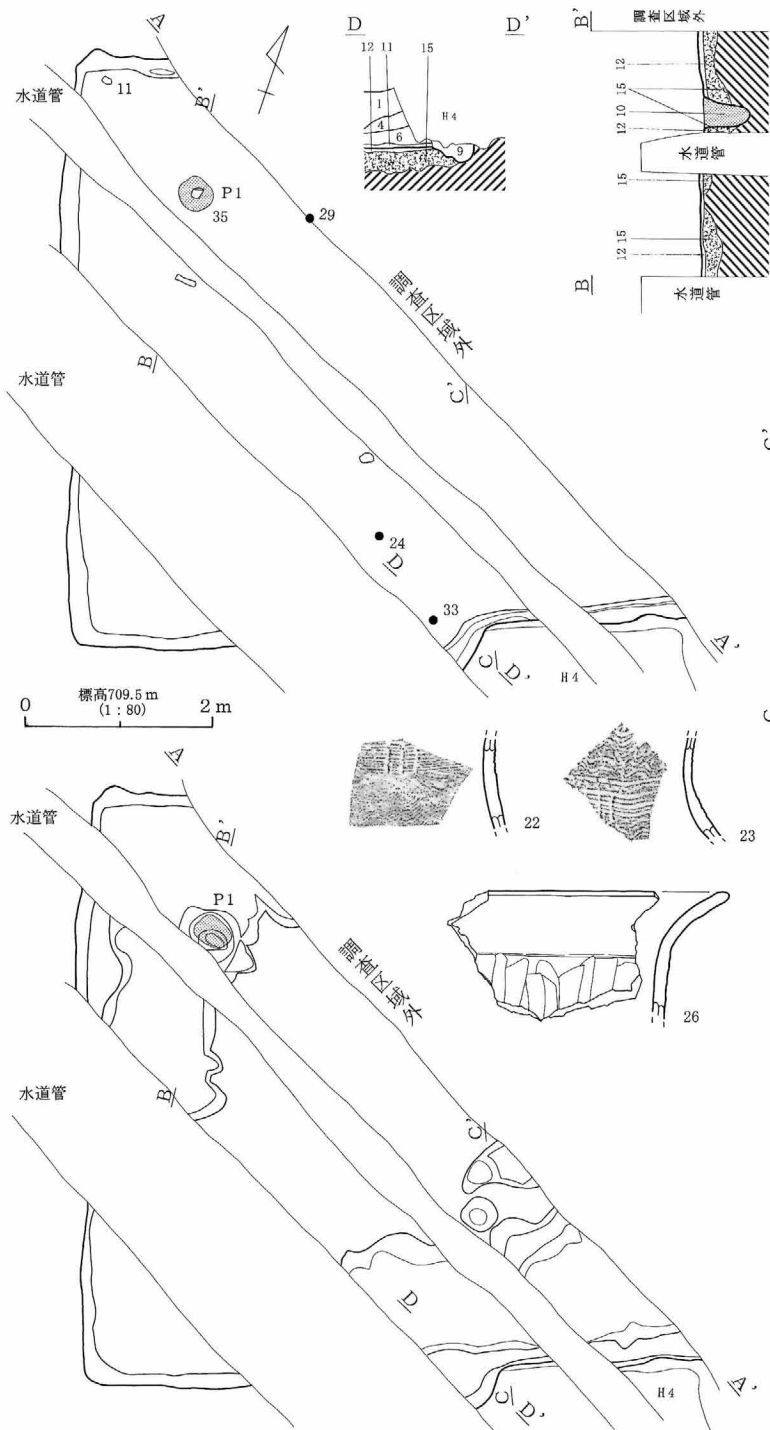
(cm)

H2			法量			成形・調整・文様				推定値()残存値< >丸底・	
No.	種別	器種	口径(段)	底径(幅)	器高(厚)	内面		外面		備考	出土位置
1	土師器	坏	(13)	-	<2.7>	ロクロナデ		ロクロナデ		回転実測	カマド
2	土師器	坏	-	-	-	ミガキ→黒色処理		ロクロナデ→口辺部ミガキ後黒色処理		破片実測	IV区
3	土師器	坏	-	-	-	ミガキ→黒色処理		ロクロナデ		破片実測 墨書あり	フク土
4	土師器	坏	-	-	-	ミガキ→黒色処理		ロクロナデ		破片実測 墨書あり	検出面
5	土師器	坏	-	(6.2)	<1.3>	ミガキ→黒色処理		ロクロナデ→底部糸切り		回転実測	I区
6	土師器	鉢	-	(8.2)	<1.9>	ミガキ→黒色処理		ロクロナデ→底部回転糸切り		回転実測	フク土
7	土師器	鉢	-	(8.0)	<5.4>	ミガキ→黒色処理		ロクロナデ		回転実測	カマド H7 I区・II区・ホリ方
8	土師器	鉢	-	-	<3.8>	ヘラナデ→黒色処理		ヘラケズリ		回転実測	II区
9	土師器	鉢	-	5.1	<4.2>	ナデ		胴部ヘラケズリ。底部ヘラケズリ		完全実測	II区
10	土師器	罐	-	-	-	口縁部ヨコナデ→胴部ナデ		口縁部ヨコナデ→胴部ヘラケズリ		破片実測	II区 IV区 カマド
11	土師器	罐	-	-	-	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラナデ		口縁部ヨコナデ→胴部ヘラケズリ		破片実測	カマド
12	須恵器	罐	(18.0)	-	<3.4>	ヨコナデ。自然釉付着		ヨコナデ→楕円波状文		回転実測	II区
13	須恵器	罐	-	-	-	当て具痕→ヨコナデ		タタキ目→ヨコナデ		断面実測	IV区
No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見				出土位置
14	砥石		<6.9>	<5.6>	<2.7>	<139.88>	下部欠損。砥面数4。正裏に幅の広い条痕あり。				I区

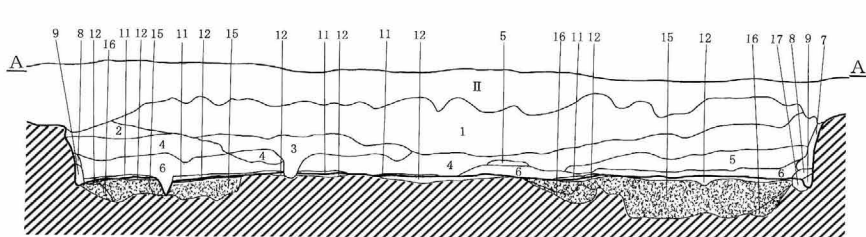
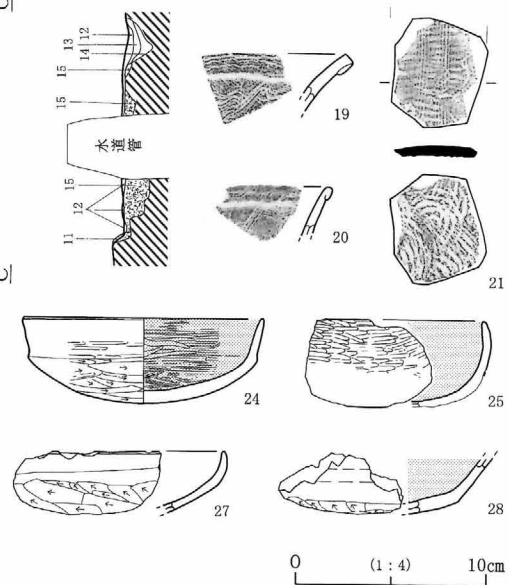
(3) H3号住居址



第8図 H3号住居址(1)



- 1層 黒褐色土(10YR2/3)炭・パミス少量。人為埋土。
- 2層 暗褐色土(10YR3/4)P1小ブロック多量。人為埋土。
- 3層 黒褐色土(10YR2/3)P1小ブロック少量。人為埋土。
- 4層 褐色土(10YR4/4)黄褐色土の小ブロック多量。黒褐色土の小ブロック少量。人為埋土。
- 5層 黒褐色土(10YR2/2)黄褐色土の小ブロック少量。黒褐色土の小ブロック多量。人為埋土。
- 6層 黄褐色土(10YR4/3)黄褐色土の小ブロック多量。炭化材多量。南側には焼土ブロック多量。
- 7層 暗褐色土(10YR3/3)黄褐色土の小ブロック多量。
- 8層 黒褐色土(10YR2/3)
- 9層 黄褐色土(10YR4/3)黄褐色土の小ブロック多量。
- 10層 灰黄褐色土(10YR4/2)柱痕。柔い。
- 11層 暗褐色土(10YR3/3)床面直上の粘質土。
- 12層 黄褐色土(10YR5/4)黄褐色土、明黄褐色土が主。黒褐色土の小ブロック少量。床。
- 13層 黒色土(10YR2/1)炭
- 14層 黄褐色土(7.5YR5/4)に黄褐色土のP1が主。黒褐色土の小ブロック少量。
- 15層 褐色土(10YR4/4)黄褐色土・に黄褐色土・黒褐色土のブロック多量。掘方埋土。
- 16層 褐色土(10YR4/4)に黄褐色土が主。掘方埋土。
- 17層 褐色土(7.5YR4/6)柔い。

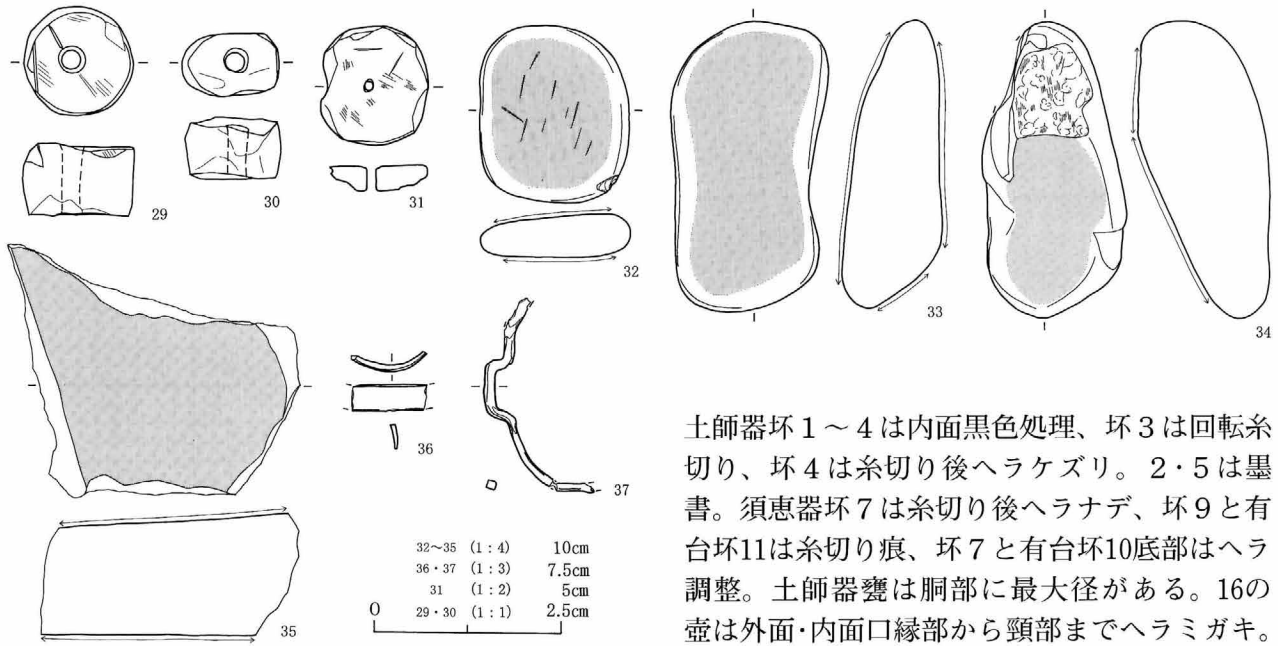


第9図 H3号住居址(2)

か-13、き-12~14、く-13・14GrにありH4に切られ、H20・P109を切る。主柱穴の柱痕28cm、床は堅く平坦。

張り出し部から南壁下を壁溝が巡る。覆土1~5層は人為埋土、6層中には多量の炭化材小片と南側に焼土ブロックが多量に見られた。

遺物は土師器杯1~4・蓋?5・鉢13・甕15・壺16、須恵器杯6~9・有台杯10・11、土器片円板21、磨石32・33、敲石34、石35、角軸の鉄製品37がある。炭化栽培種モモ3個、イネ1個、マメ科3個が床面II・III・IV区から出土。



第10図 H 3号住居址(3)

土師器坏1~4は内面黒色処理、坏3は回転糸切り、坏4は糸切り後ヘラケズリ。2・5は墨書。須恵器坏7は糸切り後ヘラナデ、坏9と有台坏11は糸切り痕、坏7と有台坏10底部はヘラ調整。土師器甕は胴部に最大径がある。16の壺は外面・内面口縁部から頸部までヘラミガキ。14・26の土師器甕、放射状・螺旋暗文の坏12、土師器坏24・25・27・28、弥生時代後期土器、36の銅釧、29~31の石製模造品は混入遺物である。

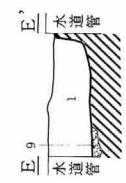
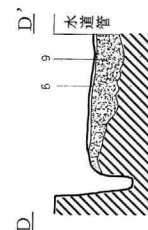
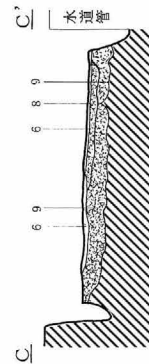
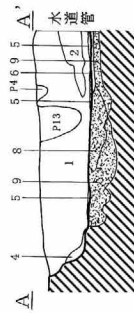
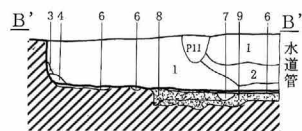
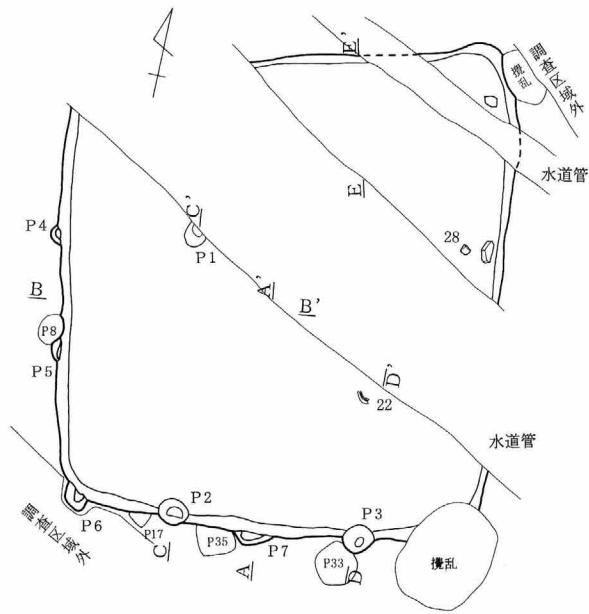
本址はこれらの遺物と9世紀前半のH4に切られる重複関係より8世紀後半に位置づけられる。

第3表 H 3号住居址出土遺物観察表

(cm)

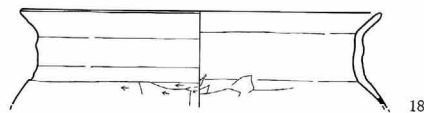
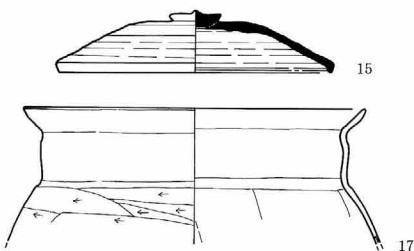
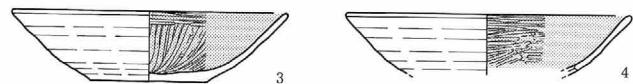
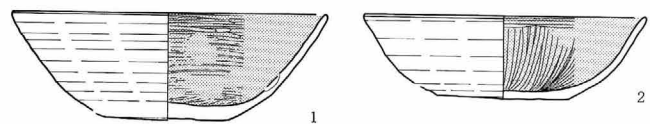
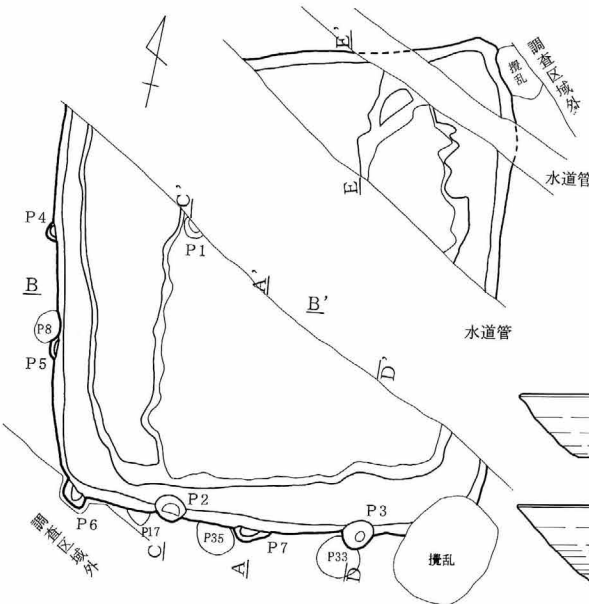
H 3		法 量			成形・調整・文様			推定値()残存値< >丸底・出土位置	
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
1	土師器	坏	(16.0)	-	4.1	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転実測	Ⅲ区2層 Ⅳ区 確認面
2	土師器	坏	-	-	-	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	破片実測 墨書あり	確認面
3	土師器	坏	-	6.7	<2.5>	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部糸切り	回転実測	Ⅳ区
4	土師器	坏	-	(8.0)	<1.9>	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部と外周手持ちヘラケズリ→ミガキ	回転実測	確認面
5	土師器	甕?	-	-	-	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→天井部回転ヘラケズリ	破片実測 墨書あり	確認面
6	須恵器	坏	(13.4)	-	<2.1>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測 内外面に火だすき有	確認面
7	須恵器	坏	-	(8.5)	<2.9>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り後ナデ	回転実測 内外面に火だすき有	確認面
8	須恵器	坏	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	破片実測	確認面
9	須恵器	坏	-	(7.6)	<1.4>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り	回転実測 内外面に火だすき有	確認面
10	須恵器	有台坏	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ→高台貼付	破片実測	確認面
11	須恵器	有台坏	(20.3)	(14.2)	5.1	ロクロナデ→みこみ部ヘラナデ	ロクロナデ→底部糸切り→高台貼付	回転実測	No.3
12	土師器	坏	-	-	-	ミガキ→暗文	ミガキ	破片実測 磨耗	確認面
13	土師器	鉢	-	-	-	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラケズリ後ミガキ	破片実測	Ⅲ区2層
14	土師器	甕	-	-	-	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラナデ	破片実測	I区 I区床 II区床
15	土師器	甕	(17.4)	-	<5.8>	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	回転実測	I区床
16	土師器	甕	(18.7)	-	<22.6>	口縁部から胴上半ミガキ。胴部ミガキ	ミガキ	完全実測	Ⅲ区 Ⅲ区2層 Ⅲ区床 Ⅲ区H4 I区 I区1層 II区床
17	弥生	甕	(15.4)	-	<8.0>	ミガキ	榑描簾状文(1連止め)	回転実測	I区床
18	弥生	壺	-	8.4	<4.7>	ハケナデ	ミガキ	完全実測	Ⅲ区2層
19	弥生	甕	内面 ミガキ。外面 榑描波状文。折り返し口縁。口唇部平(面取り)。						Ⅱ区2層
20	弥生	甕	内面 ミガキ。外面 榑描波状文。折り返し口縁。						Ⅲ区2層
21	須恵器	土器片円板	方形甕胴部片。敲打痕・剥離痕。長辺5.5cm短辺4.5cm厚さ0.6cm。内面 当て具痕。外面 タタキ目。						確認面
22	弥生	甕	内面 ミガキ。外面 榑描波状文・榑描簾状文(3連止)。						Ⅱ区
23	弥生	甕	内面 ミガキ。外面 榑描波状文・榑描簾状文(4連止)。						Ⅱ区2層
24	土師器	坏	(12.8)	-	4.5	ミガキ→黒色処理	口縁ヨコナデ→底部ヘラケズリ→一部ミガキ	回転実測	Ⅲ区2層 No.2
25	土師器	坏	-	-	-	ミガキ→黒色処理	ミガキ	破片実測 外面剥離	確認面
26	土師器	甕	-	-	-	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラナデ	破片実測	Ⅲ区1層
27	土師器	坏	-	-	-	ナデ→口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ→底部ヘラケズリ	破片実測	確認面
28	土師器	坏	-	-	-	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部手持ちヘラケズリ	破片実測	Ⅲ区2層
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見	出土位置	
29	白玉	滑石	1.4	1.4	0.9	<3.49>	孔径 0.25~0.3。一部欠損。正面に糸痕。	No.7	
30	白玉	滑石	0.8	1.2	0.8	<1.43>	孔径 0.2~0.3。一部欠損。	I区床面	
31	石製模造品	滑石	3.1	2.9	0.6	<10.59>	孔径 0.25。裏面一部欠損。	I区	
32	磨石		9.3	7.9	2.3	316.97	正裏にすり面。正面に擦痕あり。	カクラン	
33	磨石(礫物石?)		15.4	8.4	5.1	984.34	正裏・下側にすり面。形状から礫物石の可能性あり。	No.4	
34	磨・敲石		<15.6>	<7.5>	<6.8>	<1000.22>	一部欠損。正面に磨滅した敲打痕とすり面。	I区	
35	台石		<13.3>	<15.3>	<6.4>	<1822.24>	被熱あり(裏面黒化)。全周欠損。正裏に使用面。	P1内 No.6	
36	銅釧	銅	<3.0>	<1.0>	<0.2>	<3.09>	両端欠損。	検出面	
37	角輪	鉄	伸ばした状態<約10.3>	<0.4>	<0.6>	<6.46>	上下欠損。把手状に曲がる→転用か?	検出面	

(4) H4号住居址



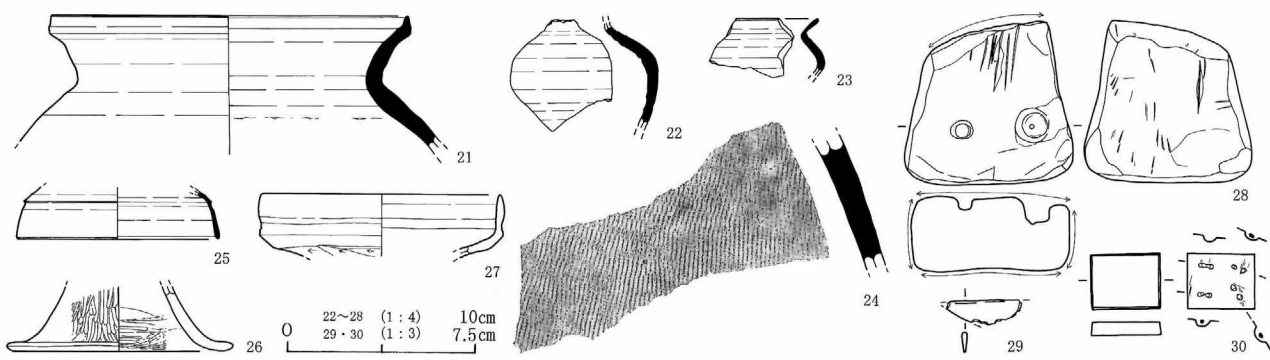
標高709.0m
(1:80)

- 1層 暗褐色土(10YR3/3)人為的埋土(黄褐色土・黒褐色土・にぶい褐色土)の小ブロック多量。
- 2層 黒褐色土(10YR2/3)人為的埋土(黄褐色土・黒褐色土・にぶい褐色土)の小ブロック多量。
- 3層 黒褐色土(10YR2/2)粘質土。
- 4層 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土・にぶい褐色土のブロック多量。
- 5層 黒褐色土(10YR2/2)粘質土。
- 6層 黒褐色土(10YR2/3)床(堅くしまる)にぶい褐色土・黄褐色土の小ブロック多量。
- 7層 黒褐色土(10YR2/3)炭と灰含む。
- 8層 暗褐色土(10YR3/3)黄褐色土・にぶい褐色土の小ブロック少量。掘方埋土。
- 9層 にぶい黄褐色土(10YR4/3)黄褐色土・にぶい褐色土の小ブロック多量。掘方埋土。



0 (1:4) 10cm

第11図 H4号住居址(1)



第12図 H4号住居址(2)

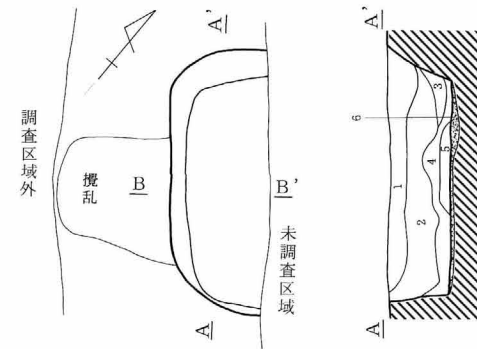
第4表 H4号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	種類	器種	流 量			成形・調整・文様		内 面	外 面	推定値()残存値<>丸底・出土位置
			口径(径)	底径(幅)	器高(厚)					
1	土師器	杯	(16.7)	6.5	5.7	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ。底部周辺ヘラケズリ	完全実測 外面底部と底部外周磨滅著しい	Ⅱ区 Ⅲ区	
2	土師器	杯	(14.8)	6.9	4.4	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部手持ちヘラケズリ	完全実測	Ⅰ区 Ⅱ区 床	
3	土師器	杯	(14.6)	(6.2)	3.7	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部手持ちヘラケズリ	回転実測	Ⅲ区 P5	
4	土師器	杯	(15.0)	-	<3.2>	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転実測	Ⅳ区	
5	土師器	杯	-	-	-	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	破片実測 墨書あり	Ⅳ区	
6	土師器	杯	(13.8)	-	<3.5>	ミガキ	ロクロナデ	回転実測	Ⅱ区	
7	土師器	碗	12.1	5.8	4.8	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り→高台貼付	完全実測	Ⅲ区 Ⅲ区ベルト Ⅳ区お12	
8	土師器	碗	-	8.1	<3.6>	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部糸切り→高台貼付	完全実測	Ⅱ区	
9	須恵器	杯	(13.6)	(7.2)	3.3	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り	回転実測 外面に火だすき有	Ⅰ区1層 Ⅰ区床土	
10	須恵器	杯	-	(5.1)	<1.8>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部糸切り	回転実測	Ⅲ区 Ⅳ区 床	
11	須恵器	杯	(13.6)	-	<3.3>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測 内外面火だすき有	Ⅱ区 Ⅲ区床	
12	須恵器	杯	(13.7)	(5.7)	4.1	ロクロナデ	ロクロナデ。底部回転糸切り	回転実測	Ⅰ区ベルト Ⅱ区	
13	須恵器	杯	-	(6.0)	<1.2>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り	回転実測 外面火だすき有	Ⅳ区	
14	須恵器	杯	-	(7.4)	<1.8>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラキリ後ナデ	回転実測 内面火だすき有	P15 床	
15	須恵器	蓋	(14.8)	2.7	3.4	ロクロナデ	ロクロナデ→天井部回転ヘラケズリ→つまみ貼付	完全実測 内外面火だすき有 擬玉つまみ貼付	Ⅲ区 H3カクラン	
16	須恵器	甕	(10.0)	-	<1.3>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	Ⅳ区	
17	土師器	甕	(18.2)	-	<7.3>	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラナデ	胴部ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ	回転実測	Ⅳ区	
18	土師器	甕	(19.2)	-	<5.1>	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラナデ	胴部ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ	回転実測	Ⅱ区 Ⅲ区	
19	土師器	甕	(13.9)	-	<9.2>	胴部ヘラナデ→口縁部ヨコナデ	胴部ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ	回転実測	Ⅰ区2層 Ⅲ区	
20	土師器	甕	-	5.5	<4.7>	ヘラナデ→ナデ	胴部ヘラケズリ→底部ヘラケズリ	完全実測	Ⅳ区床	
21	須恵器	甕	(19.2)	-	<7.4>	口縁部ロクロナデ。胴部ヨコナデ	ロクロナデ	回転実測 外面口縁から肩部と内面口縁に自然輪付着	No.1	
22	須恵器	甕	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	破片実測	Ⅰ区2層	
23	須恵器	壺	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	破片実測 外面肩部と内面口縁に自然輪付着	Ⅳ区	
24	須恵器	壺	-	-	-	当て具痕→ナデ	タタキ目	断面実測	Ⅰ区ベルト Ⅳ区	
25	須恵器	蓋	(10.7)	-	<2.7>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測 天井部と口縁部の境に痕	Ⅱ区	
26	土師器	高杯	-	(12.0)	<3.4>	ヘラナデ→ヨコナデ→ミガキ	ミガキ	回転実測	Ⅱ区	
27	土師器	杯	(13.0)	(13.0)	<3.5>	ヨコナデ	ヨコナデ→底部ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区2層	
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見			出土位置
28	砥石		8.6	8.9	4.0	443.15	孔径0.7孔深0.7。孔径1.3孔深1.2。砥面数5。正面に2孔。正裏に糸痕。			No.4
29	刀子	鉄	<3.0>	<1.0>	<0.3>	<1.98>	両端欠損			床面
30	帯金具巡方	銅	2.2	2.7	0.55	8.01	正面と側面はよく磨かれている。裏面に4か所のボタン状の孔(深さ約0.25)。			Ⅱ区

お-12・13、か-11~13、き-12GrにありP4・P7~P17・P22・P23・P35・P42に切られ、H3を切る。長方形に配置の主柱穴P1・P2の柱穴間は300cm、P2・P3の柱穴間は200cmを測る。P2・P3は、西壁・南壁のP4~P7同様壁柱穴である。床は堅く平坦。カマドは調査範囲で、検出されない。覆土1・2層は人為埋土。遺物は土師器杯・碗・甕、須恵器杯・蓋・甕・壺、砥石28、刀子29、銅製品帯金具の巡方30がある。土師器杯1~5は内面黒色処理、2・3は底部手持ちヘラケズリ、1は糸切り後底部周辺ヘラケズリ。5は墨書。6は内面黒色処理されない。内面黒色処理の土師器碗7・8は糸切り後高台貼付。須恵器杯9・10・12・13は底部糸切り、14はヘラ切り後ヘラナデ、15の須恵器蓋つまみは扁平な擬宝珠。17~19は「コ」字口縁の武蔵甕。25~27は混入遺物。

(5) H5号住居址



Ⅱ区掘方からクヌギの殻斗3個・果実1個・子葉1個、Ⅱ区床面からウマの上顎第3門歯破片1個検出。
本址は小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代V期-9世紀前半に位置づけられる。

1層 黒褐色土(10YR2/3)小礫・パミス(0.5~1cm大)少量。
黄色ロームブロック微量。
2層 暗褐色土(10YR3/3)小礫・黄色ローム粒子・パミス少量含む。
3層 にぶい黄褐色土(10YR4/3)黄色ローム粒子多量含む。人為埋土。
4層 黒褐色土(10YR2/2)黄色ロームブロック・パミス含む。人為埋土。
5層 褐色土(10YR4/6)黄色ローム粒子・黄色ロームブロック多量含む。黒色土ブロックを含む。人為埋土。
6層 褐色土(10YR4/4)

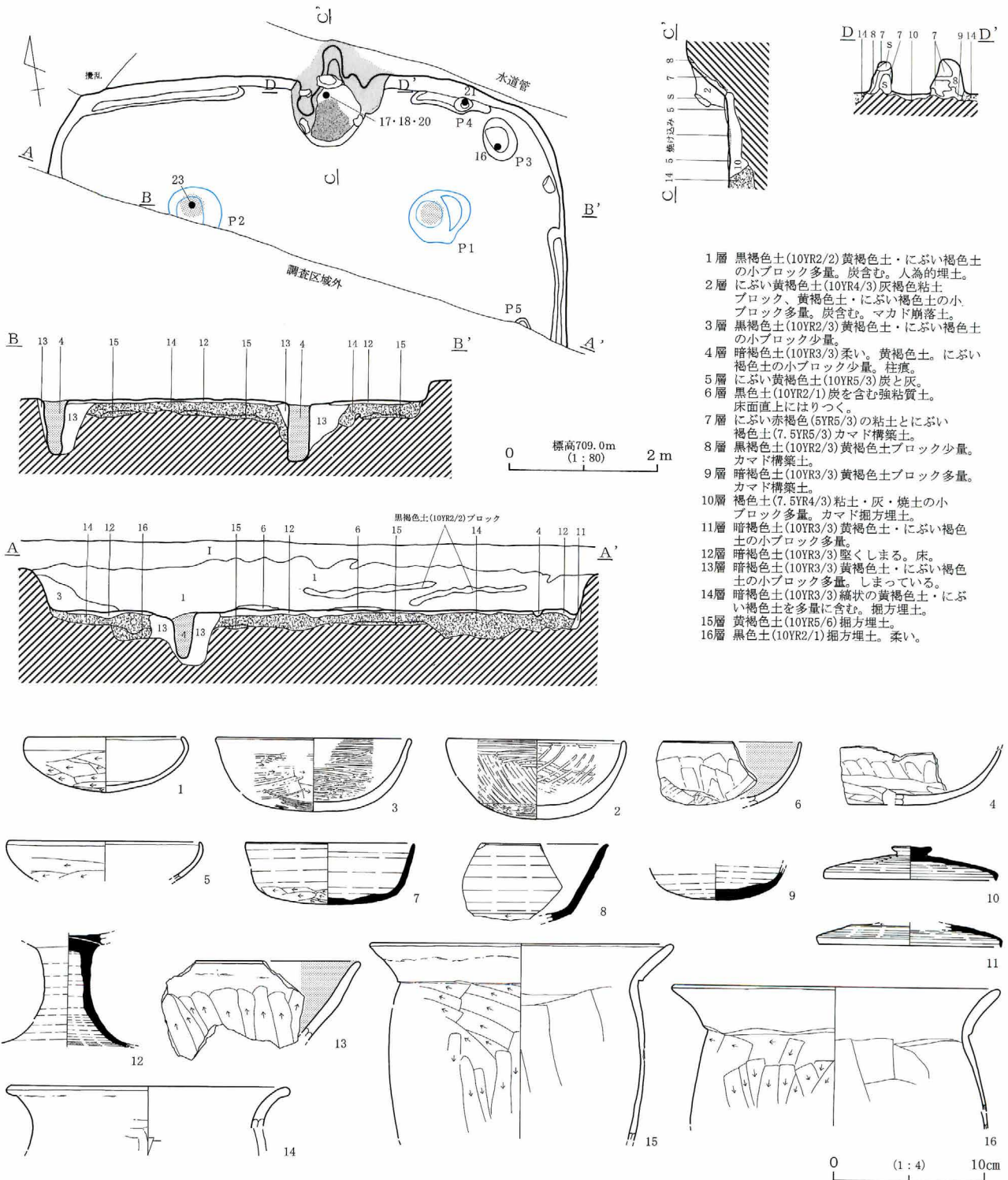
第13図 H5号住居址

け・こ-17Grにあり、カマド・柱穴等調査範囲では検出されない。床は平坦だが軟弱である。遺物

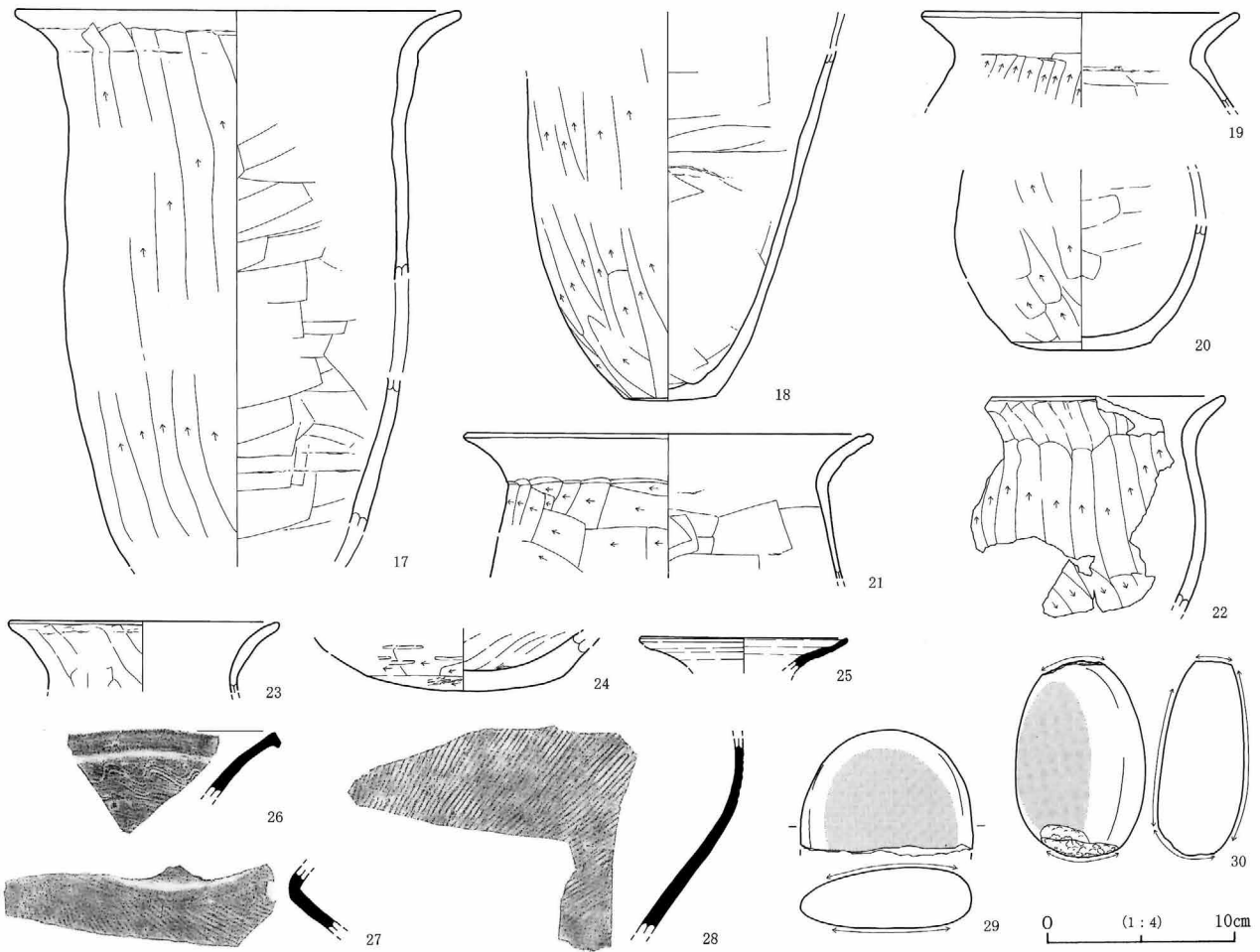
は、弥生時代後期の壺・甕、土師器甕・坏、須恵器甕・坏等いずれも小片が出土したのみであり、時期等不明である。

(6) H 6号住居址

え・お-9~11Grにあり、H9を切る。カマドは北壁中央に、粘土と面取軽石・熔結凝灰岩等で構築される。ピットは、径30cmの柱痕が確認されたP1・P2の主柱穴等5個検出された。P1・P2の柱穴間は320cm、床は堅く平坦。北壁下、東壁下に壁溝が巡る。覆土1層は人為埋土。遺物は、土師器・須恵



第14図 H 6号住居址(1)



第15図 H 6号住居址(2)

第5表 H 6号住居址出土遺物観察表

(cm)

H6		法 量			成 形 ・ 調 整 ・ 文 様			推 定 値 () 残 存 値 < > 丸 底 ・	
No.	種 別	口 径 (横)	底 径 (縦)	器 高 (厚)	内 面	外 面	備 考	出 土 位 置	
1	土師器 坏	10.6	-	3.7	みこみ部ナデ→口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ・底部ヘラケズリ	完全実測	I区 I区床 II区 P2	
2	土師器 坏	(12.1)	-	5.4	ヨコナデ→ミガキ	口縁部ヨコナデ・体部から底部ヘラケズリ→ミガキ	完全実測 磨滅	覆土	
3	土師器 坏	(13.3)	-	4.9	ミガキ	口縁部ヨコナデ・底部ヘラケズリ→ミガキ	完全実測 外面磨滅	I区 II区	
4	土師器 坏	-	-	-	ミガキ	口縁部ヨコナデ→体部から底部ヘラナデ	破片実測	II区	
5	土師器 坏	(13.1)	(13.2)	<2.6>	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ・底部ヘラケズリ	回転実測	床	
6	土師器 坏	-	-	-	ミガキ→黒色処理	口縁部ヨコナデ→体部ナデ→底部ハケナデ	破片実測	I区	
7	須恵器 坏	(11.6)	9.4	4.2	ロクロナデ	ロクロナデ→底部手持ちヘラケズリ	完全実測	I区 II区	
8	須恵器 坏	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ	破片実測	I区	
9	須恵器 坏?	-	-	<2.5>	ロクロナデ	ロクロナデ	完全実測	II区	
10	須恵器 蓋	11.6	つまみ径 2.7	2.2	ロクロナデ	ロクロナデ→天井部回転ヘラケズリ→つまみ貼付	完全実測 天井部自然釉付着	I区 I区床	
11	須恵器 蓋	12.0	-	<1.5>	ロクロナデ	ロクロナデ→天井部回転ヘラケズリ	完全実測 外面自然釉付着	II区 I区カマドホリ方 カマドホリ方 P2	
12	須恵器 高盤?	-	-	<7.8>	ロクロナデ	ロクロナデ	完全実測	II区	
13	土師器 鉢?	-	-	-	ミガキ→黒色処理	口縁部ヨコナデ・胴部ヘラケズリ	破片実測	I区	
14	土師器 甗	(19.2)	-	<4.7>	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラナデ	回転実測	I区 カマド	
15	土師器 甗	20.4	-	<13.6>	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	完全実測	II区 カマド	
16	土師器 甗	22.0	-	<9.5>	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	完全実測	No.1 P1 P2	
17	土師器 甗	(23.9)	-	<29.7>	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	回転実測	I区 I区床 II区 カマドカマド崩落え10	
18	土師器 甗	-	5.0	<20.8>	胴から底部ヘラナデ	胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	完全実測	II区 カマド カマドホリ方	
19	土師器 甗	(17.2)	-	<5.0>	口縁部ヨコナデ・胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	回転実測	II区	
20	土師器 甗	-	(7.4)	<9.6>	ヘラナデ	胴部ヘラケズリ。底部ヘラケズリ	完全実測	I区 II区 カマドカマド崩落	
21	土師器 甗	22.0	-	<7.8>	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	完全実測	I区 I区床 II区 No.2 P2	
22	土師器 甗	-	-	-	胴部ナデ→口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ後ハケナデ→胴部ヘラケズリ	破片実測	I区 I区床 P2	
23	土師器 甗	(14.4)	-	<3.8>	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ後ハケナデ→胴部ヘラナデ	回転実測	P2	
24	土師器 甗?	-	10.6	<3.2>	ハケナデ	胴部ヘラケズリ後ミガキ・底部ヘラケズリ後ミガキ	完全実測 外面磨滅	I区	
25	須恵器 甗	(11.2)	-	<2.0>	ロクロナデ	ロクロナデ	完全実測	II区	
26	須恵器 甗	-	-	-	ヨコナデ	楕円波状文。楕円斜文?	断面実測 自然釉付着	I区	
27	須恵器 甗	-	-	-	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ。肩部タタキ目	断面実測 外面自然釉付着	II区	
28	須恵器 甗	-	-	-	ヨコナデ	タタキ目	断面実測 外面自然釉付着	I区 I区床	
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見	出 土 位 置	
29	磨石	-	<6.8>	<9.2>	<3.2>	<335.74>	下部欠損。正裏にすり面。	カマド	
30	磨・敲石	-	10.5	6.8	4.7	430.82	上下端部に敲打痕。正裏にすり面。	カマド	

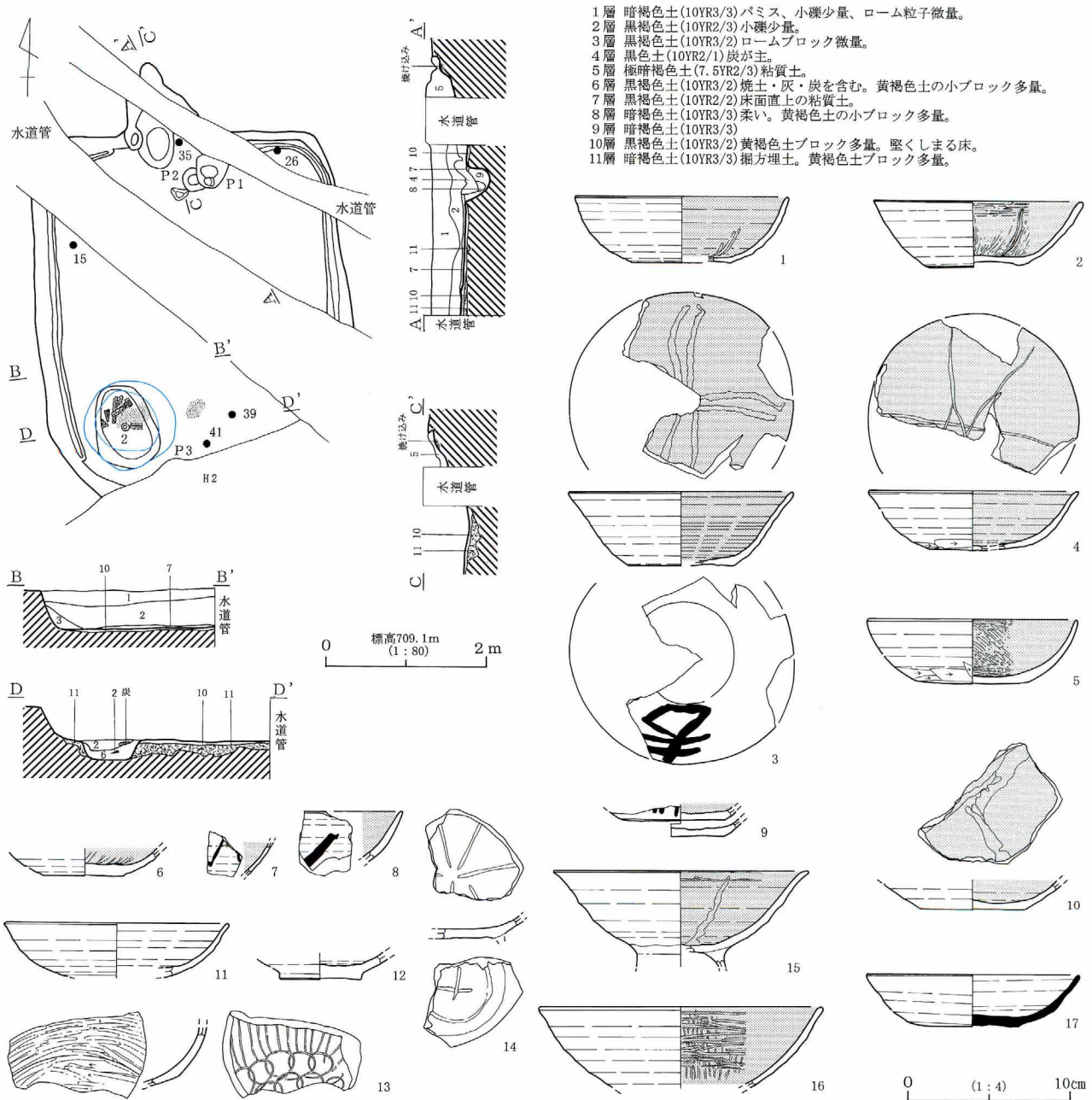
器、磨石29、敲石30がある。カマド内およびカマド袖部からイノシシの第2/5中手骨/中足骨、ニホンジカの中手骨/中足骨ほ破片、獣類四肢骨の焼骨、獣類部位不明破片の焼骨と非焼骨が検出された。

1～6の半球状土師器坏は、6が内面黒色処理される。須恵器坏7は手持ちヘラケズリ、8は回転ヘラケズリ、9は坏蓋かもしれない。10・11はかえりのない坏蓋で、10には擬宝珠つまみが貼付される。13は土師器鉢？ 12は須恵器高盤か？土師器甕は口縁部に最大径を持つ「く」字口縁の武蔵甕15・16・21、口縁部に最大径を持ちやや器肉の厚い17、小型の胴の短い19・20・22がある。

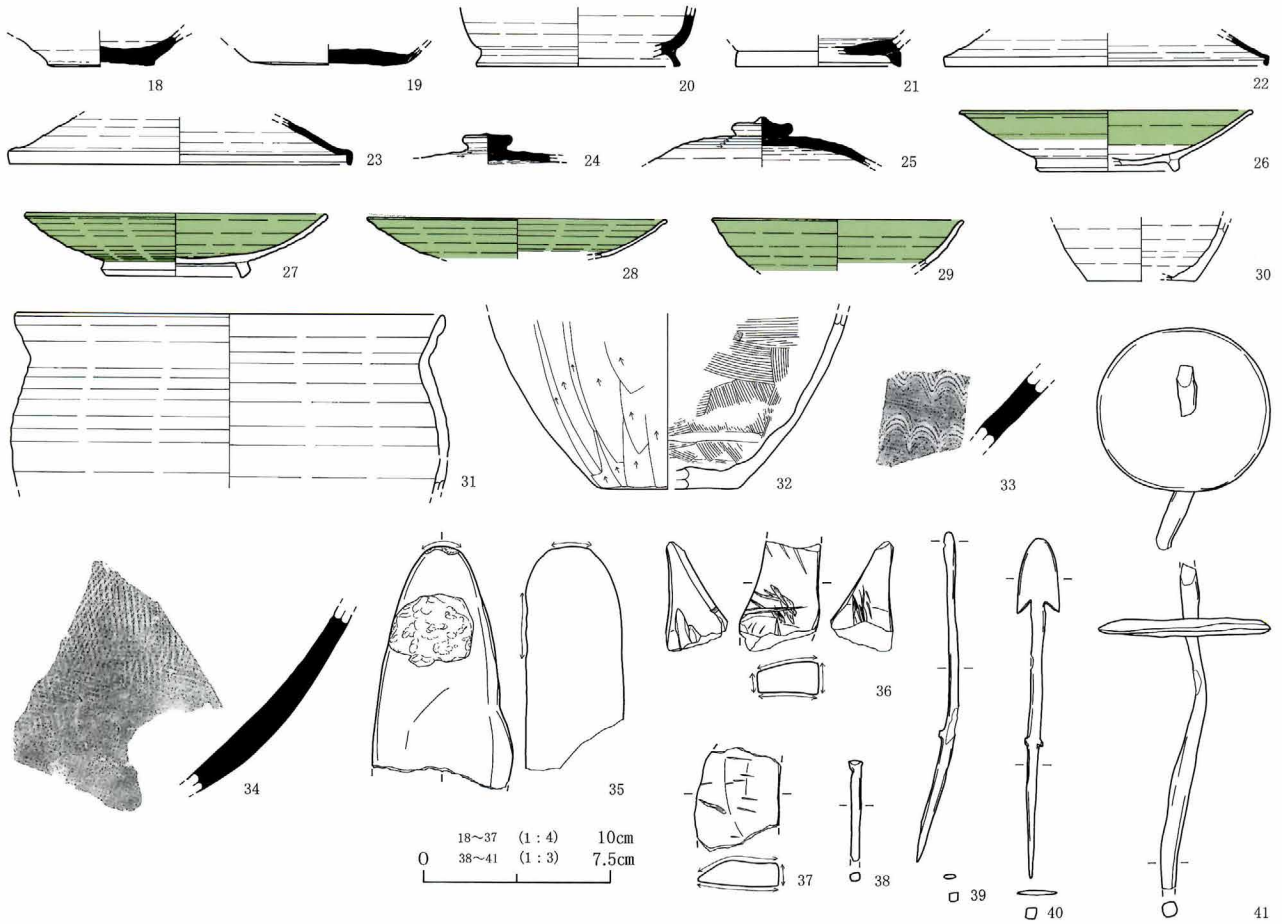
本址は小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代I期-8世紀第1四半期に位置づけられる。

(7) H 7号住居址

き・く-14・15Grにあり、H2・P49に切られる。北壁西寄りのカマドは、原形を留めない。ピット



第16図 H 7号住居址(1)



第17図 H7号住居址(2)

第6表 H7号住居址出土遺物観察表(1)

(cm)

No.	種別	器種	法 量			成形・調整・文様		推定値()残存値< >丸底・備考	出土位置
			口径(横)	底径(横)	器高(厚)	内 面	外 面		
1	土師器	坏	(13.3)	(6.2)	4.1	ロクロナデ→ミガキ・暗文(十字)→黒色処理	ロクロナデ→底部糸切り	回転実測	Ⅱ区 Ⅲ区 P1
2	土師器	坏	12.8	5.8	4.2	ロクロナデ→ミガキ→暗文(十字)→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り	完全実測	No.1
3	土師器	坏	(14.0)	(6.4)	4.6	ロクロナデ→暗文(十字)→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り	回転実測	Ⅰ区 Ⅰ区床 Ⅱ区
4	土師器	坏	(12.9)	6.3	3.7	ロクロナデ→暗文→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り→底部と底部外周手持ちヘラケズリ	完全実測	Ⅰ区 Ⅲ区
5	土師器	坏	12.9	(6.9)	4.0	ロクロナデ→ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部と底部外周手持ちヘラケズリ	完全実測	Ⅲ区 P1 H2Ⅱ区
6	土師器	碗	-	5.2	<1.7>	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り	完全実測	ホリ方
7	土師器	坏	-	-	-	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	破片実測	墨書あり
8	土師器	坏	-	-	-	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	破片実測	墨書あり
9	土師器	碗	-	6.5	<1.0>	ロクロナデ→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り	完全実測	墨書あり
10	土師器	碗	-	(6.4)	<2.0>	ロクロナデ→暗文(十字?)→黒色処理	ロクロナデ→底部糸切り	回転実測	Ⅱ区
11	土師器	碗	(14.0)	(7.0)	(3.4)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	Ⅰ区
12	土師器	碗	-	5.0	<1.7>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り	完全実測	覆土
13	土師器	碗	-	-	-	ヨコナデ→放射状暗文・らせん暗文	ヘラケズリ→ミガキ	破片実測	覆土
14	土師器	碗	-	-	-	ナデ。黒色処理(まばらに)	ロクロナデ。高台貼付。ヘラ記号[X]	高台剥離 黒色処理後二次焼成で消滅 堅くしまる	Ⅰ区床
15	土師器	碗?	(15.8)	-	<6.1>	ロクロナデ→暗文(十字?)→黒色処理	ロクロナデ→底部切離し→高台貼付	回転実測	No.2
16	土師器	碗	(16.4)	-	<5.1>	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転実測	Ⅰ区
17	須恵器	坏	(13.1)	6.8	3.3	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り	完全実測	Ⅰ区
18	須恵器	坏	-	(5.8)	<2.0>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り	回転実測	Ⅲ区
19	須恵器	坏	-	(8.3)	<1.1>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り	回転実測	覆土
20	須恵器	有台坏	-	(10.9)	<3.2>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部切離し後高台貼付	回転実測	Ⅰ区
21	須恵器	有台坏	-	(8.8)	<1.6>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り→高台貼付	回転実測	床
22	須恵器	蓋	(17.3)	-	<1.7>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	外面に少量の自然釉付着
23	須恵器	蓋	(18.3)	-	<2.5>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	内面に自然釉付着
24	須恵器	蓋	-	2.6	<1.6>	ロクロナデ	ロクロナデ→天井部回転ヘラケズリ→つまみ貼付	完全実測	Ⅲ区
25	須恵器	蓋	-	つまみ径(3.2)	<2.6>	ロクロナデ	ロクロナデ→天井部回転ヘラケズリ→つまみ貼付	完全実測	内面に赤色顔料付着
26	灰釉陶器	皿	(15.6)	(7.6)	3.3	ロクロナデ→施釉(つけがけ)	ロクロナデ→底部回転ヘラ切り→高台貼付→施釉(つけがけ)	回転実測	Ⅰ区 No.5
27	灰釉陶器	皿	(16.0)	(7.8)	3.3	ロクロナデ→施釉	ロクロナデ→底部回転ヘラ切り→高台貼付→施釉	回転実測	Ⅰ区 Ⅲ区
28	灰釉陶器	皿	(16.0)	-	<2.1>	ロクロナデ→施釉	ロクロナデ→施釉	回転実測	Ⅲ区
29	灰釉陶器	碗	(13.4)	-	<2.6>	ロクロナデ→施釉	ロクロナデ→施釉	回転実測	P1
30	土師器	ロクノ鉢	-	(5.7)	<3.3>	ロクロナデ	ロクロナデ→施釉	回転実測	カマド
31	土師器	鉢	(22.8)	-	<9.4>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り	回転実測	Ⅱ区 カマド
32	土師器	鉢	-	(7.6)	<9.3>	胴部タタキ→ハケナデ。底部ロクロナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅲ区 カマド H2 Ⅱ区 カマド
33	須恵器	甕	内面 ヨコナデ。外面 ヨコナデ→縞波状文。						Ⅰ区
34	須恵器	甕	内面 ナデ。外面 タタキ目。						Ⅰ区床

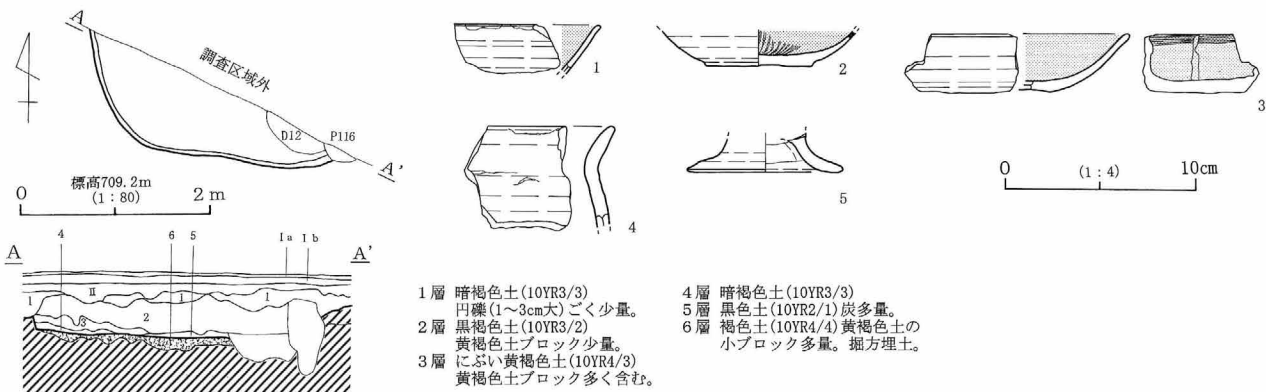
H 7号住居址出土遺物観察表(2)

(cm)

No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置
35	敲石		<12.8>	<7.5>	<5.2>	<661.61>	下部欠損。上端部と正面に敲打痕。	No.6
36	砥石		<5.8>	<4.3>	<3.2>	<69.03>	上下欠損。砥面数4。正面と両側に条痕。	
37	砥石		<5.4>	<4.5>	<1.6>	<44.04>	上下欠損。砥面数3。正面に条痕。	I区
38	角釘	鉄	<4.0>	<0.5>	<0.5>	<2.37>	下部欠損。	Ⅲ区 ホリ方
39	鉄鏃	鉄	13.0	<0.6>	0.4	<8.19>	長頸有棘柳葉形造込両丸。	Ⅲ区 No.3
40	鉄鏃	鉄	13.4	1.5	0.5	11.80	長頸有棘鏃身造込両丸。	カマド
41	紡錘車	鉄	<12.8>	円6.8 軸<0.7>	円0.5 軸<0.6>	<63.56>	軸上下欠損。	Ⅲ区 No.4

は3個検出。P1覆土は炭が主、P3内に焼土や灰、多量の炭化材が検出された。他の覆土中には焼土・炭等みられない。床は堅く平坦。北壁下、東壁・西壁下に壁溝が巡る。遺物は、土師器碗2がP3、敲石35がカマド内、灰釉陶器皿26が北東床隅、鉄鏃39・紡錘車41がP3東脇の床面から、土師器碗15が西壁床面から出土。炭化栽培種イネ89個・コムギ1個・マメ科(?)1個がカマド内、イネ17個・アワ1個・アズキ類1個・草本のホタルイ属2個がP1、コムギ10個が第16図3の土師器坏内から検出された。土師器坏は、底部にヘラ成形・調整痕の4・5、底部回転糸切りの1~3・6・9~12。1~4・10に十字状暗文、1~10が内面黒色処理。碗14は内面黒色処理され十字暗文の15と底部にヘラ記号「十」、6条の放射状の暗文。須恵器坏17~19と20・21の有台坏は、底部回転糸切り。須恵器坏蓋は、擬宝珠のつまみ24・25、22・23は返りを有さない。30~32は土師器ロクロ甕、灰釉陶器は皿26~28、碗29。鉄器は紡錘車41、角釘38、長頸有棘鏃身鑿箭造込両丸の鉄鏃39、長頸有棘鏃身柳葉形造込両丸の鉄鏃40。石器は砥石26・37、敲石35。本址は小林眞寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代VI期-9世紀後半に位置づけられる。

(8) H 8号住居址



第18図 H 8号住居址

第7表 H 8号住居址出土遺物観察表

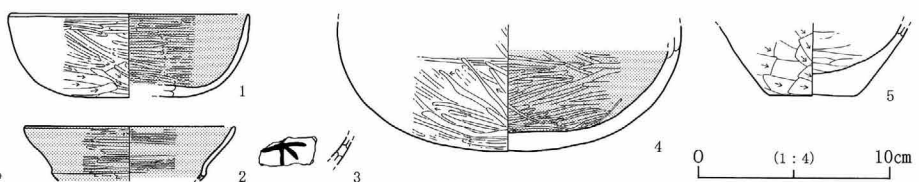
(cm)

H8		法量			成形・調整・文様		推定値()残存値<>丸底・		
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	備考	出土位置
1	土師器	坏	-	-	-	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	破片実測 部に煤附着	覆土
2	土師器	坏	-	(5.6)	<2.0>	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り	回転実測	ホリ方
3	土師器	坏	-	-	-	暗文(→黒色処理?)	ロクロナデ→底部回転糸切り	破片実測	覆土
4	土師器	甕	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	破片実測	覆土
5	土師器	台付甕	-	(8.2)	<2.1>	ロクロナデ→台柱部ヨコナデ	ロクロナデ	完全実測	覆土

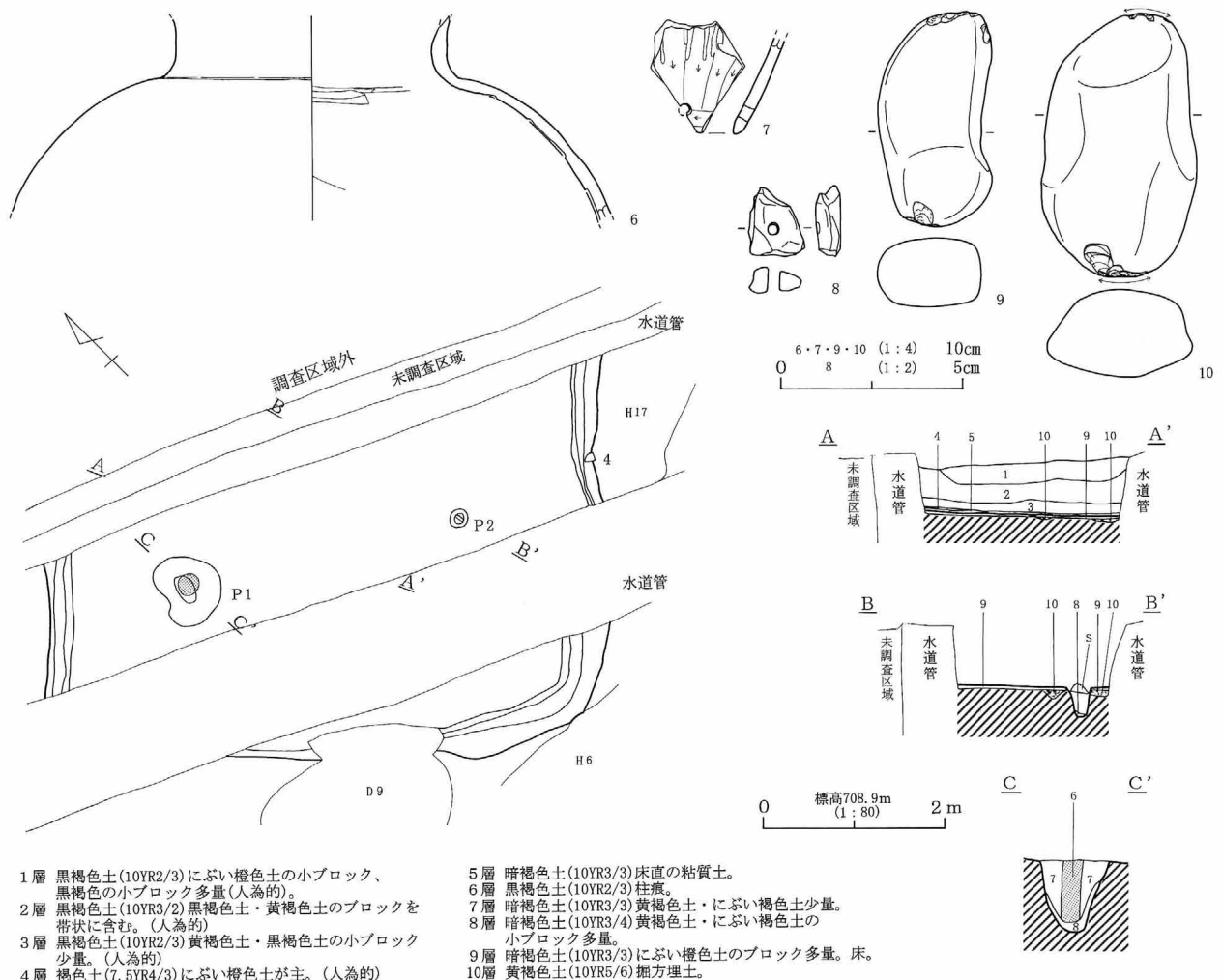
え-8Grにあり、D20・P116に切られる。大半が調査区域外にありカマド・柱穴等検出されない。床は堅く平坦。床面直上の覆土5層中に炭が多量に見られた。遺物は、土師器坏1~3、1・2は内面黒色処理され、2・3は底部回転糸切り、4はロクロ甕、5はロクロ甕の台部とみられる。少ない遺物であるが、10世紀前半に位置づけられよう。

(9) H 9号住居址

お-9~11Gr、か-10・11Grにあり、H6・H17に切られる。カマドは調査範囲には検出されなかった。ピットは2個検出され、主



第19図 H 9号住居址(1)



第20図 H9号住居址(2)

第8表 H9号住居址出土遺物観察表

(cm)

H9		法量			成形・調整・文様		推定値()残存値<>丸底・		
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	備考	出土位置
1	土師器	坏	(12.8)	-	4.4	ミガキ→黒色処理	ナデ・ヘラケズリ→ミガキ	回転実測	ホリ方 覆土
2	土師器	坏	(11.2)	-	<2.9>	ミガキ→黒色処理	ミガキ→黒色処理	回転実測	W区 西床
3	土師器	坏	-	-	-	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	破片実測 墨書あり	E 検出面
4	土師器	鉢	-	-	<6.8>	ミガキ→暗文(十字)→黒色処理	ヘラケズリ→ミガキ	回転実測	No.1
5	土師器	甕	-	(4.8)	<3.8>	ナデ	胴部ヘラケズリ。底部ヘラケズリ	回転実測	Eベルト
6	土師器	壺	-	-	<11.2>	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラナデ	磨滅(判別不能)	回転実測 内面剥離 外面磨滅	P1-II区-西区 H17N床
7	土師器	甌?	-	-	-	ミガキ	ヘラケズリ	破片実測 胴下部に焼成前穿孔の穴あり	覆土
No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見		出土位置
8	石製模造品	滑石	1.9	1.5	0.7	2.34	孔径0.3。中央に穿孔。欠損部分不明。		西区
9	敲石		11.9	6.3	3.7	420.67	上下端部に敲打痕。		ホリ方 W区
10	敲石		14.5	8.7	4.8	823.10	上下端部に敲打痕。		No.2

柱穴P1からは径20cmの柱痕が確認された。P2は主柱穴P1とは規則的な位置にないが、礎石を思わせる礫が覆土上部から検出された。床は堅く平坦。南壁から東壁下、西壁下に壁溝が巡る。南壁に張り出し部がみられた。覆土1~4層は人為埋土。床面下の掘方は、僅かにP2周辺に認められた。

遺物は、土師器、石製模造品、敲石がある。1の半球状坏は内面黒色処理され、外面ヘラケズリ後ヘラミガキされる。口縁部と底部の境に稜がある坏2は、内外面黒色処理される。4の鉢は、半球状で内面黒色処理される。7は内面ヘラミガキされ甌であろう。胴下部に焼成前の穿孔がある。他に5の甕、6の大型の壺がある。墨書「下」があるロクロナデの坏は検出面出土で混入品である。

9・10の敲石の上下端部には、敲打痕が認められる。8の滑石模造品は、径0.3cmの穿孔が見られる。

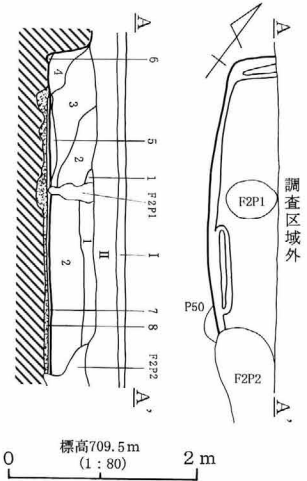
本址はこれらの遺物より小林真寿の編年(2005聖原)古墳時代IV期-7世紀代に位置づけられよう。

(10) H10号住居址

そ-19Grにあり、F2に切られP50を切る。カマド・支柱穴等は調査範囲には検出されなかった。床は堅く平坦、床下掘方は浅い。西壁と北壁下の一部に壁溝が見られた。

本址の所産時期を伺う遺物は、検出されなかった。

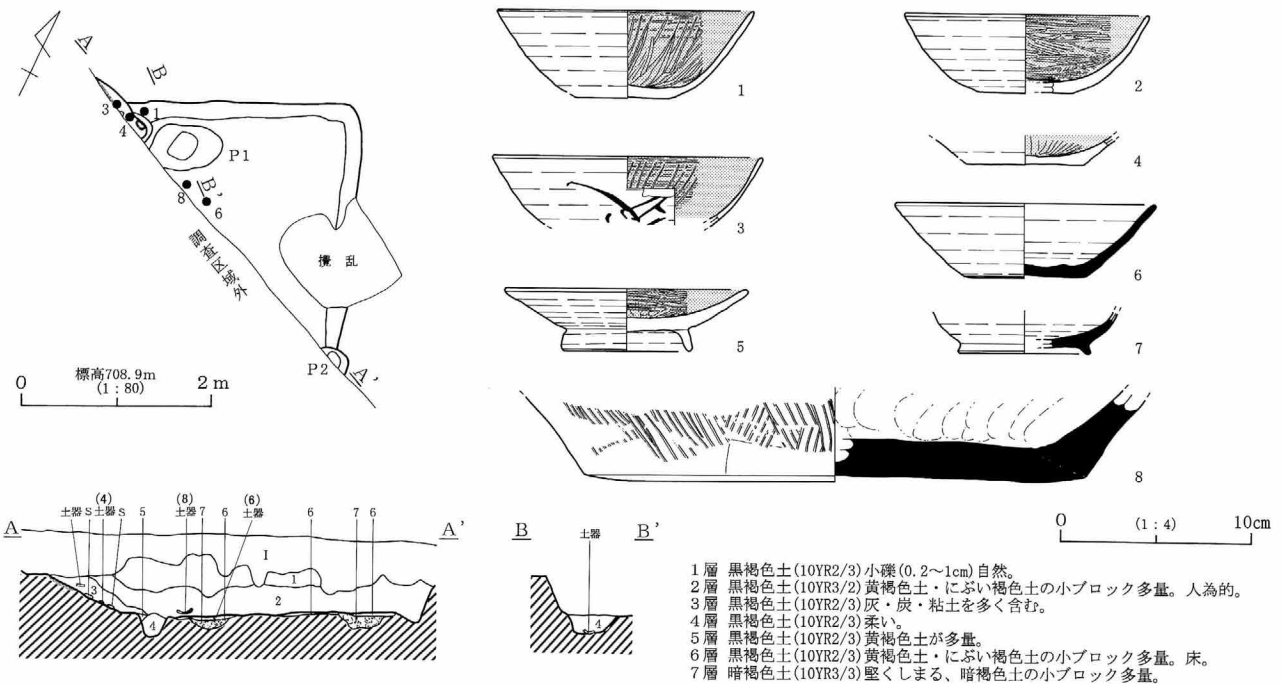
- 1層 暗褐色土(10YR3/3)堅くしまる。
- 2層 黒褐色土(10YR2/2)黄褐色土の小ブロック少量。
- 3層 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土の小ブロック少量。
- 4層 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土の小ブロック多量。
- 5層 暗褐色土(10YR3/3)黄褐色土の小ブロック多量。
- 6層 暗褐色土(10YR3/3)柔い。周溝、覆土。
- 7層 黒褐色土(10YR2/3)堅くしまる。床。
- 8層 褐色土(10YR4/4)にぶい黄褐色土。灰白色が主。掘方埋土。



第21図 H10号住居址

(11) H11号住居址

う-6・7Grにあり、P27・P28を切る。北壁のカマドは、大半が調査区域外に伸びる。ピットピットは、2個検出された。床は堅く平坦、覆土2層は人為埋土。遺物は、土師器杯1・2・4、皿5杯か碗の3、須恵器杯6・有台杯7・甕8がある。1・2・4~7は底部回転糸切り、1~3・4は内面黒色処理、3は墨書される。本址はこれらの遺物より小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代V期-9世紀前半に位置づけられる。



第22図 H11号住居址

第9表 H11号住居址出土遺物観察表

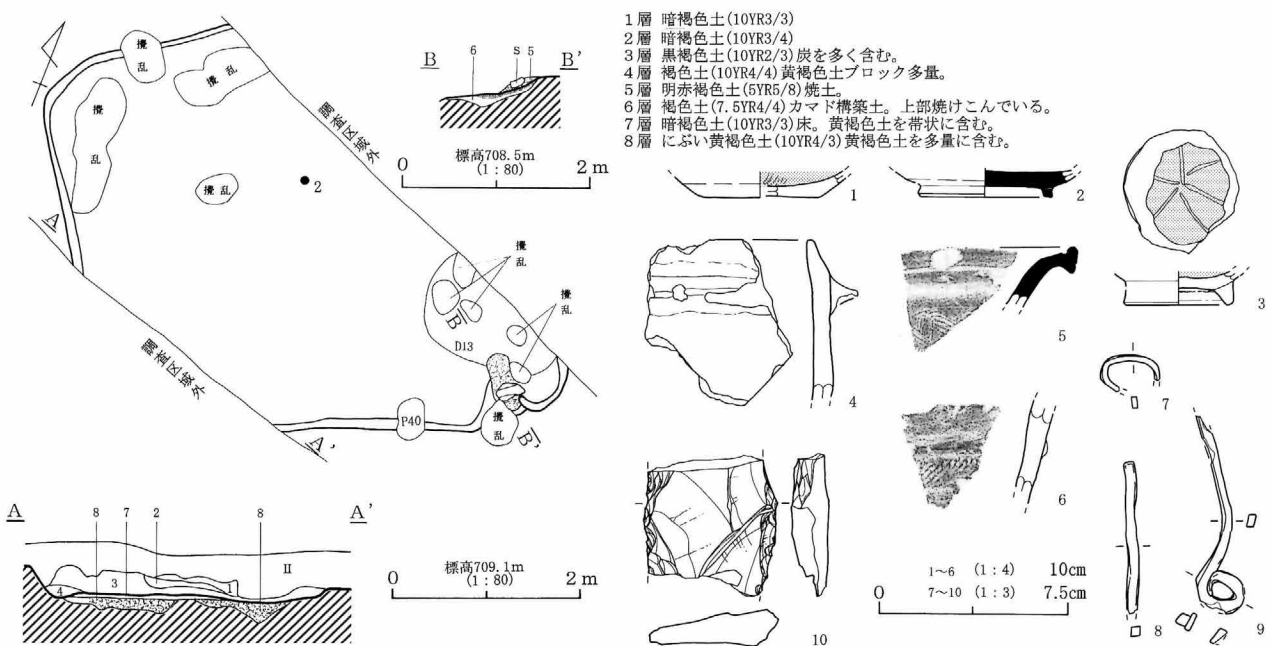
H11			法 量			成 形 ・ 調 整 ・ 文 様			推定値()残存値< >丸底・	
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置	
1	土師器	杯	(13.6)	5.2	4.6	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り	完全実測	No.4	
2	土師器	杯	(13.0)	(5.0)	4.2	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部糸切り	回転実測	カマド	
3	土師器	杯	(14.3)	-	<3.7>	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転実測	墨書 床	
4	土師器	杯	-	6.2	<1.6>	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り	完全実測	No.5	
5	土師器	皿	13.0	7.0	3.3	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部糸切り→高台貼付	完全実測	カマド内	
6	須恵器	杯	(13.8)	(6.5)	4.0	ロクロナデ	ロクロナデ→底部糸切り	回転実測	床 No.1	
7	須恵器	有台杯	-	(7.1)	<2.3>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部糸切り→高台貼付	回転実測	カクラン	
8	須恵器	甕	-	(26.6)	<5.0>	当て具痕→ヨコナデ	胴部タタキ目。底部ナデ	回転実測	No.2	

(12) H12号住居址

い・う-5・6Grにあり、D13・P40に切られ、H16・H21・F3・P32・P38・P39を切る。南壁東寄りのカマドは、原形を留めない。床は柔らか気味で南側は少し下がる。東に傾斜する道路下にあり深く攪乱されていた。埋納されたウマ骨が検出されたD13との重複関係の把握は困難を極めた。

遺物は、土師器坏1、碗3、須恵器有台坏2、羽釜4、須恵器甕5、鉄器の角釘8・轡9・不明7がある。1・2は内面黒色処理される。縄文土器後期後葉深鉢6・打製石斧10は混入遺物である。東床面から炭化した栽培種のスモモ1個、覆土・床面からニホンジカの左上顎第2門歯片・左橈骨・左尺骨・腰椎・椎骨・左脛骨、ウマの左上顎第3門歯・後肢骨の左基節骨・左末節骨、イノシシの可能性のある小型サイズの左右上腕骨遠位端片、焼骨の獣類骨が検出された。

本址はこれらの遺物より小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代VI期-9世紀後半に位置づけられる。



第23図 H12号住居址

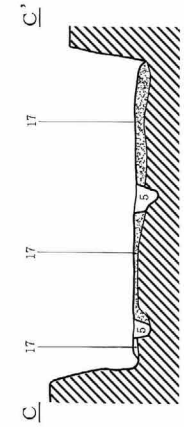
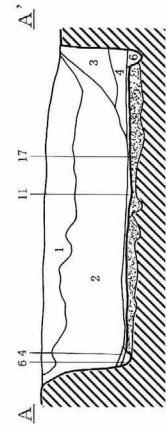
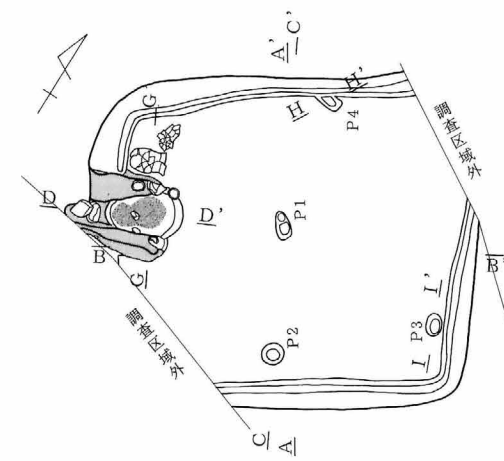
第10表 H12号住居址出土遺物観察表

(cm)

H12		法量			成形・調整・文様			推定値()残存値< >丸底・	
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	備考	出土位置
1	土師器	坏	-	(6.4)	<1.4>	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り	回転実測	床E区
2	須恵器	有台坏	-	7.1	<1.5>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部糸切り→高台貼付	完全実測 磨耗	No.1
3	土師器	碗	-	(5.8)	<1.8>	ミガキ→刻書→黒色処理	ロクロナデ→底部糸切り→高台貼付	完全実測	覆土
4	土師器	羽釜	-	-	-	ナデ・ヘラナデ	ナデ・ヨコナデ→鋳貼付	破片実測	床E区
5	須恵器	甕	-	-	-	ヨコナデ	櫛描波状文	断面実測 内面 自然釉付着	床E
6	縄文土器	深鉢	微隆起帯下に縄文LR。中期後葉。						床E
No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見		出土位置
7	不明	鉄	<1.4>	<2.4>	<0.6>	<2.82>	一部欠損。		床面 東
8	角軸	鉄	<6.0>	<0.4>	<0.5>	<5.20>	下部欠損。		東
9	轡?	鉄	<7.8>	<2.1>	<0.75>	<10.11>	上部欠損。		フク土
10	打製石斧		<5.6>	<5.3>	<1.4>	<46.16>	上下欠損。		床面 E

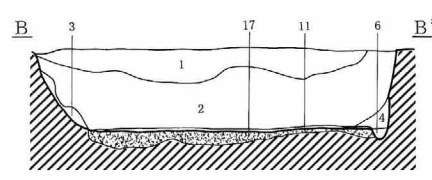
(13) H13号住居址

つ-22・23Grにあり、H14を切る。カマドは西壁北寄りに、粘土と面取軽石・面取り熔結凝灰岩等で構築される。熔結凝灰岩の支脚石がみられた。不規則な配置のピットが4個検出された。床は堅くほぼ平坦である。東壁・西壁・南壁・北壁下に壁溝が巡る。覆土2~4層は人為埋土。壁残高は深く南

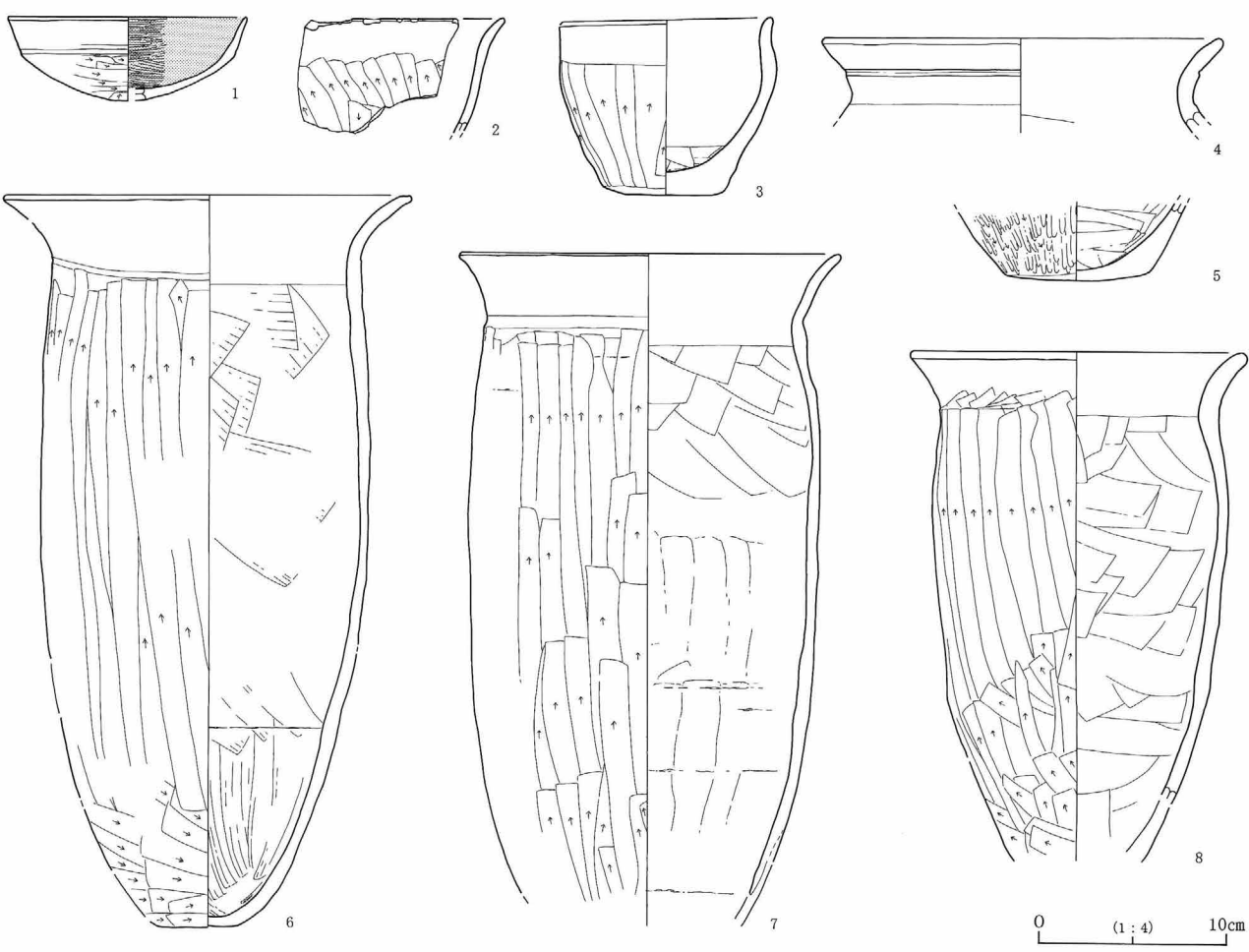


標高707.8m
(1:80) 2m

標高708.7m
(1:80) 2m

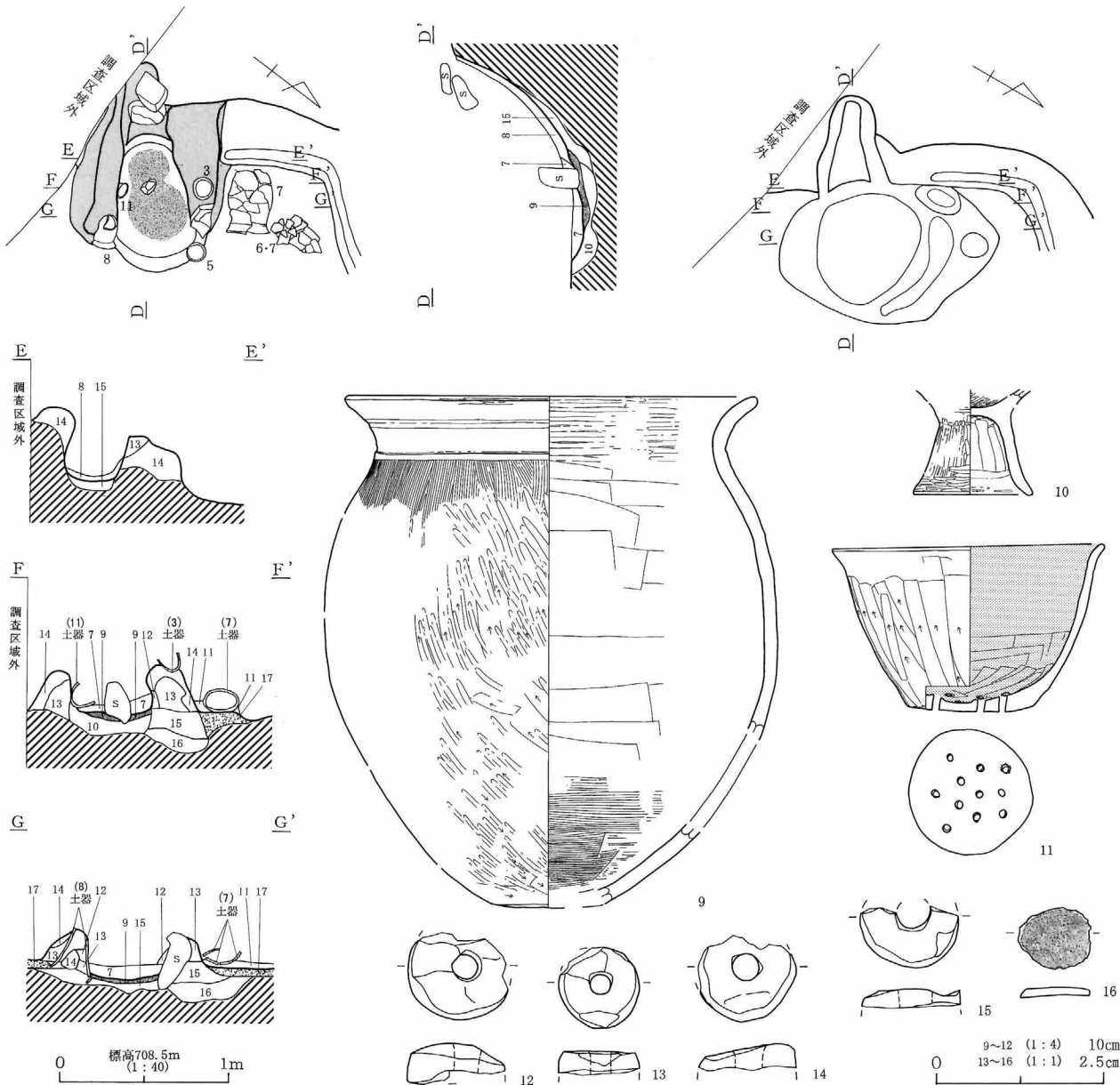


- 1層 暗褐色土(10YR3/3)自然堆積。
- 2層 暗褐色土(10YR3/4)人為的堆積(黒褐色土は帯状、黄褐色土・にぶい褐色土のブロック多量)。
- 3層 黒褐色土(10YR2/2)人為的堆積(黄褐色土小ブロック多量)。
- 4層 黒色土(10YR2/1)人為的堆積(粘質土)。
- 5層 暗褐色土(10YR3/3)にぶい黄褐色のローム粒子少量混入し、黒色土の黒色土ブロック微量混入。
- 6層 黒褐色土(10YR3/1)黄色ローム粒子微量混入。
- 7層 褐色土(7.5YR4/1)ふかふかの灰を主体とする層に炭化物・焼土粒子微量混入。
- 8層 黒褐色土(7.5YR3/1)炭化物・焼土粒子微量混入。
- 9層 赤褐色土(2.5YR4/6)焼土。焼けこみ。
- 10層 灰褐色土(7.5YR4/2)灰多量混入し、焼土粒子少量混入。
- 11層 暗褐色土(10YR3/3)粘質土。
- 12層 暗赤褐色土(5YR3/3)火熱による焼けこみの層。
- 13層 黒褐色土(7.5YR2/2)焼土微量混入し、炭化物を含む。カマド構築土。
- 14層 褐色土(7.5YR4/4)黄色の粘土層がブロック状・レンズ状に入る。カマド構築土。
- 15層 暗褐色土(10YR3/3)黒色土ブロックが混入。カマド構築土。
- 16層 暗褐色土(7.5YR3/3)黒褐色土ブロック・にぶい橙色粒子多量混入。カマド構築土。
- 17層 褐色土(7.5YR4/6)上面0.2cm~0.5cmの堅い蔽床。明黄褐色土を多量に含む。掘方埋土。



0 (1:4) 10cm

第24図 H13号住居址(1)



第25図 H13号住居址(2)

第11表 H13号住居址出土遺物観察表

(cm)

H13			法 量			成形・調整・文様			推定値()残存値< >丸底・	
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置	
1	土師器	環	(12.8)	(11.4)	4.5	ミガキ→黒色処理	口縁部ヨコナデ→底部ヘラズリ	回転実測	Ⅱ区2層	
2	土師器	鉢?	-	-	-	ヨコナデ(→黒色処理?)	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラズリ(→黒色処理?)	破片実測	Ⅰ区2層	
3	土師器	鉢	11.5	6.4	9.6	ヘラナデ→口縁部から胴下半部ヨコナデ	底部ヘラズリ→胴部ヘラズリ→口縁部ヨコナデ	完全実測 内面に付着物あり	No.4	
4	土師器	壺	(21.5)	-	<5.1>	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラナデ	ヨコナデ	回転実測	Ⅱ区 Ⅱ区2層 Ⅳ区2層 つ23	
5	土師器	壺	-	7.7	<4.2>	ヘラナデ	胴部と底部ヘラズリ後ミガキ	完全実測	No.3	
6	土師器	壺	(22.0)	4.3	39.7	胴から底部ハケ目→口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラズリ・底部ヘラズリ	完全実測	Ⅰ区 Ⅱ区 カマド No.1	
7	土師器	壺	20.5	-	<36.4>	胴部ヘラナデ・ナデ→口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラズリ	完全実測	Ⅱ区 No.1 No.2	
8	土師器	壺	18.0	-	<27.6>	胴部ヘラナデ→口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラズリ	完全実測	No.6	
9	土師器	壺	(24.6)	(6.7)	30.4	胴から底部ヘラナデ・ハケ目。口縁部ミガキ	胴部と底部ヘラズリ→胴部ハケ目→口縁部ヨコナデ→ミガキ	完全実測	Ⅱ・Ⅲ区 Ⅱ区2層Ⅳ区2層 カマドつ23	
10	土師器	台付壺	-	(7.6)	<6.3>	ミガキ、脚部ナデ→裾部ヨコナデ後ミガキヘラナデ→口縁部から胴中央ヨコナデ→黒色処理	桶巻状工具によるナデ→ミガキ	完全実測	Ⅱ区2層	
11	土師器	甌	16.1	7.3	10.0		口縁部ヨコナデ→胴部と底部ヘラズリ→穿孔(焼成前)	完全実測	No.5	
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見		出 土 位 置	
12	白玉		<1.2>	<1.2>	<0.35>	<0.80>	裏面欠損。		フク土	
13	白玉		<1.3>	<1.5>	<0.6>	<1.38>	上部～裏面欠損。		Ⅲ区 床面	
14	白玉		<1.3>	<1.5>	<0.3>	<0.69>	上部～裏面欠損。		Ⅰ区 床面	
15	白玉	滑石	<0.9>	<1.4>	<0.3>	<0.52>	上部～裏面欠損。		カマド	
16	土器片円板	土師器	4.0	3.5	0.3		壺(?)胴部片。敲打痕。		Ⅱ区	

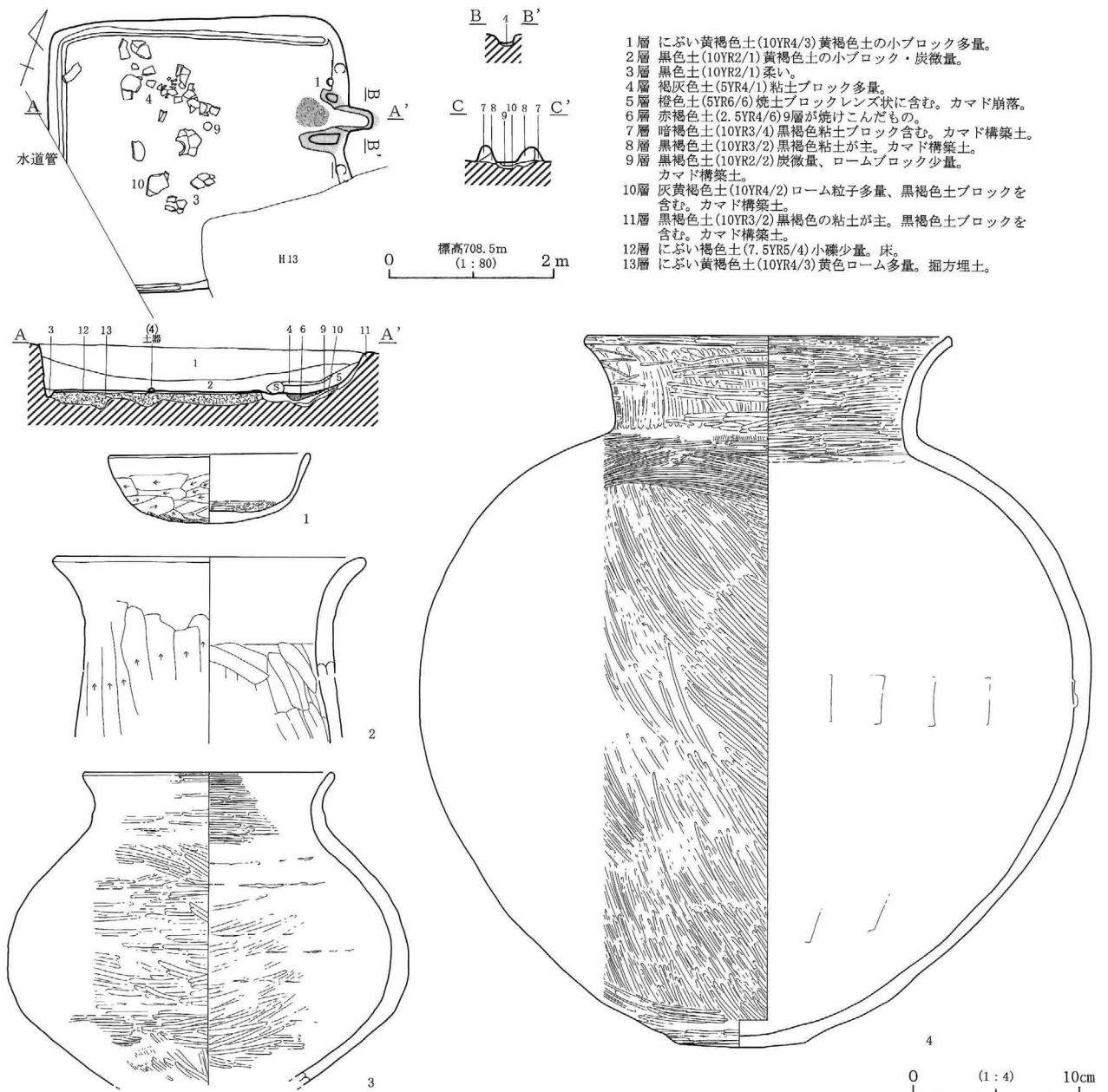
壁で最深90cmを測る。

遺物は、土師器坏1、鉢2・3、甕4～8、壺9、台坏甕10、甑11、土製品16、滑石製白玉12～15がある。1は須恵器坏蓋模倣で内面黒色処理される。6～8の甕は、口縁部に最大径があり底部突出せず縦に長くヘラケズリされ胴が長い。9の壺は外面ヘラミガキされる。11の甑は多孔で内面黒色処理される。2の鉢は内面黒色処理され、甑かもしれない。12の土製品は、壺胴部片再利用の土器片円板で、敲打痕が認められる。

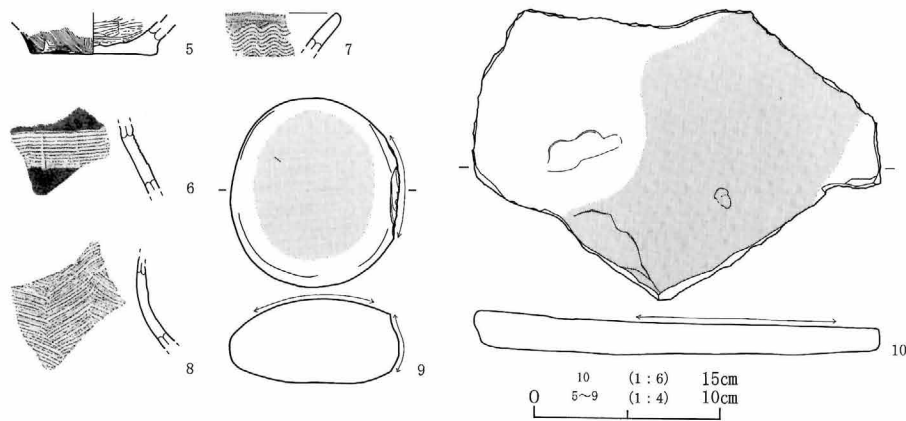
11がカマド内、3・5がカマド右袖部、8がカマド左袖部、6・7がカマド右脇の床面、白玉15がカマド内、13・14が床面から出土した。

本址はこれらの遺物より小林眞寿の編年(2005聖原)古墳時代IV期-7世紀代に位置づけられる。

(14) H14号住居址



第26図 H14号住居址(1)



第27図 H14号住居址(2)

つ-23・24、て-23Grにあり、H13に切られる。東壁北寄りのカマドは、ほとんど原形を留めない。煙道部立ち上がり側面部と火床付近がよく焼け込んでいる。粘土・暗褐色土と礫で構築されていたようである。

床は堅く平坦である。

第12表 H14号住居址出土遺物観察表

(cm)

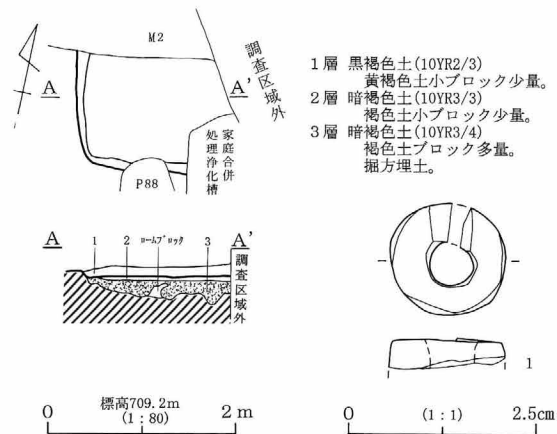
H14			法 量			成形・調整・文様		推定値()残存値<>丸底・	
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
1	土師器	坏	12.4	-	4.3	口縁部ヨコナデ→みこみ部ミガキ	口縁部ヨコナデ→口縁下部から底部ヘラケズリ	完全実測	No.9
2	土師器	甕	(19.2)	-	<11.4>	胴部ナデ→口縁部ヨコナデ	胴部ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ	回転実測	Ⅱ区
3	土師器	壺	(15.5)	-	<19.4>	ミガキ	ミガキ	回転実測	Ⅱ区 No.4
4	土師器	壺	22.5	7.9	43.6	胴部ヘラナデ→口縁部ミガキ	ミガキ	完全実測	I区 Ⅱ区 No.1No.2 No.3
5	弥生土器	壺	-	6.8	<2.2>	ミガキ	胴部ハケ目、底部ナデ	完全実測	I区 つ23
6	弥生土器	甕	内面 ミガキ→赤色塗彩。外面 ミガキ→赤色塗彩 櫛描波状文。						後期 Ⅱ区
7	弥生土器	甕	内面 ミガキ。外面 櫛描波状文。						後期 Ⅱ区ホリ方
8	弥生土器	甕	内面 ミガキ。外面 櫛描斜走文。						後期 I区
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見	出土位置	
9	磨・敷石		9.9	8.8	4.5	560.50	被熱あり(正面中央黒化)。正面にすり面。右側に敲打痕。	No.8	
10	台石	23.4		32.8	3.2	3330.00	被熱あり?(正裏一部黒化)。正面に使用面。	No.7	

南壁中央から西壁・北壁下を壁溝が巡る。1の坏がカマド左脇壁面、3と4の壺が床面中央付近に集中していた。9・10の石器も床面中央から出土した。

遺物は土師器坏・甕・壺、石器と混入遺物の弥生時代後期土器が出土した。1は半球状のよくヘラケズリされる坏、2は口径と胴部径が等しそうな甕、3・4は内面口縁部と外面がヘラミガキされる壺である。9は側面に敲打痕が見られる磨石、10は安定の良い台石である。

本址はこれらの遺物より小林眞寿の編年(2005聖原)古墳時代Ⅳ期-7世紀代に位置づけられる。

重複関係のある本址より後出するH13号住居址と大きな時間差はないと思われる。



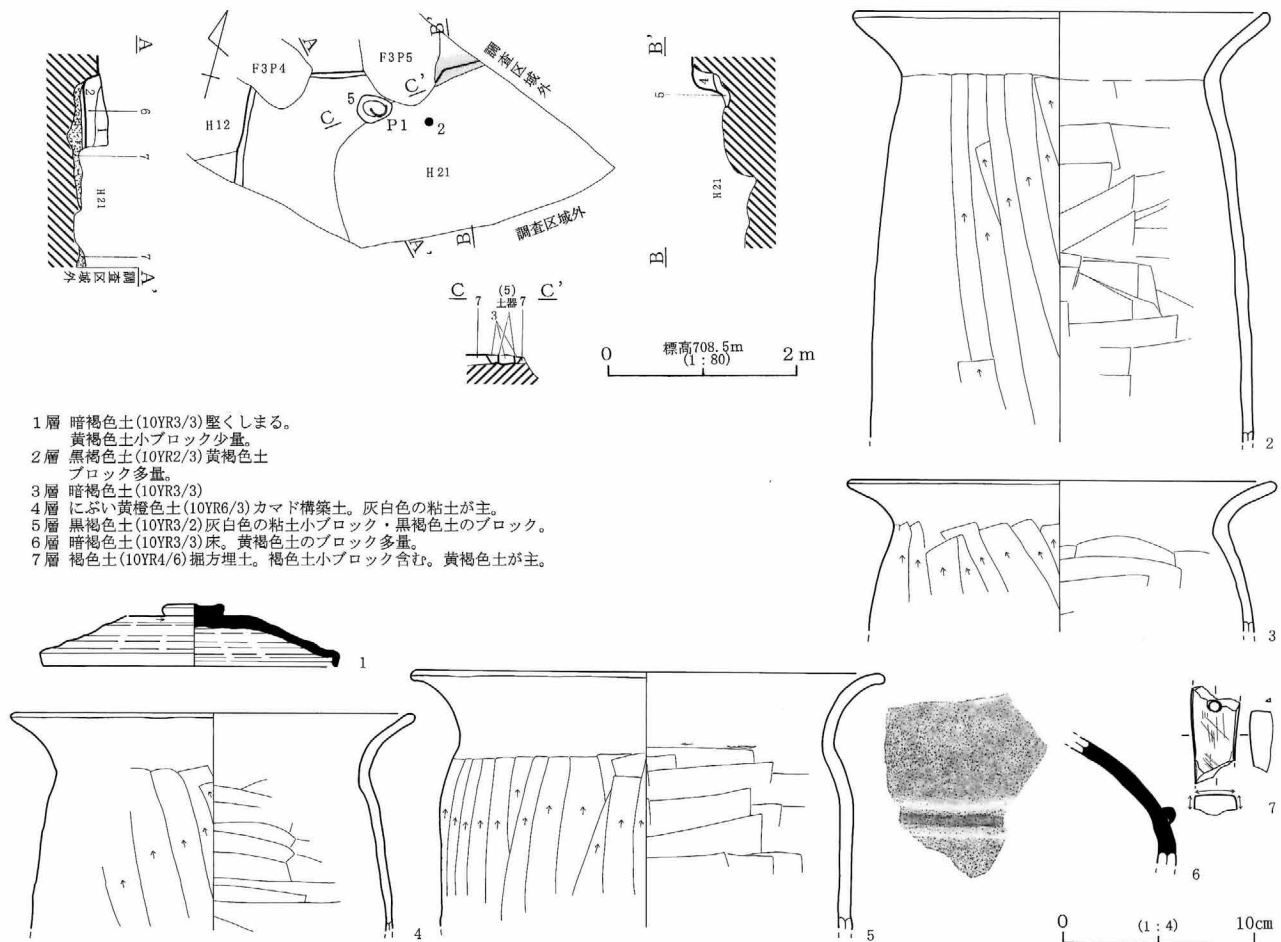
(15) H15号住居址

す・せ-18・19Grにあり、M2・P88に切られる。床面は平坦だが軟弱である。カマド・ピット等調査範囲では、検出されない。遺物は、1の径1.5cm厚さ0.4cmの滑石製白玉と土師器小片が出土した。

時期など詳細は不明である。

第28図 H15号住居址

(16) H16号住居址



- 1層 暗褐色土(10YR3/3)堅くしまる。黄褐色土小ブロック少量。
- 2層 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土ブロック多量。
- 3層 暗褐色土(10YR3/3)
- 4層 にぶい黄褐色土(10YR6/3)カマド構築土。灰白色の粘土が主。
- 5層 黒褐色土(10YR3/2)灰白色の粘土小ブロック・黒褐色土のブロック。
- 6層 暗褐色土(10YR3/3)床。黄褐色土のブロック多量。
- 7層 褐色土(10YR4/6)掘方埋土。褐色土小ブロック含む。黄褐色土が主。

第29図 H16号住居址

第13表 H16号住居址出土遺物観察表

(cm)

H16			法 量			成形・調整・文様		推定値()残存値<>丸底・	
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
1	須恵器	蓋	(16.2)	つまみ	3.3	ロクロナデ	ロクロナデ→天井部回転ヘラケズリ→つまみ貼付	完全実測	I区
2	土師器	甕	(22.0)	-	<22.8>	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	回転実測	I区 No.6 H21覆土・ホリ方
3	土師器	甕	(22.6)	-	<8.1>	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	回転実測	I区
4	土師器	甕	(21.5)	-	<11.6>	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	回転実測	I区 H21
5	土師器	甕	(25.0)	-	<13.6>	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	回転実測	No.10
6	須恵器	(四耳)壺	-	-	-	ヨコナデ	タタキ目→隆帯貼付	断面実測	ホリ方
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見	出土位置	
7	砥石		<5.1>	<2.5>	<1.2>	<18.99>	孔径0.55。上下~裏面欠損。砥面数3。正面に擦痕。	I区	

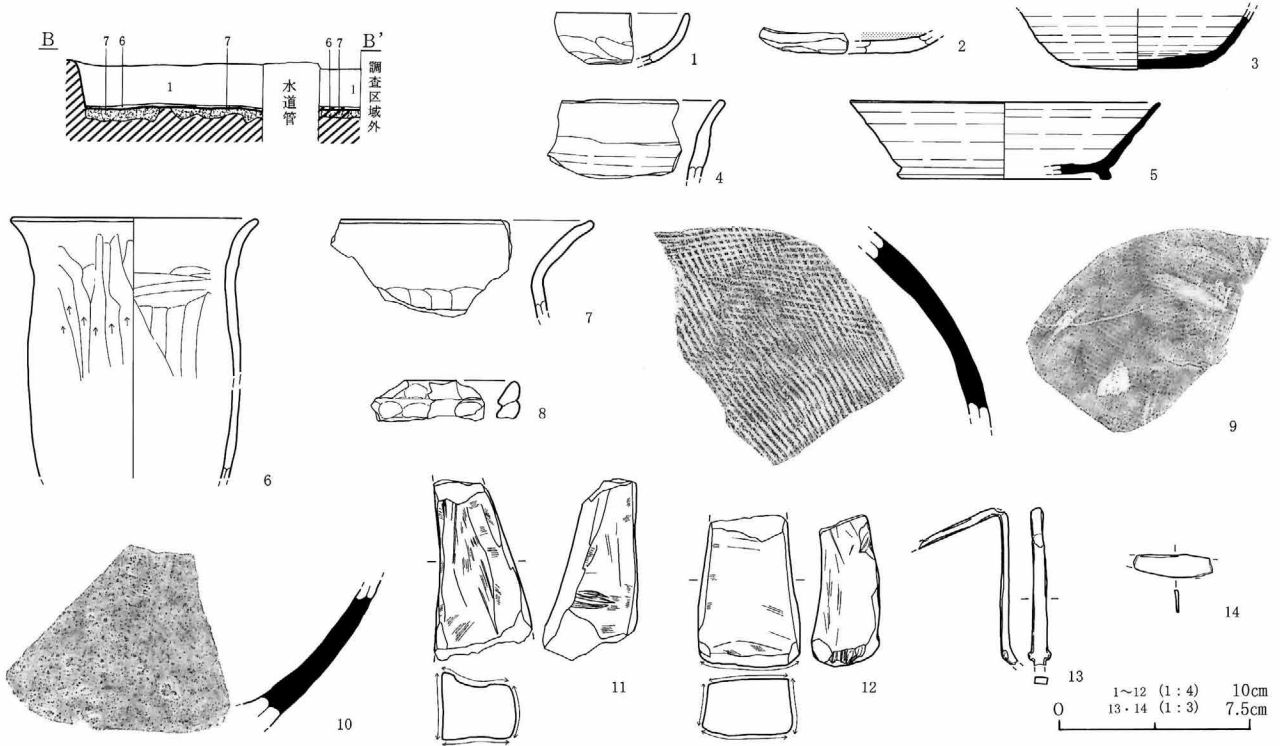
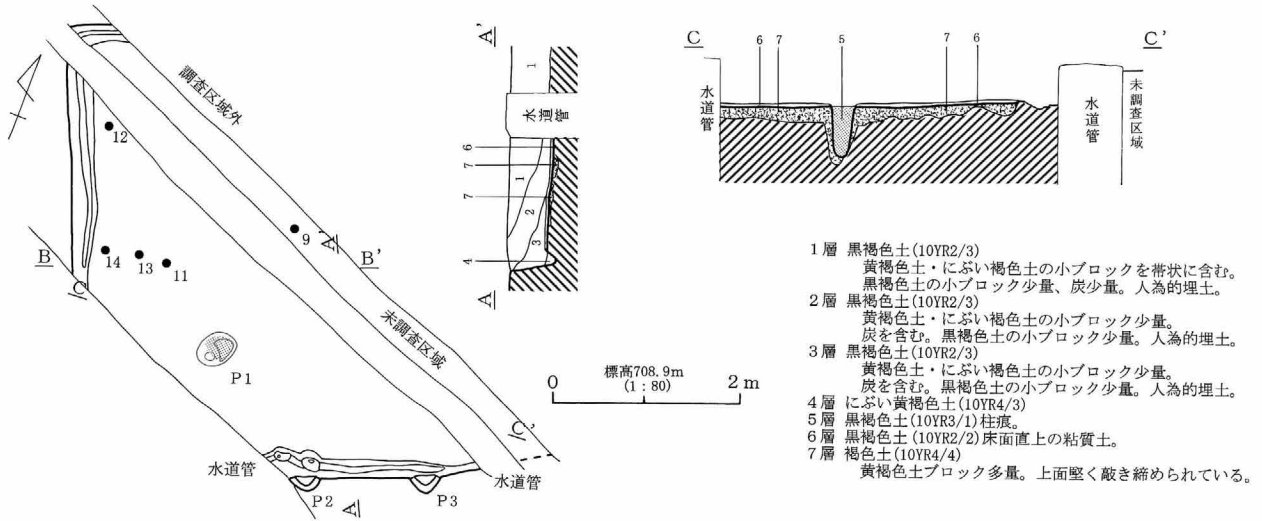
い-5Grにあり、H12・F2に切られる。北壁中央のカマドは、F3号掘立柱建物址に壊されほとんど原形を留めず、僅かに構築土の灰白色粘土が北壁に残存する。床は堅い。ピットはカマド前に1個有り、5の甕が検出された。

遺物は1の須恵器蓋、2~5の口縁部に最大径を持ち胴部長く外面縦にヘラケズリされる土師器甕、須恵器四耳壺6、7の1孔ある砥石が出土した。

本址はこれらの遺物より小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代I期-8世紀第1四半期に位置づけられよう。

(17) H17号住居址

お-9・10、か-10Grにあり、H9を切る。ピットは2個検出され、支柱穴P1からは径20cmの柱



第30図 H17号住居址

第14表 H17号住居址出土遺物観察表

(cm)

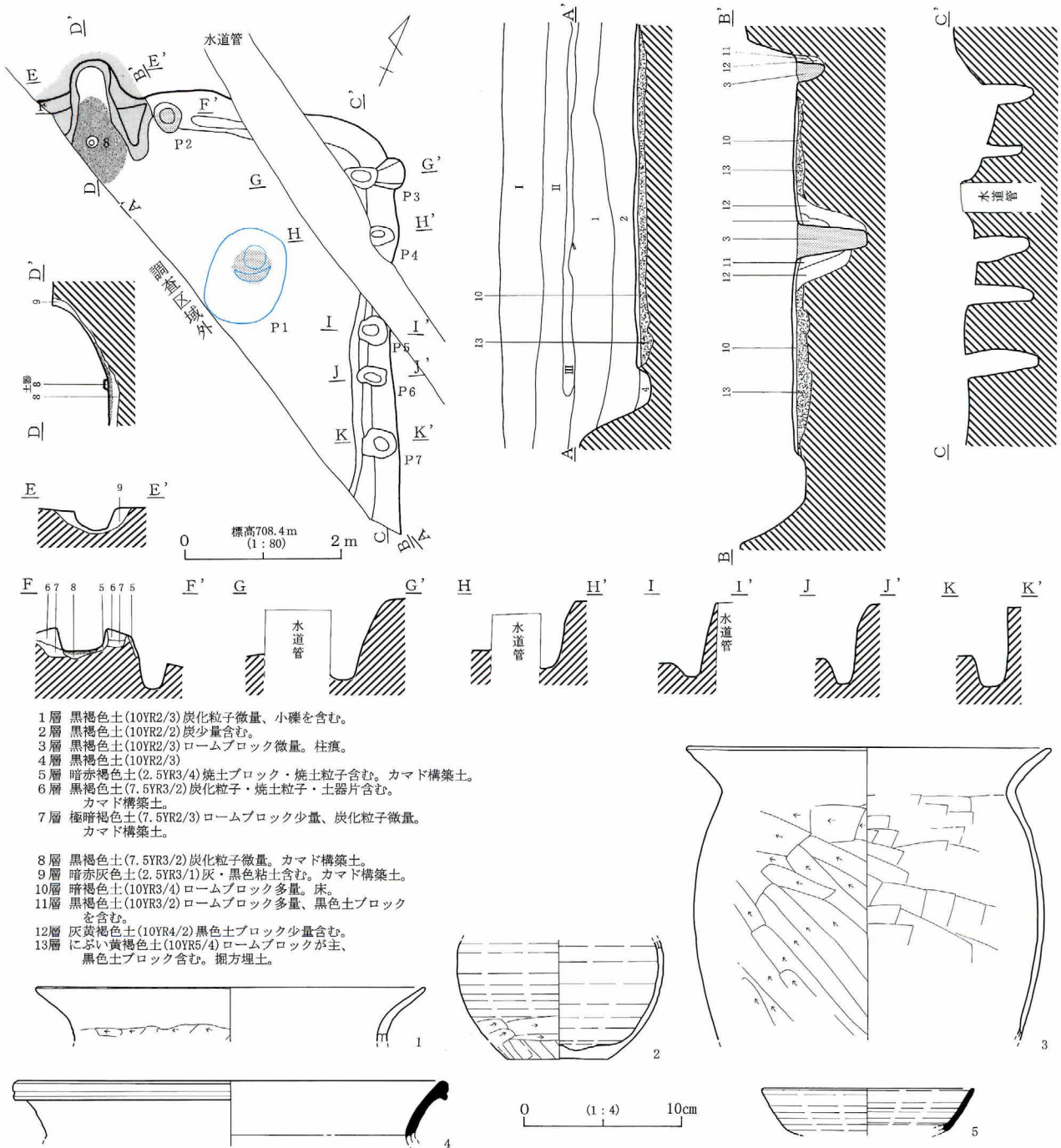
H17			法量				成形・調整・文様			推定値()残存値<>丸底・	
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面		外面		備考	出土位置
1	土師器	坏	-	-	-	ヨコナデ		□縁部ヨコナデ→底部ヘラケズリ		破片実測	フク土
2	土師器	坏	-	-	-	ミガキ→黒色処理		□縁部ロクロナデ→底部手持ヘラケズリ		破片実測	フク土
3	須恵器	坏	-	(7.0)	<3.2>	ロクロナデ		ロクロナデ→底部手持ヘラケズリ		回転実測	Ⅲ区
4	土師器	鉢	-	-	-	ヨコナデ		ヨコナデ		破片実測	Ⅲ区
5	須恵器	有台坏	(16.4)	(11.1)	4.1	ロクロナデ		ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ→高台貼付		回転実測	Ⅲ区
6	土師器	甕	(13.0)	-	<13.8>	□縁部ヨコナデ→胴部ナデ		□縁部ヨコナデ→胴部ヘラケズリ		回転実測	N区 H9E床
7	土師器	甕	-	-	-	□縁部ヨコナデ→胴部ヘラナデ		□縁部ヨコナデ→胴部ヘラケズリ		破片実測	Ⅳ区
8		手づくね								破片実測	Ⅲ区
9	須恵器	甕	-	-	-	当て具痕		タタキ目		破片実測	No.5
10	須恵器	甕	-	-	-	ナデ		タタキ目		破片実測 自然釉付着	N床
No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見				出土位置
11	砥石		<9.6>	<5.2>	<4.0>	<213.57>	上下欠損。砥面数4。正裏と右側に条痕と擦痕。				No.3
12	砥石		<8.1>	<5.4>	<3.5>	<223.42>	上部欠損。砥面数5。底部右側と左側角に条痕。				No.4
13	長頸鐵?	金屬製品	伸ばした状態 <約9.3>	<0.9>	<0.3>	<6.28>	上下欠損。				No.2
14	刀子	金屬製品	<3.1>	<0.9>	<0.2>	<1.59>	両端欠損。				No.1

痕が確認された。南壁のP2・P3は壁柱穴であろう。カマドは調査範囲では確認されていない。床は堅く敲击締められており平坦。南壁下・西壁下に壁溝が巡る。覆土1～3層は人為埋土。

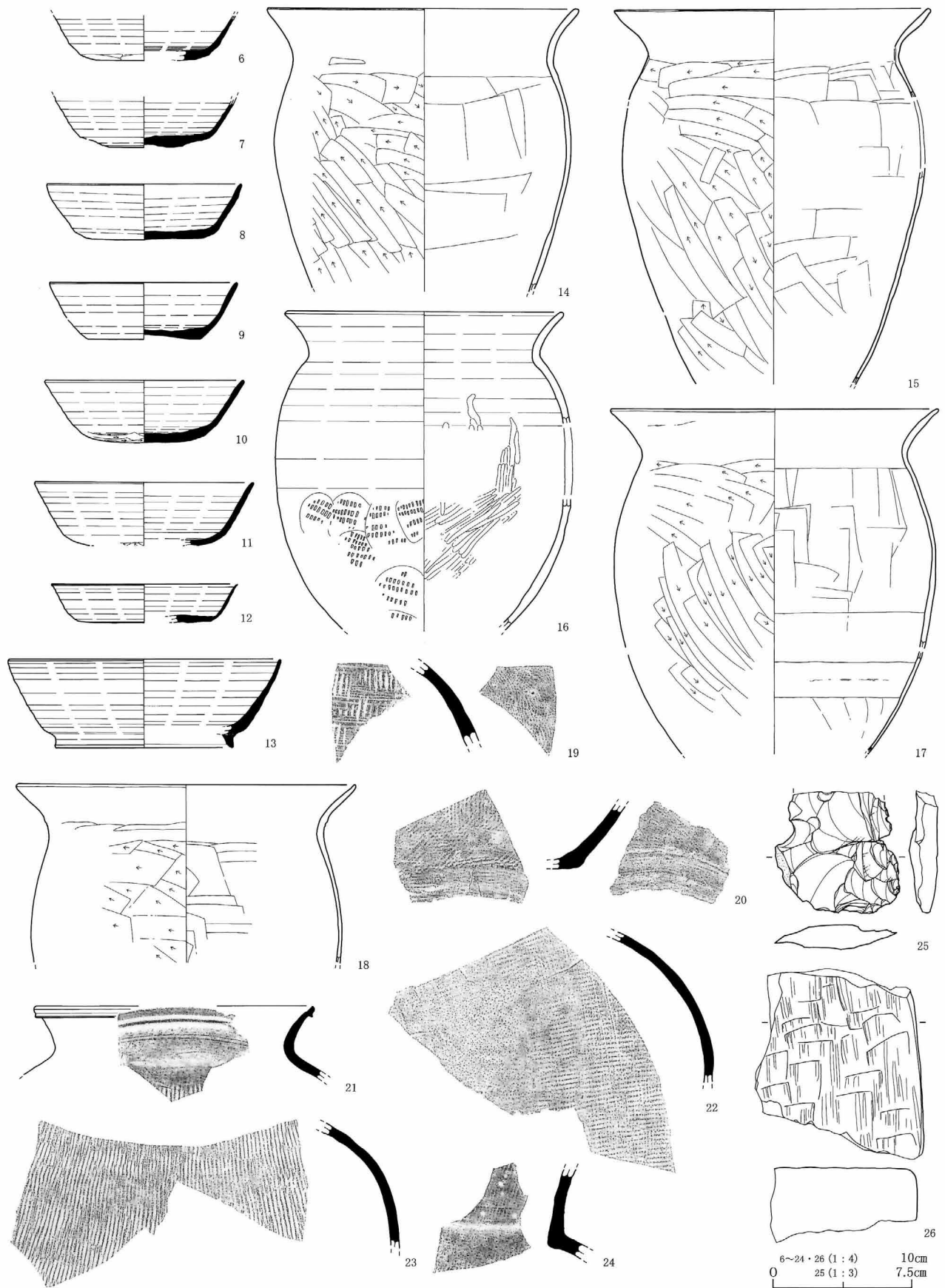
遺物は土師器坏1・鉢・甕、須恵器坏・有台坏・甕、手捏土器、石器、鉄器がある。1は半球状の土師器坏、2・3の底部は手持ちヘラケズリ、5は底部回転ヘラケズリ後高台貼付、6・7は口縁部に最大径がある。

本址はこれらの遺物より小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代I期-8世紀第1四半期に位置づけられよう。

(18) H18号住居址



第31図 H18号住居址(1)



第32图 H18号住居址(2)

第15表 H18号住居址出土遺物観察表

(cm)

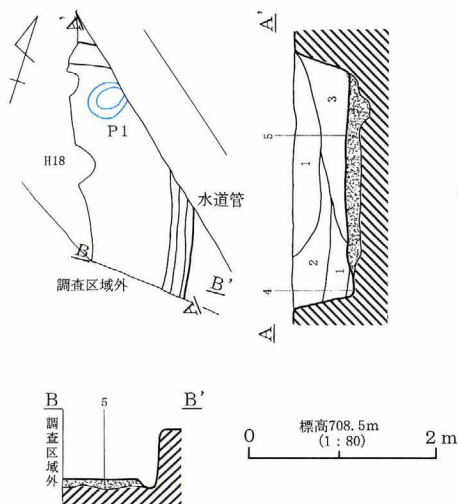
H18		法 量			成形・調整・文様		推定値()残存値< >丸底・		
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
1	土師器	甕	(24.8)	-	<3.5>	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	回転実測 ⑦と同一体?	カマド内 て25て26
2	土師器	ロクロ甕	-	6.4	<7.7>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部と底部外周ナデ→胴下半部手持ちヘラケズリ	完全実測 底部と外周付着物あり	カマド内 カマド煙道
3	土師器	甕	(23.0)	-	<18.8>	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	回転実測	カマド内 カマドホリ方
4	須恵器	甕	(27.6)	-	<4.2>	ヨコナデ	ヨコナデ	回転実測 酸化えん?	カマド内
5	須恵器	有台坏	(13.4)	-	<3.0>	ロクロナデ	ロクロナデ→ヘラナデ(→高台貼付)	回転実測	I区
6	須恵器	坏	-	(9.1)	<3.2>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部ヘラナデ	回転実測	カマド内
7	須恵器	坏	-	5.6	<3.6>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部ヘラナデ	完全実測	カマド内
8	須恵器	坏	13.8	8.4	4.0	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラ切り後ヘラナデ	完全実測	No.1
9	須恵器	坏	(13.3)	8.0	4.1	ロクロナデ	ロクロナデ→底部手持ちヘラケズリ	完全実測 内面に火だすき有	I区 カマド内
10	須恵器	坏	(14.2)	(9.0)	4.5	ロクロナデ	ロクロナデ→底部手持ちヘラケズリ	回転実測	I区
11	須恵器	坏	(15.6)	(9.6)	4.5	ロクロナデ	ロクロナデ→底部手持ちヘラケズリ	回転実測	I区 て25
12	須恵器	坏	(13.2)	(9.4)	2.8	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ	回転実測	I区
13	須恵器	有台坏	(19.4)	(12.6)	6.3	ロクロナデ	ロクロナデ→高台貼付	回転実測 内外面に自然袖付着	I区
14	土師器	甕	22.3	-	<20.3>	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	完全実測 口縁上部に焼成後穿孔かと思われる穴が有	カマド内 ホリ方
15	土師器	甕	(22.8)	-	<26.9>	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	完全実測	I区 カマド内 ホリ方
16	土師器	ロクロ甕	(20.0)	-	<22.8>	ロクロナデ→胴下半部ミガキ	ロクロナデ→胴下半部タタキ(格子)	回転実測	I区 カマド内 カマドホリ方
17	土師器	甕	(23.5)	-	<24.7>	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラナデ・ヨコナデ	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	回転実測	カマド内
18	土師器	甕	(24.2)	-	<12.8>	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	回転実測	カマド内
19	須恵器	甕	-	-	-	当て具痕	タタキ目	断面実測	I区
20	須恵器	甕	-	-	-	当て具痕→ヨコナデ	タタキ目	断面実測	I区
21	須恵器	甕	(20.0)	-	<5.4>	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ→胴部タタキ目	回転実測	P1
22	須恵器	甕	-	-	-	当て具痕→ヨコナデ	タタキ目	断面実測 外面に自然袖付着	カマド内
23	須恵器	甕	-	-	-	当て具痕	タタキ目	断面実測 外面に自然袖付着	I区
24	須恵器	甕	-	-	-	ヨコナデ	タタキ目	断面実測 自然袖付着	フク土
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見		出土位置
25	打製石斧		<6.5>	<6.7>	<1.4>	<58.39>	上部欠損。		カマド周辺
26	砥石?		13.6	12.1	5.6	726.27	欠損部位不明。正面に条痕を併う削り状の使用痕。		カマド右袖内

つ-24・25、て-25Grにあり、H19を切る。カマドは北壁中央に粘土等で構築された袖部・火床が残存する。ピットは、径40cm前後の柱痕が確認されたP1の主柱穴等7個検出された。P2～P7は壁柱穴でP2はカマド右脇、P3～P7は東壁に60～120cmの間を開けて並ぶ。P2の柱痕径25cm。床は堅く敲き締められていて平坦。カマド脇から東壁下に壁溝が巡る。

遺物は、土師器・須恵器、砥石?26、混入遺物の打製石斧25がある。須恵器坏の底部は、12は回転ヘラケズリ、9～11は手持ちヘラケズリ、8は回転ヘラ切り後ヘラナデ、6・7はヘラナデ調整される。5・7は有台坏である。土師器甕は口縁部に最大径を持つ「く」字口縁の武蔵甕3・14・15・17・18、2・16のロクロ甕がある。

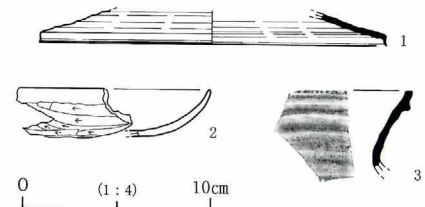
本址は小林眞寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代I期-8世紀第1四半期に位置づけられる。

(19) H19号住居址



第33図 H19号住居址

- 1層 黒褐色土(10YR2/3)ロームブロック多量、黒色土ブロックを含む。人為的埋土。
- 2層 褐色土(10YR4/4)黒色土・ローム粒子多量を含む。人為的埋土。
- 3層 暗褐色土(10YR3/3)黒色土多量、ロームブロックを含む。人為的堆積。
- 4層 黒褐色土(10YR3/2)
- 5層 にぶい黄褐色土(10YR4/3)黄褐色土ブロック含む。掘方埋土。



つ-24Grにあり、H18に切られる。床は堅く敲き締められていて平坦。東壁下に壁溝が巡る。カマドは調査範囲には、見られない。床下からP1が検出された。覆土1～3層は人為埋土。

遺物は、2の半球状の土師器坏、1の須恵器蓋、3の須恵器甕がある。

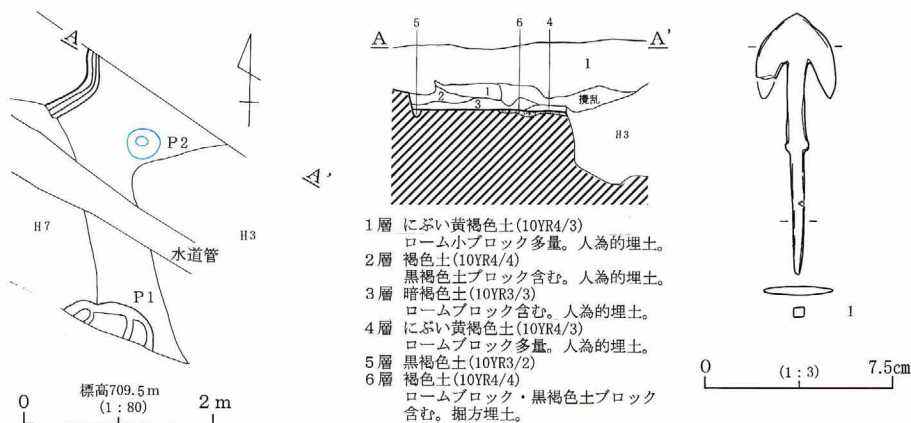
少ない出土遺物で時期詳細は不明。本址は、H18に切られており8世紀第1四半期以前の所産ではある。

第16表 H19号住居址出土遺物観察表

(cm)

H19		法 量			成形・調整・文様		推定値()残存値< >丸底・		
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
1	須恵器	蓋	(18.2)	-	<1.8>	ロクロナデ	ロクロナデ→天井部回転ヘラケズリ	回転実測 外面 自然釉付着	覆土
2	土師器	坏	-	-	-	みこみ部ナデ→口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ→底部ヘラケズリ	破片実測	覆土 H181区
3	須恵器	甕?	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ→隆帯貼付	断面実測	覆土

(20) H20号住居址



第34図 H20号住居址

- 1層 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム小ブロック多量。人為的埋土。
- 2層 褐色土(10YR4/4) 黒褐色土ブロック含む。人為的埋土。
- 3層 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロック含む。人為的埋土。
- 4層 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム小ブロック多量。人為的埋土。
- 5層 黒褐色土(10YR3/2)
- 6層 褐色土(10YR4/4) ロームブロック・黒褐色土ブロック含む。掘方埋土。

き・く-14つ-24Grにあり、H3・H7に切られる。床は強く敲き締められていて平坦である。張り出し部に沿って壁溝が巡る。カマドや焼土等調査範囲には、見られない。

ピットが2個検出された。P2は床面下から検出された。覆土1~3は人為埋土である。

出土遺物は、鉄器の他には内面黒色処理され外稜持つ土師器坏小片のみである。1は短頸有棘鎌身三角形造込両丸の鉄鎌である。

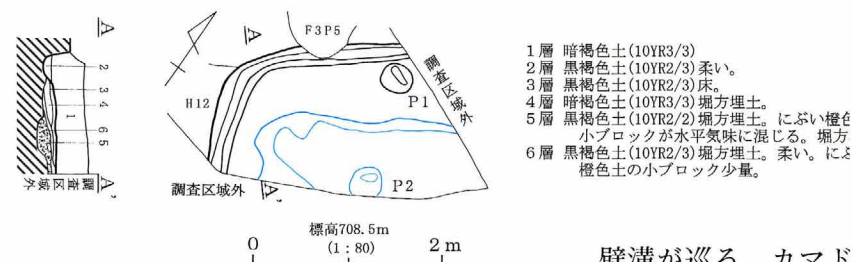
本址の詳細は不明であるが、時期的には8世紀第4四半期のH3号住居址より先行する。

第17表 H20号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見	出土位置
1	鉄 鎌	鉄	10.2	3.1	<0.5>	<15.27>	左脚部欠損。	覆土

(21) H21号住居址



第35図 H21号住居址

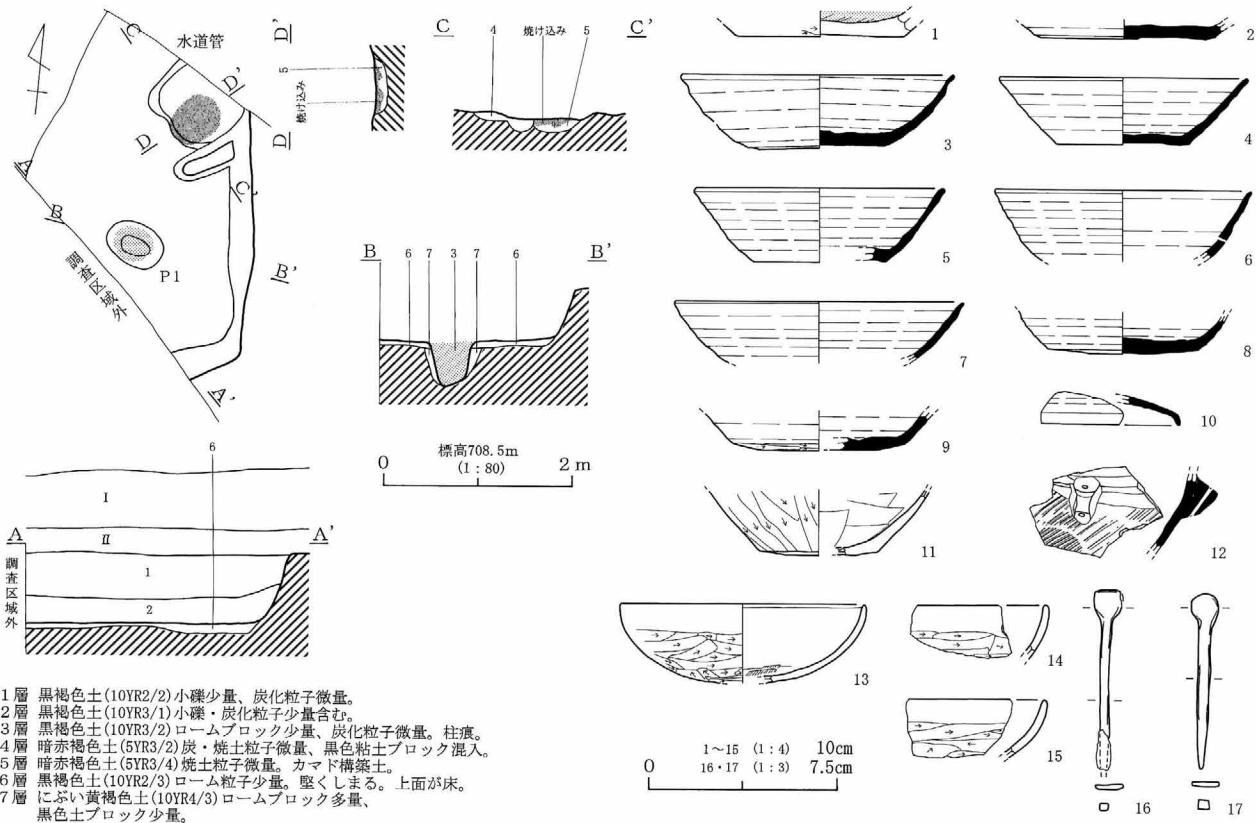
- 1層 暗褐色土(10YR3/3)
- 2層 黒褐色土(10YR2/3) 柔い。
- 3層 黒褐色土(10YR2/3) 床。
- 4層 暗褐色土(10YR3/3) 掘方埋土。
- 5層 黒褐色土(10YR2/2) 掘方埋土。にぶい橙を小ブロックが水平気味に混じる。掘方
- 6層 黒褐色土(10YR2/3) 掘方埋土。柔い。にぶい橙色土の小ブロック少量。

い-4・5Grにあり、H12・F3・P41・P111・P112・P115に切られ、H16を切る。床は強く敲き締められているが、やや平坦でない。西壁下・北壁下に壁溝が巡る。カマドは調査範囲内には、見られない。ピットが2個みられ、P2は床下から検出された。

遺物は、弥生時代後期甕・壺、土師器坏・甕の小片が検出された。本址は、9世紀後半のH12号住居址より先行し、8世紀第1四半期のH16号住居址より後出する。

(22) H22号住居址

い-4・5Grにあり、H16を切る。床は強く敲き締められていて平坦である。カマドは東壁に火床の焼け込みと見られる焼土が残存する。ピットは、径40cm前後の柱痕が確認されたP1の支柱穴が検出された。遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏・蓋・四耳壺、鉄器角釘?16・17、混入遺物と見られる13



- 1層 黒褐色土(10YR2/2)小礫少量、炭化粒子微量。
- 2層 黒褐色土(10YR3/1)小礫・炭化粒子少量含む。
- 3層 黒褐色土(10YR3/2)ロームブロック少量、炭化粒子微量。柱痕。
- 4層 暗赤褐色土(5YR3/2)炭・焼土粒子微量、黒色粘土ブロック混入。
- 5層 暗赤褐色土(5YR3/4)焼土粒子微量。カマド構築土。
- 6層 黒褐色土(10YR2/3)ローム粒子少量。堅くしまる。上面が床。
- 7層 ぶい黄褐色土(10YR4/3)ロームブロック多量、黒色土ブロック少量。

第36図 H22号住居址

第18表 H22号住居址出土遺物観察表

H22		法 量			成形・調整・文様		推定値()残存値< >丸底・		
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
1	土師器	坏	-	(4.7)	<1.3>	ミガキ→黒色処理	胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ→ミガキ	回転実測	覆土
2	須恵器	坏	-	(8.6)	<1.1>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラ切り	回転実測 内外面 火だすき有	覆土
3	須恵器	坏	(14.4)	6.6	4.0	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り	完全実測 内外面 火だすき有	No.1
4	須恵器	坏	(13.0)	(7.0)	3.6	ロクロナデ	ロクロナデ→底部糸切り	回転実測	覆土
5	須恵器	坏	(13.2)	(7.0)	3.9	ロクロナデ	ロクロナデ→底部糸切り	回転実測 内外面 火だすき有	覆土
6	須恵器	坏	(13.4)	-	<3.8>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測 外面 火だすき有	覆土
7	須恵器	坏	(15.3)	-	<3.3>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測 内面 火だすき有	覆土
8	須恵器	坏	-	(7.8)	<2.2>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部糸切り	回転実測 内面に 自然袖付着 内外 面に火だすき有	覆土
9	須恵器	坏	-	(9.0)	<2.1>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部糸切り後手持ちヘラケズリ	回転実測 内外面 火だすき有	覆土
10	須恵器	甕	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	覆土
11	土師器	甕	-	(6.2)	<3.5>	ヘラナデ	胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	回転実測	覆土
12	須恵器	四耳壺	-	-	-	当て具痕	タタキ目→降帯貼付→耳貼付	破片実測 外面自 然袖付着	覆土
13	土師器	坏	(13.0)	-	<4.2>	口縁部ヨコナデ→みこみ部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ→底部ヘラケズリ	回転実測	覆土
14	土師器	坏	-	-	-	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ→ヘラケズリ	破片実測	覆土
15	土師器	坏	-	-	-	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ→ヘラケズリ	破片実測	覆土
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見		出土位置
16	角釘?	鉄	<7.1>	<1.1>	<0.4>	<4.81>	下部欠損。		覆土
17	角釘?	鉄	6.8	1.0	0.5	4.41	ほぼ完形。		覆土

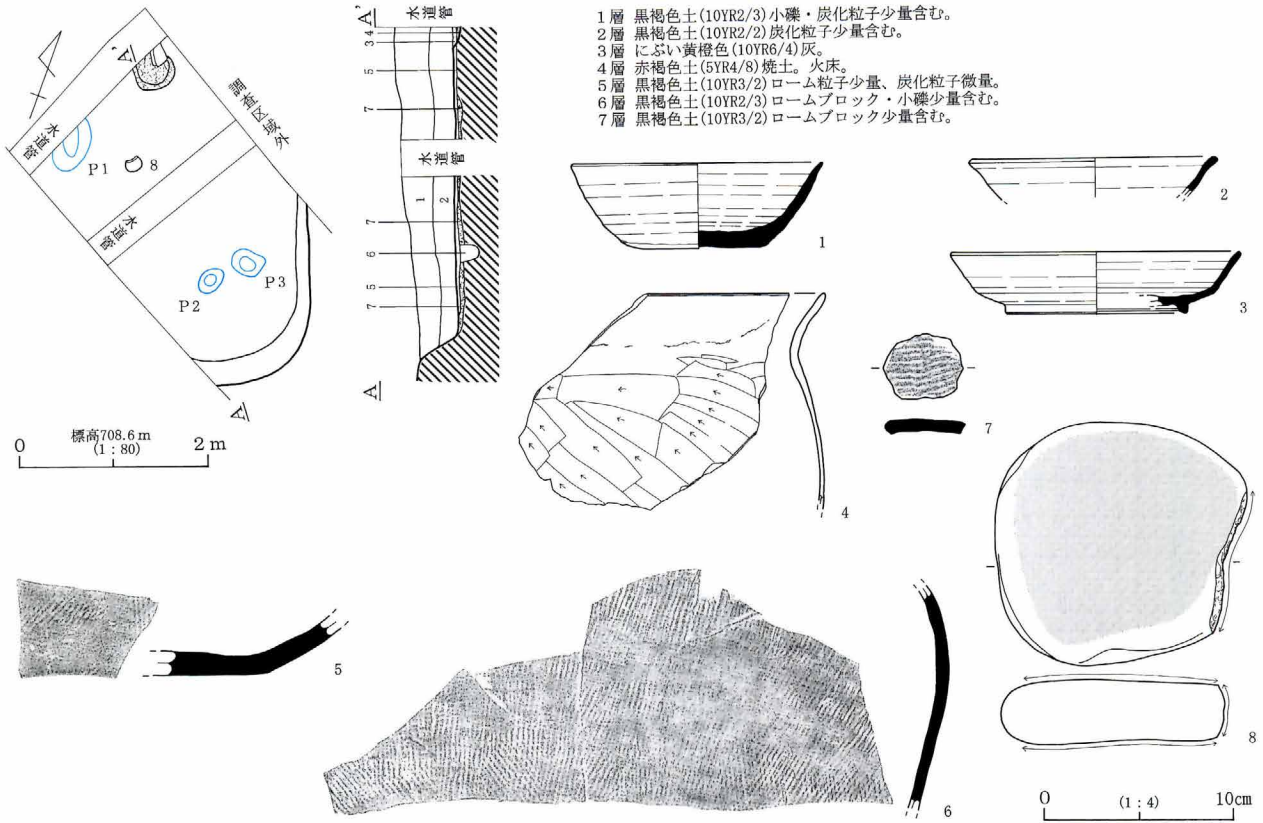
~15の土師器坏がある。1の土師器坏は底部ヘラケズリ、須恵器坏の底部は、6は回転糸切り後手持ちヘラケズリ、2~5・8は回転ヘラ切りされる。

本址は小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代IV期- 8世紀第4四半期に位置づけられる。

(23) H23号住居址

と・な-26・27Grにあり、H22に切られる。床は堅く敲き締められていて平坦である。北側調査区域境の窪みに焼土と灰が残存している。カマドの火床と見られる。ピットは3個確認され、P1・P3が主柱穴であろうか。P2は床下から検出された。

遺物は、土師器甕、須恵器坏・甕、7の土製品須恵器土器片円板、8の敲石がある。4の口径と胴



- 1層 黒褐色土(10YR2/3)小礫・炭化粒子少量含む。
- 2層 黒褐色土(10YR2/2)炭化粒子少量含む。
- 3層 にぶい黄褐色(10YR6/4)灰。
- 4層 赤褐色土(5YR4/8)焼土。火床。
- 5層 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒子少量、炭化粒子微量。
- 6層 黒褐色土(10YR2/3)ロームブロック・小礫少量含む。
- 7層 黒褐色土(10YR3/2)ロームブロック少量含む。

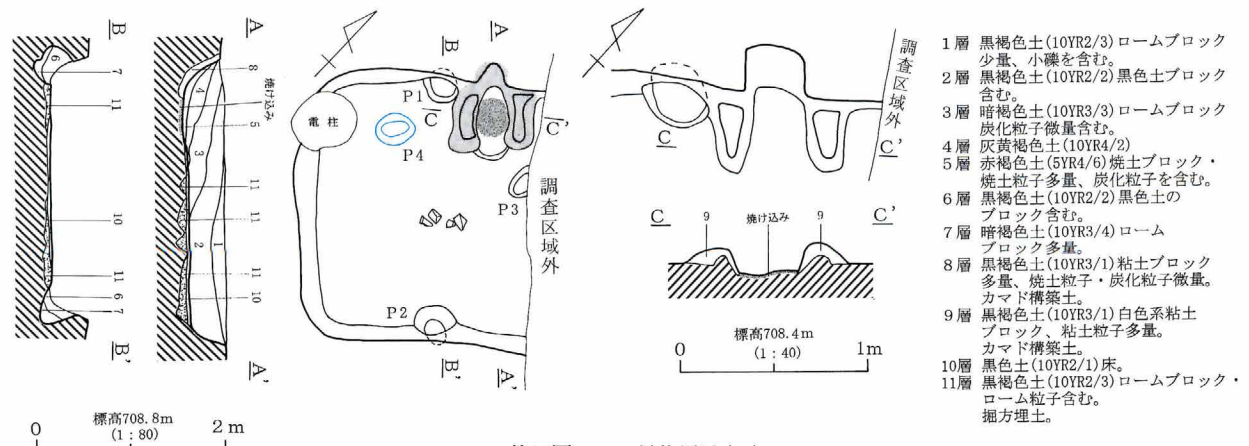
第37図 H23号住居址

第19表 H23号住居址出土遺物観察表

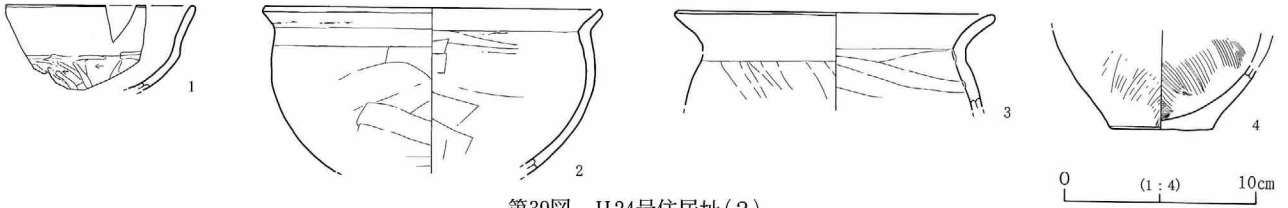
H23					法 量		成形・調整・文様		推定値()残存値< >丸底・	
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置	
1	須恵器	坏	13.3	7.6	4.5	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラ切り後ナデ	完全実測	IV区 ホリ方 No.2	
2	須恵器	坏	(13.2)	-	<2.1>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測 外面に火だすき有	覆土	
3	須恵器	有台坏	(15.3)	(9.5)	3.3	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ→高台貼付	回転実測	覆土 て26	
4	土師器	甕	-	-	-	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	破片実測	IV区	
5	須恵器	甕	-	-	-	当て具痕→ナデ	胴部タタキ目。底部ナデ	断面実測 ⑥と同一個体	IV区	
6	須恵器	甕	-	-	-	当て具痕→ヨコナデ	タタキ目	断面実測 ⑤と同一個体	I区 IV区 カマド 覆土	
7	須恵器	土器片円板			甕 胴部片。敲打痕。長径4.3 短径3.5 厚さ0.8。					
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見	出土位置		
8	胎・敲石		12.9	13.3	3.4	1042.91	正裏にすり面。右側に敲打痕。	No.1		

部径がほぼ等しい土師器武蔵甕、1の須恵器坏・3の須恵器有台坏の底部は、回転ヘラ切りと回転ヘラケズリが見える。本址は小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代IV期- 8世紀第2四半期に位置づけられよう。

(24) H24号住居址



第38図 H24号住居址(1)



第39図 H24号住居址(2)

第20表 H24号住居址出土遺物観察表

(cm)

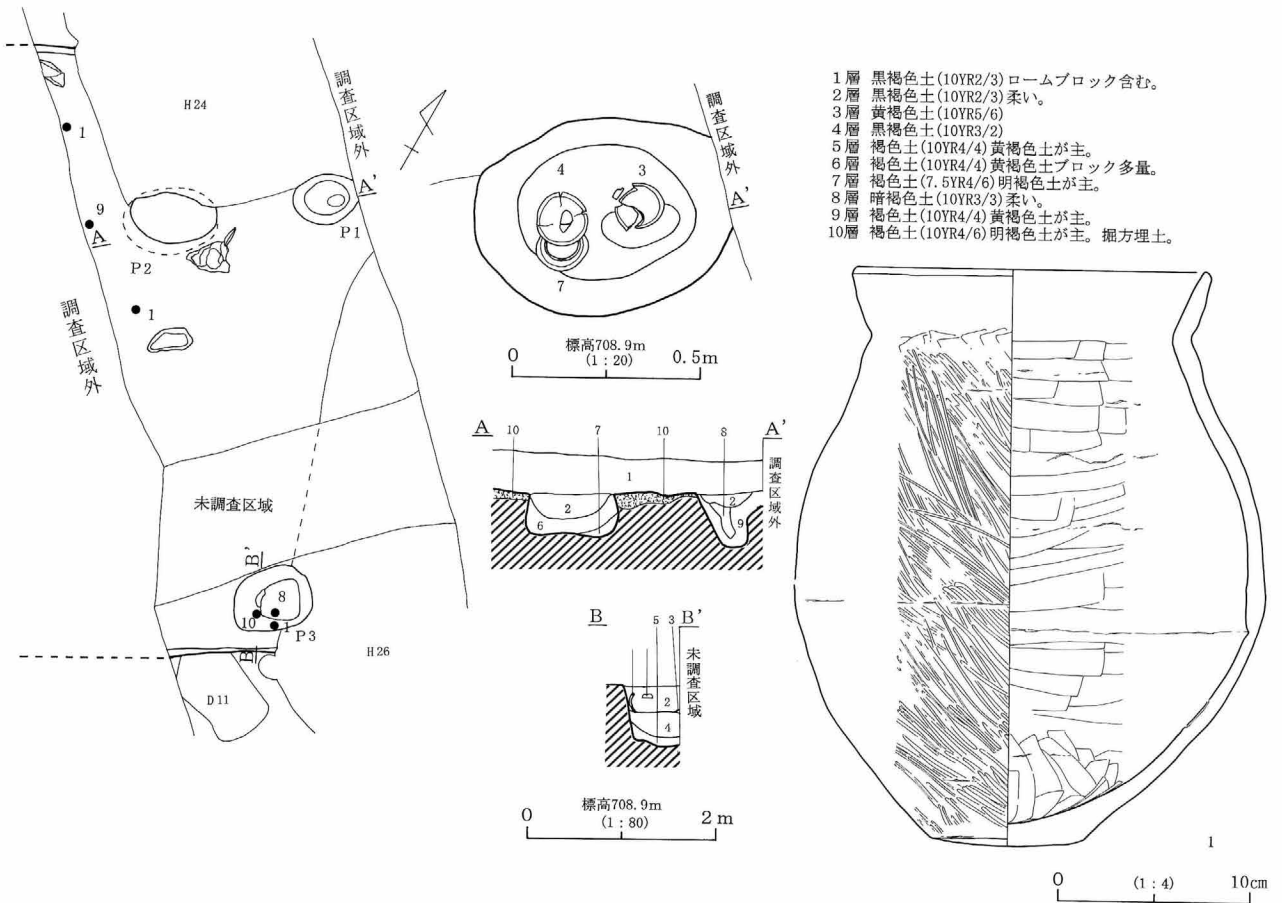
H24		法 量			成形・調整・文様		推定値()残存値<>丸底・		
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
1	土師器	坏	-	-	-	ミガキ→黒色処理	口縁部ヨコナデ→底部ヘラズリ→ミガキ	破片実測	I区
2	土師器	鉢	(18.0)	-	<8.8>	胴部ヘラナデ→口縁部ヨコナデ	胴部ナデ→口縁部ヨコナデ	回転実測	確認面
3	土師器	甕	16.9	-	<5.2>	胴部ヘラナデ→口縁部ヨコナデ	胴部ナデ→口縁部ヨコナデ	完全実測	I区 II区 No.1 No.2
4	土師器	甕	-	(5.4)	<5.3>	ハケ目の残るヘラナデ	胴部ハケ目の残るヘラナデ。底部ハケ目の残るヘラナデ	回転実測	I区 カクラン

ち-21・22Grにあり、H25を切る。カマドは北壁に粘土等で構築された地山削出の袖部・火床・煙道が残存する。ピットは4個検出された。支柱穴のP1・P2は、内側に傾斜する壁柱穴である。P4は床下から検出された。床は堅く敲き締められていて平坦。

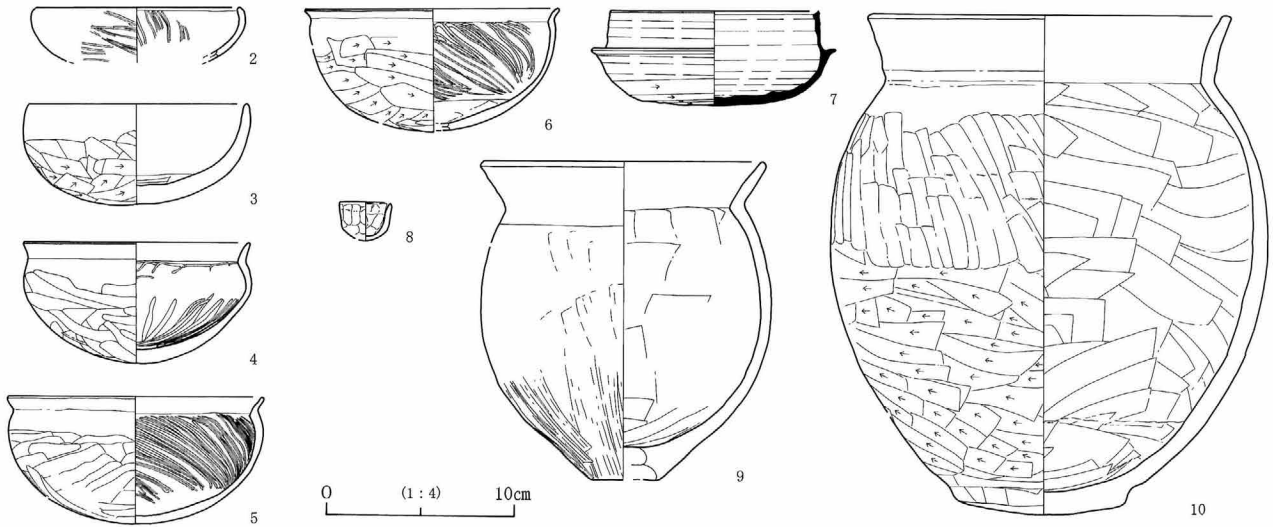
遺物は、1の土師器須恵器坏蓋模倣の坏、2の土師器鉢、3・4の土師器甕がある。これらの遺物から、本址は小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代IV期- 8世紀第2四半期に位置づけられよう。

(25) H25号住居址

た-20・21、ち-21・22Grにあり、H24・H26に切られる。カマドは調査範囲内には、見られない。ピットが3個検出された。柱痕状の8層が見られたP1は支柱穴であろう。3・4の土師器坏と7の須恵器坏が出土した。P2は断面がフラスコ状で深さ44cm。1の土師器壺・8の手捏土器・10の土師器



第40図 H25号住居址(1)



第41図 H25号住居址(2)

第21表 H25号住居址出土遺物観察表

(cm)

H25			法 量			成形・調整・文様		推定値()残存値<>丸底・	
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
1	土師器	甕or壺	(18.9)	-	30.8	口縁部ヨコナデ→胴から底部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラナデ後ミガキ・底部ミガキ	完全実測	No.1 No.3 No.9
2	土師器	坏	(10.8)	-	<2.8>	暗文	ミガキ	回転実測	覆土
3	土師器	坏	11.7	-	5.4	みこみ部ヘラナデ→口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ→底部ヘラケズリ・ヘラナデ	完全実測	No.6
4	土師器	坏	11.9	-	6.4	体部ナデ→口縁部ヨコナデ→暗文	口縁部ヨコナデ・体部から底部ヘラナデ	完全実測	No.4
5	土師器	坏	(13.5)	-	6.7	暗文	口縁部ヨコナデ→体部から底部ヘラナデ	完全実測	覆土
6	土師器	坏	13.4	-	6.5	みこみ部ヘラナデ→口縁部ヨコナデ→暗文	口縁部ヨコナデ→底部ヘラケズリ	完全実測	覆土
7	須恵器	坏	11.2	-	5.1	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ	完全実測	No.5
8	土師器	ミガキ土器	(2.8)	(2.5)	-	口縁部ヨコナデ→ナデ	口縁部ヨコナデ→ナデ	回転実測	No.7
9	土師器	小形甕	15.2	(3.6)	16.8	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラナデ→底部ヘラナデ	胴部ナデ→口縁部ヨコナデ・胴下半ハケ目の残るナデ・底部ナデ	完全実測	No.2
10	土師器	甕	19.3	8.5	26.5	胴から底部ヘラナデ→口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ・胴下半と底部ヘラケズリ→胴上半ハケナデ	完全実測	No.8

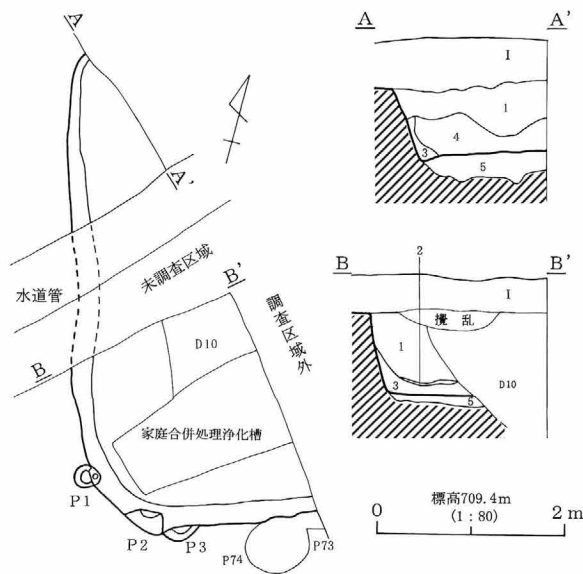
甕が検出されたP3は南壁近くにあり深さ64cmを測る。床は堅く敲き締められていて平坦である。50cm内外の礫3個が床面上にみられた。遺物は土師器坏・甕・壺・手捏土器、須恵器坏がある。2～6の土師器坏は半球状で口縁部が短く外反する4、内斜する5・6、内弯する2・3がある。10の甕は胴部に最大径を持ち胴部は丸みを帯び、外面ヘラケズリされる。1の壺外面はヘラミガキされる。7の須恵器坏は口径11cmで、扁平な体部から長くほぼ直立に立ち上がり、端部は中央が窪む。外面体部から底部回転ヘラケズリされる。本址はこれらの遺物より、5世紀後半に位置づけられよう。

(26) H26号住居址

た・ち-20・21Grにあり、H25を切り、D10・P73・74に切られる。カマドは調査範囲内には、見られない。壁柱穴が3個検出された。

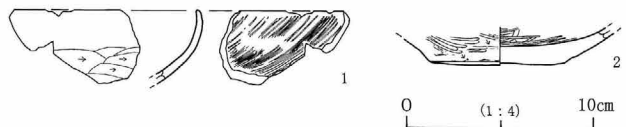
床面は平坦だが軟弱である。

遺物は、土師器坏・甕が図示できた。本址の詳細は不明だが、本址が切る5世紀後半のH25よりは、後出する。



第42図 H26号住居址

- 1層 暗褐色土(10YR3/3)
黄褐色土小ブロック少量。
- 2層 黒色土(10YR2/1)
炭。
- 3層 褐色土(10YR4/4)
黄褐色土ブロック含む。
- 4層 黒褐色土(10YR2/3)
炭・黄褐色土小ブロック少量含む。
- 5層 褐色土(10YR4/6)
黄褐色土ブロック多量。



第22表 H26号住居址出土遺物観察表

(cm)

H26			法 量			成形・調整・文様		推定値()残存値< >丸底・	
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
1	土師器	坏	-	-	-	ヨコナデ→暗文	ヨコナデ→体部ヘラケズリ	破片実測	E・W区
2	土師器	甕	-	7.2	<2.0>	ミガキ	胴部と底部ヘラケズリ後ミガキ	完全実測	E区

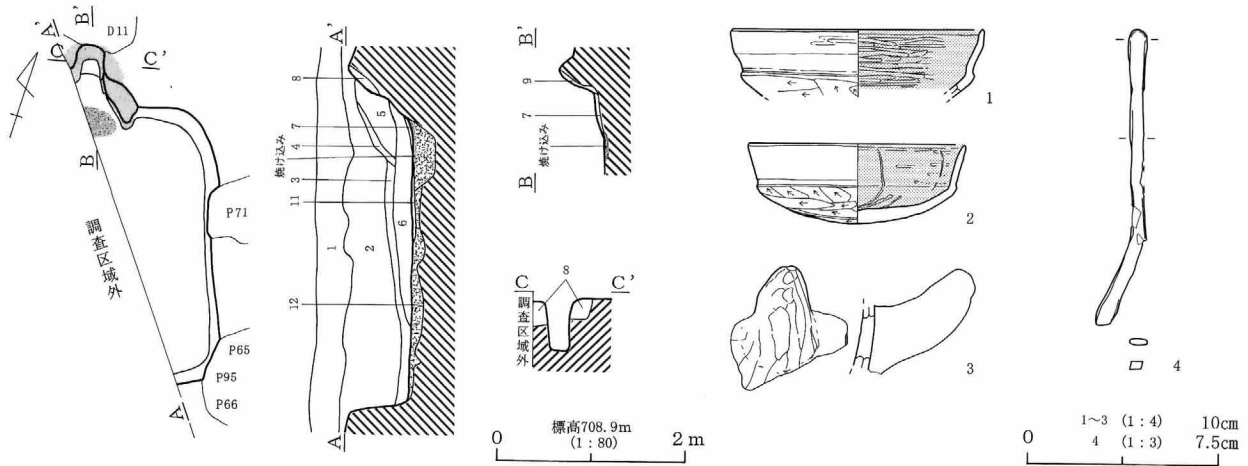
(27) H27号住居址

そ-20Grにあり、D11・P73・74に切られる。カマドは北壁に粘土等で構築された袖部・火床・煙道の一部が残存する。ピットは調査範囲内では見られなかった。

床は堅く敲き締められていて平坦である。

遺物は土師器坏・把手、鉄器がある。須恵器坏蓋模倣の坏1・2は、内面黒色処理される。3は甌の把手であろうか。4は関が明確でないが、長頸有茎鏃身鑿箭造込両丸の鉄鏃である。

本址は小林真寿の編年(2005聖原)古墳時代Ⅲ期- 6世紀中葉～7世紀初頭に位置づけられようか。



- 1層 黒褐色土(10YR2/2)小礫微量含む。
- 2層 黒褐色土(10YR3/2)灰白色土の小ブロック多量に含む。人為的埋土。
- 3層 黒色土(10YR2/1)小礫を含む。人為的埋土。
- 4層 黒褐色土(5YR3/1)焼土粒子・炭化粒子含む。人為的埋土。
- 5層 にぶい赤褐色土(5YR5/4)にぶい橙色土多量に含む。人為的埋土。
- 6層 にぶい黄褐色土(10YR5/3)炭化粒子微量、にぶい橙色土の小ブロック含む。

- 7層 灰褐色土(5YR5/2)炭化粒子含む灰の堆積土。
- 8層 にぶい橙色土(5YR6/4)粘質土。カマド構築土。
- 9層 黒褐色土(5YR2/1)焼土・炭化粒子含む。カマド構築土。
- 10層 黒褐色土(10YR3/1)褐色のロームブロック・粒子含む。炭化粒子含む。カマド堀方。
- 11層 黒褐色土(10YR2/3)床。堅くしまる。
- 12層 褐色土(10YR4/4)黄褐色土が主。にぶい橙色土を含む。掘方埋土。

第43図 H27号住居址

第23表 H27号住居址出土遺物観察表

(cm)

H27			法 量			成形・調整・文様		推定値()残存値< >丸底・	
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
1	土師器	坏	(13.4)	(12.3)	<3.6>	ミガキ→黒色処理	口縁部ヨコナデ→底部ヘラケズリ→一部ミガキ	回転実測	覆土
2	土師器	坏	(11.4)	(10.5)	4.2	ミガキ→黒色処理	底部ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ	回転実測	磨耗 覆土
3	土師器	把手	-	-	-	ミガキ	ナデ	破片実測	覆土
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見	出土位置	
4	鏃	鉄	11.7	0.7	0.5	<10.05>	一部欠損。関部不明。	覆土	

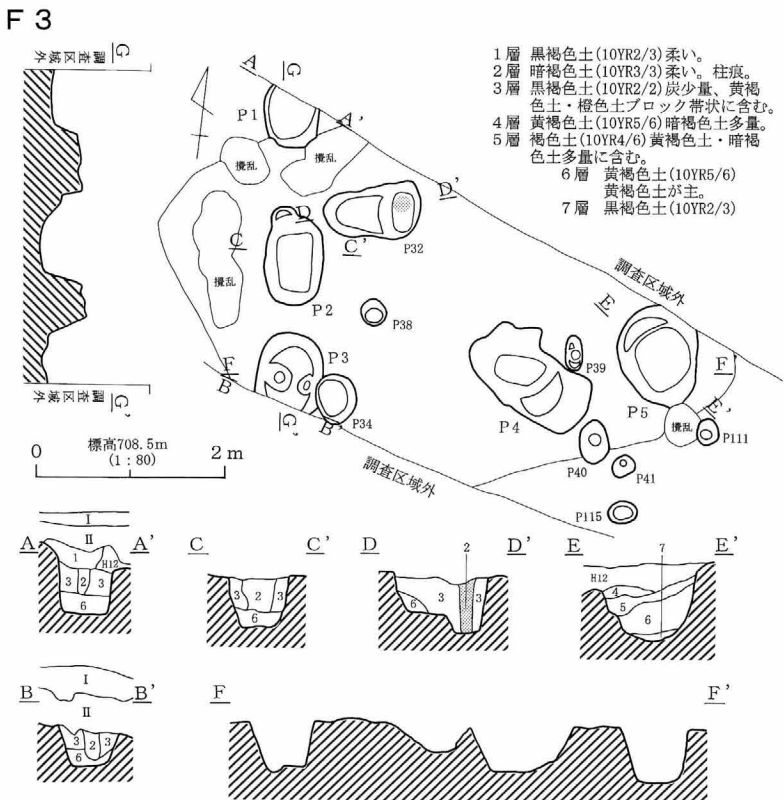
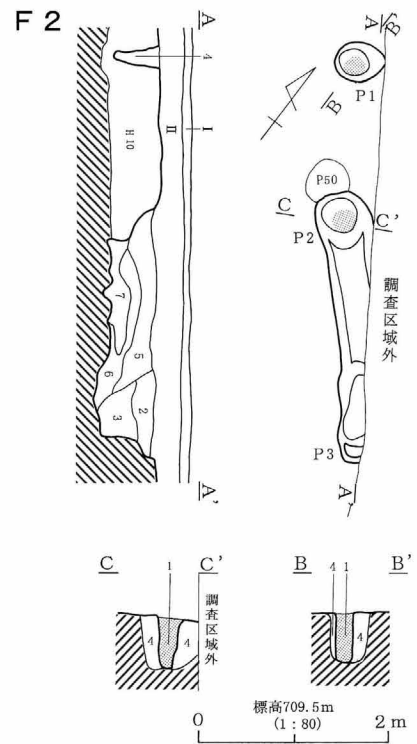
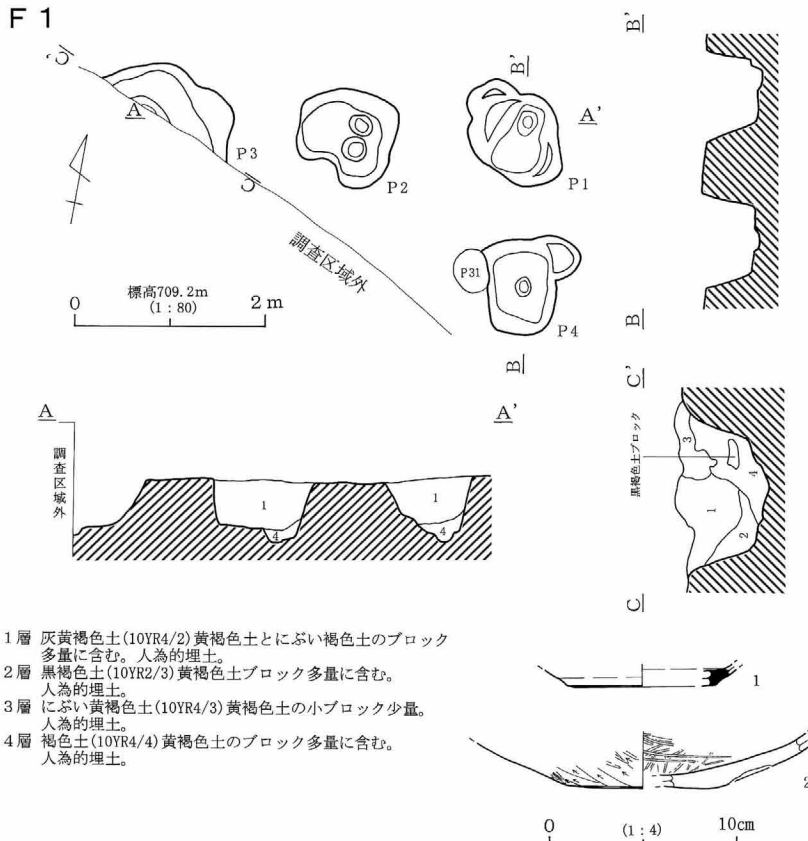
第2節 掘立柱建物址

(1) F1号掘立柱建物址

う-7・8Grにあり、P31に切られる。大半が調査区域外にある。形態は側柱式が考えられる。南北軸方位はN-10°-W。南北柱間1.6m東西柱間1.8mと2.2mを測る。柱穴の平面形は不整形であるが方形が基調、穴底に柱を固定したかのような径20～28cmの小穴がすべての柱穴に認められた。長辺1m前後で深さは60～80cm。遺物は1の底部ヘラナデされる土師器坏、2の土師器壺がある。他に小片で弥生時代後期土器、須恵器、土師器、灰釉陶器があるが、これらの遺物での年代決定は困難である。

(2) F2号掘立柱建物址

せ・そ-19Grで検出され、H10を切りP50に切られる。大半が調査区域外にあり、形態等不明。深さ56cmのP2と深さ60cmのP3が布掘状に連結される。径20cmの柱痕がP1とP2で確認された。



出土遺物皆無で、重複するH10も時期不明であり、本址の時期も不明である。

(3) F 3号掘立柱建物址

い・う-5・6 Grで検出されH12・D13・P34に切られH21を切る。大半が調査区域外にあるが形態は側柱式が考えられる。南北柱間1.6mと1.2m東西柱間2.4mと1.6mを測る。柱穴の平面形は不整形であるが楕円形が基調。

長辺1m~1.3mで深さは40~80cmを測る。

遺物は、小片で弥生時代後期土器、須恵器、土師器、灰釉陶器がある。これらの遺物

第44図 掘立柱建物址

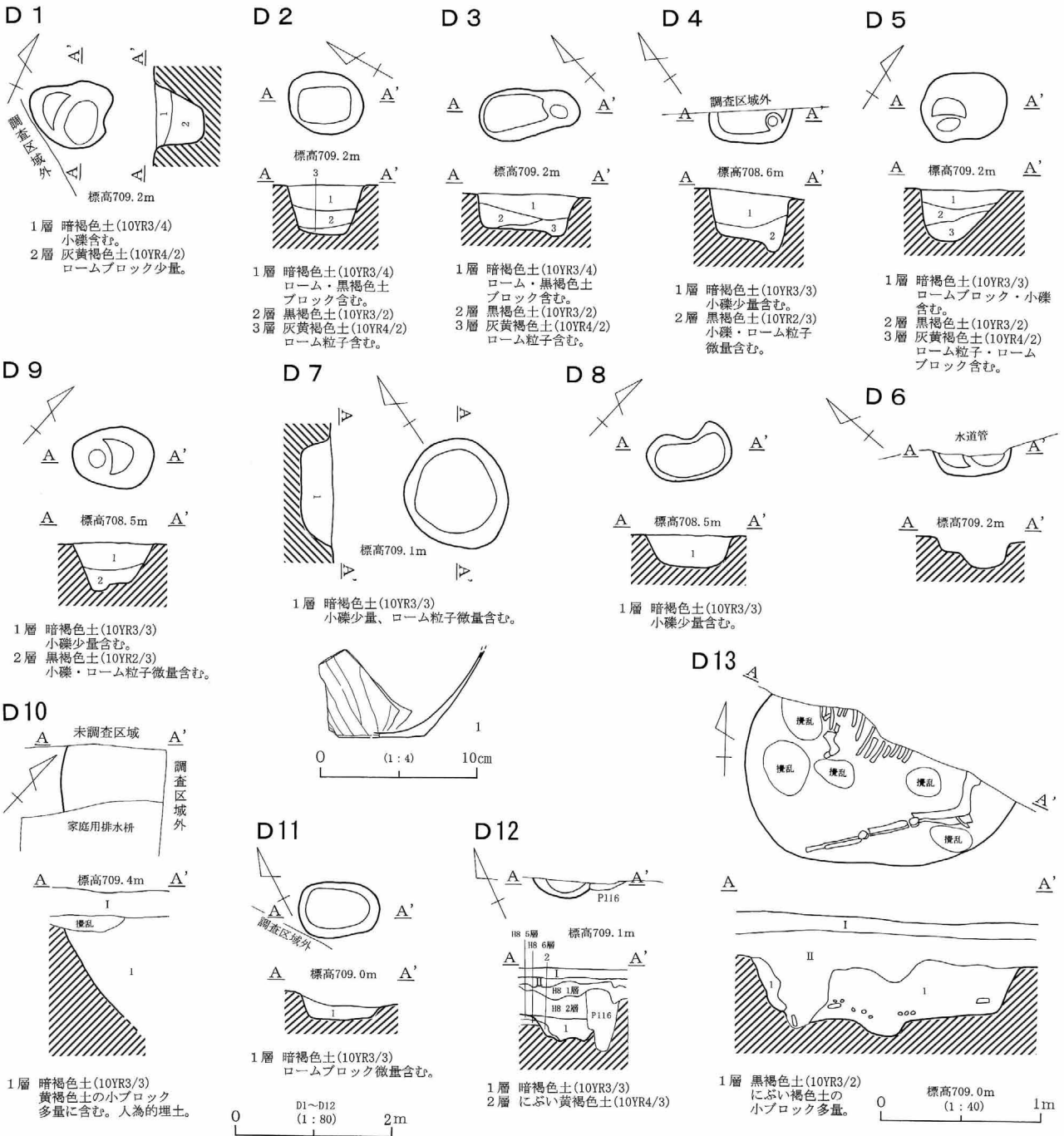
での年代決定は困難である。重複関係は、本址より後出のH12が9世紀後半、本址より先行のH21・H16が8世紀第1四半期であり、本址は8世紀第1四半期から9世紀後半と漠然と位置づけられる。

第3節 土坑

D1号土坑 き-15Grで検出されH1を切る。長軸長106cm短軸長90cm壁高は60cm長軸方位はN-90°-E。平面形楕円形、断面逆梯子形。土師器・須恵器小片出土したが、時期は不明である。

D2号土坑 く-15Grで検出され、H1を切る。長軸長93cm短軸長80cm壁高591cm長軸方位はN-25°-W。平面楕円形、断面逆梯形。弥生後期土器片・土師器・須恵器小片出土したが、時期は不明である。

D3号土坑 く-16Grで検出され、H1を切る。長軸長128cm短軸長65cm壁高55cm長軸方位はN-55°-W。平面楕円形、断面テラス持つ逆梯形。土師器や須恵器小片出土したが、時期は不明である。



第45図 土坑

D4号土坑 と-24Grで検出され、検出長軸長52cm短軸長20cm壁高59.5cm、長軸方位はN-55°-W。平面長方形、断面逆梯形底面東寄りに小ピット1基。土師器坏・須恵器小片出土したが、時期は不明。

D5号土坑 き-15Grで検出され、長軸長112cm短軸長82cm壁高81.5cm、長軸方位はN-55°-W。平面円形、断面逆梯形底面東寄りに小ピット1基。土師器坏・須恵器小片出土したが、時期は不明。

D6号土坑 く-15Grで検出され、検出長軸長95cm短軸長37cm壁高42cm、長軸方位はN-44°-W。平面楕円形、断面テラスを持つ逆梯形。土師器坏・甕小片出土したが、時期は不明。

D7号土坑 か-14Gr検出されH2を切る。長軸長73cm短軸長64cm壁高34cm、長軸方位はN-35°-E。平面円形、断面逆梯形。1の土師器甕等小片出土したが、H2との関係もあり時期は決めかねない。

D8号土坑 と-25Grで検出、長軸長55cm短軸長31cm壁高40cm、長軸方位はN-32°-E。平面楕円形、断面逆梯形。土師器坏・須恵器坏小片出土したが、時期は不明。

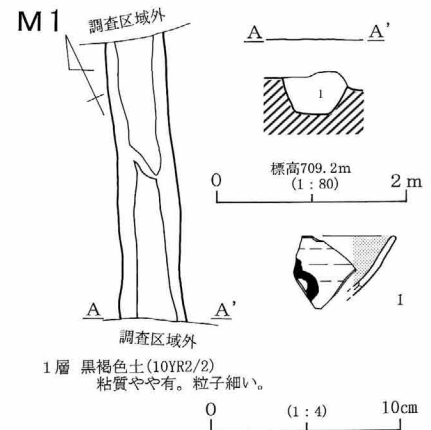
D9号土坑 て-26Grで検出、長軸長52cm短軸長40cm壁高64cm、長軸方位N-42°-E。平面楕円形、断面テラスを持つ逆梯形。弥生後期土器片・土師器・須恵器小片出土したが、時期は不明。

D10号土坑 た-20Grで検出され、H26を切る。覆土人為埋土。汚水浸透柵保護のため検出範囲限定。壁高120cm以上、土師器・須恵器小片出土したが、時期は不明。

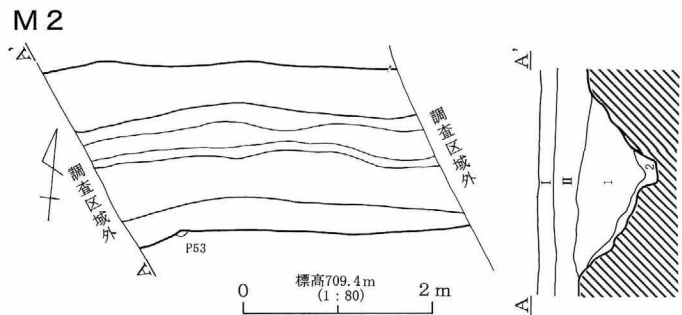
D11号土坑 た-20Grで検出され、H25・H27を切る。長軸長53cm短軸長36cm壁高34cm、長軸方位はN-66°-W。平面楕円形、断面逆梯形。出土遺物皆無で時期は不明。H27（6C中葉～7C初頭）以降。

D12号土坑 え-8Gr検出されH8・P116に切られる。検出長軸長76cm短軸長22cm壁高34cm、平面楕円形断面凹凸ある逆梯形。時期は重複関係から10世紀前半以前。

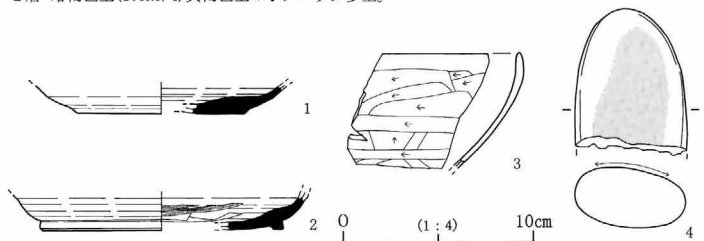
D13号土坑 う-5Gr検出され、H12・H16・F2を切る。検出長軸長85cm短軸長44cm壁高25cm、長軸方位はN-86°-E。平面楕円形、断面中央に小ピット持つ逆梯形。底面に接して木曾馬クラスの中型ウマのほぼ全身が埋納されていた。頭部・背部は調査区域外にある。重複関係から9世紀後半より後出。



第46図 M1号溝状遺



1層 暗褐色土(10YR3/3)黄褐色土の小ブロック少量。
2層 暗褐色土(10YR3/4)黄褐色土の小ブロック多量。



第47図 M2号溝状遺構

第4節 溝状遺構

M1号溝状遺構 う・え-20Grで検出南北調査区域外に伸びる。幅60~70cm、深さ15~28cm、北から南に傾斜する。断面は逆梯子形、10cm段差が見られる。遺物は土師器墨書の坏・甕、須恵器坏の小片が出土したが、本址の時期比定の根拠とはならない。

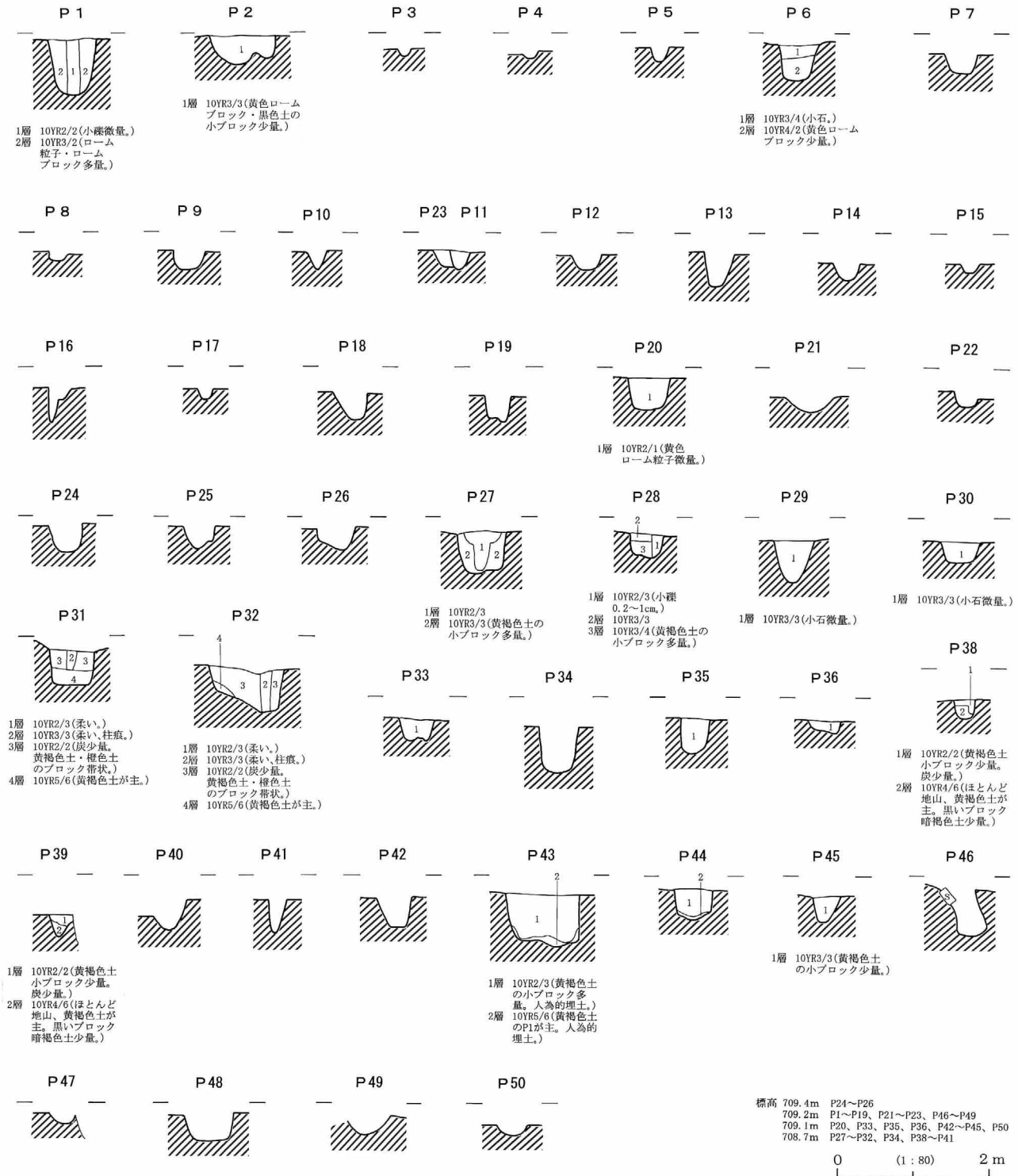
第24表 M1号・M2号溝状遺構出土遺物観察表

M1・M2		法 量				成形・調整・文様		推定値()残存値< >丸底・	
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
1	土師器	坏	-	-	-	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	破片実測 墨書あり	M1 覆土
1	須恵器	坏	-	(8.9)	<1.7>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラ切り	回転実測	M2 確認面
2	須恵器	有台坏	-	(14.4)	<2.1>	ロクロナデ→ヘラナデ	ロクロナデ→底部切離し後ヘラナデ。高台貼付	回転実測	M2 確認面
3	土師器	鉢	-	-	-	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ→体部ヘラケズリ	破片実測	M2 下層
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見		出土位置
4	磨石		<7.8>	<6.0>	<3.1>	<203.55>	下部欠損。正面にすり面。		M2

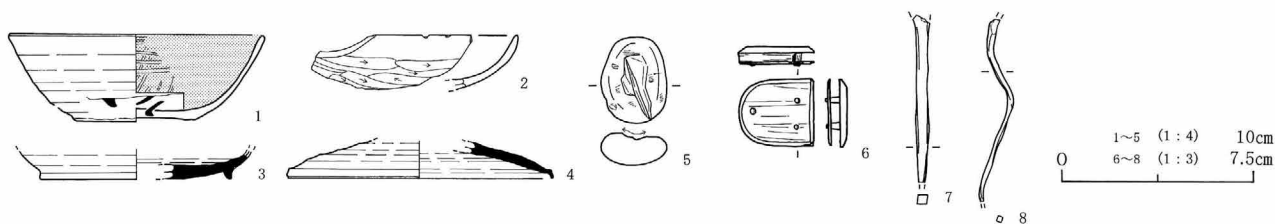
M2号溝状遺構 せ-18・19Grで検出され、東西の調査区域外に伸びる。H15に切られ、P106を切る。幅1.8m～2m深さ0.77m断面ほぼ「V」字形である。東から西へごく緩く傾斜する。流水の痕跡はない。遺物は8世紀代の土師器鉢3、須恵器坏1・有台坏2、磨石4がある。

第5節 ピット

ピットは113基が検出されM2とF2の周辺とH4周辺に集中している。大概が柱穴だとみられる



第48図 ピット断面図(1)



第50図 ピット出土遺物

第25表 ピット出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様		推定値()残存値< >丸底・	備考	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面			
1	土師器	坏	(13.5)	6.4	4.7	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り	完全実測 墨書あり	P32覆土	
2	土師器	坏	-	-	-	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ→体部ヘラケズリ	破片実測	P65覆土	
3	須恵器	有台坏	-	(10.0)	<1.6>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ→高台貼付	回転実測	P74覆土	
4	須恵器	蓋	(14.2)	-	<2.0>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	P74覆土	
No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見		出土位置	
5	磨石	軽石	4.6	3.5	1.8	15.44	全体にすり。正面に条痕。		P36覆土	
6	青銅製蛇尾金具	銅	3.0	2.7	0.8	23.07	ほぼ完形。		P61覆土	
7	角釘	鉄	<6.7>	<0.6>	<0.4>	<5.35>	上下欠損。		P87覆土	
8	鉄軸	鉄	<7.3>	<0.3>	<0.25>	<1.17>	上下欠損。		P97覆土	

が、明確な建物址とは捉えられなかった。図示できた遺物は、P32から1の底部回転糸切りの土師器坏、P65から2のヘラケズリされる土師器坏、P74から回転ヘラケズリ調整ある須恵器有台坏・蓋、P36から5の磨石、P61から6の銅製帯金具蛇尾、P87から7の鉄釘、P97から65の鉄角軸がある。

第6節 遺構外出土遺物

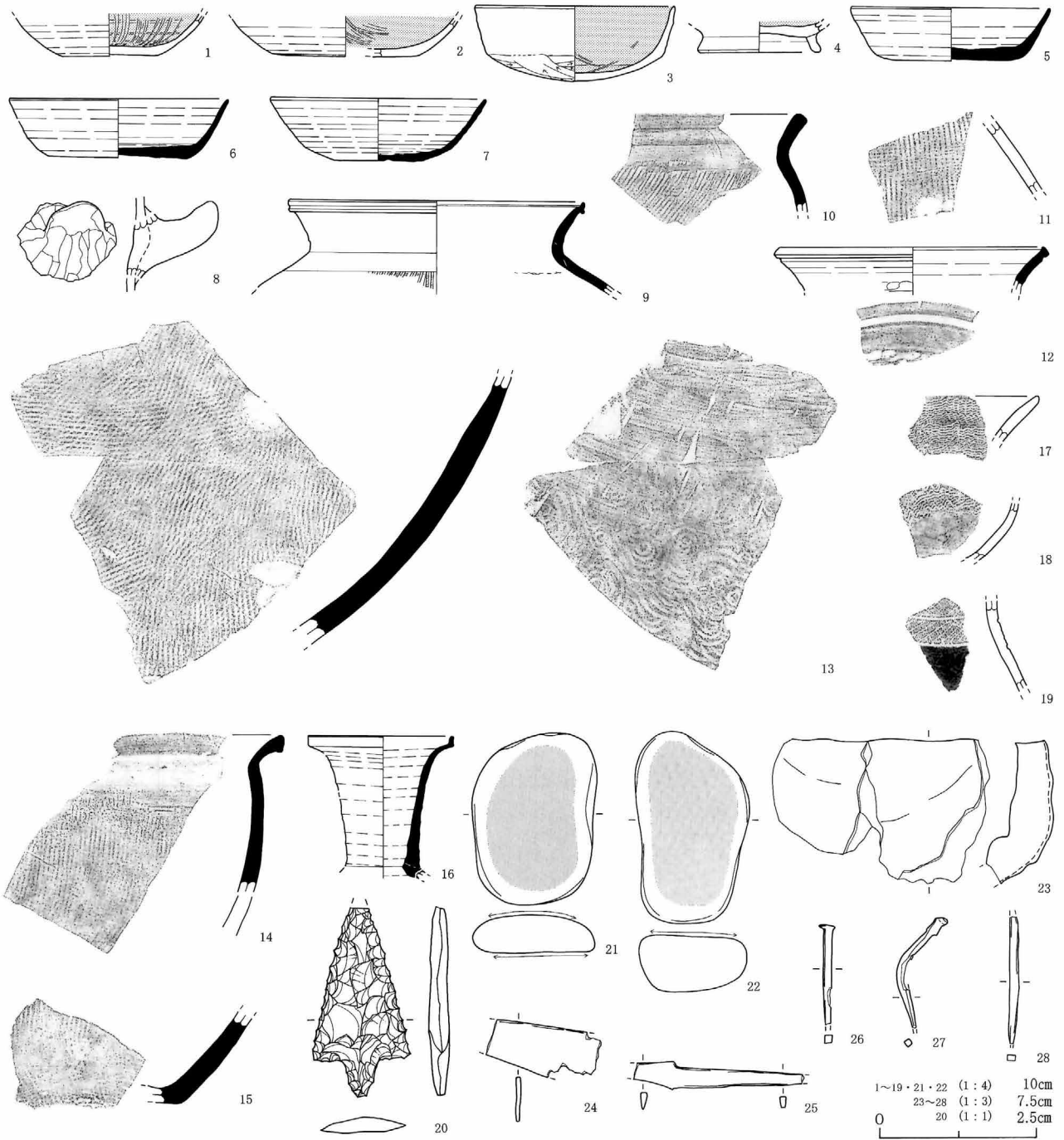
弥生時代後期、土師器・須恵器、石器、鉄器が出土した。

1～3は、内面黒色処理される土師器坏、1は底部回転糸切り、2はヘラナデ調整、3は須恵器坏蓋模倣坏である。4は底部回転糸切り後高台貼付で内面黒色処理される土師器碗。5～7は須恵器坏で、底部ヘラ切り・手持ちヘラケズリがみえる。9～14・15は須恵器甕、広口で短い口縁部を持つ鉢型の14、大型の13・15、頸部が括れ、口縁部が比較的短い9・10・12がある。16は、口縁部有段の長頸壺

第26表 遺構外出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様		推定値()残存値< >丸底・	備考	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面			
1	土師器	坏	-	(6.0)	<2.7>	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り	回転実測	え-9	
2	土師器	坏	-	(9.0)	<2.5>	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部ナデ	回転実測	て-26	
3	土師器	坏	(12.8)	-	4.9	みこみ部ヘラナデ→口縁部ヨコナデ→ミガキ→黒色処理	口縁部ヨコナデ→底部ヘラケズリ	回転実測	て-27	
4	土師器	碗	-	(7.8)	<2.0>	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部糸切り→高台貼付	回転実測	お-12	
5	須恵器	坏	(12.9)	(8.2)	3.4	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラ切り	回転実測 外面に火だすき有	て-26	
6	須恵器	坏	(14.0)	8.8	3.9	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り後手持ちヘラケズリ	完全実測 内外面火だすき有	つ-25	
7	須恵器	坏	(13.8)	(5.7)	4.0	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラ切り後ヘラナデ	回転実測	て-26	
8	土師器	把手	-	-	-	-	ヘラナデ	破片実測	て-24	
9	須恵器	甕	(19.0)	-	<6.0>	ヨコナデ	胴部タタキ目→口縁部ヨコナデ	回転実測	て-26	
12	須恵器	甕	(17.6)	-	<3.1>	ロクロナデ	ロクロナデ→口辺部に沈線を施す。頸部ナデ	回転実測	つ-23	
13	須恵器	甕	-	-	-	当て具痕	タタキ目	断面実測	え-9	
15	須恵器	甕	-	-	-	ヨコナデ	胴部タタキ目→底部外周手持ちヘラケズリ・底部ナデ	断面実測	お-12	
16	須恵器	長頸壺	(9.3)	-	<9.1>	ロクロナデ	ロクロナデ	完全実測 内外面に自然袖付着	お-12	
10	須恵器	甕	内面 口縁部ヨコナデ→胴部当て具痕後ヨコナデ。外面 口縁部ヨコナデ→胴部タタキ目。						後期	つ-24
11	須恵器	甕	内面 ヨコナデ。外面 タタキ目・自然袖付着。						断面実測	つ-25
14	須恵器	甕	内面 口縁部ヨコナデ→胴部ヨコナデ→ハケナデ。外面 口縁部ヨコナデ→胴部タタキ目。						断面実測	Z区
17	弥生土器	甕	内面 ミガキ。外面 櫛描波状文。						後期	つ-23
18	弥生土器	甕	内面 ミガキ。外面 櫛描波状文・ミガキ。						後期	つ-23
19	弥生土器	甕	内面 ハケナデ。外面 ミガキ→赤色塗彩・ヘラ描斜格子文。						後期	つ-25
No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見		出土位置	
20	石器		<3.0>	1.6	0.3	<1.34>	先端欠損。		お10	
21	磨石		11.0	8.0	2.4	368.85	正裏にすり面。		つ-23	
22	磨石		12.3	7.4	3.6	567.54	正面にすり面。		つ-23	
23	埴埴?		<6.7>	<10.5>	<2.8>	<285.50>	上端部を口縁とする埴埴か? 表面に砂礫付着。		つ-23	
24	鎌?	鉄	<5.5>	<2.4>	<0.25>	<5.70>	両端欠損。		え19	
25	刀子		<8.1>	1.4	0.4	<9.89>	両端欠損。		か11	
26	角釘	鉄	<4.7>	0.7	0.4	<3.36>	下部欠損。		つ-23	
27	角釘	鉄	<5.3>	0.8	<0.3>	<2.43>	一部欠損。		と26	
28	角釘?	鉄	<6.0>	<0.4>	<0.4>	<3.50>	上下欠損。		表採	



第51図 遺構外出土遺物

である。23は埧塙であろうか、表面に砂礫が付着する。

石器は、磨石21・22、石鏃20があり、鉄器は24の鎌とみられるもの、刀子25、角釘26・27等がある。これらは、遺構確認時に出土し、遺構に帰属できなかったものである。

第27表 竪穴住居址一覧表

(残存値) <検出値> (cm)

遺構名	検出位置	平面図					主軸方位 (長軸方位)	カマド (炉)	柱穴規模 長径 × 短径 × 深さ	備考 重複・時期等
		北壁長	南壁長	東壁長	西壁長	壁高				
H1	き・く-15 き・く-16	隅丸方形(南北軸長644)					N-13° -W	カマド 北壁中央	P1 90×50×35 P2 76×45×52 P3 46×38 ×11 P4 34×32×12	D1~D3・P1・P6に切られ、P24を切る。
		(474)	(78)	-	(570)	77				
H2	か-13・14 き-14・15	隅丸方形(南北軸長486)					N-24° -W	北壁中央	P1 54×50×60 P2 <48>×<24>×59 P3 76×44×70 P4 34×22×23	D7・P20に切られ、H7を切る。
		(358)	(54)	-	(372)	63				
H3	か-13 基 -12・13・14 <-13・14	長方形(南北軸長624)					N-19° -W	-	P1 柱痕28 76×<44>×53	H4に切られ、H20とP109を切る。南壁に張り出し部。
		(90)	(646.0)	616	-	58				
H4	お-12・13 か-11~13 き-12	隅丸方形(512)					N-13° -W	-	P1 <22>×22×44 P2 32×28×33 P3 34× 32×41 P4 16×12×10 P5 22×8×7 P6 28×20×7 P7 40×12×16	P4・P7~P17・P22・ P23・P35・P24に切られ、H3を切る。
		(268)	(350)	(410)	(482)	46				
H5	け-こ-17	隅丸方形? (南北軸長286)					N-40° -W	-		
		(88)	(60)	252	-	69				
H6	え-お-9・ 10・11	隅丸方形? (東西軸長690)					N-8° -E	北壁中央	P1 柱痕30 84×74×75 P2 柱痕30 <45>× 70×66 P3 56×44×32 P4 24×20× P5 <14>×<10>×<10>	H9を切る。
		610	-	(102)	(315)	43				
H7	き・く-14・ 15	隅丸方形					N-5° -W	北壁西寄り	P1 <38>×40×8 P2 30×<18>×13 P3 106×76×23	H2・P49に切られる。
		(310)	(40)	(345)	(240)	48				
H8	え-8	隅丸方形?						-		D20・P116に切られる。
		-	(216)	(118)	-	11				
H9	お-9・10・11 か-10・11	隅丸方形? (東西軸長612)					N-45° -W	-	P1 78×60×78 P2 22×19×30	H6・H17に切られる。南壁に張り出し部。
		-	(376)	(148)	(400)	67				
H10	そ-19	方形?						-		F2に切られ、P50を切る。
		(44)	-	(282)	-	36				
H11	う-6・7	隅丸方形?					N-25° -W	北壁	P1 74×48×25 P2 36×<16>×7	P27・P28を切る。
		(250)	-	-	(270)	36				
H12	い-う-5・6	隅丸方形(南北軸長436)					S-25° -E	南壁東寄り		D13・P40に切られ、H16・H21・F3・P32・ P38・P39を切る。
		(210)	(300)	(200)	(30)	17				
H13	つ-22・23	方形(東西軸長406)					S-30° -W	西壁北寄り	P1 30×16×15 P2 24×22×18 P3 24×16 ×11 P4 26×18×12	H14を切る。
		(310)	(230)	(140)	(180)	90				
H14	つ-23・24 て-23	方形(東西軸長376)					N-70° -E	東壁北寄り		H13に切られる。
		346	(90)	(120)	(188)	58				
H15	ず-せ-18・ 19	方形?						-		M2・P88に切られる。
		-	<100>	<120>	-	13				
H16	い-5	方形?					N-15° -W	北壁中央		H12・H21・P40に切られる。
		(174)	-	(64)	-	36				
H17	お-9・10 か-10	方形?						-	P1 40×30×60 P2 54×34×60 P3 (20)×32 ×(5)	H9を切る。
		-	(204)	(224)	-	48				
H18	つ-24・25 て-25	隅丸方形?					N-20° -W	北壁	P1 124×96×97 P2~P7 は壁柱突。床面からの深さP2が41 P3が26 P4が13 P5が22 P6が25 P7が37	H19を切る。壁柱穴。
		(460)	-	-	(480)	72				
H19	つ-24	方形					N-20° -W	-	P1 <40>×34×26	H18に切られる。
		(120)	-	-	(230)	57				
H20	き・く-14	?						-	P1 <104>×<34>×50 P2 36×30×15	H3・H7に切られる。
						20				
H21	い-4・5	隅丸方形?					N-23° -W	-		H12・F3・P41・P111・ P112・P115に切られ、H16を切る。
		(180)	-	(100)	-	26				
H22	て-と-27	隅丸方形?					N-80° -E	東壁	P1 60×44×53	H23を切る。
		-	(60)	-	(260)	61				
H23	と-な-26・ 27	隅丸方形?					N-20° -W	北壁	P1 <40>×<40>×34 P2 32×22×20 P3 34×30×27	H22に切られる。
		-	(90)	-	(160)	42				
H24	ち-21・22	隅丸方形					N-40° -W	北壁	P1 36×26×17 P2 46×22×13 P3 <30>× <20>×<17> P4 42×36×23	H25を切る。
		(230)	(224)	268	-	45				
H25	た-20・21 ち-21・22	方形? (南北軸長660)					N-30° -W	-	P1 <68>×52×56 P2 92×56×44 P3 <84>×68×64	H24・H26に切られる。
		(44)	(104)	-	-	30				
H26	た-ち-20・ 21	隅丸方形?					N-15° -W	-	P1~P3壁柱穴。住居址上端からの深さP1 51 P2 44 P3 16	H25を切る。D10・ P73・P74に切られる。
		-	(188)	500	-	86				
H27	そ-20	隅丸方形?					N-20° -W	北壁		D11・P65・P66・P95 に切られる。
		(110)	(50)	-	270	63				

第28表 西近津遺跡Ⅲ土坑一覧表

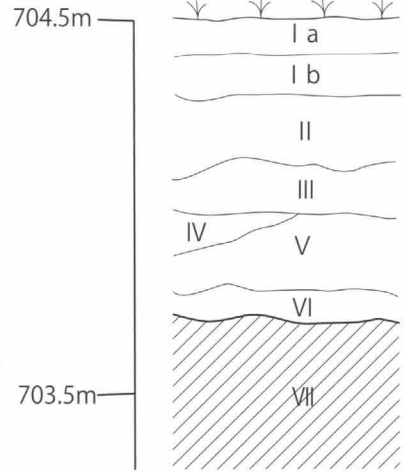
(残存値) < 検出値 > (cm)

遺構名	検出位置	平面形	長軸方位	長軸長 (東西長)	短軸長 (南北長)	壁高	備考(重複関係・出土遺物)		遺構名	検出位置	平面形	長軸方位	長軸長 (東西長)	短軸長 (南北長)	壁高	備考(重複関係・出土遺物)	
							重複関係	出土遺物								重複関係	出土遺物
D1	き15	楕円形	N-90°-E	106	90	60	H1を切る。テラスあり。土師器・須恵器		D8	と25	楕円形	N-32°-E	55	31	40	土師器・須恵器	
D2	<15	楕円形	N-25°-W	93	80	59	H1を切る。弥生後期土器。土師器・須恵器		D9	と26	楕円形	N-42°-E	52	40	63.5	テラスあり。弥生後期土器。土師器・須恵器	
D3	<16	楕円形	N-55°-W	128	65	55	H1を切る。テラスあり。土師器・須恵器		D10	た20	?	-	-	-	<12>	H26を切る。	
D4	と24	長方形	N-58°-W	(52)	(20)	(60)	小ピット1基あり。土師器・須恵器		D11	た20	楕円形	N-66°-W	53	36	34	H25・H27を切る。	
D5	き15	円形	N-26°-E	112	82	81	テラスあり。小ピット1基。土師器・須恵器		D12	え8	楕円形	-	(76)	(22)	(34)	H18・P116に切られる。	
D6	<15	楕円形	N-44°-W	(95)	(37)	(42)	テラスあり。土師器		D13	う5	楕円形	N-86°-E	(85)	(44)	(25)	H12・H16・F2を切る。ウマの骨出土。	
D7	か14	円形	N-35°-E	73	64	34	H2を切る。土師器										

第29表 西近津遺跡Ⅲピット一覧表

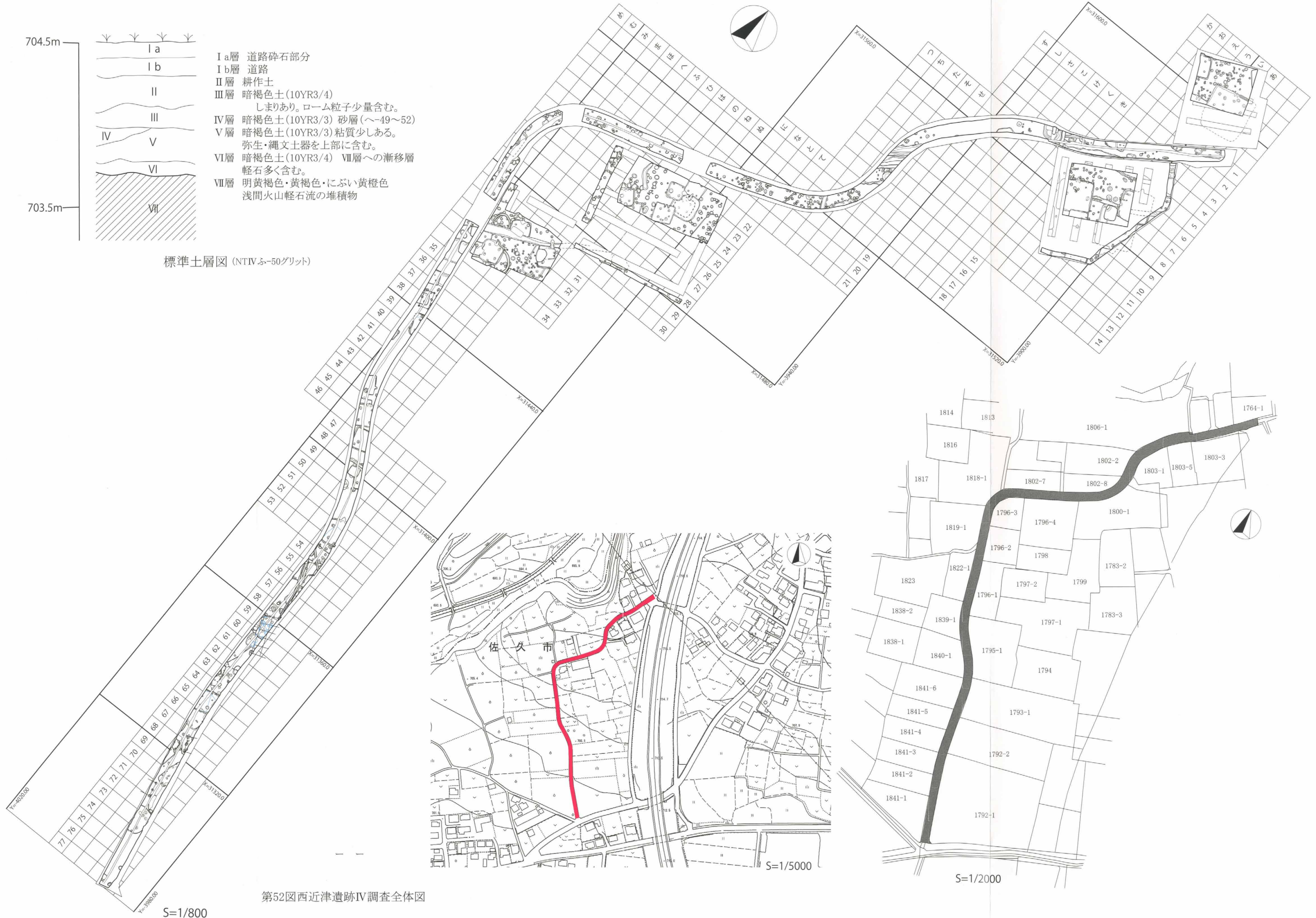
(残存値) < 検出値 > (cm)

No.	検出位置	長径×深さ	備考	No.	検出位置	長径×深さ	備考
1	き15	(64×68.5)	D11に切られる。H1を切る。土師器 埴片。10YR2/2-10YR3/2	61	せ19	34×31	P60を切る。銅製帯金具蛇尾・土師器 器。
2	け16	94×43.5	P25を切る。土師器 坏・壺。10YR3/3-10YR2/1	62	そ19	61×60	弥生後期 壺・蓋。土師器 坏・壺。10YR3/4-10YR2/3-10YR5/6-10YR4/4
3	か13	18×11		63	そ19	38×14	
4	か12	19×11.5	H4を切る。	64	そ19	53×16	10YR2/3-10YR5/6
5	か13	30×21	方形。	65	そ20	66×43	P95を切る。土師器 坏・壺。10YR2/3-10YR3/2-7.5YR6/4-10YR3/4
6	<15	56×48	H1を切る。楕円形。	66	そ20	54×45	H27・P95を切る。土師器 坏。10YR3/4-10YR5/6-10YR2/1-10YR4/4
7	か13	42×30	H4を切る。	67	そ19	40×29	テラスあり。土師器 壺・坏。
8	か13	28×13	H4を切る。	68	そ20	64×57	弥生後期 壺。土師器 壺。須恵器 坏。編埴。10YR2/3-10YR5/6-10YR2/1-10YR4/4-10YR5/6
9	か12	43×25	H4を切る。方形。	69	そ20	(53×25)	P71に切られる。須恵器 壺。10YR2/3-10YR5/6
10	か13	27×26	H4を切る。	70	欠		
11	か12	31×28	H4・P23を切る。	71	そ20	122×52	H27・P69を切る。土師器 坏・壺。須恵器 坏・蓋・壺。10YR3/4-10YR4/3-10YR6/4-10YR2/1-10YR5/6
12	か12	43×20	H4を切る。	72	欠		
13	か12	41×45.5	H4を切る。方形。	73	た20	(53×35)	H26・P74を切る。弥生後期 壺。土師器 坏。10YR2/3-10YR2/2-10YR5/6
14	か12	(35×21)	H4を切る。	74	た20	64×38	H26を切り、P73に切られる。須恵器 有台坏・蓋。土師器 坏・壺。10YR2/3-10YR4/4-10YR5/6
15	か12	21×14.5	H4を切る。方形。	75	そ19	(31×47.5)	
16	お12	30×48	H4を切る。テラスあり。	76	す19	(57×27)	10YR2/3-10YR4/4-10YR5/6
17	お12	21×14	H4を切る。方形。	77	す18	71×40	P100を切る。10YR2/2-10YR4/6
18	お12	(46×36)		78	す19	25×-	テラスあり。
19	お12	40×35	テラスあり。	79	す18	(61×35.5)	10YR3/3-10YR2/3-10YR5/6
20	き14	56×48	H2を切る。	80	す19	43×25	須恵器 壺。
21	お11	66×21		81	す19	38×18(?)	テラスあり。
22	か12	32×23.5	H4を切る。方形。	82	す19	54×52.5	テラスあり。土師器 坏・壺。10YR2/3-10YR5/6-10YR4/6
23	か12	(16×24)	P11に切られる。H4を切る。土師器 坏。	83	す18	31×20	P84を切る。方形。
24	<16	(50×37)	H1のカマドに切られる。土師器 壺。	84	す18	(62×60)	P83に切られる。土師器 坏。
25	け16	(44×29.5)	P2に切られる。テラスあり。弥生後期 壺・蓋。	85	す18	56×39.5	土師器 坏・壺。10YR2/2-10YR4/6
26	け16	(51×30)	テラスあり。	86	す18	25×5.5	P87を切る。
27	う7	(80×52.5)	H11に切られる。柱痕ありφ22。弥生後期 壺。10YR2/3-10YR3/3-10YR5/6	87	す18	120×61	P86に切られる。P88・P89を切る。角釘。縄文後期。土師器 坏・壺。須恵器 坏・鉄壺。10YR3/3-10YR5/6-10YR4/6
28	う7	(47×35)	H11に切られる。10YR2/3-10YR3/3-10YR3/4-10YR5/6	88	す18	(62×46)	P87に切られる。土師器 壺。10YR3/3-10YR5/6-10YR2/2-10YR4/6
29	と25	65×58.5	土師器 壺。10YR3/3	89	す18	(35×26)	P87・カクランに切られる。土師器 坏。須恵器 坏。
30	と25	51×30	10YR3/3	90	す18	52×39	P91を切る。10YR2/3-10YR5/6-10YR4/6
31	う7	60×52	F1・P4を切る。	91	す18	(64×40)	P90に切られる。土師器 壺。10YR2/3-10YR5/6
32	う6	102×67	テラスあり。柱痕ありφ16。土師器 坏。H21に切られる。弥生後期 鉢・高坏・蓋。土師器 坏・壺。須恵器 坏・壺。10YR2/3-10YR3/3-10YR2/2-10YR5/6-7.5YR6/6	92	し18	67×52	テラスあり。土師器 坏。10YR2/3-10YR5/6-10YR4/6
29	と25	65×58.5	土師器 壺。10YR3/3	93	す18	26×10	
30	と25	51×30	10YR3/3	94	し17	(47×36)	10YR2/2-10YR4/6-10YR5/6
31	う7	60×52	F1・P4を切る。	95	そ20	(67×37)	H27を切り、P65・P66に切られる。10YR3/4-10YR5/6-10YR2/1-10YR4/3
32	う6	102×67	テラスあり。柱痕ありφ16。土師器 坏。H21に切られる。弥生後期 鉢・高坏・蓋。土師器 坏・壺。須恵器 坏・壺。10YR2/3-10YR3/3-10YR2/2-10YR5/6-7.5YR6/6	88	す18	(62×46)	P87に切られる。土師器 壺。10YR3/3-10YR5/6-10YR2/2-10YR4/6
33	お12	46×29	テラスあり。H4を切る。	89	す18	(35×26)	P87・カクランに切られる。土師器 坏。須恵器 坏。
34	う6	50×64	H12に切られる。弥生後期 壺・蓋・高坏。土師器 坏・壺。	90	す18	52×39	P91を切る。10YR2/3-10YR5/6-10YR4/6
35	お12	48×53	H4を切る。	91	す18	(64×40)	P90に切られる。土師器 壺。10YR2/3-10YR5/6
36	お12	42×18		92	し18	67×52	テラスあり。土師器 坏。10YR2/3-10YR5/6-10YR4/6
37	欠			93	す18	26×10	
38	う6	30×30	H12に切られる。10YR2/2-10YR5/6-10YR4/6-10YR3/3	94	し17	(47×36)	10YR2/2-10YR4/6-10YR5/6
39	う6	39×33	H12に切られる。テラスあり。10YR2/2-10YR5/6-10YR4/6-10YR3/3	95	そ20	(67×37)	H27を切り、P65・P66に切られる。10YR3/4-10YR5/6-10YR2/1-10YR4/3
40	う6	46×41	H12を切る。	96	し18	(72×39)	テラスあり。土師器 坏・壺。10YR2/3-10YR5/6
41	い6	25×43.5	H16・H21を切る。	97	す18	72×46	P98を切る。鉄軸。土師器 坏。10YR2/3-10YR5/6
42	か12	50×51.5	H4を切る。	98	す18	(67×45)	P97に切られる。P104を切る。10YR2/3-10YR5/6-10YR4/6
43	か11	(102×73.5)	土師器 坏・壺。須恵器 坏・壺。10YR2/3-10YR5/6	99	す18	24×12	P100を切る。
44	か11	(60×42)	テラスあり。土師器 坏・壺。須恵器 坏・壺。10YR2/3-10YR5/6	100	す18	(72×15)	P77・P99に切られる。10YR2/3-10YR5/6
45	か11	41×38.5	土師器 坏・壺。須恵器 坏。10YR3/3-10YR5/6	101	し18	(55×45)	10YR2/3-10YR5/6-10YR4/6
46	<14	51×66	P47を切る。オーバーハングしている。	102	し18	(94×49)	P105を切る。土師器 坏・壺。10YR3/3-10YR5/6-10YR2/2-10YR4/6
47	<14	(51×21)	P46に切られる。土師器 坏・壺。須恵器 壺。	103	し18	(55×44)	P105を切る。弥生後期 壺。10YR2/2-10YR5/6
48	<14	69×35	弥生後期 壺。土師器 壺。須恵器 坏。	104	し18	(30×27)	P98に切られる。
49	<14	(75×25)	H7のカマドに切られる。	105	し18	(48×41)	P102・P103に切られる。
50	そ19	44×10.5	H10・F2を切る。	106	せ19	(86×64)	M2に切られる。10YR2/3-10YR5/6
51	せ19	65×59	テラスあり。土師器 坏・壺・高坏。10YR3/3-10YR3/4-10YR3/2-10YR5/6	107	そ19	(62×26)	10YR3/3-10YR5/6-7.5YR6/6-10YR2/2-10YR3/3-10YR4/6
52	せ19	24×14.5	テラスあり。	108	そ19	(54×19)	10YR3/3-10YR3/4-10YR5/6
53	せ19	25×9.5	M2を切る。	109	か13	(80×33)	H3に切られる。
54	せ19	26×15	テラスあり。	110	と25	98×42	10YR3/3-10YR2/1
55	せ19	(54×52)	P56・P57に切られる。土師器 壺。須恵器 坏。10YR2/3-10YR5/6-10YR2/1-10YR4/4	111	い6	28×35.5	H21を切る。
56	せ19	34×14.5	P55を切る。土師器 坏・壺。須恵器 坏。	112	い6	(28×48)	H21を切る。
57	せ19	20×19	P55を切る。テラスあり。	113	と26	70×39	土師器 壺。10YR3/2
58	せ19	21×13	テラスあり。	114	と26	86×42	弥生後期 壺。土師器 壺。須恵器 坏・壺・蓋。10YR3/3
59	せ19	38×17.5	P60を切る。弥生後期 壺。土師器 壺。10YR3/2	115	い6	34×48.5	H21を切る。
60	せ19	90×76	P59・P61に切られる。弥生後期 壺・蓋。土師器 坏・壺。10YR2/3-10YR5/6-10YR3/2-10YR4/6	116	え8	40×80	H8・D12を切る。



- I a層 道路碎石部分
- I b層 道路
- II層 耕作土
- III層 暗褐色土(10YR3/4)
しまりあり。ローム粒子少量含む。
- IV層 暗褐色土(10YR3/3) 砂層(〜49〜52)
- V層 暗褐色土(10YR3/3) 粘質少しある。
弥生・縄文土器を上部に含む。
- VI層 暗褐色土(10YR3/4) VII層への漸移層
軽石多く含む。
- VII層 明黄褐色・黄褐色・にぶい黄橙色
浅間火山軽石流の堆積物

標準土層図 (NTIVふ-50グリット)



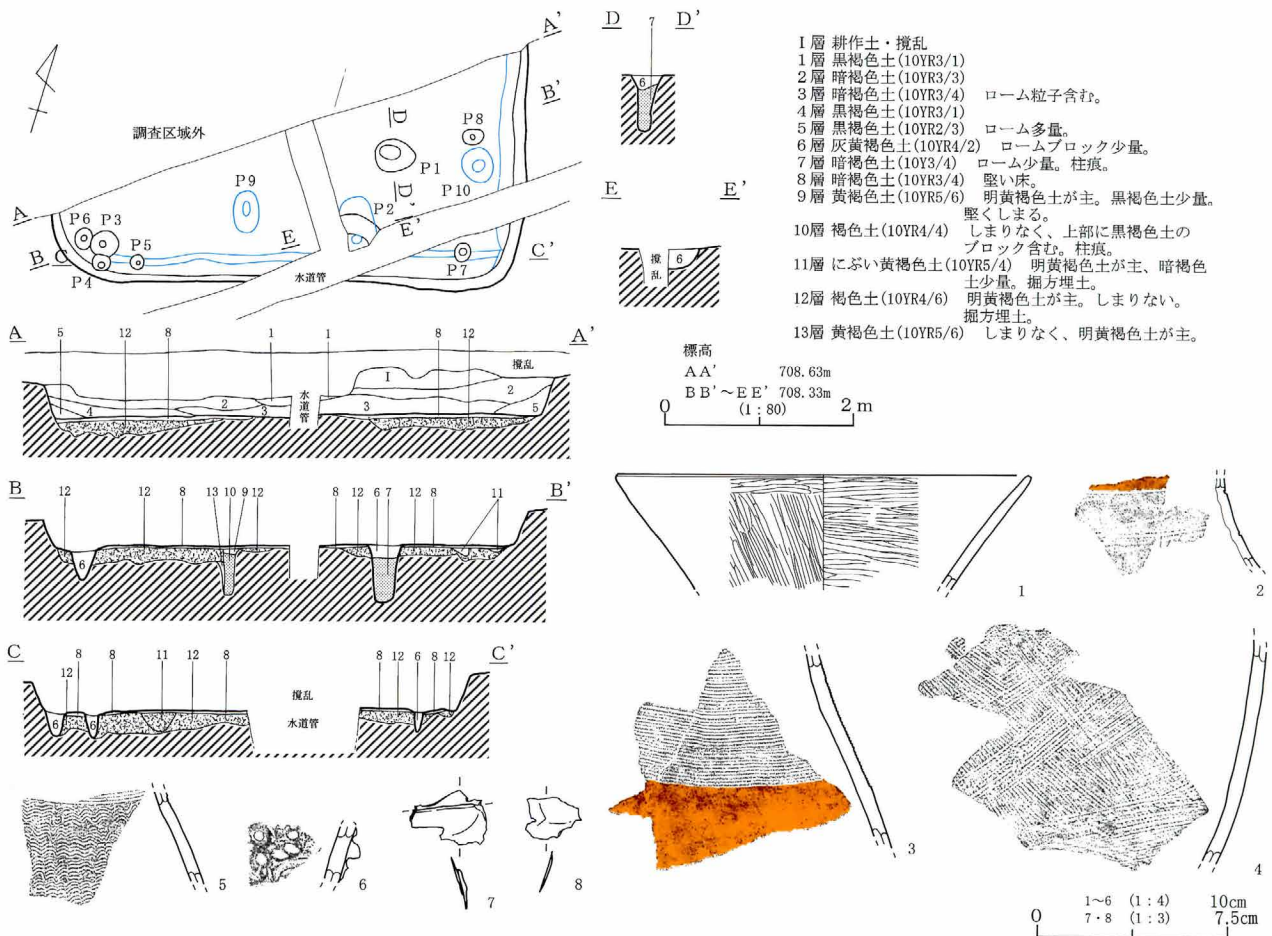
第52図西近津遺跡IV調査全体図

第三章 西近津遺跡IV

第1節 竪穴住居址

(1) H1号住居址

お・か- 4 Grにある。ピットは10個検出された。東西に長い長径30cm短径20cmを測る五平状の柱痕が確認されたP1は主柱穴とみられる。P10は床下から検出され、南北に長い長径30cm短径12cmを測る五平状の柱痕が確認された。P2は出入口施設であろうか。敲き床の床面は堅く平坦である。



第53図 H1号住居址

第30表 H1号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

H1		法量			成形・調整・文様		推定値()残存値< >丸底・		
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	備考	出土位置
1	弥生土器	壺	(22.0)	-	<6.1>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	No.2
2	弥生土器	壺	内面 ナデ。外面			ヘラ描横線文→ヘラ描斜走文→赤色塗彩		後期	覆土
3	弥生土器	壺	内面 ナデ。外面			櫛描横線文→赤色塗彩		後期	覆土
4	弥生土器	甕	内面			ヘラミガキ。外面	櫛描斜走文	後期	No.1
5	弥生土器	甕	内面			ヘラミガキ。外面	櫛描麻状文→櫛描波状文	後期	覆土
6	縄文土器	深鉢	8字貼付文から弧状の刻み隆線。					堀之内1	覆土
No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見		出土位置
7	不明	鉄	大<3.0>	<2.1>	<0.25>	<1.80>	2片が貼りついている、同一個体か？		覆土
8	不明	鉄	小<2.1>	<1.6>	<1.0>	<0.55>	2片が貼りついている、同一個体か？		覆土

遺物は無彩の壺(1)、赤彩の壺(2・3)、甕(4・5)の弥生土器、不明鉄器、本址に伴わない縄文時代後期前葉の堀之内2式深鉢片がある。栽培種の炭化したモモが3個検出された。内1個に種子がみ

られた。1・4が床面から出土した。

2の壺頸部にはへら描横走文の区画内にへら描斜走文、3の壺頸部には櫛描横走文が施文される。3の甕には櫛描波状文が、4の甕には櫛描斜走文が雑な格子目状に施文される。

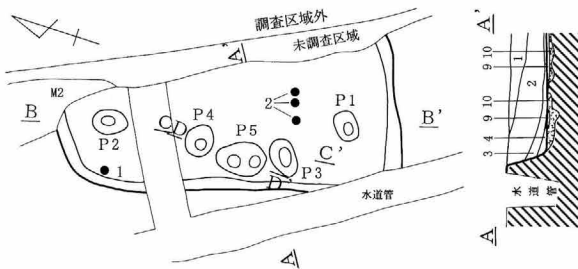
本址は、弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

(2) H 2号住居址

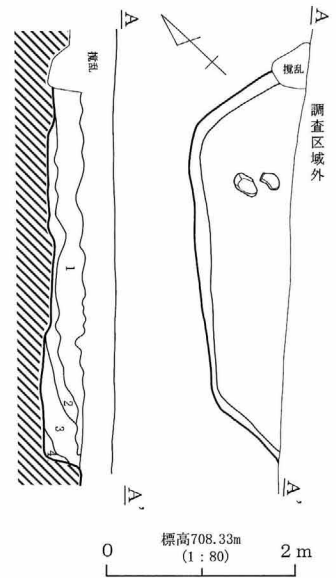
さ・レ-7・8Grにある。底面は凸凹し、敲き締まった状態ではなく、平面形も方形・円形状ではない。竪穴住居址として扱ったが他の用途を考慮しなければならない。出土遺物は、縄文時代後期前葉の堀之内2式深鉢片1点のみである。本址の時期等不明である。

(3) H 3号住居址

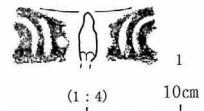
き-4・5GrにありM2に切られる。ピットは5個検出された。



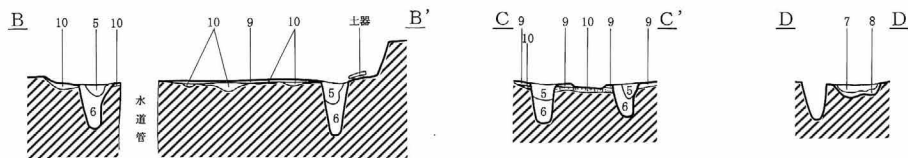
P1・P2は主柱穴とみられる。P3・P4・P5は南壁下にあり出入り口の施設であろう。敲き床の床面は堅く平坦で



- 1層 黒褐色土(10YR3/2)
- 2層 にごい黄褐色土(10YR4/3) ローム少量。
- 3層 褐灰色土(10YR4/1) シルト質土ブロック 黒褐色土ブロック含む。
- 4層 褐色土(10YR4/4) ローム多量。



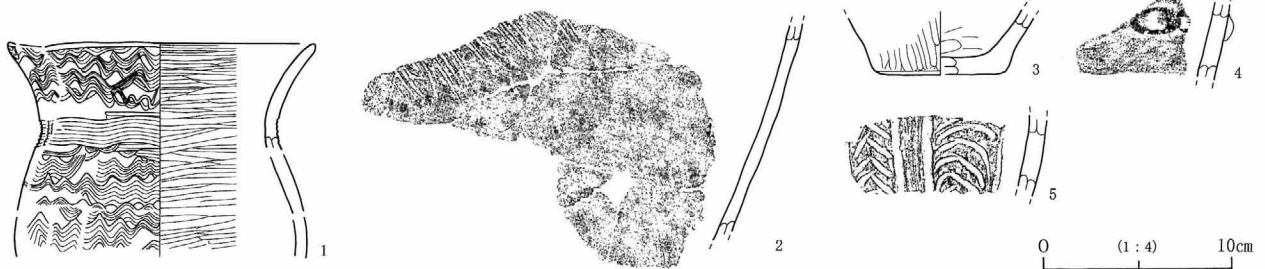
第54図 H 2号住居址



- 1層 黒褐色土(10YR2/2)
- 2層 黒褐色土(10YR2/3)
- 3層 黒褐色土(10YR2/2)
- 4層 黒褐色土(10YR3/2)
- 5層 黒褐色土(10YR3/1)

- 明黄褐色土のP1ブロック少量。
- 明黄褐色土と黒褐色土の小ブロック多量。
- 粘質しまりあり。灰白色の軽石少量。
- 粘質しまりあり。

- 6層 暗褐色土(10YR3/3) しまりない。
- 7層 にごい黄褐色土(10YR4/3) ローム多量。
- 8層 にごい黄褐色土(10YR4/3) ローム少量。
- 9層 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム含む。堅い床。
- 10層 褐色土(10YR4/4) ローム主。掘方埋土。



第55図 H 3号住居址

第31表 H 3号住居址出土遺物観察表

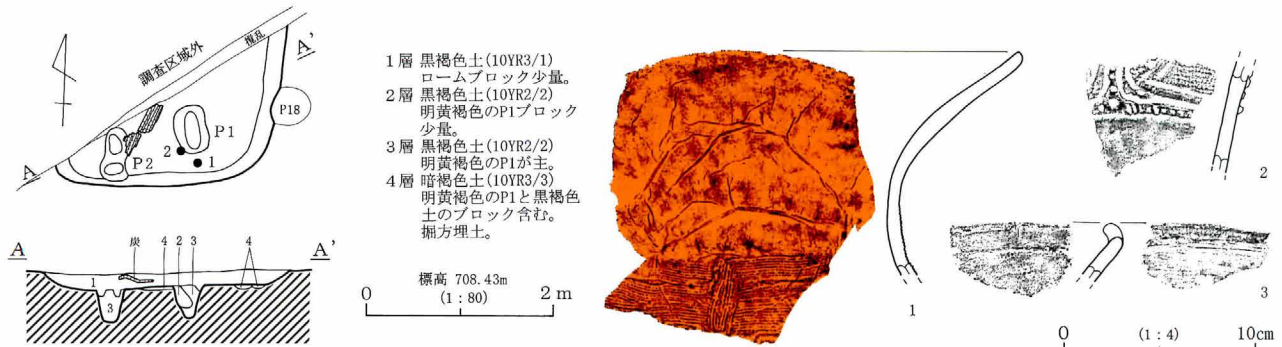
H3		法 量		成形・調整・文様		推定値()残存値<>丸底・			
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
1	弥生土器	甕	16.3	-	<11.4>	へらミガキ	櫛描波状文→櫛描麁状文	完全実測	No.2 Z
2	弥生土器	壺	-	(7.0)	<3.4>	へらナデ	へらミガキ	回転実測	覆土
3	弥生土器	甕	へらミガキ。櫛描斜走文。					弥生後期	No.3・4・5
4	縄文土器	深鉢	横位圧痕持つ隆帯。					後期前半	Ⅱ区覆土
5	縄文土器	深鉢	縦位の沈線。短沈線文・弧状沈線。					中期後半	Ⅳ区ホリ方

ある。遺物は壺(3)、甕(1・2)の弥生土器、本址に伴わない縄文時代中期後半・後期前半の深鉢片がある。1は櫛描波状文の後櫛描簾状文、2は櫛描斜走文が施文される。

本址は、弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

(4) H 4号住居址

う-2 Gr にあり P18 に切られる。ピットは3個検出された。P1・P2は主柱穴とみられる。全体に床面は平坦、P1・P2間は特に強く敲き締められている。1層には幅12cm長さ60cmの板状の炭



第56図 H 4号住居址

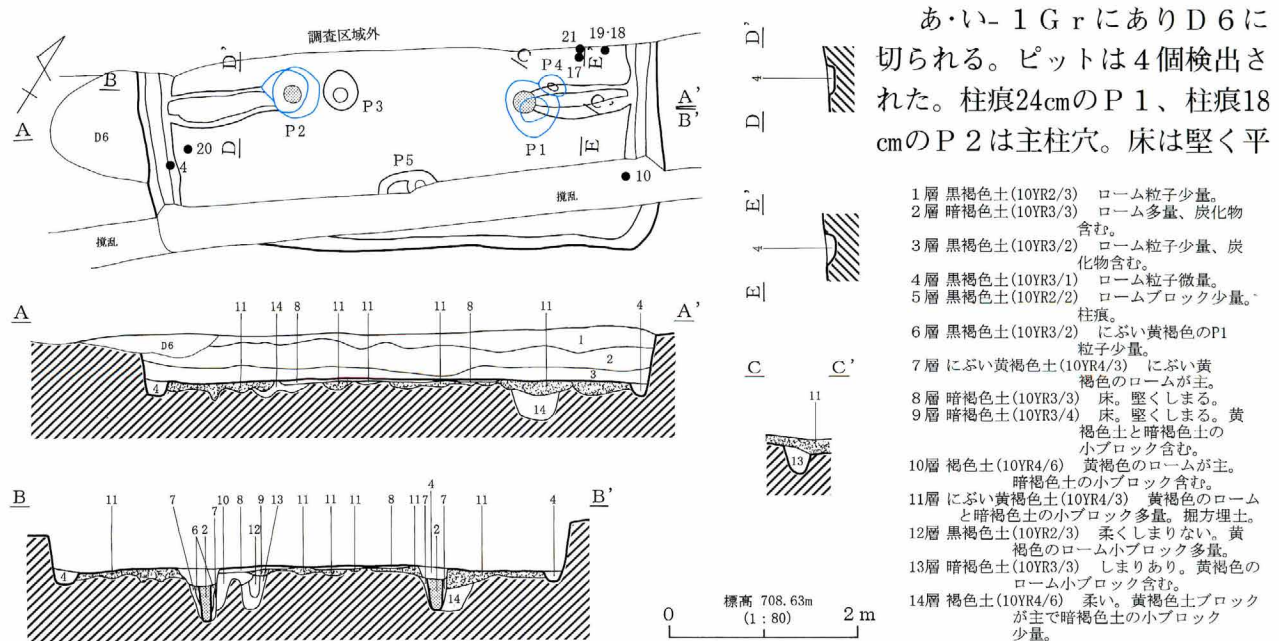
第32表 H 4号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

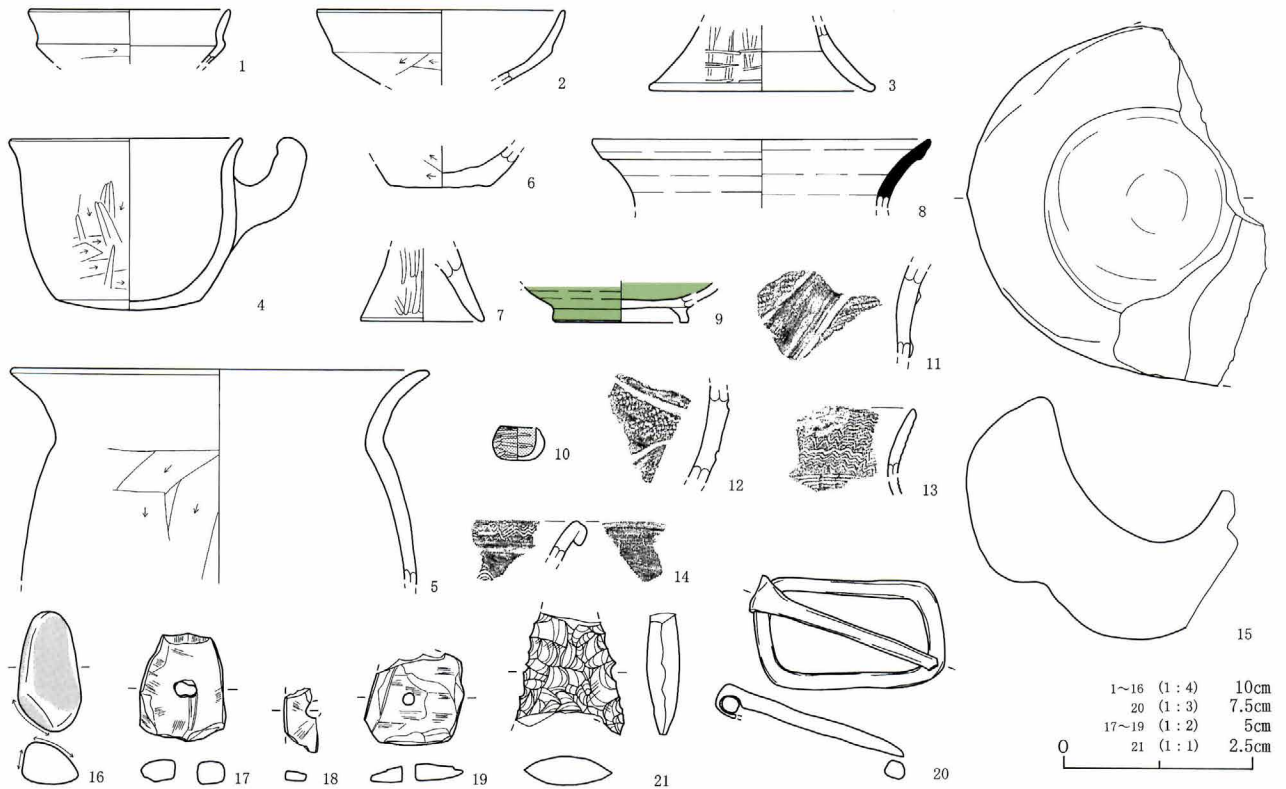
No.	種別	器種	成形・調整・文様	備考	出土位置
1	弥生土器	壺	櫛描T字文。赤色塗彩	弥生後期箱清水	No.1
2	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯の円形貼付文から上方に刻み隆帯。2条の沈線。縄文LR。	堀之内1	No.3
3	縄文土器	深鉢	口縁部内折	堀之内1	覆土

化材がみられた。遺物は、1の赤色塗彩され頸部に櫛描T字文の壺、本址に伴わない縄文時代後期前葉堀之内1式の深鉢片がある。本址は、少ない出土遺物であるが弥生時代後期箱清水期に位置づけよう。

(5) H 5号住居址



第57図 H 5号住居址(1)



第58図 H5号住居址(2)

第33表 H5号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

H5			法 量			成形・調整・文様		推定値()残存値<>丸底・		
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置	
1	土師器	坏	(10.6)	・	<2.9>	ヨコナデ	底部ヘラケズリ	回転実測	Ⅲ区 Ⅳ区	
2	土師器	坏	(13.0)	・	<4.0>	ヨコナデ	ヨコナデ。底部ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区覆土	
3	土師器	高坏	-	(12.0)	<3.5>	ヨコナデ	ヘラミガキ	回転実測	Ⅰ区ホリ方	
4	土師器	把手付鉢	12.3	7.5	9.1	ヨコナデ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全実測	Ⅳ区 No.6	
5	土師器	甕	(21.1)	-	<11.3>	口辺部ヨコナデ	ヘラケズリ→口辺部ヨコナデ	回転実測	Ⅳ区覆土	
6	土師器	甕	-	5.4	<2.1>	ナデ	ヘラケズリ	完全実測	Ⅱ区覆土	
7	土師器	台付甕	-	(6.4)	<3.8>	ヨコナデ	ヘラミガキ	回転実測	Ⅱ区覆土	
8	須恵器	甕	(18.0)	-	<3.6>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	Ⅲ区覆土	
9	灰釉陶器	碗	-	(7.0)	<2.1>	ロクロナデ。灰釉施釉	ロクロナデ→底部回転糸切り→高台貼付→灰釉施釉	回転実測		
10	ミニチュア土器	鉢	2.0	2.0	1.8	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ→黒色処理	完全実測	No.5	
11	縄文土器	深鉢	微隆起帯文下をなぞる沈線。縄文LR。					中期後葉	Ⅲ区覆土	
12	縄文土器	深鉢	沈線間に縄文LR。					中期後葉	Ⅲ区覆土	
13	弥生土器	甕	ヘラミガキ。櫛描波状文→櫛描籐状文。					後期箱清水	Ⅱ区覆土	
14	弥生土器	甕	ヘラミガキ。折り返し口縁部に櫛描波状文。櫛描波状文。					後期箱清水	Ⅱ区覆土	
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見			
15	凹石		<19.0>	<15.8>	高さ <13.5>	<2740>	凹径(11.0)。凹深<7.7>。右側欠損。			覆土
16	磨石		6.3	3.3	2.3	64.66	正面・側面にすり面。			Ⅱ区覆土
17	石製模造品	滑石	2.9	2.2	0.6	7.16	孔径0.4と0.3が合体か。			No.3
18	石製模造品	滑石	<1.7>	<0.9>	<0.25>	<0.59>	孔径推定(0.4)。左側以外欠損。			No.1
19	石製模造品	滑石	<2.4>	<2.6>	<0.5>	<4.29>	孔径0.3。上部欠損。			No.2
20	鉸具	鉄	7.7	4.5	1.3	52.08				覆土
21	石鏃	黒曜石	<1.5>	<1.4>	0.4	<0.96>	先端・基部欠損。			No.4

坦。東壁・西壁下を壁溝が巡る。P1とP2から東壁と西壁に間仕切り溝が伸びる。P6は出入り口施設であろうか。2・3層中には炭化物が確認された。

遺物は土師器須恵器坏蓋模倣の坏1・2、高坏3、把手付鉢4、甕5・6、台付鉢7?、内面黒色処

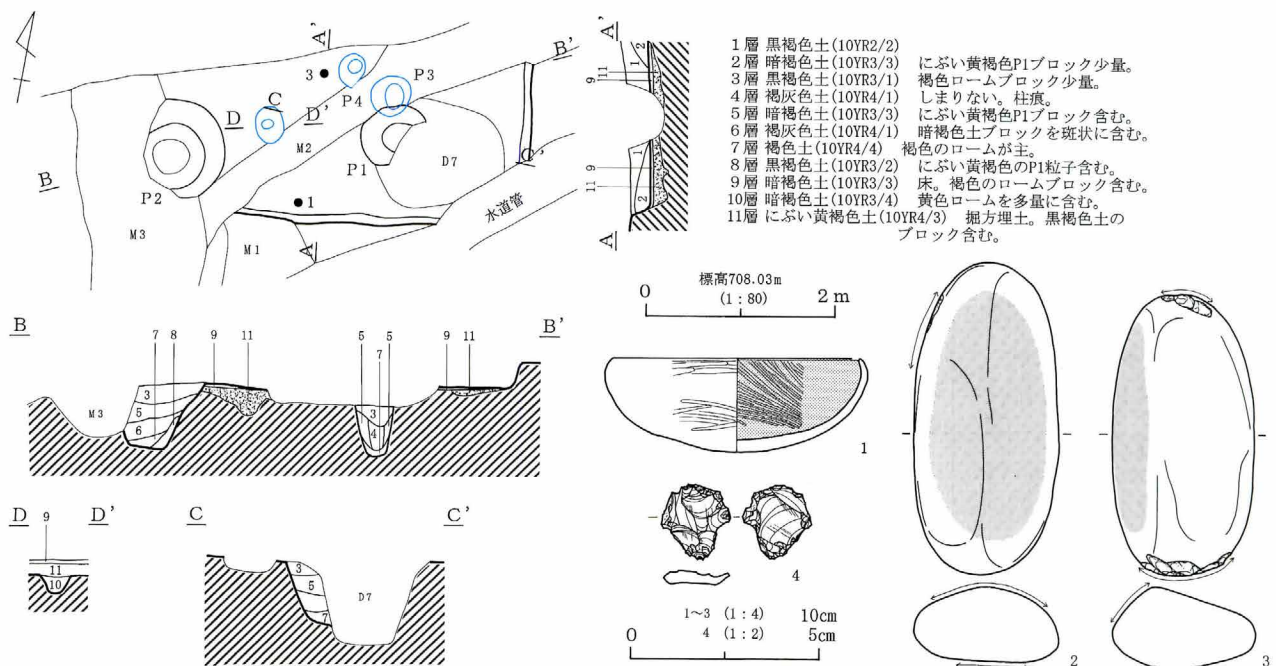
理されるミニチュア鉢、須恵器甕8、鉄製品鉸具20、滑石模造品17~19、凹石15、磨石16、混入遺物の灰釉陶器碗9、石鏃21、縄文中期後葉深鉢片、弥生後期甕片が出土した。

本址はこれらの遺物より小林真寿の編年(2005聖原)古墳時代IV期-7世紀代に位置づけられる。

(6) H 6号住居址

く・け-5・6 Grにあり、M1・M2・M3・D7に切られる。ピットは5個検出された。P1・P2が支柱穴とみられる。径20cmの柱痕が確認されたP3は、P1より古い。P4・P5は掘方で検出された。全体に床面は堅く平坦。

遺物は、半球状の内面黒色処理される土師器坏1、磨面を持つ敲石2・3、2次加工のある剥片が出土した。本址の時期は、出土遺物少量で不明と言わざるを得ない。

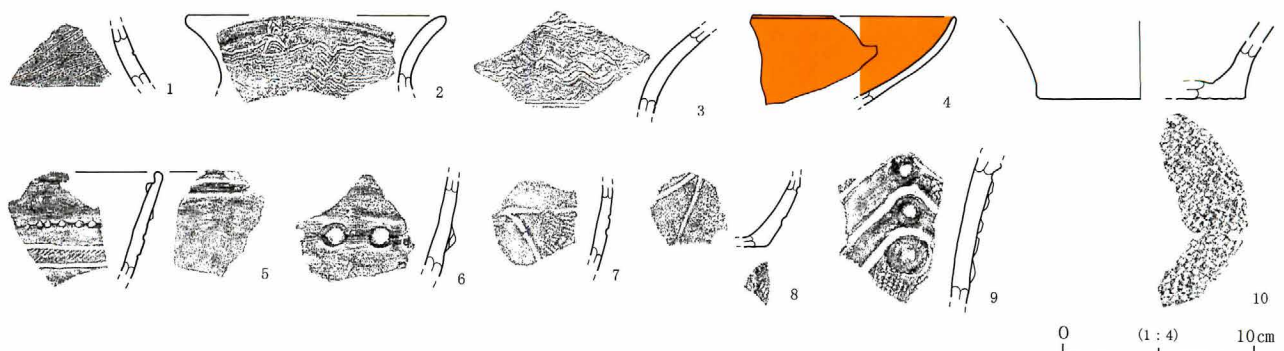


第59図 H 6号住居址

第34表 H 6号住居址出土遺物観察表

H6		法 量			成形・調整・文様			推定値()残存値< >丸底・	
No.	種別	器種	□径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
1	土師器	坏	11.2		5.0	細かなヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ	完全実測	No.2
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見		出土位置
2	磨・敲石		16.5	7.7	4.1	810.91	左側に敲だ痕。正面にすり面。		No.3
3	磨・敲石		14.9	7.4	4.5	764.09	上下端部に敲き打痕。正面にすり面。		No.1
4	二次加工のある剥片	黒曜石	2.0	1.8	0.4	1.28	正面に二次加工。		I区覆土

(7) H 7号住居址

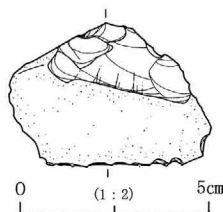


第60図 H 7号住居址(1)

第35表 H 7号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

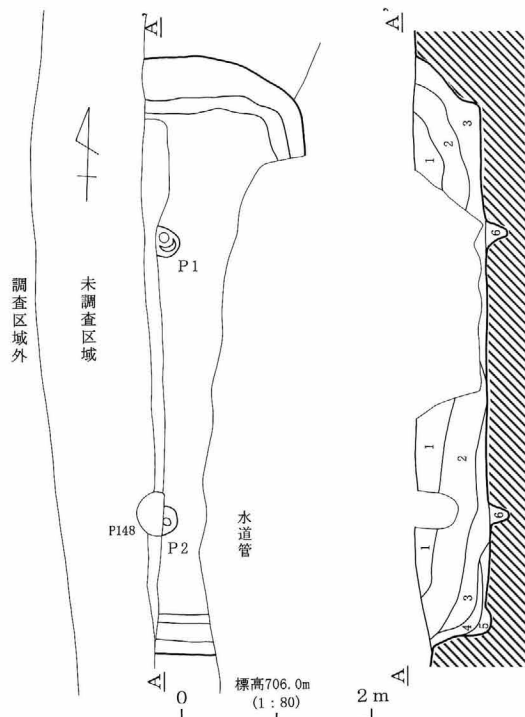
No.	種別	器種	文様・調整	備考	出土位置			
1	弥生土器	壺	内面 ナデ。外面 ヘラ描横走文内にヘラ描斜走文。	後期	覆土			
2	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。	後期	覆土			
3	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文→櫛描簾状文。	後期	覆土			
4	弥生土器	鉢	内面 ヘラミガキ→赤色塗彩。外面 ヘラミガキ→赤色塗彩。	後期	覆土			
5	縄文土器	深鉢	口縁部下に横位刻み隆線 平行沈線間に縄文LR充填。内面 口縁に沿う2条の沈線。	堀之内2	覆土			
6	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯。	後期初頭～前葉	覆土			
7	縄文土器	深鉢	沈線区画内に縄文LR。	称名寺?	覆土			
8	縄文土器	深鉢	弧状・斜位の沈線。縄文LR。網代底。	称名寺?	覆土			
9	縄文土器	深鉢	3個のボタン状突起間から左右に斜位に垂下する沈線。縄文LR充填。	堀之内1	覆土			
10	縄文土器	深鉢	網代底。2本越2本潜り。底部縁沿いに別の編物2本越2潜り。	後期前半	覆土			
No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置
11	スクレイパー		3.8	5.3	0.5	12.25	下辺に使用痕か。	覆土



- 1層 黒褐色土(10YR3/2) 小礫・ロームブロック含む。人為埋土。
- 2層 褐色土(10YR4/4) ロームが主。黒褐色土ブロック多量。人為埋土。
- 3層 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒子・黒褐色土ブロック含む。人為埋土。
- 4層 黒褐色土(10YR2/2) ロームブロック少量。
- 5層 灰黄褐色土(10YR4/2)
- 6層 黒褐色土(10YR2/3)

め-26~28Grにあり、H 8・P148に切られ、D 8を切る。ピットは2個検出され、支柱穴P1とP2の柱間は3m。床は堅く平坦で掘方はみられなかった。西壁下に壁溝が検出された。覆土1~3層は人為埋土である。遺物は壺(1)、甕(2・3)、鉢(4)の弥生土器、本址に伴わない縄文時代後期初頭・前葉・前半の深鉢片、削器がある。1はヘラ描横走文内に横位羽状のヘラ描斜走文、2・3には櫛描波状文が施文される。4は内外面赤色塗彩。

本址は、弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

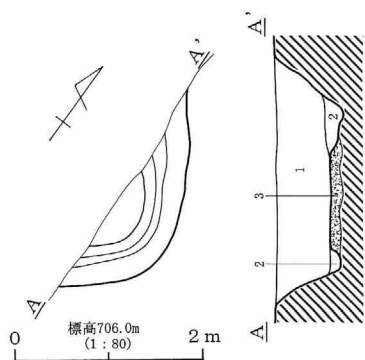


第61図 H 7号住居址(2)

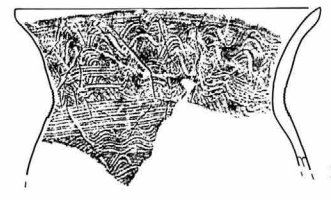
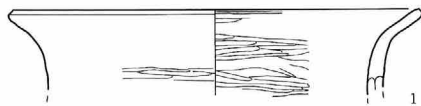
(8) H 8号住居址

め-27Grにあり、H 7を切る。床は堅く平坦である。東壁・南壁下に壁溝が検出された。

調査範囲内では、カマド・柱穴等検出されなかった。遺物は唯一1の土師器甕が図示できた。2の弥生時代後期の甕は、H 7に帰属するものとみられる。本址の時期等不明である。



- 1層 黒褐色土(10YR2/3) 小礫(1~3cm)を含む。
- 2層 黒褐色土(10YR2/2) ローム粒子含む。
- 3層 黒色土(10YR2/1) 小礫・ロームブロックを含む。掘方埋土。



第62図 H 8号住居址

第36表 H 8号住居址出土遺物観察表

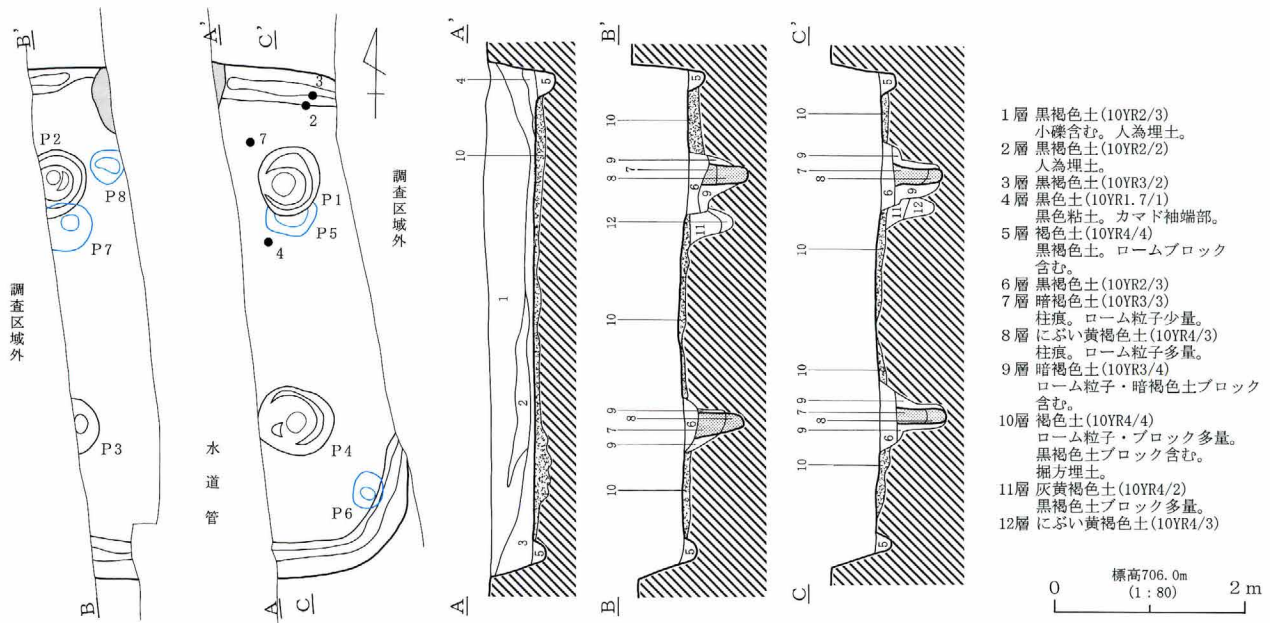
(cm・g)

H8		法量			成形・調整・文様		推定値()残存値< >丸底・			
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	備考	出土位置	
1	土師器	甕	(22.0)	-	<4.5>	ヘラミガキ	口辺部ヨコナデ→ヘラミガキ?	回転実測	覆土	
2	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 胴部櫛描波状文→櫛描簾状文→口縁部櫛描波状文。						後期	H7

(9) H 9号住居址

む・め-29・30Grにあり、H10を切る。カマドは北壁中央にあり、黒色粘土で構築された袖部分が確認された。ピットは6個検出された。柱痕20~25cmの主柱穴P1~P4は、梁行き・桁行き共に240cmを測る。P5・P7は位置的にP1・P2の古い主柱穴であろう。床は堅く平坦。カマド両脇・東壁・南壁下を壁溝が巡る。覆土1・2層は人為埋土。

遺物は土師器坏18、甕6、須恵器坏1~4、鉢5、壺7、甕8、蓋9がある。縄文時代中期後葉・後期堀之内1式・堀之内2式の土器片・26の使用痕ある剥片は、混入遺物である。1の底部は内面黒色

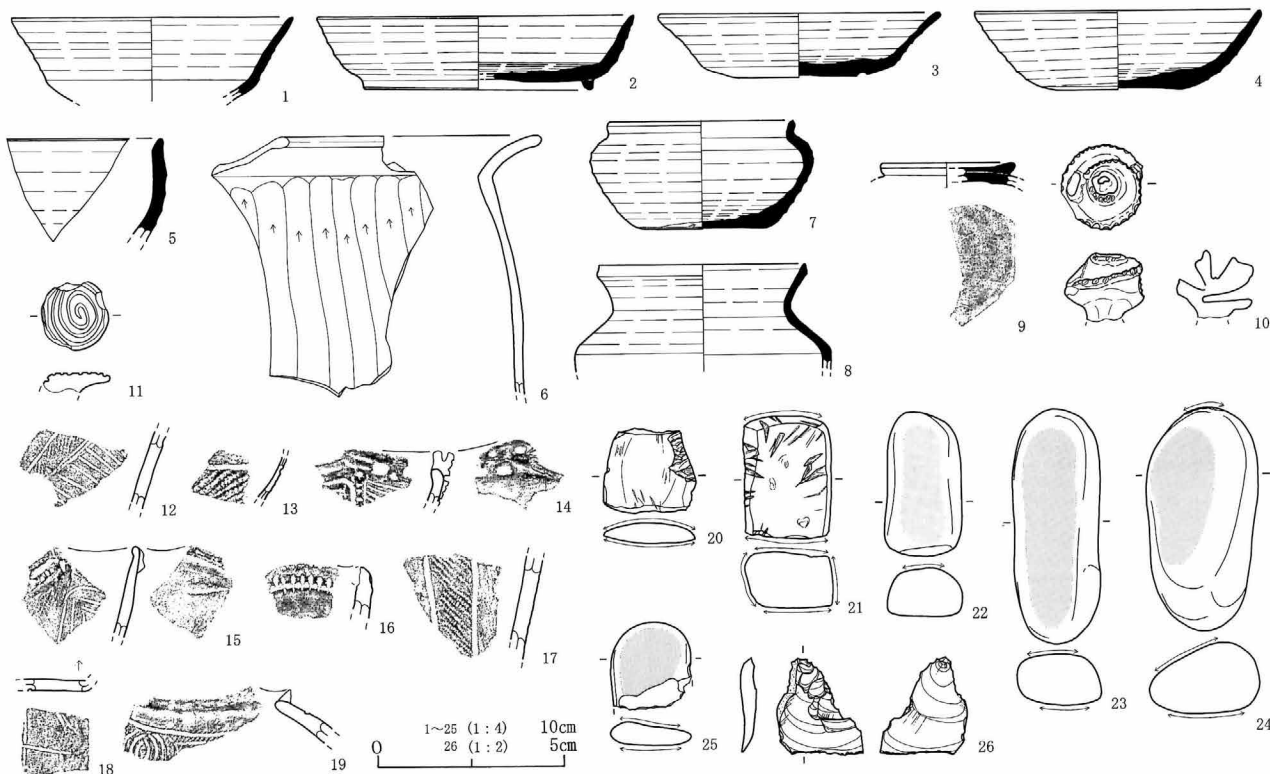


第63図 H 9号住居址(1)

第37表 H 9号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

H9		法 量			成形・調整・文様		推定値()残存値<>丸底・		
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
1	須恵器	坏	(15.0)	(11.4)	<4.4>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	I区覆土
2	須恵器	坏	16.7	12.0	4.0	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ→高台貼付	完全実測	No.1
3	須恵器	坏	(15.0)	(10.2)	3.4	ロクロナデ	ロクロナデ→底部切り離し後手持ちヘラナデ	回転実測	No.2
4	須恵器	坏	15.3	8.2	4.2	ロクロナデ	ロクロナデ→底部手持ちヘラケズリ	完全実測	No.4
5	須恵器	鉢	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	破片実測	IV区覆土
6	土師器	甕	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ→ヘラケズリ	破片実測	II区覆土
7	須恵器	壺	(10.0)	(7.0)	5.7	ロクロナデ	ロクロナデ。底部手持ちヘラケズリ	回転実測	No.3
8	須恵器	壺	(11.0)	-	<5.6>	ロクロナデ。自然軸付着	ロクロナデ。自然軸付着	回転実測	IV区覆土
9	須恵器	蓋	-	(7.0)	<1.3>	ロクロナデ。木葉痕あり	ロクロナデ→皿状つまみ貼付	回転実測	I区覆土
10	縄文土器	深鉢	把手。頂部と左右から盲孔。らせん状の刻み隆帯。右の盲孔縁どる刻み隆帯。			堀之内2		III区覆土	
11	縄文土器	深鉢	小把手。渦巻状沈線。			堀之内2		III区覆土	
12	縄文土器		縄文LRを充填する平行沈線から斜位の6条の沈線。			堀之内2		II区覆土	
13	縄文土器	ミニチュア土器?	横位沈線。縄文LR充填。			堀之内2		IV区覆土	
14	縄文土器	深鉢	口縁部内折。円孔えお持つ突起。口唇部と円孔両脇下に円形刺突。円形刺突から刻み隆帯となぞる沈線。その両脇に集合沈線。			堀之内1		IV区覆土	
15	縄文土器	深鉢	口縁部内折。波頂部の刺突も貼付文から口縁に沿って刻み隆帯。三角文の沈線。			堀之内2		I区覆土	
16	縄文土器	深鉢	弧状刻み隆帯下をなぞる沈線。			堀之内1		IV区覆土	
17	縄文土器	深鉢	垂下する沈線間に地文縄文LR。			中期後葉		I区覆土	
18	土師器	坏	内面ヘラミガキ→黒色処理。外面 底部手持ちヘラケズリヘラ記号[+]。			III区覆土			
19	縄文土器	注口土器	横位沈線下に集合沈線の対弧状文。縄文LR。			堀之内1		I区覆土	
No.	器種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見		出土位置
20	砥石		4.5	4.9	1.1	27.80	砥面数2。正面に削り状の条痕。欠損後も使用か。		I区覆土
21	砥石	軽石	6.5	4.7	2.9	36.88	砥面数6。正面・左側に条痕顕著。		III区覆土
22	磨石		7.7	4.1	2.6	137.83	正面にすり面。		IV区覆土
23	磨石		12.4	4.6	2.8	277.68	正面にすり面。		III区覆土
24	磨・敲石		11.9	5.9	5.0	437.41	正裏にすり面。上部に敲打痕。		III区覆土
25	磨石		<4.6>	<4.3>	<1.4>	<33.07>	被熱あり?(一部赤化)。下部欠損。正裏にすり面。		III区覆土
26	使用痕のある剥片	黒曜石	2.5	2.3	0.4	1.66	右側と下端部は使用痕か。		II区覆土



第64図 H9号住居址(2)

処理、底部手持ちヘラケズリされ、ヘラ記号「+」がみえる。3・4・7の底部は手持ちヘラケズリされる。7は短頸壺、8は頸部が括れ口縁部が短い。9の蓋は皿状のつまみを持つ。

本址は、これらの遺物から小林眞寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代I期-8世紀第1四半期に位置づけられる。

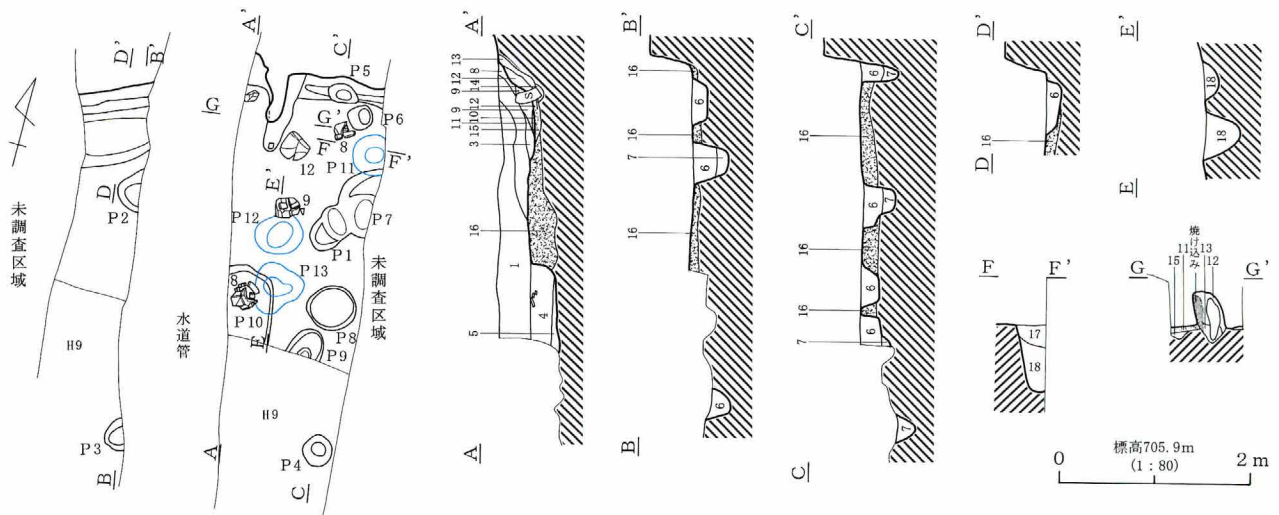
(10) H10号住居址

む-29Grにあり、H9に切られる。カマドは北壁中央にあり、黒色粘土・黒褐色土と礫で構築されている。火床に支脚石が残存する。ピットは13個検出された。主柱穴P1~P4は、桁行き240cm・梁行き220cmを測る。P11~P13は掘方で確認された。床は堅くて平坦である。カマド東の北壁下に壁

第38表 H10号住居址出土遺物観察表

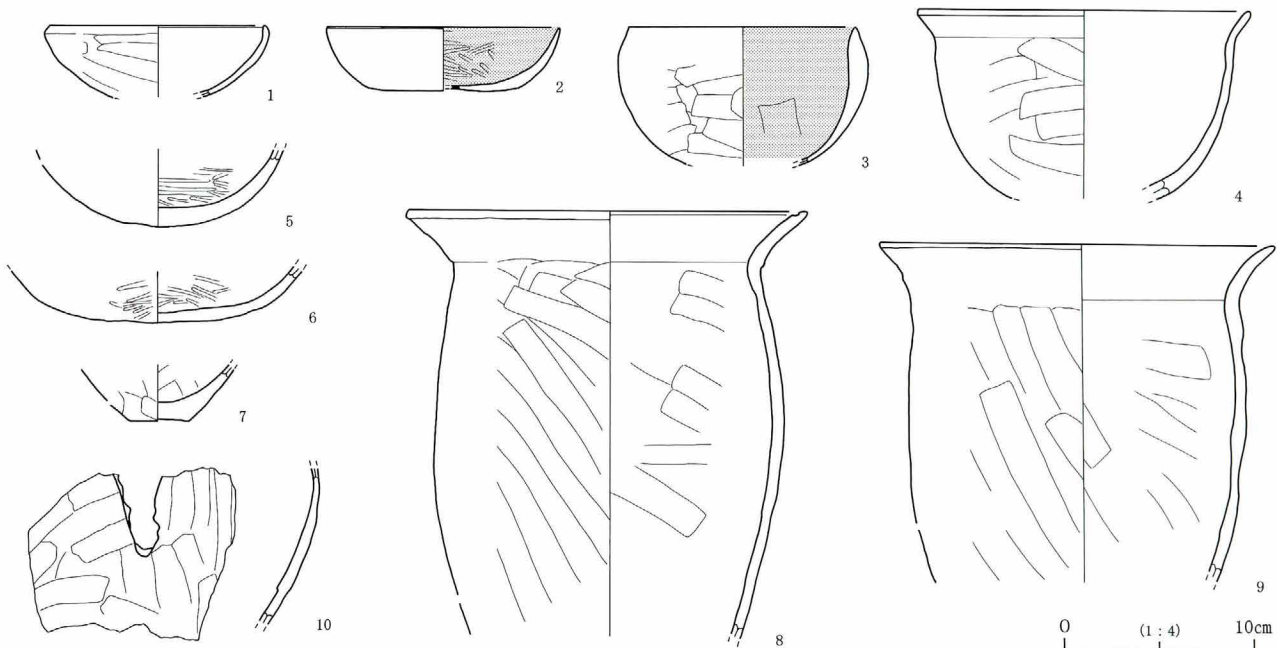
(cm・g)

No.	H10		法量			成形・調整・文様		推定値()残存値<>丸底・備考	出土位置
	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面		
1	土師器	坏	(11.5)	-	<3.8>	ナデ	ナデ→ヘラケズリ	回転実測	I区覆土
2	土師器	坏	(12.4)	(6.0)	<3.4>	ヘラミガキ→黒色処理	ナデ。底部手持ちヘラケズリ	回転実測	P3
3	土師器	鉢	(12.0)	-	<7.3>	口縁部ヨコナデ。胴部ナデ→黒色処理	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ	回転実測	II区覆土
4	土師器	鉢	(17.5)	-	<10.0>	口縁部ヨコナデ。胴部ナデ	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ	回転実測	II区覆土
5	土師器	鉢	-	-	<4.1>	ヘラミガキ	摩耗している	回転実測	II区覆土
6	土師器	鉢	-	(7.0)	<2.9>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	I区覆土
7	土師器	甗	-	3.2	<3.0>	ヘラナデ	ヘラケズリ。底部ヘラケズリ	回転実測 内面有機物付着	I区覆土
8	土師器	甗	21.3	-	<22.6>	ヘラナデ。口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	完全実測	No.4
9	土師器	甗	20.8	-	<17.9>	ヘラケズリ。口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	完全実測	No.2
10	土師器	甗	-	-	-	ヨコナデ	ヘラケズリ。焼成後穴状加工あり		II区覆土
11	土師器	甗	-	-	<30.0>	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	P1 P2
12	土師器	甗	22.0	-	<28.5>	ハケ目→ヘラナデ。口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ→ハケ目ヘラケズリ	完全実測	No.3
13	縄文土器	深鉢	底径6.5。弧状沈線。縄文LR。底部 木葉痕?					後期初頭	カマド
14	縄文土器	深鉢	口縁部下に微隆起帯文。縄文RL。					中期後葉	I区覆土
15	縄文土器	深鉢	口縁部下に微隆起帯文。縄文LR。					中期後葉	II区覆土
16	縄文土器	深鉢	波状口縁。口縁部下に刻み隆線。縄文LR。					堀之内2	II区覆土
17	縄文土器	深鉢	横位の刻み隆帯。「<」の字口縁に最大径。土師器坏底ヘラケズリ。					後期前半	I区覆土
No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見		出土位置
18	磨石		<10.3>	<6.6>	<10.8>	<550.91>	被熱あり? (表面赤化) 左側以外欠損。正面にすり面。		I区ホリ方



- 1層 黒褐色土(10YR3/2) にぶい黄褐色土ブロック・小礫少量。
- 2層 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒子少量。
- 3層 黒褐色土(10YR2/3) 炭化物微量。
- 4層 暗褐色土(10YR3/3) 小礫微量。
- 5層 黒褐色土(10YR3/1) にぶい黄褐色土ブロック少量。
- 6層 黒褐色土(10YR3/2) にぶい黄褐色土ブロック少量。
- 7層 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒子少量。
- 8層 暗赤褐色土(5YR3/6) 焼土粒子多量。
- 9層 極暗赤褐色土(5YR2/3) 炭化物・焼土粒子少量。
- 10層 灰褐色土(5YR4/2) 灰が主。

- 11層 赤褐色土(2.5YR4/8) 焼土。
- 12層 黒褐色土(5YR2/2) 黒色粘土ブロック多量。焼土粒子少量。
- 13層 黒褐色土(7.5YR3/1) 粘土ブロック多量。炭化物・ローム粒子とブロック少量。
- 14層 黒褐色土(10YR2/3) 粘土ブロック微量。
- 15層 暗赤褐色土(5YR3/3) 焼土粒子・粘土ブロック微量。
- 16層 にぶい黄褐色土(10YR5/3) にぶい黄褐色土ブロック主。
- 17層 黒褐色土(10YR3/2) にぶい黄褐色土ブロック少量。
- 18層 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒子少量。

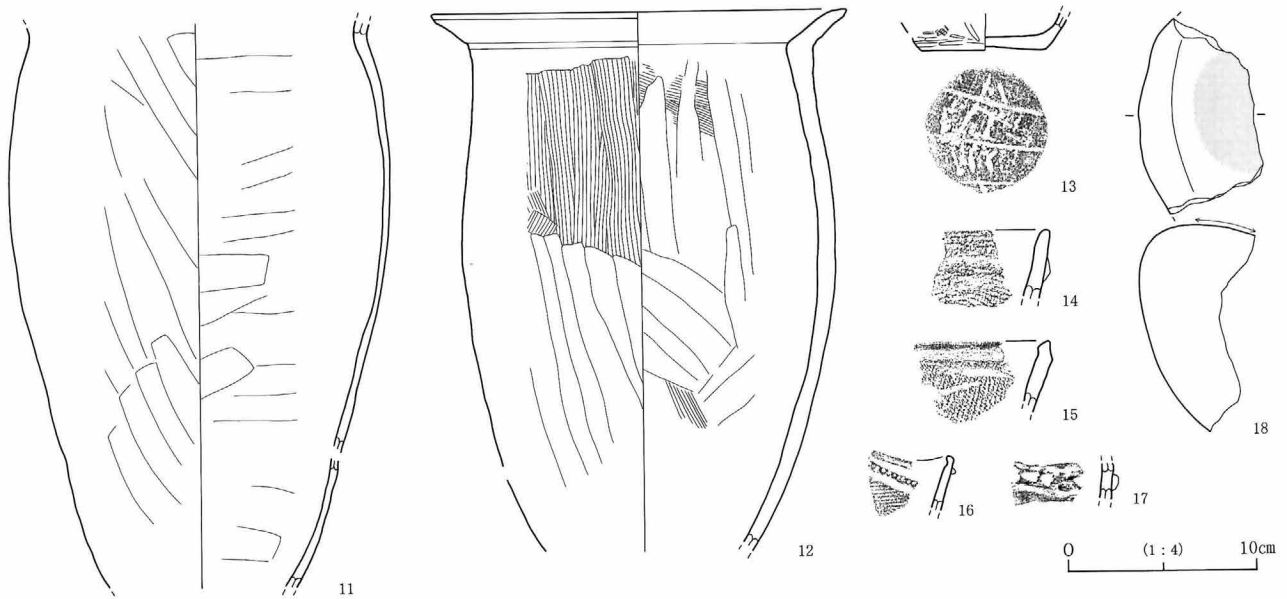


第65図 H10号住居址(1)

溝が認められた。カマド西側に深さ20cmの掘り込みがみられた。9・12がカマド南側の床面から出土し、8がカマド東床面とP10内出土片が接合、11がP7・P10内出土片が接合した。

遺物は、1・2の土師器坏、3～6の鉢、7～12の甕、18の磨石、本址に伴わない13～17の縄文時代中期後葉～後期前半の深鉢片が出土した。土師器坏は半球状の1、内面黒色処理され底部手持ちヘラケズリの2がある。土師器甕は8・11の武蔵甕と9・12の長い胴部の甕がある。8・9・12は口縁部に最大径を持つ。10の胴部片には、焼成後の穴状の加工が見られる。

本址は、これらの遺物から古墳時代7世紀末に位置づけられる。



第66図 H10号住居址(2)

(11) H11号住居址

は-72~74Grにあり、D36に切られる。炉は支柱穴P1・P2間にある。炉は4の壺底部を用いた埋甕炉で、25cm程掘りこまれている。壺底部内部に少量の炭粒子が、壺の外周に多量の炭粒子がみられた。炉の掘方正面は被熱で赤変していた。ピットは7個検出され、P1~P3の支柱穴から五平状柱痕が確認された。P4は棟持柱、P5~P7は出入口施設と考えられる。P5の柱痕24cmであった。P1とP3の桁行き310cm・P1とP2の梁行き180cm測る。敲击床の床面は堅く平坦で、壁際を除く床面直上に黒褐色の粘質土が張り付くように認められた。

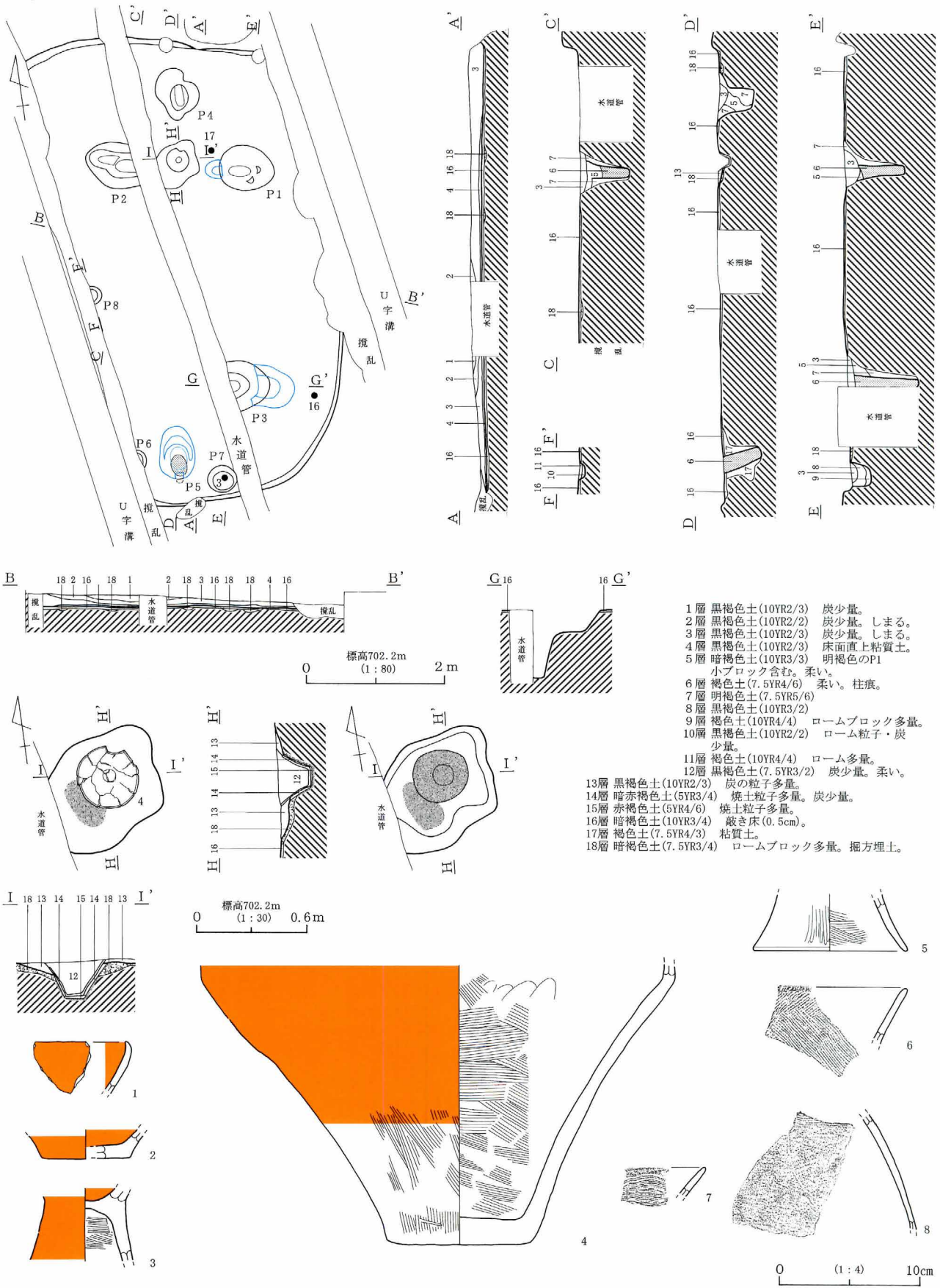
遺物は鉢・壺・甕・高坏の弥生土器、金属製品16、砥石15、石鏃17、本址に伴わない縄文時代後期前半深鉢片がある。1・2は内外面赤色塗彩の鉢、3は赤色塗彩される高坏、4は炉に埋設された胴下部の括れより下まで赤色塗彩の壺、8は無彩の壺、13の赤色塗彩の壺は頸部にへら描斜走文施文される。6~12は櫛描波状文・斜走文・簾状文が施される甕、6の口唇部に刻目がある。5は台付甕であろう。16は白銅製であろう、1孔がみられる。

これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

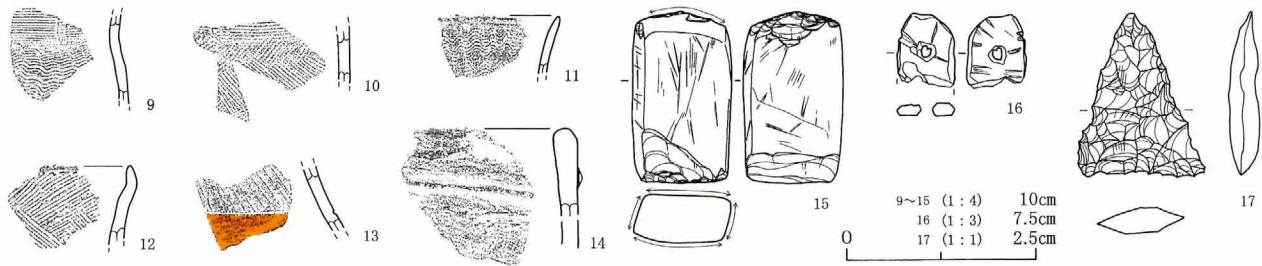
第39表 H11号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様		推定値()残存値< >丸底・	備考	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面			
1	弥生土器	鉢	-	-	<3.7>	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	破片実測	I区覆土	
2	弥生土器	鉢	-	(6.2)	<2.1>	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	回転実測	確認面	
3	弥生土器	高坏	-	-	<5.3>	坏部ヘラミガキ→赤色塗彩。脚部ハケ目	脚部ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測	No.4	
4	弥生土器	壺	-	10.4	<20.4>	ハケ目	胴部ヘラミガキ→赤色塗彩。下部ハケ目	完全実測	No.5	
5	弥生土器	台付甕	-	(10.8)	<4.1>	ハケ目	ヘラミガキ	回転実測	確認面	
6	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描斜走文横位羽状。口唇部に刻み目。							
7	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。							
8	弥生土器	壺	内面 ナデ。外面 頸部に櫛描横走文。							
9	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描簾状文。櫛描波状文。							
10	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描簾状文→櫛描斜走文を横位羽状。							
11	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。							
12	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描斜走文。横位羽状。口縁端部内弯気味に立ち上る。							
13	弥生土器	壺	内面 ナデ。外面 ヘラミガキ→赤色塗彩。							
14	縄文土器	深鉢	所謂粗製土器。横位隆帯。							
No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見		出土位置	
15	砥石		9.1	5.3	2.5	216.95	砥面数4。上下端部に敲打痕。		確認面	
16	金属製品? 不明	(白銅か?)	<1.9>	<1.5>	<0.3>	<6.37>	穿孔と条痕あり。下部欠損。		No.2	
17	石鏃	黒曜石	2.2	1.7	0.4	1.00			No.1	

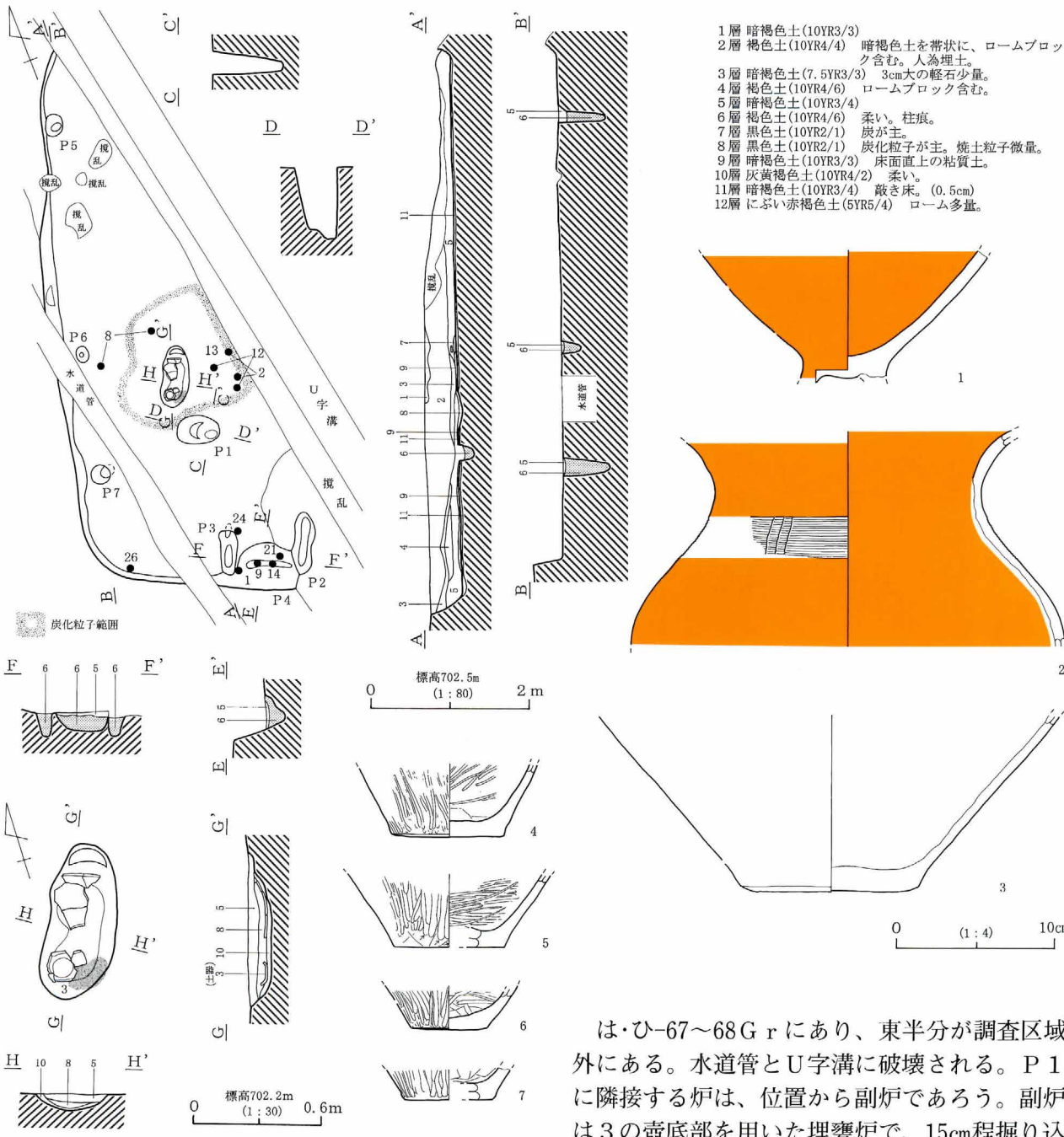


第67図 H11号住居址(1)



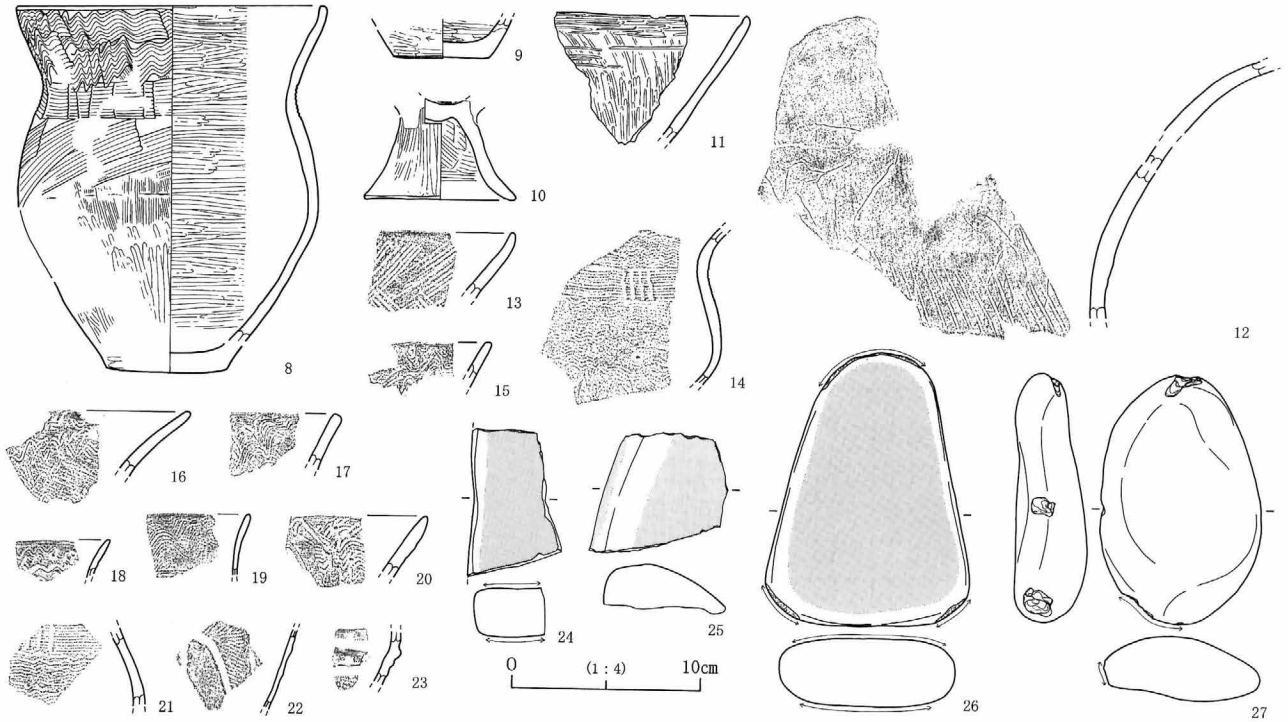
第68図 H11号住居址(2)

(12) H12号住居址



第69図 H12号住居址(1)

は・ひ-67~68 Gr にあり、東半分が調査区域外にある。水道管とU字溝に破壊される。P1に隣接する炉は、位置から副炉であろう。副炉は3の壺底部を用いた埋甕炉で、15cm程掘り込



第70図 H12号住居址(2)

まれている。さらに赤彩の壺胴部片を敷き詰めてもいる。3の壺付近が被熱で赤変していた。炉の周辺は、粒子状の炭が床面に張り付くようにみられた。

ピットは7個検出され、P1の支柱穴は掘方の形状から五平状の柱が想定される。P2～P4は出入口施設と考えられる。西壁に接するP5や西壁に近接するP6・P7の柱痕径10～20cmであった。

敲き床の床面は堅く平坦で、H11と同様に壁際を除く床面直上に黒褐色の粘質土が張り付くように認められた。

第40表 H12号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

H12		法量			成形・調整・文様		推定値()残存値<>丸底・		
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	備考	出土位置
1	弥生土器	高坏	-	-	<8.3>	坏部 ヘラミガキ→赤色塗彩。脚部 ナデ	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測	No.14 S区
2	弥生土器	壺	-	-	-	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→櫛描籐状文(3連止)→赤色塗彩	回転実測 内面剥離	No.11 No.12 S区
3	弥生土器	壺	-	11.2	<11.2>	剥離・摩耗のため判別不能	胴部 ヘラミガキ→赤色塗彩。底部ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測	No.2
4	弥生土器	甕	-	7.1	<4.6>	ヘラミガキ	胴部ヘラミガキ。底部ヘラミガキ	完全実測	S区覆土
5	弥生土器	甕	-	(7.0)	<4.6>	ヘラミガキ	胴部ヘラケズリ後ミガキ。底部ヘラケズリ	回転実測	覆土
6	弥生土器	甕	-	4.9	<2.9>	ヘラミガキ	胴部ヘラミガキ。底部ヘラミガキ	完全実測	S区覆土
7	弥生土器	甕	-	(6.0)	<2.0>	ヘラナデ	胴部ヘラミガキ。底部ヘラミガキ	回転実測	覆土
8	弥生土器	甕	16.5	(6.4)	19.4	ヘラミガキ	櫛状工具によるナデ→頸部櫛描籐状文→口縁部櫛描波状文と胴部櫛描斜走文→胴部下部ヘラミガキ	完全実測	No.3 No.4 S N区
9	弥生土器	甕	-	5.1	<2.1>	ヘラミガキ	胴部ヘラミガキ後ミガキ。底部ヘラケズリ後ミガキ	完全実測	P4
10	弥生土器	有台甕	-	8.0	<5.3>	甕部ヘラミガキ。台部ハケ目→裾部ヨコナデ	ヘラミガキ	完全実測	S区覆土
11	弥生土器	鉢	-	-	-	ヘラミガキ	ヘラミガキ	破片実測	S区覆土
12	弥生土器	甕	内面 口縁部ヘラミガキ→赤色塗彩 胴部ハケ目。外面 ヘラミガキ赤色塗彩 頸部ヘラ斜走文。						No.10・12・13
13	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面 櫛描斜走文。						No.11
14	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面 口縁部櫛描波状文。頸部櫛描波状文→櫛描籐状文						P4
15	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。						S区覆土
16	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。						S区覆土
17	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。						S区覆土
18	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。						S区覆土
19	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面 櫛描波状文→櫛描横走文。					小形の甕	S区覆土
20	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面 櫛描波状文						覆土
21	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面 櫛描波状文→籐状文						S区覆土
22	縄文土器	深鉢	沈線区画内に縄文LR充填。					称名寺	S区覆土
23	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯をなぞる沈線。					後期前半	覆土
No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見		出土位置
24	磨石		<7.7>	<4.9>	<2.6>	<174.46>	正面にすり面。左側以外欠損。		No.15
25	磨石		<6.4>	<7.3>	<2.7>	<162.74>	全周欠損。正面と左側にすり面。		P4
26	磨・敲石		14.5	10.9	3.7	937.30	正裏にすり面。端部3ヶ所に敲打痕。		No.17
27	敲石		13.0	8.5	3.8	530.37	上下端部と左側に敲打痕。		No.16

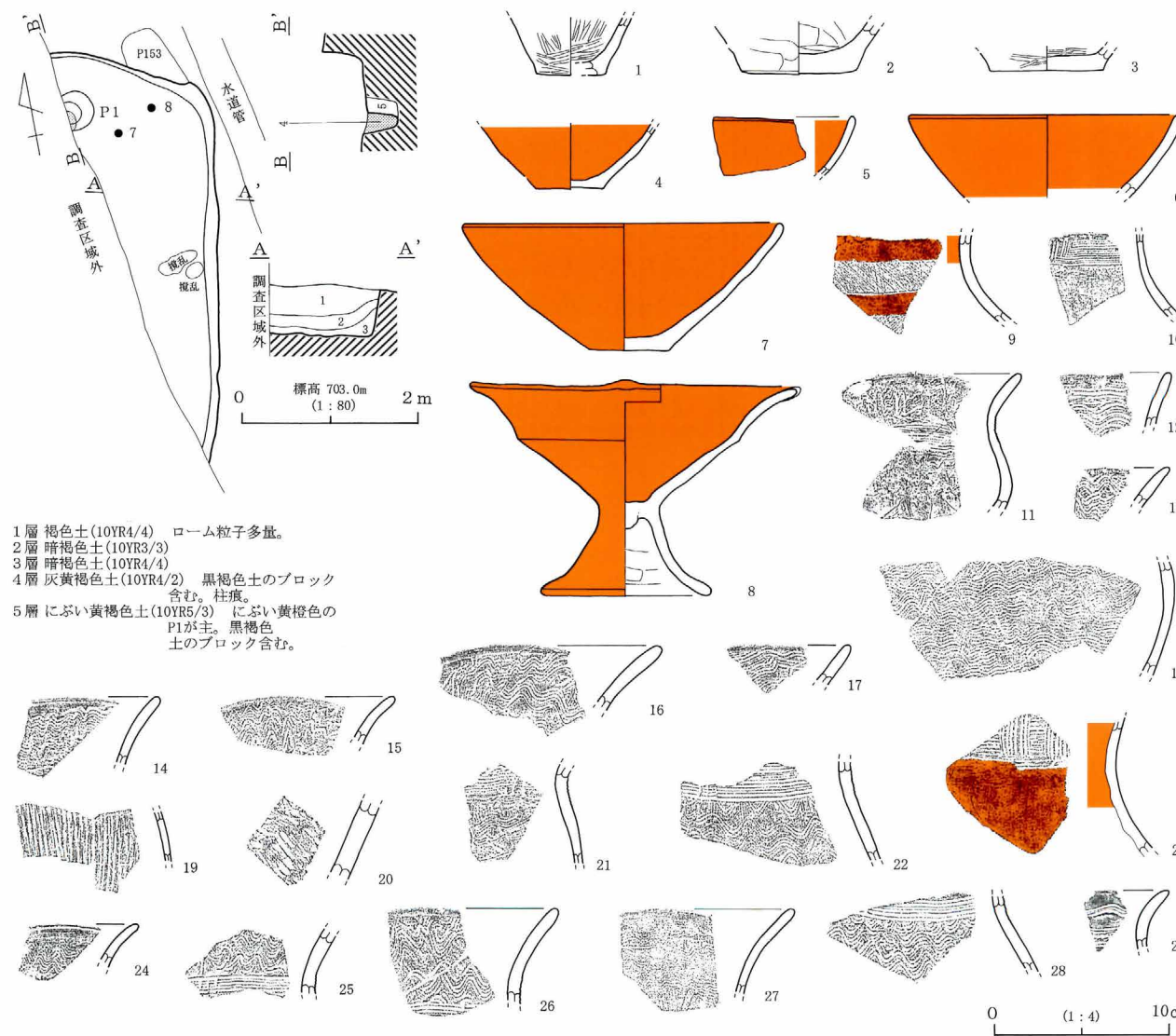
覆土第2層は、人為埋土であった。遺物の出土状態は、主に炉の周辺とP4内外に集中している。遺物は鉢・壺・甕・高坏の弥生土器、磨石24・25、磨り面持つ敲石26、敲石27、床面出土の炭化したイネ1個、炉内出土獣類の焼骨、本址に伴わない縄文時代後期初頭・前半の深鉢片がある。

11は無彩の鉢、1は赤色塗彩される高坏、3は炉に埋設された壺胴下部、2・12は赤色塗彩される壺で2は胴上部まで赤彩が及ぶ。4～6・8・9・13～21は甕で、内面ヘラミガキされ外面櫛描波状文・斜走文・簾状文が施文される。8の甕は頸部の櫛描簾状文施文後口縁部に櫛描波状文、胴部に櫛描斜走文が施文される。10の台付甕もある

これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

(13) H13号住居址

ひ-69GrにありP153に切られ、H16を切る。西半分が調査区域外にある。炉は調査範囲内には見られない。柱痕径20cmのP1は、検出された位置から棟持柱と思われるが、この時期の主柱穴定位置に柱穴が見あたらない。敲き床の床面は堅く平坦で、H11・H12と同じく床下の掘方はほとんど見られない。7の鉢と8の高坏は、P1の東側床面から出土した。



第71図 H13号住居址

遺物は鉢・壺・甕・高坏の弥生土器、縄文時代後期前半の深鉢片がある。

4～7は碗状で赤色塗彩される鉢、8は坏部中位に屈曲を持つ赤色塗彩される高坏、9・23の壺は赤色塗彩され、10の壺は無彩である。10・23は櫛描T字文、9はヘラ描横走文区画内に段の間隔を開けてヘラ描斜走文が施文される。

1・3・11～19・21～29は甕で、内面ヘラミガキされ外面櫛描波状文・斜走文・簾状文が施文される。19の甕は縦位の粗いハケメ調整で胎土が灰色(10Y R 8 / 2)で異質である。東海系の甕であろう。

これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

第41表 H13号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

H13			法 量			成形・調整・文様		推定値()残存値<>丸底・			
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置		
1	弥生土器	甕	-	(4.0)	<3.3>	ヘラミガキ	ヘラミガキ				
2	弥生土器	壺	-	(6.6)	<3.0>	ヘラナデ	ヘラナデ	回転実測	覆土		
3	弥生土器	甕	-	(6.4)	<1.3>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	覆土		
4	弥生土器	鉢	-	3.9	<3.7>	ヘラミガキ。赤色塗彩	ヘラミガキ。赤色塗彩	完全実測	覆土		
5	弥生土器	鉢	-	-	-	ヘラミガキ。赤色塗彩	ヘラミガキ。赤色塗彩	完全実測	覆土		
6	弥生土器	鉢	(15.6)	-	<4.7>	ヘラミガキ。赤色塗彩	ヘラミガキ。赤色塗彩	破片実測	覆土		
7	弥生土器	鉢	18.3	4.6	7.2	ヘラミガキ。赤色塗彩	ヘラミガキ。赤色塗彩	回転実測	S区覆土		
8	弥生土器	高坏	18.9	9.7	12.2	坏部ヘラミガキ 赤色塗彩。脚部ヘラナデ	ヘラミガキ赤色塗彩	完全実測	No.2		
9	弥生土器	壺	内面 頸部までヘラミガキ赤色塗彩。外面 ヘラ描斜走文 段の間隔あけて横位羽状。								覆土
10	弥生土器	壺	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描T字文→ヘラミガキ無彩。								覆土
11	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 口縁部と脚部櫛描波状文→櫛描簾状文。								S区覆土
12	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。								覆土
13	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。								覆土
14	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。櫛描簾状文。								覆土
15	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。								覆土
16	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。								S区覆土
17	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。								覆土
18	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。								S区覆土
19	弥生土器	甕	内面 ヘラナデ。外面 粗い縦位のハケ目調整。							東海系?胎土灰色(10YR8/2)	確認面 H16確認面
20	縄文土器	深鉢	縄文LR。							後期前半	覆土
21	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 口縁部と脚部櫛描波状文→頸部の簾状文。								覆土
22	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文→頸部櫛描簾状文。								覆土
23	弥生土器	壺	内面 頸部まで赤色塗彩。外面 頸部T字文→ヘラミガキ 赤色塗彩。								覆土
24	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文 口唇部沈線?								覆土
25	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文→頸部櫛描簾状文。								カクラン
26	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文→頸部櫛描簾状文。								S区覆土
27	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。								S区覆土
28	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文→頸部櫛描簾状文。								覆土
29	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。								覆土

(14) H14号住居址

ひ-67・68GrにありF2に切られる。東半分が調査区域外にある。水道管とU字溝に破壊される。

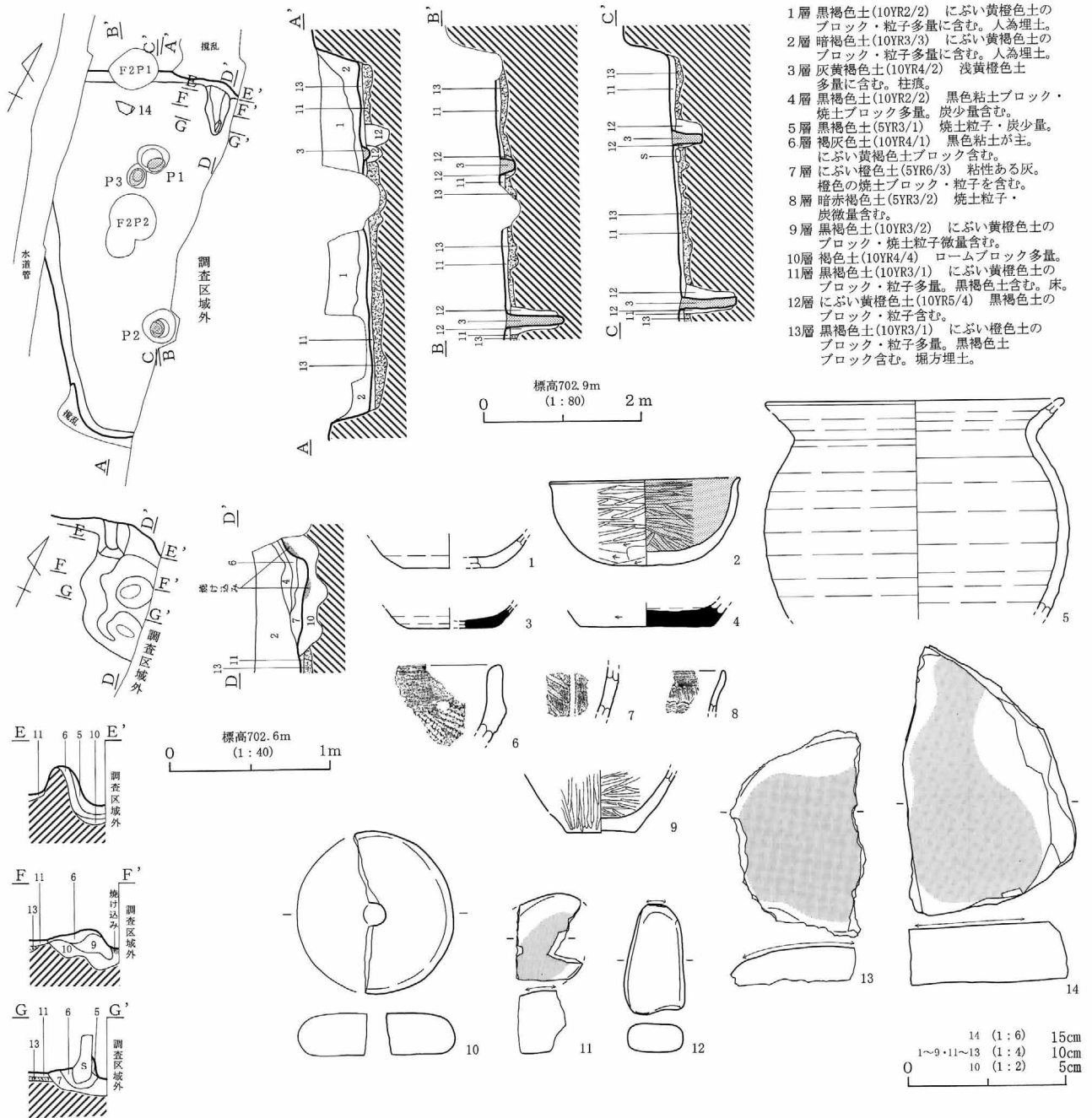
カマドは北壁中央に、褐灰色土・黒色粘土と礫で構築されている。袖は地山削り出しで袖部先端と中程に礫を立てる。

径20cmの柱痕が確認された支柱穴P1・P2の柱穴間、所謂「桁行き」は200cmを測る。P1の西脇に径20cmの柱痕が確認されたP3が検出された。P1とP2の間の床下から水平状態で長辺20cmの平石

第42表 H14号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

H14			法 量			成形・調整・文様		推定値()残存値<>丸底・			
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置		
1	土師器	坏	-	(5.8)	<2.2>	ロクロナデ	ロクロナデ。底部回転糸切り	回転実測	確認面		
2	土師器	坏	(12.0)	-	<5.4>	ヘラミガキ。黒色処理	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	覆土		
3	須恵器	坏	-	(5.4)	<1.4>	ロクロナデ	ロクロナデ。底部回転糸切り	回転実測	カクラン		
4	須恵器	甕	-	(8.4)	<1.6>	ロクロナデ	ヘラケズリ。底部回転糸切り	回転実測	確認面		
5	土師器	ロク口甕	(18.6)	-	<13.7>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	S区 F2P3		
9	弥生土器	甕	-	4.4	4.9	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	覆土		
10	紡錘車		5.1	<3.1>	<1.3>				確認面		
6	縄文土器	深鉢	微隆起帯文上に縄文LR。							中期後葉	覆土
7	縄文土器	深鉢	垂下する沈線。斜行沈線。							中期後葉	覆土
8	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 口縁部細かな櫛描波状文。頸部櫛描波状文。								覆土
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見				
11	磨石		<5.5>	<4.1>	<3.9>	<115.16>	周囲欠損。正面が使用面。			覆土	
12	敲石		6.9	3.8	1.8	83.11	上端部に敲打痕。			確認面	
13	台石		<12.9>	<8.5>	<2.3>	<314.56>	全周欠損。正面にすり面。			覆土	
14	台石		25.3	16.5	6.1	3880.00	被熱あり(一部黒化)。正面が使用面。			No.1	



第72図 H14号住居址

がみられた。P1の立て替えが行われたのであろうか。床は堅く敲き締められ平坦である。

覆土1・2層は、にぶい黄褐色の地山土が多量に混じった人為埋土。

遺物は土師器1・2・5、須恵器3・4、磨石11、敲石12、台石13・14、土製紡錘車10、混入遺物の縄文時代中期後葉の深鉢片、弥生時代後期甕片がある。

1の土師器坏・3の須恵器坏は底部回転糸切り、5は土師器ロクロ甕である。

本址は、これらの遺物より平安時代9世紀代に位置づけられよう。

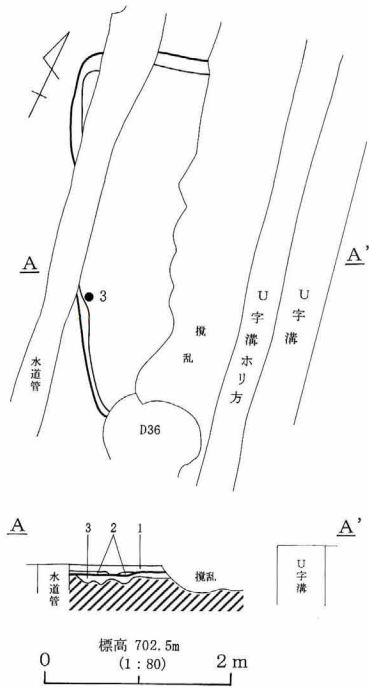
(15) H15号住居址

ひ-71・72GrにありD36に切られる。東半分が調査区域外にある。水道管とU字溝に破壊される。カマドや柱穴等調査範囲内では、確認されなかった。床面は軟弱で、平坦ではない。

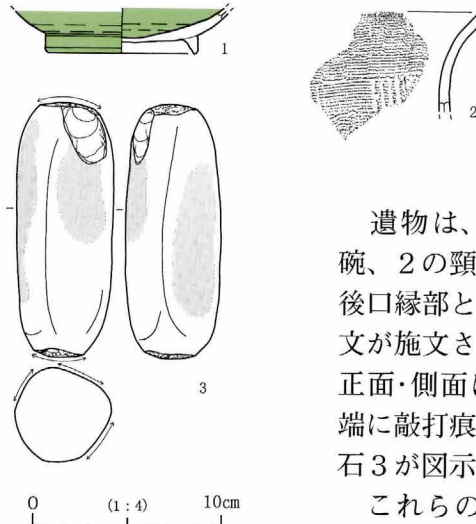
第43表 H15号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

H15			法 量			成形・調整・文様			推定値() 残存値<>丸底・	
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面		外 面	備 考	出土位置
1	灰釉陶器	碗	-	(8.0)	<2.4>	口クロナデ。施釉		口クロナデ。施釉	回転実測	は71 覆土
2	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 頸部櫛描波状文→口縁部・胴部櫛描波状文。						後期	覆土
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見			出土位置
3	磨・敲石		13.5	5.1	5.0	588.29	上下端部に敲打痕。正面・両側にすり面。			No.1



1層 黒褐色土(10YR3/2) 炭化粒子少量。
 2層 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロック多量。
 3層 褐色土(10YR4/6) 明黄褐色土が主。



遺物は、1の灰釉陶器碗、2の頸部櫛描簾状文の後口縁部と胴部に櫛描波状文が施文される弥生後期甕、正面・側面にすり面、上下端に敲打痕が認められる敲石3が図示できた。

これらの遺物・遺構の状況では、本址時期等詳細は不明と言わざるを得ない。が、1から平安時代であるうか。

第73図 H15号住居址

(16) H16号住居址

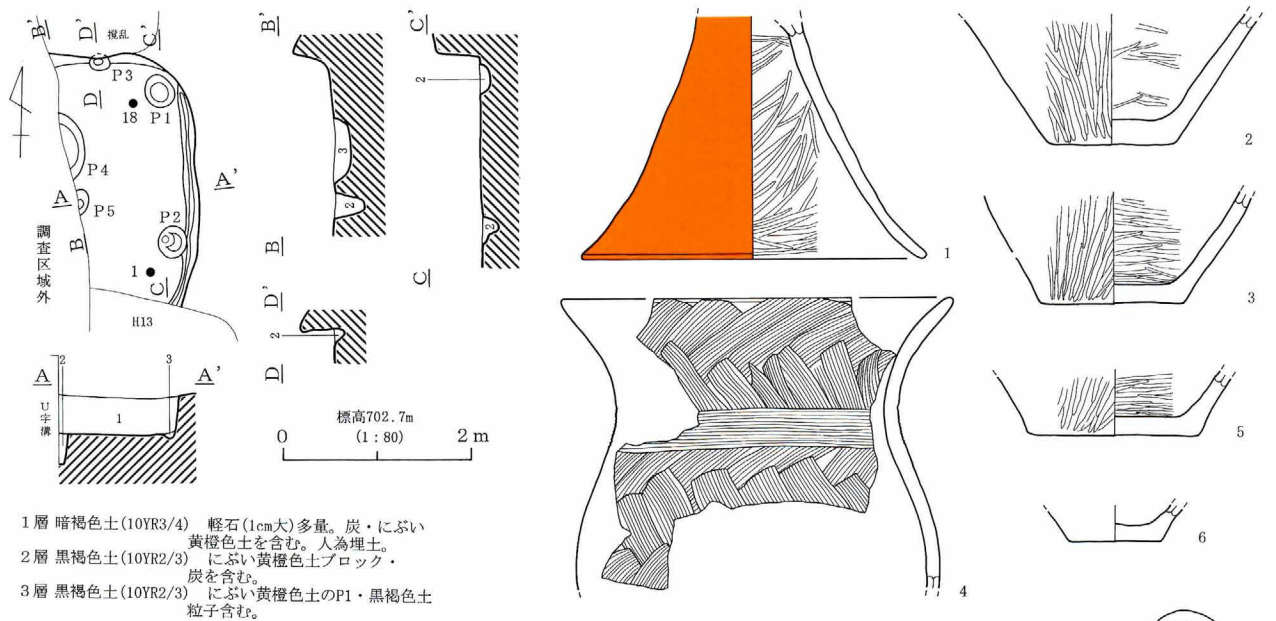
ひ-68GrにありH13・P153に切られる。西半分が調査区域外にある。炉址は調査範囲内では、確認されなかった。床面は平坦で強く締まっている。覆土第1層は1cm大の軽石を多量に、炭・にぶい黄橙色土を含む人為埋土である。

ピットは5個検出された。この時期の規則的な支柱穴の配置が見られない。P3は壁柱穴で断面はやや内側に傾斜する。P5が掘方深く32cmを測る。東壁下に壁溝が検出された。支柱穴となりそう

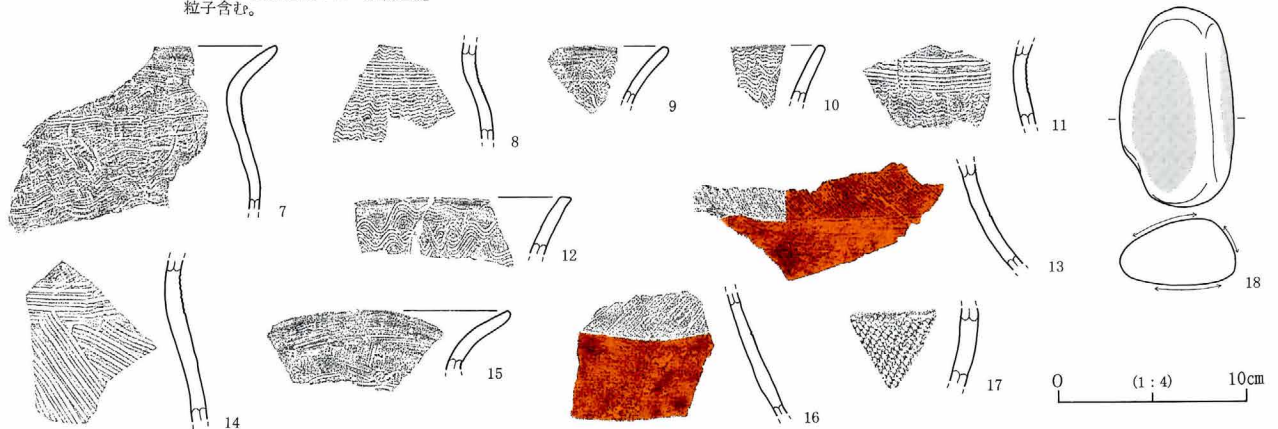
第44表 H16号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

H16			法 量			成形・調整・文様			推定値() 残存値<>丸底・		
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面		外 面	備 考	出土位置	
1	弥生土器	高坏	-	18.3	<12.9>	ヘラミガキ			完全実測	No.1	
2	弥生土器	甕	-	(6.8)	<7.0>	ヘラミガキ		ヘラミガキ。赤色塗彩	回転実測	覆土	
3	弥生土器	甕	-	7.6	<5.8>	ヘラミガキ		ヘラミガキ	完全実測	覆土	
4	弥生土器	甕	(20.8)	-	<15.3>	ヘラミガキ		口縁・胴部横位羽状の櫛描斜走文→櫛描簾状文	回転実測	確認面	
5	弥生土器	甕	-	(9.0)	<3.4>	ヘラミガキ		ヘラミガキ	回転実測	確認面	
6	弥生土器	甕	-	4.8	<1.9>	ヘラミガキ		ヘラミガキ	完全実測	覆土	
7	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 口縁部・胴部櫛描波状文→頸部櫛描簾状文。								覆土
8	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 口縁部・胴部櫛描波状文→頸部櫛描簾状文。								S区覆土
9	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。								覆土
10	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。								確認面
11	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 胴部櫛描波状文→頸部櫛描簾状文。								覆土
12	弥生土器	甕	口唇部面取り。内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。								確認面 P153
13	弥生土器	甕	内面 ナデ。外面 ヘラ斜走文を横位羽状に施文→赤色塗彩。								覆土
14	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 頸部櫛描簾状文→口縁部・胴部櫛描斜走文。								覆土
15	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文→口縁部櫛描波状文→櫛描横走文								覆土
16	弥生土器	甕	内面 ハケ目・ナデ。外面 ヘラ斜走文→赤色塗彩。								覆土
17	弥生土器	深鉢	横位沈線・上縄文LR						中期後葉		覆土
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見			出土位置	
18	磨石		10.6	6.1	3.5	357.75	正裏・右側にすり面			No.2	

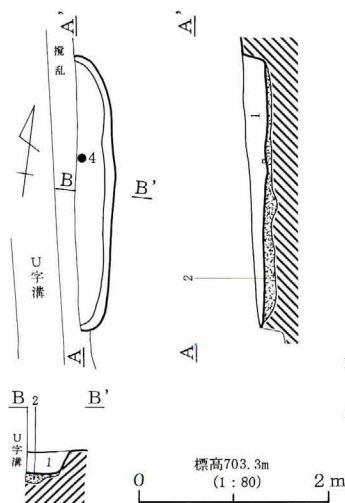


- 1層 暗褐色土(10YR3/4) 軽石(1cm大)多量。炭・にぶい黄褐色土を含む。人為埋土。
- 2層 黒褐色土(10YR2/3) にぶい黄褐色土ブロック・炭を含む。
- 3層 黒褐色土(10YR2/3) にぶい黄褐色土のP1・黒褐色土粒子含む。



第74図 H16号住居址

P1・P2が東壁に接して配置されている。床は掘方なく平坦で堅い。遺物は壺・甕・高坏の弥生土器、縄文時代中期後葉の深鉢片がある。1は脚部赤色塗彩される高坏、2~12・14・15は甕で、内面ヘラミガキされ外面櫛描波状文・斜走文・簾状文が施文される。4は口縁部・胴部に横位の櫛描斜走文施文後頸部に櫛描簾状文を施す。14は頸部櫛描簾状文後口縁部・胴部に櫛描斜走文を施文する。13・16の壺はヘラ描斜走文後赤色塗彩される。これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。



(17) H17号住居址

ふ-67Grにあり、H20を切る。大半が調査区域外にある。カマド・柱穴等調査範囲内では、確認されない。床面は平坦でないが堅く締まる。

- 1層 黒褐色土(10YR3/2) にぶい黄褐色土ブロック・1cm大の軽石少量含む。
- 2層 黒褐色土(10YR3/1) 明黄褐色のP1粒子・ブロック多量。掘方埋土。



第75図 H17号住居址

第45表 H17号住居址出土遺物観察表

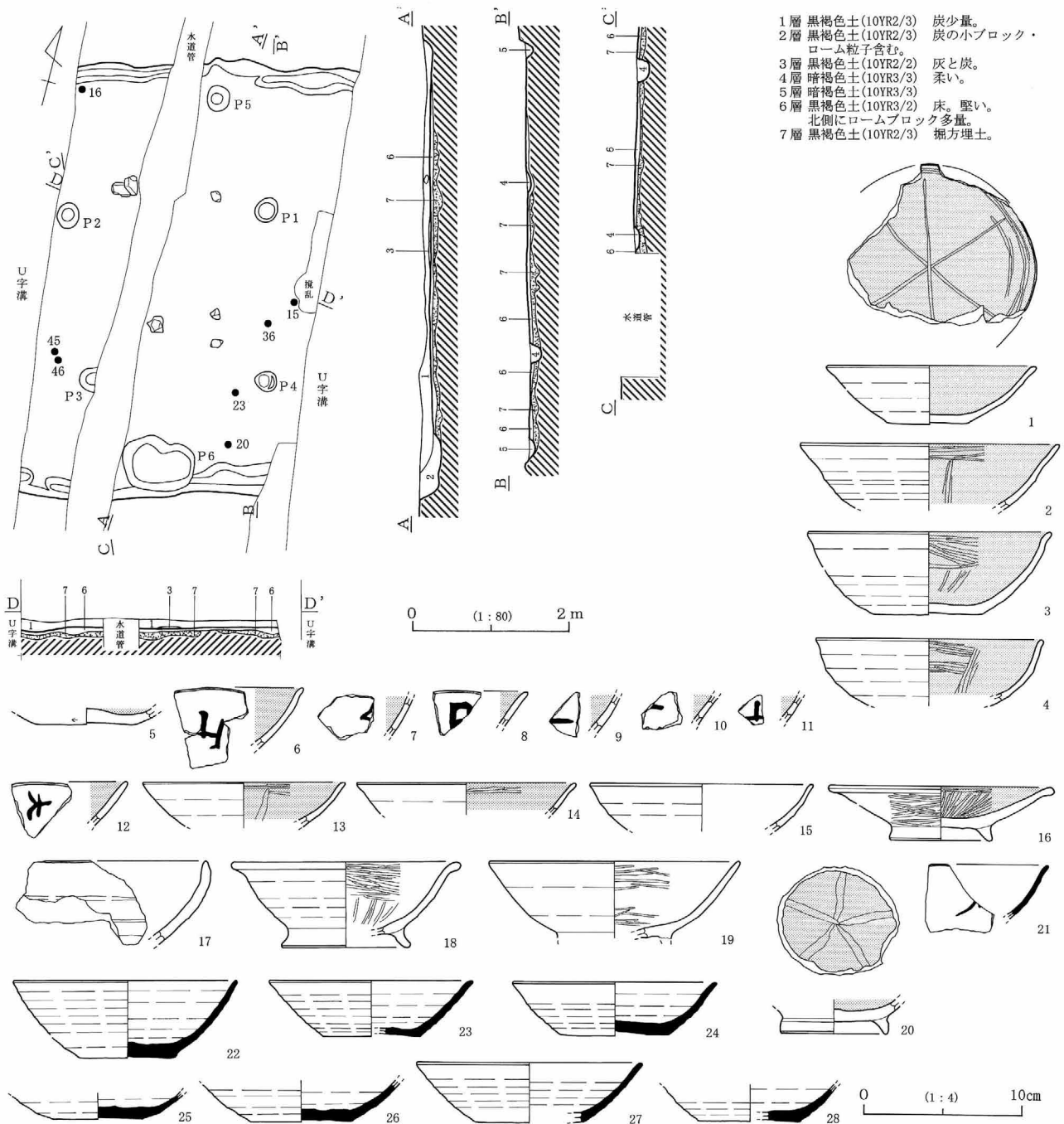
(cm・g)

H17			法 量			成形・調整・文様			推定値() 残存値<>丸底・			
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面			外 面		備 考	出土位置
1	土師器	坏	13.6	-	<3.1>	ヘラミガキ。黒色処理			ロクロナデ。口唇部焼成前に外側より押しした歪あり		回転実測	ホリ方
2	須恵器	坏	13.6	-	<2.9>	ロクロナデ			ロクロナデ		回転実測	覆土
3	土師器	ロクロ甕	-	(7.6)	<2.4>	ナデ			回転糸切り		回転実測	ホリ方
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量		所 見		出 土 位 置		
4	刀子	鉄	<12.7>	<1.2>	<0.5>	<16.87>		両端欠損。木質付着。		No.1		

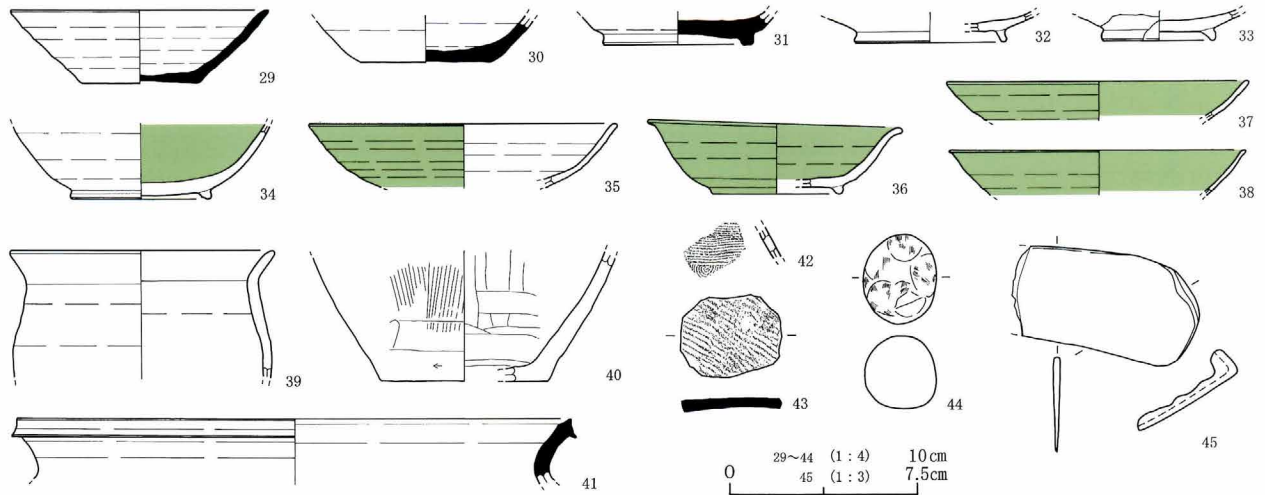
遺物は土師器坏・甕、須恵器坏、金属器がある。1の土師器坏は内面黒色処理される。3は土師器ロクロ甕で底部回転糸切り。4は木質が付着している鉄製の刀子である。

本址は、これらの遺物より平安時代9世紀代に位置づけられよう。

(18) H18号住居址



第76図 H18号住居址(1)



第77図 H18号住居址(2)

ひ・ふ-64~66 Gr にあり、H19・H20・H22・D37を切る。西壁・東壁は調査区域外に伸びる。カマドは調査範囲内では確認できない。ピットは6個検出された。台形状に配されるP1~P4が、支柱穴とみられる。桁行き220cm、梁行き260cm・220cmを測る。P6は出入り口施設の基礎であろう。床は堅く締め平坦である。北壁・南壁下を壁溝が巡る。覆土1・2層に炭・炭の小ブロック含む。ほぼ中央付近の床面に炭と灰の堆積が見られた。

遺物は土師器坏1~15、土師器皿16、土師器鉢17、土師器碗18~20、土師器甕39・40、須恵器坏21

第46表 H18号住居址出土遺物観察表(1)

(cm・g)

No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様		推定値() 残存値 < > 丸底・出土位置	
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面		
1	土師器	坏	(13.3)	5.2	3.7	ヘラミガキ。暗文。黒色処理	ロクロナデ。底部右回転糸切り	完全実測	IV区床
2	土師器	坏	(16.4)	-	<4.2>	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ	回転実測	IV区床
3	土師器	坏	(15.4)	7.2	5.3	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ。底部回転糸切り	完全実測	II区 III区床 U66
4	土師器	坏	(14.4)	-	<4.3>	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ	回転実測	IV区床
5	土師器	坏	-	(6.2)	<1.0>	ヘラミガキ。黒色処理	手持ちヘラケズリ	回転実測	I区覆土
6	土師器	坏	-	-	-	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ。墨書あり[上]	断面実測	IV区P5
7	土師器	坏	-	-	-	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ。墨書あり	断面実測	III区覆土
8	土師器	坏	-	-	-	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ。墨書あり	断面実測	IV区覆土
9	土師器	坏	-	-	-	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ。墨書あり	断面実測	III区覆土
10	土師器	坏	-	-	-	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ。墨書あり	断面実測	IV区覆土
11	土師器	坏	-	-	-	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ。墨書あり	断面実測	IV区覆土
12	土師器	坏	-	-	-	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ。墨書あり[大]	断面実測	II区覆土
13	土師器	坏	(13.0)	-	<2.8>	ヘラミガキ。暗文。黒色処理	ロクロナデ	回転実測	IV区
14	土師器	坏	(14.0)	-	<1.9>	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ	回転実測	IV区床
15	土師器	坏	(14.2)	-	<3.0>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	No.4
16	土師器	皿	14.3	(6.4)	3.5	ヘラミガキ。黒色処理	ヘラミガキ。黒色処理。底部高台貼付後ヘラミガキ	完全実測 内外面黒色処理	No.8 II・IV区
17	土師器	鉢	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	破片実測	IV区覆土
18	土師器	碗	(14.6)	(8.2)	(5.6)	ヘラミガキ	ロクロナデ。底部回転糸切り。高台貼付	回転実測	IV区床
19	土師器	碗	(16.0)	-	<4.9>	ヘラミガキ	ロクロナデ。底部ナデ。高台欠損	回転実測	IV区覆土
20	土師器	碗	-	6.9	<2.2>	暗文。黒色処理	ロクロナデ。底部回転糸切り→高台貼付	完全実測	No.1
21	須恵器	坏	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ。墨書あり	断面実測	IV区覆土
22	須恵器	坏	(14.3)	6.2	5.0	ロクロナデ	ロクロナデ。底部回転糸切り	完全実測	IV区床
23	須恵器	坏	(13.0)	(6.2)	(3.7)	ロクロナデ	ロクロナデ。底部回転糸切り	回転実測 内外面火だすき有	No.2 U66
24	須恵器	坏	(13.0)	(7.0)	3.5	ロクロナデ	ロクロナデ。底部右回転糸切り	回転実測 内外面火だすき有	II区床 I区 II区1層
25	須恵器	坏	-	(5.6)	<1.8>	ロクロナデ	ロクロナデ。底部回転糸切り	回転実測 内外面火だすき有	III区床
26	須恵器	坏	-	(6.6)	<2.7>	ロクロナデ	ロクロナデ。底部回転糸切り	回転実測 内外面火だすき有	III区床 U65
27	須恵器	坏	(14.4)	(7.0)	(3.9)	ロクロナデ	ロクロナデ。底部回転糸切り	回転実測	III区覆土
28	須恵器	坏	-	(6.4)	<2.5>	ロクロナデ	ロクロナデ。底部回転糸切り	回転実測	II区覆土
29	須恵器	坏	(13.6)	(6.4)	3.9	ロクロナデ	ロクロナデ。底部回転糸切り	回転実測	IV区床
30	須恵器	坏	-	(7.0)	<2.5>	ロクロナデ	ロクロナデ。底部右回転糸切り	回転実測	II区覆土

H18号住居址出土物観察表(2)

(cm・g)

H18			法 量			成形・調整・文様		推定値() 残存値 < > 丸底・	
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
31	須恵器	有台坏	-	(8.0)	<1.8>	ロクロナデ	ロクロナデ。底部回転糸切り。高台貼付	回転実測	IV区床
32	灰釉陶器	碗	-	(8.0)	<1.6>	ロクロナデ。施釉	ロクロナデ。施釉。高台貼付	回転実測	IV区床 66
33	灰釉陶器	碗	-	(6.0)	<1.6>	ロクロナデ。施釉	ロクロナデ。施釉。高台貼付	回転実測	II区床
34	灰釉陶器	碗	-	(7.4)	<4.0>	ロクロナデ。施釉	ロクロナデ。底部回転ヘラケズリ。高台貼付。施釉	回転実測	IV区 66
35	灰釉陶器	碗	(16.4)	-	<3.4>	ロクロナデ。施釉	ロクロナデ。施釉。高台貼付	回転実測	IV区覆土
36	灰釉陶器	碗	13.5	6.8	3.8	ロクロナデ。施釉	ロクロナデ。体部下端及び底部回転ヘラケズリ。高台貼付。施釉	完全実測	III区床 No.3
37	灰釉陶器	碗	(16.0)	-	<2.1>	ロクロナデ。施釉	ロクロナデ。施釉	回転実測	IV区 65
38	灰釉陶器	碗	(15.6)	-	<2.4>	ロクロナデ。施釉	ロクロナデ。施釉	回転実測	P5
39	土師器	ロクロ甕	(14.0)	-	<6.9>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	IV区床 D37
40	土師器	ロクロ甕	-	(9.0)	<6.8>	ヘラナデ	ハケ目ヘラケズリ。ヘラナデ	回転実測	IV区床
41	須恵器	甕	(29.2)	-	<3.5>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	IV区床
42	弥生土器	甕	内面 ナデ。外面 櫛描横走文下に櫛描円弧文(中島式案)。					後期後半	IV区床
43	須恵器	土製品	土器片円板。楕円形。胴部片。敲打痕。割離痕。長径 5.4 短径 4.4 厚さ 0.6。					後期後半	IV区床
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見	出土位置	
44	磨石		4.8	3.9	3.9	83.83	全体にすり	No.7	
45	鎌	鉄	<7.3>	<4.0>	<0.4>	<39.45>	裏面に木質付着	No.6	

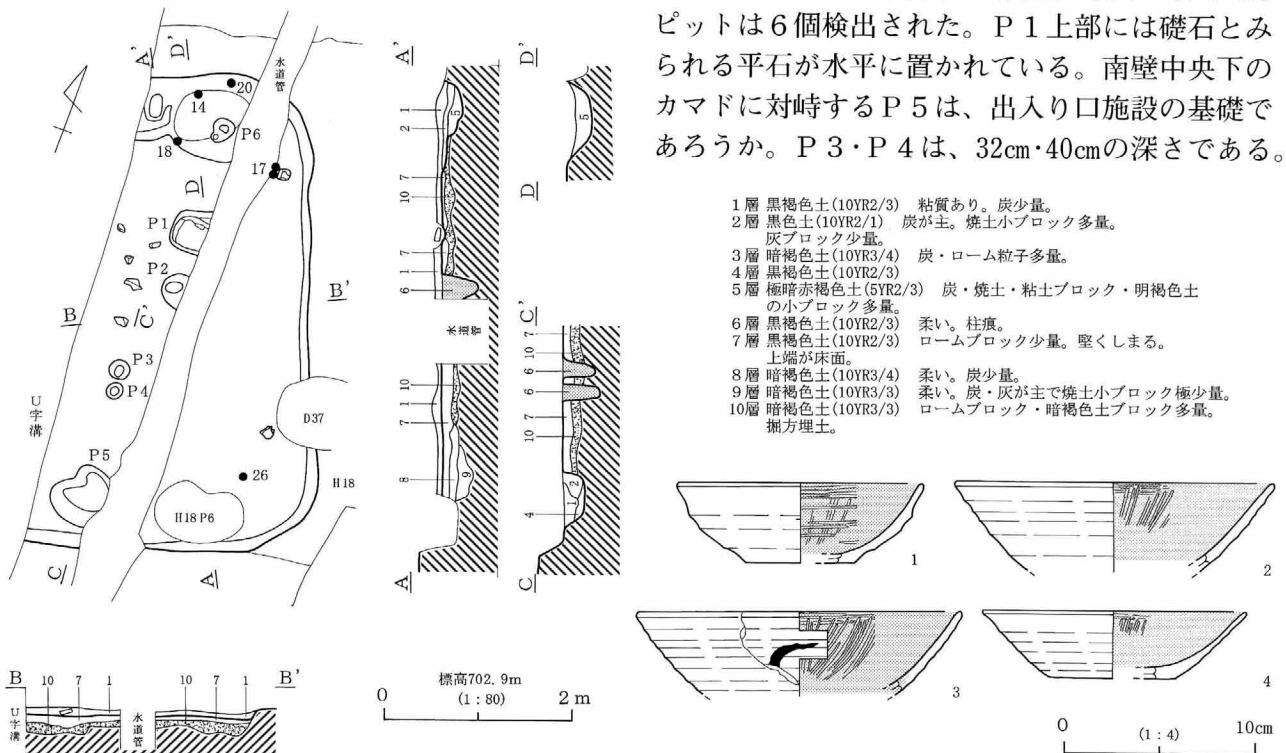
～31、須恵器有台坏31、須恵器甕41、灰釉陶器碗32～38、土製品43、44の磨石、鉄器45がある。弥生時代後期土器は、混入遺物である。

土師器環1～14・17、皿16、碗20は、内面黒色処理される。土師器1・3・18・20、須恵器坏22～30・有台坏31の底部は回転糸切り。土師器坏6～12は墨書される。6の墨書は「上」、12は「大」と読める。17の鉢は口縁部内弯する。灰釉陶器の釉は漬け掛け、34・36の底部は回転ヘラケズリ、36は体部下端回転ヘラケズリ。39・40は土師器ロクロ甕である。土製品須恵器甕胴部片を加工した楕円形の土器片円板43の側面には、敲打痕がみえる。45は木質が付着する鎌である。混入遺物42は、内面ヘラナデ外面櫛描横走文下に伊那谷中島式系の櫛描円弧文施文される。

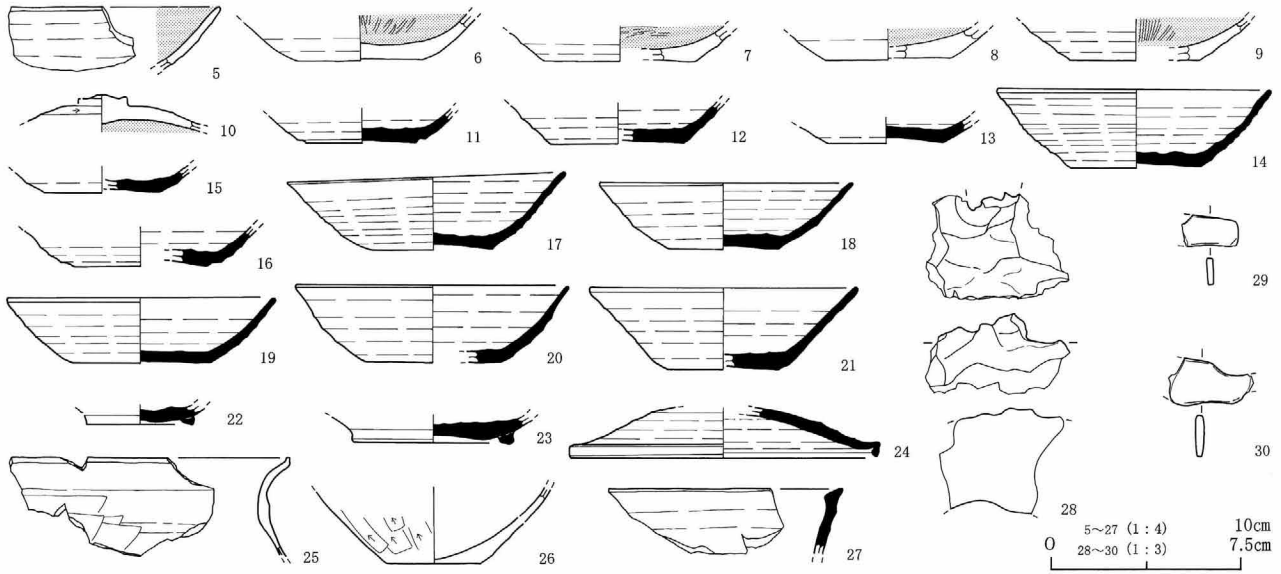
本址は、これらから小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代VI期- 9世紀後半に位置づけられる。

(19) H19号住居址

ひ・ふ-64～66 Gr にあり、H20を切り、H18・D37に切られる。北壁東寄りのカマドは、原形を留めない。住居址西側半分は調査区域外に伸びる。ピットは6個検出された。P1上部には礎石とみられる平石が水平に置かれている。南壁中央下のカマドに対峙するP5は、出入口口施設の基礎であろうか。P3・P4は、32cm・40cmの深さである。



第78図 H19号住居址(1)



第79図 H19号住居址(2)

床面は平坦で堅く締まる。

遺物は土師器杯1~9、土師器蓋10、土師器甕25・26、須恵器杯11~21、須恵器有台杯22・23、須恵器蓋24、須恵器甕、土製品28、鉄器29・30が出土した。栽培種のイネが262個IV区掘方から、モモ1個がカマドから、オオムギが1個とダイズ類? 1個が覆土から、獣類の部位不明破片の焼骨が掘方からそれぞれ検出された。イネ・モモ・オオムギ等は、それぞれ炭化していた。

土師器杯1~9・蓋10は、内面黒色処理される。土師器杯1・4、須恵器杯11~21、有台杯22・23の底部は回転糸切り。土師器杯6は底部回転糸切り後手持ちヘラケズリ、土師器杯8は底部回転糸切り後ヘラナデ、土師器杯9は手持ちヘラケズリされる。土師器杯3は墨書される。25・26は土師器武蔵甕で、25は「コ」字口縁部を持つ。28の土製品は、鞆の羽口であろう。29の鉄器は刀子である。

第47表 H19号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

H19			法 量			成形・調整・文様			推定値() 残存値<>丸底・備考	
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置	
1	土師器	杯	(12.8)	(5.8)	4.3	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り	回転実測	Ⅳ区1層	
2	土師器	杯	(16.6)	-	<4.8>	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転実測	Ⅱ区1層 Ⅳ区2層	
3	土師器	杯	(17.0)	-	<4.4>	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ。墨書あり	回転実測	Ⅰ区覆土	
4	土師器	杯	(13.8)	(6.6)	3.6	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り	回転実測	Ⅱ区 H18Ⅲ区床	
5	土師器	杯	-	-	<3.3>	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ	破片実測	Ⅳ区覆土	
6	土師器	杯	-	(6.6)	<2.4>	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り→手持ちヘラケズリ	回転実測	Ⅲ区覆土	
7	土師器	杯	-	(8.0)	<1.9>	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部ヘラケズリ	回転実測	Ⅳ区ホリ方	
8	土師器	杯	-	(6.6)	<1.6>	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り→ヘラナデ	回転実測	カマド	
9	土師器	杯	-	(6.8)	<2.2>	ヘラミガキ→黒色処理?	ロクロナデ→底部手持ちヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区1層 ぶ65	
10	土師器	蓋	-	つまみ径(2.6)	<1.9>	ヘラミガキ→黒色処理	天井部回転ヘラケズリ→つまみ貼付	完全実測	Ⅳ区ホリ方	
11	須恵器	杯	-	(5.8)	<1.8>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り	回転実測 内・外面に火だすき有	Ⅲ区 ぶ65	
12	須恵器	杯	-	(7.2)	<2.2>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り	回転実測	Ⅲ区覆土	
13	須恵器	杯	-	(6.0)	<1.4>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り	回転実測	カマド	
14	須恵器	杯	14.3	6.8	4.1	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り	完全実測	No.2	
15	須恵器	杯	-	(6.0)	<1.5>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り	回転実測	Ⅱ区覆土	
16	須恵器	杯	-	(7.0)	<2.1>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り	回転実測	Ⅰ区ホリ方	
17	須恵器	杯	14.7	6.3	3.9	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り	完全実測 内外面に火だすき有	No.4・5 カマドホリ方	
18	須恵器	杯	13.4	5.8	3.5	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り	完全実測 内外面に火だすき有	No.3	
19	須恵器	杯	(14.0)	(7.2)	3.4	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り	回転実測	Ⅳ区ホリ方	
20	須恵器	杯	(14.8)	(7.4)	4.1	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り	回転実測	No.1 カマドホリ方	
21	須恵器	杯	(14.2)	(5.8)	4.3	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り	回転実測 内・外面に火だすき有	カマド Ⅰ区 Ⅱ区	
22	須恵器	有台杯	-	5.6	<1.1>	ロクロナデ	ロクロナデ→回転糸切り後高台貼付	完全実測	Ⅳ区ホリ方	
23	須恵器	有台杯	-	(8.4)	<1.5>	ロクロナデ	ロクロナデ→回転糸切り→高台貼付	回転実測	Ⅳ区ホリ方	
24	須恵器	蓋	16.3	-	<2.7>	ロクロナデ	ロクロナデ→天井部回転ヘラケズリ	完全実測	カマド ぶ66 ぶ65	
25	土師器	甕	-	-	<5.2>	口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ。ヘラケズリ	破片実測	Ⅰ区ホリ方	
26	土師器	甕	-	(5.0)	<4.1>	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	No.6	
27	須恵器	甕?	-	-	<3.5>	ロクロナデ	ロクロナデ	破片実測	カマド H18Ⅳ区床	
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見			出土位置
28	羽口?	土製品	外径	内径		<44.45>	羽口の先端部か? 鉄粉付着。			カマド
29	刀子?	鉄	<2.3>	<1.2>	<0.2>	<2.11>	左側欠損。			Ⅰ区ホリ方
30	不明	鉄	<3.4>	<1.9>	<0.35>	<7.65>	右端欠損。			Ⅱ区覆土

本址は、これらの遺物から小林眞寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代V期- 9世紀前半に位置づけられる。

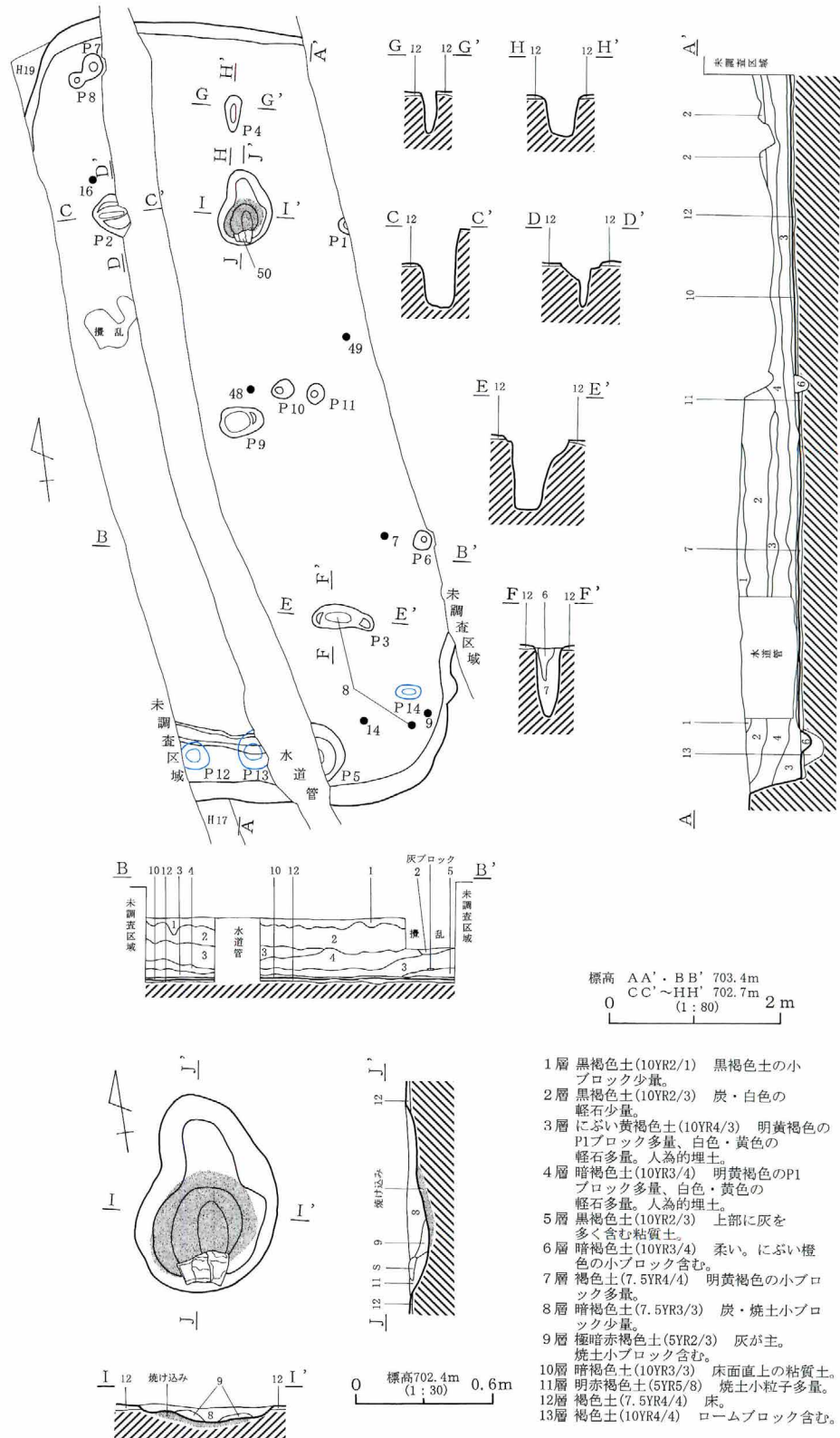
(20) H20号住居址

ひ・ふ-64~67GrにありH17~H19・D37に切られる。炉は支柱穴P1・P2間にある。炉は台石として使用されたとみられる第81図50の礫を炉縁石として用いた地床炉で、北側にテラスを持ち5cm程掘りこまれている。炉底面は被熱で赤変していた。炉内に残存することは、稀な灰が確認された。ピットは7個検出され、P2・P3の支柱穴の掘方は、五平状の柱が想定される。P4は棟持柱、やはり、五平状の柱が想定される。桁行き4.6m梁行き2.8m。P5・P11・P12は出入口施設の基礎と考えられる。床面は堅く平坦で、掘方は極浅い。壁際を除く床面直上にH11・H12と同様に黒褐色の粘質土が張り付くように認められた。

覆土第3・4層は、人為埋土である。

遺物は、甕(1~10・17~30・31~33)・壺(11・12・34~38)・鉢(13)・高坏(14・15)・蓋(16)の弥生土器、磨石47、凹石(48・49)、台石(50)、本址に伴わない縄文時代後期前半深鉢片、内面黒色処理・外面に墨書の土器器坏がある。

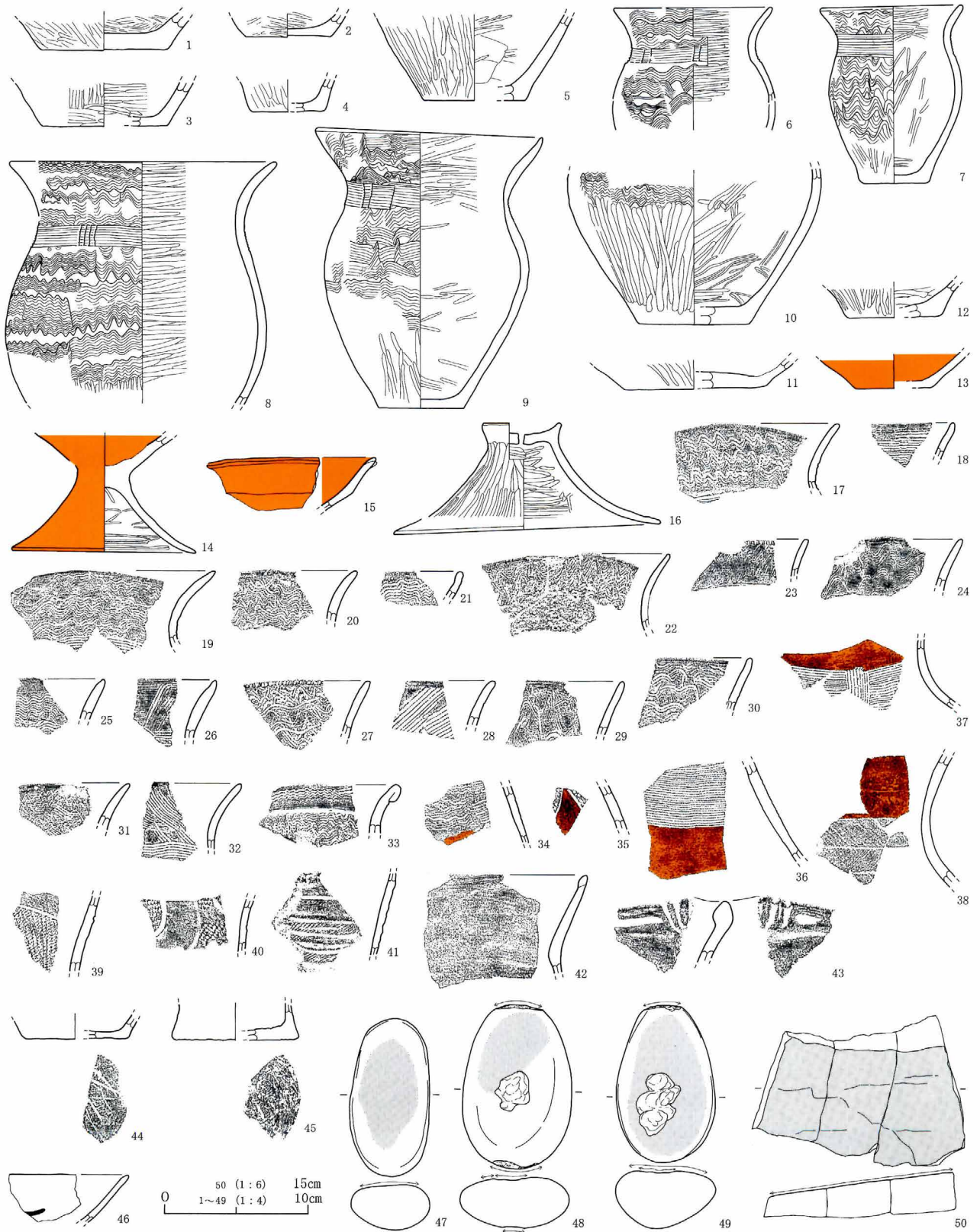
1~5は甕の底部、



- 1層 黒褐色土(10YR2/1) 黒褐色土の小ブロック少量。
- 2層 黒褐色土(10YR2/3) 炭・白色の軽石少量。
- 3層 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 明黄褐色のP1ブロック多量、白色・黄色の軽石多量。人為的埋土。
- 4層 暗褐色土(10YR3/4) 明黄褐色のP1ブロック多量、白色・黄色の軽石多量。人為的埋土。
- 5層 黒褐色土(10YR2/3) 上部に灰を多く含む粘質土。
- 6層 暗褐色土(10YR3/4) 柔い。にぶい橙色の小ブロック含む。
- 7層 褐色土(7.5YR4/4) 明黄褐色の小ブロック多量。
- 8層 暗褐色土(7.5YR3/3) 炭・焼土小ブロック少量。
- 9層 極暗赤褐色土(5YR2/3) 灰が主。焼土小ブロック含む。
- 10層 暗褐色土(10YR3/3) 床面直上の粘質土。
- 11層 明赤褐色土(5YR5/8) 焼土小粒子多量。
- 12層 褐色土(7.5YR4/4) 床。
- 13層 褐色土(10YR4/4) ロームブロック含む。

第80図 H20号住居址(1)

6～10・17・19は、櫛描簾状文・櫛描波状文が施文される甕である。口縁部と胴部に波状文が施文された後に頸部に簾状文が施文される。26・28・32には櫛描斜走文が、23・27の口唇部には刻目が、1の内



第81図 H20号住居址(2)

面には炭素吸着がみられる。13の内外面、14・15の坏部内外面、14脚部外面は赤色塗彩される。16は炭素吸着された蓋。34～38は外面赤色塗彩され、頸部の文様にはヘラ描斜走文・櫛描T字文・櫛描波状

第48表 H20号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

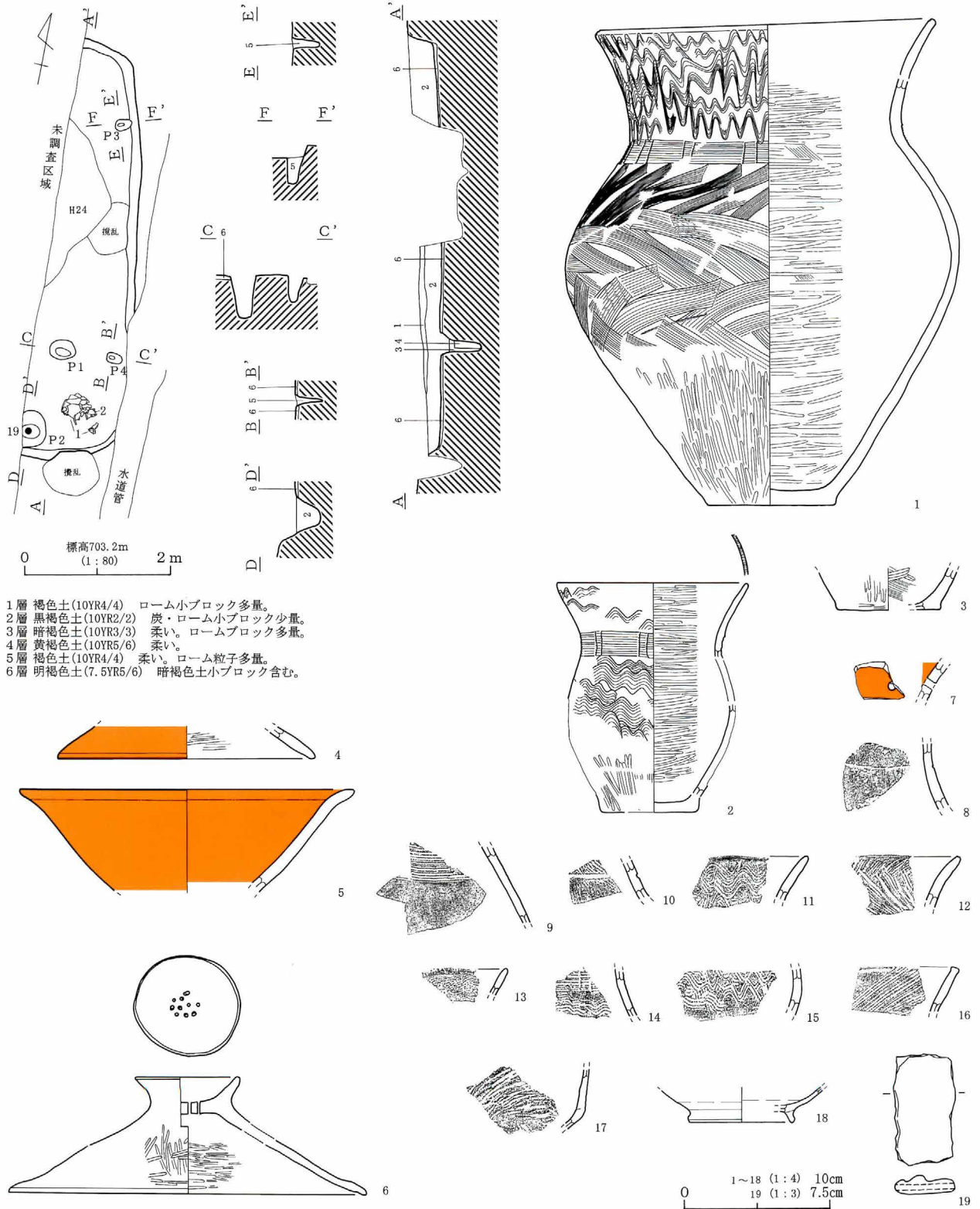
H20			法 量			成 形 ・ 調 整 ・ 文 様		推 定 値 () 残 存 値 < > 丸 底 ・	
No.	種 別	器 種	口 径 (長)	底 径 (幅)	器 高 (厚)	内 面	外 面	備 考	出 土 位 置
1	弥生土器	甕	-	(8.5)	<2.5>	ヘラミガキ→炭素吸着	ヘラミガキ	回転実測	Ⅳ区覆土
2	弥生土器	甕	-	(5.8)	<1.6>	ヘラミガキ	ヘラミガキ→底部ヘラミガキ	回転実測	Ⅲ区2・3・4層
3	弥生土器	甕	-	(8.6)	<3.0>	ヘラミガキ	ヘラミガキ。底部ヘラミガキ	回転実測	Ⅲ区3層
4	弥生土器	甕	-	(5.0)	<2.2>	ヘラナデ	ヘラミガキ	回転実測	Ⅳ区1層
5	弥生土器	甕	-	(7.0)	<6.0>	ヘラナデ	ヘラミガキ	回転実測	Ⅳ区2層
6	弥生土器	甕	11.2	-	<8.0>	ヘラミガキ	櫛描波状文→櫛描簾状文	回転実測	Ⅳ区床
7	弥生土器	甕	9.9	4.3	12.4	ヘラミガキ	櫛描波状文→櫛描横走文。底部ヘラミガキ	完全実測	No.4
8	弥生土器	甕	(19.0)	-	<17.0>	ヘラミガキ	櫛描波状文→櫛描簾状文	完全実測	No.5・7 ふ 66 Ⅲ区3層 Ⅲ区床
9	弥生土器	甕	15.9	5.9	19.5	ヘラミガキ	櫛描波状文→櫛描簾状文。底部ミガキ	完全実測	No.6
10	弥生土器	甕	-	(7.6)	<11.0>	ヘラミガキ	櫛描波状文→ヘラミガキ。底部ヘラミガキ	回転実測	Ⅳ区 Ⅳ区2・3・4層
11	弥生土器	壺	-	(9.5)	<2.0>	ナデ。剥離	ヘラミガキ	回転実測	Ⅳ区 1層
12	弥生土器	壺	-	(6.0)	<2.5>	ヘラナデ	ヘラミガキ。底部ヘラミガキ	回転実測	Ⅱ区覆土
13	弥生土器	鉢	-	5.3	<2.5>	赤色塗彩	赤色塗彩	完全実測	Ⅲ区2・3・4層
14	弥生土器	高坏	-	12.7	<7.9>	坏部 赤色塗彩・剥離している。脚部ミガキ	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測	Ⅳ区床 No.8
15	弥生土器	高坏	-	-	-	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	破片実測	Ⅲ区3層
16	弥生土器	蓋	5.5	18.7	<7.5>	ヘラミガキ→炭素吸着	ヘラミガキ	完全実測	Ⅱ区 No.1
17	弥生土器	甕	櫛描波状文。櫛描簾状文。					後期	Ⅳ区1層
18	弥生土器	甕	櫛描波状文。					後期	Ⅲ区覆土
19	弥生土器	甕	櫛描波状文→櫛描簾状文。					後期	Ⅲ区2層
20	弥生土器	甕	櫛描波状文。					後期	Ⅳ区2層
21	弥生土器	甕	櫛描波状文。					後期	Ⅳ区覆土
22	弥生土器	甕	櫛描波状文。					後期	Ⅱ区5層 Ⅳ区床
23	弥生土器	甕	櫛描波状文→櫛描横走文。口唇部に刻目。					後期	Ⅳ区2層
24	弥生土器	甕	櫛描波状文。					後期	Ⅰ区覆土
25	弥生土器	甕	櫛描波状文。					後期	Ⅳ区E
26	弥生土器	甕	櫛描斜走文→櫛描横走文。					後期	Ⅳ区2・3・4層
27	弥生土器	甕	櫛描波状文。口唇部に刻目。					後期	Ⅲ区1層
28	弥生土器	甕	櫛描斜走文。					後期	Ⅳ区床
29	弥生土器	甕	櫛描波状文。					後期	Ⅱ区覆土
30	弥生土器	甕	櫛描波状文。					後期	Ⅳ区3層
31	弥生土器	甕	櫛描波状文。					後期	Ⅳ区3層
32	弥生土器	甕	櫛描斜走文→櫛描横走文。					後期	Ⅳ区床
33	弥生土器	甕	櫛描波状文。折り返し口縁。					後期	Ⅳ区1層
34	弥生土器	甕	頸部に櫛描波状文。外面 赤色塗彩。					後期	Ⅱ区2層
35	弥生土器	甕	頸部に刺突を充填するヘラ描鉅歯文。外面 赤色塗彩。					後期	Ⅱ区覆土
36	弥生土器	壺	頸部に櫛描横走文。外面 赤色塗彩。					後期	Ⅳ区床
37	弥生土器	壺	頸部に櫛描T字文。内外面 赤色塗彩。					後期	Ⅳ区3層
38	弥生土器	壺	頸部にヘラ描斜走文を横位羽状に施文。内外面 赤色塗彩。					後期	Ⅲ区 Ⅱ区5層 Ⅳ区3層
39	縄文土器	深鉢	沈線区画内に縄文RL。					堀之内	Ⅳ区1層
40	縄文土器	深鉢	弧状沈線、縄文LR。					称名寺?	Ⅰ区覆土
41	縄文土器	深鉢	横位沈線下に矩形・弧状沈線区画。縄文LR。					堀之内2	Ⅱ区5層
42	縄文土器	深鉢	口縁部内折。所謂粗製土器。					堀之内	Ⅱ区覆土
43	縄文土器	深鉢	小突起に縦位の短い沈線。口縁部に沿って横位沈線。					堀之内1	Ⅳ区覆土
44	縄文土器	深鉢	底部 木葉痕。					堀之内	Ⅱ区5層
45	縄文土器	深鉢	底部より内傾気味に立ち上る。底径(8.7) 器高<2.6>。					後期前半	Ⅱ区5層
46	土師器	坏	内面 ヘラミガキ→黒色処理。外面 墨書					破片実測	Ⅳ区2層
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見		出 土 位 置
47	磨石		11.0	5.6	3.2	304.24	正面にすり面。		Ⅰ区覆土
48	凹石		11.5	7.6	3.6	420.40	被熱あり?(一部黒化)上下端部と正裏に敲打痕。正面にすり面。		No.3
49	凹石		11.0	7.0	4.0	475.57	上端部と正面に敲打痕。正面にすり面。		No.2
50	台石		16.0	22.3	4.1	1880.00	正面が使用面。		No.10

文・刺突が充填されたヘラ描鋸歯文がある。

これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

(21) H21号住居址

ふ-63・64GrにありH24に切られ、H22・P161・P162を切る。炉は調査範囲内では検出されない。



第82図 H21号住居址

第49表 H21号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

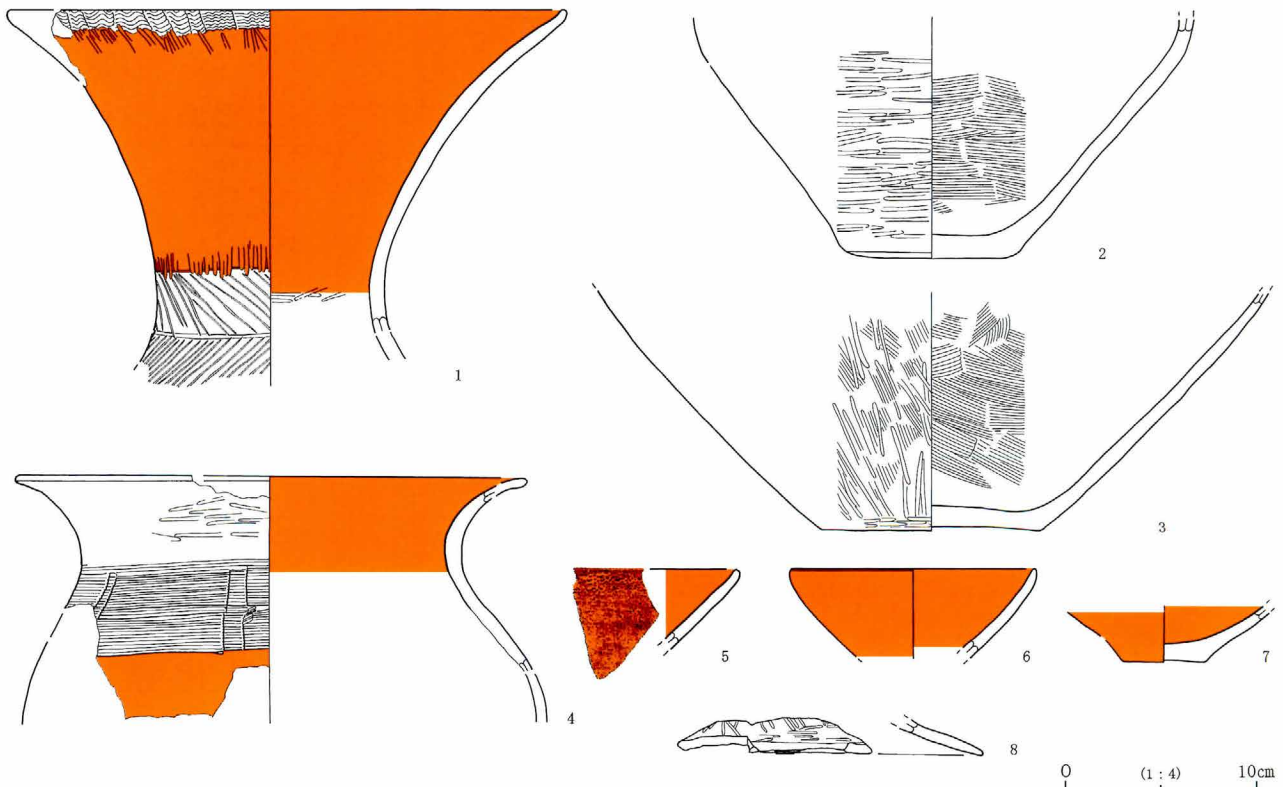
H21			法 量			成形・調整・文様		推定値() 残存値 < > 丸底・		
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置	
1	弥生土器	甕	<22.7>	8.6	32.9	ハケ目→ヘラミガキ	胴部 櫛描斜走文→頸部 櫛描波状文→下部ヘラミガキ	完全実測	No.1 No.3	
2	弥生土器	甕	13.1	(6.5)	15.6	ヘラミガキ	口唇部 刻目。口縁・胴部 櫛描波状文。頸部 櫛描波状文。下部 ヘラミガキ	完全実測	No.2 炉2 Ⅲ区床 S区	
3	弥生土器	甕	-	(7.0)	<2.9>	ハケ目→ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	H22Ⅱ区 N区	
4	弥生土器	高坏	-	(17.4)	<2.2>	ハケ目	ヘラミガキ→赤色塗彩	回転実測	カクラン N区	
5	弥生土器	高坏	(22.4)	-	<7.0>	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	回転実測	カクラン N区	
6	弥生土器	蓋	(24.4)	7.0	8.1	ハケ目→ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	穿孔あり ふ63カクラン N区 覆土	
7	弥生土器	壺	-	-	-	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩。ヘラ描沈線	破片実測	穿孔あり N区覆土	
18	灰釉陶器	碗	-	(7.0)	<2.5>	ロクロナデ	ロクロナデ切り離し後高台粘付	回転実測	N区覆土	
8	弥生土器	壺	ヘラ描沈線。ヘラ描斜走文。外面 赤色塗彩。			後期				S区覆土
9	弥生土器	甕	櫛描波状文。外面 赤色塗彩。			後期				ふ63カクラン N区
10	弥生土器	甕	ヘラ描沈線内に櫛描斜走文。外面 無色塗彩。							N区覆土
11	弥生土器	甕	櫛描波状文。							N区覆土
12	弥生土器	甕	櫛描斜走文。							N区覆土
13	弥生土器	甕	櫛描波状文。							N区覆土
14	弥生土器	甕	櫛描波状文。							S区覆土
15	弥生土器	甕	櫛描波状文。							N区覆土
16	弥生土器	甕	口唇部 面取り→口唇部 櫛描波状文。櫛描斜走文。							N区覆土
17	土師器	甕	内面 ヘラナデ。外面 クズリ調の粗いハケ目調整。タタキ?胎土は在地産と著しく異なり。灰白色(10YR8/1) 東海系か?			古墳~古代				N区覆土
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見		出土位置	
19	不明	鉄	5.8	3.2	推定(0.3)	34.12			No.4	

ピットは4個検出され、P1の主柱穴の掘方は、五平状の柱が想定される。P3・P4は壁柱穴、やはり、五平状の柱が想定される。P2は出入口施設の基礎と考えられる。床面は堅く平坦で、掘方は極浅い。

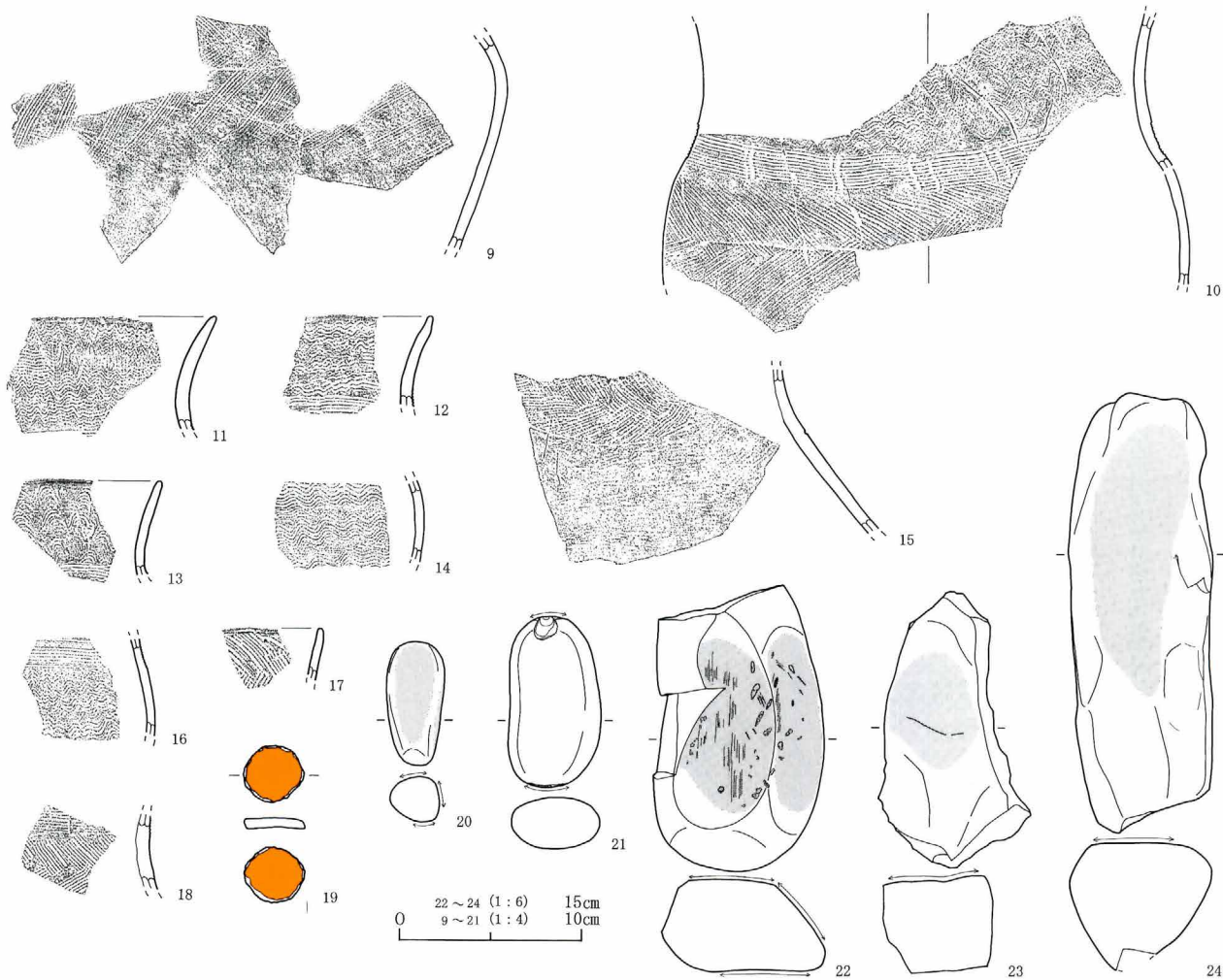
遺物は、甕(1~3・11~17)・壺(7~10)・高坏(4・5)・蓋(6)の弥生土器、鉄器19、本址に伴わない胎土灰白色の土師器東海系の甕(17)、灰釉陶器碗(18)がある。1は胴部櫛描斜走文後頸部櫛描波状文後口縁部櫛描波状文が、2は口縁部・胴部波状文後頸部櫛描波状文が施文される。11~15は櫛描波状文が、12・16は櫛描斜走文が施される。6の無彩の蓋は、小孔10個持つ。壺は赤彩7~9、無彩の8がある。これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

(22) H22号住居址

ひ・ふ-62~64GrにありH18・H21・H24・P161~164・P167に切られる。炉は3カ所から検出された。主柱穴P1・P2間の炉1は、主炉である。炉1は第84図4の深鉢を逆位に置き、第84図24の台石を



第83図 H22号住居址(1)



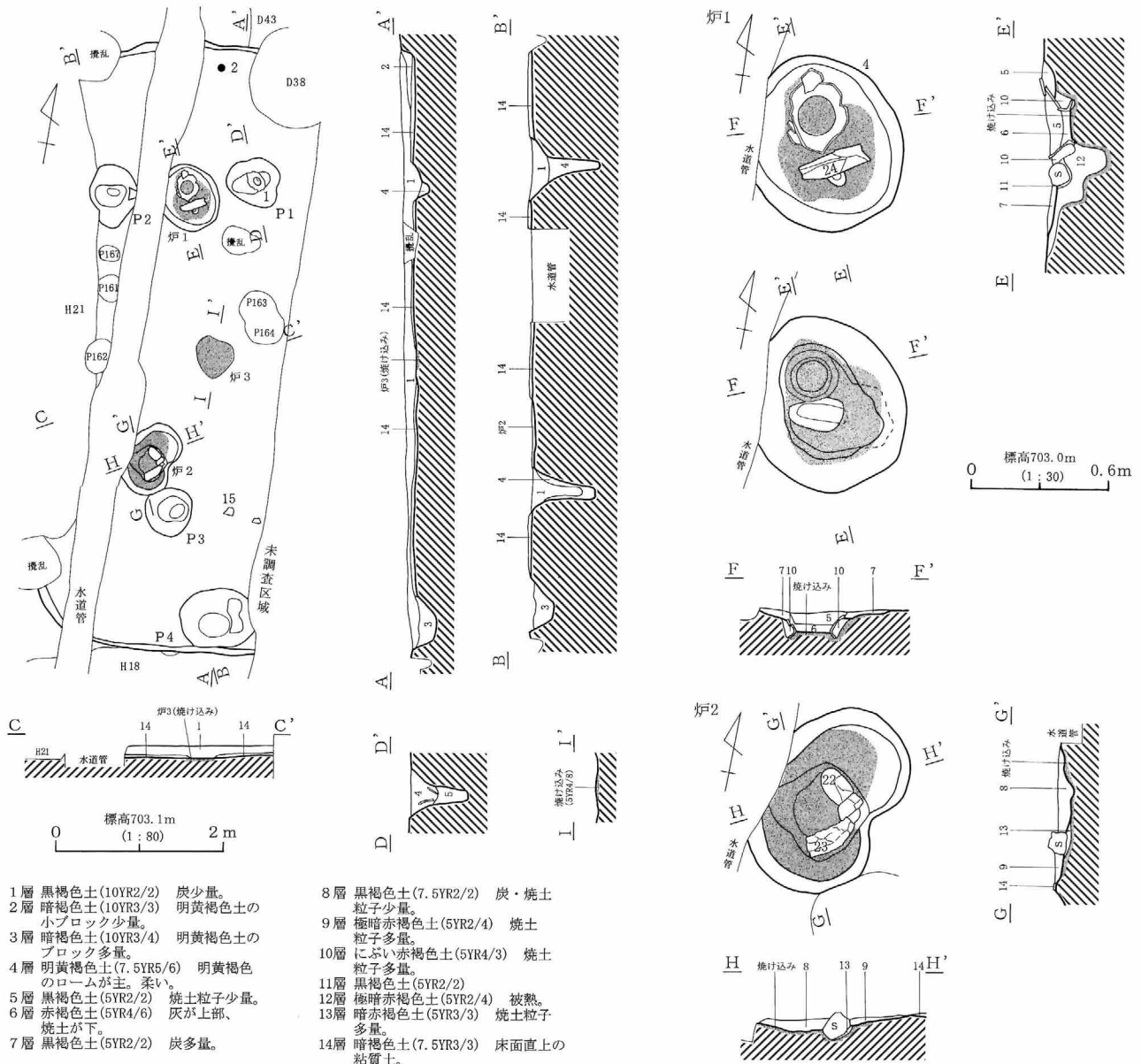
第84図 H22号住居址(2)

第50表 H22号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様		推定値() 残存値 < > 丸底・カクラン	備考	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面			
1	弥生土器	壺	(29.6)	-	<19.0>	ヘラミガキ→赤色塗彩	口唇部櫛描波状文。頸部ヘラ描沈線ヘラ描斜走文	完全実測	No.9	
2	弥生土器	壺	-	8.9	<12.8>	ハケメ	縁部ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測	No.8	
3	弥生土器	壺	-	(11.6)	<12.7>	ハケメ	ハケメ→ヘラミガキ	回転実測	Ⅱ区 凸64 凸63 カクラン	
4	弥生土器	深鉢	(26.8)	-	<13.3>	口縁部ヘラミガキ→赤色塗彩	頸部櫛描簾状文。胴部ヘラミガキ→赤色塗彩。口縁部ヘラミガキ	完全実測	No.1・3・4	
6	弥生土器	鉢	(11.8)	-	<4.8>	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	回転実測	Ⅲ区 凸64	
7	弥生土器	鉢	-	4.2	<3.0>	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測	Ⅲ区覆土	
8	弥生土器	蓋	-	-	<1.9>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	破片実測	Ⅲ区覆土	
5	弥生土器	壺	内面ヘラミガキ。外面口縁部櫛描波状文→ヘラミガキ→赤色塗彩。						断面実測	Ⅱ区覆土
9	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面横位羽状の櫛描斜走文。						断面実測	Ⅱ区 Ⅲ区床
10	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面口縁部櫛描波状文。胴部横位羽状の櫛描斜走文→頸部櫛描簾状文。頸部櫛描簾状文。						回転実測	Ⅱ区覆土
11	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面櫛描横走文 櫛描波状文。						断面実測	Ⅳ区覆土
12	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面櫛描簾状文→櫛描波状文。						断面実測	Ⅳ区覆土
13	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面櫛描波状文→櫛描簾状文。						断面実測	Ⅲ区床
14	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面櫛描波状文。						断面実測	Ⅲ区床
15	弥生土器	壺	内面ナデ。外面ヘラ描沈線内に櫛描斜走文を横位羽状。						断面実測	No.10
16	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面櫛描波状文 櫛描横走文。						断面実測	Ⅲ区床
17	弥生土器	壺	内面ヘラミガキ。外面櫛描斜走文を横位羽状。						断面実測	Ⅳ区覆土
18	弥生土器	甕	内面剥落。外面櫛描簾状文→櫛描斜走文を横位羽状。						断面実測	Ⅲ区床
19	弥生土器	土製品	土器片円板。円形。鉢か高坏片(表裏赤色塗彩)。敲打痕・研磨痕。径3.3 厚さ3.6。						断面実測	Ⅱ区覆土
No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見			
20	磨石		6.8	3.2	2.5	72.44	正裏・右側にすり面。	P4		
21	敲石		9.3	5.0	2.8	206.25	上下端部に敲打痕。	Ⅱ区覆土		
22	台石		23.6	14.2	7.8	4030.00	被熱あり(一部黒化)割れた状態で使用。正裏・右側が使用面。	H20 No.7 H22 No.7		
23	台石		22.7	12.5	8.3	2880.00	正面に使用痕。	No.6		
24	台石		36.0	11.9	<10.7>	<6840>	裏面一部欠損。正面が使用面。	No.5		

炉縁石にした埋甕炉である。炉底面はよく焼け込んでいる。深鉢内下部に焼土、上部に灰が堆積する。炉縁石から南に炭が多量にみられた。P3の北に接した炉2は、副炉といえよう。8cm掘り込み第84図22・23の台石等3個の礫を用いた「L」形の石囲炉である。炉底面はよく焼け込んでいる。炉3は



第85図 H22号住居址(3)

主軸線上炉1から1.2m南にある地床炉で、5cm程の窪みに焼土が堆積し底面はよく焼け込んでいます。ピットは4個検出され、P1～P3の支柱穴の掘方は、五平状の柱が想定される。桁行き4m梁行き1.8m。P4は出入口施設の基礎と考えられる。床面は堅く平坦で、掘方は極浅い。

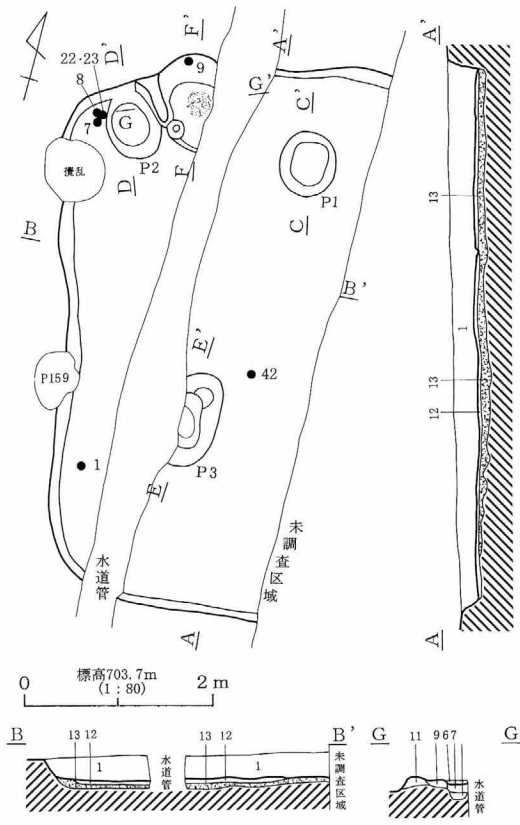
遺物は甕(9～14・16～18)・壺(1～3・5・15)・鉢(6・7)・深鉢(4)・蓋(8)の弥生土器、土製品、磨石(20)、敲石(21)、台石(22～24)、炉1から獣類の下顎骨・炉2内から獣類部位不明片の焼骨がある。

横位羽状の櫛描斜走文が9・10・11の胴部に、17の口縁部に施文される。10は胴部櫛描斜走文・口縁部櫛描波状文後頸部櫛描簾状文が、施される。1の壺は、極短く内弯気味の口縁端部に櫛描波状文・頸部に横位羽状のへら描斜走文を施文、赤色塗彩される。15の無彩壺頸部には、へら描横走沈線内に横位櫛描斜走文が施文される。6・7の鉢は、内外面赤色塗彩。8の蓋は無彩である。19の土製品は、表裏面赤色塗彩の鉢か高坏片を加工した円形の土器片円板で、側面に敲打痕・研磨痕が見える。

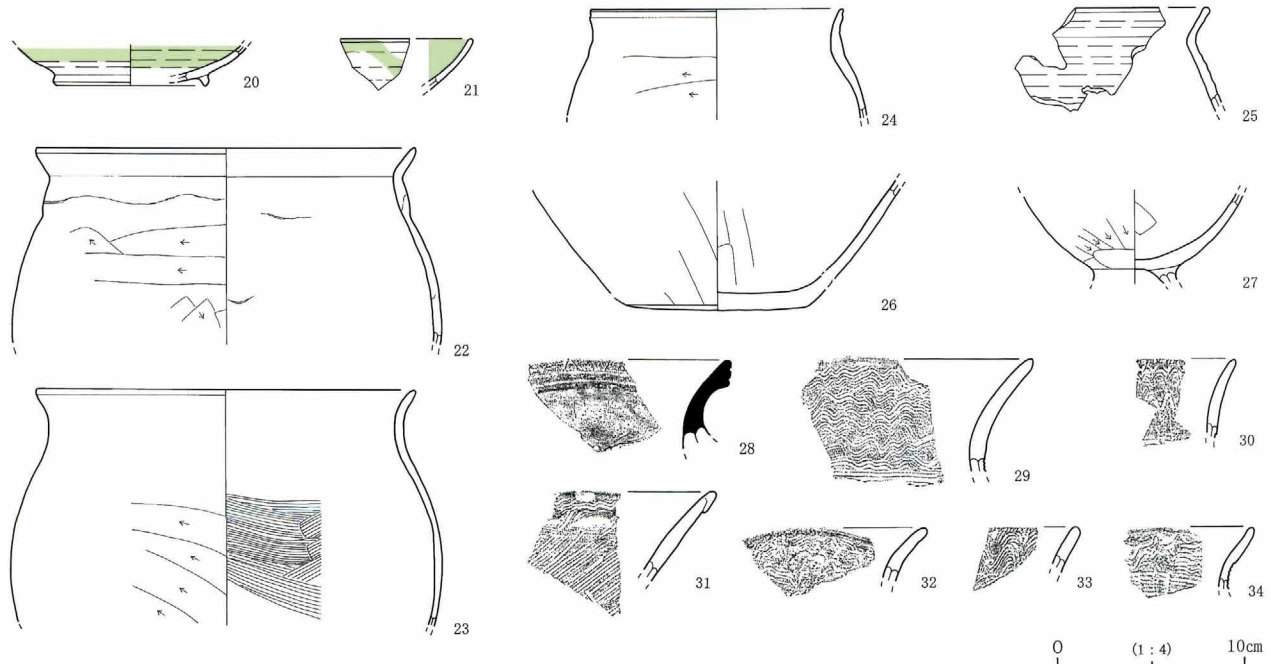
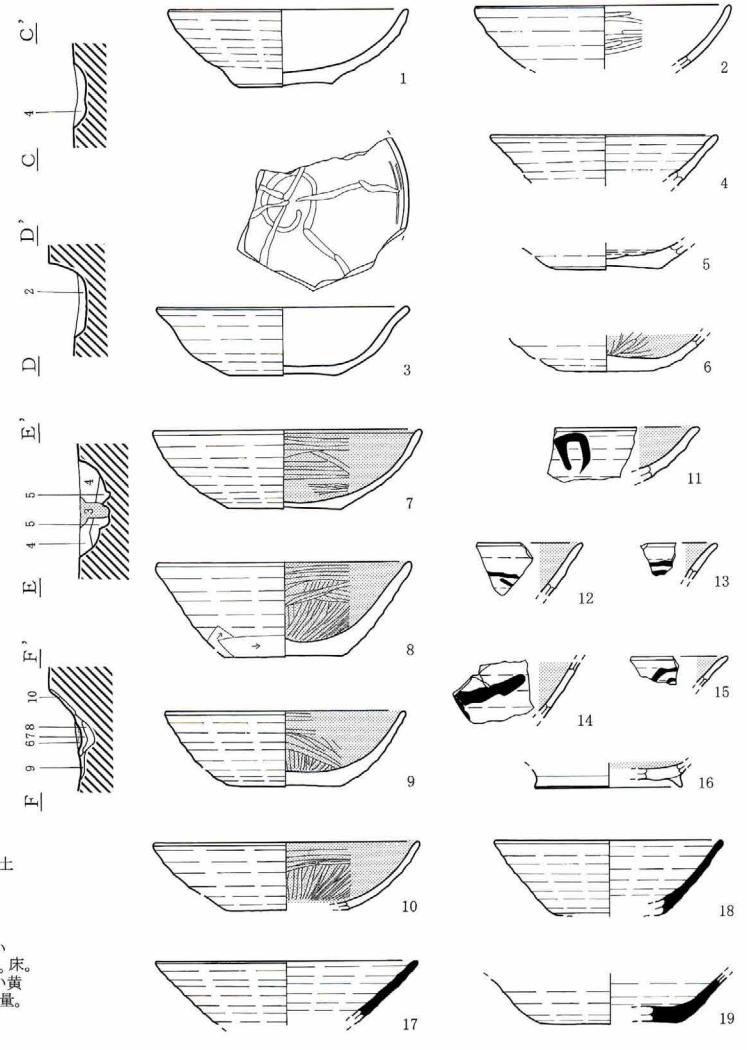
これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

(23) H23号住居址

ひ・ふ-58～60Grにあり、H25・H27・H32・F4を切り、P159に切られる。カマドは、北壁西よりに

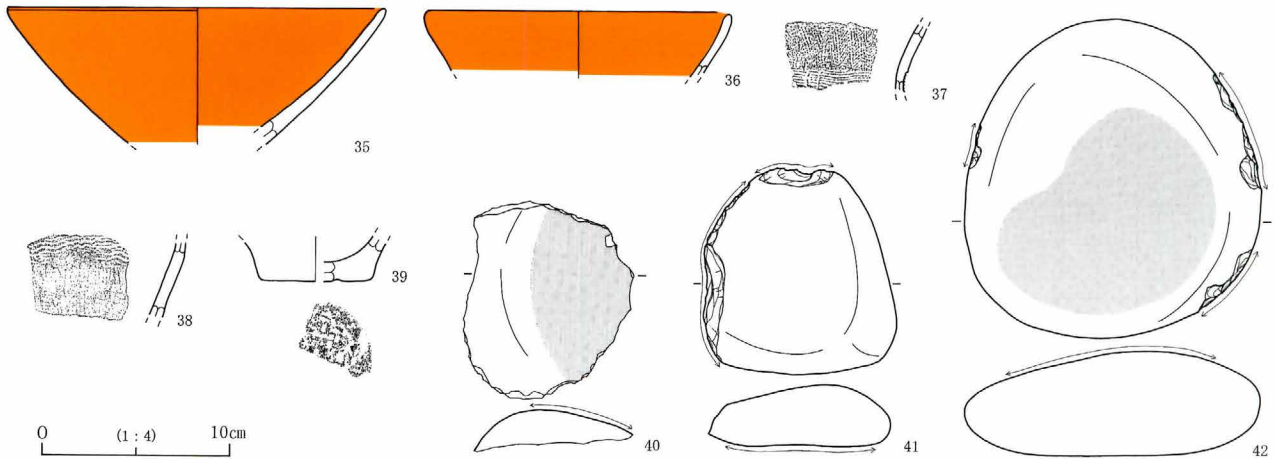


- | | |
|---|--|
| 1層 暗褐色土(10YR3/3) | 8層 にぶい黄褐色土(10YR4/3) |
| 2層 黒褐色土(5YR2/2) 炭・焼土
ブロック含む。 | 9層 極暗赤褐色土(5YR2/3) 焼土
粒子。炭微量含む。 |
| 3層 暗褐色土(10YR3/4) 柱痕。 | 10層 灰黄褐色土(10YR4/2) |
| 4層 暗褐色土(10YR3/3) 褐色土
ブロック含む。 | 11層 にぶい黄褐色土(10YR4/3)
ローム粒子多量。 |
| 5層 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 褐色
土・黒褐色土ブロック含む。 | 12層 黒褐色土(10YR3/2) にぶい
黄褐色土ブロック少量含む。床。 |
| 6層 褐色土(10YR4/4) 灰を多量に
含む。 | 13層 暗褐色土(10YR3/3) にぶい黄
褐色土・黒色土ブロック多量。 |
| 7層 暗褐色土(7.5YR3/3) 炭・灰
のブロック含む。 | |



0 (1:4) 10cm

第86図 H23号住居址(1)



第87図 H23号住居址(2)

第51表 H23号住居址出土遺物観察表(1)

(cm・g)

H23			法 量			成形・調整・文様		推定値() 残存値 < > 丸底・		
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置	
1	土師器	坏	12.7	5.4	4.2	ロクロナデ→ナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り	完全実測	No.6	
2	土師器	坏	(13.6)	-	<3.3>	ヘラミガキ	ロクロナデ→底部回転糸切り	回転実測	Ⅱ区覆土	
3	土師器	坏	(13.4)	(5.4)	3.6	ナデ→暗文施文	ロクロナデ→底部右回転糸切り	回転実測	Ⅲ区覆土	
4	土師器	坏	12.1	-	<2.6>	ロクロナデ	ロクロナデ	完全実測	Ⅲ区覆土	
5	土師器	坏	-	(6.0)	<1.4>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部右回転糸切り	完全実測	Ⅱ区覆土	
6	土師器	坏	-	5.0	<1.9>	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部右回転糸切り	完全実測	カマド	
7	土師器	坏	14.3	6.0	4.2	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部右回転糸切り	完全実測	No.3 カマド Ⅱ区	
8	土師器	坏	(13.6)	6.2	5.0	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部・底部外周ヘラケズリ	完全実測	No.1	
9	土師器	坏	(12.8)	6.2	4.0	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部右回転糸切り	完全実測	No.4	
10	土師器	坏	(14.2)	6.4	3.6	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り	完全実測	Ⅱ区 Ⅲ区 Ⅳ区	
11	土師器	坏	-	-	-	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ→墨書あり	破片実測	Ⅲ区覆土	
12	土師器	坏	-	-	-	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ→墨書あり	破片実測	Ⅳ区覆土	
13	土師器	坏	-	-	-	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ→墨書あり	破片実測	Ⅲ区覆土	
14	土師器	坏	-	-	-	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ→墨書あり	破片実測	Ⅳ区覆土	
15	土師器	坏	-	-	-	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ→墨書あり	破片実測	Ⅰ区覆土	
16	土師器	碗	-	(7.8)	<1.3>	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り→高台貼付	回転実測	Ⅲ区覆土	
17	須恵器	坏	(14.0)	-	<3.4>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	Ⅰ区覆土	
18	須恵器	坏	(12.2)	(6.0)	<4.1>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	Ⅱ区覆土	
19	須恵器	坏	-	(7.0)	<2.6>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り	回転実測	Ⅱ区覆土	
20	灰釉陶器	碗	-	(8.0)	<2.2>	ロクロナデ→灰釉施釉	ロクロナデ→切り離し後高台貼付→灰釉施釉	回転実測	Ⅲ区覆土	
21	灰釉陶器	碗	-	-	-	ロクロナデ→灰釉施釉	ロクロナデ→灰釉施釉	破片実測	Ⅳ区覆土	
22	土師器	甕	(20.0)	-	<10.4>	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ヘラケズリ	回転実測	No.2 Ⅱ区 カマド	
23	土師器	甕	(20.0)	-	<12.6>	ハケメ→ヨコナデ	ヘラケズリ→ヨコナデ	回転実測	No.2 Ⅱ区 カマド P2	
24	土師器	甕	(13.4)	-	<5.7>	ナデ	ヘラケズリ→ヨコナデ	回転実測	Ⅱ区覆土	
25	土師器	口ク口甕	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	破片実測	Ⅲ区覆土	
26	土師器	羽釜?	-	9.8	<6.4>	ヘラナデ	ヘラナデ	完全実測	Ⅳ区覆土	
27	土師器	有台甕	-	-	<4.8>	脚部ヨコナデ 甕部ヘラナデ	ヘラケズリ→ヘラナデ	回転実測	Ⅱ区覆土	
28	須恵器	甕	-	-	-			断面実測	Ⅲ区覆土	
35	弥生土器	鉢か高坏	(20.0)	-	<7.1>	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	回転実測	Ⅰ区 Ⅱ区 ホリ方	
36	弥生土器	鉢か高坏	(16.0)	-	<3.5>	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	回転実測	Ⅰ区覆土	
29	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描籬状文→櫛描波状文。						断面実測	Ⅱ区覆土
30	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文 口唇部刻み。						断面実測	Ⅱ区ホリ方
31	弥生土器	甕	折り返し口縁。内面 ミガキ。外面 口縁部櫛描波状文 口縁部横位羽状の櫛描斜文。						断面実測	Ⅳ区覆土
32	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文 口唇部刻み。						断面実測	Ⅱ区覆土

ある。にぶい黄褐色土の袖部が僅か残存し、袖部芯材を固定したと思われる小ピットが袖部先端に認められる。火床には、灰の堆積が見られる。床面は、堅く平坦である。ピットは、3個検出された。P3に径16cmの柱痕が認められた。カマド西脇のP2内覆土は、炭・焼土ブロックを含む。

遺物は土師器坏1~10、土師器皿碗16、土師器坏か碗11~15、土師器甕22~27、須恵器坏17~19、

H23号住居址出土遺物観察表(2)

(cm・g)

No.	種別	器種	所 見	備 考				
33	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文 口唇部刻み。	断面実測 I区覆土				
34	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描簾状文→櫛描波状文。	断面実測 覆土				
37	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描簾状文→櫛描波状文。	断面実測 III区覆土				
38	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。	断面実測 II区覆土				
39	縄文土器	深鉢	網代底。2本越2本潜り。底径(6.0)器厚<2.4>。	後期 II区ホリ方				
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見	出土位置
40	磨石		<10.4>	<9.0>	<1.8>	<221.94>	被熱あり(黒化)→被熱被砕片。全周欠損。正面にすり面。	P1
41	磨・敲石		10.9	10.1	3.3	532.00	被熱あり(一部黒化)上部・左側に敲打痕。裏にすり面。	カマド
42	磨・敲石		16.9	15.6	5.5	1914.51	被熱あり(一部黒化)縁辺に敲打痕。正面にすり面。	No.8

須恵器甕28、灰釉陶器碗20・21、40の磨石、磨面を持つ敲石41・42がある。I区覆土からウマの右下顎臼歯片が出土した。縄文時代後期・弥生時代後期土器は、混入遺物である。

土師器環6～19・土師器環か碗11～15は、内面黒色処理される。土師器1～3・5～7・9・10・16、須恵器環19の底部は回転糸切り。土師器環か碗11～15は墨書される。24・25は「コ」字口縁の土師器武蔵甕、25は土師器ロクロ甕である。27は台付きの土師器武蔵甕、26は羽釜かもしれない。

本址は、これらから小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代VI期-9世紀後半に位置づけられる。

(24) H24号住居址

ふ-63Grにあり、H21を切る。大半は調査区域外にある。カマド・炉等は調査範囲内では、検出されない。ピットは3個確認され、いずれも壁柱穴である。P3は床下から検出され径12cmの柱痕がみられた。床面は堅く締まり平坦である。壁溝が東壁・南壁下を巡る。

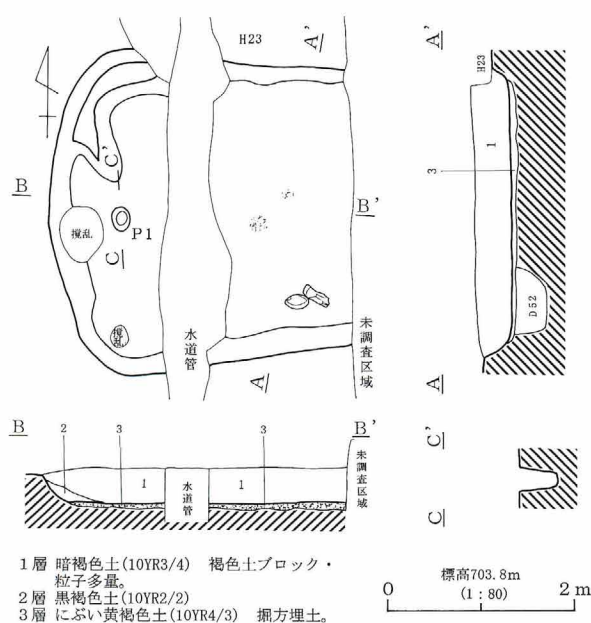
遺物は、横位のヘラ描沈線内にヘラ描斜走文が施文され赤色塗彩される1の壺、口縁部・胴部に櫛描波状文施文後頸部に櫛描簾状文が施される甕が出土した。重複する弥生時代後期H21に帰属する可能性があり、本址の時期等詳細は不明である。

第52表 H24号住居址出土遺物観察表

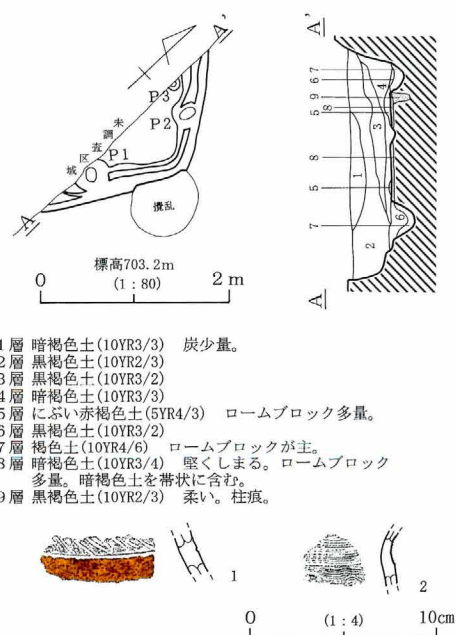
(cm・g)

No.	種別	器種	文 様 ・ 調 整	備 考	出土位置
1	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文→櫛描簾状文。	断面実測	覆土
2	弥生土器	壺	内面 ナデ。外面 ヘラ描沈線内にヘラ描斜走文→赤色塗彩。	断面実測	覆土

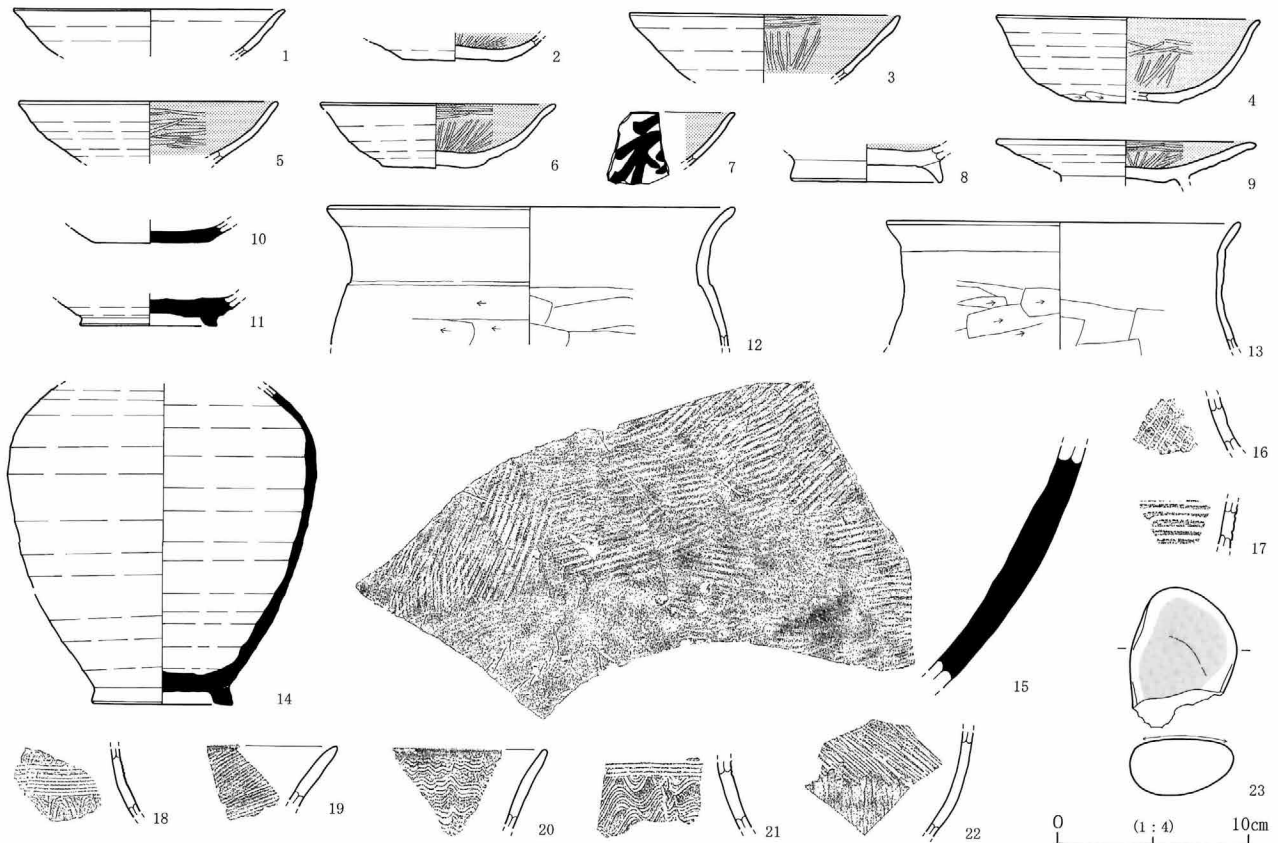
(25) H25号住居址



第89図 H25号住居址(1)



第88図 H24号住居址



第90図 H25号住居址(2)

第53表 H25号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

H25			法量			成形・調整・文様		推定値() 残存値 < > 丸底・	
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	備考	出土位置
1	土師器	坏	(14.2)	-	<2.5>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	I・II区覆土
2	土師器	坏	-	5.7	<1.4>	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ。底部回転糸切り	完全実測	覆土
3	土師器	坏	(14.2)	-	<3.5>	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ	回転実測	覆土
4	土師器	坏	(13.8)	(5.6)	(4.5)	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ。体部下端底部手持ちヘラケズリ	回転実測	覆土
5	土師器	坏	(13.6)	-	<3.3>	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ	回転実測	I区覆土
6	土師器	坏	(12.4)	5.5	3.4	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ。底部右回転糸切り	完全実測	覆土
7	土師器	坏か碗	-	-	-	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ。墨書あり	破片実測	覆土
8	土師器	碗	-	(8.0)	<2.0>	ヘラミガキ。黒色処理	底部回転糸切り→高台貼付	回転実測	覆土
9	土師器	皿	13.6	-	<2.4>	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ。底部右回転糸切り→高台貼付→高台貼付(欠損)	完全実測	覆土
10	須恵器	坏	-	(6.2)	<1.2>	ロクロナデ	底部右回転糸切り	回転実測	覆土 I区ホリ方
11	須恵器	有台坏	-	(7.2)	<1.7>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部ヘラケズリ→高台貼付	回転実測	覆土
12	土師器	甗	(21.6)	-	<7.3>	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	覆土
13	土師器	甗	(18.4)	-	<6.7>	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	覆土
14	須恵器	壺	-	7.4	<16.9>	ロクロナデ	回転糸切り→ナデ→高台貼付	完全実測	覆土
15	須恵器	甗	内面 ナデ。外面 平行タタキ。					断面実測	覆土
16	弥生土器	壺	内面 ナデ。外面 ヘラ描格子目文。						I区覆土
17	縄文土器	深鉢	集合沈線。					後期前半	II区覆土
18	弥生土器	甗	内面 ミガキ。外面 口縁部・胸部櫛描き波状文→櫛描麁状文。						III区覆土
19	弥生土器	甗	内面 ミガキ。外面 櫛描斜走文。						III区覆土
20	弥生土器	甗	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。						覆土
21	弥生土器	甗	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文→櫛描麁状文。						覆土
22	弥生土器	甗	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描斜走文→ヘラミガキ。						II区覆土
No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見		出土位置
23	磨石		<7.4>	<5.5>	<3.0>	<161.03>	下部欠損。正面にすり面。		覆土

ひ・ふ-64~66Grにあり、H23に切られ、H31・F4を切る。東壁は調査区域外に伸びる。カマドは調査範囲内では確認できない。床面ほぼ中央に2カ所焼土の堆積がみられた。深さ形状から柱穴と思われるピットが1個西壁近くで検出された。北西隅に長さ1.2m幅12~24cm高さ5~14cmのベッド状遺構が確認された。床は平坦で、掘方は浅めである。南壁中央下床面上に25cm・32cm大の礫がみられた。

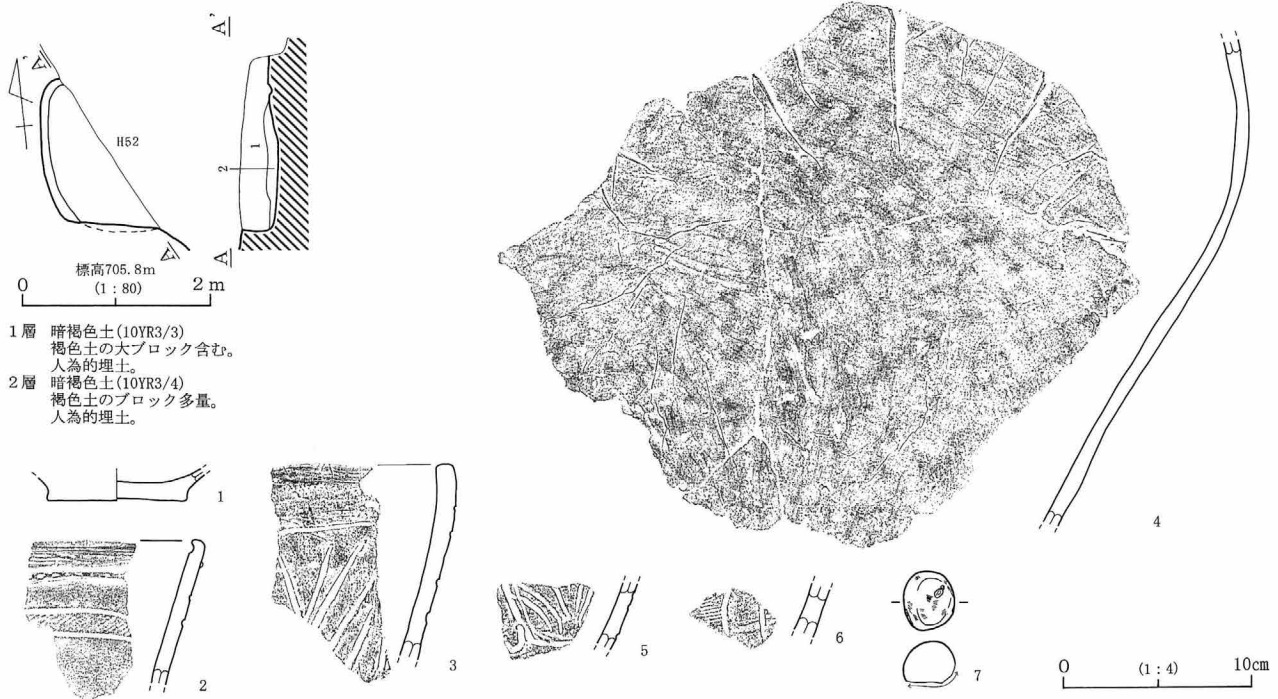
遺物は土師器環1～6、土師器碗8、土師器皿9、土師器杯か碗7、土師器甕12・13、須恵器有台環11、須恵器環10、須恵器甕15、須恵器壺14、磨石23、本址に伴わない縄文時代後期前半深鉢・弥生時代後期壺・甕18～22がある。土師器環2～6・杯か碗7・皿9は、内面黒色処理される。土師器環2・6、須恵器環10の底部は回転糸切り、土師器環4は体部下端底部手持ちヘラケズリ、須恵器有台環は底部ヘラケズリ後高台貼付される。土師器環7は墨書「ネ」。12・13は土師器武蔵甕で胴部に最大径があり、「コ」字口縁部を持つ。14は有台の長頸壺であろう。16の壺はヘラ描格子文、18・20・21の甕は櫛描波状文、19の甕には櫛描斜走文が施文される。

本址は、小林眞寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代V期- 9世紀前半に位置づけられる。

(26) H26号住居址

む-33Grにあり、東側部分をH52に切られる。カマド・柱穴等は調査範囲内では確認されない。断面鍋底状で底面堅くはなく、竪穴住居址と扱うのは不適かもしれない。覆土は褐色土のブロック含み人為埋土である。

遺物は1～6の縄文時代中期後葉から後期前半の深鉢片、磨石と見られる7がある。本址の機能等不明、時期は縄文時代後期前半であろうか。



第91図 H26号住居址

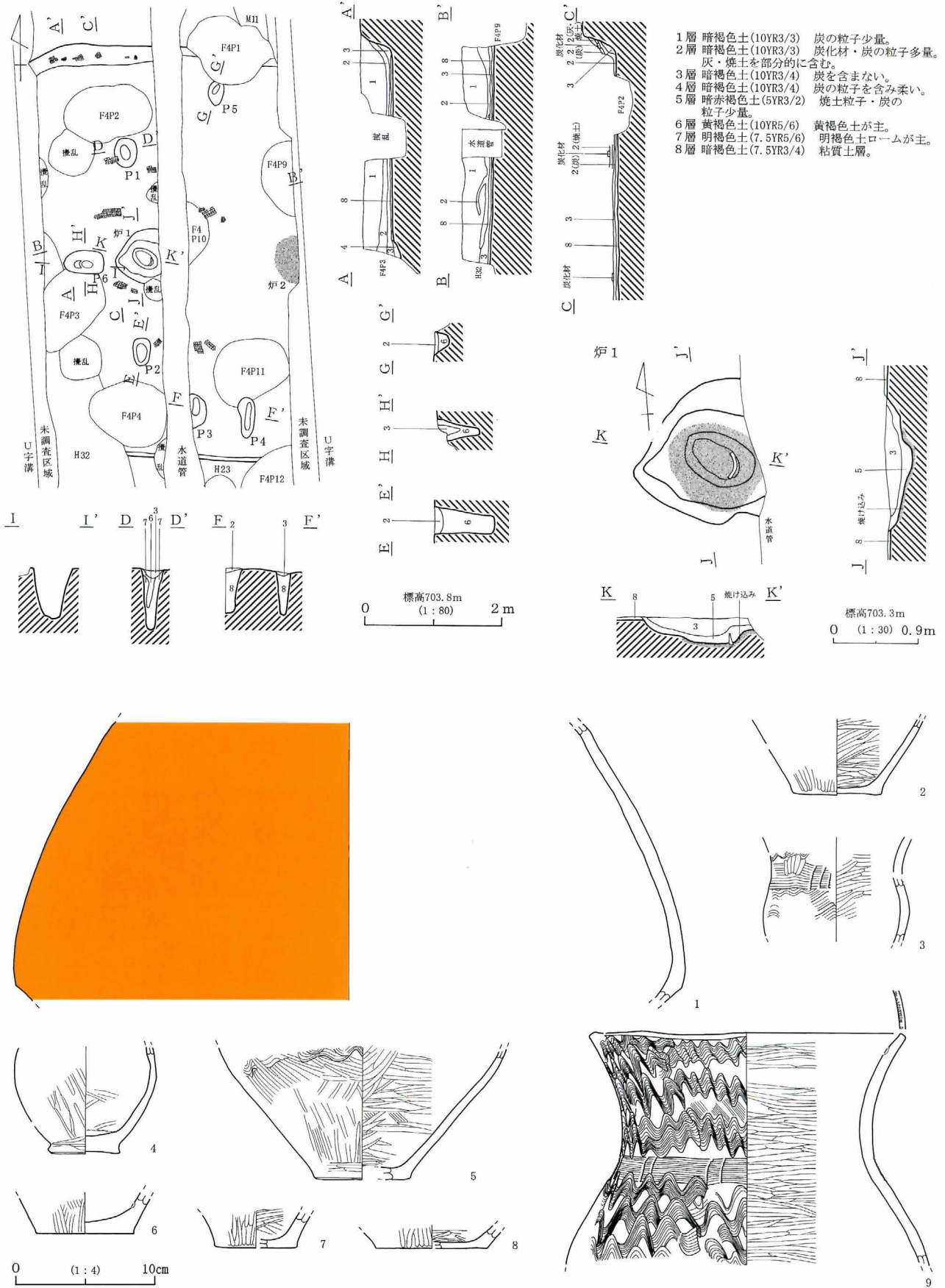
第54表 H26号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

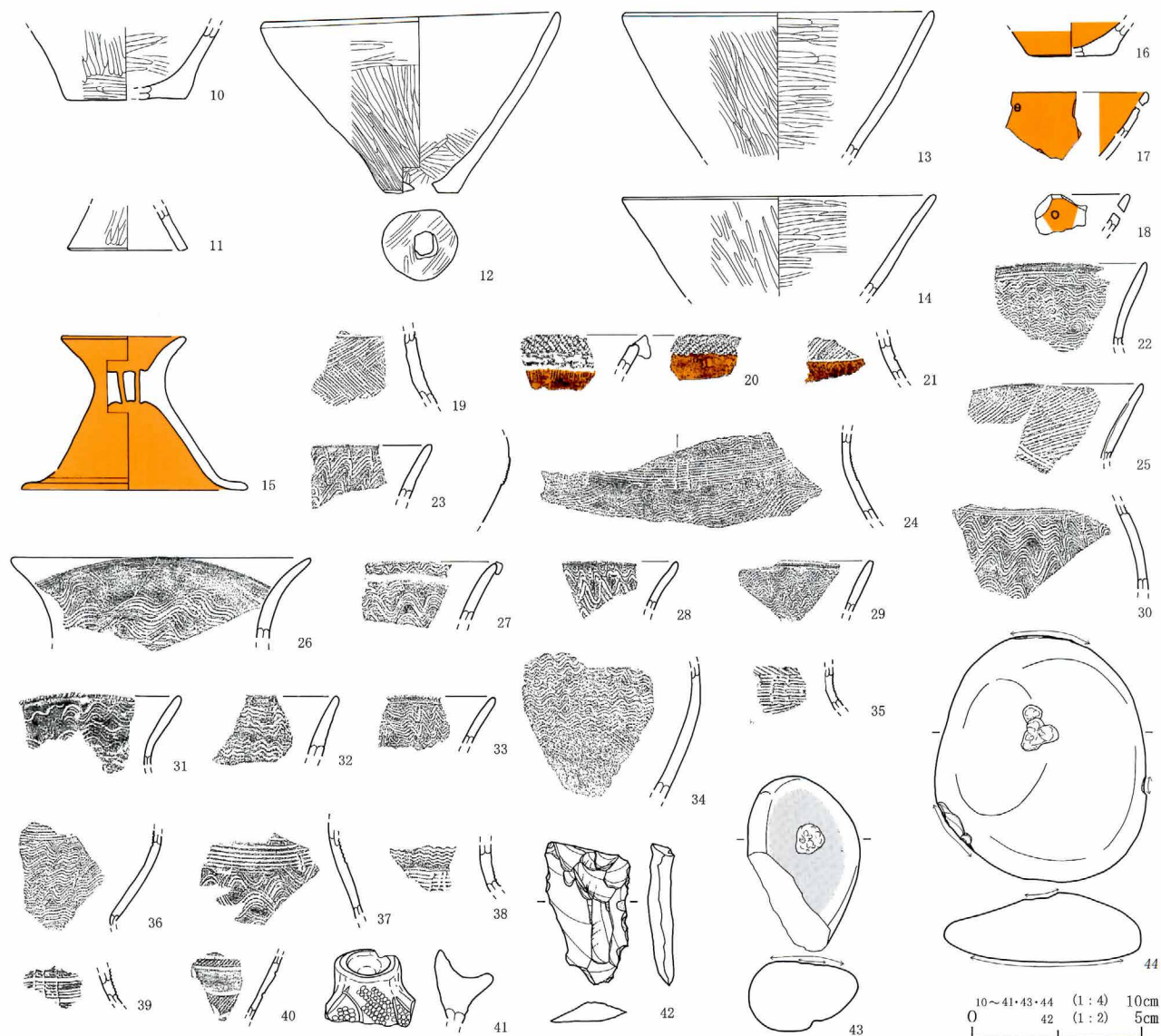
H26		法 量			成 形 ・ 調 整 ・ 文 様		推定値() 残存値 < > 丸底・		
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
1	縄文土器	深鉢	-	7.4	<1.7>	ナデ	ミガキ	後期前半	覆土
2	縄文土器	深鉢	口縁部内折。口縁に沿って刻み隆線。幾何学文。縄文LR充填。					堀之内2	覆土
3	縄文土器	深鉢	沈線区内に斜行沈線。					中期後葉	覆土
4	縄文土器	深鉢	無文。内面ヨコのナデ。外面 胴上部ヨコ・胴下部タテのミガキ。					後期前半	覆土
5	縄文土器	深鉢	弧状の集合沈線。					堀之内1	覆土
6	縄文土器	深鉢	弧状沈線。縄文LR。					堀之内	覆土
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見		出土位置
7	磨石?		<3.1>	<2.7>	<2.2>	<16.50>	全体にすりか?裏面は欠損か?		覆土

(27) H27号住居址

ひ・ふ-58・59Grにあり、H23・H32・F4・M11に切られる。主軸方位は西を指す。炉は2カ所から検出された。主柱穴P1・P2間の炉1は、主炉である。炉1は第93図24の甕片を炉縁石の代用品にし15cmほど掘り窪めた地床炉である。底面は焼け込んでいる。炉2は炉1の東に1.6m離れた主軸線



第92図 H27号住居址(1)



第93図 H27号住居址(2)

第55表 H27号住居址出土遺物観察表(1)

(cm・g)

No.	種別	器種	法 量		成 形 ・ 調 整 ・ 文 様		推定値() 残存値 < > 丸底・出土位置		
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面		外 面	
1	弥生土器	甕	-	-	<20.0>	ハケメ。剥離	ハラミガキ→赤色塗彩	回転実測	Ⅱ区 No.1 ぶ58
2	弥生土器	甕	-	6.2	<5.5>	ハラミガキ	ハラミガキ。剥離	完全実測	Ⅰ区 ぶ58 ぶ58
3	弥生土器	甕	-	-	<7.6>	ハラミガキ	柳描波状文→柳描麻状文	完全実測	Ⅱ区 H23Ⅱ区カマド
4	弥生土器	甕	-	5.0	<7.8>	ハラミガキ	ハラミガキ	回転実測	Ⅰ区 D51
5	弥生土器	甕	-	(7.0)	<9.6>	ハケメ→ハラミガキ	柳描波状文→ハラミガキ	回転実測	Ⅱ区覆土
6	弥生土器	甕	-	(7.0)	<3.0>	ナデ	ハケメ	回転実測	Ⅱ区覆土
7	弥生土器	甕	-	(6.0)	<2.6>	ハラミガキ	ハラミガキ	回転実測	Ⅲ区覆土
8	弥生土器	甕	-	(8.0)	<1.7>	ハラミガキ	ハラミガキ	回転実測	Ⅱ区覆土
9	弥生土器	甕	(22.6)	-	<16.8>	ハケメ→ハラミガキ	柳描麻状文→柳描波状文。□唇部刻みあり	回転実測	Ⅰ区 Ⅳ区 No.13
10	弥生土器	甕	-	(7.0)	<4.2>	ハラミガキ	ハラミガキ	回転実測	H23Ⅰ区
11	弥生土器	台付甕	-	(7.0)	<2.7>	ナデ	ハラミガキ	回転実測	Ⅳ区覆土

上にあり、東半分が調査区域外に伸びる。僅かに窪む底面がよく焼け込んでいる。ピットは6個検出され、P1・P2の支柱穴の掘方は、五平状の柱が想定される。梁行き2.8m。P6の棟持柱も掘方から、五平状の柱が想定される。出入口施設の基礎と考えられるP3・P4も五平状の部材が考えられる。本住居址の出入り口は、主軸に直交する位置に設けられている。床面は堅く平坦で、H11・H12・H20同様暗褐色の粘質土が張り付くようにみられ、掘方は認められない。住居中央から西にかけて多

H27号住居址出土遺物観察表(2)

(cm・g)

H27			法 量			成形・調整・文様		推定値() 残存値 < > 丸底・	
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
12	弥生土器	甌	17.6	4.5	10.5	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測 1孔の穿孔は焼成後	No.3・4・12
13	弥生土器	鉢	(18.2)	-	<8.5>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	I区覆土
14	弥生土器	鉢	(18.3)	-	<5.9>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	II区 No.2
15	弥生土器	蓋	(13.2)	7.2	8.9	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測 焼成前2孔	No.5
16	弥生土器	鉢	-	(5.0)	<1.9>	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	回転実測	I区覆土
24	弥生土器	甕	-	-	<5.0>	ヘラミガキ	櫛描簾状文→櫛描波状文	回転実測	No.14
26	弥生土器	甕	(17.4)	-	<4.7>	ヘラミガキ	櫛描波状文	回転実測	III区覆土
17	弥生土器	鉢	内外面ヘラミガキ赤色塗彩。口縁部に焼成前穿孔が1孔。						I区覆土
18	弥生土器	鉢	内面 剥離。外面 ヘラミガキ赤色塗彩 穿孔が1孔。					破片実測	I区覆土
19	弥生土器	甕	内面 ナデ。外面 横位のヘラ描沈線内に横位羽状の櫛描斜走文→赤色塗彩。					断面実測	II区覆土
20	弥生土器	壺	折り返し口縁。内面 口縁端部と口唇部面取り そこに縄文RL。内外面赤色塗彩。					断面実測	I区覆土
21	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 横位のヘラ描沈線内に櫛描斜走文→赤色塗彩。					断面実測	II区覆土
22	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文→櫛描簾状文。					断面実測	II区覆土
23	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。					断面実測	I区覆土
25	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 横位櫛描斜走文。					断面実測	I区覆土
27	弥生土器	甕	折り返し口縁。内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。					断面実測	II区覆土
28	弥生土器	甕	口縁部僅かに内嚢。内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。					断面実測	I区覆土
29	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。					断面実測	II区覆土
30	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。					断面実測	II区覆土
31	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。					断面実測	II区覆土
32	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。					断面実測	II区覆土
33	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。					断面実測	II区覆土
34	弥生土器	甕	内面 櫛歯状工具のナデ→ヘラミガキ。外面 櫛歯状工具のナデ→櫛描波状文。					断面実測	I区覆土
35	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描斜走文→櫛描簾状文。					断面実測	II区覆土
36	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文→櫛描簾状文。					断面実測	II区覆土
37	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文→櫛描簾状文。					断面実測	II区覆土
38	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文→櫛描簾状文。					断面実測	III区覆土
39	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文→櫛描横走文。					断面実測	I区覆土
40	縄文土器	深鉢	横位2条の沈線間に磨消縄文 弧状の沈線区切り。					加曾利B1	II区覆土
41	縄文土器	深鉢	吸盤状把手 剣先状沈線内外に縄文RL。					称名寺	II区 ぶく
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見	備 考	出土位置
42	スクレイパー		4.2	2.5	0.6	6.51			II区覆土
43	磨・敲石		<10.2>	<6.6>	<4.1>	<344.94>	下部欠損。正面にすり面と敲打痕。		No.11
44	磨・敲石		14.3	12.3	4.4	991.45	被熱あり? (周田黒化) 正面と縁辺に敲打痕。裏面にすり面。		No.6

くの炭化材が検出された。床に接している炭化材もあるが、ほとんどが床面上の3~5cmを測る覆土第3層上にある。第3層は、炭化材・焼土・灰を含まない。炭化材の上下に灰・焼土・炭化粒子を含む。火に遭ったのは、第3層堆積後である。

遺物は、甕(2~10・22~39)・台付甕(11)・壺(1・19~21)・鉢(13・16・17・18)・蓋(18)の弥生土器、磨面持つ敲石(43・44)、炉1内から獣類部位不明片、オニグルミ片1/3個がある。縄文時代後期称名寺式・加曾利B1式深鉢片は混入遺物である。

口唇部刻みのある9の甕は、頸部櫛描簾状文後口縁部と胴部の櫛描波状文が施文される。3・24・30・36・37等は、胴部櫛描波状文や口縁部櫛描波状文後頸部櫛描簾状文が施される。20の折り返し口縁壺は、口唇部と内面口縁端部に縄文LR、赤色塗彩される。大型の鉢13・14は無彩、16~18の鉢は内外面赤色塗彩。15の蓋は2孔を持ち内外面赤色塗彩。

これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

(28) H28号住居址

第56表 H28号住居址出土遺物観察表(1)

(cm・g)

H28			法 量			成形・調整・文様		推定値() 残存値 < > 丸底・	
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
1	弥生土器	甕	-	(8.0)	<2.8>	ヘラミガキ	ヘラミガキ。底部 ヘラミガキ	回転実測	N区
2	弥生土器	壺	-	(9.2)	<3.9>	ハケ目	ヘラミガキ。底部 ヘラミガキ	回転実測	No.1
3	弥生土器	甕	内面 剥離。外面 櫛描横走文・赤色塗彩。					後期	S区
4	弥生土器	甕	内面 剥離。外面 ヘラ描横走文内に櫛描波状文。赤色塗彩。					後期	S区
5	弥生土器	壺	内面 頸部まで赤色塗彩。外面 ヘラ描横走文内にヘラ描格子目文。赤色塗彩。					後期	S区
6	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 口縁・胴部櫛描波状文→櫛描簾状文。					後期	S区
7	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描簾状文→胴部 櫛描斜走文。					後期	N区
8	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 口縁・胴部櫛描波状文→櫛描簾状文。					後期	N区
9	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描横走文・波状文。					後期	No.1
10	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。					後期	S区
11	縄文土器	深鉢	弧状隆帯。縄文LR。					後期初頭	N区
12	縄文土器	深鉢	弧状沈線。縄文LR。					後期初頭	S区

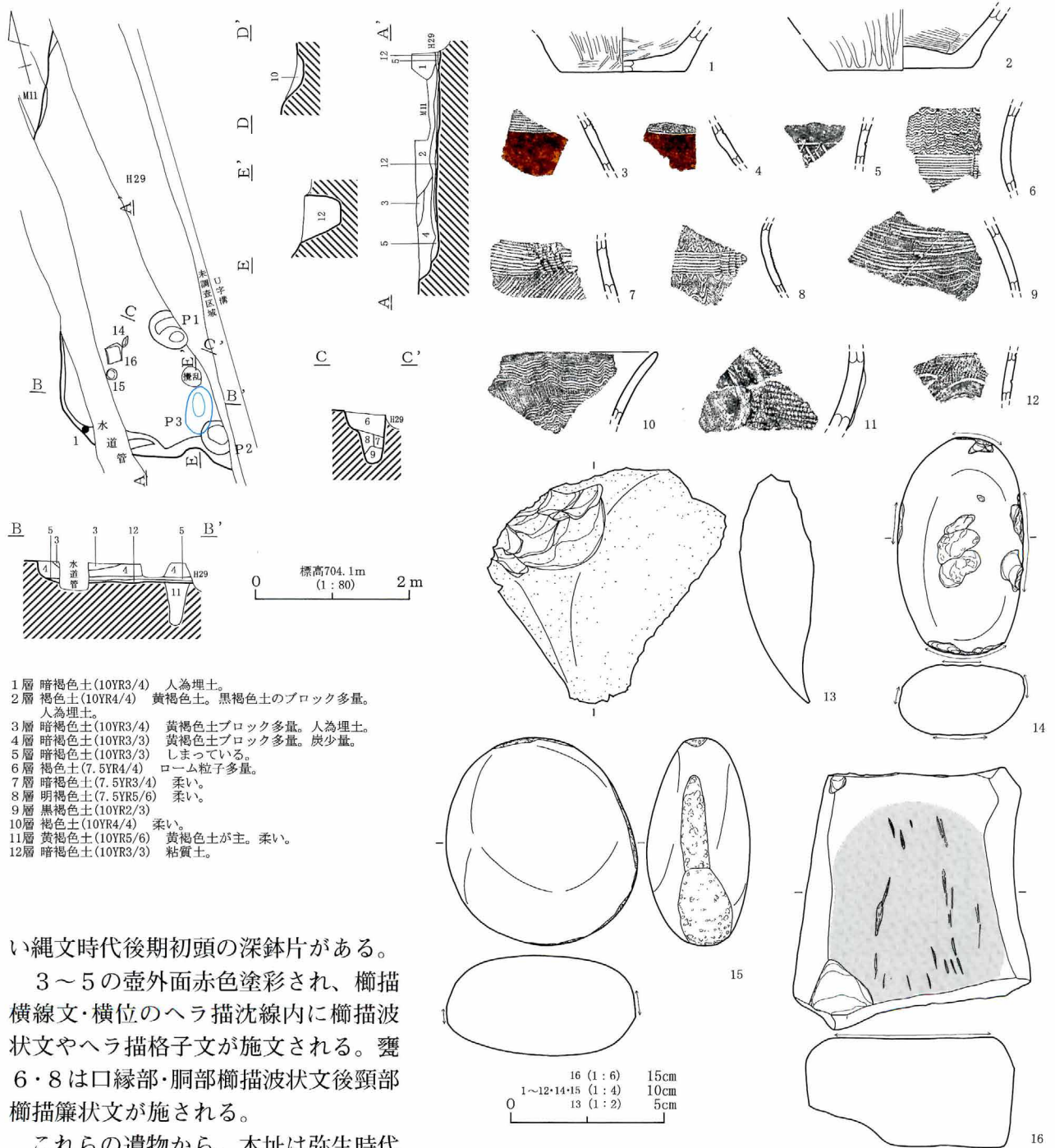
ひ・ふ-56・57Grにあり、H29・M11に切られる。炉は調査範囲内にはない。ピット3個検出されP1は支柱穴、P2は出入口施設の基礎であろう。P3は床下から検出。床面は堅く平坦で、掘方は極浅い。覆土1~4層は人為埋土。H11・H12・H20・H27同様暗褐色の粘質土が張り付くようにみられる。

遺物は、甕(6~10)・壺(1~5)の弥生土器、剥片(13)、敲石(14・15)、台石(16)、本址に伴わな

H28号住居址出土遺物観察表(2)

(cm・g)

No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置
13	剥片		7.5	7.7	2.4	120.82		N区覆土
14	敲石		14.0	8.3	4.7	872.12	正裏と周囲に敲打痕。	No.4
15	敲石		13.5	12.3	6.6	1668.14	ほぼ側面全周に敲打痕。側面は平坦面に近い形状。	No.2
16	台石		25.8	23.2	11.0	11800.0	正面が使用面。条痕残る。	No.3



- 1層 暗褐色土(10YR3/4) 人為埋土。
- 2層 褐色土(10YR4/4) 黄褐色土。黒褐色土のブロック多量。人為埋土。
- 3層 暗褐色土(10YR3/4) 黄褐色土ブロック多量。人為埋土。
- 4層 暗褐色土(10YR3/3) 黄褐色土ブロック多量。炭少量。
- 5層 暗褐色土(10YR3/3) しまっている。
- 6層 褐色土(7.5YR4/4) ローム粒子多量。
- 7層 暗褐色土(7.5YR3/4) 柔い。
- 8層 明褐色土(7.5YR5/6) 柔い。
- 9層 黒褐色土(10YR2/3)
- 10層 褐色土(10YR4/4) 柔い。
- 11層 黄褐色土(10YR5/6) 黄褐色土が主。柔い。
- 12層 暗褐色土(10YR3/3) 粘質土。

い縄文時代後期初頭の深鉢片がある。

3~5の壺外面赤色塗彩され、櫛描横線文・横位のへら描沈線内に櫛描波状文やへら描格子文が施文される。甕6・8は口縁部・胴部櫛描波状文後頸部櫛描簾状文が施される。

これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

第94図 H28号住居址

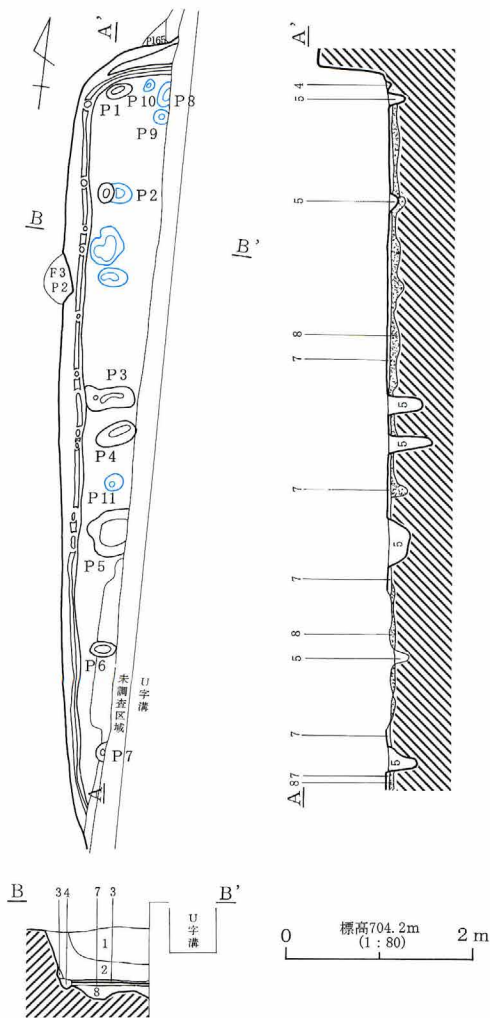
(29) H29号住居址

ひ-55~57Grにあり、F3・P165に切られ、H28を切る。炉は調査範囲内では確認されない。ピットは11個の壁柱穴が検出された。西壁下を巡る壁溝内に、10カ所の壁柱痕のような浅い窪みがみられた。P1~P7は床面から、P8~P11は床下から検出された。床面は堅く平坦で、直上にH11・H12・H20・H27・H28同様暗褐色の粘質土が張り付くようにみられる。覆土1・2層は人為埋土である。2層は堅く締まる。

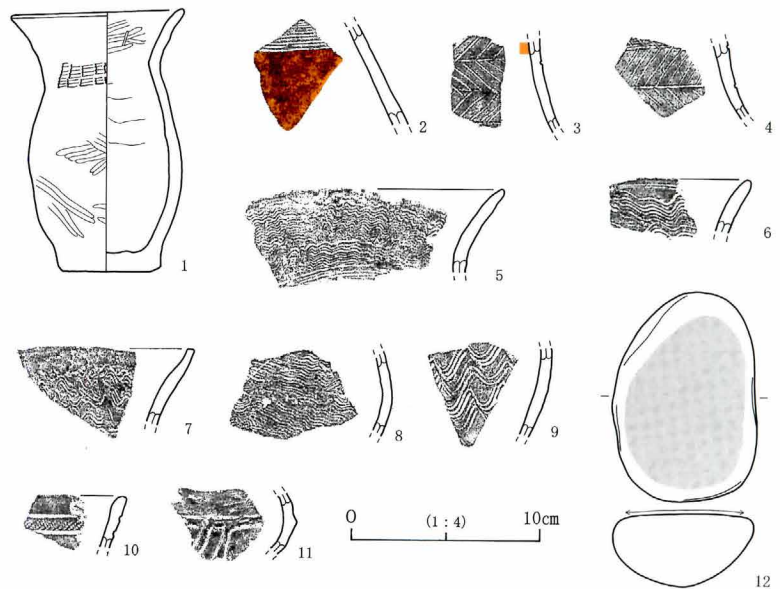
遺物は、甕(5~9)・壺(1~4)の弥生土器、磨石(12)、本址に伴わない縄文時代後期堀之内式2の深鉢・称名寺式か堀之内式1の注口土器片がある。

1の小形の壺は、内面に粘土帯が窺えるくらい内外面粗く調整されている。2の壺外面3の頸部まで赤色塗彩され、2~4の壺には櫛描横線文・横位羽状のへら斜走文が施文される。甕5~8は櫛描波状文が施される。

これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。



- 1層 暗褐色土(7.5YR3/4) 黄褐色土の小ブロック多量。人為的埋土。
- 2層 暗褐色土(7.5YR3/3) 堅く締まる。人為的埋土。
- 3層 暗褐色土(7.5YR3/4) 粘質土。
- 4層 明褐色土(7.5YR5/6)
- 5層 暗褐色土(10YR3/3) 柔い。
- 6層 暗褐色土(7.5YR3/4) 床面直上の粘質土。
- 7層 褐色土(10YR4/4) 床。堅く締まる。黄褐色土の小ブロック多量。
- 8層 黄褐色土(10YR5/6) 掘方埋土。暗褐色土・黄褐色土多量。



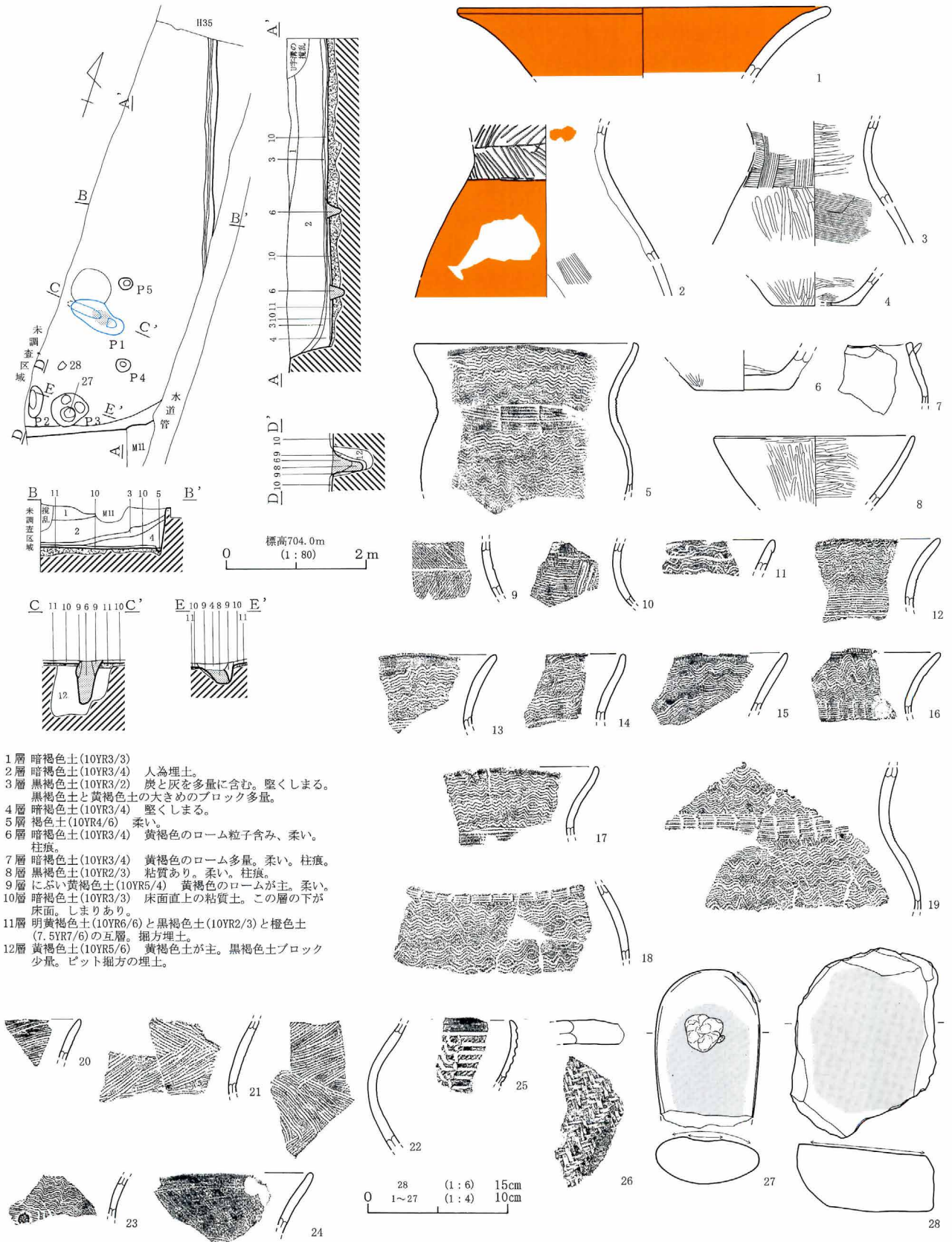
第95図 H29号住居址

第57表 西近津遺跡IV H29号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

H29			法 量			成 形 ・ 調 整 ・ 文 様				推定値() 残存値 < > 丸底・	
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面		外 面		備 考	出土位置
1	弥生土器	壺	9.1	(5.4)	<13.9>	ナデ→口縁部へらミガキ。粘土帯痕みられる		ナデ→粗いへらミガキ。櫛描簾状文		完全実測	N区覆土
2	弥生土器	壺	内面 ナデ。外面 櫛描横走文 赤色塗彩。							後期	S区覆土
3	弥生土器	壺	内面 ハケメ へらミガキ 頸部上部まで赤色塗彩。外面 へら斜走文横位羽状。							後期	S区覆土
4	弥生土器	壺	内面 ナデ。外面 へら斜走文 横位羽状。								S区覆土
5	弥生土器	甕	内面 へらミガキ。外面 櫛描波状文→櫛描簾状文。							後期	N区覆土
6	弥生土器	甕	内面 へらミガキ。外面 櫛描波状文。							後期	N区覆土
7	弥生土器	甕	口唇部面取り。内面 へらミガキ。外面 櫛描波状文→口縁部沿いをへらナデ。							後期	N区覆土
8	弥生土器	甕	内面 へらミガキ。外面 櫛描波状文。							後期	N区覆土
9	弥生土器	甕	内面 へらミガキ。外面 櫛描波状文。							後期	N区覆土
10	縄文土器	深鉢	口唇部面取り。2条の横位沈線内に縄文LR。							後期前葉	N区覆土
11	縄文土器	注口土器	微隆起線文。							後期前葉	S区覆土
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見				出土位置
12	磨石		11.2	7.5	3.9	522.16	正面にすり面。				床 P7わき

(30) H30号住居址



第96図 H30号住居址

第58表 H30号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

H30			法 量			成形・調整・文様			推定値() 残存値 < > 丸底・	
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面		外 面	備 考	出土位置
1	弥生土器	壺	(26.2)	-	<5.0>	ヘラミガキ。赤色塗彩		ヘラミガキ。赤色塗彩	回転実測	S区覆土
2	弥生土器	壺	-	-	<12.3>	ハケ目調整。摩耗している		ヘラ描斜走文を横位羽状に施文	完全実測	S床 ホリ方 P3
3	弥生土器	壺	-	-	<8.7>	頸部 ヘラミガキ。胴部 ハケ目調整		頸部 櫛描T字文。胴部 ヘラミガキ	回転実測	S区 S区床
4	弥生土器	甕	-	(5.9)	<2.3>	ヘラミガキ		ヘラミガキ。底部ヘラミガキ	回転実測	S区覆土
5	弥生土器	甕	(16.1)	-	<10.5>	ヘラミガキ		櫛描波状文→櫛描簾状文	回転実測	N区床 S区覆土
6	弥生土器	甕	-	6.7	<2.8>	ヘラミガキ		ヘラミガキ。剥離している	完全実測	S区覆土
8	弥生土器	鉢	(14.2)	-	<4.9>	ヘラミガキ		ヘラミガキ	回転実測	S区覆土
7	弥生土器	鉢	片口の鉢。内外面 ヘラナデ。						後期	S区覆土
9	弥生土器	壺	内面 ナデ。外面 横位羽状のヘラ描斜走文 一部赤色塗彩。						後期	S区覆土
10	弥生土器	壺	内面 ハケ目調整 頸部まで赤色塗彩。外面 櫛描T字文→赤色塗彩。						後期	S区覆土
11	弥生土器	甕	折り返し口縁。内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。						後期	カクラン
12	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 口縁部・胴部櫛描波状文→櫛描簾状文。						後期	S区覆土
13	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描横走文→櫛描波状文。						後期	S区覆土
14	弥生土器	甕	口縁端部内弯気味に立ち上る。内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。						後期	S区覆土
15	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。						後期	S区覆土
16	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ 口唇部 刻目。外面 櫛描簾状文→口縁部・胴部櫛描波状文。						後期	S区覆土
17	弥生土器	甕	口縁端部やや内弯気味に立ち上る。内面 ヘラミガキ。外面 櫛描簾状文→櫛描波状文。						後期	N・S区覆土
18	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 胴部櫛描波状文→頸部 櫛描簾状文。						後期	S区覆土
19	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文→櫛描簾状文。						後期	S区覆土
20	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描斜走文。						後期	S区覆土
21	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描横走文→横位羽状の櫛描斜走文。						後期	S区覆土
22	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 口縁部～頸部～胴部縦位羽状の櫛描斜走文。						後期	N・S区覆土
23	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文→櫛描簾状文・円形貼付文。						後期	S区覆土
24	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描斜走文。						後期	S区覆土
25	縄文土器	深鉢	口縁部内弯気味に立ち上る。7条の横位沈線。弧状短沈線を押圧の区切り。磨消縄文LR。						加曾利B1	N区床覆土
26	縄文土器	深鉢	網代底。3本越3本潜り。						後期前半	N区床覆土
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見		出 土 位 置	
27	台石		20.5	16.0	7.0	3600.00	正面に使用面。		No.1	
28	磨・敲石		<11.4>	<7.5>	<3.3>	<328.61>	下部欠損。正面にすり面。上部端と正面に敲打痕。		No.2	

ふ-54~56Grにあり、H35・F3・M11に切られる。炉は調査範囲内にはない。ピットは5個検出された。五平状の柱痕持つP1は主柱穴、出入口施設の基礎と考えられるP2も五平状の部材が考えられる。出入口施設の基礎と考えられるP3の柱痕は、P2側に傾斜する。床面は堅く平坦で、H11・H12・H20・H27・H28同様暗褐色の粘質土が張り付くようにみられる。覆土2・3層は人為埋土、3層には炭と灰が多量に見られた。

遺物は壺(1~3・9・10)・甕(4~6・11~24)・鉢(7・8)の弥生土器、磨面持つ敲石(28)、台石(27)、本址に伴わない縄文土器(25・26)がある。

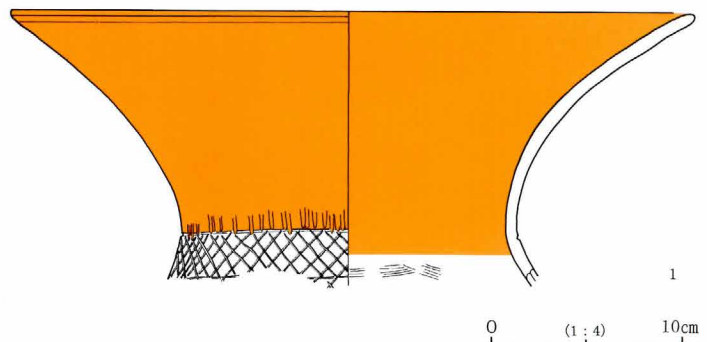
1・2は外面と内面頸部まで壺赤色塗彩され、2は横位羽状のヘラ描斜走文が施文される。3・4頸部には櫛描T字文が施され、3は無彩である。甕5・12・19は口縁部・胴部櫛描波状文後頸部櫛描簾状文が施される。11~17は口縁部に櫛描波状文が、20~22・24は櫛描斜走文が施文される。25は口縁部内弯気味に立ち上がり、7条の横位沈線を弧状短沈線と押圧で区切る加曾利B1の深鉢である。26の縄文深鉢網代底は、3本越え3本潜りの編み方である。

これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

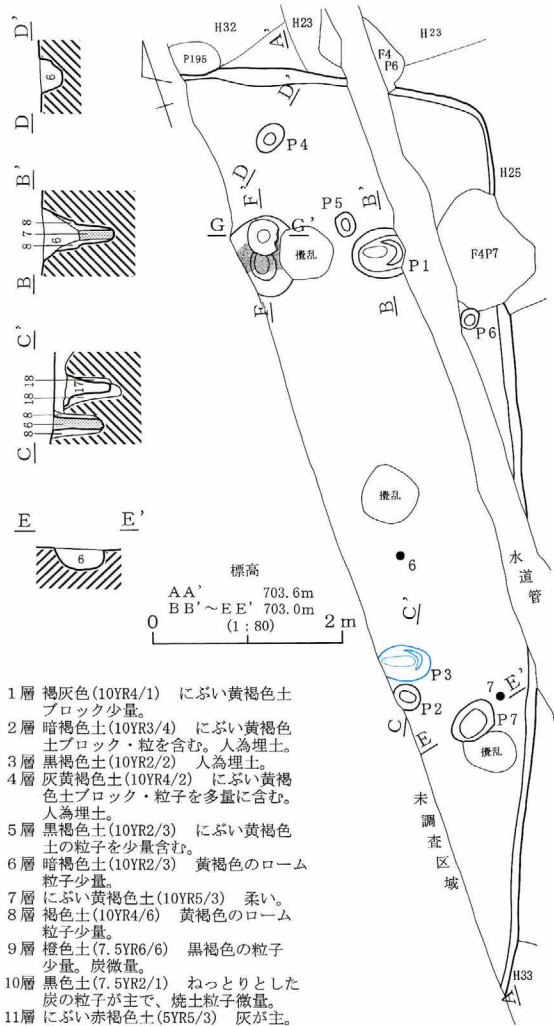
(31) H31号住居址

ひ・ふ-60~62Grにあり、H23・H25・H33・F4・P195に切られる。H32との新旧関係は、重複部にP195がかかり不明である。

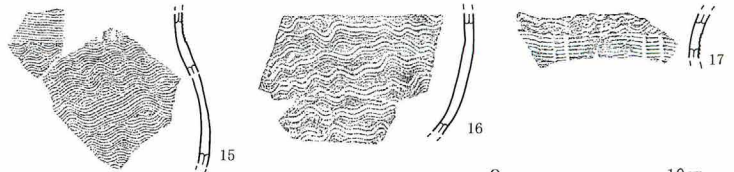
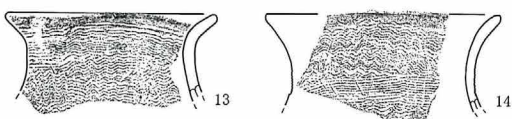
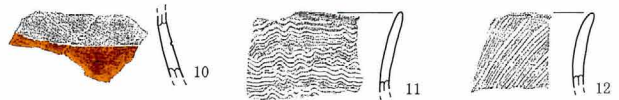
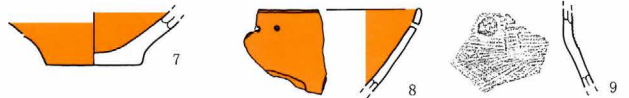
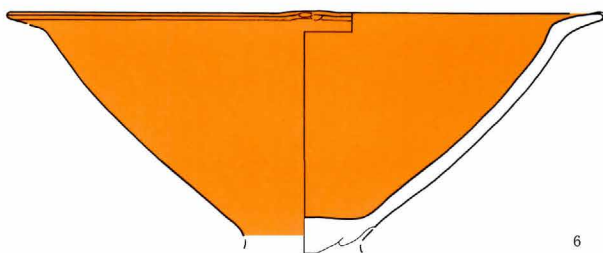
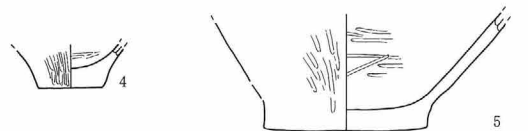
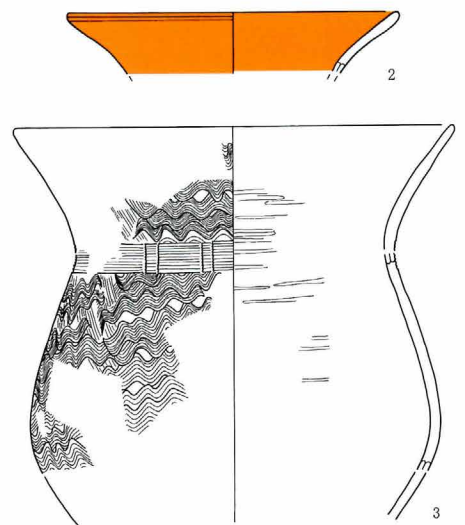
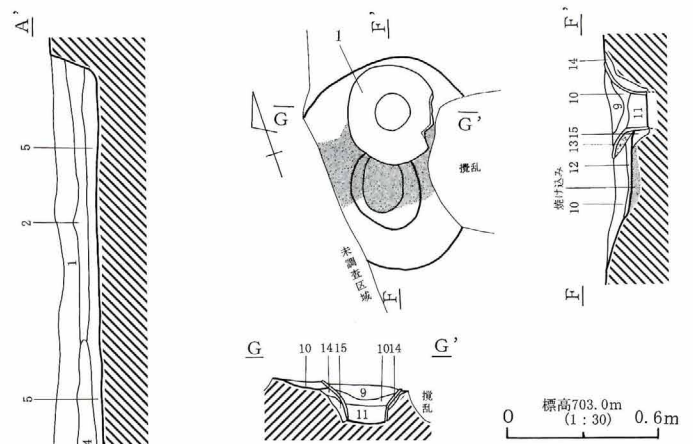
炉は主柱穴P1の西に近接する。第97図



第97図 H31号住居址(1)

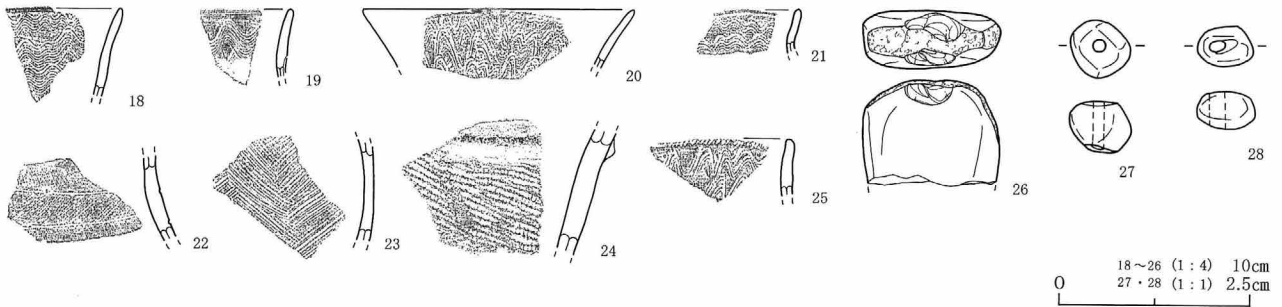


- 1層 褐色(10YR4/1) にぶい黄褐色土ブロック少量。
- 2層 暗褐色土(10YR3/4) にぶい黄褐色土ブロック・粒を含む。人為埋土。
- 3層 黒褐色土(10YR2/2) 人為埋土。
- 4層 灰黄褐色土(10YR4/2) にぶい黄褐色土ブロック・粒子を多量に含む。人為埋土。
- 5層 黒褐色土(10YR2/3) にぶい黄褐色土の粒子を少量含む。
- 6層 暗褐色土(10YR2/3) 黄褐色のローム粒子少量。
- 7層 にぶい黄褐色土(10YR5/3) 柔い。
- 8層 褐色土(10YR4/6) 黄褐色のローム粒子少量。
- 9層 橙色土(7.5YR6/6) 黒褐色の粒子少量。炭微量。
- 10層 黒色土(7.5YR2/1) ねっとりとした炭の粒子が主で、焼土粒子微量。
- 11層 にぶい赤褐色土(5YR5/3) 灰が主。炭の粒子・炭を含む。
- 12層 灰褐色土(7.5YR5/2) 灰が主。
- 13層 明黄褐色土(5YR4/6) 焼土。
- 14層 にぶい赤褐色土(5YR4/4) 焼土粒子多量。
- 15層 暗赤褐色土(5YR3/4) 焼土粒子多量。
- 16層 黄褐色土(10YR5/6) 掘方埋土。
- 17層 暗褐色土(10YR3/3)
- 18層 黄褐色土(10YR5/6) 黄褐色ロームが主。



0 (1:4) 10cm

第98図 H31号住居址(2)



第99図 H31号住居址(3)

第59表 H31号住居址出土物観察表

(cm・g)

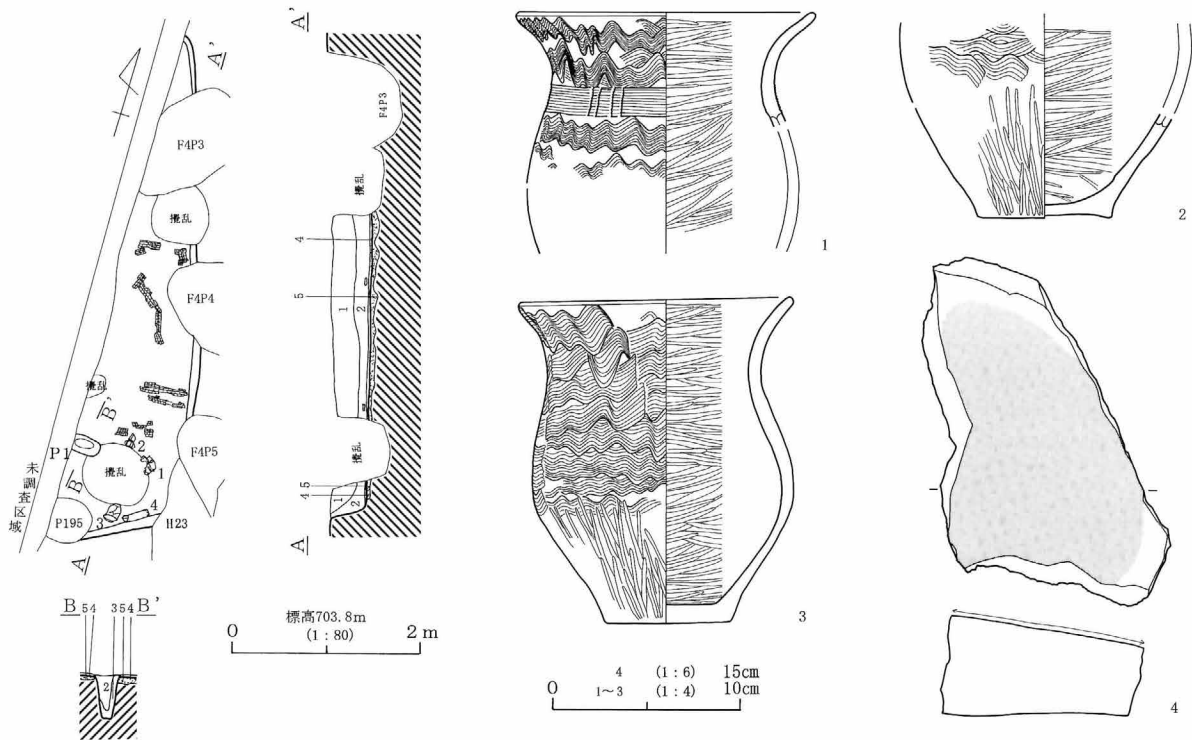
H31			法 量			成形・調整・文様		推定値()	残存値 < >	丸底・
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考		出土位置
1	弥生土器	壺	36.1	-	<14.7>	口縁部ヘラミガキ→赤色塗彩。頸部ハケメ	頸部ヘラ描沈線文ヘラ描き格子目文。口唇部ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測		Ⅲ区 No.4
2	弥生土器	壺	(17.4)	-	<3.2>	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	回転実測		I区
3	弥生土器	甕	<23.3>	-	<20.8>	ヘラミガキ	口縁部・胴部櫛描波状文→頸部櫛描簾状文	回転実測		Ⅳ区 P6 H25
4	弥生土器	甕	-	(3.4)	<2.3>	ヘラミガキ	ヘラミガキ。底部ヘラミガキ	回転実測		I区覆土
5	弥生土器	甕	-	8.6	<6.2>	ヘラミガキ	ヘラミガキ。底部ヘラミガキ	完全実測		Ⅳ区ホリ方 ぶ61
6	弥生土器	高坏	(31.6)	-	<12.7>	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測	突起4ヶ所あり	No.3
7	弥生土器	鉢	-	5.0	<2.8>	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩。底部ヘラケズリ	完全実測		No.2
8	弥生土器	鉢	-	-	<4.4>	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	破片実測	焼成前穿孔2ヶ所あり	Ⅱ区覆土
13	弥生土器	甕	(11.0)	-	<4.7>	ヘラミガキ	櫛描波状文	回転実測		Ⅲ区覆土
14	弥生土器	甕	(12.4)	-	<5.2>	ヘラミガキ	櫛描波状文→櫛描簾状文	回転実測		Ⅱ区覆土
20	弥生土器	甕	(14.4)	-	<3.2>	ヘラミガキ	櫛描波状文	回転実測		Ⅱ区覆土
9	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面櫛描斜走文→櫛描簾状文→刺突円形貼付文。					断面実測		Ⅱ区覆土
10	弥生土器	壺	内面ナデ。外面ヘラ描沈線文→ヘラ描斜走文。					断面実測		Ⅳ区ホリ方
11	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面櫛描波状文。					断面実測		覆土
12	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面櫛描斜走文。					断面実測		Ⅳ区覆土
15	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面櫛描波状文→櫛描簾状文。					断面実測		Ⅱ区覆土
16	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面櫛描波状文。					断面実測		Ⅱ区 H25 Ⅱ区覆土
17	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面櫛描波状文→櫛描簾状文。					断面実測		覆土
18	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面櫛描波状文。					断面実測		Ⅳ区覆土
19	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面櫛描波状文。					断面実測		Ⅳ区覆土
21	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面櫛描波状文。					断面実測		Ⅱ区覆土
22	弥生土器	壺	内面ナデ。外面ヘラ描沈線文内に横位羽状のヘラ描斜走文。					断面実測		Ⅳ区覆土
23	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面櫛描斜走文。					断面実測		覆土
24	縄文土器	深鉢	横位微隆起帯文のナデで一部縄文LRが磨消される。					中期後葉		覆土
25	弥生土器	甕	口唇部刻目。内面ヘラミガキ。外面口縁部櫛描波状文。					断面実測		Ⅱ区覆土
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見			出土位置
26	敲石		<5.6>	<7.3>	<3.1>	<237.65>	下部欠損。上部に敲打痕。			カクラン
27	土製丸玉		0.8	0.8	0.6	0.33	孔径0.15。			炉
28	土製丸玉		0.6	0.7	0.5	0.17	孔径0.2×0.1の楕円。			炉

1の壺の口縁部から頸部を正位に埋設した埋甕炉である。壺南側のテラス部分と周辺がよく焼け込んでいる。壺の中最下部に灰、その上に粒子状の炭が堆積していた。テラスにも同様の堆積があった。7個のピットが検出された。P1・P2が支柱穴、P4が棟持柱、P5は支柱、P6・P7は壁柱穴である。桁行きは4.8m。P3は床面下から検出された。P2の柱径径16cm、P1の柱痕は五平状とみられる。床面は堅く平坦で、P3周辺に浅い掘方があるが、他にはない。覆土2・3層は人為埋土。

遺物は、壺(1・2・10・22)・甕(9・11~21・23・25)・鉢(7・8)の弥生土器、敲石(26)、土製の丸玉(27・28)、炉内からモモの破片が5個(1/2個分)と獣類の部位不明焼骨破片、本址に伴わない縄文中期後葉深鉢片(24)がある。1・2は外面と内面頸部まで壺赤色塗彩され、炉に用いられた1はヘラ描格子文が施文される。3の甕は、口縁部・胴部櫛描波状文後頸部櫛描簾状文が施される。11・14・17・18~21は口縁部に櫛描波状文が、12は櫛描斜走文が施文される。6は口縁部屈曲し鏢状に開く高坏で、内外面赤色塗彩される。これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

(32) H32号住居址

ふ-54~56Grにあり、H23・F4・P159・P195に切れ、H27を切る。炉は調査範囲内にはない。主柱穴P1の柱痕は五平状とみられる。床面は堅く平坦で、H11・H12・H20・H27・H28・H30同様暗褐色の粘質土が床に張り付く。垂木や桁材であろう炭化材が床面に接して多数検出された。火に遭ったのは、居住時か廃屋間もなくみられる。遺物は1の甕は口縁部と胴部の櫛描波状文後頸部に櫛描簾状文、口縁部から胴中央部まで櫛描波状文のみ施文の2の甕、4の台石がある。



第100図 H32号住居址

- 1層 暗褐色土(10YR3/4)
- 2層 黒褐色土(10YR2/2) 炭化材・炭化粒子が主。灰と焼土が部分的にある。炭化材の上部に焼土。
- 3層 黄褐色土(10YR5/6)
- 4層 暗褐色土(10YR3/3) 粘質土。
- 5層 褐色土(10YR4/4) 明黄褐色土多量。掘方埋土。

これらの遺物から本址は、弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

第60表 H32号住居址出土遺物観察表

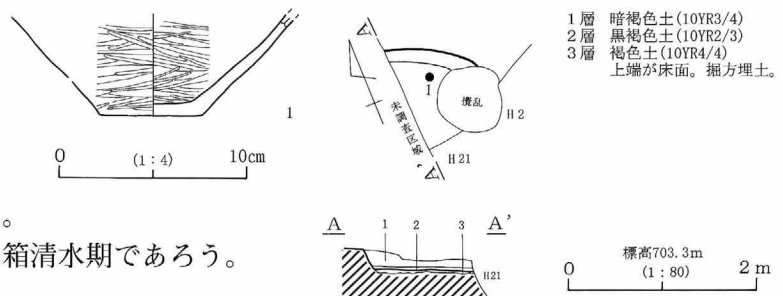
(cm・g)

No.	種別	器種	法 量			成形・調整・文様		推定値() 残存値 <> 丸底・
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	
1	弥生土器	甕	15.9	-	<12.8>	ヘラミガキ	ハケメ。櫛描波状文→ヘラミガキ	完全実測 No.2
2	弥生土器	甕	-	7.0	<10.3>	ヘラミガキ	櫛描波状文→ヘラミガキ	完全実測 No.1
3	弥生土器	甕	14.6	6.7	17.1	ヘラミガキ	櫛描波状文→ヘラミガキ	完全実測 No.3
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見	出土位置
4	台石		28.0	19.8	8.3	5610.00	正面が使用面。	No.4

(33) H33号住居址

ふ-62Grにあり、H21・H23に切れH31を切る。炉・ピット等調査範囲内にはない。床面は堅く平坦でH11・H12・H20・H27・H28・H30同様粘質土が床に張り付く。掘方はない。

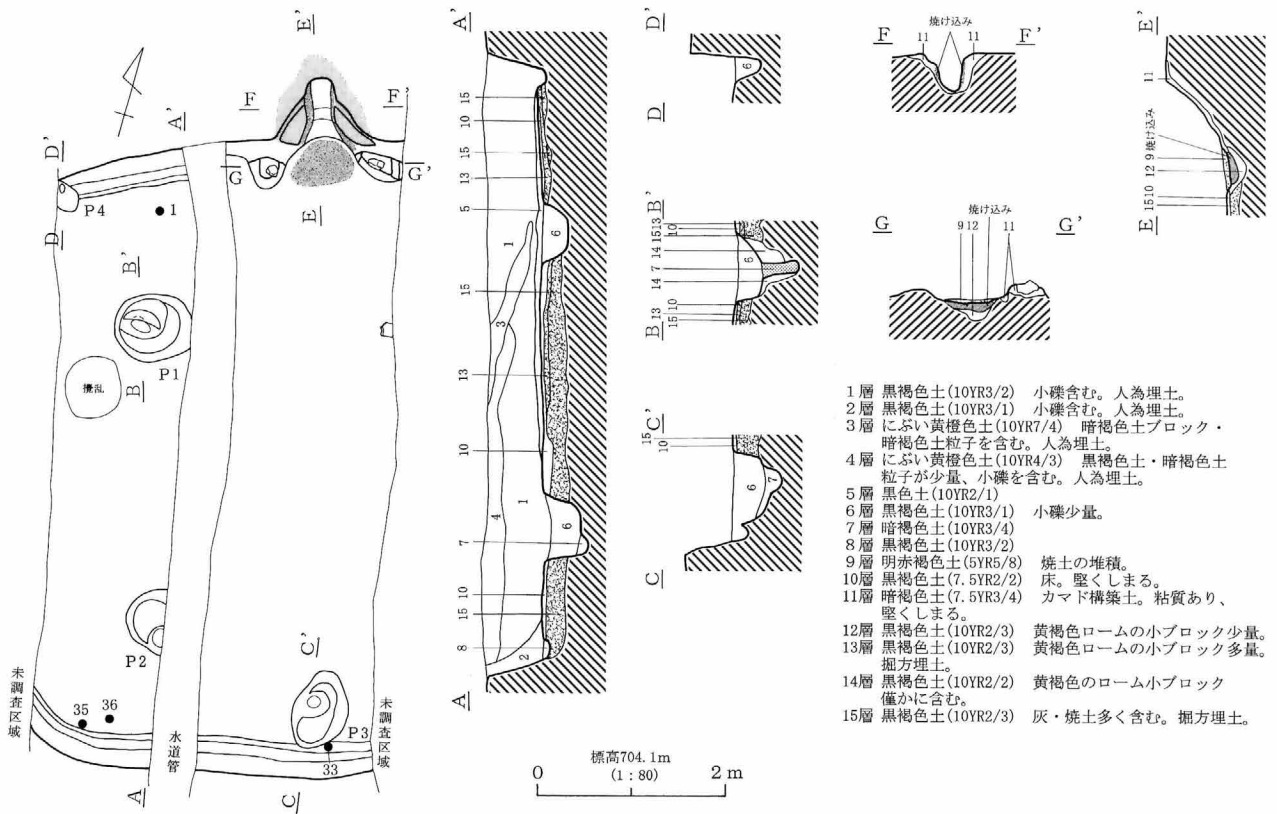
1の甕と重複関係から弥生時代後期箱清水期であろう。



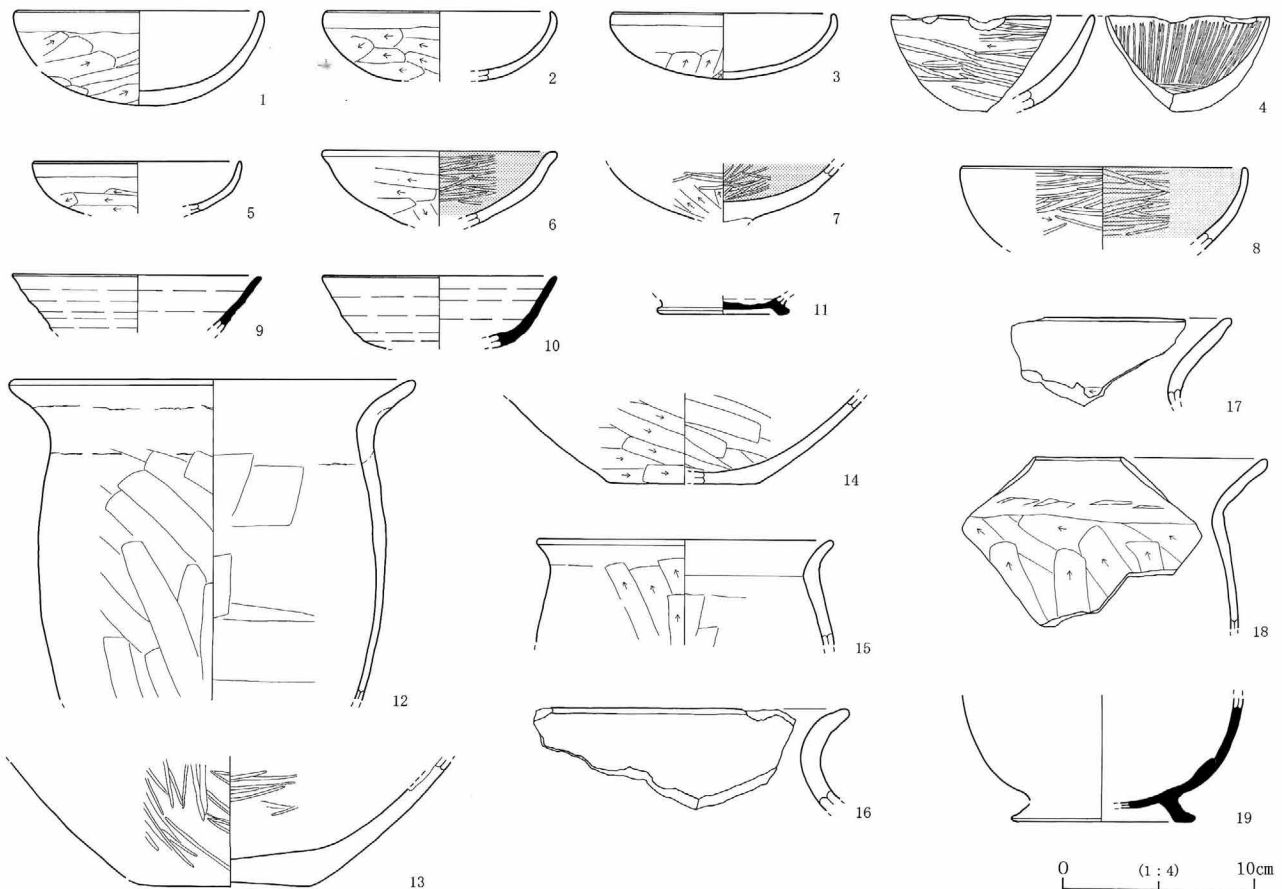
第101図 H33号住居址

(34) H34号住居址

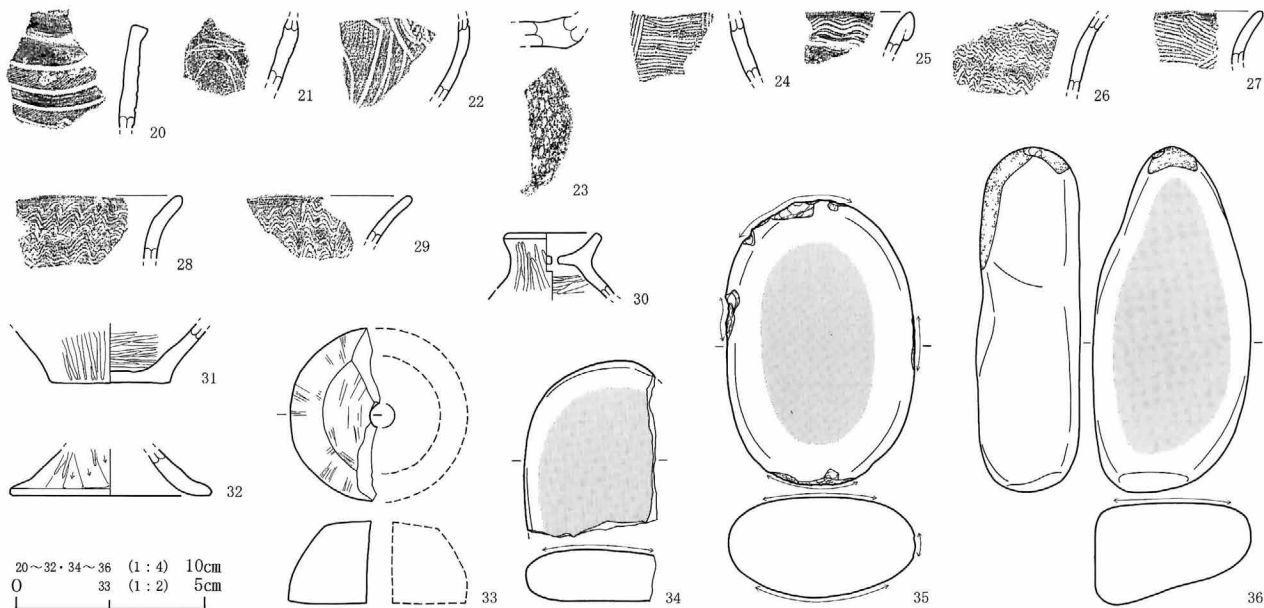
ふ-51~53Grにあり、H39を切る。カマドは北壁中央にあり、暗褐色土で構築された袖・煙道部



- 1層 黒褐色土(10YR3/2) 小礫含む。人為埋土。
- 2層 黒褐色土(10YR3/1) 小礫含む。人為埋土。
- 3層 にぶい黄褐色土(10YR7/4) 暗褐色土ブロック・暗褐色土粒子を含む。人為埋土。
- 4層 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 黒褐色土・暗褐色土粒子が少量、小礫を含む。人為埋土。
- 5層 黒色土(10YR2/1)
- 6層 黒褐色土(10YR3/1) 小礫少量。
- 7層 暗褐色土(10YR3/4)
- 8層 黒褐色土(10YR3/2)
- 9層 明赤褐色土(5YR5/8) 焼土の堆積。
- 10層 黒褐色土(7.5YR2/2) 床。堅くしまる。
- 11層 暗褐色土(7.5YR3/4) カマド構築土。粘質あり、堅くしまる。
- 12層 黒褐色土(10YR2/3) 黄褐色ロームの小ブロック少量。
- 13層 黒褐色土(10YR2/3) 黄褐色ロームの小ブロック多量。掘方埋土。
- 14層 黒褐色土(10YR2/2) 黄褐色のローム小ブロック僅かに含む。
- 15層 黒褐色土(10YR2/3) 灰・焼土多く含む。掘方埋土。



第102図 H34号住居址(1)



第103図 H34号住居址(1)

第61表 H34号住居址出土遺物観察表(1)

(cm・g)

H34			法量			成形・調整・文様		推定値() 残存値 < > 丸底・		
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	備考	出土位置	
1	土師器	坏	(13.2)	・	5.0	ナデ	口縁部ヨコナデ→体部ヘラケズリ	完全実測	Ⅱ区 No.1	
2	土師器	坏	(12.2)	・	<3.7>	ナデ	ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ	回転実測	I区覆土	
3	土師器	坏	(11.6)	・	3.5	ナデ	ナデ→ヘラケズリ。口縁部ヨコナデ	回転実測	Ⅲ区 Ⅱ区ホリ方 P1 H39	
4	土師器	坏	-	-	-	ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	破片実測	Ⅳ区覆土	
5	土師器	坏	(11.0)	・	<2.7>	ナデ	ナデ→ヘラケズリ。口縁部ヨコナデ	回転実測	カマド Ⅱ区ホリ方	
6	土師器	高坏	(12.4)	-	<3.9>	ヘラミガキ。黒色処理	ヘラケズリ	回転実測	I区 Ⅳ区	
7	土師器	高坏	-	-	<3.0>	ヘラミガキ。黒色処理	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	Ⅲ区覆土	
8	土師器	坏	(15.0)	-	<4.3>	ヘラミガキ。黒色処理	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	Ⅳ区覆土	
9	須恵器	坏	(13.2)	-	<3.0>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	Ⅳ区覆土	
10	須恵器	坏	(12.4)	・	<3.0>	ロクロナデ	ロクロナデ。底部手持ちヘラケズリ	回転実測	Ⅲ区覆土	
11	須恵器	有台坏	-	(7.0)	<1.0>	ロクロナデ	ロクロナデ。底部回転ヘラケズリ→高台貼付	回転実測	Ⅱ区覆土	
12	土師器	甕	(21.6)	-	<17.1>	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区覆土	
13	土師器	鉢	-	(9.6)	<6.9>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	Ⅱ区 カマド	
14	土師器	鉢	-	(8.0)	<4.8>	ヘラナデ→一部ヘラミガキ	ヘラケズリ→一部ヘラミガキ	回転実測	カマド	
15	土師器	甕	(15.6)	-	<5.4>	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	I・Ⅱ・Ⅲ区	
16	土師器	甕	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	破片実測	Ⅲ・Ⅳ区覆土	
17	土師器	甕	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ。ヘラケズリ	破片実測	Ⅲ区覆土	
18	土師器	甕	-	-	-	ヘラナデ	ヘラケズリ	破片実測	カマド	
19	須恵器	壺	-	9.6	<6.8>	ロクロナデ	ロクロナデ	当初横瓶に成形したものを器種変更し壺とした	Ⅲ区 H39	
20	弥生土器	蓋	5.2	-	<3.5>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	Ⅲ区覆土	
21	弥生土器	甕	-	(6.4)	<3.1>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	覆土	
22	弥生土器	台付甕	-	(10.6)	<2.4>	ナデ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	I区覆土	
20	縄文土器	注口土器	4条の平行沈線。縄文LR充填。						堀之内2	Ⅲ区覆土
21	縄文土器	深鉢	横位・弧状沈線(極細い沈線)。						称名寺	Ⅱ区覆土
22	縄文土器	深鉢	弧状の集合沈線、縄文RL。						堀之内1	I区覆土
23	縄文土器	深鉢	網代底。2本越2本潜り。						後期前半	カマド
24	弥生土器	壺	内面 ナデ。外面 櫛描T字文。							I区覆土
25	弥生土器	甕	折り返し口縁。内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。							I区覆土
26	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。							Ⅳ区覆土

H34号住居址出土遺物観察表(2)

(cm・g)

No.	種別	器種	所 見				備 考	出土位置
27	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描斜走文。					Ⅲ区覆土
28	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。					Ⅲ区覆土
29	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。					カマド
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見	出土位置
33	紡錘者		最大径 (4.6)	最少径 (3.1)	<2.2>	<31.97>	孔径(0.6)。右側欠損。	No.3
34	磨石		<9.4>	<7.1>	<2.8>	<317.63>	正面にすり面。右側~下側欠損。	Ⅲ区覆土
35	磨・敲石		15.1	10.0	5.3	1293.19	正裏にすり面。縁辺に敲打痕。	No.4
36	磨・敲石		18.4	8.4	5.3	1301.45	正面にすり面。上端部に敲打痕。	No.5

分と焼土が堆積する火床が残存する。ピットは4個検出された。P1の柱痕18cm、支柱穴P1・P2は桁行340cmを測る。P3カマドに対峙し位置的に出入り口の基礎であろう。P4は壁柱穴。床は堅く締まり平坦、20cmほどの掘方には灰と焼土が多く含まれる。カマド西の北壁・南壁下を壁溝が巡る。覆土1~4層は人為埋土である。獣類四肢骨の破片がP4南の床面から検出された。

遺物は、土師器坏(1~5・8)・高坏(6・7)・鉢(13・14)・甕(12・15~18)、須恵器坏(9・10)・有台坏(11)・壺(19)、紡錘車(33)、磨石(34)、磨面持つ敲石(35・36)、混入遺物である縄文時代後期称名寺式・堀之内1式・堀之内2式の深鉢片、弥生時代後期壺・甕・台付甕・蓋がある。

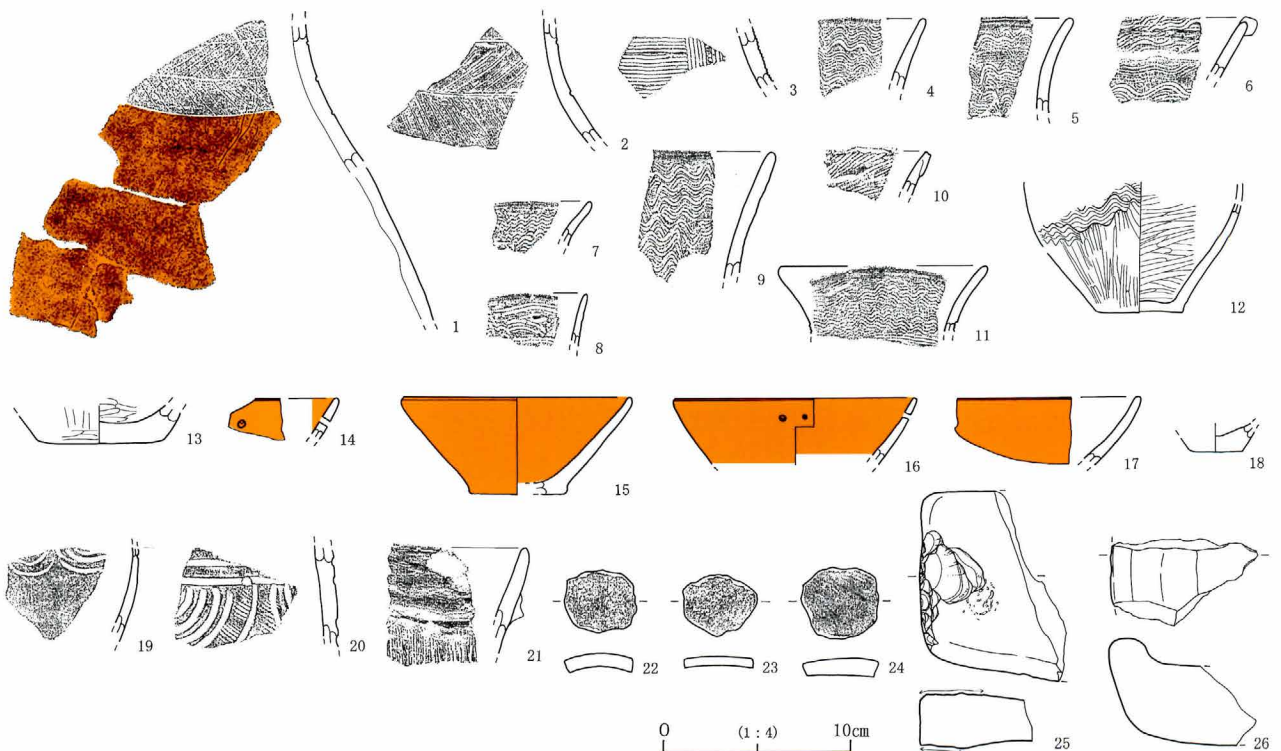
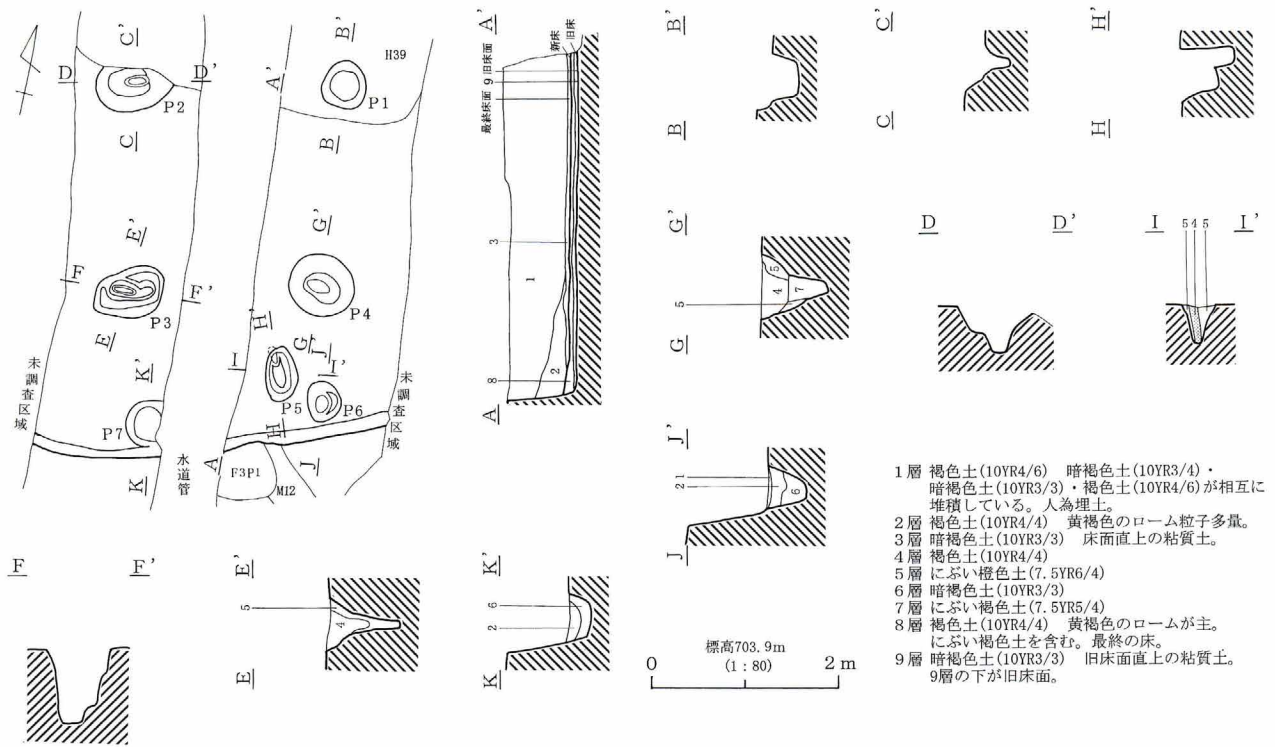
土師器坏1~5・8は半球状の坏、8の坏と6・7の高坏坏部は内面黒色処理される。10の須恵器坏底部は手持ちヘラケズリ、11の有台坏は底部回転ヘラケズリ後高台貼付。土師器甕は、器肉厚く胴部長く縦長のヘラケズリされる12や口縁部「く」字の武蔵甕17・18がある。19の須恵器壺は、当初横瓶に成形調整した後器種変更されて壺として焼成されたようである。本址はこれらの遺物から小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代I期-8世紀第1四半期に位置づけられる。

(35) H35号住居址

第62表 H35号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

H35			法 量			成 形 ・ 調 整 ・ 文 様		推定値() 残存値 < > 丸底・	
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
12	弥生土器	甕	-	4.6	<6.9>	ヘラミガキ	櫛描波状文→ヘラミガキ	完全実測	P3
13	弥生土器	甕	-	6.6	<2.0>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	E区覆土
14	弥生土器	鉢	-	-	-	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	破片実測 焼成前穿孔2カ所あり	S区覆土
15	弥生土器	鉢	(12.3)	(5.0)	5.1	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	回転実測	S区覆土
16	弥生土器	鉢	(13.0)	-	<3.5>	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	回転実測	N・S区覆土
17	弥生土器	鉢	-	-	-	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	破片実測	S区覆土
18	弥生土器	手づくね土器	-	2.8	<1.5>	ナデ	ナデ	完全実測	N区覆土
1	弥生土器	壺	内面 ナデ。外面 ヘラ描横位沈線内に横位羽状ヘラ描斜走文→赤色塗彩。			断面実測		N区覆土	
2	弥生土器	壺	内面 ナデ。外面 横位ヘラ描沈線内に横位羽状のヘラ描斜走文→赤色塗彩。			断面実測		S区覆土	
3	弥生土器	壺	内面 ナデ・赤色塗彩。外面 櫛描T字文。			断面実測		S区覆土	
4	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。			断面実測		S区覆土	
5	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。			断面実測		E区覆土	
6	弥生土器	甕	折り返し口縁。内面 ヘラミガキ。外面 口唇部~口縁部櫛描波状文。			断面実測		覆土	
7	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文→櫛描簾状文。			断面実測		S区覆土	
8	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文→櫛描簾状文。			断面実測		S区覆土	
9	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。			断面実測		S区覆土	
10	弥生土器	甕	折り返し口縁。内面 ヘラミガキ。外面 口唇部~口縁部櫛描斜走文。			断面実測		S区覆土	
11	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文→櫛描簾状文。			断面実測		S区覆土	
19	縄文土器	注口土器	内外面 ミガキ。弧状の集合沈線。			堀之内		S区覆土	
20	縄文土器	深鉢	横位2条の沈線下に弧状の集合沈線。縄文LR充填。			堀之内1		N区覆土	
21	縄文土器	深鉢	口縁部下に横位隆帯。隆帯下に櫛歯状工具による垂下沈線。			称名寺		N区覆土	
22	弥生土器	土製品	土器片円板。高坏脚部片。敲打痕。研磨痕。表面赤色塗彩。裏面ナデ。長辺3.8 厚さ0.7。			破片実測		S区覆土	
23	弥生土器	土製品	土器片円板。鉢か高坏片。剝離痕。表裏面赤色塗彩。最大幅3.8 厚さ0.5。			破片実測		N区覆土	
24	弥生土器	土製品	土器片円板。甕胴部片。表面ヘラミガキ。裏面ナデ。長辺4.1 短辺3.8 厚さ0.9。			破片実測		S区覆土	
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見	出土位置	
25	敲石		<10.1>	<7.7>	<3.0>	<392.23>	右側欠損。正裏に敲打痕。	P6	
26	石皿		<4.7>	<7.8>	<4.2>	<136.63>	左側以外欠損。	N区覆土	



第104図 H35号住居址

ふ-53・54Grにあり、H38・H39・F3・M12に切られる。炉は水道管の下に位置するとみられる。主柱穴P1～P4でP2・P3の柱は五平状とみられる。桁行き・梁行き共に2.2mを測る。出入口施設の基礎であろうP5の柱痕は住居の外方に傾く。P6・P7は貯蔵穴であろうか。新旧2面の床面は双方とも堅く平坦で旧の床面直上には、H11・H12・H20・H27・H28・H30・H33同様暗褐色の粘質

土が床に張り付く。覆土第1・2層は、人為埋土である。

遺物は壺(1~3)・甕(4~13)・鉢(14~17)・手捏土器(18)の弥生土器、土製品(22~24)、敲石(25)、本址に伴わない縄文後期堀之内式深鉢片(20・21)がある。

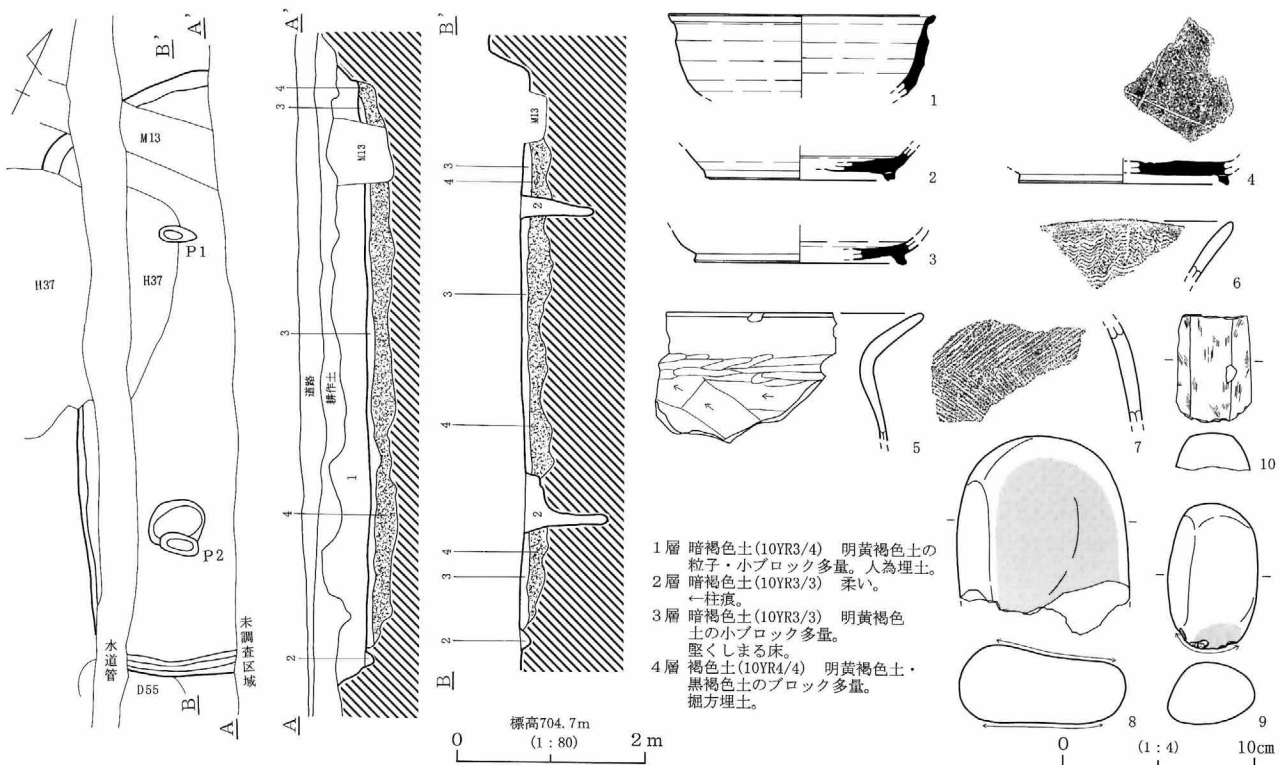
1・2の壺は、外面壺赤色塗彩され横位羽状のへら描斜走文が施文される。2・3は、内面頸部まで赤色塗彩され、3は頸部櫛描T字文が施される。4~9・11の甕は口縁部に櫛描波状文が、6の甕は折り返し口縁を持ち口唇部から口縁部櫛描波状文が施される。10は折り返し口縁を持ち口唇部から口縁部櫛描斜走文が施される。14~17は、内外面赤色塗彩される。土製品22~24は、土器片円板である。22は表面赤色塗彩の高坏脚部片で、側面に敲打痕・研磨痕が認められる。23は表裏面積際のこれら赤彩の鉢か高坏片で、剥離痕が見られる。24は甕胴部片である。

これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

(36) H36号住居址

ふ-48・49Grにあり、H37・D55・M13に切られる。カマドは調査範囲にない。支柱穴P1・P2の柱は五平状とみられる。桁行き2.3mを測る。床は堅く平坦で、覆土第1層は人為埋土である。

遺物は、土師器甕(5)、須恵器碗か坏(1)・有台坏(2~4)、磨石(8)、敲石(9)、面取状に加工



第105図 H36号住居址

第63表 西近津遺跡IV H36号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

H36			法 量			成形・調整・文様			推定値() 残存値 < > 丸底・	
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置	
1	須恵器	鉢か高坏	(14.0)	-	<4.4>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	S区覆土	
2	須恵器	有台坏	-	(10.0)	<1.8>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部切り離し後高台貼付	回転実測	確認面	
3	須恵器	有台坏	-	(11.0)	<2.0>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転へら切り後高台貼付	回転実測	確認面	
4	須恵器	有台坏	-	(11.0)	<1.3>	ロクロナデ。へら記号あり	ロクロナデ→底部回転へら切り後高台貼付	回転実測	N区覆土	
5	土師器	甕	内面 へらナデ ヨコナデ。外面 口辺部ヨコナデ 胴部へらケズリ。					破片実測	覆土	
6	弥生土器	甕	内面 へらミガキ。外面 櫛描波状文。					断面実測	確認面	
7	弥生土器	甕	内面 へらナデ。外面 横位波状の櫛描斜走文。					断面実測	確認面	
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見	出 土 位 置		
8	磨石		<10.5>	<9.2>	<4.2>	<578.68>	下部欠損。正裏にすり面。	確認面		
9	敲石		7.8	4.6	3.3	168.16	下端部に敲打痕。下部に赤色の付着物か?	覆土		
10	不明		<5.7>	<3.9>	<1.8>	<88.08>	全周欠損。面取り状に研磨。	P1		

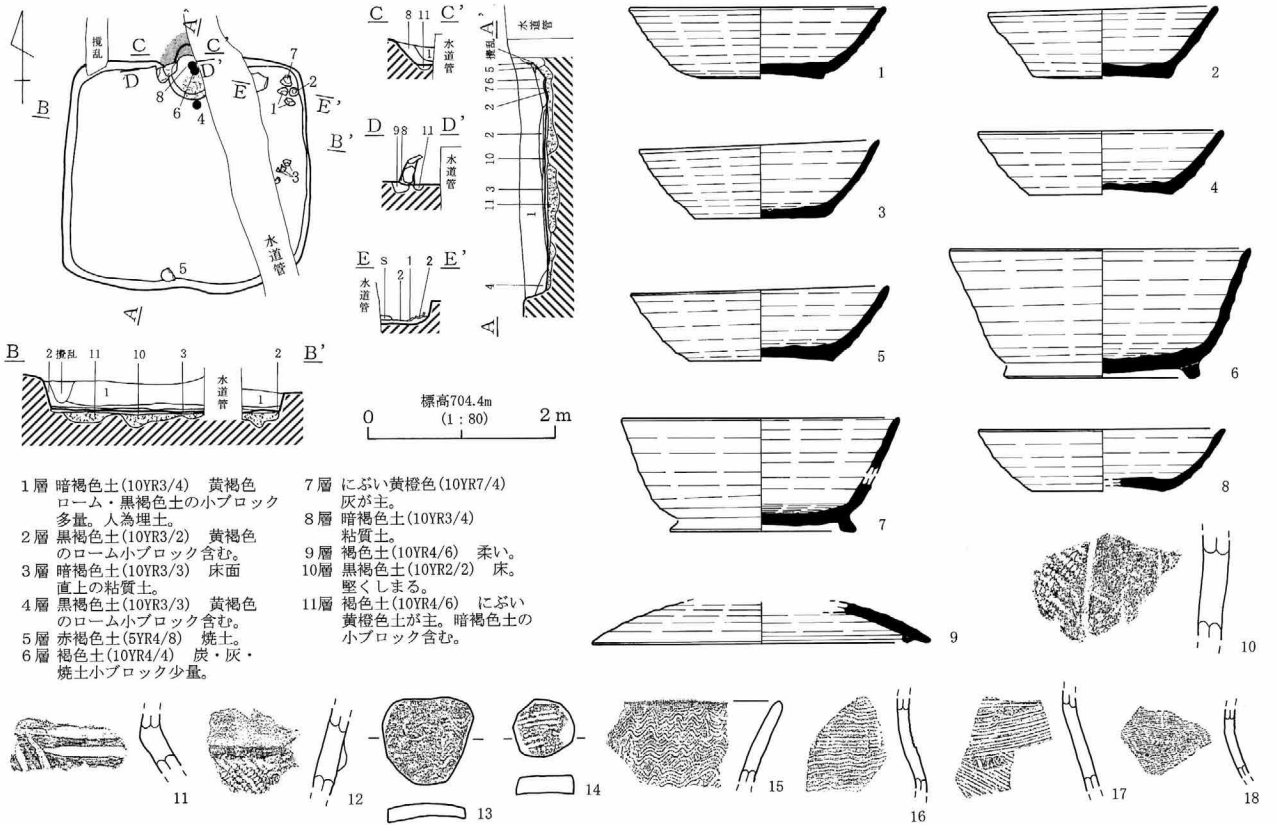
した石器(10)、混入遺物である弥生時代後期甕がある。

須恵器有台坏3・4の底部は、回転ヘラ切り後高台貼付される。土師器甕は、口縁部「く」字の武蔵甕で、口縁部に最大径がある。

これらから、小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代I期-8世紀第1四半期に位置づけられる。

(37) H37号住居址

ふ-48・49Grにあり、H36・D56を切る。カマドは北壁中央にあり、礫を芯材とし暗褐色の粘質土で構築された袖・煙道部の一部、火床が残存する。柱穴等は検出されない。床は堅く締まりほぼ平坦



- 1層 暗褐色土(10YR3/4) 黄褐色ローム・黒褐色土の小ブロック多量。人為埋土。
- 2層 黒褐色土(10YR3/2) 黄褐色のローム小ブロック含む。
- 3層 暗褐色土(10YR3/3) 床面直上の粘質土。
- 4層 黒褐色土(10YR3/3) 黄褐色のローム小ブロック含む。
- 5層 赤褐色土(5YR4/8) 焼土。
- 6層 褐色土(10YR4/4) 炭・灰・焼土小ブロック少量。
- 7層 黄褐色(10YR7/4) 灰が主。
- 8層 暗褐色土(10YR3/4) 粘質土。
- 9層 褐色土(10YR4/6) 柔い。
- 10層 黒褐色土(10YR2/2) 床。堅く締まる。
- 11層 褐色土(10YR4/6) 黄褐色土の小ブロック含む。

第106図 H37号住居址

第64表 H37号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様		備考	推定値() 残存値 < > 丸底・出土位置
			口徑(長)	底徑(幅)	器高(厚)	内面	外面		
1	須恵器	坏	13.7	6.8	3.9	ロクロナデ	ロクロナデ→底部右回転糸切り	完全実測 内外面火だすき有	No.2 No.4
2	須恵器	坏	12.1	7.2	3.8	ロクロナデ	ロクロナデ→底部右回転糸切り	完全実測 内外面火だすき有	No.3
3	須恵器	坏	12.8	7.0	4.1	ロクロナデ	ロクロナデ→底部右回転糸切り	完全実測 内外面火だすき有	No.5・6・7
4	須恵器	坏	(13.0)	(7.6)	3.4	ロクロナデ	ロクロナデ→底部右回転糸切り	回転実測 内外面火だすき有	No.9
5	須恵器	坏	13.7	7.6	4.0	ロクロナデ	ロクロナデ→底部右回転糸切り	完全実測 内外面火だすき有	No.10
6	須恵器	高台坏	15.9	(10.4)	6.9	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ。高台貼付	完全実測	I区 IV区 床 No.14
7	須恵器	高台坏	(14.8)	(9.8)	6.1	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ→高台貼付	完全実測	No.1
8	須恵器	高台坏	(13.0)	-	<3.4>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部右回転糸切り。高台欠損	回転実測 内外面火だすき有	I区 No.13
9	須恵器	甕	(18.0)	-	<2.2>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測 返りを有す	I区 IV区
10	縄文土器	深鉢	垂下する沈線。縄文LR。					中期後葉	IV区覆土
11	縄文土器	深鉢	横位・弧状の集合沈線。					堀之内1	II区覆土
12	縄文土器	深鉢	横位隆帯文上縄文LR。					中期後葉	II区ホリ方
13	弥生土器	土器片円板	甕胴部片。研磨痕。櫛描波状文。最大幅4.7 厚さ0.8。					破片実測	III区覆土
14	縄文土器	土器片円板	胴部片。敲打痕。縄文LR。径3.3 厚さ1.0。					後期前半	IV区覆土
15	弥生土器	甕	内面ミガキ。外面櫛描波状文。					断面実測	III区ホリ方
16	弥生土器	甕	内面ミガキ。外面口縁部と胴部の櫛描波状文→頸部櫛描波状文。					断面実測	III区ホリ方
17	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面櫛描横線文→横位羽状の櫛描斜走文。					断面実測	IV区覆土
18	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面櫛描波状文→櫛描波状文。					断面実測	IV区覆土

である。覆土第1層は人為埋土である。カマド東脇床面には、平石が見られた。第105図1・2・7が北東隅の床面、4・6・8がカマド内、3が東壁中央下の床面から出土した。

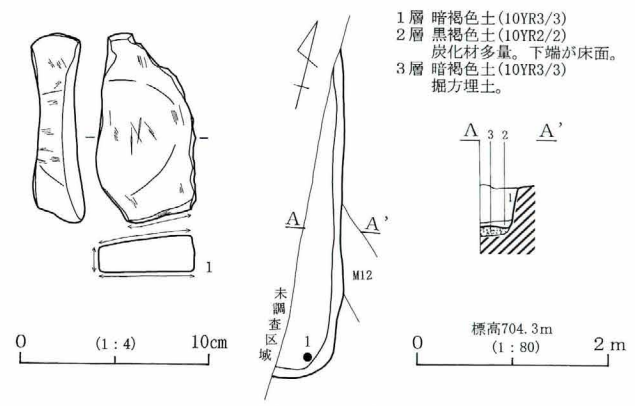
遺物は、須恵器坏(1~5)・有台坏(6~8)・蓋(9)、混入遺物である縄文時代中期後葉・後期前半の深鉢(10~12)・弥生時代後期甕(15~18)、土製品(13・14)がある。カマド内灰から獣類部位不明焼骨片出土。1~5・8の底部回転糸切り、6・7の底部回転糸切り後に回転ヘラケズリ。9は、僅かなかえりを有す。13は弥生時代後期甕片を加工した土器片円板、側面に研磨痕。14は縄文時代後期前半深鉢を加工した土器片円板。側面に敲打痕。

これらから本址は、小林眞寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代Ⅲ期- 8世紀第3四半期に位置づけられる。

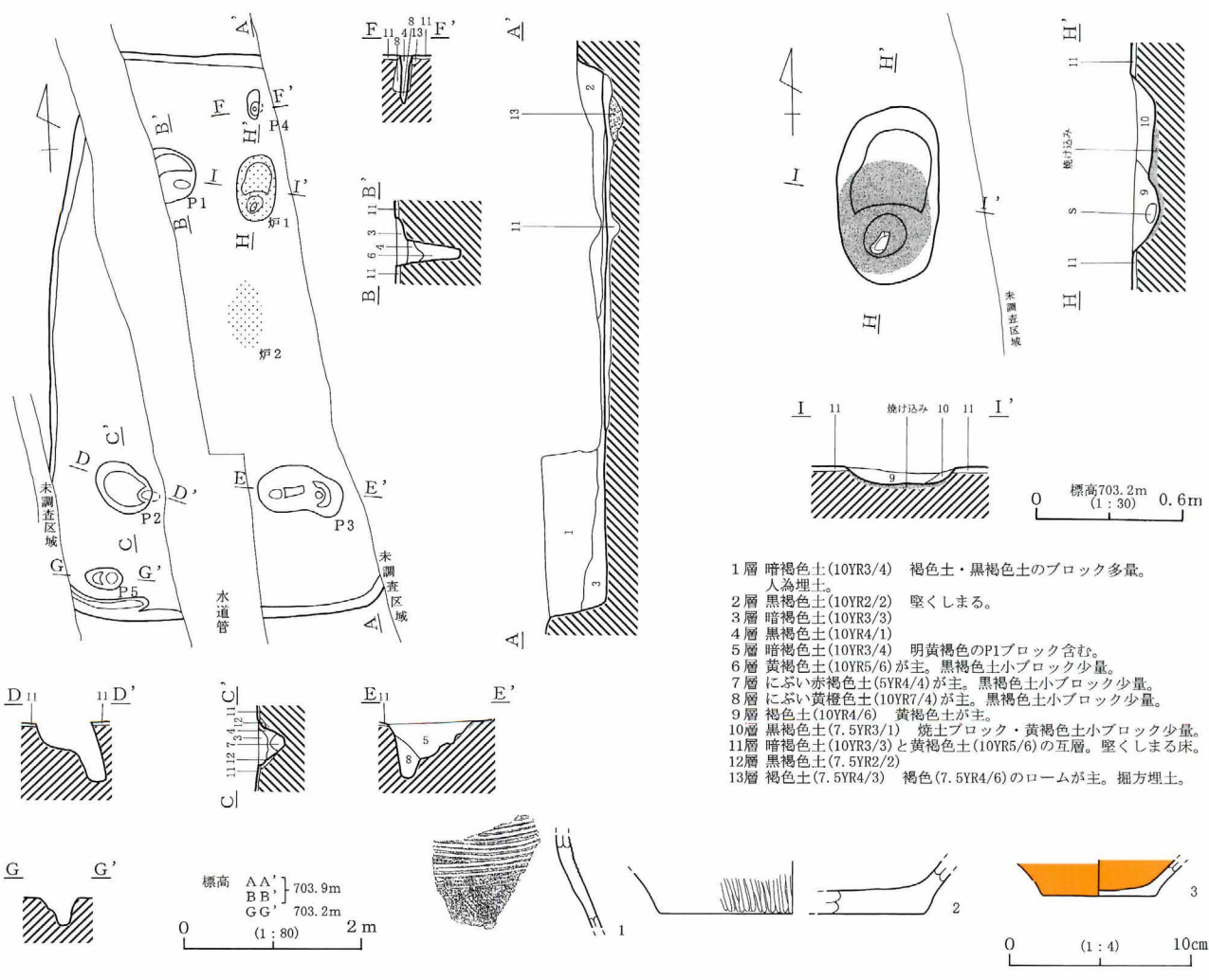
(38) H38号住居址

ふ-48・49GrにありH35を切り、M12に切られる。カマド・柱穴等調査範囲内にはない。床は堅く締めりほぼ平坦。覆土第2層は炭化材を多量に含む。第107図1の砥石は、最大長10cm最大幅5.3cm最大厚2.5cm重量162.16g、砥面数4、右側欠損後も使用。本址の時期等詳細は不明である

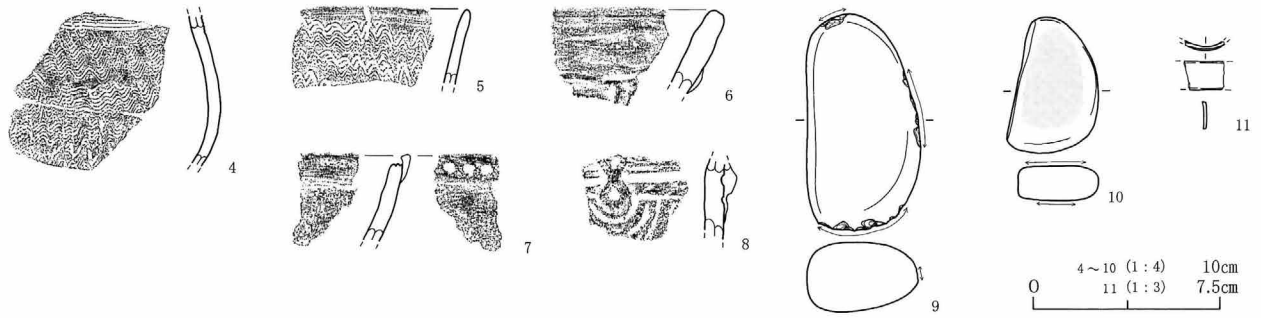
(39) H39号住居址



第107図 H38号住居址



第108図 H39号住居址



第109図 H39号住居址

第65表 H39号住居址出土遺物観察表

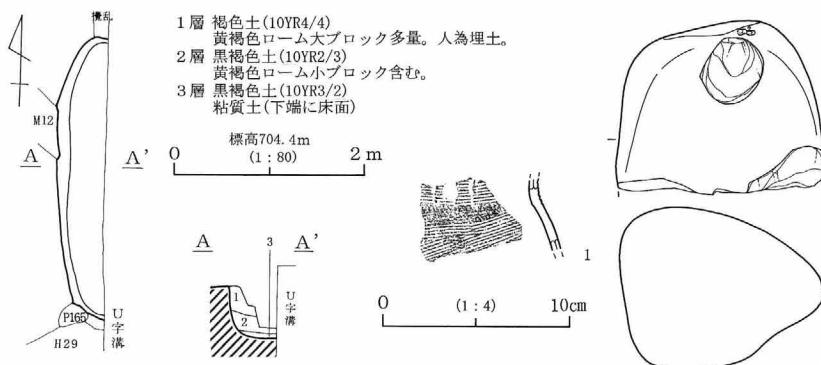
(cm・g)

H39		法 量			成形・調整・文様		推定値() 残存値 < > 丸底			
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置	
2	弥生土器	壺	-	(14.8)	<3.0>	ナデ	ヘラミガキ	回転実測	P2	
3	弥生土器	鉢	-	6.3	<2.1>	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測	覆土	
1	弥生土器	壺	内面 ナデ。外面 櫛描横走文。						断面実測	W区覆土
4	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文→櫛描簾状文。						断面実測	E区覆土
5	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。						断面実測	ホリ方
6	縄文土器	深鉢	所謂粗製深鉢。口縁部下に横位隆帯。						称名寺	E区覆土
7	縄文土器	深鉢	口縁部内折。口縁部に沿って円形刺突。						称名寺	覆土
8	縄文土器		横位の集合沈線上の8字状貼付文を起点に重弧状の集合沈線。						堀之内1	ホリ方
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見		出土位置	
9	敲石		11.5	6.1	4.0	432.92	上下端部と右側に敲打痕。		炉	
10	磨石		7.2	4.8	1.9	97.70	正裏にすり面。		W区覆土	
11	釧	銅	<1.6>	<1.1>	<0.1>	<1.14>	両端欠損。		覆土	

ひ・ふ-52~53GrにありH34切られH35を切る。炉は2カ所から検出された。支柱穴P1・P2間の炉1は主炉で、北側にテラスを持つ地床炉である。底面にあった敲石(第109図9)は炉縁石が移動したのかは定かでない。炉底面はよく焼け込んでいる。炉1南65cmの住居主軸線上の炉2は、床面からの掘り込みは見られず、南北80cm東西40cmの楕円形状によく焼け込んでいる。ピットは5個検出され、P1~P3の支柱穴は掘方からP4の棟持柱と共に五平状の柱が考えられる。P2は外側に向けて傾斜している。P5は壁柱穴。P1とP2の桁行き350cm・P2とP3の梁行き160cmを測る。敲き床の床面は堅く平坦で、掘方は北側に僅か認められる。南壁西側部分に壁溝がある。覆土第1層は、人為埋土である。

遺物は壺(1・2)・甕(4・5)・鉢(3)の弥生土器、敲石(9・10)、銅釧(11)、本址に伴わない縄文後期称名寺式・堀之内1式深鉢片(6~8)がある。

1の無彩の壺は、頸部に櫛描横走文が施文される。4の甕は胴部櫛描波状文後頸部櫛描簾状文が施される。3の鉢は、内外面赤色塗彩される。



第110図 H40号住居址

第66表 H40号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

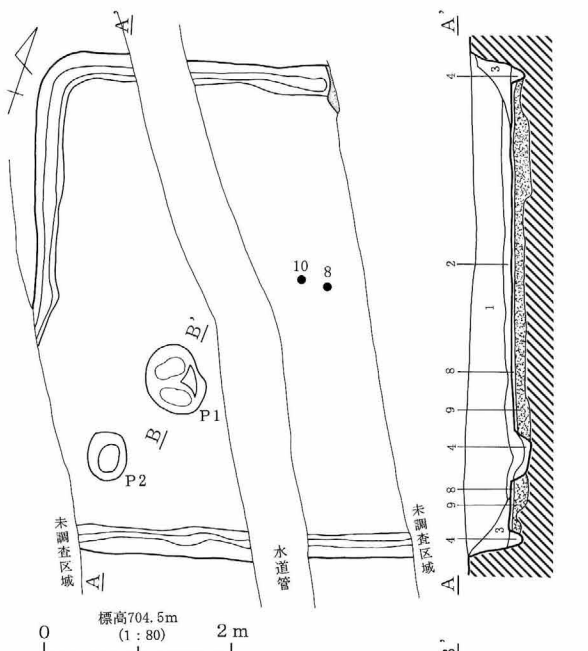
No.	種別	器種	文 様 ・ 調 整				備 考	出土位置
1	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描簾状文。櫛描斜走文。				断面実測	覆土
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見	出土位置
2	敲石		<9.3>	<11.1>	<8.8>	<1218.16>	被熱あり?(一部黒褐色化)下部欠損。正面に敲打痕。	覆土

これらの遺物から本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

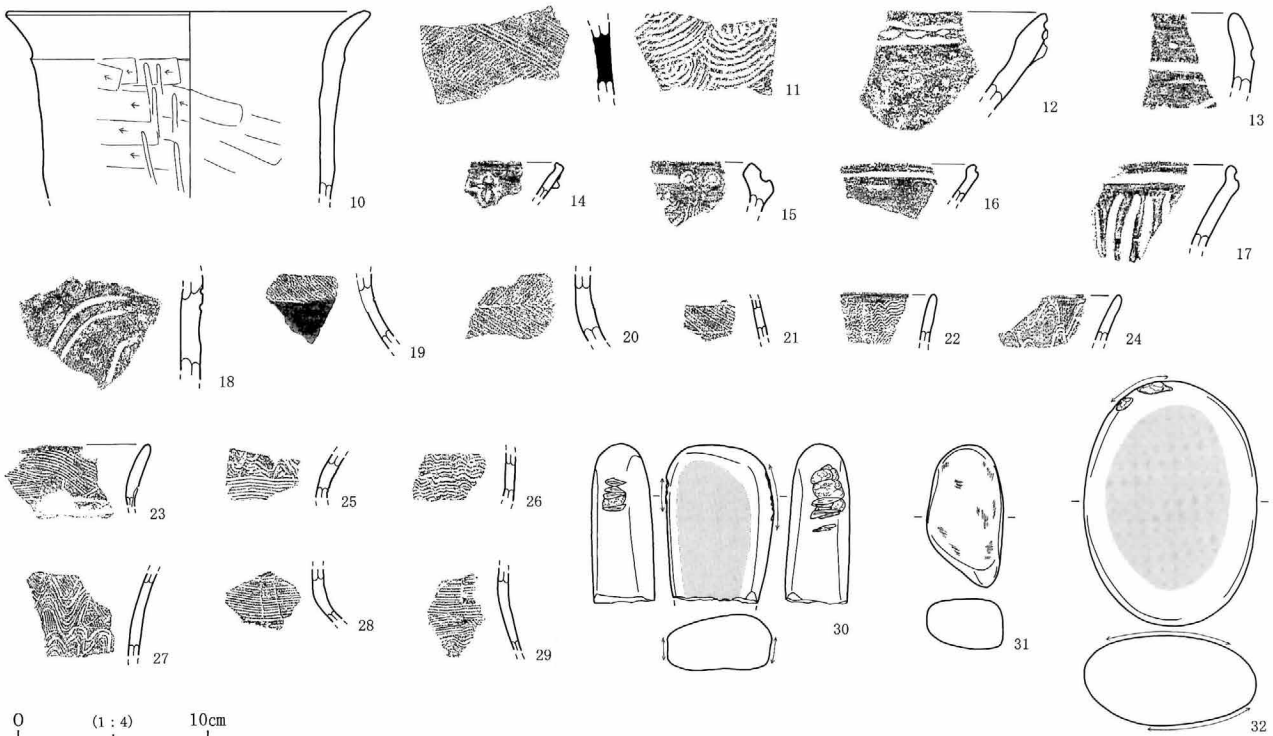
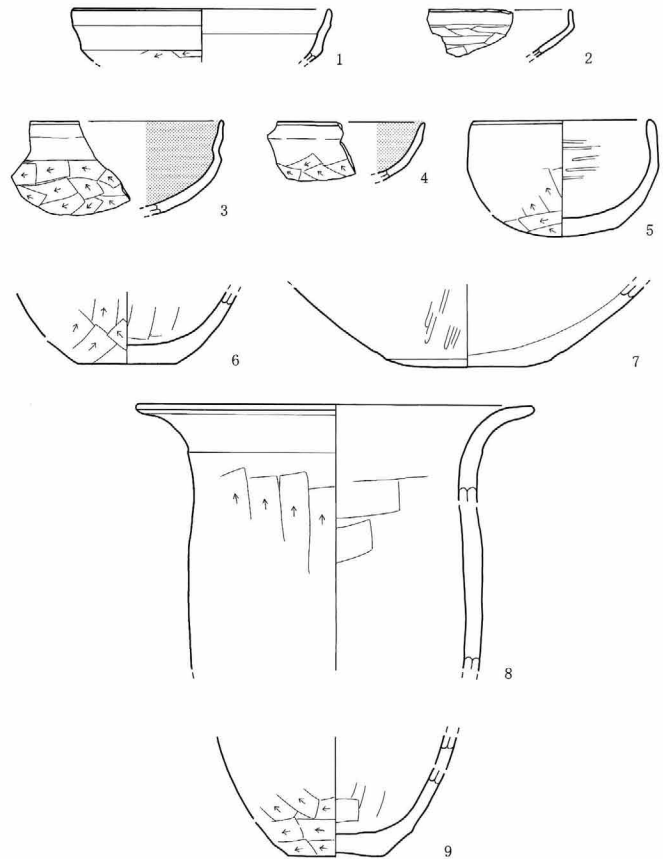
(40) H40号住居址

ひ-54・55GrにありH29・M12・P165に切られる。調査範囲内で炉・柱穴等見られない。覆土第1層は人為埋土。床面直上に粘質土が張り付く。時期はH29との関係で弥生時代後期かそれ以前である。

(41) H41号住居址



- 1層 にぶい黄褐色土・黒褐色土・黒色土がブロック・レンズ状に堆積する。人為埋土。
- 2層 黒褐色土(10YR2/3) にぶい黄褐色土ブロック少量。人為堆積。
- 3層 黒褐色土(10YR3/1) にぶい黄褐色土ブロックを少量含む。人為堆積。
- 4層 暗褐色土(10YR3/4) 柔い。
- 5層 黒褐色土(10YR4/1) 柔い。柱痕。
- 6層 にぶい黄褐色土(10YR5/3) 黒色土ブロック僅かに含む。
- 7層 灰黄褐色土(10YR4/2) 暗褐色土ブロック多量に含む。
- 8層 暗褐色土(10YR3/4) にぶい黄褐色土の小ブロック多量に含む。堅くしまる。
- 9層 褐色土(10YR4/4) にぶい黄褐色土・褐色土が主。黒褐色土の小ブロック少量。掘方埋土。



第111図 H41号住居址

第67表 H41号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

H41		法 量			成 形 ・ 調 整 ・ 文 様			推定値() 残存値 < > 丸底・	
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
1	土師器	坏	(13.4)	-	<2.8>	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ 底部ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区 Ⅲ区
2	土師器	坏	-	-	<2.5>	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ 底部ヘラケズリ	破片実測	I区
3	土師器	坏	-	-	<5.0>	ヨコナデ→黒色処理	口クロナデ 底部ヘラケズリ	破片実測	Ⅱ区
4	土師器	坏	-	-	<3.1>	ヘラミガキ→黒色処理	口クロナデ 底部ヘラケズリ	破片実測	覆土
5	土師器	鉢	(9.2)	-	6.2	ヘラミガキ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区
6	土師器	甕	-	5.2	<3.8>	ナデ	ヘラケズリ	完全実測	I区
7	土師器	壺	-	(8.8)	<4.4>	摩耗している	ヘラミガキ 摩耗している	回転実測	Ⅲ区
8	土師器	甕	(20.8)	-	<14.1>	口縁部ヨコナデ 胸部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ 胸部ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区 No.1
9	土師器	甕	-	5.0	<6.4>	ヘラナデ	ヘラケズリ	完全実測	Ⅲ区
10	土師器	甕	(19.2)	-	<9.9>	口縁部ヨコナデ 胸部ナデ	口縁部ヨコナデ 胸部ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	I区 No.2
11	須恵器	甕	-	-	-	同心円文当て具痕		断面実測	Ⅲ区
12	縄文土器	深鉢	口縁に沿って2条の沈線下に連続刺突。					称名寺	覆土
13	縄文土器	深鉢	口縁部下横位沈線。					後期初頭	I区
14	縄文土器	深鉢	口縁部内折。口縁下横位刻み隆線上に8字状貼付文。					堀之内2	Ⅲ区
15	縄文土器	深鉢	口縁部内折。2個の円形刺突から横位の沈線。その下斜位の沈線。					堀之内1	I区
16	縄文土器	深鉢	口縁部内折。口縁に沿って横位沈線。					堀之内1	Ⅱ区
17	縄文土器	深鉢	口縁に沿った沈線の下 2条1対の沈線が垂下。					堀之内1	Ⅲ区
18	縄文土器	深鉢	弧状の沈線区画。					称名寺	Ⅲ区
19	弥生土器	壺	内面 赤色塗彩。外面 ヘラ描沈線文内にヘラ描斜走文→赤色塗彩。					断面実測	ホリ方
20	弥生土器	壺	内面 ナデ。外面 ヘラ描沈線文内に横位羽状。ヘラ描斜走文。					断面実測	覆土
21	弥生土器	壺	内面 ナデ。外面 ヘラ描沈線文内にヘラ描斜走文・刺突を充填したヘラ描鋸歯文。					断面実測	Ⅲ区
22	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。					断面実測	Ⅲ区
23	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描斜走文。					断面実測	Ⅲ区
24	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。					断面実測	覆土
25	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文→櫛描横線文。					断面実測	Ⅲ区
26	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。					断面実測	覆土
27	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。					断面実測	覆土
28	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描簾状文。					断面実測	覆土
29	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描簾状文。櫛描波状文。					断面実測	Ⅱ区
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見	出土位置	
30	磨・敲石		<8.5>	<5.6>	<3.2>	<273.97>	正面にすり面。両側に敲打痕と条痕。	I区	
31	磨石		7.6	4.1	2.8	137.64	被熱あり? (裏面赤化)全体にすり。	覆土	
32	磨・敲石		13.1	9.0	5.0	911.08	上端部に敲打痕。正裏にすり面。	覆土	

ほ・ま-46・47GrにありH42を切る。カマドは北壁東寄りに、粘土・焼土を検出しのみで大半が調査区域外に伸びる。ピットは2個検出され、支柱穴P1は径24cmの柱痕が確認された。深さ22cmのP2は支柱であろう。床は平坦で堅く締まる。北壁・南壁・西壁下には壁溝が巡る。覆土1～3層は人為埋土。

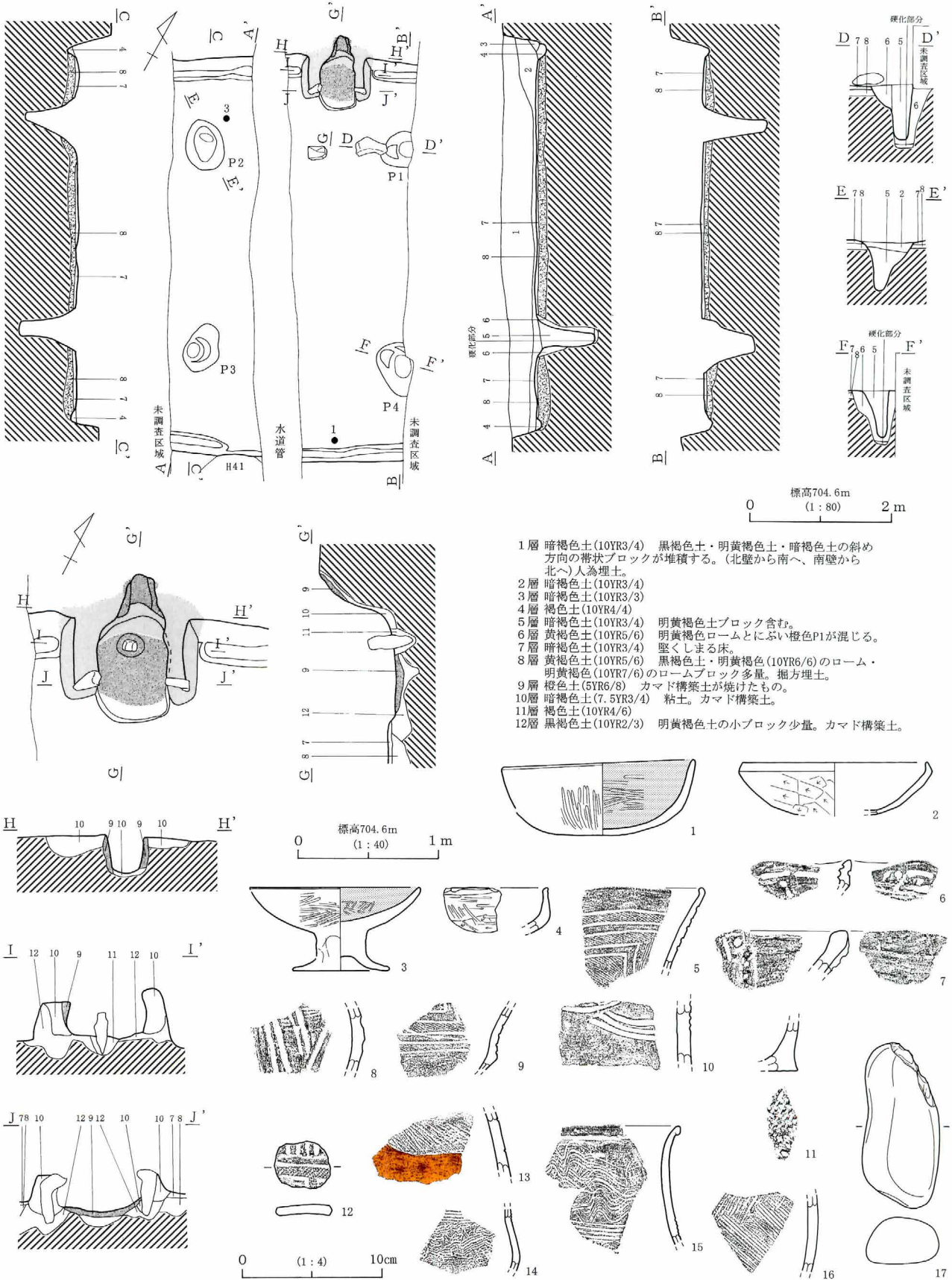
遺物は、土師器坏(1～4)、土師器鉢(5)、土師器甕(6・8・9)、土師器壺(7)、土師器甕(10)、須恵器甕(11)、石器(30～31)、本址に伴わない縄文時代後期土器称名寺式深鉢(12・18)、堀之内式1深鉢(12～18)、弥生時代後期箱清水式土器壺(19～21)・甕(22～29)がある。

土師器坏は須恵器坏蓋模倣1・3、須恵器坏身模倣2、半球状4があり、3・4が内面黒色処理される。甕8は、口縁部に最大径がある。

本址はこれらの遺物より小林真寿の編年(2005聖原)古墳時代Ⅳ期-7世紀代に位置づけられる。

(42) H42号住居址

ほ・ま-45・46GrにありH47を切り、H41に切られる。カマドは北壁に、袖部芯材にL字形に加工した軽石を用い、暗褐色の粘土・黒褐色土で構築されていた。火床に熔結凝灰岩を加工した支脚石が残る。火床と煙道部・袖部の内側が焼け込んでいる。ピットは4個検出され、支柱穴P1・P3・P4は径30cmの柱痕が確認された。P4の底面は荷重によるものか、硬化している。桁行き3.0m梁行き3.0mを測る。床は平坦で堅く締まる。北壁・南壁下には壁溝が巡る。覆土1層は、黒褐色土・明黄褐色



第112図 H42号住居址

第68表 H42号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

H42			法 量			成形・調整・文様			推定値() 残存値 < > 丸底・	
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面		外 面	備 考	出土位置
1	土師器	坏	(13.4)	・	5.1	ヘラミガキ→黒色処理		ヘラミガキ	完全実測	No.2
2	土師器	坏	(13.0)	・	<3.7>	ヨコナデ		ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区覆土
3	土師器	高坏	(12.0)	(6.2)	6.0	坏部ヘラミガキ→黒色処理。脚部ナデ		坏部ヘラミガキ。脚部ナデ	完全実測	No.1
4	土師器	手づくね土器	-	-	-	ヘラミガキ		ナデ。底部ヘラケズリ→ヘラミガキ	破片実測	確認面
5	縄文土器	深鉢	□縁部内折。幾何学文。縄文RL充填。						堀之内2	確認面
6	縄文土器	深鉢	小突起に円形刺突と横位沈線。						堀之内1	覆土
7	縄文土器	深鉢	小突起に縦位沈線と盲孔。そこから垂下する刻み隆帯。						堀之内1	Ⅱ区覆土
8	縄文土器	深鉢	斜行集合沈線。縄文LR。						堀之内1	Ⅳ区覆土
9	縄文土器	深鉢	幾何学文。縄文LR。						堀之内2	確認面
10	縄文土器	深鉢	弧状の集合沈線。						堀之内1	確認面
11	縄文土器	深鉢	網代底。2本越2本潜り。						後期前半	Ⅲ区
12	縄文土器	土製品	土器片円板。刻み隆帯。幾何学文。縄文LR充填。長辺4.0 短辺3.2 厚さ0.7。						堀之内2	確認面
13	弥生土器	壺							断面実測	Ⅲ区
14	弥生土器	甕							断面実測	確認面
15	弥生土器	甕							断面実測	Ⅱ区覆土
16	弥生土器	甕							断面実測	Ⅳ区覆土
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見		出土位置	
17	敲石		11.8	5.5	3.4	336.62	被熱あり(正裏黒化)上部に敲打痕。裏面は被熱割れか。		Ⅱ区覆土	

土・暗褐色土の帯状ブロックが住居中央に向けて傾斜する人為埋土である。

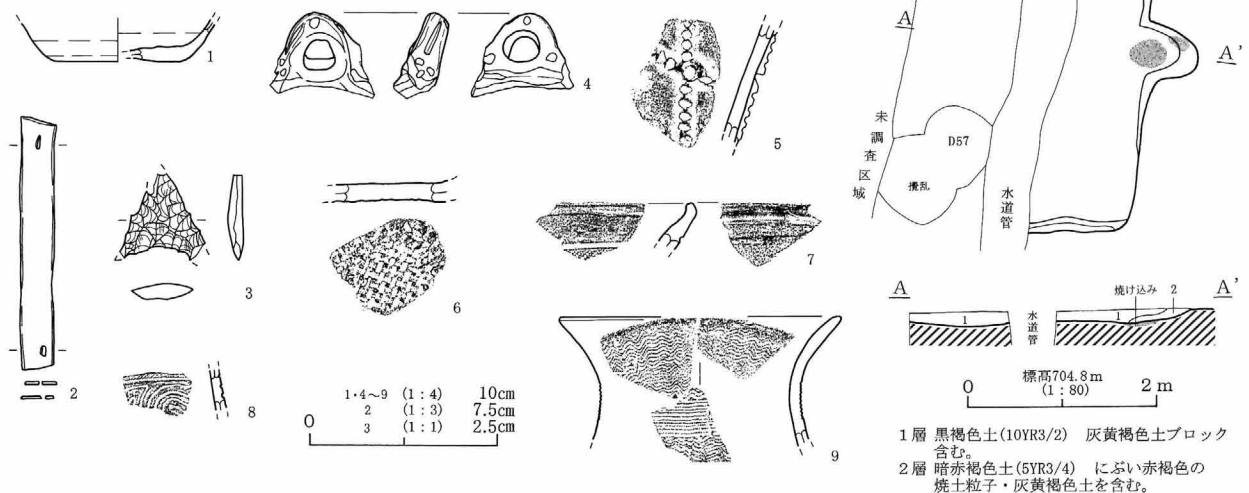
遺物は、土師器坏(1・2)、土師器高坏(3)、土師器手捏(4)、敲石(17)、本址に伴わない縄文時代後期土器堀之内式1深鉢(6~7・10)・堀之内式2(5・9)、土製品(12)、弥生時代後期箱清水式土器壺(13)・甕(14~16)がある。土製品は、堀之内式2の深鉢を加工した土器片円板である。

土師器坏は半球状の1・2があり、1が内面黒色処理される。3の高坏も内面黒色処理される。

本址はこれらの遺物より小林眞寿の編年(2005聖原)古墳時代Ⅳ期-7世紀代に位置づけられる。

(43) H43号住居址

ま-44、み-43・44GrにありD57に切られる。カマドは東壁やや南壁寄りに、焼け込みが見られる火床と沿道の張り出し部が僅かに残存する。北壁下に厚さ10cmほどの焼土の堆積が確認された。床面は堅固ではない。柱穴はみられない。



第113図 H43号住居址

第69表 H43号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

H43			法 量			成形・調整・文様		推定値() 残存値 < > 丸底・	
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
1	土師器	坏	-	(6.8)	<2.2>	ロクロナデ	ロクロナデ。底部ヘラナデ	回転実測	N区覆土
9	弥生土器	甕	(14.8)	-	<7.1>	ヘラミガキ	櫛描波状文→櫛描麻状文	回転実測	N区 S区
4	縄文土器	深鉢	環状把手の表裏と側面に円形刺突と沈線。					堀之内1	N区覆土
5	縄文土器	深鉢	垂下する刻み隆帯と斜行する刻み隆帯好交点上に環状隆帯。					堀之内1	N区覆土
6	縄文土器	深鉢	網代底。2本越2本潜り。					後期前半	S区覆土
7	縄文土器	深鉢	口縁部内折。口縁下に横位沈線。縄文LR。					堀之内2	N区覆土
8	縄文土器	注口土器	幾何学文。縄文LR。					堀之内2	S区覆土
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見	出土位置	
2	鏃?	鉄	10.1	1.4	0.15	7.21	方形の2孔あり。	覆土	
3	石鏃		<1.1>	<1.1>	<0.2>	<0.21>	先端・両脚欠損。	N区覆土	

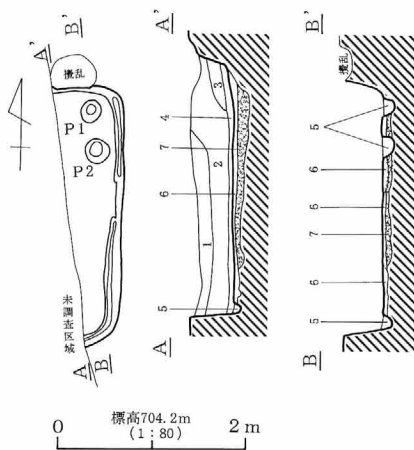
遺物は、底部ヘラナデされる土師器坏(1)、方形の2孔がある器種不明の鉄器(2)、本址に伴わない縄文時代後期土器堀之内1式深鉢(4・5)・堀之内2式深鉢(7・8)、弥生時代後期箱清水式甕(9)、石鏃(3)がある。本址の時期は、1の8世紀代とみられる土師器坏が唯一のよりどころである。

(44) H44号住居址

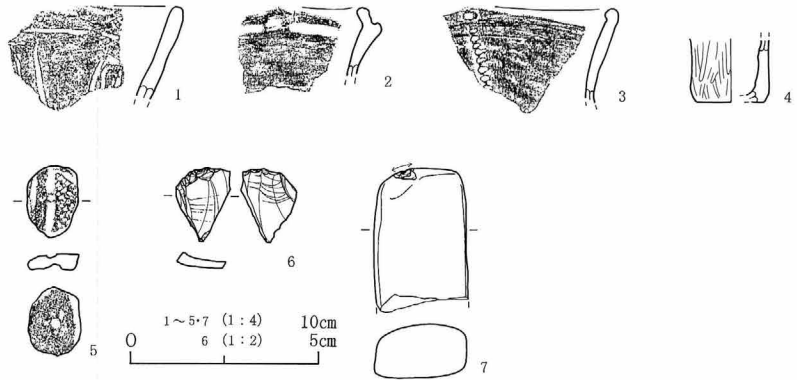
み-40・41Grにあり、大半は西側の調査区域外に伸びる。カマド・炉は調査範囲内では確認されない。

ピットは北東隅に2個検出された。壁溝が東壁から南壁下を巡る。覆土第2層は、黄褐色土・黒褐色土のブロックを多量に含む人為埋土である。床面は堅く平坦である。

遺物は、縄文時代後期称名寺式と思われる深鉢(1)、堀之内1式の深鉢(2)、堀之内2式の深鉢(3)、後期前半のミニチュア土器(4)、側面に剥離痕・研磨痕、内外面に未貫通孔



- 1層 暗褐色土(10YR3/3) 黄褐色土少量含む。
- 2層 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 黄褐色土・黒褐色土ブロックを多量に含む。人為埋土。
- 3層 黒褐色土(10YR2/3) 暗褐色土少量含む。
- 4層 黒褐色土(10YR2/3)
- 5層 暗褐色土(10YR3/3)
- 6層 灰黄褐色土(10YR4/2) 黒褐色土のブロック・粒子を含む。堅くしまる床。
- 7層 黒褐色土(10YR3/2) にぶい黄褐色土ブロックを少量含む。



第114図 H44号住居址

第70表 H44号住居址出土遺物観察表

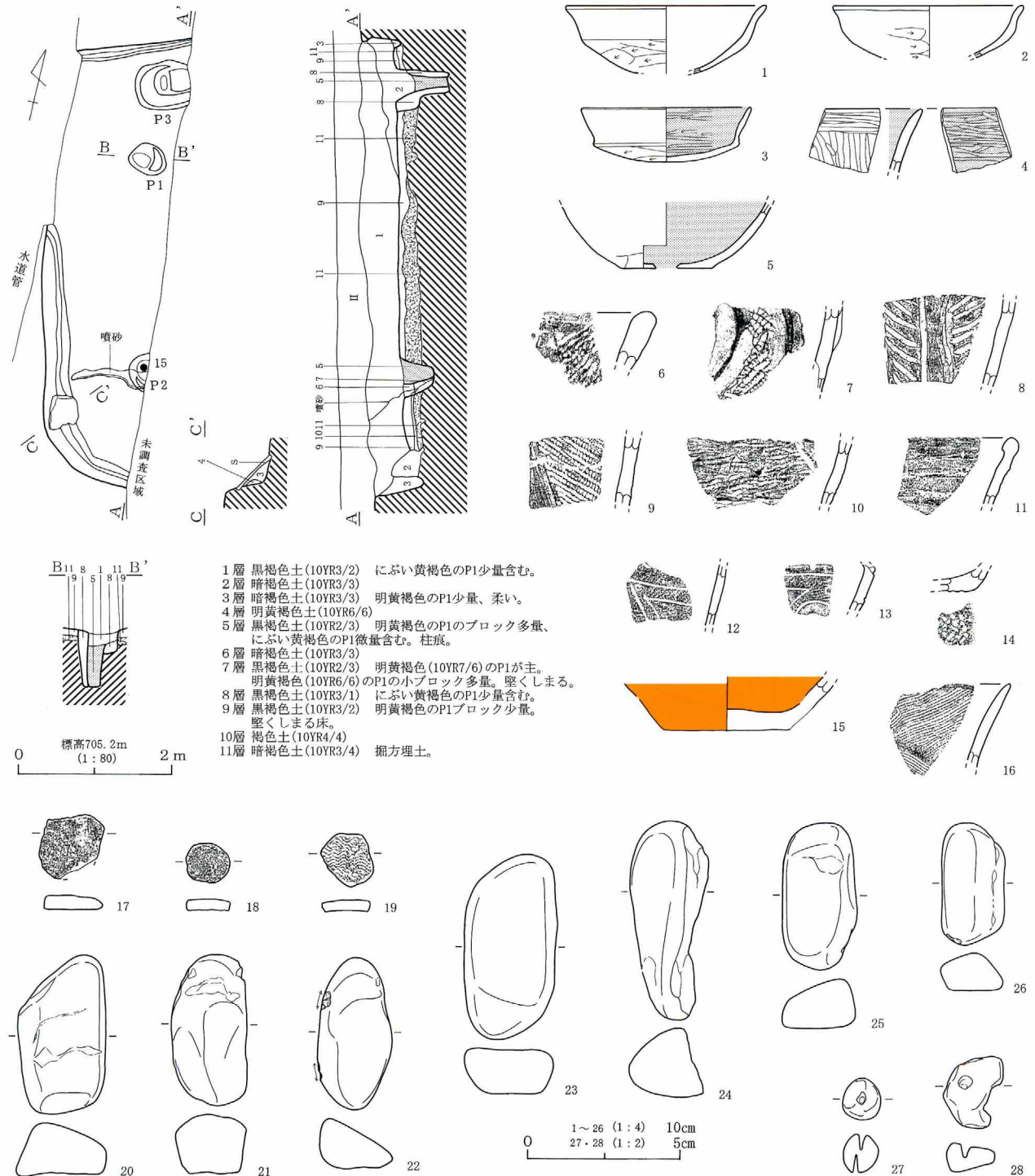
(cm・g)

No.	種別	器種	文 様 ・ 調 整				備 考	出土位置
1	縄文土器	深鉢	波状口縁?口縁部に沿って沈線。斜位横位の沈線。				称名寺?	覆土
2	縄文土器	深鉢	口縁部内折。小突起頂部2個円形刺突から横位沈線。				堀之内1	覆土
3	縄文土器	深鉢	口縁部内折。波頂部盲孔から斜位に垂下する刻み隆帯。				堀之内2	覆土
4	縄文土器	ミニチュア土器	底径 3.6cm 残存器高 3.4cm。網代底?				後期前半	覆土
5	縄文土器	土製品	土器片内板深鉢胴部片。剥離痕。研磨痕。内外面に未貫通の孔あり。2条の縦位沈線。斜位沈線。縄文LR充填。長辺 3.5cm 短辺 2.5cm 厚さ 0.7cm。				堀之内1	覆土
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見	出土位置
6	二次加工のある剥片	黒曜石	1.9	1.4	0.3	0.82	上部に二次加工。	覆土
7	敲石		<7.6>	<4.9>	<3.0>	<205.45>	下部欠損。上端部に敲打痕。	P1

を持つ堀之内式深鉢胴部片を加工した土器片円板(5)、二次加工のある剥片(6)、敲石(7)がある。
本址は、縄文時代後期の遺物が主であるがいずれも小片であり、時期不明としたい。

(45) H45号住居址

み-39・40Grにあり、H51を切る。カマドは調査範囲内では確認されない。ピットは3個検出され、
主柱穴P1は径30cm・P2は径20cmの柱痕が確認された。P3は位置的に貯蔵穴かと思えたが、五平



第115図 H45号住居址

第71表 H45号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

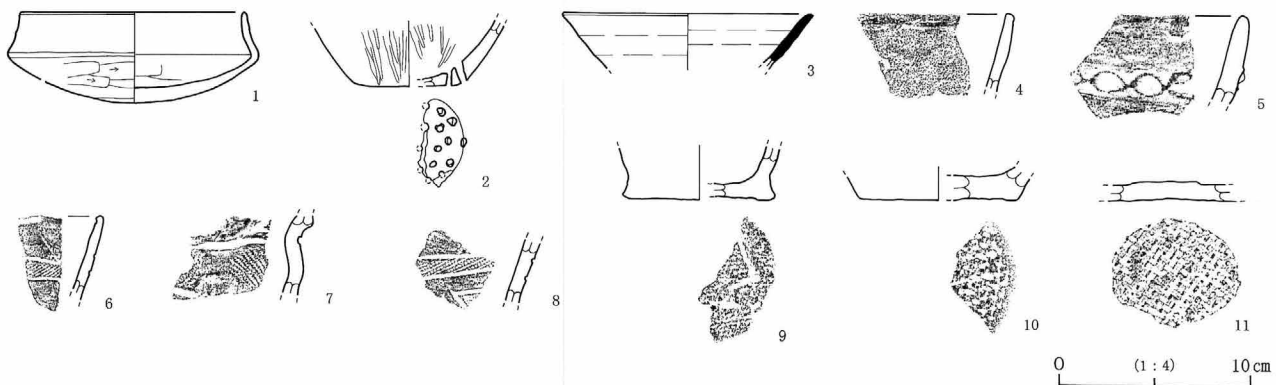
H45			法 量			成形・調整・文様		推定値() 残存値 < > 丸底・
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考
1	土師器	坏	13.2	・	<4.4>	ヘラナデ	底部ヘラケズリ	回転実測 S・N区 P1
2	土師器	坏	12.4	・	<3.4>	ヘラナデ	底部ヘラケズリ	回転実測 N区覆土
3	土師器	坏	11.1	・	<3.5>	ヘラミガキ→黒色処理	底部ヘラケズリ	回転実測 N区覆土
4	土師器	鉢	-	-	-	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ	破片実測 S区覆土
5	土師器	甌	-	(6.1)	<4.2>	ヘラナデ。黒色処理	ヘラナデ。底部ヘラケズリ	1穴 回転実測 N区覆土
15	弥生土器	壺	-	(8.2)	<3.5>	ヘラナデ→にぶい赤色塗彩。一部無塗彩	洪い赤色塗彩	回転実測 Sホリ方 S区 No.3
6	縄文土器	深鉢	縄文LR。			中期後半 Sホリ方		
7	縄文土器	深鉢	弧状の隆帯。磨消縄文RL。			中期後半 N区覆土		
8	縄文土器	深鉢	縦位沈線区画内に斜位の沈線。			中期後半 Nホリ方		
9	縄文土器	深鉢	斜位の微隆紀文。縄文RL。			中期後半 Sホリ方		
10	縄文土器	深鉢	地文縄文LR。弧状沈線。			堀之内 Nホリ方		
11	縄文土器	深鉢	口縁部内折。所謂粗製土器。			堀之内 Nホリ方		
12	縄文土器	深鉢	沈線で幾何学的文様描く。縄文LR充填。			堀之内2 Nホリ方		
13	縄文土器	深鉢	口縁部内折。幾何学的文様。縄文LR充填。			堀之内1 S区覆土		
14	縄文土器	深鉢	網代底。1本越1本潜り。			後期前半 Nホリ方		
16	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。櫛描斜走文。			後期 N区覆土		
17	縄文土製品	土器片円板	深鉢片。一部欠損。研磨痕。無文。最大長4.5cm 厚さ0.9cm。			後期? N区覆土		
18	縄文土製品	土器片円板	深鉢片。敲打痕。無文。長径2.7cm 短径2.3cm 厚さ0.8cm。			後期? S区覆土		
19	弥生土製品	土器片円板	甕片。敲打痕。研磨痕。櫛描波状文。最大長・厚さ0.7cm。			後期 Nホリ方		
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見	出土位置
20	編物石		10.5	5.8	3.5	304.24		No.7
21	編物石		10.0	4.9	4.0	260.63		No.8
22	編物石		10.0	4.9	3.2	186.72	左側に敲打痕。	S区覆土
23	編物石		12.1	6.0	3.5	379.40		No.5
24	編物石		12.9	5.2	4.7	373.90		S床
25	編物石		9.6	4.8	3.1	232.12		No.6
26	編物石		7.8	4.1	2.5	124.90		No.4
27	土製品丸玉		1.4	1.2	1.3	2.07	孔径0.2~0.3。焼成後穿孔? ナデ調整。	No.1
28	土製品勾玉		2.4	2.0	0.9	3.51	孔径0.4。焼成後穿孔? ナデ調整。	No.2

状の柱痕が確認された。P1・P2の桁行き2.6mを測る。床は平坦で堅く締まる。北壁・西壁下には壁溝が巡る。南西隅の床面にくい込んだ鉄平石(第 図)が壁に斜めに架かり、この下に壁溝は認められない。この鉄平石からP2底面にかけて床面から幅2cm、40cmの高さで墳砂(浅黄橙色のシルト質土)が検出された。本址廃絶後覆土第1層が堆積した後の事象である。

遺物は、土師器坏(1~3)、土師器鉢(4)、土師器甌(5)、編物石(20~28)、台石(P114掲載図)、土製の丸玉(27・28)、本址に伴わない縄文時代中期後半の深鉢、後期堀之内式深鉢(10~13)、後期土器片円板(17~19)、弥生時代後期箱清水式の壺(15)・甕(16)がある。

1~3は須恵器坏蓋模倣坏で、3が内面黒色処理される。4の鉢・5の甌は、内面黒色処理される。本址はこれらの遺物より小林真寿の編年(2005聖原)古墳時代IV期-7世紀代に位置づけられる。

(46) H46号住居址

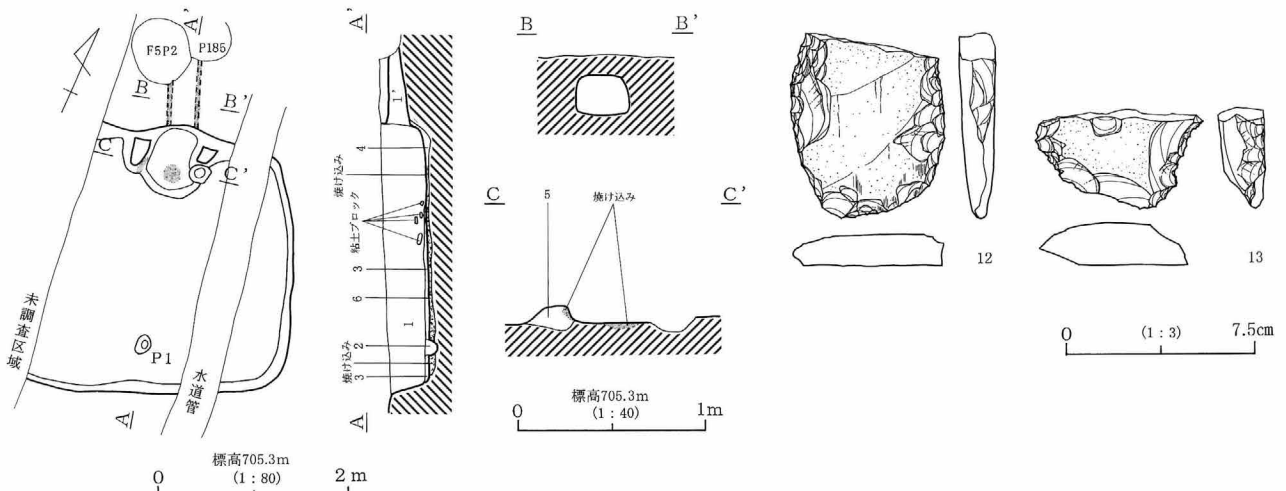


第116図 H46号住居址(1)

第72表 H46号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

H46		法 量			成形・調整・文様		推定値() 残存値 <> 丸底・		
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
1	土師器	坏	(12.0)	-	4.8	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	カマド
2	土師器	甌	-	(5.8)	<3.4>	ヘラミガキ	ヘラミガキ。底部多孔	回転実測	W区覆土
3	須恵器	坏	(13.2)	-	<2.9>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	覆土
4	縄文土器	深鉢	□唇部面取り。所謂粗製深鉢。					後期前半	覆土
5	縄文土器	深鉢	所謂粗製深鉢。□縁部下に圧痕持つ隆帯。					後期前半	W区覆土
6	縄文土器	深鉢	□縁部内折。幾何学文内に縄文LR。					堀之内2	覆土
7	縄文土器	注口土器	横位沈線内に磨消縄文LR。					堀之内2	W区覆土
8	縄文土器	注口土器	幾何学文。縄文LR。					堀之内2	覆土
9	縄文土器	注口土器	網代底。2本越2本潜り。					後期前半	E区覆土
10	縄文土器	注口土器	網代底。2本越2本潜り。底径8.2。					後期前半	覆土
11	縄文土器	注口土器	網代底。2本越2本潜り。底径8.0。					後期前半	覆土
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見		出土位置
12	打製石斧		<7.3>	<6.1>	<1.4>	<95.07>	上部欠損。刃部に磨滅痕。正裏とも節理面。		S区覆土
13	打製石斧		<3.9>	<6.6>	<1.8>	<53.07>	上部欠損。正面に自然面。		S区覆土



第117図 H46号住居址(2)

- 1層 暗褐色土(10YR3/4) 南壁寄りの下層に褐色土、全般に褐色土が主で、にぶい黄褐色のP1ブロック・粒子多量。人為埋土。
- 1'層 暗褐色土(10YR3/4) 1層に焼土ブロック多く含む。カマド煙道部に堆積する。
- 2層 暗褐色土(10YR3/3)
- 3層 暗褐色土(10YR3/4) 床面直上の粘質土。
- 4層 暗褐色土(10YR3/3) 炭が主、焼土・粘土小ブロック少量。
- 5層 明黄褐色土(10YR6/6)と暗褐色土(10YR3/3)が混じる。カマド構築土。
- 6層 黒褐色土(10YR3/2) 明黄褐色・明赤褐色のP1のブロック多量。掘方埋土。

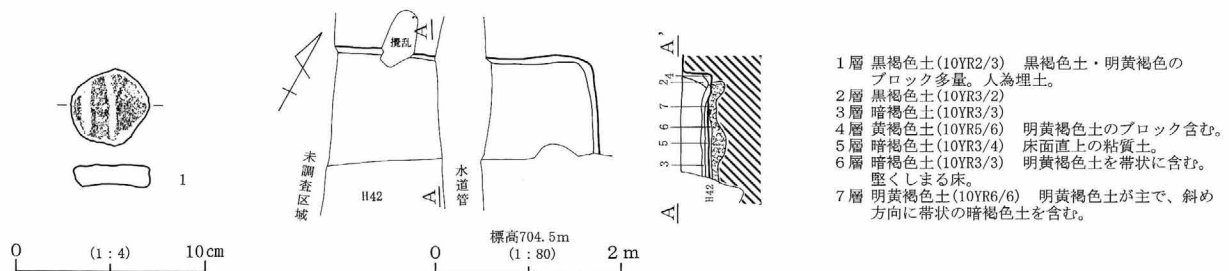
み・む-37・38Grにあり、F5・P179・P185に切られる。カマドは北壁中央に設置され、僅かな袖部・火床・原形を保つ煙道部の一部が検出された。煙道部の末端は、F5・P185に壊されているが、北壁から竪穴外に伸びる天井部は残存(72cm)する。煙道部の断面は長方形で、北壁部分で横幅28cm立幅22cmを測る。ピットは、カマドに対峙するように南壁下に1個検出された。主柱穴であろうか。床面は堅く平坦で、暗褐色の粘質土が床に張り付く。

覆土第1層は、人為埋土である。

遺物は、1の須恵器坏身模倣の土師器坏、2の多孔持つ土師器甌、混入遺物の須恵器坏(3)、縄文時代後期前半の土器(4~11)、打製石斧(12・13)がある。

本址は少ない遺物だが、古墳時代後期-7世紀代とみて大過ないであろう。

(47) H47号住居址



第118図 H47号住居址

- 1層 黒褐色土(10YR2/3) 黒褐色土・明黄褐色のブロック多量。人為埋土。
- 2層 黒褐色土(10YR3/2)
- 3層 暗褐色土(10YR3/3)
- 4層 黄褐色土(10YR6/6) 明黄褐色土のブロック含む。
- 5層 暗褐色土(10YR3/4) 床面直上の粘質土。
- 6層 暗褐色土(10YR3/3) 明黄褐色土を帯状に含む。堅くしめる床。
- 7層 明黄褐色土(10YR6/6) 明黄褐色土が主で、斜め方向に帯状の暗褐色土を含む。

ま・み-45Grにあり、H42に切られる。カマド・炉・柱穴等は、調査範囲内では確認されない。覆土第1層は、明黄褐色土・黒褐色土のブロックを多量に含む人為埋土である。床面は堅く平坦であり、弥生時代後期のH11・H12・H20・H27・H28・H30・H33・H35に見られた暗褐色の粘質土が、床面直上に張り付く。

遺物は、縄文時代後期堀之内式の深鉢片を加工した土器片円板が図示できた。2条の平行沈線・縄文が施文される。最大幅4.2cm厚さ1.2cmを測る。他に図示できない、縄文時代・弥生時代の土器小片が出土している。本址の時期は、重複するH42の古墳時代後期-7世紀以前である。

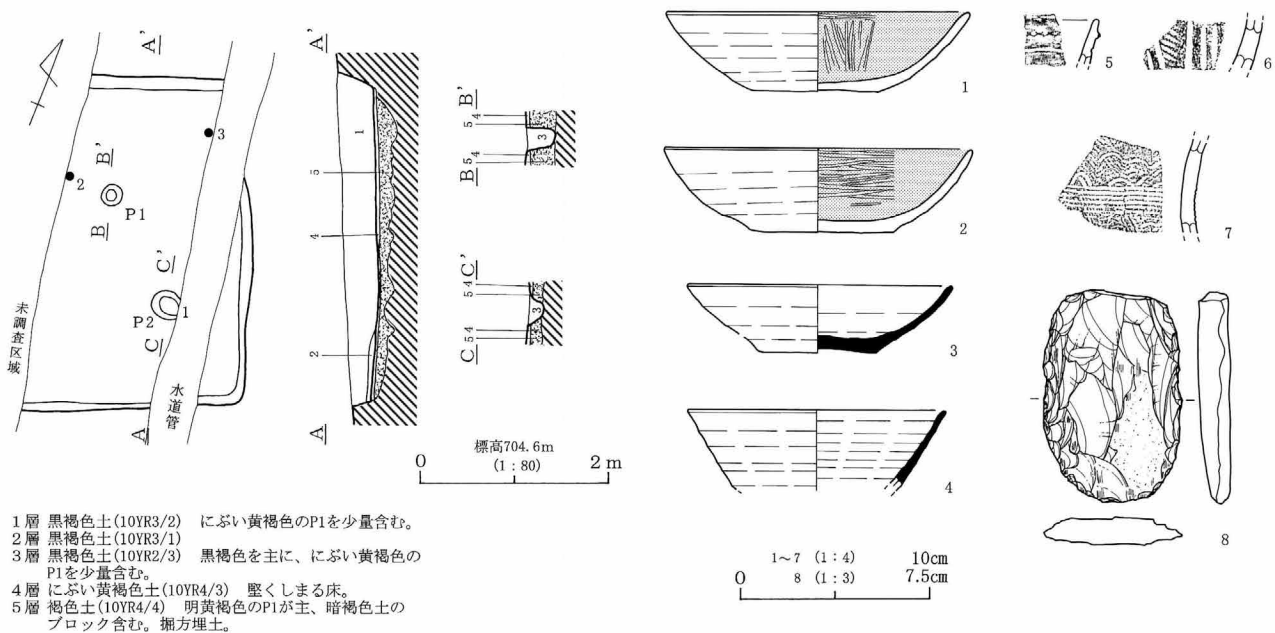
(48) H48号住居址

み・む-36・37Grにあり、M14を切る。カマドは、調査範囲内では確認されない。ピットは柱穴であろうか、不規則な位置に2個検出された。床面は堅く締まり平坦である。

遺物は、土師器坏(1・2)、須恵器坏(3・4)、混入遺物である縄文時代後期堀之内1式の深鉢(6)・堀之内2式の深鉢(5)・弥生時代後期箱清水式の甕(7)、打製石斧(8)がある。

1・3の底部回転糸切り、2の底部回転糸切り後に手持ちヘラケズリされる。

これらの遺物から本址は、小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代Ⅲ期-8世紀第3四半期に位置づけられる。



1層 黒褐色土(10YR3/2) にぶい黄褐色のP1を少量含む。
 2層 黒褐色土(10YR3/1)
 3層 黒褐色土(10YR2/3) 黒褐色を主に、にぶい黄褐色のP1を少量含む。
 4層 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 堅く締まる床。
 5層 褐色土(10YR4/4) 明黄褐色のP1が主、暗褐色土のブロック含む。掘方埋土。

第119図 H48号住居址

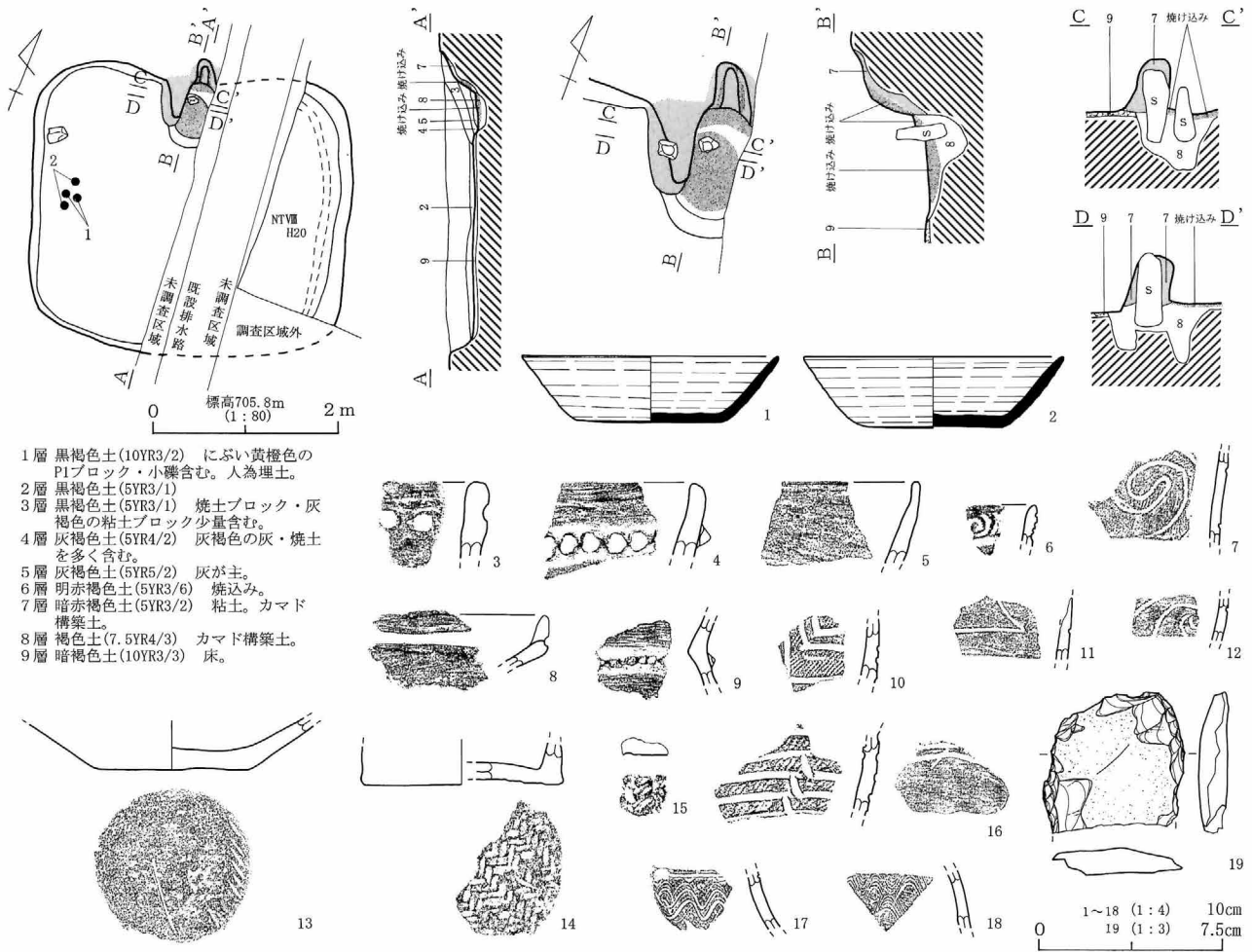
第73表 H48号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

H48		法 量			成 形 ・ 調 整 ・ 文 様		推定値() 残存値 < > 丸底・		
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
1	土師器	坏	16.0	6.5	4.2	ヘラミガキ。黒色処理	口クロナデ。底部回転糸切り	完全実測	No.1・2 S・N区覆土
2	土師器	坏	16.2	7.5	4.4	ヘラミガキ。黒色処理	口クロナデ。底部回転糸切り→手持ちヘラケズリ	完全実測	No.3
3	須恵器	坏	(14.0)	6.2	3.6	口クロナデ	口クロナデ。底部右回転糸切り	完全実測	No.4
4	須恵器	坏	(13.6)	-	<4.2>	口クロナデ	口クロナデ	回転実測	S区覆土
5	縄文土器	深鉢	口縁部下に刻み降線。横位沈線。					堀之内2	N区覆土
6	縄文土器	深鉢	垂下・斜行する集合沈線。縄文RL。					堀之内1	N区覆土
7	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文→櫛描籬状文。						N区覆土
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見	出土位置	
8	打製石斧		8.3	5.5	1.3	74.12	磨滅痕残る。正面に自然面。		N区覆土

(49) H49号住居址

み・む-34Grにあり、H50を切る。本址は東隣で調査された西近津遺跡ⅧのH20号住居址と同一住



- 1層 黒褐色土(10YR3/2) にぶい黄褐色のP1ブロック・小礫含む。人為埋土。
- 2層 黒褐色土(5YR3/1)
- 3層 黒褐色土(5YR3/1) 焼土ブロック・灰褐色の粘土ブロック少量含む。
- 4層 灰褐色土(5YR4/2) 灰褐色の灰・焼土を多く含む。
- 5層 灰褐色土(5YR5/2) 灰が土。
- 6層 明赤褐色土(5YR3/6) 焼込み。
- 7層 暗赤褐色土(5YR3/2) 粘土。カマド構築土。
- 8層 褐色土(7.5YR4/3) カマド構築土。
- 9層 暗褐色土(10YR3/3) 床。

第120図 H49号住居址

第74表 H49号住居址出土遺物観察表

H49		法量			成形・調整・文様		推定値() 残存値 < > 丸底・出土位置	
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	備考
1	須恵器	坏	14.1	8.2	3.6	□クロナデ	□クロナデ→底部切り離し後手持ちヘラケズリ	完全実測 内外火だすき有 No.2・3
2	須恵器	坏	14.1	7.6	3.9	□クロナデ	□クロナデ→底部切り離し後手持ちヘラケズリ	完全実測 内外火だすき有 No.1・4
3	縄文土器	深鉢	所謂粗製深鉢。□縁部下に圧痕。					後期前半 N区覆土
4	縄文土器	深鉢	所謂粗製深鉢。□縁部下に圧痕持つ隆帯。					後期前半 N区覆土
5	縄文土器	深鉢	所謂粗製深鉢。□縁部内折。					後期前半 N区覆土
6	縄文土器	深鉢	突起部に円文と弧状沈線。					堀之内1 ホリ方
7	縄文土器	深鉢	T字状沈線区画。縄文LR。					称名寺 N区覆土
8	縄文土器	深鉢	□縁部内折。□縁に沿って沈線。					堀之内1 N区覆土
9	縄文土器	深鉢	刻み隆帯。					堀之内1 ホリ方
10	縄文土器	深鉢	幾何学文。縄文LR充填。					堀之内2 S区覆土
11	縄文土器	深鉢	幾何学文。					堀之内2 S区覆土
12	縄文土器	深鉢	T字状沈線。					称名寺 N区覆土
13	縄文土器	深鉢	網代底? 底径8.6。					後期前半 No.6
14	縄文土器	深鉢	網代底。3本越3本潜り。底径11.0。					後期前半 N区覆土
15	縄文土器	深鉢	網代底。2本越2本潜り。					後期前半 N区覆土
16	縄文土器	深鉢	5条の横位沈線間に磨消縄文LR区切り。					加曾利B1 ホリ方
17	弥生土器	甕	内面 ミガキ。外面 櫛描波状文→櫛描簾状文。					断面実測 S区覆土
18	弥生土器	甕	内面 ミガキ。外面 櫛描波状文。					断面実測 N区覆土
No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置
19	打製石斧		<5.7>	<5.7>	<1.1>	<44.31>	下部欠損。自然面残る。	S区

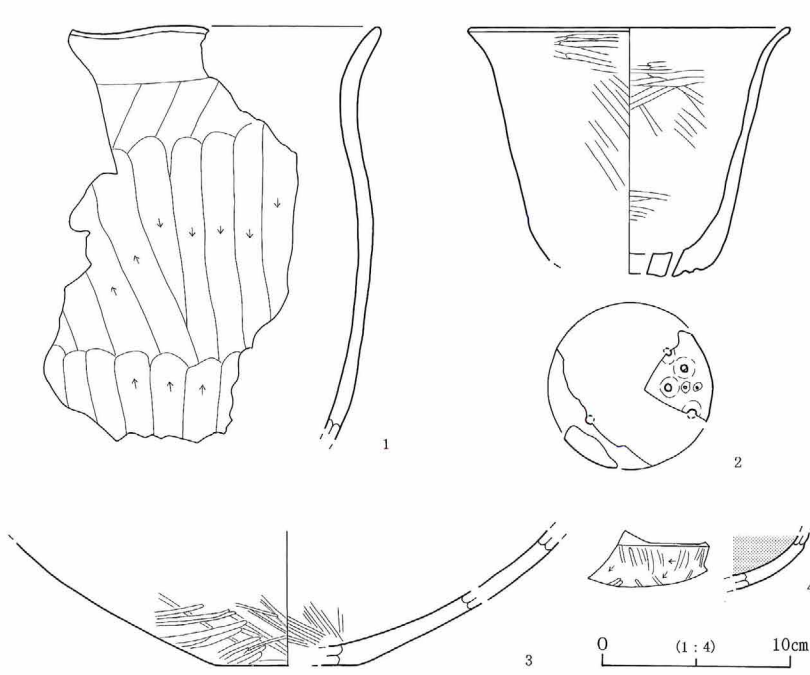
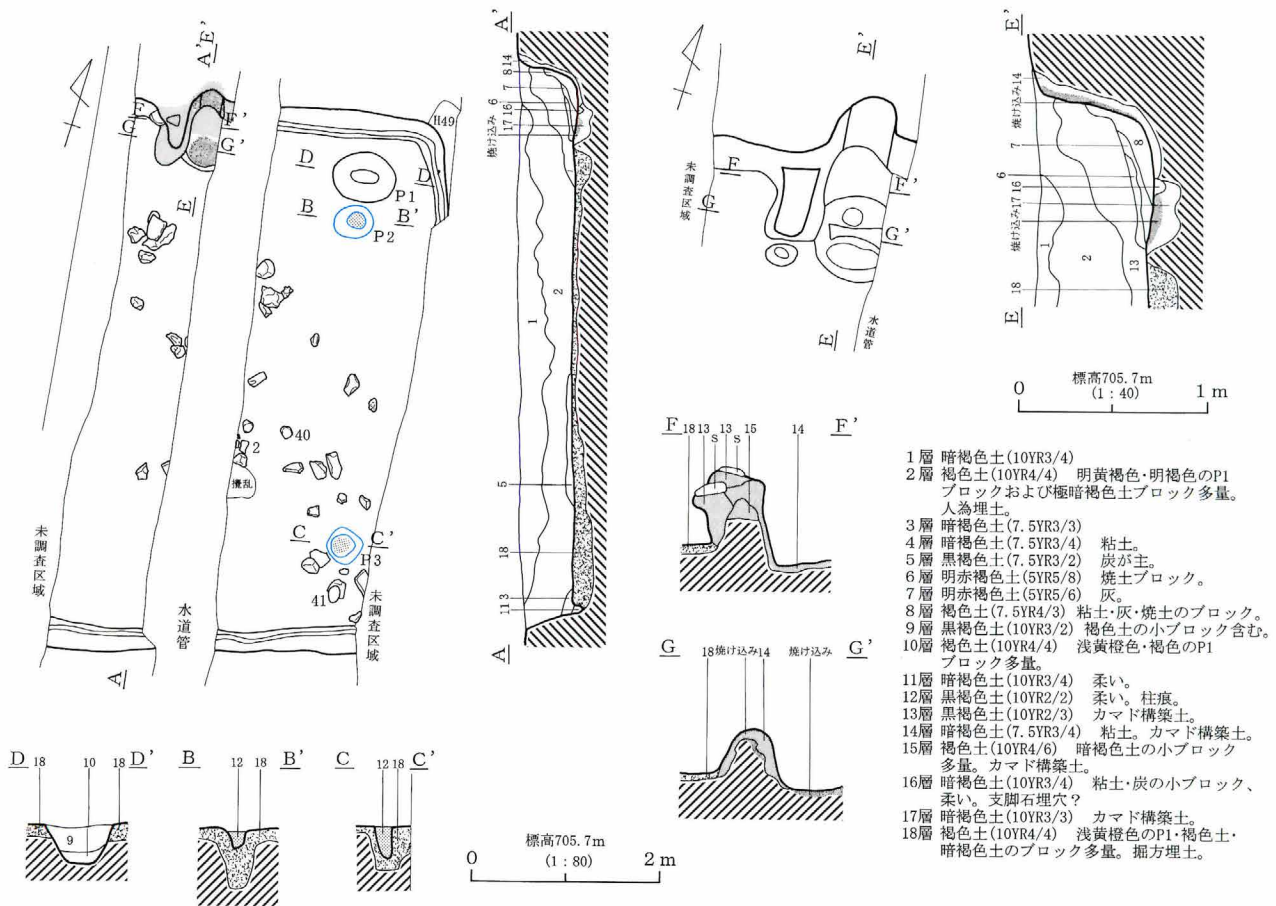
居址である。カマドは北壁中央に、面取り軽石と熔結凝灰岩を袖部の芯材にし、粘土と褐色土で構築されている。火床に安山岩を加工した支脚石が残る。火床上部に灰の堆積が顕著である。火床と煙道部がよく焼け込んでいる。両方の調査範囲内から柱穴は検出されない。床面は堅く締まり平坦である。

遺物は、底部手持ちヘラケズリされる須恵器坏(1・2)、混入遺物の縄文時代後期称名寺式・堀之内1式・堀之内2式・加曾利B1式の深鉢、弥生時代後期箱清水式の甕、打製石斧がある。

本址は、小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代Ⅲ期- 8世紀第2四半期に位置づけられる。

(50) H50号住居址

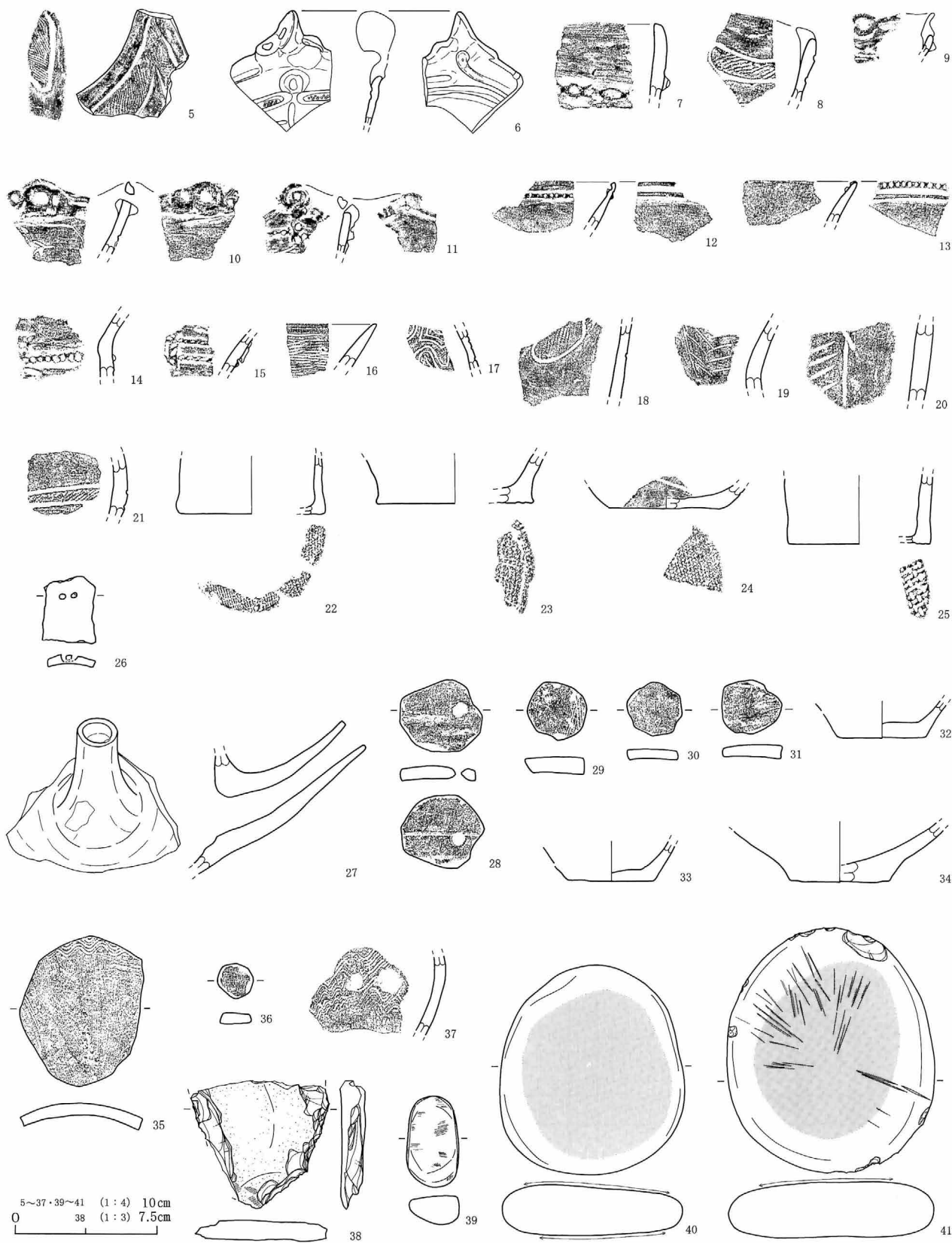
み・む-34・35Grにあり、H51に切られる。カマドは北壁中央に、暗褐色の粘土と暗褐色土・黒褐色



土・褐色土と礫で構築されている。袖は地山削り出しで、袖部先端に芯材の礫を立てる小ピットがある。床に散在する熔結凝灰岩や面取り軽石・鉄平石もカマドの構築材の一部と見られる。火床の上部に顕著な灰の堆積が認められた。火床中央には、支脚石抜き取り跡であろう小ピットがある。

ピットが3個検出された。径20cmの柱痕が確認された主柱穴P2・P3の柱穴間、桁行きは3.4cmを測る。P1は貯蔵穴であろうか。壁溝が北壁・東壁・南壁下を巡る。床中央から南壁にかけ床直上に5~10cmに炭が堆積していた。

第121図 H50号住居址(1)



第122图 H50号住居址(2)

第75表 H50号住居址出土遺物観察表

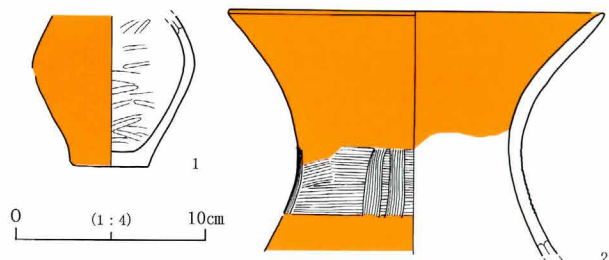
(cm・g)

H50			法 量			成 形 ・ 調 整 ・ 文 様		推定値() 残存値 < > 丸底・	
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
1	土師器	甕	-	-	-	ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヨコナデ	破片実測	カマド
2	土師器	甌	17.0	8.6	13.3	ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全実測 多孔	Ⅳ区 No.4
3	土師器	壺	-	(8.0)	<7.2>	ハケメ	ヘラミガキ	回転実測	Ⅲ区 Ⅳ区
4	土師器	坏	-	-	-	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ→ヘラミガキ	破片実測	Ⅲ区
32	弥生土器	甕	-	3.3	<2.6>	ヘラナデ→ヘラミガキ	ヘラミガキ。底部ヘラミガキ	完全実測	Ⅱ区
33	弥生土器	甕	-	6.0	<2.7>	ヘラミガキ	ヘラミガキ。底部ヘラミガキ	完全実測	Ⅱ区
5	縄文土器	深鉢	波状口縁。口唇部剣先状沈線内に縄文RL。逆三角形の沈線区画内に縄文RLを充填。					称名寺	Ⅱ区
6	縄文土器	深鉢	沈線と円形貼付文の突起。口縁に沿って沈線。突起下に刺突を囲む弧状沈線さらに垂下する短沈線。そこから2条の横位沈線内に磨消縄文LR。内面突起下にお玉杓子状の沈線。3条の横位沈線。					加曾利B1	Ⅱ区
7	縄文土器	深鉢	所謂粗製深鉢。口縁部下に圧痕持つ隆帯。					後期前半	Ⅰ区
8	縄文土器	深鉢	波状口縁。沈線区画内に縄文LR充填。					称名寺	Ⅳ区
9	縄文土器	深鉢	口縁部内折。突起部に円形刺突もつ円形貼付文。					堀之内1	Ⅲ区
10	縄文土器	深鉢	環状突起内外面両側に円形刺突の円形貼付文。					堀之内1	Ⅲ区
11	縄文土器	深鉢	波状口縁。口縁部内折。波頂部に円孔もつ円形貼付文。その下8字状貼付文から刻み隆線。さらに斜行沈線。					堀之内2	Ⅰ区
12	縄文土器	深鉢	口縁部内折。口縁部下口縁に沿って刻み隆線。内面口縁に沿って沈線。					堀之内2	Ⅰ区
13	縄文土器	深鉢	内面口唇部に刻み。その下2条の横位沈線。					加曾利B1	Ⅱ区
14	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯。その下斜行沈線。					堀之内1	Ⅱ区
15	縄文土器	深鉢	横位刻み隆線またぐ両端に円形刺突もつ刻み隆線。					堀之内2	Ⅱ区
16	弥生土器	甕	柳描斜走文。						Ⅰ区
17	縄文土器	注口土器	幾何学沈線。					堀之内2	Ⅳ区
18	縄文土器	深鉢	沈線区画内に縄文LR充填。					称名寺	Ⅱ区
19	縄文土器	深鉢	斜行沈線。縷杉状の沈線。					中期後半	Ⅲ区
20	縄文土器	深鉢	垂下する沈線。斜行沈線。					中期後半	Ⅰ区
21	縄文土器	深鉢	2条の横位沈線内に縄文LR。					堀之内2	Ⅳ区
22	縄文土器	深鉢	網代底。2本越2本潜り。素材細い。底径10.4。					後期前半	Ⅰ区 Ⅳ区 H49S区
23	縄文土器	深鉢	網代底。2本越2本潜り。素材細い。底径(11.0)。					後期前半	Ⅲ区
24	縄文土器	深鉢	網代底。2本越2本潜り。胴下部斜行沈線。底径(8.0)。					後期前葉	Ⅳ区
25	縄文土器	深鉢	網代底。2本越2本潜り。底径(10.0)。					後期前半	Ⅰ区
26	縄文土器	土製品	甕胴部片。外面で貫通する孔もつ。長辺4.7 短辺3.8 厚さ0.6。					後期	Ⅳ区
27	縄文土器	注口土器						後期前半	覆土
28	縄文土器	土製品	土器片円板。粗製深鉢胴部片。焼成後穿孔の1孔あり→敲打痕。研磨痕。長径5.8 短径5.1 厚さ0.9。					後期前半	Ⅱ区
29	縄文土器	土製品	土器片円板。深鉢胴部片。敲打痕。研磨痕。柳歯状工具による沈線。径4.2 厚さ1.2。					称名寺	Ⅳ区
30	縄文土器	土製品	土器片円板。深鉢胴部片。敲打痕。無文。径3.8 厚さ0.7。					後期前半?	Ⅳ区
31	縄文土器	土製品	土器片円板。深鉢胴部片。敲打痕。無文。最大幅4.2 厚さ1.0。					後期前半?	Ⅱ区
34	縄文土器	深鉢	底径7.0。					後期?	Ⅰ区
35	縄文土器	土製品	土器片円板。甕胴部片。剥離痕。敲打痕。柳描波状文。長径10.5 短径8.6 厚さ0.8。					破片実測	カマド
36	弥生土器	土製品	土器片円板。甕胴部片。敲打痕。表面赤色塗彩。裏面ナデ。径2.5 厚さ0.8。					破片実測	Ⅲ区
37	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 柳描波状文。						Ⅱ区
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見		出土位置
38	打製石斧		<6.8>	<7.2>	<1.1>	<61.76>	上部・左側欠損。刃部に磨滅。		Ⅳ区
39	磨石		6.5	3.7	2.0	73.40	全体にすり(両側顕著)。		覆土
40	磨石		14.8	13.1	3.8	1208.31	被熱あり(裏面は被熱による剥離と思われる)。		No.3
41	砥石?		17.2	14.6	4.2	1590.60	周囲に敲打痕。正面にすり面。正面に条痕。砥石として使用か。		No.2

遺物は、1の口縁部に最大径があり胴長の土師器甕、2の土師器多孔有する甌、4の須恵器坏蓋模倣の土師器坏、3土師器壺、39・40の磨石、41の砥石、多量の混入遺物縄文時代後期前半の土器(5~34)、弥生時代後期甕(37)、打製石斧(38)、土製品縄文時代後期の土器片円板(35)・弥生時代後期の土器片円板がある。カマド内から獣類四肢骨の焼骨破片、覆土から炭化したモモの破片1/2~1/3個分が出土した。本址は少ない遺物だが、古墳時代後期-7世紀代とみて大過ないであろう。

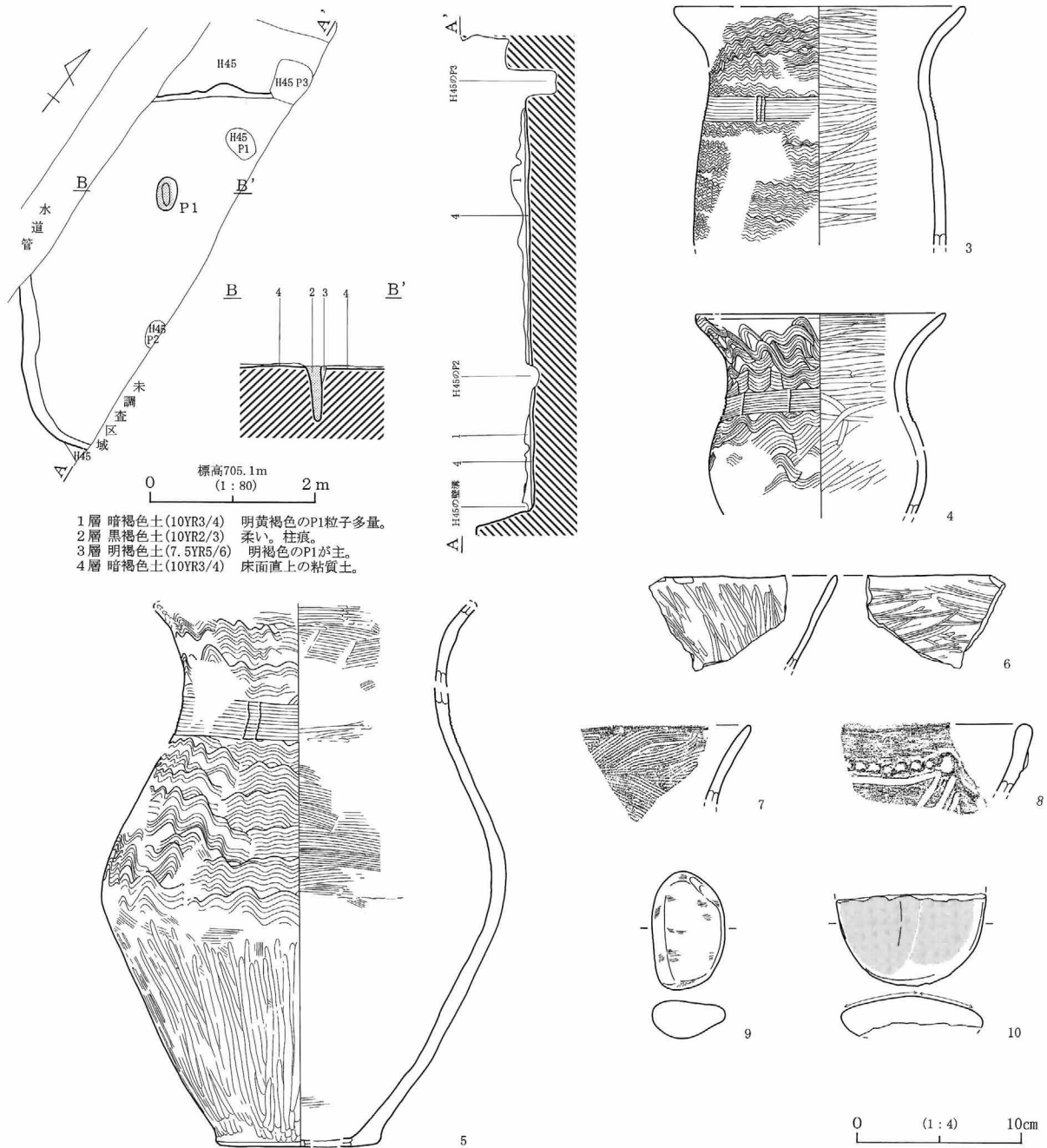
(51) H51号住居址

み-39・40Grにあり覆土大半がH45に切られる。



第123図 H51号住居址(1)

炉は調査範囲内には、検出されない。支柱穴P1は、五平状の柱が考えられる。床面は堅く平坦であり、弥生時代後期のH11・H12・H20・H27・H28・H30・H33・H35に見られた暗褐色の粘質土が、床面



第124図 H51号住居址(2)

第76表 H51号住居址出土遺物観察表(1)

(cm・g)

No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様		推定値() 残存値 < > 丸底・出土位置
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	
1	弥生土器	壺	-	4.2	<8.1>	ヘラミガキ	ミガキ。赤色塗彩	完全実測 床
2	弥生土器	壺	19.8	-	<13.0>	赤色塗彩	櫛描T字文→赤色塗彩	完全実測 床
3	弥生土器	甗	(19.2)	-	<14.1>	ヘラミガキ	櫛描波状文→櫛描縹状文	回転実測 H51床 H45Nホリ方
4	弥生土器	甗	15.1	-	<12.8>	ヘラミガキ	櫛描縹縄文→櫛描波状文	完全実測 Nホリ方 床
5	弥生土器	甗	(19.6)	10.1	<33.1>	ハケメ調整→口縁ヘラミガキ	櫛描波状文→櫛描縹状文→ハケメ→ミガキ	完全実測 床 H45 Nホリ方
6	弥生土器	鉢	-	-	-	ヘラミガキ	ヘラミガキ	破片実測 覆土

H51号住居址出土遺物観察表(2)

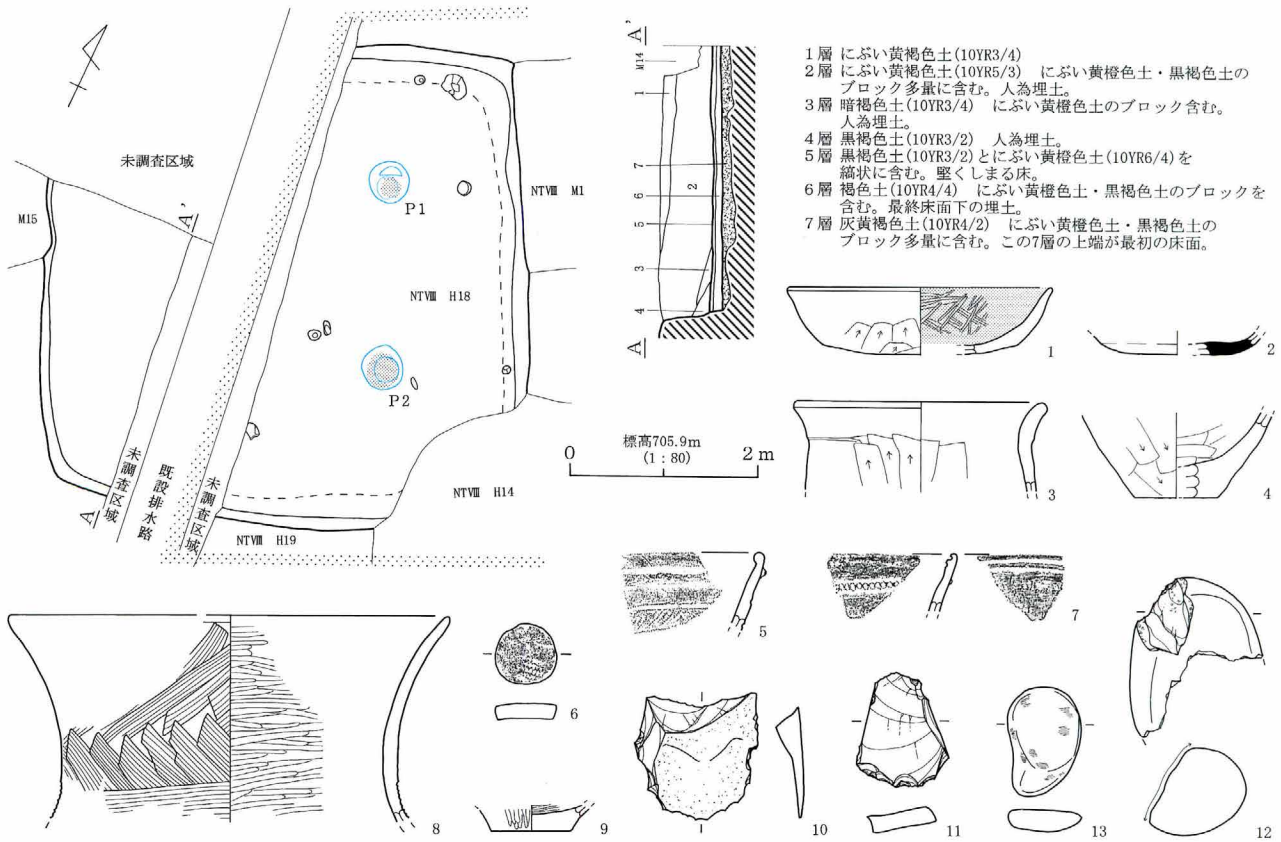
(cm・g)

No.	種別	器種	所 見				備 考	出土位置
7	弥生土器	甕	櫛描斜走文。				後期	H51床
8	縄文土器	深鉢	波状口縁。波頂部隆帯上の盲孔から口縁に沿って円形刺突隆帯 その下をなぞる沈線 3条の斜走文。				堀之内1	H51床
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見	出土位置
9	磨石		7.2	4.5	2.3	109.73	全体にすり。	P2
10	磨石		<5.6>	<9.0>	<2.0>	<120.76>	上部~裏面欠損。正面にすり面。	床

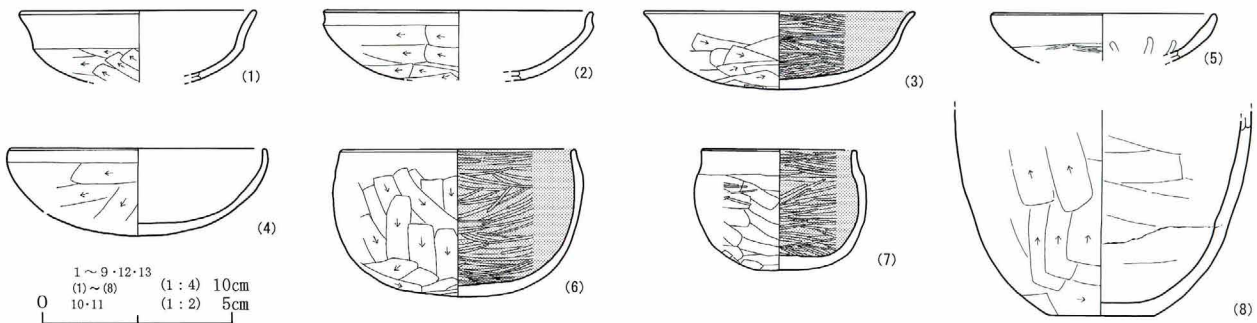
直上に張り付く。床下の掘方はない。

遺物は、壺(1・2)・甕(3~5・7)・鉢(6)の弥生土器、磨石(9・10)、本址に伴わない縄文後期堀之内1式深鉢片(8)がある。2の赤彩壺は、頸部に櫛描T字文が施文される。3~5の甕は口縁部と胴部櫛描波状文後頸部櫛描簾状文が施される。7の甕には、櫛描斜走文が施文される。6の鉢は、無彩。これらの遺物から本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

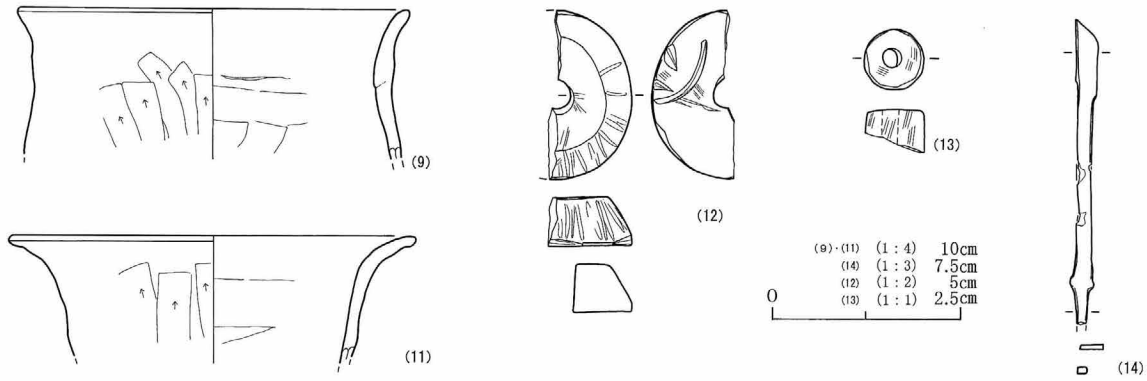
(52) H52号住居址



()は、西近津遺跡ⅧのH18号住居址出土遺物



第125図 H52号住居址(1)



第126図 H52号住居址(2)

第77表 H52号住居址出土遺物観察表

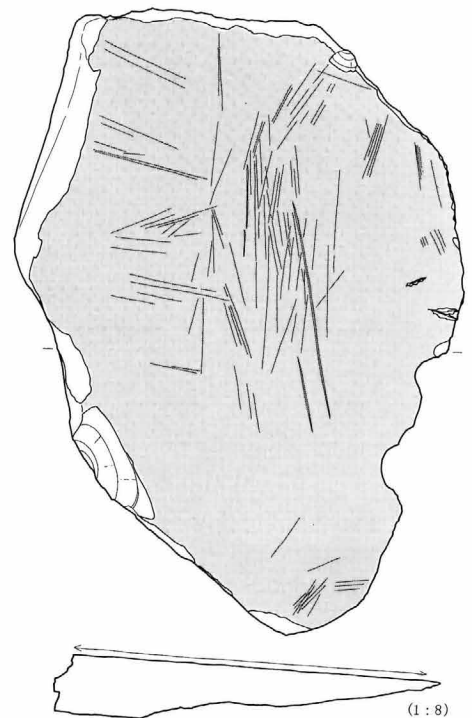
(cm・g)

H52		法 量			成形・調整・文様		推定値() 残存値 < > 丸底・		
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
1	土師器	坏	(14.0)	-	<3.4>	ヘラミガキ。黑色処理	口縁部ヨコナデ→ヘラケズリ	回転実測	覆土
2	須恵器	坏	-	(6.0)	<1.2>	ロクロナデ。火だすき痕	ロクロナデ。底部回転糸切り。火だすき有	回転実測	覆土
3	土師器	甕	(13.4)	-	<4.7>	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	覆土
4	土師器	甕	-	(4.4)	<4.5>	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	覆土
8	弥生土器	甕	(23.8)	-	<10.7>	ヘラミガキ	櫛描斜走文→櫛描斜走文	回転実測	ホリ方 む32
9	弥生土器	甕	-	4.2	<1.4>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	覆土
5	縄文土器	深鉢	口縁部内折。口縁部下横位刻み隆線。沈線内に縄文LR充填。					堀之内2	覆土
6	縄文土器	土製品	土器片円板。深鉢胴部片。縄文LR。敲打痕。研磨痕。径3.3 厚さ0.8。					後期前半	覆土
7	縄文土器	深鉢	口縁部内折。口縁部下横位刻み隆線。内面口縁に沿って沈線。					堀之内2	ホリ方
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見	出土位置	
10	剥片		3.4	3.2	0.7	5.85	自然面の残る剥片。	覆土	
11	二次加工のある剥片		3.0	2.4	0.5	4.35	下端部に二次加工。	覆土	
12	敲石		<8.5>	<6.9>	<4.9>	<223.99>	下部欠損。上部に敲打痕。	ホリ方	
13	磨石		5.8	3.9	1.3	29.68	被熱あり(裏面赤化)全体にすり。	覆土	

む-32・33Grにあり、M15に切られ、H26を切る。本址は、東隣で調査された西近津遺跡ⅧのH18号住居址と同一住居址である。カマドは排水路内か未調査区にあらう。柱痕が確認された。支柱穴P1・P2の桁行き2.0mを測る。平坦で堅く締まる床が2面確認された。西近津遺跡Ⅷの調査分では、住居の拡張が認められたが、本調査分ではみられない。覆土第2～4層は人為埋土である。

遺物は、土師器坏・甕、敲石、磨石、本址に伴わない縄文時代後期土器・石器、弥生時代後期の甕、須恵器坏がある。西近津遺跡Ⅷの調査分では、須恵器坏蓋模倣の土師器坏・半球状の土師器坏・分厚い土師器甕・内面黒色処理される土師器鉢等がある。

本址はこれらの遺物より小林真寿の編年(2005聖原)古墳時代Ⅳ期-7世紀代に位置づけられる。



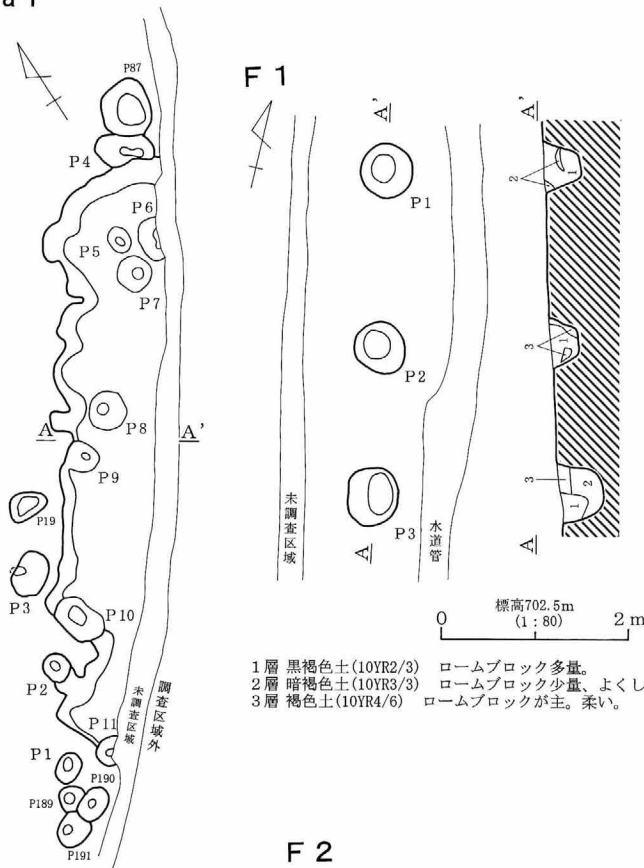
H45号住居址出土遺物

第2節 竪穴状遺構

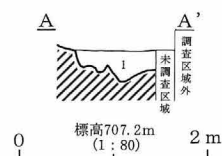
(1) Ta1号竪穴状遺構

た・ち-17・18Grで検出され、大半が調査区域外にある。隅丸長方形を呈するとみられる。南北軸長6.4m東西軸長1.0m壁高0.35mで、南北軸方位はN-28°-Eを指す。ピットは遺構内から6個(P5~P8)深さ20~32cm、壁柱穴が5個(P2・P4・P9~P11)深さ28~42cm、外柱穴が7個(P1・P3・P19・単独P87・単独P189~191)深さ14~46cmを測る。床面は脆弱である。遺物は、1の両端を欠損する刀子と2の器種不明鉄器

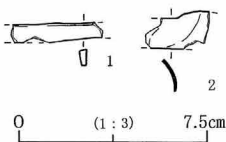
Ta1



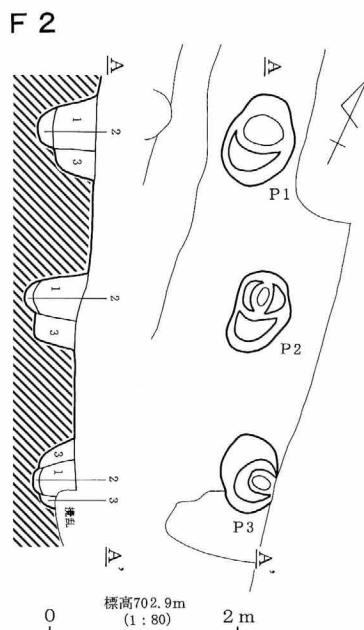
- 1層 黒褐色土(10YR2/3) ロームブロック多量。
- 2層 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロック少量、よくしまる。
- 3層 褐色土(10YR4/6) ロームブロックが主。柔い。



- 1層 褐灰色土(10YR4/1) しまり粘性弱く、下層にロームブロック多く含む。



- 1層 黒褐色土(10YR2/3) ロームブロック少量。
- 2層 黒褐色土(10YR3/1) にぶい黄褐色土少量。
- 3層 黒褐色土(10YR2/2)



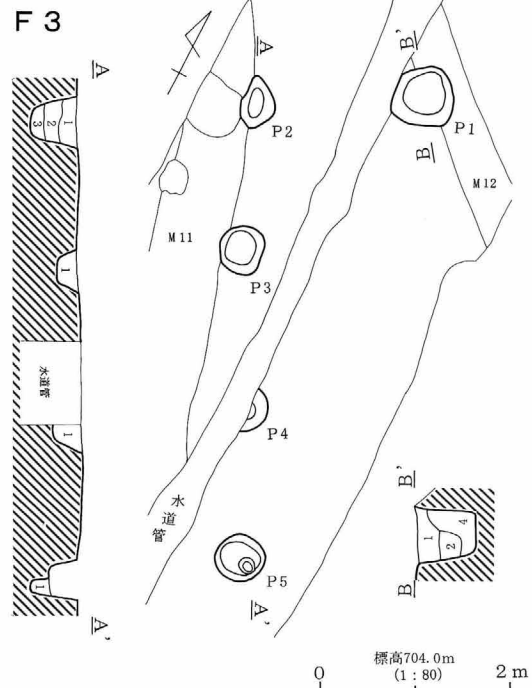
第3節 掘立柱建物址

(1) F1号掘立柱建物址

ひ-71Grから検出され、西側調査区域外に伸びる側柱式建物址か柱列か不明。柱間180cm、柱穴径60cm深さ40~48cmである。軸方位はN-10°-W、出土遺物は皆無であり、本址の年代は不明。

(2) F2号掘立柱建物址

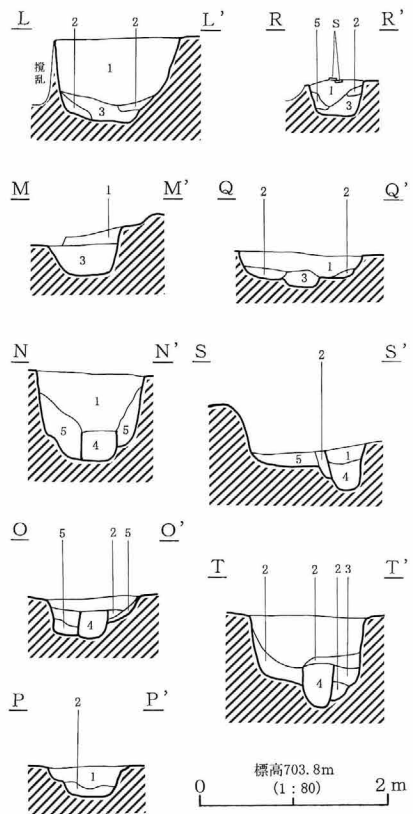
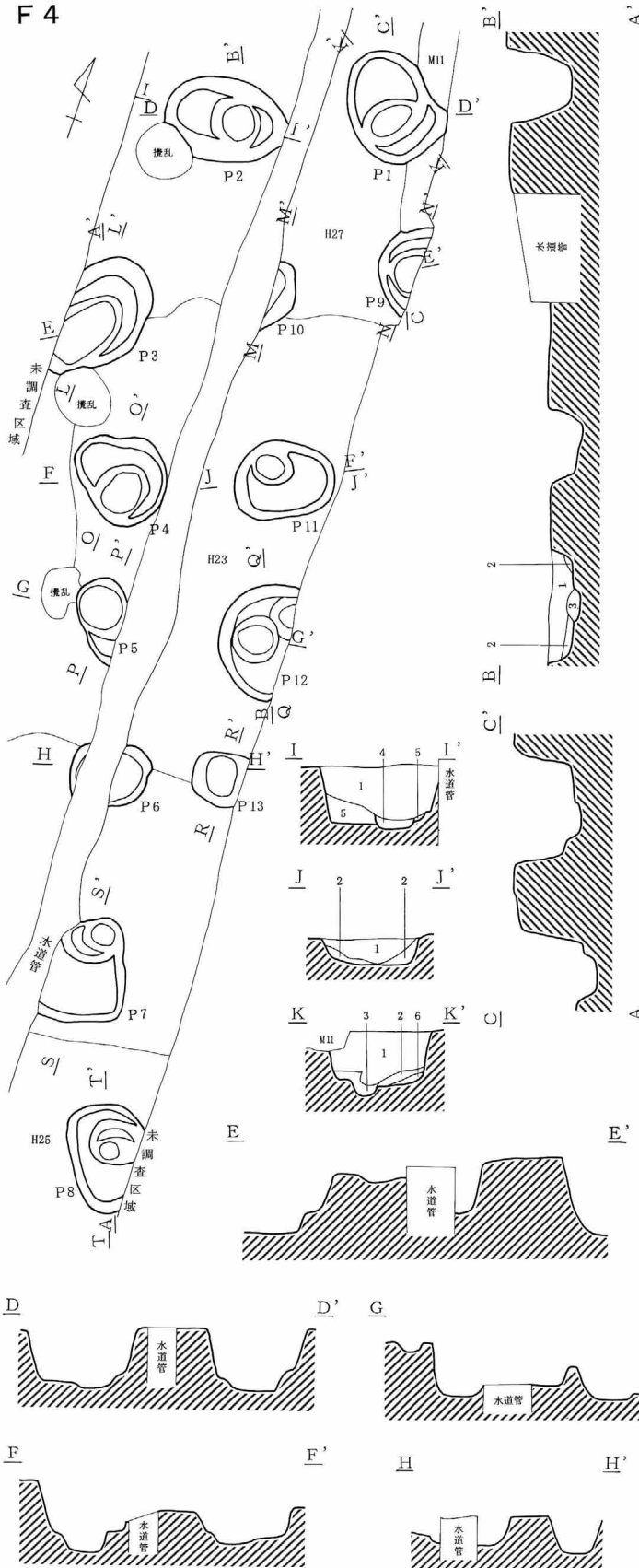
ひ-67・68Grから検出された。東側調査区域外に伸びる側柱式建物址か柱列か不明。軸方位はN-25°-W、H14を切る。柱間180cm・200cm、P1~P3の柱痕径40cmである。



- 1層 暗褐色土(10YR3/4) 黒褐色土粒子含む。
- 2層 黒褐色土(10YR3/1)
- 3層 黒褐色土(10YR3/2) 灰黄褐色土粒子含み柔い。
- 4層 黒褐色土(10YR3/1) にぶい黄褐色土がレンズ状に混じる。

第127図 Ta1号竪穴状遺構・F1号・F2号・F3号掘立柱建物址

F 4



- 1層 暗褐色土(10YR3/3) 褐色土のブロック含む。
- 2層 明褐色土(7.5YR5/6) 明褐色のロームが主。
- 3層 にぶい黄褐色(10YR4/3) にぶい黄褐色土を主とし、柔くしまりない。
- 4層 黒褐色土(10YR3/1) 柱痕。柔くしまりない。
- 5層 にぶい黄褐色(10YR5/3) 黒褐色土の1~3cm大のブロック多量。
- 6層 黒褐色土(10YR3/1)

出土遺物は皆無であり本址の年代は不明。

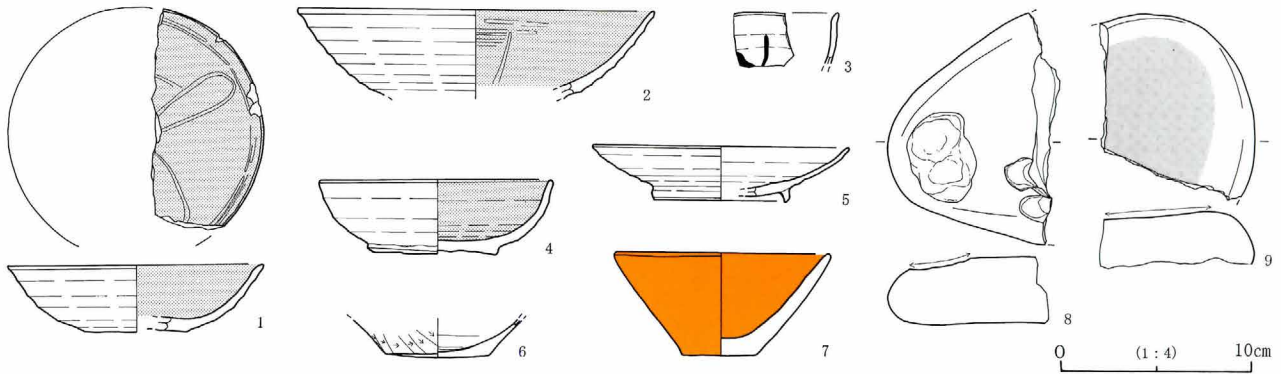
(3) F3号掘立柱建物址

ひ-54・55G r から検出された。東側調査区域外に伸びる側柱式建物址。軸方位は、N-8°-Wで、M11・M12に切られ、H29・H30を切る。柱間は桁行きが160cm梁行きが180cm。出土遺物は皆無であり、本址の年代は不明。

(4) F4号掘立柱建物址

ひ-58~61・ふ-58~60G r から検出された。H23・H25・M11に切られH27・H31・H32を切る。調査された範囲で南北は6間の12m、東西2間の3.6m以上の大型の総柱式建物址である。柱穴の平面形は楕円形が主で、長軸は100cmを越え深さも多くが100cmを越える。南北軸方位はN-20°-Wを指す。

第128図F4号掘立柱建物址(1)



第129図 F4号掘立柱建物址(2)

第78表 F4号掘立柱建物址出土遺物観察表

(cm・g)

F4			法 量			成形・調整・文様		推定値()残存値< >丸底・	
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
1	土師器	坏	(13.4)	(5.2)	3.5	暗文。黒色処理	ロクロナデ→回転糸切り	回転実測	P13 ひ60
2	土師器	坏	(18.8)	-	<4.6>	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転実測	P13
3	土師器	坏	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ、墨書あり	破片実測	P7
4	土師器	坏	12.4	4.0	4.0	ロクロナデ→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り	完全実測	P12
5	灰釉陶器	皿	(13.6)	(7.2)	2.9	ロクロナデ→施釉	ロクロナデ→底部回転ヘラ切り後高台貼付→施釉	回転実測	P12
6	土師器	甕	-	(5.5)	<2.0>	ヘラナデ	胴部ヘラケズリ。底部ヘラケズリ	回転実測	P6
7	弥生土器	鉢	11.5	4.1	5.4	ミガキ→赤色塗彩	ミガキ→体部赤色塗彩	完全実測	P3
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見		出土位置
8	敲石		<12.3>	<9.2>	<3.5>	<576.30>	被熱あり(正面黒化)正面は被熱による剥離か?右側欠損。		P13
9	磨石		<9.9>	<8.2>	<2.8>	<326.63>	被熱あり(正面黒化)左側~裏面欠損。正面にすり面。		P13

柱痕は30~40cmで太い柱が想定される。遺物は、底部回転糸切りで内面黒色処理される土師器坏(1・2・4)、判読不明の墨書土師器坏(3)、土師器甕(6)、灰釉陶器皿(5)、弥生土器鉢(7)、敲石(8・9)がある。これらの遺物と重複関係から本址は、平安時代9世紀前半に位置づけられる。

(5) F5号掘立柱建物址

み・む-37・38Grから検出され、H32・P185を切る。東西調査区域外のどちらかに伸びる2間×2間の総柱式建物址であろう。南北軸方位はN-8°-Wを指す。南北柱間は180cmと220cm東西柱間は230cmを測る。時代が判明する出土遺物はない。

第4節 土坑

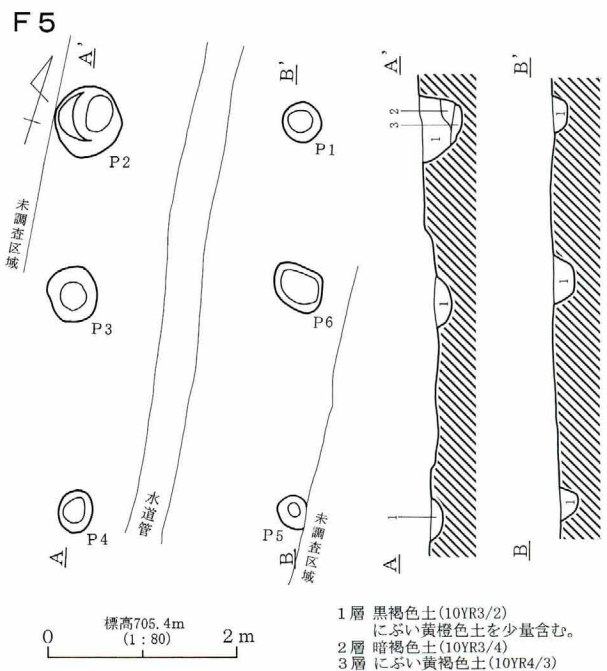
D1号土坑 き-7Grにあり、長軸長57cm短軸長54cm壁高は33cm長軸方位はN-70°-E。平面形円形、断面鍋底。出土遺物は皆無時期は不明である。

D2号土坑 え・お-4Grにあり、長軸長236cm検出短軸長90cm壁高72cm長軸方位はN-30°-E。

平面形 円形、断面鍋底。出土遺物は、縄文時代堀之内2式深鉢片・後期前葉の土器片円板、土師器坏小片があるが、時期は比定できない。

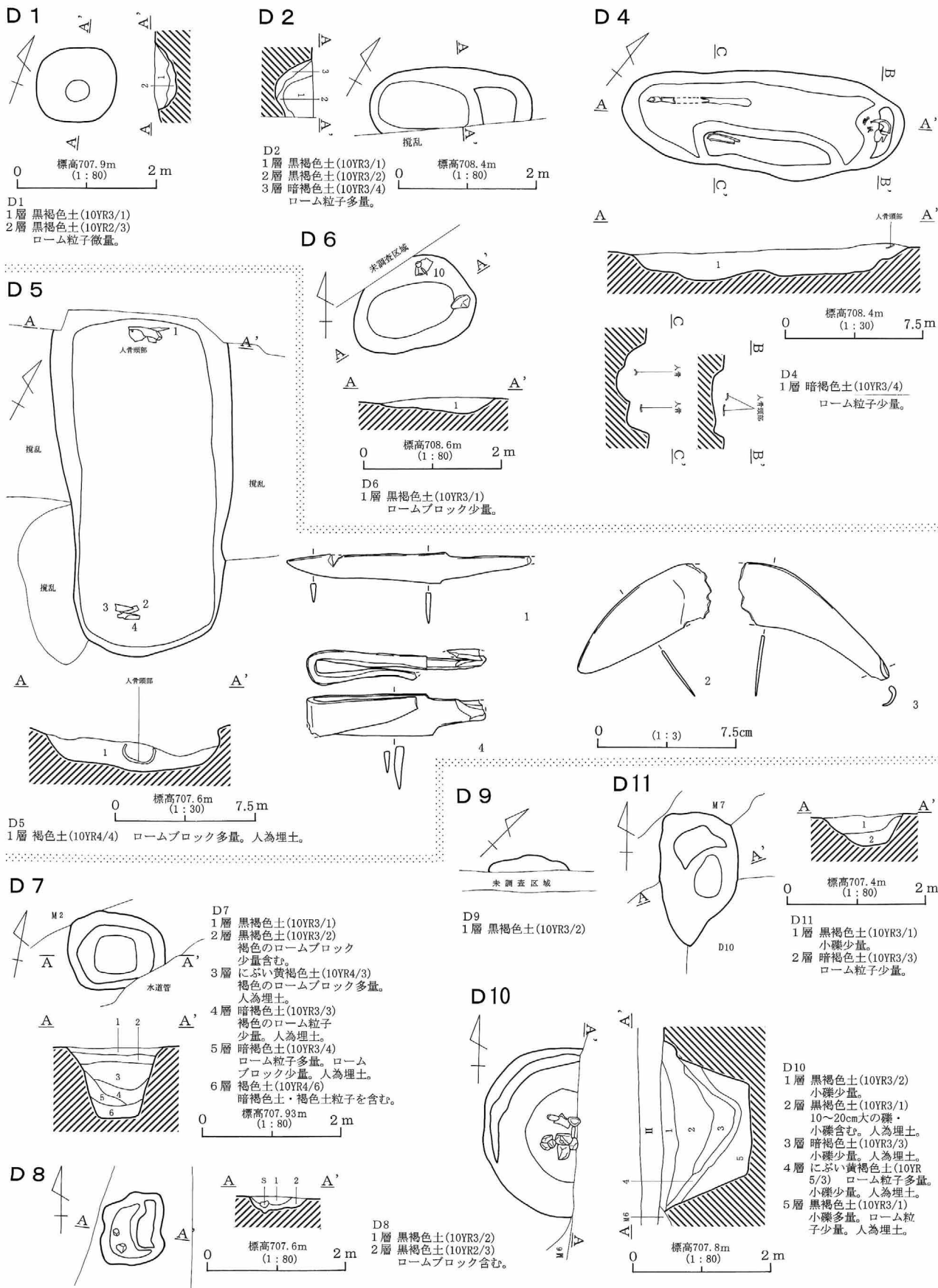
D4号土坑 う-3Grにあり、長軸長150cm短軸長58cm壁高は18.5cm長軸方位はN-55°-E。平面形楕円形、断面鍋底。成年から壮年前半とみられる人骨が、左側を上にした横臥状態で埋葬されていた。女性とみられるが断定できない。出土遺物皆無のため、時期は不明。

D5号土坑 け-6Grにあり、検出長軸長183cm短軸長92cm壁高は78cm長軸方位はN-30°-Wを指す。

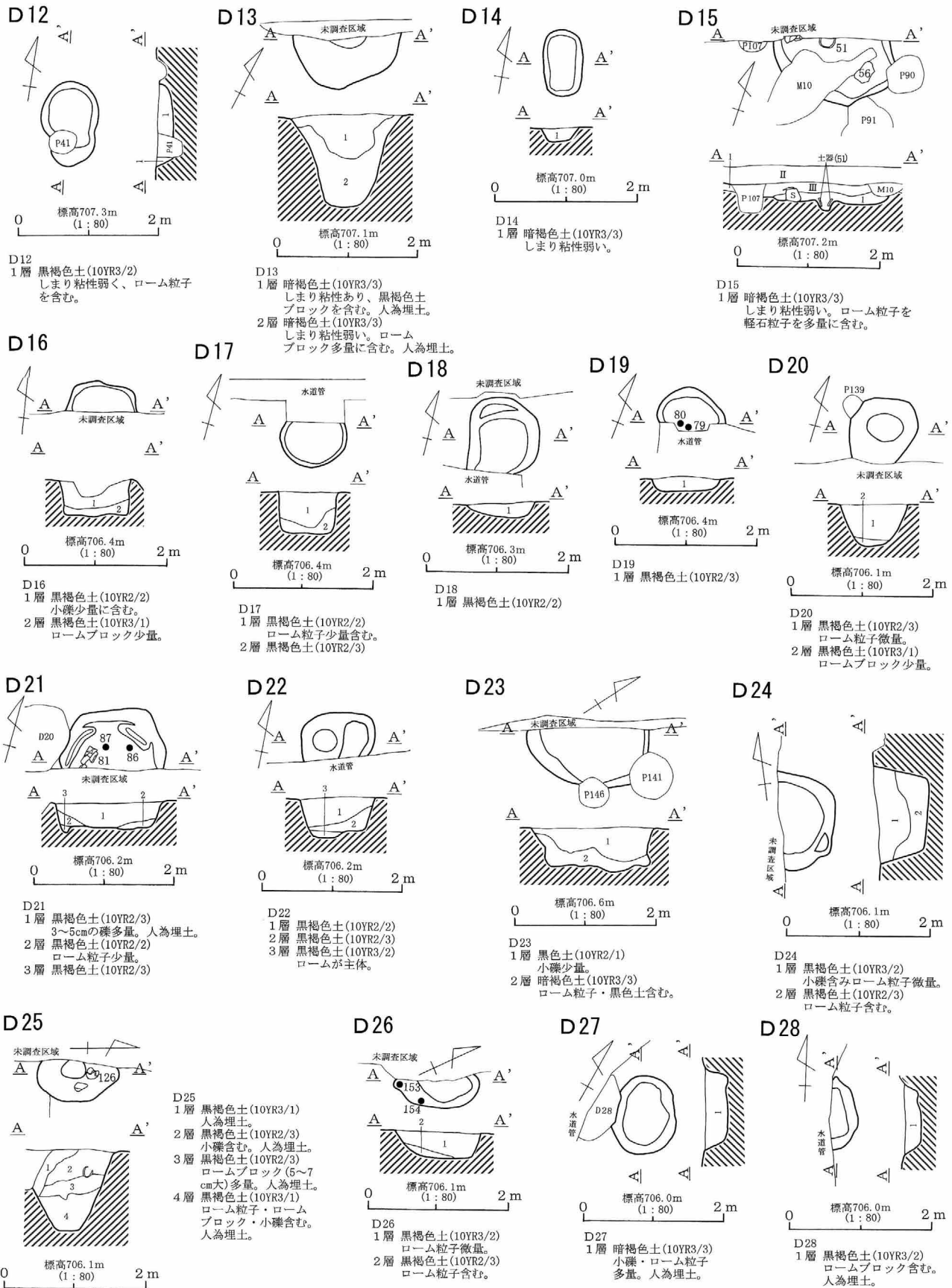


第130図 F5号掘立柱建物址

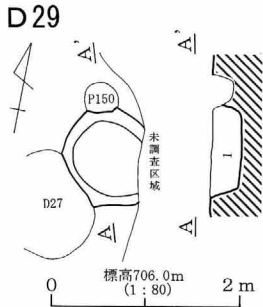
1層 黒褐色土(10YR3/2)にぶい黄褐色土を少量含む。
2層 暗褐色土(10YR3/4)
3層 にぶい黄褐色土(10YR4/3)



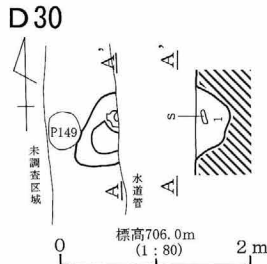
第131図 D1・D2・D4・D5・D6・D7・D8・D9・D10・D11及びD5号土坑出土遺物



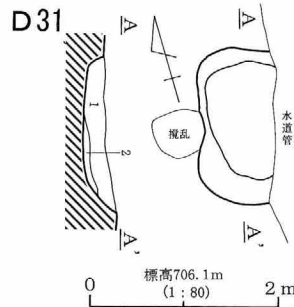
第132図 D12・D13・D14・D15・D16・D17・D18・D19・D20・D21・D22・D23・D24・D25・D26・D27・D28号土坑



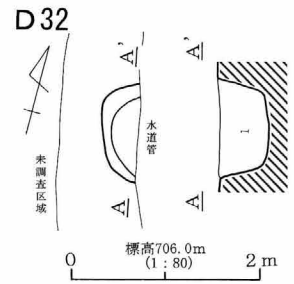
D29
1層 黒褐色土(10YR3/1)
小礫含む。人為埋土。



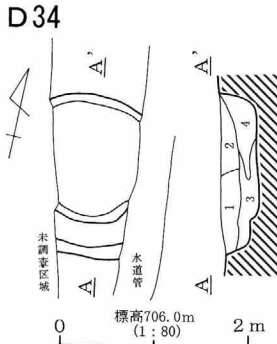
D30
1層 黒褐色土(10YR3/2)
小礫含む。人為埋土。



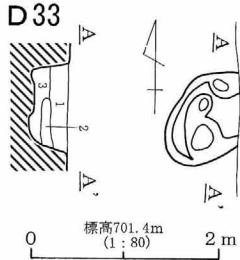
D31
1層 黒色土(10YR2/1)
小礫少量含む。
2層 暗褐色土(10YR3/3)
ローム粒子・黒色土を含む。



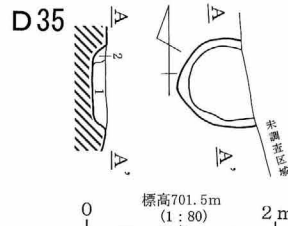
D32
1層 暗褐色土(10YR3/3)
ロームブロック・黒褐色土
ブロック含む。人為埋土。



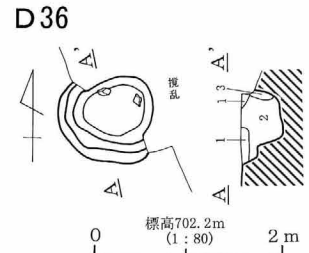
D34
1層 黄褐色土(10YR5/6)
黒褐色土を含む。
2層 黄褐色土(10YR5/4)暗褐色土を含む。
3層 黒褐色土(10YR3/2)
黄褐色土を多量に含む。
4層 明黄褐色土(10YR6/6)
黒褐色土を含む。
1~4層人為埋土。



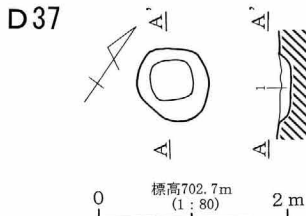
D33
1層 黄褐色土(10YR5/4)
暗褐色土多量を含む。
2層 明黄褐色土(10YR6/6)
黒褐色土多量を含む。
3層 黒褐色土(10YR3/2)
黄褐色土を含む。
1~3層人為埋土。



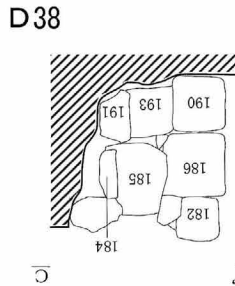
D35
1層 黒褐色土(10YR3/1)
黄褐色土・炭を含む。
2層 黄褐色土(10YR5/4)
灰黄褐色土多量を含む。
1・2層人為埋土。



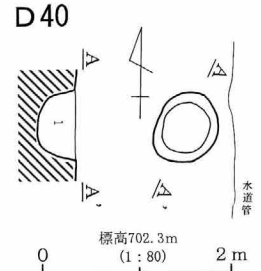
D36
1層 黒褐色土(10YR2/3)
堅くしまる、ローム
粒子多量。
2層 黒褐色土(10YR2/3)
3層 褐色土(10YR4/4)
ロームブロック多量。



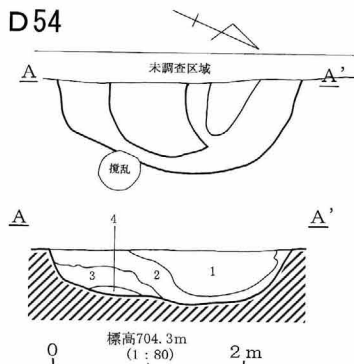
D37
1層 暗褐色土(10YR3/3)
炭・灰・焼土ブロック含む。



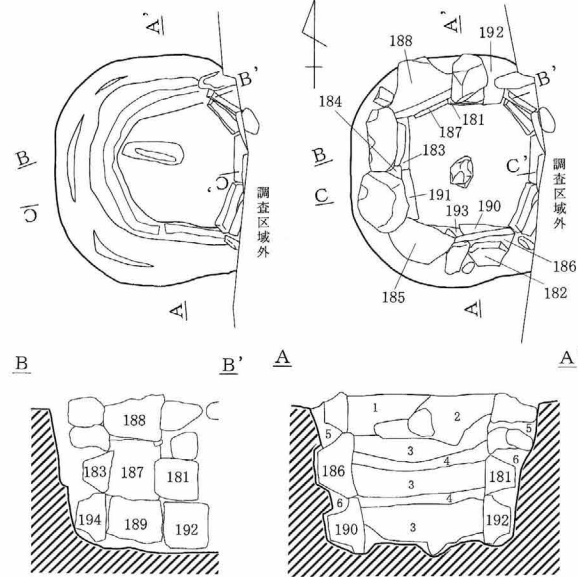
D38
1層 極暗褐色土(7.5YR2/3)
7.5YR6/4の小ブロックを少量含む。
2層 暗褐色土(7.5YR3/4)
シルト質土。
3層 暗褐色土(7.5YR3/3)
粘質土。
4層 暗褐色土(7.5YR3/3)
砂主体。
5層 褐色土(10YR4/4)
ローム粒子を少量含む。
柔い。
6層 明黄褐色土(10YR6/8)
10YR4/4の小ブロックを少量含む。



D40
1層 暗褐色土(10YR3/3)
黒色土ブロック含む。

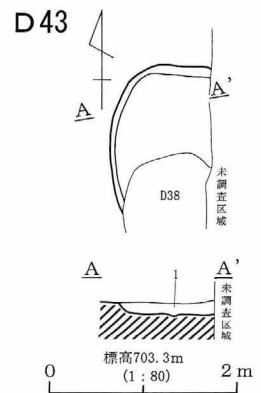


D54
1層 黒褐色土(10YR2/2)
2層 暗褐色土(10YR3/3)
3層 暗褐色土(10YR3/4) 明褐色土の
ブロック・粒子多量。人為埋土。
4層 褐色土(7.5YR4/6) 明褐色土の
粒子多量。人為埋土。

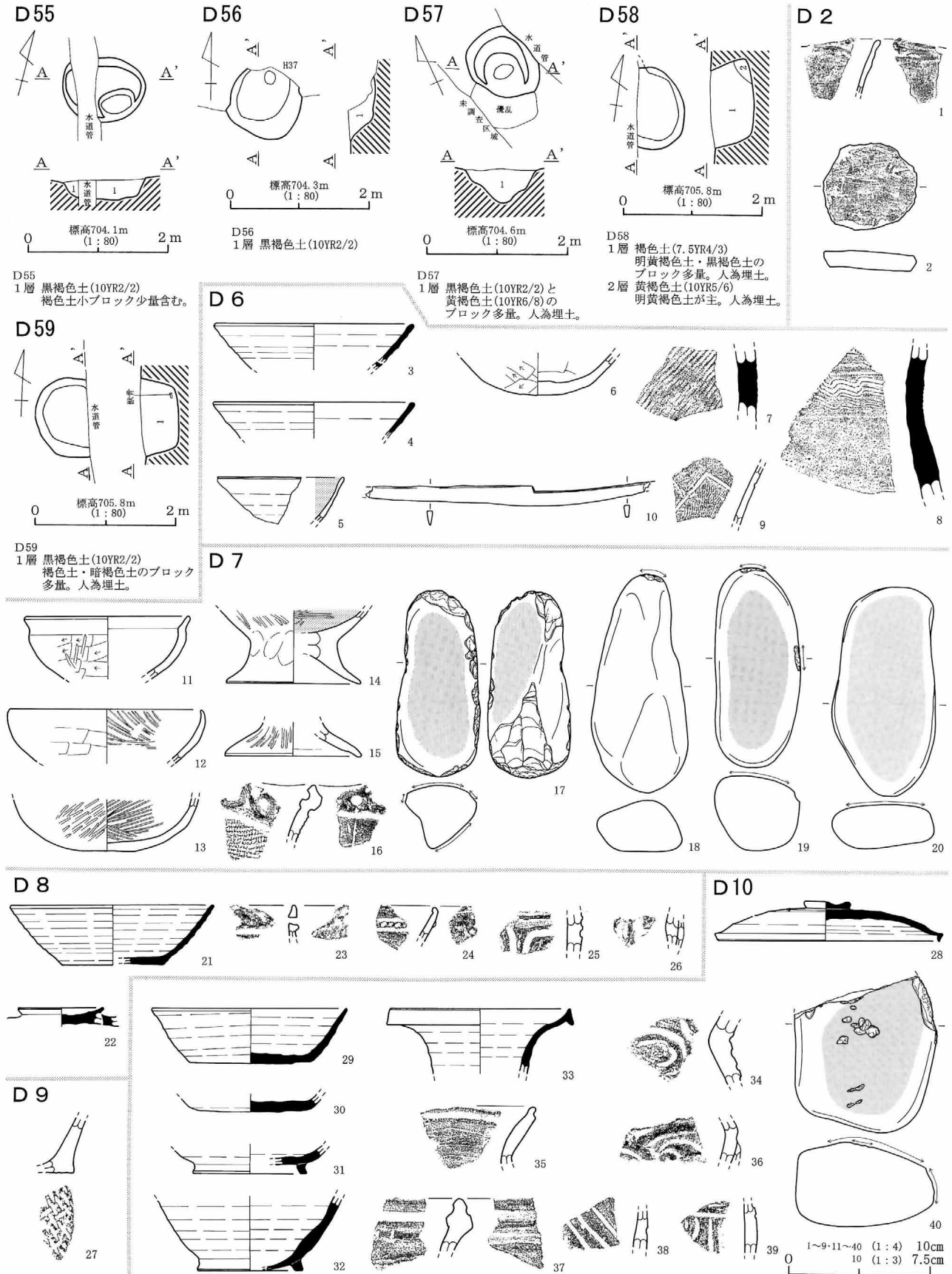


No. 181~No. 184は第138図・No. 185~No. 191は第139図
No. 192~No. 194は第140図の遺物番号と一致する。

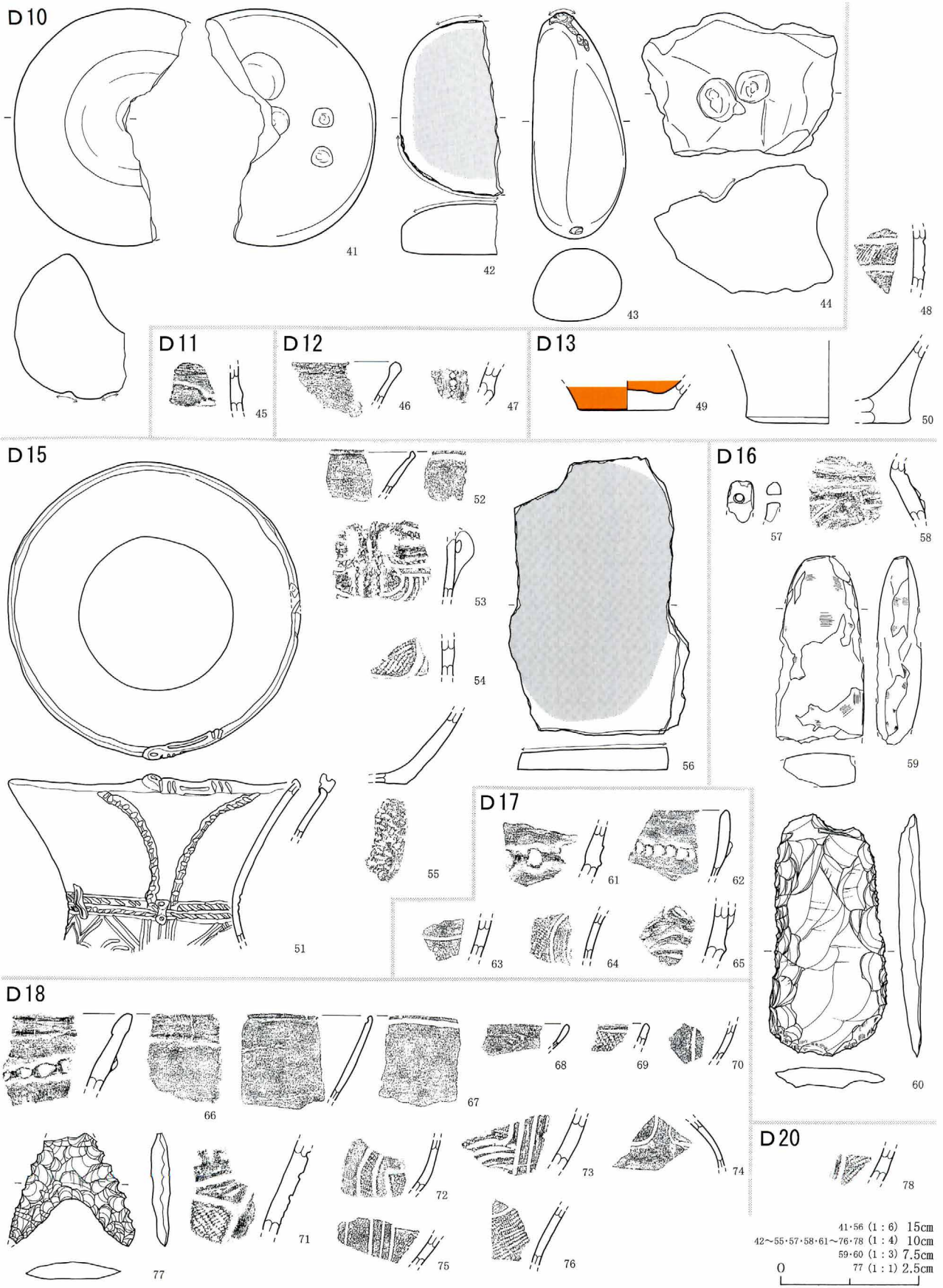
標高703.2m
(1:40) 1m



D43
1層 暗褐色土(10YR3/3)
明黄褐色土の小
ブロック少量含む。

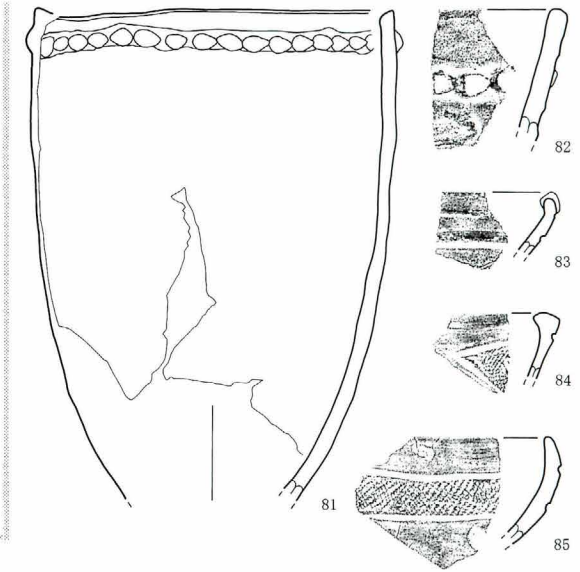
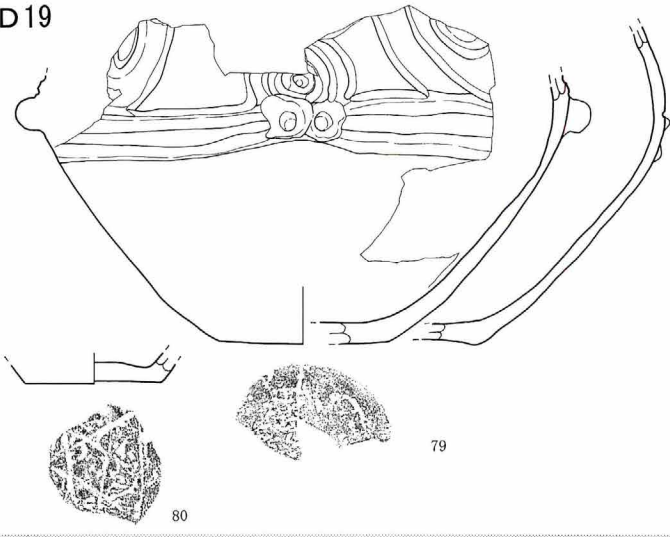


第134図 D55・D56・D57・D58・D59号土坑及びD2・D6・D7・D8・D9・D10号土坑出土遺物

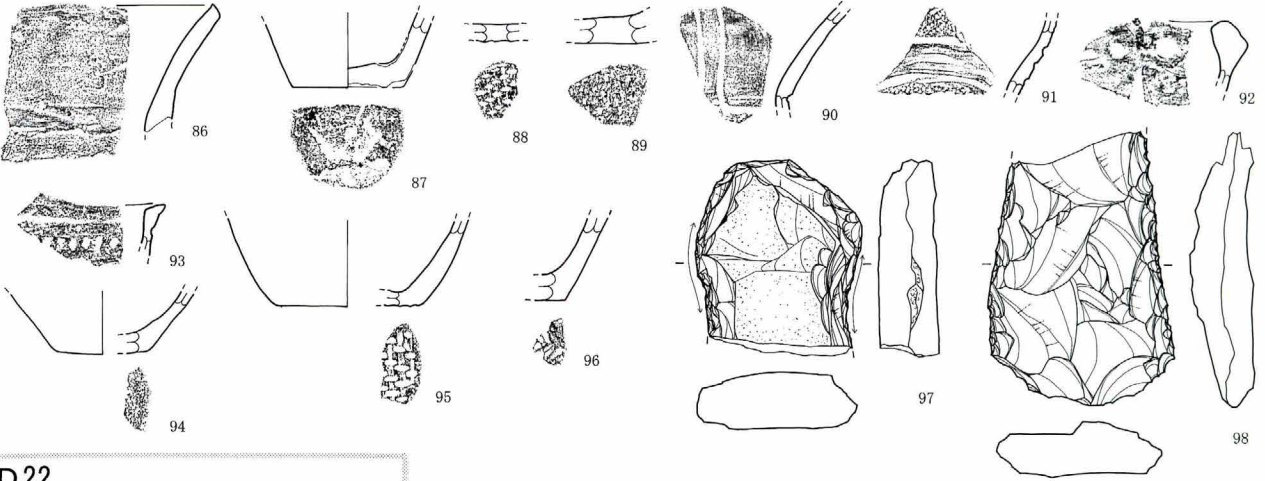


第135图 D10·D11·D12·D13·D15·D16·D17·D18·D20号土坑出土遗物

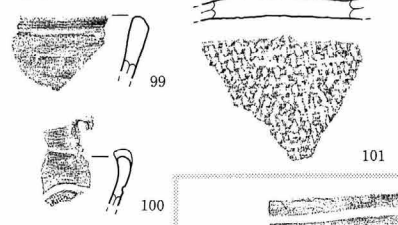
D19



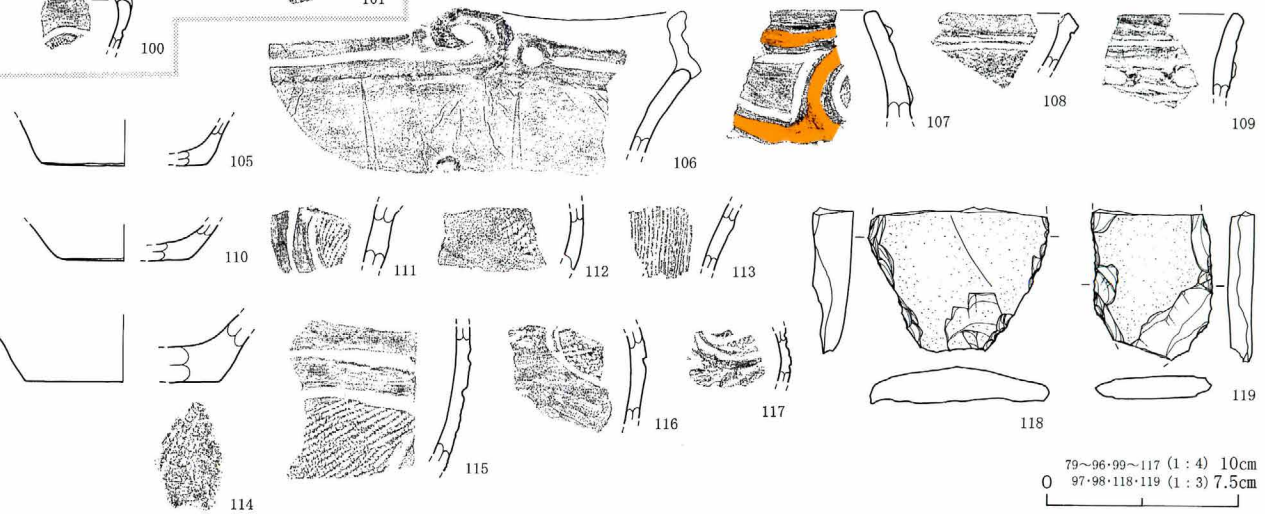
D21



D22



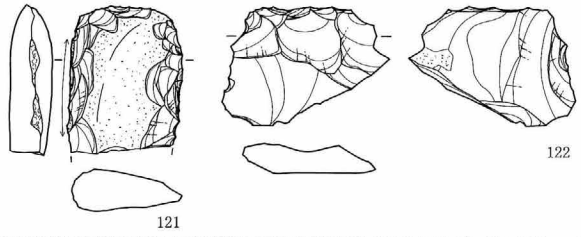
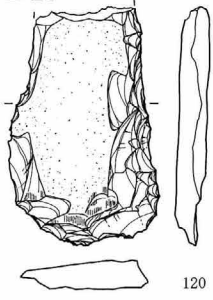
D23



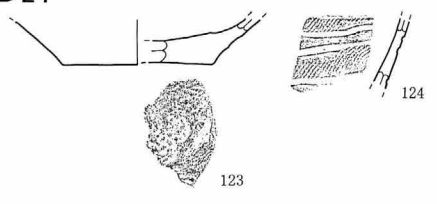
79~96·99~117 (1:4) 10cm
 97·98·118·119 (1:3) 7.5cm

第136图 D19·D21·D22·D23号土坑出土遺物

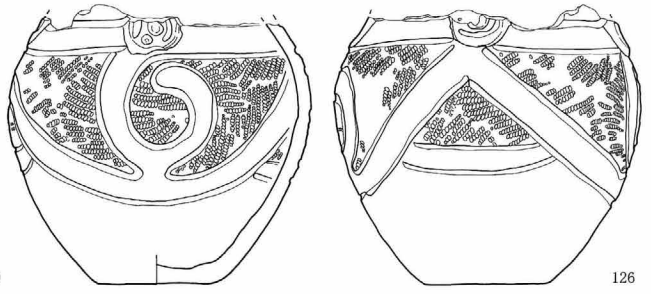
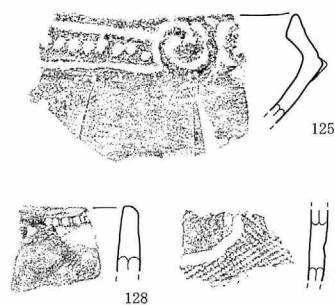
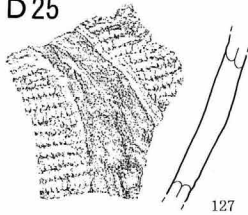
D 23



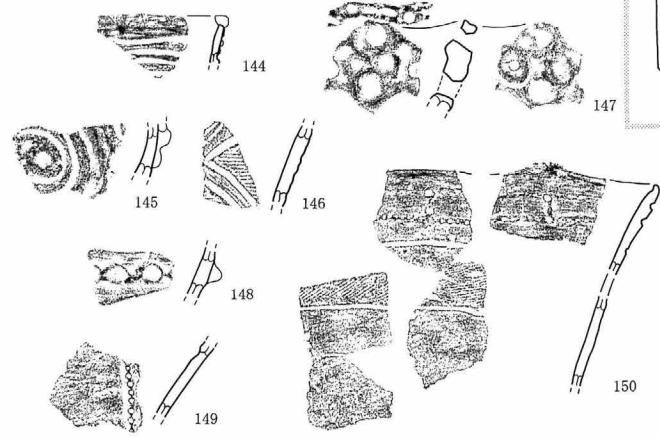
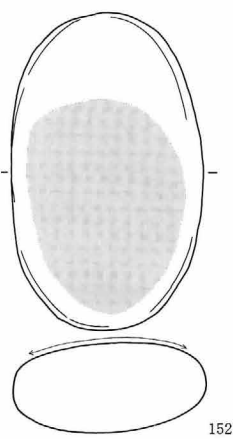
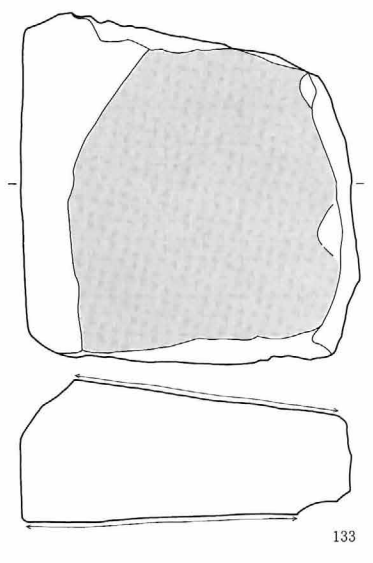
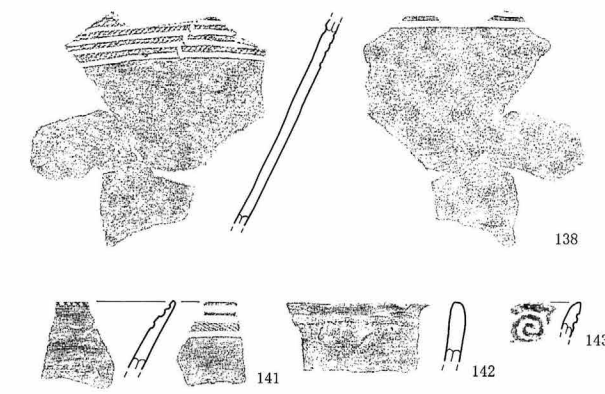
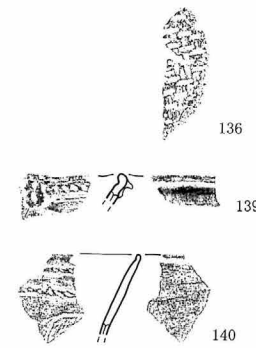
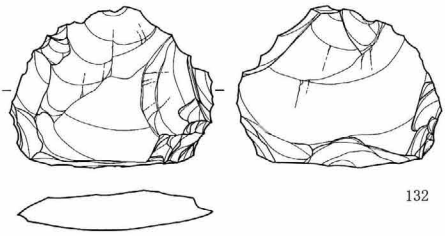
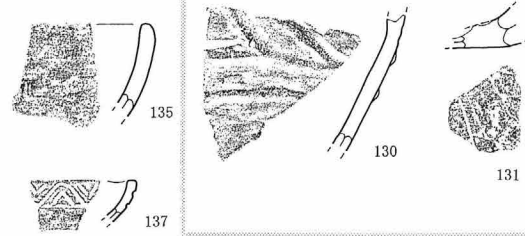
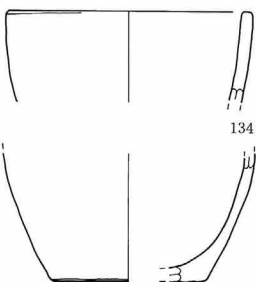
D 24



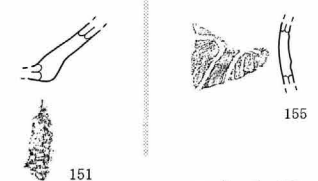
D 25



D 26



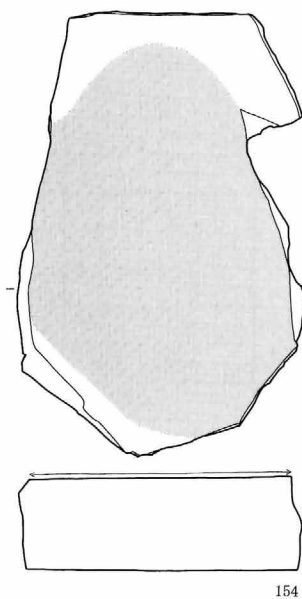
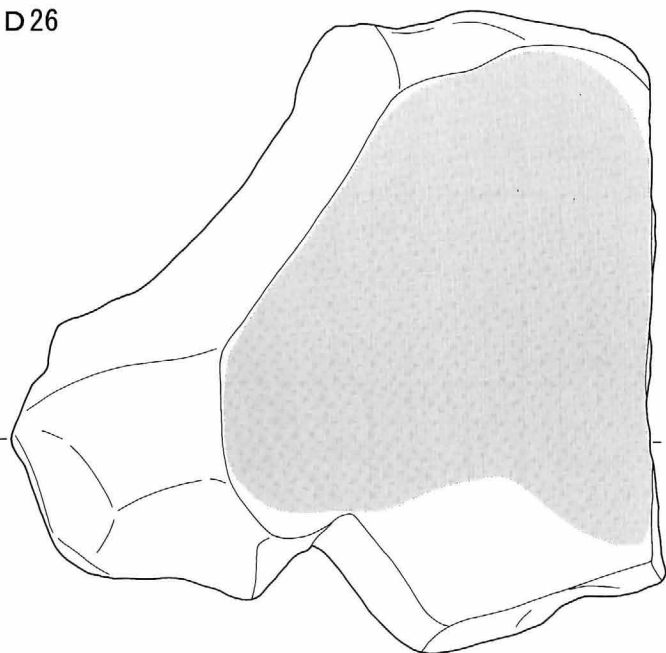
D 27



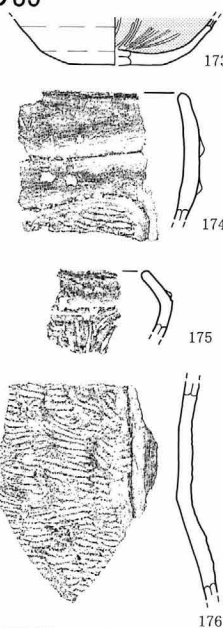
151
 133 (1 : 6) 15cm
 123~131·134~152·155 (1 : 4) 10cm
 120·121 (1 : 3) 7.5cm
 0 122·123 (1 : 2) 5cm

第137图 D 23·D 25·D 26·D 27号土坑出土遗物

D26



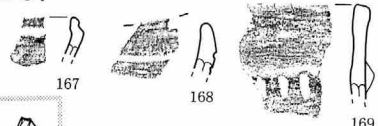
D35



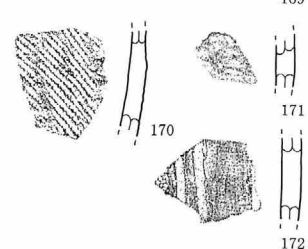
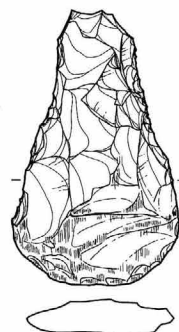
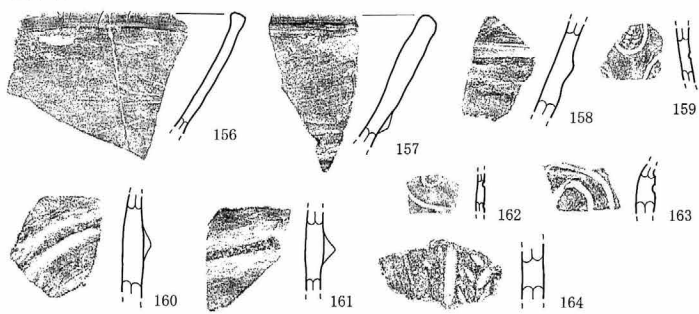
D30



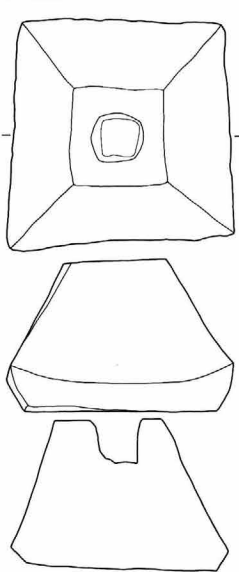
D31



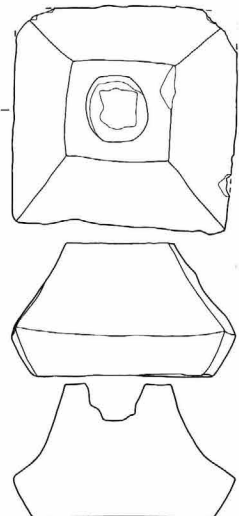
D29



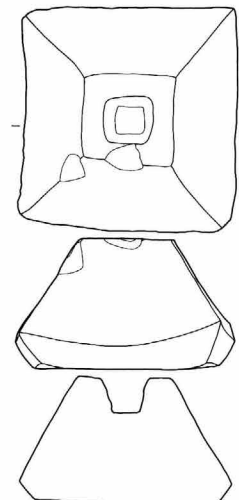
D38



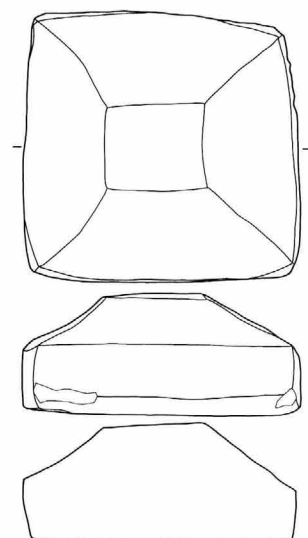
181



182



183

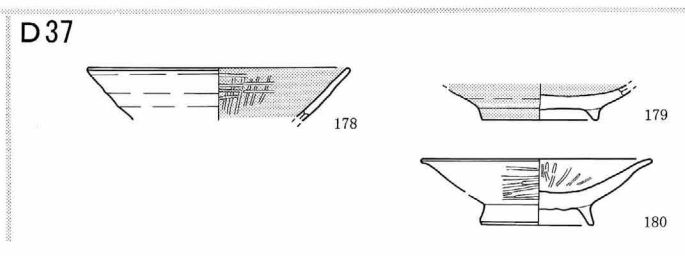
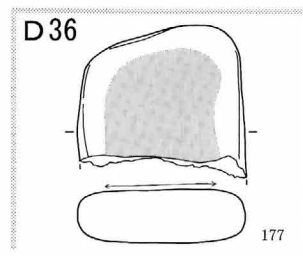
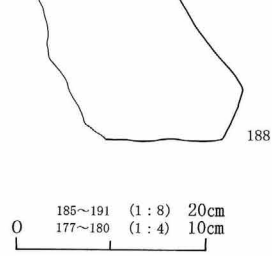
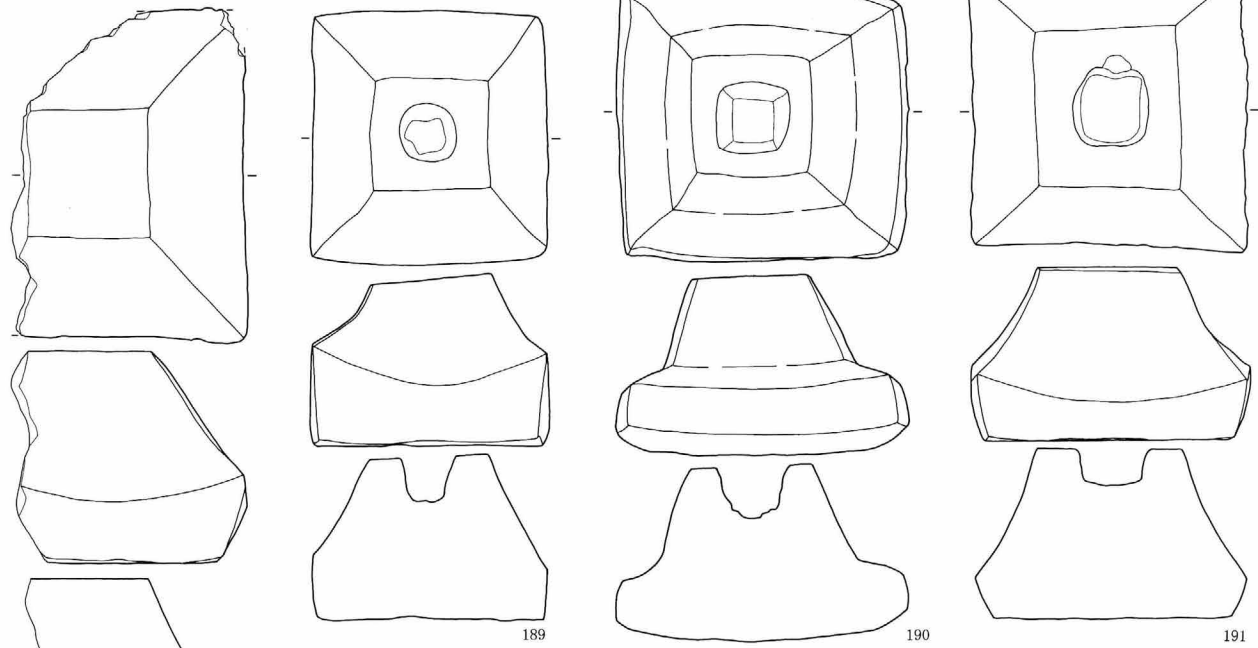
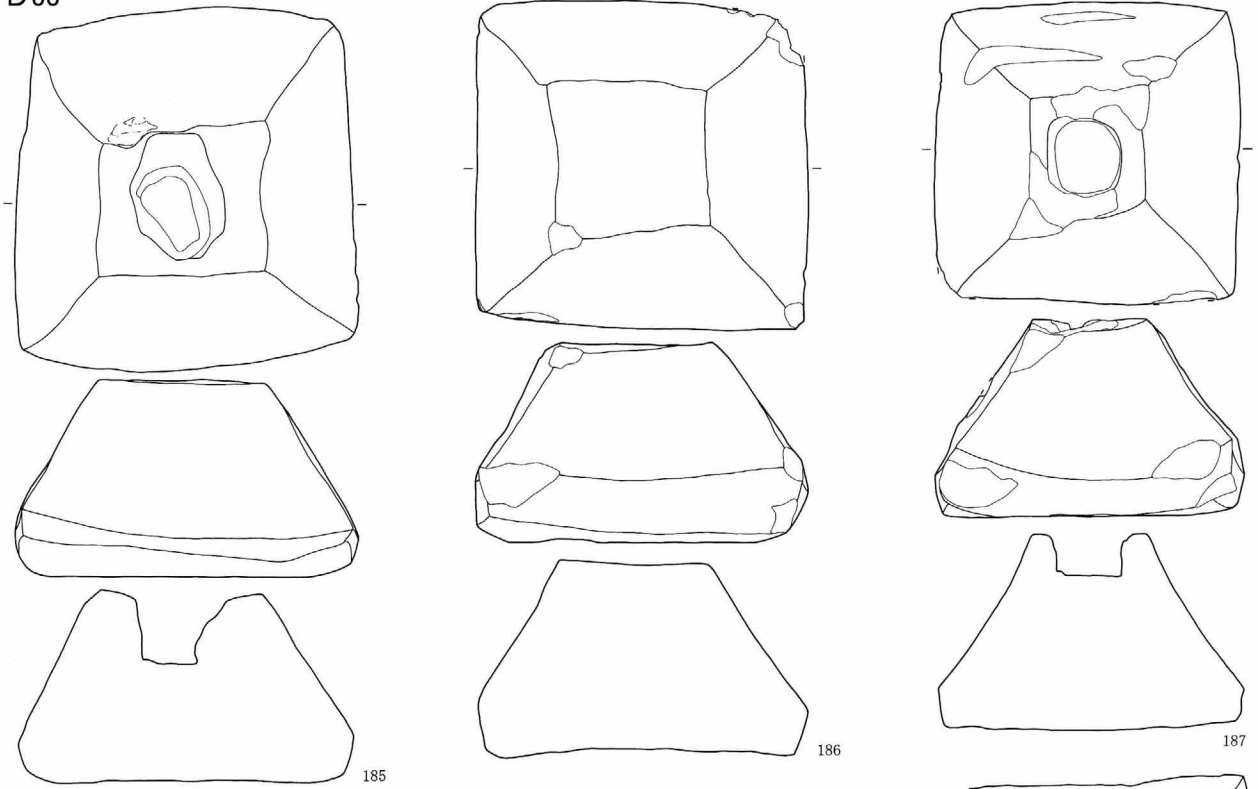


184

181~184 (1:8) 20cm
 153·154 (1:6) 15cm
 156~164·166~176 (1:4) 10cm
 0 165 (1:3) 7.5cm

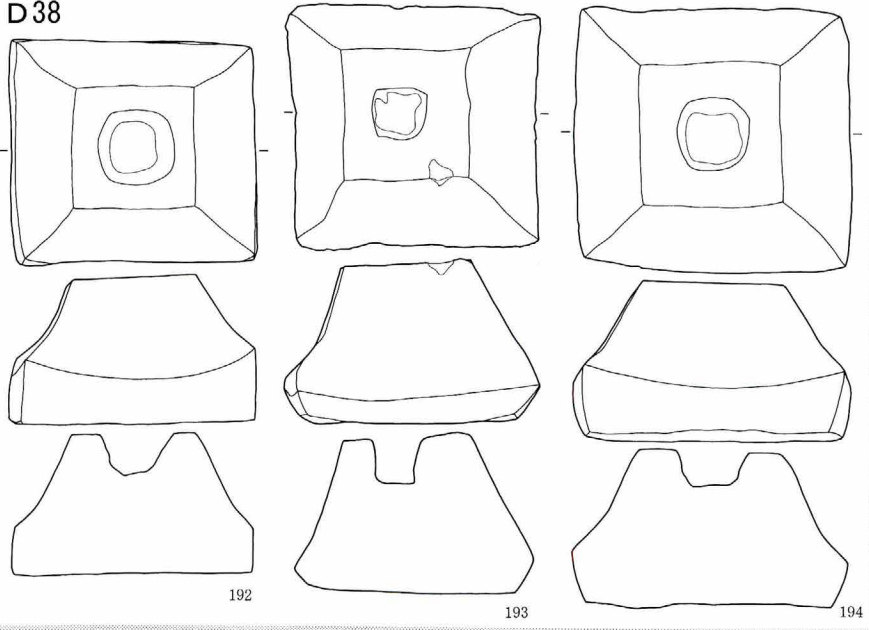
第138图 D26·D29·D30·D31·D35·D38号土坑出土遺物

D38

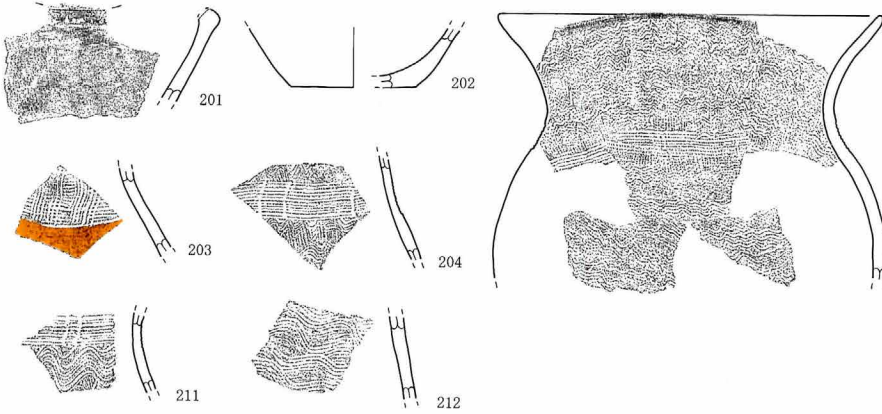
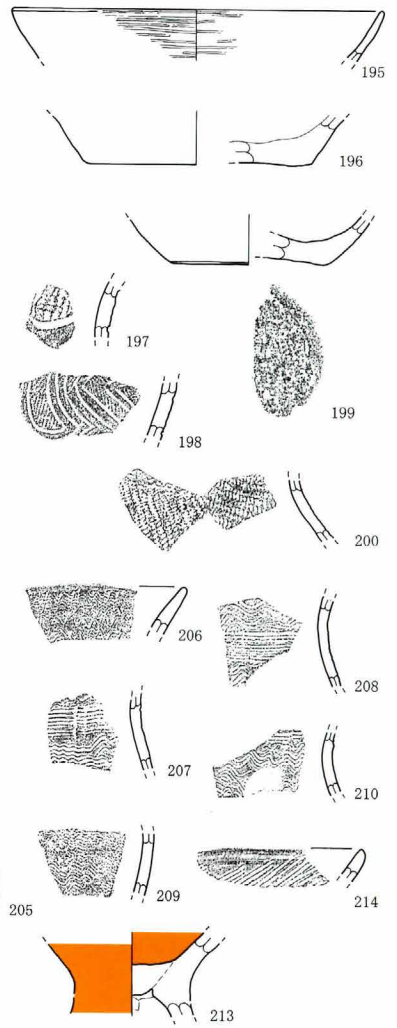


第139图 D36·D37·D38号土坑出土遗物

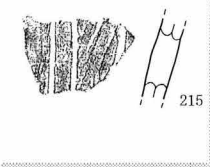
D38



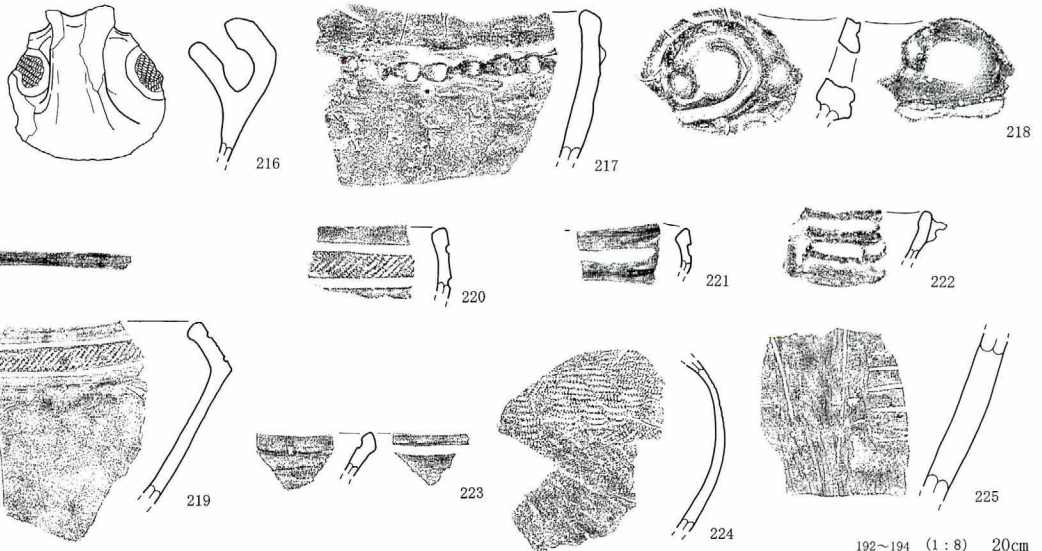
D54



D56



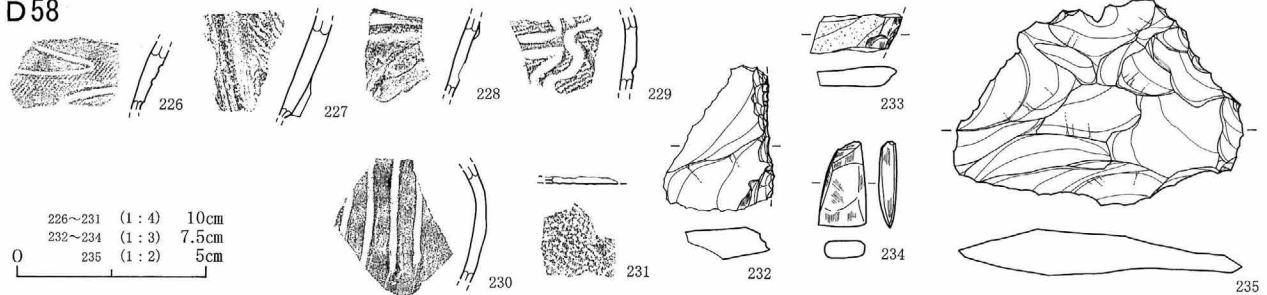
D58



192~194 (1:8) 20cm
195~225 (1:4) 10cm

第140图 D38·D54·D56·D58号土坑出土遗物

D58



第141図 D58号土坑出土遺物

平面形長方形、断面逆梯子形。底面北端から8~10歳の小児とみられる頭蓋骨が、底面に密着した刀子(第131図1)の直上から検出された。他の部位は遺存しないが、頭蓋骨の位置と底面南端から出土した刀子(第131図4)と鎌(第131図2・3)の存在と遺構の規模から、全身の埋葬が想定される。1の刀子は切先を西に刃部を北に向けている。4の刀子は茎部も刃部も中央から折り曲げられ、切先を東に刃部を北に向けている。2・3の鎌は同一の個体で、刃部中央から折り切りされたような断面を持ち、同一面を意識し刃部を北に向けている。

1および4の刀子は、両関で下部の関が茎から垂直に立ち上がり角度を有する。鎌は、湾曲が強く、三日月状の平面形である。この3点の鉄器の特徴から本址は、小林真寿の金属器・金属製品編年(2005 聖原)奈良・平安時代Ⅱ期-8世紀第2四半期に位置づけられる。

D6号土坑 い-1Grにあり、7世紀代のH5を切る。長軸長182cm短軸長128cm壁高は24cm長軸方位はN-80°-Eを指す。平面形楕円形、断面鍋底。遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏(第134図3・4)・甕、縄文後期前葉土器片、刀子(10)が出土した。土師器坏・須恵器坏はロクロ成形、5は内面黒色処理される。平安時代9世紀代であろうか。

D7号土坑 く-6GrにありM2に切られ、H6を切る。長軸長140cm短軸長108cm壁高は120cm長軸方位はN-80°-Eを指す。平面形長方形、断面逆梯子形。覆土3~5は人為埋土。遺物は、半球状の土師器坏(12・13)、土師器高坏(14・15)、敲石(17~19)、磨石(20)、縄文後期前葉深鉢片、最下層の第6層から獣骨が出土した。獣骨はウマの左橈骨・左尺骨、ニホンジカの角、獣類の焼骨(肋骨・四肢骨)・非焼骨(四肢骨)。本址の時期は、8世紀代であろうか。

D8号土坑 た-12Grにあり、長軸長106cm短軸長90cm壁高は30.5cm長軸方位はNを指す。平面形は方形、断面逆梯子形。遺物は、須恵器の底部手持ちヘラケズリの坏(21)・皿状のつまみを持つ蓋(22)、縄文時代堀之内式深鉢がある。本址の時期は、8世紀代前半であろう。

D9号土坑 セ-10Grで検出、大半が調査区域外である。検出長軸長116cm短軸長22cm詳細不明である。

D10号土坑 そ-14Grにあり、M6に切られ、D11・P30・P32を切る。長軸長244cm検出短軸長130cm壁高は132cm軸方位はNを指す。平面形は円形、断面逆梯子形。第2~5層は人為埋土。遺物は、須恵器の底部回転ヘラケズリの坏(29・30)・有台坏(31)・蓋(28)・長頸壺(32)、凹石(41・44)、磨面持つ敲石(40・42・43)、第2層からウマ/ウシの四肢骨破片・獣類の四肢骨破片、縄文時代堀之内1式深鉢片が出土した。本址の時期は、8世紀代前半であろう。

D11号土坑 そ・た-14Grにあり、D10・M7に切られる。残存長軸長188cm短軸長112cm壁高は47cm長軸方位はN-30°-Wを指す。平面形は楕円形、断面逆梯子形。時期は、8世紀代前半以前。

D12号土坑 た-16・17Grにあり、P41に切られる。長軸長118cm短軸長80cm壁高は26cm、長軸方位はN-10°-Wを指す。平面形は楕円形、断面逆梯子形。時期は、遺物小片少量で不明。

D13号土坑 つ-8Grにあり、P41に切られる。長軸長118cm短軸長80cm壁高は26cm、長軸方位はN-10°-Wを指す。平面形は円形か、断面逆梯子形。覆土第1・2層人為埋土。遺物は、縄文時代後期前葉深鉢片・弥生時代後期鉢片があるが、時期は、比定できない。

D14号土坑 て-19Grにあり、長軸長96cm短軸長56cm壁高は23cm、長軸方位はN-10°-Wを指す。平面形は長方形、断面逆梯子形。出土遺物皆無で、時期不明。

D15号土坑 に-20Grにあり、M10・P90・P91に切られる。長軸長166cm検出短軸長56cm壁高は22.5cm、長軸方位はN-55°-Wを指す。平面形は楕円形か、断面逆梯子形。底面円形の小ピットに第135図-51の深鉢が正位に埋設されていた。遺物は、縄文時代堀之内1式の深鉢51~53、後期前葉の深鉢54・55、台石(56)がある。本址は縄文時代後期前葉に位置づけられよう。

D16号土坑 に-20Grにあり、長軸長100cm検出短軸長43cm壁高は51cm、平面形は楕円形か、断面逆梯子形。遺物は、縄文時代後期初頭の把手(57)・堀之内1式の深鉢片、磨製石斧(59)、打製石斧(60)がある。本址は縄文時代後期前葉に位置づけられよう。

D17号土坑 ふ-22Grにあり、長軸長95cm残存短軸長76cm壁高は57cm、軸方位はN-70°-Eを指す。平面形は円形、断面逆梯子形。遺物は、縄文時代後期前葉・前半の深鉢片が出土した。本址の時期は、不確実であるが縄文時代後期前葉に比定されようか。

D18号土坑 ふ・へ-22Grにあり、残存長軸長110cm短軸長98cm壁高は25.5cm、軸方位はN-21°-Wを指す。平面形は不整楕円形、断面鍋底。遺物は、縄文時代中期後半、堀之内式の深鉢片、石鏃(77)が出土した。本址の時期は、不確実であるが縄文時代後期前葉に比定されようか。

D19号土坑 へ-22Grにあり、長軸長100cm残存短軸長52cm壁高は18cm、軸方位はN-75°-Eを指す。平面形は楕円形、断面逆梯子形。遺物は、縄文時代堀之内1式の深鉢(79)・(80)が出土した。本址の時期は、縄文時代後期前葉に比定されよう。

D20号土坑 ま-23GrにありP139に切られ、D21を切る。検出長軸長95cm短軸長94cm壁高は63cm、長軸方位はNを指す。平面形は楕円形、断面逆梯子形。遺物は、縄文時代後期前葉の深鉢片が出土した。本址の時期は、縄文時代後期前葉のD21より後出する。

D21号土坑 ま-23GrにありD20に切られる。長軸長150cm壁高は45cm、平面形は不整多角形、断面逆梯子形。壁際に深さ8cmの溝がみられる。覆土第1層は人為埋土。遺物は、縄文時代後期前半の粗製深鉢(81)等の深鉢片、打製石斧(97・98)がある。本址の時期は、縄文時代後期前半に比定されよう。

D22号土坑 ま-23Grにあり長軸長106cm検出短軸長64cm壁高は66cm、平面形は円形?断面テラスを持つ逆梯子形。軸方位はN-75°-Eを指す。縄文時代後期前葉深鉢片少量、時期は比定できない。

D23号土坑 む・め-24Grにあり、P141・P146に切られる。長軸長174cm検出短軸長76cm壁高は61cm、平面形は円形?断面凸凹した逆梯子形。長軸方位はN-25°-Eを指す。遺物は沈線部分に赤彩がみられる縄文時代中期後半浅鉢(107)、縄文時代後期前葉深鉢片、打製石斧(118~121)、剥片(122)がある。時期は、縄文時代後期前葉に比定されよう。

D24号土坑 め-26Grにあり、P147を切る。長軸長127cm検出短軸長80cm壁高は74cm、平面形は円形、断面逆梯子形。長軸方位はN-25°-Eを指す。縄文時代後期前葉深鉢片少量、時期は比定できない。

D25号土坑 め-26GrにありH7に切られる。残存長軸長150cm検出短軸長58cm壁高は118cm、平面形は楕円形、断面逆梯子形。長軸方位はNを指す。覆土第1~4層は人為埋土。遺物は、125縄文時代堀之内1式の深鉢が3層上部から出土。渦巻き文を両側から抱き込むように三角形の縄文部を配し、渦巻き文下端が閉じている。縄文時代称名寺式・堀之内1式等の深鉢片、台石(133)、剥片(132)がある。本址の時期は、縄文時代後期前葉に比定されよう。

D26号土坑 め-24・25Grにあり、長軸長124cm検出短軸長42cm壁高は44cm、平面形は楕円形、断面逆梯子形。長軸方位はN-22°-Eを指す。遺物は、縄文時代称名寺式・堀之内1式・堀之内2式・加曾利B1式等の深鉢片、磨石(152)、台石(153・154)がある。本址の時期は、縄文時代後期中葉であろうか。

D27号土坑 む-28GrにありD28に切られD29を切る。長軸長117cm検出短軸長91cm壁高は38cm平面形は楕円形断面逆梯子形。長軸方位N-25°-W。縄文時代後期前葉深鉢片少量あるが時期は不明。

D28号土坑 む-28GrにありD27を切る。長軸長106cm検出短軸長91cm壁高は38cm、平面形は長方形?断面逆梯子形。遺物は縄文土器片少量あるが、時期は不明である。

D29号土坑 む-28GrにありD27・P150に切られる。長軸長107cm検出短軸長85cm壁高は39.5cm、

平面形は円形？断面逆梯子形。長軸方位N-15°-W。覆土は、人為埋土。遺物は、縄文土器片・打製石斧(165)あるが、時期不明である。

D30号土坑 め-28GrにありP149に切られる。検出長軸長60cm短軸長53cm壁高は39cm、平面形は楕円形、断面テラス持つ逆梯子形。長軸方位N-42°-E。覆土は、人為埋土。遺物は、縄文後期前半深鉢片少量あるが、時期不明である。

D31号土坑 む-28Grにあり、長軸長164cm検出短軸長85cm壁高は37cm、平面形は長方形？断面逆梯子形。長軸方位N-17°-E。遺物縄文中期後半～後期前葉の土器片少量あるが、時期不明。

D32号土坑 め-28Grにあり、長軸長108cm検出短軸長40cm壁高は55cm、平面形は円形？断面逆梯子形。覆土は、人為埋土。遺物は、縄文後期粗製深鉢片少量あるが、時期不明である。

D33号土坑 は-77Grにあり、検出長軸長113cm短軸長78cm壁高は49cm、平面形は楕円形、断面逆梯子形。小ピット3個あり。長軸方位N-56°-E。覆土1～3層は人為埋土。遺物は、弥生後期土器・土師器片少量あるが、時期は比定できない。

D34号土坑 ひ-77Grにあり、長軸長172cm検出短軸長90cm壁高は52cm、平面形は円形？断面逆梯子形、テラスあり。覆土1～4層は人為埋土。遺物は、弥生後期土器・土師器・須恵器片少量あるが、時期は比定できない。

D35号土坑 の-76Grにあり、検出長軸長74cm短軸長96cm壁高は18cm、平面形は楕円形？断面逆梯子形、長軸方位N-85°-E。覆土は人為埋土。遺物は内面黒色処理の土師器坏・縄文土器片少量あるが、時期は比定できない。

D36号土坑 の-76Grにあり、東部を攪乱で破壊される。H11・H15を切る。残存長軸長106cm残存短軸長92cm壁高は47cm、平面形は円形、断面テラス持つ逆梯子形。長軸方位N-65°-E。遺物は磨石(177)、弥生後期土器・土師器・須恵器片少量あるが、時期は比定できない。

D37号土坑 ひ-65GrにありH19(9世紀前半)・H20を切り、H18(9世紀後半)に切られる。長軸長78cm短軸長75cm壁高は14cm、平面形は円形、断面鍋底。長軸方位N-42°-W。炭・灰・焼土ブロック含む。遺物は土師器皿(180)等がある。時期はこれらの遺物と重複関係から、9世紀前半～9世紀後半になる。

D38号土坑 ひ-65GrにありH22・D43を切る。隅丸方形の穴の壁面に石を3～4段積んでいる土坑である。南北軸はN-5°-W。石の大半が五輪塔笠部の火輪を使用し、腹面を内側としている。東側が調査区域外で全容は見えないが、南北幅122cm深さ86cmを測る。石組みの内上幅は南北76cm(下幅64cm)、東西78cm(下幅58cm)である。石組みの間は第6層の地山の土を入れている。土坑底面は石積み底面より5cmほど高く壁充填土の第6層を貼っている。底面には西壁に接して長楕円形の33cm×11cmのピットがあり、深さ7cmを測る。土坑内の覆土は下から粘質土と砂質土が交互に堆積し、三度繰り返している。遺構から石積みを使用した五輪塔以外の遺物は出土していない。

石積みの石は五輪塔の火輪が14個、区域外に伸びる東壁面の火輪9個(東壁の石は未回収であるが五輪塔火輪を三段に積んでいる。)と併せて23個の五輪塔を使用している。石質は熔結凝灰岩が20個、軽石が3個である。他には安山岩の河原石も調整用に6個使っている。

石積みの遺構は見られるが、五輪塔の火輪のみを使用することは佐久では初見である。

土坑の壁に石積みを持つ小規模な土坑は14世紀以降に便所遺構とされるものが福井の一乗谷朝倉氏関連遺跡などで確認されている。土坑内に有機物が確認できないことから肥溜ではないと思われるが、本址は粘質土と砂質土が交互にあることから液体物を貯蔵していたものとみられる。

五輪塔は磨耗が少なく完存しており、第139図188の軽石の五輪塔が割れているのみである。これからこの五輪塔は作成されてそれほどの時間を持たず、積まれたものとみられる。笠部の最上部から軒までの稜線は曲線を描き、軒の幅は笠の高さに対し厚く、軒反りの勾配はややきつくなっている。最大幅が20～30cm未満、最大高14～18.2cmのものが14個の内6個あり、小型化の傾向が見られる。これらより16世紀頃の年代があたりようか。しかし、形態的に気になる190の軒までの稜線が折れており、笠塔婆の可能性もある。また、184の最大幅26.5cmに対し最大高13.1と高さの低いもの、

185の軒先までの稜線が直線的で軒先の反りの少ないものは古相が窺える。

D40号土坑 ふ-58GrにありP160を切る。長軸長80cm残存短軸長68cm壁高は41cm、平面形は円形、断面鍋底。長軸方位N-40°-E。遺物は縄文・弥生後期土器、土師器片少量、時期は比定できない。

D43号土坑 ひ-62GrにありH22を切り、D38に切られる。残存長軸長100cm検出短軸長106cm壁高は17.5cm、平面形は楕円形、断面鍋底。遺物は弥生後期土器片少量、時期は比定できない。

D54号土坑 へ-50Grにあり、検出長軸長268cm検出短軸長98cm壁高は57cm、3・4層は人為埋土。平面形は楕円形、断面鍋底。遺物は縄文後期土器少片と弥生時代後期鉢・壺・甕高坏がある。200は、赤井戸・吉ヶ谷系の甕である。本址は、弥生時代後期箱清水式期に比定できよう。

D55号土坑 ふ・へ-49GrでH36を切る。長軸長116cm短軸長93cm壁高38.5cm、平面形楕円形、断面逆梯子形、テラス有り。長軸方位E。遺物は、縄文後期・弥生後期・土師器片少量あるが、時期は、不明。

D56号土坑 へ-49GrにありH37に切られる。長軸長116cm短軸長93cm壁高は38.5cm、平面形は楕円形、断面逆梯子形、テラス有り。長軸方位N-20°-E。遺物は縄文・弥生土器小片があるが時期は不明。

D57号土坑 み-45GrでH43を切る。長軸長88cm短軸長82cm壁高49cm、平面形は円形、断面テラス持つ逆梯子形、長軸方位N-30°-W。人為埋土。遺物は縄文・弥生土器、土師器小片があるが時期は不明。

D58号土坑 む-33Grにあり、長軸長118cm残存短軸長68cm壁高62cm、平面形は楕円形、断面不整フラスコ状、長軸方位N-37°-W。1・2層人為埋土。出土遺物から縄文時代後期初頭に比定されよう。

D59号土坑 む-33Grにあり、長軸長113cm残存短軸長76cm壁高54cm、平面形は円形、断面逆梯子形、長軸方位N-21°-E。覆土人為埋土。遺物は縄文後期土器片少量あるが時期は不明。

第79表 西近津遺跡Ⅳ土坑一覧表

(残存値) <検出値> (cm)

遺構名	検出位置	平面形	長軸方位	長軸長	短軸長	壁高	備考 (重複関係・出土遺物)	遺構名	検出位置	平面形	長軸方位	長軸長	短軸長	壁高	備考 (重複関係・出土遺物)
D1	さ7	円形	N-70°-E	57	54	33		D30	め28	楕円形(?)	N-42°-E	<60>	53	39	P149に切られる。縄文後期深鉢。
D2	え・お4	長方形	N-30°-E	236	<90>	72	縄文後期深鉢・土器片円板。	D31	む25	長方形(?)	N-17°-E	164	<85>	37	縄文後期深鉢。
D3	欠						頭骨・大脚骨。頭蓋骨・大脚骨・四肢骨。成年・壮年前半。	D32	め28	円形(?)	-	108	<40>	55	
D4	う3	長方形	N-55°-E	150	58	18.5		D33	は77	楕円形	N-56°-E	113	78	49	テラスあり。
D5	け6	長方形	N-30°-W	<183>	92	78.0	頭蓋骨。8-10歳の小児。鏝1・刀子2。	D34	ひ77	円形(?)		172	<90>	52	テラスあり。
D6	い1	楕円形	N-80°-E	182	128	24	H5を切る。土師器環・甕。須恵器環・壺。刀子。	D35	の76	円形(?)	N-85°-E	96	<74>	18	縄文後期深鉢、土師器環。
D7	<6	長方形	N-80°-E	140	108	120	M2に切られ、H6を切る。縄文後期深鉢。土師器環・高坏。磨石・散石。ウマの左揚骨・左尺骨。二ホンジカの角。獣類の焼骨(肋骨・四肢骨)。并発骨(四肢骨)。	D36	は72	円形(?)	N-65°-E	<106>	<92>	47	H11・H15を切る。テラスあり。磨石。
D8	た12	方形	N	106	90	30.5		D37	ひ65	円形	N-42°-W	78	75	14	H19・H20を切り、H18に切られる。土師器環・皿・甕。
D9	せ10	?	-	<116>	<22>	-	縄文後期深鉢(網代煎)。	D38	は63	円形	N-5°-W	124	<86>	82	H22を切る。D43を切る。五輪塚の石蔵。
D10	そ14	円形	N	244	<130>	132	M6に切られ、D11・P30・P32を切る。縄文後期深鉢。須恵器環・有台環・蓋。凹石。散石。ウマカウシの四肢骨。獣類の四肢骨。	D39	は58	楕円形	-	113	90	77	F4P1へ変更。M11に切られ、H27を切る。
D11	そ・た14	長方形(?)	N-30°-W	(188)	112	47		D40	は58	円形	N-40°-E	80	68	41	P160を切る。
D12	た16・17	長方形	N-10°-W	118	80	26	P41に切られる。縄文後期深鉢。	D41	は59	楕円形	-	<98>	<30>	<28>	F4P10へ変更。H23に切られ、H27を切る。
D13	つ18	円形	-	154	<68>	<133>	縄文後期深鉢、弥生後期鉢。	D42	は61	楕円形	-	126	<88>	105	テラスあり。F4P8に変更。
D14	て19	長方形	N-10°-E	96	56	23		D43	ひ62	楕円形(?)	-	<100>	<106>	<17.5>	D38に切られ、H22を切る。
D15	に20	楕円形(?)	N-55°-W	166	<94>	<22.5>	M10・P90・P91に切られる。縄文後期深鉢、台石。	D44	は60	楕円形		113	91	45	F4P11へ変更。H23に切られ、H27を切る。テラスあり。
D16	ふ22	長方形(?)	-	100	<43>	51	縄文後期深鉢、弥生後期鉢。磨製石斧、打製石斧。	D45	は60	円形		137	<80>	45	F4P12へ変更。H23に切られ、H27を切る。テラスあり。土師器環・灰軸・皿。
D17	ふ22	円形(?)	N-70°-E	95	(76)	57	縄文後期深鉢。	D46	は60	楕円形		115	98	49.5	F4P4へ変更。H23に切られ、H27・H32を切る。テラスあり。
D18	ふ・へ22	不正楕円形	N-21°-W	(110)	98	25.5	縄文後期深鉢、石蔵。	D47	は60	楕円形		<70>	<58>	38.5	F4P5へ変更。H23に切られ、H27・H32を切る。テラスあり。
D19	へ22	楕円形(?)	N-75°-E	100	(52)	18	縄文後期深鉢(網代煎・木葉煎)。	D48	は59	楕円形		<132>	90	62	F4P3へ変更。H23に切られ、H27・H32を切る。テラスあり。弥生後期鉢。
D20	ま23	円形(?)	N	<95>	94	63	P139に切られる。D21を切る。縄文深鉢。	D49	は59	円形(?)		<110>	<47>	<48>	F4P9へ変更。M11に切られ、H27を切る。テラスあり。
D21	ま23	不正多角形	-	150	<90>	45	D20に切られる。縄文後期深鉢(網代煎・木葉煎)、打製石斧。	D50	は60	楕円形(?)		63	<57>	48.5	F4P13に変更。H23・H25に切られ、H27を切る。
D22	ま23	円形(?)	N-75°-E	106	<64>	66	テラスあり。縄文後期深鉢(網代煎)。	D51	は58	楕円形		122	80	29.5	F4P2へ変更。H27を切る。テラスあり。
D23	む・め24	円形(?)	N-25°-E	174	<76>	61	P141・P146に切られる。縄文中期後半深鉢、後期前半深鉢・注口土器、打製石斧。	D52	は61	方形(?)		(106)	(100)	42	F4P7へ変更。H25に切られ、H31を切る。土師器環(墓蓋)。
D24	め26	円形	N-20°-E	127	<80>	74	P147を切る。縄文後期深鉢(網代煎)。	D53	へ51	円形		(122)	(120)	<26>	F4P6へ変更。H23・H25に切られる。土師器環。
D25	め26	楕円形?	N	<100>	<58>	118	H7に切られる。縄文後期深鉢(網代煎)・台石・剥片。	D54	へ49・50	楕円形(?)	-	<268>	<98>	<57>	テラスあり。縄文後期深鉢、弥生後期壺・高坏・甕、土師器環。
D26	め24・25	楕円形?	N-22°-E	124	<42>	44	縄文後期深鉢(網代煎)、磨石、台石。	D55	ふ・へ49	楕円形	E	116	93	38.5	H36を切る。テラスあり。
D27	む28	楕円形	N-25°-W	117	91	38	D28・D29を切る。縄文後期深鉢。	D56	へ49	円形(?)	N-20°-E	<105>	<101>	39	H37に切られる。縄文後期深鉢。
D28	む28	長方形	-	106	<40>	23	D27に切られる。縄文後期深鉢、打製石斧。	D57	み45	円形	N-3°-W	88	82	49	H43を切る。
D29	む28	円形(?)	N-15°-W	107	<85>	39.5	D27・P150に切られる。テラスあり。縄文後期深鉢。	D58	む33	楕円形	N-37°-W	118	<68>	62	縄文後期深鉢、打製石斧。磨製石斧。
								D59	む33	円形	N-21°-E	113	<76>	54	骨。獣類の部位不明の破片。

第80表 土坑出土遺物観察表(1)

(cm・g)

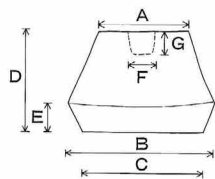
D5		法 量				成形・調整・文様				推定値() 残存値< > 底・					
No.	種別	器種	口径(径)	底径(幅)	器高(厚)	内 面		外 面		備 考	出土位置				
No.	種別	器種	口径(径)	底径(幅)	器高(厚)	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見	備 考	出土位置			
1	刀子	鉄	<13.2>	<1.6>	<0.3>	<15.74>				一部欠損		D5 No.5			
2	鎌	鉄	<8.6>	<3.1>	<0.2>	<12.64>				右側欠損。3と同一個体		D5 No.2			
3	鎌	鉄	<9.7>	<3.2>	<0.3>	<17.76>				左側欠損。2と同一個体		D5 No.3			
4	刀子	鉄	<9.6>	<2.2>	<0.5>	<49.76>				両側欠損。折りたたまれた状態		D5 No.1			
No.	種別	器種	文 様 ・ 調 整			備 考	出土位置	No.	種別	器種	文 様 ・ 調 整			備 考	出土位置
1	縄文土器	深鉢	小突起を持つ。			堀之内2	D2	74	縄文土器	注口土器	弧状沈線。			堀之内	D18
2	縄文土器	土製品	土器片内板。粗製深鉢銅部片。敲打痕。剥離痕。長径6.5 短径6.1 厚さ1.2。			後期前半	D2	75	縄文土器	深鉢	斜行する集合沈線。			堀之内1	D18
3	須恵器	坏	内面口ロナデ、外面口ロナデ。口径(14.2)器高<3.3>			回転実測、外面火だすき有	D6i12	76	縄文土器	注口土器	弧状沈線。磨消縄文RL。			後期前半	D18
4	須恵器	坏	内面口ロナデ、外面口ロナデ。口径(14.4)器高<2.6>			回転実測	D6i12	78	縄文土器	深鉢	斜行する2条の沈線。縄文LR。			後期前半	D20覆土
5	土師器	坏	内面ヘラミガキ→黒色処理、外面口ロナデ。器高<3.2>			破片実測	D6	79	縄文土器	深鉢	2個1組のボタン状突起から2条の横位隆帯。突起上に円形刺突を中心とした重弧状文。その両側に弧状の集合沈線。底部2本越2本潜りの網代底を磨消す。底径(9.0)器高<17.9>			堀之内1	D19No.1・ へ22
6	土師器	鉢?	内面ヘラナデ、外面ヘラズリ。器高<3.0>			回転実測	D6	80	縄文土器	深鉢	外面木葉痕。底径(7.3)器高<1.6>			後期後半	D19No.2
7	須恵器	壺				断面実測	D6	81	縄文土器	深鉢	内面所謂粗製深鉢、外面横位隆帯。外面口縁部下に圧痕持つ。口径(19.0)器高<26.0>			後期前半	D21No.1
8	須恵器	壺				断面実測	D6	82	縄文土器	深鉢	所謂粗製深鉢。			後期中葉	
9	縄文土器	深鉢	沈線による三角形区画内に縄文RL充填。			後期前半	D6	83	縄文土器	深鉢	口縁部内折。口縁部下に横位隆帯。その下なぞる沈線。斜位沈線。			後期前半	D21
11	土師器	坏	内面ナデ、外面ヘラズリ→ヘラミガキ。口径(11.6)器高<4.5>			回転実測	D7	84	縄文土器	深鉢	口縁部内折。斜先状沈線区画内に縄文RL。一部磨消。			称名寺	
12	土師器	坏	内面ヘラミガキ、外面ヘラズリ。口径(13.6)器高<3.8>			回転実測	D7	85	縄文土器	深鉢	口縁部内折。波状口縁か?横引き沈線区画内に磨消縄文RL。			後期中葉	D21
13	土師器	坏	内面ヘラミガキ、外面ヘラミガキ。器高<3.7>			回転実測	D7	86	縄文土器	深鉢	口縁部内折。波状口縁か?横引き沈線区画内に磨消縄文RL。			後期前半	D21
14	土師器	高坏	内面環部ヘラミガキ→黒色処理、脚部ナデ。外面環部ヘラミガキ、脚部ナデ。			回転実測	D7	87	縄文土器	深鉢	所謂粗製深鉢。			後期前半	D21覆土
15	土師器	高坏	内面ナデ、外面ヘラミガキ。底径(9.8)器高2.4			回転実測	D7	88	縄文土器	深鉢	網代底。2本越2本潜り。			後期前半	D21
16	縄文土器	深鉢	口縁部内折。環状突起脇の内外面に円形刺突。突起下端まで縄文RL。			堀之内1	D7	89	縄文土器	深鉢	網代底。2本越2本潜り。			後期前半	D21
21	須恵器	坏	内面口ロナデ、外面口ロナデ底部ヘラズリ。口径(14.6)底径(7.2)器高4.3			回転実測	D8	90	縄文土器	深鉢	垂下する2条の沈線と横位隆帯との交点に貼付文。2条の弧状沈線。間隔の狭い2条の斜行沈線。縄文LR一部磨消し。			堀之内1	D21
22	須恵器	壺	内面口ロナデ、外面口ロナデ 皿状つまみ貼付			回転実測 外面に自然軸付着	D8	91	縄文土器	深鉢	口縁部内折。2個の円形刺突から横引き沈線。			堀之内1	D21
23	縄文土器	深鉢	口縁部内折。口縁部下に刻み隆線。その下に斜行沈線。			堀之内2	D8	92	縄文土器	深鉢	波状口縁。口縁部下に横位隆帯。その下に刻み隆線。網代底。横方不明。			後期前半	D22
24	縄文土器	深鉢	口縁部内折。環状突起脇の内外面に円形刺突。突起下端まで縄文RL。			堀之内1	D8	93	縄文土器	深鉢	網代底。2本越2本潜り。			後期前半	D22
25	縄文土器	深鉢	横位・弧状の集合沈線。			堀之内1	D8	94	縄文土器	深鉢	網代底。横方不明。			後期前半	D22
26	縄文土器	深鉢	縦位の貼付文から横位沈線。			堀之内1	D8	95	縄文土器	深鉢	網代底。2本越2本潜り。			後期前半	D22
27	縄文土器	深鉢	網代底。横方不明。			後期前半	D9	96	縄文土器	深鉢	網代底。横方不明。			後期前半	D22
28	須恵器	壺	内面口ロナデ、外面口ロナデ 天井部ヘラズリ→つまみ貼付。口径(15.7)底径つまみ径3.3器高2.8			完全実測	D10	99	縄文土器	深鉢	所謂粗製土器。			後期前半	D22覆土
29	須恵器	坏	内面口ロナデ、外面口ロナデ 回転ヘラ切り。口径14.0底径8.7器高4.0			完全実測 内外面に火だすき有	D10	100	縄文土器	深鉢	口縁部内折。小突起に沈線。口縁部下弧状沈線区画内に縄文RL。一部磨消。			称名寺	D22覆土
30	須恵器	坏	内面口ロナデ、外面口ロナデ→回転ヘラ切り。底径(7.2)器高<1.3>			回転実測	D10	101	縄文土器	深鉢	網代底。2本越2本潜り。			後期前半	D22覆土
31	須恵器	有台坏	内面口ロナデ、外面口ロナデ切り離し後高台貼付。底径(8.2)器高<2.1>			回転実測	D10	102	縄文土器	深鉢	把手。			後期前半	D23覆土
32	須恵器	壺	内面口ロナデ、外面口ロナデ切り高台貼付			回転実測	D10	103	縄文土器	深鉢	口縁部内折。環状突起脇内外面円形刺突から横引き沈線。			堀之内1	D23覆土
33	須恵器	長頸壺	内面口ロナデ、外面口ロナデ。口径(12.8)器高<4.7>			回転実測 内面に自然軸付着	D10	104	縄文土器	深鉢	口縁部内折。環状突起脇内外面円形刺突から横引き沈線。			堀之内1	D23覆土
34	縄文土器	深鉢	2条の沈線区画内に縄文RL。			堀之内1	D10	105	縄文土器	深鉢	底径(8.8)器高<2.4>			後期前半	D23覆土
35	縄文土器	深鉢	口縁部僅かに内折。口縁に沿って沈線。			堀之内1	D10	106	縄文土器	深鉢	小突起下は隆起し、渦巻状沈線から横引き沈線。突起脇の円形刺突から横引き沈線。			堀之内1	D23覆土
36	縄文土器	深鉢	隆帯上に円形刺突持つ環状貼付文。2条の弧状沈線。			堀之内1	D10	107	縄文土器	浅鉢	横位・斜行・弧状隆帯の縁をなぞる沈線。沈線部分に赤色塗彩。			中期後半	D23覆土
37	縄文土器	深鉢	口縁部内折。内外面に口縁に沿った沈線。			堀之内1	D10	108	縄文土器	深鉢	口縁部に沿った沈線。			堀之内1	D23覆土
38	縄文土器	深鉢	斜行する集合沈線。			堀之内1	D10	109	縄文土器	深鉢	所謂粗製深鉢。口縁部下に圧痕持つ隆帯。			後期前半	D23覆土
39	縄文土器	深鉢	横位・斜位・斜行沈線。			堀之内1	D10	110	縄文土器	深鉢	底径(7.0)器高<1.9>			後期前半	D23覆土
45	縄文土器	深鉢	所謂粗製深鉢。圧痕を持つ横位隆帯。			後期前半	D11	111	縄文土器	注口土器	弧状集合沈線。縄文RL充填。			堀之内1	D23
46	縄文土器	深鉢	口縁部内折。所謂粗製土器。			後期前半	D12覆土	112	縄文土器	注口土器	縄文RL。			後期前半	D23
47	縄文土器	深鉢	弧状刻み隆帯。			後期前半	D12覆土	113	縄文土器	注口土器	歯状工具による垂下する沈線。			称名寺	D23
48	縄文土器	深鉢	沈線区画内に縄文RL。			堀之内2	D13	114	縄文土器	深鉢	網代底。横方不明。			後期前半	D23覆土
49	弥生土器	鉢	内面ヘラミガキ→赤色塗彩、外面ヘラミガキ→赤色塗彩。			完全実測	D13	115	縄文土器	注口土器	弧状沈線。縄文LR一部磨消し。			堀之内1	D23
50	縄文土器	粗製深鉢	底径(11.8)器高<5.9>			回転実測 後期?	D13	116	縄文土器	注口土器	弧状隆帯。弧状沈線。縄文LR一部磨消し。			堀之内2	D23
51	縄文土器	深鉢	口縁部内折。口縁部3ヶ所に小突起。円形刺突を持つ正面の突起には、内外面に縦位沈線と横位沈線。刻み垂下隆帯からV字状の2ヶ所の突起からは1条。胴部は間に刻みを連続する3条の横位沈線6ヶ所に8字状突起を貼付。垂下刻み隆帯と連続する8字状突起を貼付に5条の垂下沈線 他の3ヶ所の突起からは区画内に弧状沈線を配するM字状の沈線区画。			堀之内1	D15 No.1	117	縄文土器	注口土器	網代底を一部磨消し。			後期	D24
52	縄文土器	深鉢	口縁部内折。			堀之内1	D15覆土	124	縄文土器	深鉢	横位沈線間に縄文RL充填。			堀之内2	D24
53	縄文土器	深鉢	沈線を持つ構状把手両端から垂下する2条の刻み隆帯。把手両脇から横位刻み隆帯と沈線。垂下する刻み隆帯を起点とする重弧状沈線。			堀之内1	D15覆土	125	縄文土器	深鉢	波状口縁。口縁部内折。渦巻状沈線から横引き沈線間に連続刺突。			称名寺	D25
54	縄文土器	深鉢	弧状沈線内に縄文RL。			後期前半	D15覆土	127	縄文土器	深鉢	4ヶ所に円形刺突から円文を巡る沈線を持つ円形貼付文。この円刺突は正面と背面が円文の下・左右側面が先に施文される。正面と背面にこの円形貼付文を起点と2条の縦位の沈線で渦巻文・左右側面に縄文RLが充填される。底径6.3 器高<14.8>。			中期後葉	D25
55	縄文土器	深鉢	所謂粗製深鉢。網代底。2本越2本潜り。			後期前半	D15覆土	128	縄文土器	深鉢	微隆帯文。その後縄文RL。			後期後半	D25
57	縄文土器	深鉢	円孔持つ把手?			後期前半	D16	129	縄文土器	深鉢	弧状沈線。縄文LR。			中期後半	D25
58	縄文土器	深鉢	横位隆帯の下円形刺突から横位・斜位隆帯をなぞる沈線。			堀之内1	D16	130	縄文土器	深鉢	斜行・横位隆帯の一部を沈線でなぞる。			堀之内1	D25
61	縄文土器	深鉢	所謂粗製深鉢。圧痕を持つ隆帯。			後期前半	D17	131	縄文土器	深鉢	底部木葉痕。			後期	D25
62	縄文土器	深鉢	波状口縁。所謂粗製深鉢。口縁部下に横位刻み隆帯。			後期前半	D17	134	縄文土器	深鉢	口径(13.0)器高<4.8>			D26め25	
63	縄文土器	深鉢	弧状沈線。縄文。			後期前半	D17	135	縄文土器	深鉢	所謂粗製深鉢。口縁部内折。			後期	D26
64	縄文土器	深鉢	弧状沈線。縄文RL。			後期前半	D17	136	縄文土器	深鉢	網代底。2本越2本潜り。底径(8.2)			後期前半	D26め26
65	縄文土器	深鉢	弧状隆帯。			後期前半	D17	137	弥生土器	壺	口縁部受口状。口縁部横位ヘラ描沈線の上位にヘラ描重山形文。			弥生中期葉	D26
66	縄文土器	鉢	内面口縁に沿って沈線。			堀之内2	D18	138	縄文土器	深鉢	5条の横位沈線L形区切り。縄文RL充填。内面2条の横位沈線。			加曾利B1	D26
67	縄文土器	深鉢	所謂粗製深鉢。口縁部下に圧痕持つ隆帯。			後期前半	D18	139	縄文土器	深鉢	口縁部の連続刻みをまたぐ8字状貼付文。			堀之内2	D26
68	縄文土器	深鉢	無文。			後期前半	D18	140	縄文土器	深鉢	口縁部内折。口縁部下2条の横位刻み隆帯。上の8字状貼付文剥落。			堀之内2	D26
69	縄文土器	深鉢	口縁部下に横位沈線。その下に縄文RL。			堀之内1	D18	141	縄文土器	深鉢	口縁部内折。内面2条の横位沈線。縄文RL一部磨消し。			加曾利B1	D26
70	縄文土器	深鉢	垂下する沈線。円形刺突。			堀之内1	D18	142	縄文土器	深鉢	所謂粗製深鉢。口縁部内折。			後期	D26
71	縄文土器	深鉢	沈線区画内に縄文RL充填。			中期後半	D18	143	縄文土器	深鉢	渦巻状沈線を持つ突起。			堀之内1	D26
72	縄文土器	深鉢	沈線区画内に縄文RL充填。			後期前半	D18	144	縄文土器	注口土器	横位微隆帯区画内に極小の連続円形刺突。			堀之内2	D26
73	縄文土器	深鉢	横位・弧状集合沈線。			堀之内1	D18	145	縄文土器	深鉢	環状貼付文を巡る縁を沈線でなぞる隆帯。			堀之内1	D26
							D18	146	縄文土器	深鉢	幾何学文内に縄文RL。			堀之内2	D26
							D18	147	縄文土器	深鉢	環状把手。2個の円孔間に円形刺突持つ環状貼付文。口唇部に沈線と円形刺突。			堀之内1	D26
							D18	148	縄文土器	深鉢	所謂粗製深鉢。圧痕を持つ横位隆帯。			後期前半	D26
							D18	149	縄文土器	深鉢	口縁部内折。垂下する。刻み隆帯。			堀之内1	D26
							D18	150	縄文土器	深鉢	波状口縁。口縁下2条の横位刻み隆帯を跨ぐ8字状文。横位沈線区画内に縄文RL充填。			堀之内2	D26
							D18	151	縄文土器	深鉢	網代底。横方不明。			後期前半	D26
							D18	155	縄文土器	深鉢	横位沈線内に縄文RL充填。			称名寺?	D27

土坑出土遺物観察表(2)

(cm・g)

No.	種別	器種	文様・調整	備考	出土位置	No.	種別	器種	文様・調整	備考	出土位置		
156	縄文土器	深鉢	口唇部面取り。	後期	D29	202	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ、外面ヘラミガキ。		D54覆土		
157	縄文土器	深鉢	所謂粗製深鉢。口縁部下横位隆帯。	中期後半・後期初頭	D29	203	弥生土器	壺	底径(3.6)器高<3.2>		D54覆土		
158	縄文土器	深鉢	横位隆帯。	中期後半・後期初頭	D29	204	弥生土器	壺	内面ハケメ。外面 櫛描T字文→赤色塗彩。	後期	D54覆土		
159	縄文土器	深鉢	弧状沈線区画内に縄文RL。	称名寺?	D29	205	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面 櫛描波状文→櫛描麻状文。	後期	D54覆土		
160	縄文土器	深鉢	弧状隆帯。	中期後半・後期初頭	D29	206	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。	後期	D54覆土		
161	縄文土器	深鉢	斜行隆帯。	中期後半・後期初頭	D29	207	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面 櫛描波状文→櫛描麻状文。	後期	D54覆土		
162	縄文土器	注口土器?	弧状沈線。縄文。	後期前半	D29	208	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面 櫛描波状文→櫛描麻状文。	後期	D54覆土		
163	縄文土器	深鉢	横位隆帯。	後期前半	D29	209	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。	後期	D54覆土		
164	縄文土器	深鉢	垂下する沈線。綾杉状沈線。	中期後半・後期初頭	D29	210	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面 櫛描波状文→櫛描麻状文。	後期	D54覆土		
166	縄文土器	深鉢	斜行隆帯。	堀之内1	D30	211	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面 櫛描波状文→櫛描麻状文。	後期	D54覆土		
167	縄文土器	深鉢	口縁部内折。口縁に沿って沈線。	堀之内1	D31	212	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。	後期	D54覆土		
168	縄文土器	深鉢	波状口縁?口縁部下口縁なりの沈線。	後期初頭	D31	213	弥生土器	高坏	内面坏部ミガキ→赤色塗彩 脚部ナデ、外部ミガキ→赤色塗彩。	完全実測	D54覆土		
169	縄文土器	深鉢	所謂粗製深鉢。口縁部下に横位刻み隆帯。	後期初頭	D31	214	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面 櫛描斜文。	後期	D54覆土		
170	縄文土器	深鉢	地文縄文LR。	中期後半～後期前半	D31	215	縄文土器	深鉢	2条1組の垂下沈線。斜行沈線。	堀之内	D56		
171	縄文土器	深鉢		後期	D31	216	縄文土器	深鉢	頂部に円孔有す櫛状把手。脇に弧状沈線区画内に磨消縄文LR。		称名寺		
172	縄文土器	深鉢	垂下する沈線。	中期後半	D31	217	縄文土器	深鉢	所謂粗製深鉢。口縁部下に圧痕を持つ横位隆帯。	称名寺	D58		
173	土師器	坏	内面ヘラミガキ→黒色処理、外面ロクロナデ→回転糸切り。底径(5.0)器高<2.5>	回転実測	D35	218	縄文土器	深鉢	環状把手。円形貼付文から円孔に沿って沈線。脇に凹形刺突文。把手に垂下する沈線。	称名寺	D58		
174	縄文土器	深鉢	波状口縁に沿う隆帯下に環状隆帯と縄文RL。	中期後半	D31No.1	219	縄文土器	深鉢	波状口縁。口縁部内屈。環状把手の脇外面に8字貼付文。内面にS字貼付文。外面口縁に沿った2条の沈線区画内に磨消縄文LR。	称名寺	D58		
175	縄文土器	深鉢	波状口縁。口縁部内折。口縁に沿って隆帯下をなぞる沈線。その下弧状沈線。	称名寺	D35	220	縄文土器	深鉢	口縁部内屈するとみられる。2条の平行沈線区画内に磨消縄文LR。	称名寺	D58		
176	縄文土器	深鉢	垂下隆帯。その後縄文LR。	中期後半	D35	221	縄文土器	深鉢	波状口縁。口縁に沿って沈線。	称名寺	D58		
178	土師器	坏	内面ヘラミガキ→黒色処理、外面ロクロナデ。口径(13.8)器高<2.9>	回転実測	D37	222	縄文土器	深鉢	波状口縁。口縁部隆帯の凹形刺突から口縁に沿って沈線。	称名寺?	D58		
179	土師器	皿	内面ヘラミガキ、外部ヘラミガキ 底部回転糸切り後高台貼付。口径(12.2)底径5.9器高3.5	完全実測	D37	223	縄文土器	深鉢	内面口縁に沿って沈線。	称名寺?	D58		
180	土師器	碗	内面ヘラミガキ→黒色処理、外面ロクロナデ→回転糸切り→高台貼付→黒色処理。底径(6.0)器高<2.0>	回転実測	D37	224	縄文土器	鉢	縄文LR。	称名寺	D58		
195	弥生土器	鉢	内面ナデ、外面ミガキ。口径(19.6)器高<2.7>	回転実測	D54覆土	225	縄文土器	深鉢	垂下する縦位・斜行沈線。横位沈線。	称名寺	D58		
196	弥生土器	壺	内面ナデ、外面ヘラミガキ。底径(12.0)器高<2.8>		D54覆土	226	縄文土器	深鉢	剣先状沈線。縄文LR。	称名寺	D58		
197	縄文土器	深鉢	縄文LR。その後弧状沈線。	中期後半～後期初頭	D54覆土	227	縄文土器	深鉢	垂下隆帯。縄文LR。	称名寺	D58		
198	縄文土器	深鉢	幾何学文。磨消縄文LR。	後期前半	D54覆土	228	縄文土器	深鉢	弧状隆帯。	称名寺	D58		
199	縄文土器	深鉢	網状底。幅不明。底径(8.3)。	後期前半	D54覆土	229	縄文土器	深鉢	縄文LRの後弧状・横位沈線。	称名寺	D58		
200	弥生土器	甕	縄文LR。	後期 赤井戸ヶ谷系	D54覆土	230	縄文土器	深鉢	横位沈線。	称名寺	D58		
201	縄文土器	深鉢	口縁部内折。口唇部面取り。	後期前半	D54覆土	231	縄文土器	深鉢	網状底。2本越2本潜り。	後期前半	D58		
No.	器種	素材	最大径	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置					
10	刀子	鉄	<15.2>	1.1	<0.5>	<16.41>	尚端欠損	D6 No.2					
17	磨・敲石		13.3	6.0	4.5	451.31	正裏にすり面。ほぼ全周に敲打痕	D7					
18	敲石		15.6	6.9	3.8	508.44	上端部に敲打痕	D7					
19	磨・敲石		14.3	6.2	5.3	706.12	両面にすり面。敲打あり	D7					
20	磨石		15.0	7.3	3.3	579.29	正面にすり面	D7					
40	磨・敲石		<11.4>	<10.0>	<6.2>	<1047.85>	上部欠損。正面にすり面。敲打あり	D10 No.7					
41	凹石		26.0	<18.6>	高さ<15.9>	<6680>	右側欠損。凹径(15.5) 凹深 <9.2>	D10 No.6					
42	磨・敲石		<12.6>	<7.4>	<3.7>	<550.02>	右側欠損。正面にすり面。周囲に敲打痕	D10 5層					
43	敲石		16.3	6.8	6.6	903.78	上端部に敲打痕	D10 No.4					
44	凹石		10.4	13.9	10.0	940.56	被熱あり?(正面向黒化) 正面に2孔(大)凹径 3.2×2.6 凹深 1.0 (小)凹径 2.4×2.3 凹深 0.8	D10 No.5					
56	台石		30.5	19.7	2.5	2610.00	被熱あり?(正面向黒化) 正面向使用面	D15 No.2					
59	磨製石斧		<10.0>	<4.8>	<2.3>	<177.86>	下部欠損。全体に剥落か?敲石として使用?	D16					
60	打製石斧		13.0	6.3	1.4	115.83	刃部に使用痕	D16					
77	石鏃		<2.0>	<2.2>	<0.3>	<0.92>	上部・左脚部欠損。正裏に装着痕	D18					
97	打製石斧		<7.7>	<6.6>	<2.2>	<162.93>	下部欠損。富柄痕から基部と思われる	D21 No.2					
98	打製石斧		<10.8>	<7.3>	<2.0>	<190.54>	上部欠損	D21 No.3					
118	打製石斧?		<5.8>	<7.1>	<1.5>	<67.63>	上部欠損。未製型または欠損品	D23					
119	打製石斧		<6.0>	<4.8>	<0.8>	<40.00>	上下部欠損	D23					
120	打製石斧		<9.4>	<6.0>	<1.2>	<78.26>	上部欠損。刃部に使用痕	D23					
121	打製石斧		<5.9>	<4.5>	<1.7>	<68.00>	下部欠損。左側に着柄痕	D23					
122	削片		3.2	4.5	0.8	12.75		D23					
132	削片		4.3	5.4	1.1	29.25		D25					
133	台石		18.8	18.0	7.5	4510.00	正裏とも使用痕か	D25 No.2					
152	磨石		16.9	10.2	4.8	1175.80	正面にすり面	D26					
153	台石		51.7	53.0	7.5	21760.0	正裏に使用面	D26 No.1					
154	台石		35.7	23.2	7.6	11560.0	正面向使用面	D26 No.2					
165	打製石斧		10.9	6.6	1.5	111.85	刃部に使用痕	D29					
177	磨石		<8.2>	<8.9>	<3.2>	<401.04>	正面にすり面	D36 No.1					
232	打製石斧?		<5.8>	<4.4>	<1.4>	<26.41>	右側を残し欠損。下部に磨滅痕。打斧片と思われる	D58					
233	打製石斧片		<1.6>	<3.6>	<0.8>	<7.03>	右側以外欠損。磨滅の様子から打斧の刃部付近か	D58					
234	磨製石斧		3.4	1.9	0.7	8.23		D58					
235	削片		5.5	7.6	1.2	44.95	裏ボジ1面の削片	D58					
No.	器種	器形	A	B	C	D	E	F	G	重量	石材	備考	出土位置
181	石製品	五輪塔火輪	10.0	23.6	20.0	16.5	5.3	5.5	4.5	5920			D38 No.8
182	石製品	五輪塔火輪	10.7	22.1	17.5	14.5	5.2	6.4	4.0	<4340>		一部欠損	D38 No.1
183	石製品	五輪塔火輪	9.3	20.2	17.3	14.0	5.3	5.3	4.0	6670			D38 No.11
184	石製品	五輪塔火輪	10.5	26.5	(26.7)	13.1	7.5	-	-	5670	軽石	凹なし	D38 No.13
185	石製品	五輪塔火輪	17.5	34.8	33.5	20.8	7.2	9.5	7.7	9010	軽石		D38 No.2
186	石製品	五輪塔火輪	16.5	<31.6>(34.0)	31.5	21.2	<8.0>(8.5)	-	-	8400	軽石	凹なし	D38 No.3
187	石製品	五輪塔火輪	12.0	28.9	27.6	21.0	8.2	7.8	4.4	<8560>	軽石	一部欠損	D38 No.7
188	石製品	五輪塔火輪	<13.0>	<23.5>	<18.9>	<22.5>	<9.5>	-	-	<8620>		凹なし 左側欠損	D38 No.6
189	石製品	五輪塔火輪	12.3	24.9	23.2	18.2	10.5	6.0	4.8	7860			D38 No.9
190	石製品	五輪塔火輪	11.6	27.5	28.6	19.2	8.5	7.8	5.5	9420			D38 No.4
191	石製品	五輪塔火輪	15.0	28.5	26.0	18.3	7.2	7.9	3.9	11390			D38 No.14
192	石製品	五輪塔火輪	13.0	24.3	24.8	15.2	8.0	8.0	4.4	7240			D38 No.10
193	石製品	五輪塔火輪	13.8	27.1	22.0	17.4	4.2	5.7	4.8	6830			D38 No.5
194	石製品	五輪塔火輪	15.0	27.6	25.2	17.0	8.2	7.6	3.7	8420			D38 No.12

五輪塔(火輪)計測凡例



- (A 上面幅
- (B 最大幅
- (C 底面幅
- (D 高さ
- (E 最大部までの高さ
- (F 孔幅
- (G 孔深さ

第5節 溝状遺構

M1号溝状遺構

く・け-6Grにあり、H6・M2を切る。南北方向に延び北側と南側が調査区域外となる。断面形状は、浅い皿状である。規模は検出部分で全長3.56m、幅0.76~1.04m、深さ16~26cmを測る。南北底面の比高差はない。西側には粗い砂がみられた。

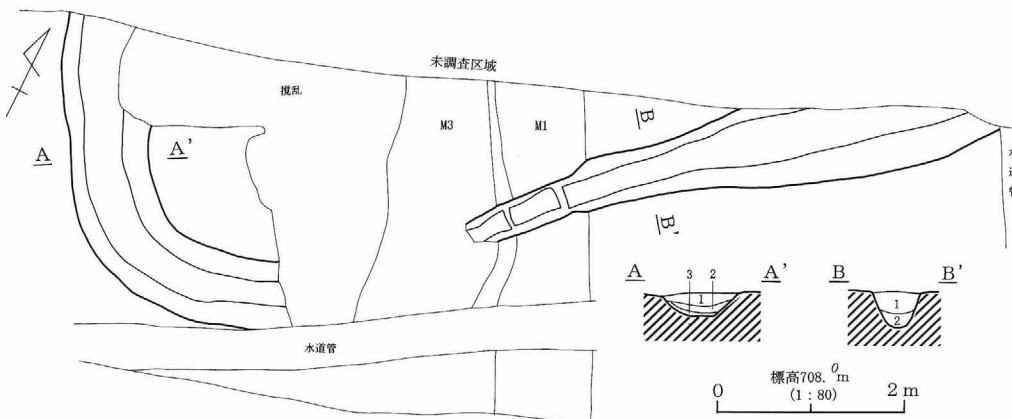
遺物は図示できるものではなく、縄文後期土器・土師器坏・須恵器甕の小片が出土した。本址の時期不明である。

M2号溝状遺構

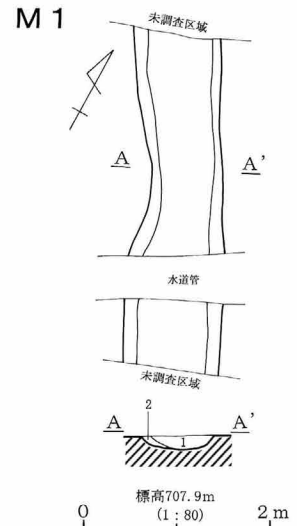
く~こ-6Grにあり、M1・M3に切られ、H6・D7を切る。断面U字形と鍋底状で東西方向から北側の調査区域外へL字状に屈曲する。検出長12.4m、幅0.56~0.8m、深さ22~62cmを測る。西が低く東との比高差30cmである。

遺物は、縄文後期土器・土師器坏・須恵器坏・甕の小片が出土した。本址の時期不明である。

M2



第143図 M2号溝状遺構

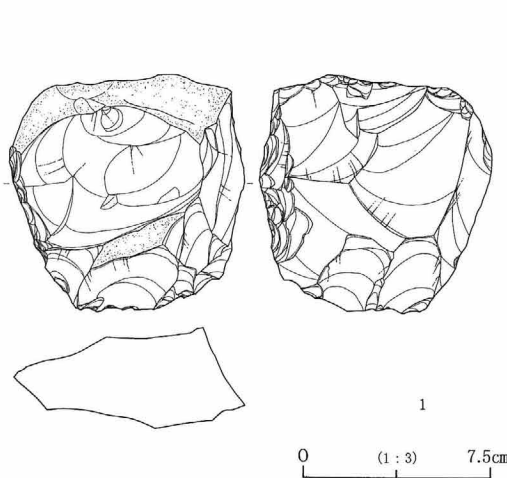
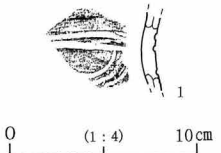


- 1層 黒褐色土(10YR3/1)
- 2層 暗褐色土(10YR3/3)
粒子の粗い砂。

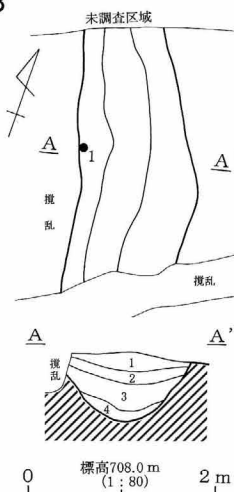
第142図 M1号溝状遺構

- 1層 黒褐色土(10YR3/1)
- 2層 暗褐色土(10YR3/3)
粒子の粗い砂。

- 1層 黒褐色土(10YR3/1)
ローム粒子微量。
- 2層 暗褐色土(10YR3/3)
ロームブロック含む。
- 3層 褐灰色土(10YR4/1)
ローム粒子多量。



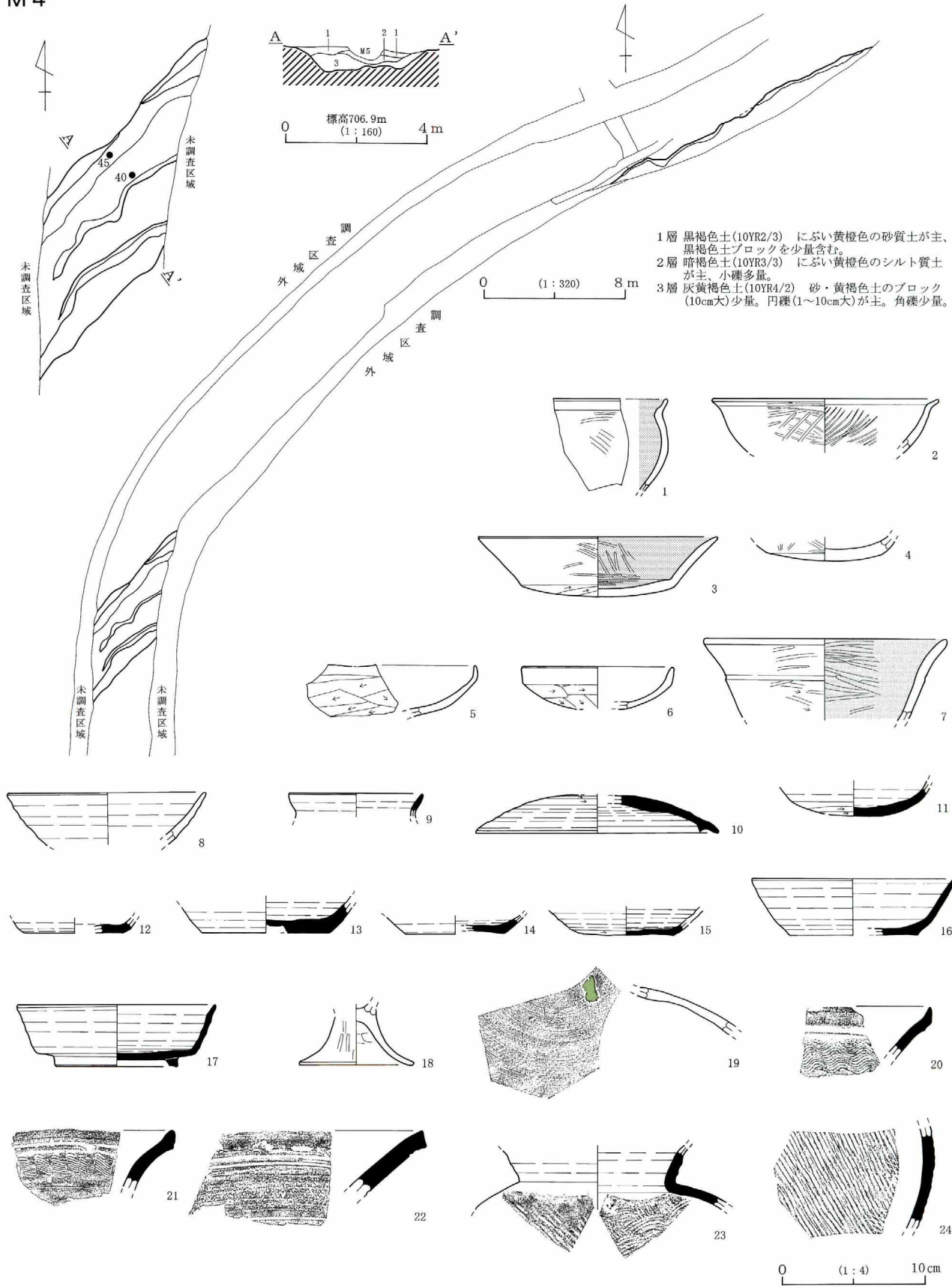
M3



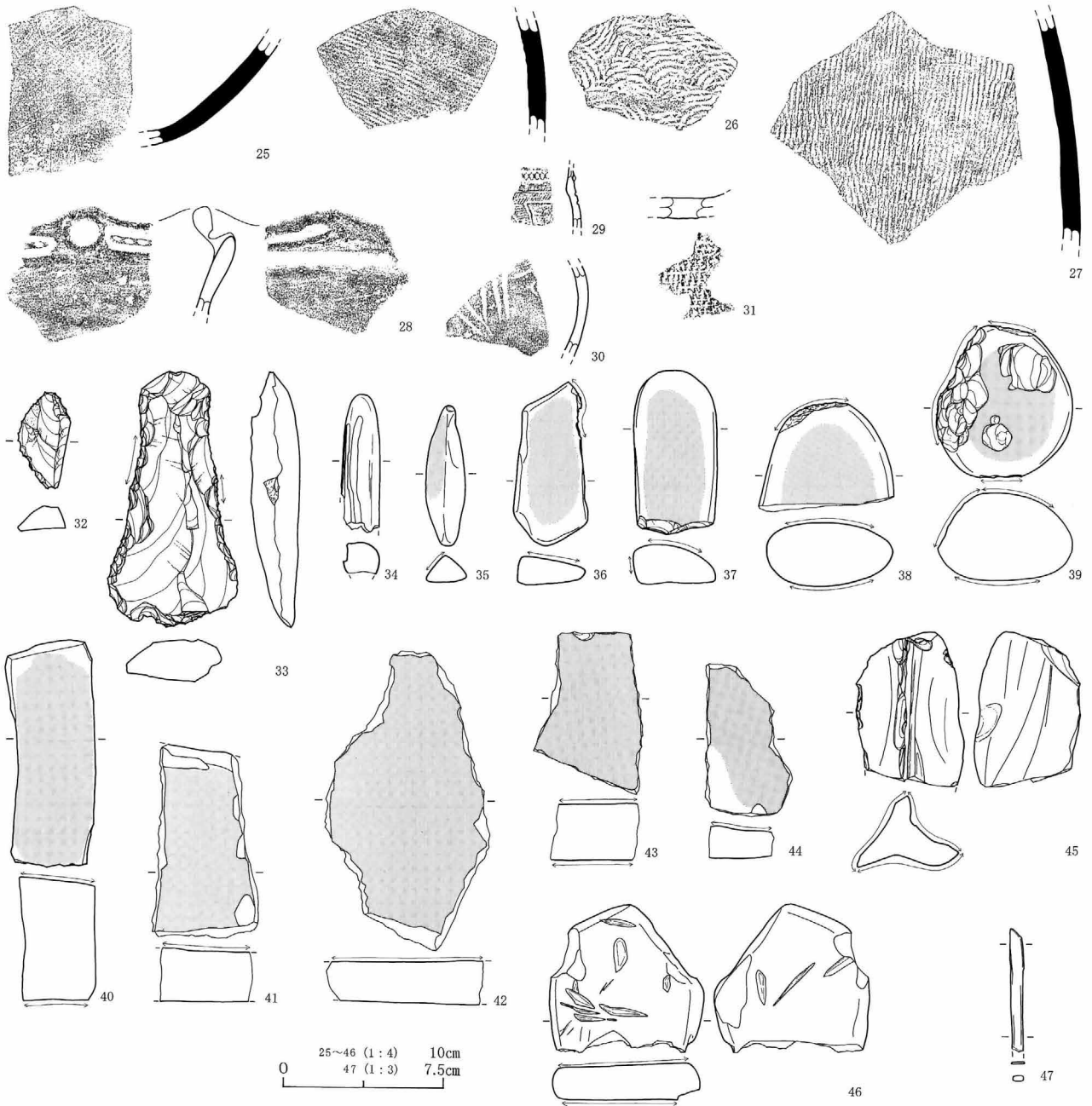
- 1層 黒褐色土(10YR3/2)
褐色土のブロック少量。
- 2層 黒褐色土(10YR3/1)
- 3層 黒褐色土(10YR2/3)
- 4層 暗褐色土(10YR3/3)
褐色土含む。

第144図 M3号溝状遺構

M4



第145図 M4号溝状遺構(1)



第146図 M4号溝状遺構(2)

M3号溝状遺構

け-6Grにあり、H6・M2・P20を切る。南北方向に延び北側と南側が調査区域外となる。断面U字形、覆土はレンズ状堆積を見せ、流水の跡はない。規模は検出部分で全長2.8m、幅0.86~1.24m、深さ56~76cmを測る。南北底面の比高差はない。

遺物は第144図1の石核、縄文後期土器・土師器・須恵器の小片であり、本址の時期は不明である。

M4号溝状遺構

お~き-5、き~け-6、そ~た-12~14GrにありP33を切り、M1・M5に切られる。検出長23.52m、幅3.7m、深さ54~73cmを測る。断面形は溝底凸凹する逆台形を呈する。覆土第1層は砂質土が主で、第2層は小礫多量に含むにぶい黄橙色のシルト質土が主である。最下層の3層は角礫と砂・黄褐色土のブロックが少量、1~19cm大の円礫が主である。北東から南西方向へ流下する河川跡である。

第81表 M2・3・4号溝状遺構出土遺物観察表

(cm・g)

No.	種別	器種	文 様 ・ 調 整					備 考	出土位置	
1	縄文土器	深鉢	2条の横位沈線。弧状の集合沈線。					堀之内1	M2<6	
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見	出土位置		
1	石核		9.5	9.2	4.0	419.95	自然面残る	M3No.1		
M 4		法 量			成形 ・ 調整 ・ 文様			推定値()残存値< >丸底・		
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面		外 面	備 考	出土位置
1	土師器	鉢	-	-	-	ヘラミガキ→黒色処理		ヘラミガキ	破片実測	M4
2	土師器	坏	(15.9)	-	<3.8>	ナデ→暗文		ヘラミガキ	回転実測	M4き5
3	土師器	坏	(16.8)	-	4.2	ヘラミガキ→黒色処理		ヘラミガキ。底部ヘラケズリ	回転実測	M4
4	土師器	坏	-	-	<1.7>	ナデ		ヘラミガキ	完全実測	M4き5
5	土師器	坏	-	-	-	ヨコナデ		ヨコナデ→ヘラケズリ	破片実測	M4か53層
6	土師器	坏	(10.6)	(10.4)	3.0	ヨコナデ		ヨコナデ→底部ヘラケズリ	回転実測	M4
7	土師器	鉢	(17.0)	-	<5.8>	ヘラミガキ→黒色処理		ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	M4き5
8	土師器	坏	(14.0)	-	<3.7>	ロクロナデ		ロクロナデ	回転実測	M4
9	須恵器	壺	(9.4)	-	<1.6>	ロクロナデ		ロクロナデ	回転実測	M4
10	須恵器	蓋	(17.2)	-	<2.8>	ロクロナデ		ロクロナデ→天井部回転ヘラケズリ	回転実測	M4き5
11	須恵器	坏	-	-	<2.5>	ロクロナデ		ロクロナデ→底部手持ちヘラケズリ	完全実測	M4き5
12	須恵器	坏	-	(7.0)	<1.1>	ロクロナデ		ロクロナデ→底部手持ちヘラケズリ	回転実測	M4
13	須恵器	坏	-	(9.0)	<2.6>	ロクロナデ		ロクロナデ→底部切り離し後手持ちヘラケズリ	回転実測	M4
14	須恵器	坏	-	(7.0)	<1.3>	ロクロナデ		ロクロナデ→底部手持ちヘラケズリ	回転実測	M4
15	須恵器	坏	-	6.6	<2.0>	ロクロナデ		ロクロナデ→底部回転糸切り→底部外周回転ヘラケズリ	完全実測	M4き53層
16	須恵器	坏	(14.2)	(9.0)	4.0	ロクロナデ		ロクロナデ。底部回転糸切り	回転実測	M4き53層
17	須恵器	有台坏	14.0	8.5	4.4	ロクロナデ		ロクロナデ→底部回転糸切り後ヘラナデ→高台貼付	完全実測	M4き53層
18	弥生土器	高坏	-	8.1	<4.3>	坏部摩耗。脚部ヘラナデ・ヨコナデ		ヘラミガキ	完全実測	M4
23	須恵器	甕	-	-	<4.6>	ロクロナデ。当て具痕。		ロクロナデ→平行タタキ目	回転実測	M4そ13
No.	種別	器種	文 様 ・ 調 整					備 考	出土位置	
19	灰釉陶器	壺						断面実測	M4	
20	須恵器	甕						断面実測	M4	
21	須恵器	甕						断面実測	M4か53層	
22	須恵器	甕						断面実測	M4き5	
24	須恵器	甕						断面実測	M4き53層	
25	須恵器	甕						断面実測	M4	
26	須恵器	甕						断面実測	M4	
27	須恵器	甕						断面実測	M4<6 No.7	
28	縄文土器	深鉢	口縁部内折。小突起部の盲孔から口縁に沿った沈線内に刺突を充填。					堀之内	M4	
29	縄文土器	深鉢	横位刻み降帯の下幾何学文、縄文LR。					堀之内2	M4	
30	縄文土器	深鉢	垂下・斜位の集合沈線。					堀之内	M4	
31	縄文土器	深鉢	外面底部網代痕。2本越2本潜り。					後期	M4	
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見	出土位置		
32	二次加工のある剥片	黒曜石	3.0	1.6	0.7	3.40	左側に二次加工痕	M4		
33	打製石斧		11.8	6.0	2.2	143.70	両端に着柄痕	M4		
34	石剣?		<6.4>	<1.8>	<1.4>	<27.28>	下部～裏面欠損	M4そ・た12・13		
35	磨石		8.8	2.5	1.6	35.95	左側にすり面	M4		
36	磨・敲石		10.1	4.7	1.8	126.28	右側に敲打痕。正面にすり面	M4		
37	磨・敲石		10.2	5.2	2.5	178.81	被熱あり?(黒化)正面と左側にすり面。下端部に敲打痕	M4		
38	磨・敲石		<6.8>	<8.3>	<4.0>	<305.92>	被熱あり?(赤化と黒化)下部欠損、正裏にすり面。上部部に敲打痕	M4か5 3層		
39	磨・敲石		9.4	8.3	5.5	633.21	被熱あり?(一部黒化)左側を中心に敲打痕。正裏にすり面	M4		
40	台石		14.1	5.6	7.8	1122.27	正裏とも使用面。周囲の欠損状況不明	M4そ・た12・13 No.5		
41	台石片		<12.0>	<6.5>	<3.3>	<461.73>	上側以外周囲欠損。正面が使用面	M4き5 3層		
42	台石片		18.6	10.4	2.8	801.61	全周欠損。正面が使用面	M4		
43	台石片		<10.0>	<6.8>	<3.7>	<412.70>	正裏とも使用面。全周欠損	M4		
44	台石片		<9.5>	<5.5>	<2.1>	<162.00>	全周欠損。正面が使用面	M4		
45	砥石		<9.6>	<6.6>	<4.5>	<203.36>	下部欠損。砥石数3	M4No.6		
46	砥石		<9.2>	<9.7>	<2.3>	<267.14>	下部欠損。砥石数2。正裏に条痕	M4か5 2層		
47	鐵	鉄	<5.7>	<0.6>	<0.3>	<3.48>	下部欠損。片刃。鑿筋か	M4そ・た12・13		

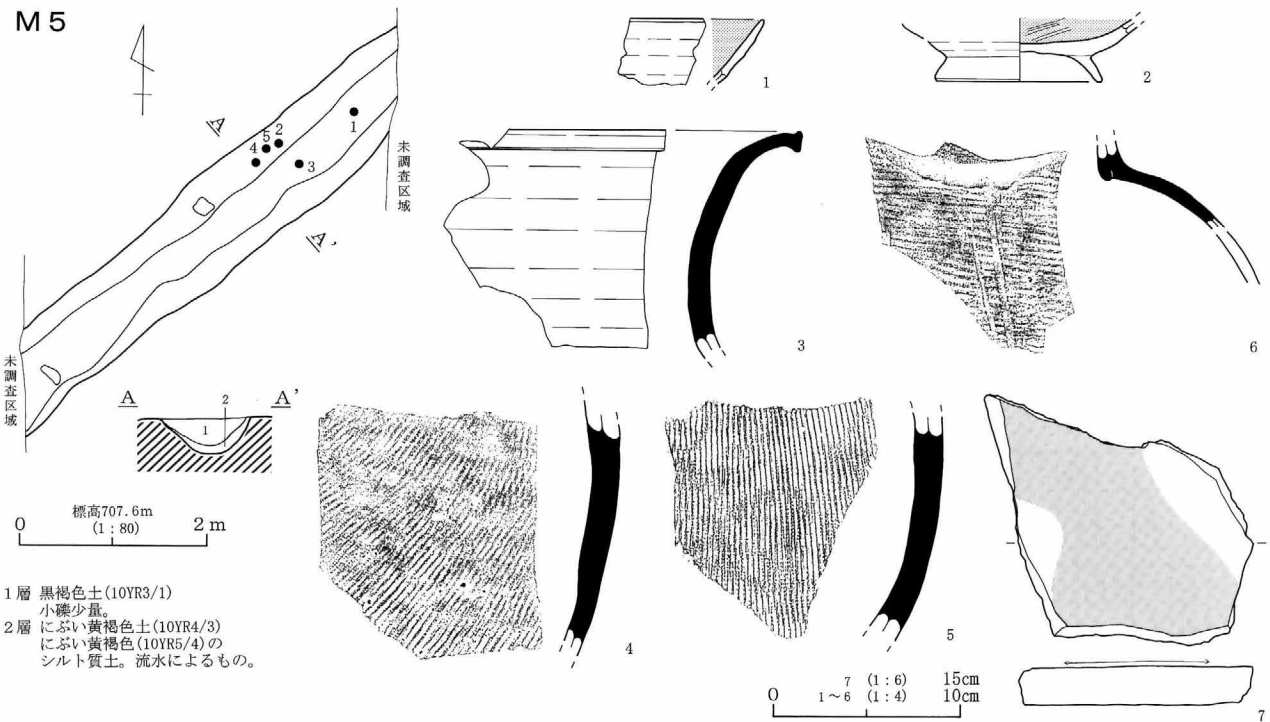
西近津遺跡VIでM4号溝状遺構として検出された河川跡と同一のものである。M4～M7は並行する。遺物は縄文時代後期土器・弥生時代後期・土師器・須恵器、二次加工のある剥片32、打製石斧33、石剣?34、磨石35、磨り面持つ敲石36～39、台石40～44、砥石45・46、鉄鏃47がある。

覆土3層からウシの右中手骨破片、ウマの左上顎3/4前臼歯破片、ニホンジカの角の可能性がある破片、ニホンジカの中手骨/中足骨の破片が出土した。

28～30は、縄文時代後期堀之内式の深鉢、31の底部網代は、2本越え2本潜りの編み方である。土師器には、1・2の内斜口縁坏、3の丸底から口縁部長く外反し内面黒色処理される坏、5・6の半球状の坏、8のロクロ成形の坏がある。須恵器には、底部ヘラ調整がみられる坏11～15・有台坏17、天井部ヘラケズリされ返りを有す蓋10、広口で頸部が括れ口縁部が長い甕20～23がある。19は灰釉陶器壺である。これらの土器には、磨耗がみえる。縄文時代後期、弥生時代後期、古墳時代、平安時代の遺物が出土した。本址の時期は、8世紀代であろうか。

M5号溝状遺構

そ-12・13、た-13Grから検出され、M4を切り、M4の中にある。M4～M7は並走する。北東から南西方向に延び両側が調査区域外となる。断面逆梯形形、覆土は流水によるシルト質土が堆積する。規模は検出部分で全長5.36m、幅0.8～1m、深さ12～35cmを測る。底面の比高差はなくほぼ平坦である。遺物は、1・2の土師器坏、3～5の須恵器がある。本址の時期は、平安時代であろうか。



第147図 M5号溝状遺構

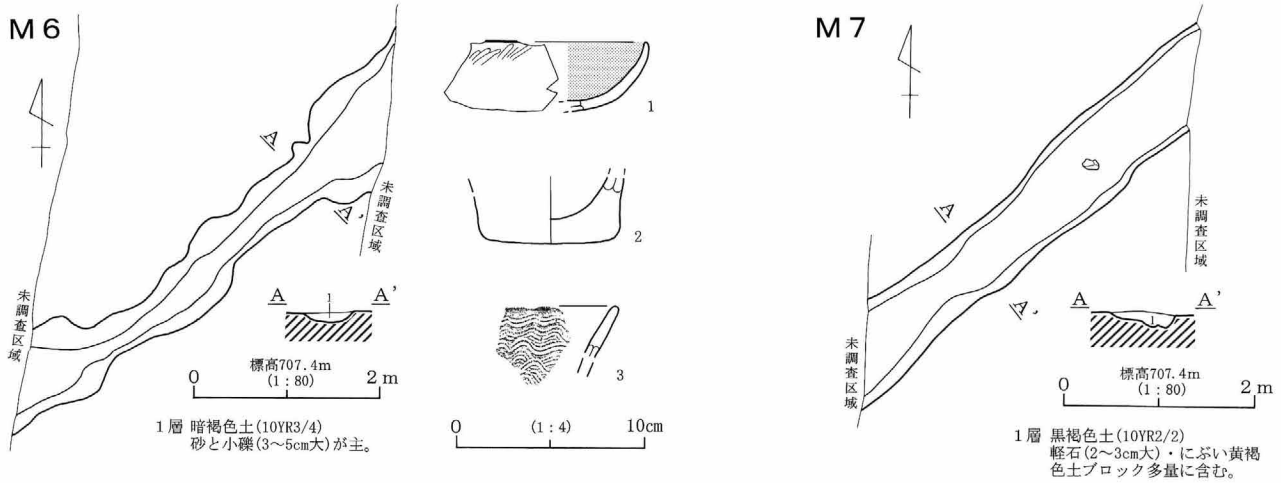
第82表 M5号溝状遺構出土遺物観察表

(cm・g)

M5		法量			成形・調整・文様		推定値()残存値< >丸底・		
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	備考	出土位置
1	土師器	碗	-	8.6	<3.4>	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り→高台貼付	完全実測	M4 No.4
2	土師器	坏	-	-	-	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ	破片実測	M4 No.4
3	須恵器	甕	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	破片実測	No.1
No.	種別	器種	文様・調整				備考	出土位置	
4	須恵器	甕						断面実測	3層
5	須恵器	甕						断面実測	No.3
6	須恵器	横瓶						断面実測	No.2
No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置	
7	台石		20.1	21.6	3.3	2140.00	正面が使用面		

M6号溝状遺構

そ-12・13、た-13Grにあり、M4～M7は並走する。北東から南西方向に伸び両側が調査区域外となる。断面鍋底状、覆土は、流水による砂と3～5cm大の小礫が堆積する。規模は検出部分で全長5m、幅0.4～1.14m、深さ13～20cmを測る。北東から南西方向に緩く傾斜、比高差は10cm程度である。遺物は、2の縄文後期深鉢、3の弥生後期甕、土師器坏がある。本址の時期は、不明である。



第148図 M6号・M7号溝状遺構

第83表 M6号溝状遺構出土遺物観察表

(cm・g)

M6			法 量			成形・調整・文様		推定値()	残存値< >	丸底・
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置	
1	土師器	坏	-	-	-	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ	破片実測		
2	縄文土器	深鉢	-	6.8	<3.4>			完全実測		
3	弥生土器	甕	-	-	-	ヘラミガキ	櫛描波状文	断面実測		

M7号溝状遺構

そ・た-14Grにあり、D11を切る。M4～M7は並走する。北東から南西方向に伸び両側が調査区域外となる。断面凹凸ある鍋底状。規模は検出部分で全長4.6m、幅0.66～0.88m、深さ6～11cmを測る。北東から南西方向に緩く傾斜、比高差は12cm程度である。遺物は縄文土器小片がある。本址の時期は、不明である。

M8号溝状遺構

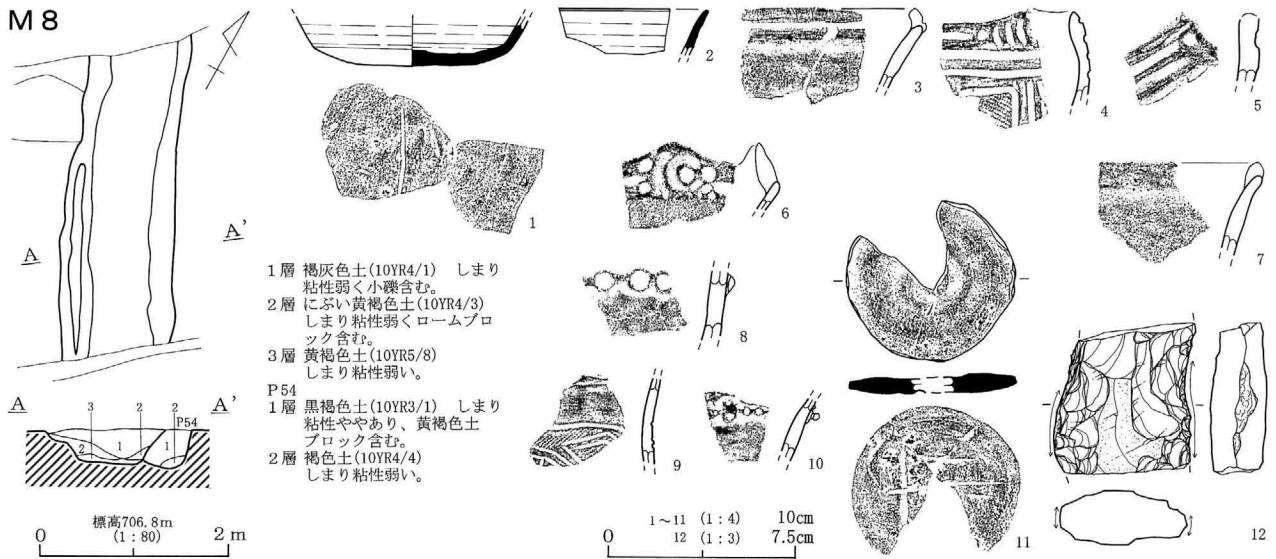
ち-18Grにあり、P54・P188を切る。南北方向に伸び北側と南側が調査区域外となる。断面テラス持つ逆梯子形、規模は検出部分で全長3.32m、幅1～1.22m、深さ25～35cmを測る。北から南方向に緩く傾斜、比高差は10cm程度である。

第84表 M8号溝状遺構出土遺物観察表

(cm・g)

M8			法 量			成形・調整・文様		推定値()	残存値< >	丸底・
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置	
1	須恵器	坏	-	(10.4)	<2.7>	口クロナデ	口クロナデ→底部切り離し後ナデ。ヘラ記号有	回転実測		
2	須恵器	坏	-	-	-	口クロナデ	口クロナデ	破片実測		
No.	種別	器種	文 様 ・ 調 整				備 考	出土位置		
3	縄文土器	深鉢	口縁部内折。口縁に沿って1条の沈線。						堀之内1	
4	縄文土器	深鉢	円孔持つ突起。脇に弧状沈線。さらに円形刺突文から口縁に沿って1条の沈線。2条の横位沈線の下2条の垂下する沈線。沈線区内に縄文RL充填。						堀之内1	
5	縄文土器	深鉢	波状口縁。円形刺突から口縁に沿って2条の沈線。						堀之内	
6	縄文土器	深鉢	突起部の円形刺突を囲むC字弧状沈線。脇の2個の円形刺突から横引き沈線と横位透し孔。						堀之内1	
7	縄文土器	深鉢	粗製深鉢。端部が肥圧する。						後期前半	
8	縄文土器	深鉢	粗製深鉢。圧痕持つ横位隆帯。						後期前半	
9	縄文土器	深鉢	幾何学文。区内に磨消縄文LR。						堀之内2	
10	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯に8字貼付文。						堀之内2	
11	須恵器	土器片円板	円形。須恵器坏底部片。底部ヘラナデ。敲打痕。ヘラ記号あり。径8.9 厚さ1.0							
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見		出土位置	
12	打製石斧		<6.0>	<5.5>	<2.2>	<11.13>	上下欠損			

遺物は、3～10の縄文後期堀之内1式・堀之内2式・後期前半のの深鉢、底部ヘラ調整される須恵器環1・11、打製石斧12がある。11は底部ヘラ調整・ヘラ記号もつ須恵器環底部加工した、土器片円板である。須恵器環1・2・11から、本址は8世紀代であろうか。

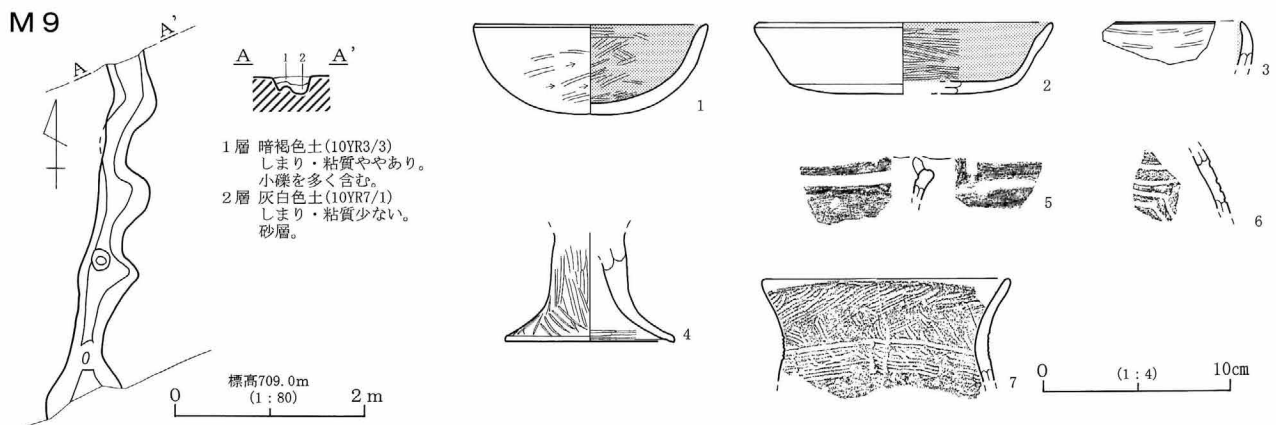


第149図 M8号溝状遺構

M9号溝状遺構

て-19Grにあり、南北方向に延び北側と南側が調査区域外となる。断面凹凸あるU字形、規模は検出部分で全長3.8m、幅0.28～0.64m、深さ7～41cmを測る。北から南方向に緩く傾斜、比高差は10cm程度である。覆土2層は、砂層である。

遺物は、5・6の縄文時代後期土器、7の弥生時代後期甕、1～3の土師器環・高坏がある。



第150図 M9号溝状遺構

第85表 M9・10号溝状遺構出土遺物観察表

(cm・g)

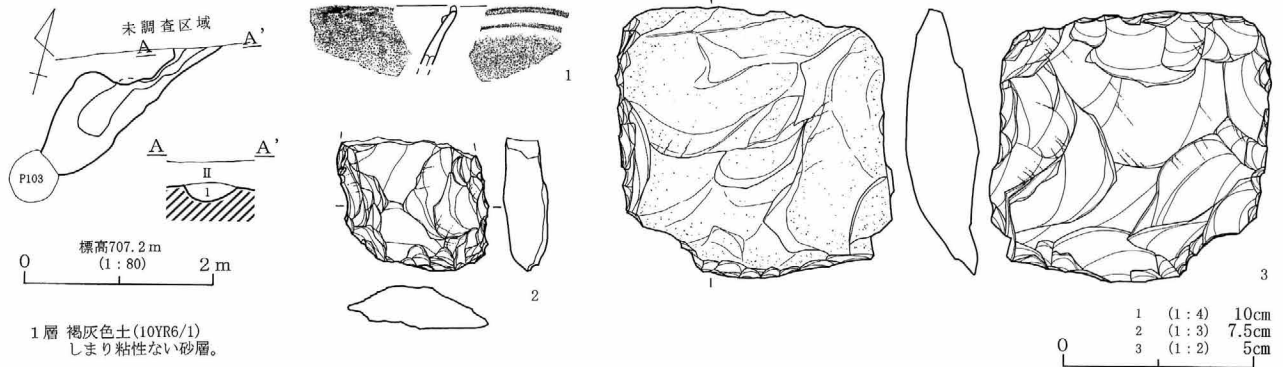
M9		法 量			成 形 ・ 調 整 ・ 文 様		推定値()	残存値< >	丸底・	
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置	
1	土師器	環	(12.4)	-	4.8	ヘラミガキ→黒色処理	ヨコナデ→ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	M9	
2	土師器	環	(15.8)	(12.0)	3.8	ヘラミガキ→黒色処理	摩耗	回転実測	M9	
3	土師器	環	-	-	-	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ	破片実測	M9	
4	土師器	高坏	-	(9.0)	<5.8>	ナデ→ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	M9	
7	弥生土器	甕	(15.0)	-	<5.5>	ヘラミガキ	櫛描斜走文→櫛描麻状文	回転実測	M9	
5	縄文土器	深鉢	突起部に縦位沈線。外面口縁に沿って沈線。						堀之内1	M9
6	縄文土器	注口土器?	沈線区画内に縄文LR。						堀之内2	M9
M10										
No.	種別	器種	文 様 ・ 調 整				備 考	出土位置		
1	縄文土器	鉢	内面口縁に沿って沈線。					M10堀之内1	M10	
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見			
2	打製石斧		<5.3>	<6.0>	<1.8>	<62.43>	上部欠損。全体に摩耗			M10
3	使用痕のある剥片		7.2	7.3	1.9	112.40	正面は自然面か?縁辺の剥離は使用によるものか			M10

M10号溝状遺構

に-20GrにありD15を切り、P90・P91・P103に切られる。北方向に延び北側が調査区域外となる。断面U字形、規模は検出部分で全長2.2m、幅0.2~0.78m、深さ30~40cmを測る。北から南方向に緩く傾斜、比高差は10cm程度である。覆土1層は、砂層である。

遺物は、1の縄文時代後期土器、2の打製石斧、3の使用痕ある剥片がある。時期は不明である。

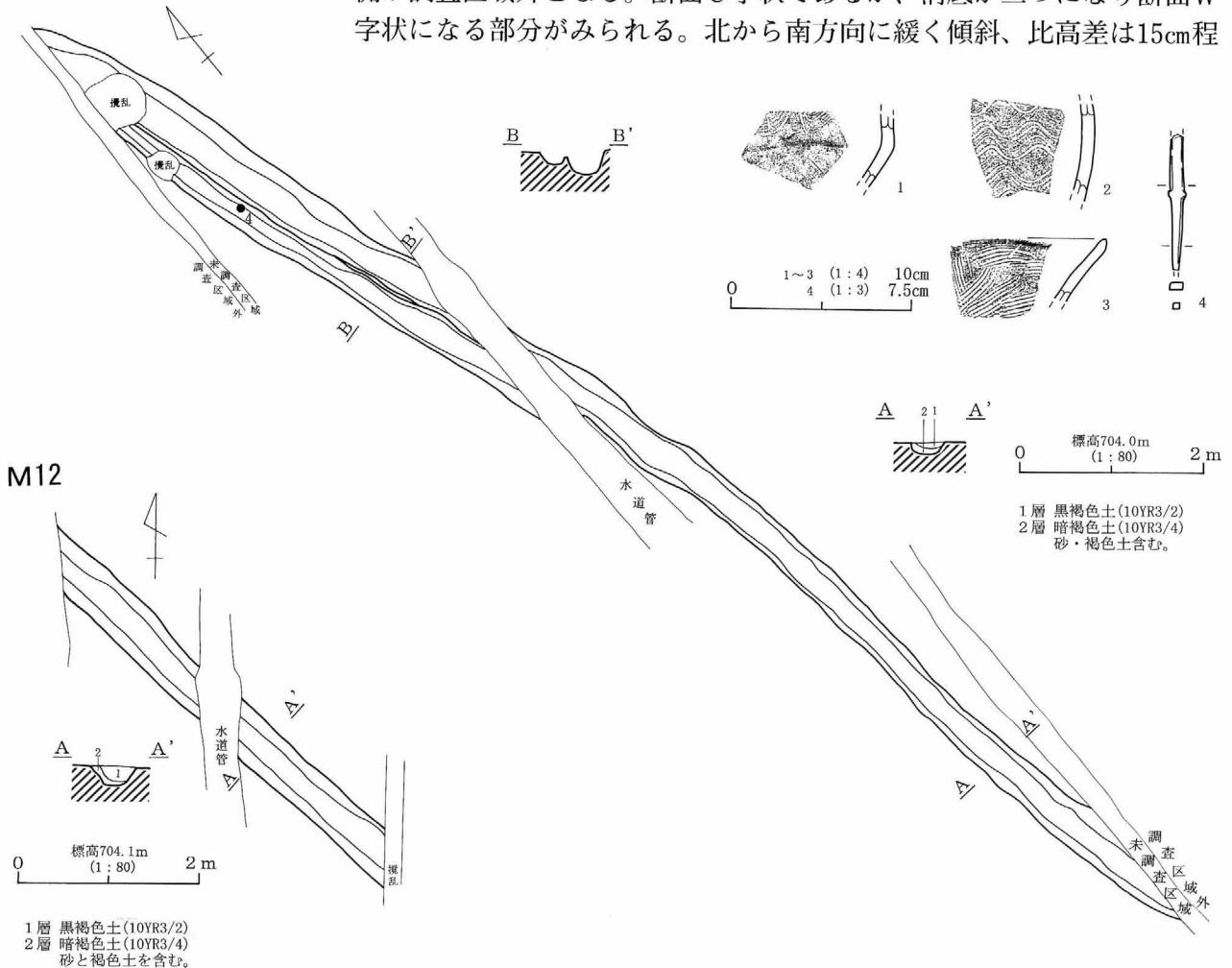
M10



第151図 M10号溝状遺構

M11号溝状遺構

ふ-54~56、ひ-56~58Grにあり、H27・H28・H30・H38・F3・F5を切る。南北方向に延び南北側が調査区域外となる。断面U字状であるが、溝底が二つになり断面W字状になる部分がみられる。北から南方向に緩く傾斜、比高差は15cm程



第152図 M11・M12号溝状遺構

度である。規模は検出部分で全長14.6m、幅0.32~0.8m、深さ10~32cmを測る。2層に砂の堆積がある。遺物は、縄文・弥生時代後期土器片と土師器・須恵器・灰釉陶器片、第152図4の鉄鏝がある。本址の時期は、不明である。

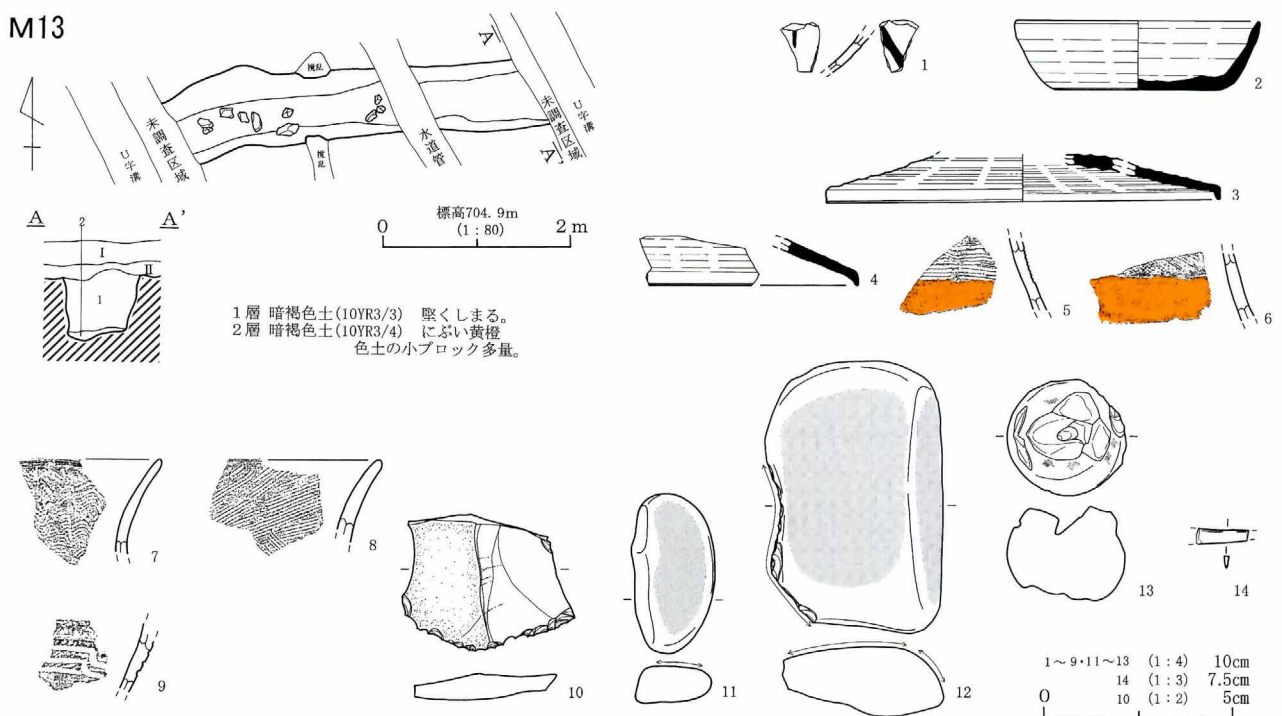
M12号溝状遺構

ひ・ふ-54・55Grにあり、H35・H38・H40を切る。北西から南東方向に延び遺構の両側は、調査区域外にある。断面は逆梯子形、溝底は平坦である。規模は検出部分で全長4.9m、幅0.46~0.52m、深さ18~20cmを測る。2層に砂の堆積がある。遺物は皆無で、本址の時期は不明である。

M13号溝状遺構

ふ・へ-48Grにあり、H36を切る。東西方向に延び遺構の両側は調査区域外にある。断面は凹凸ある逆梯子形、規模は検出部分で全長3.8m、幅0.7~0.84m、深さ70cmを測る。東へ緩く傾斜、比高差13cm。1層上部から10個の礫(安山岩、熔結凝灰岩)。縄文後期・弥生時代後期土器片と土師器・須恵器、第153図10~13の石器と14の刀子がある。本址の時期は不明である。

M13



第153図 M13号溝状遺構

第86表 M11・13号溝状遺構出土遺物観察表

(cm・g)

M11		文様・調整							備考	出土位置			
No.	種別	器種											
1	弥生土器	甕	櫛描波状文							弥生後期	M11		
2	弥生土器	甕	櫛描波状文							弥生後期	M11		
3	弥生土器	甕	櫛描斜走文							弥生後期	M11		
No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見		出土位置				
4	鏝	鉄	<5.6>	<0.7>	<0.35>	<4.06>	上下欠損。関節残存。長頸有茎		M11No.1				
M13		法量		成形・調整・文様							推定値()	残存値<	丸底-
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面		外面		備考	出土位置		
1	土師器	坏	-	-	-	ロクロナデ		ロクロナデ。墨書あり。		破片実測 8C第4	M13		
2	須恵器	坏	(13.0)	(9.0)	3.7	ロクロナデ		ロクロナデ→底部切り落とし後ヘラナデ		回転実測 8C第4	M13確認面		
3	須恵器	蓋	(20.6)	-	<2.5>	ロクロナデ		ロクロナデ。墨書あり。自然袖付着		回転実測 8C第4	M13		
4	須恵器	蓋	-	-	-	ロクロナデ		ロクロナデ		破片実測 8C第4	M13		
5	弥生土器	甕	櫛描波状文・横走文→赤色塗彩			弥生後期							
6	弥生土器	甕	ヘラ描横位・斜走沈線文→赤色塗彩			弥生後期							
7	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。櫛描波状文。			弥生後期							
8	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。横位羽状の櫛描斜走文。			弥生後期							
9	縄文土器	深鉢	横位4条の沈線。L字区切り。			加曾利B1							
No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見		出土位置				
10	使用痕のある 剥片		3.6	4.5	0.8	13.32	下辺に使用痕		M13				
11	磨石		8.5	4.4	2.2	116.45	正面にすり面		M13				
12	磨・敲石		14.4	9.5	3.8	834.65	正面・右側にすり面。左側に敲打痕		M13No.1				
13	軽石製品	軽石	6.1	6.2	5.4	82.26	条痕。削り痕。穿孔痕あり。砥石として使用か?		M13				
14	刀子?	鉄	<2.0>	<0.6>	<0.2>	<0.89>	両端欠損		M13ひ54 確認面				

M14号溝状遺構

み・む-36Grにあり、H48（奈良時代後半）に切られる。東西方向に延び遺構の両側は調査区域外にある。断面は逆梯子形、規模は検出部分で全長3.64m、幅3.2m、深さ80cmを測る。2・3層は人為埋土、平坦な溝底にはシルト質土が堆積する。西端がテラス状に20~25cmほど高くなっている。遺物は、縄文後期前葉・中葉の土器、弥生時代後期甕と台石が出土している。

本址の時期は、これらの遺物から弥生時代後期箱清水式期に比定されよう。

本址の東方100mで平成19年度に長野県

- 1層 暗褐色土(10YR3/3) 褐色土のブロック少量。
- 2層 黄褐色土(10YR5/6) 黄褐色のP1が主、南側に緩く傾斜する褐色土の帯状ブロックが北側にある。人為埋土。
- 3層 暗褐色土(10YR3/4) 黒褐色土(10YR2/2)・黒褐色土(10YR2/3)・明褐色のP1の帯状ブロックが中央に向け傾斜する。人為埋土。
- 4層 褐色土(10YR4/4) 暗褐色土ブロック含む。
- 5層 にぶい褐色土(7.5YR5/4) シルト質土。



第154図 M14号溝状遺構

第87表 M14号溝状遺構出土遺物観察表

(cm・g)

No.	種別	器種	文様・調整	備考	出土位置			
1	弥生土器	甕	櫛描斜走文	弥生後期				
2	弥生土器	甕	櫛描波状文	弥生後期				
3	弥生土器	甕	櫛描波状文	弥生後期				
4	弥生土器	甕	櫛描波状文	弥生後期				
5	弥生土器	甕	櫛描波状文	弥生後期				
6	弥生土器	甕	櫛描波状文・櫛描簾状文	弥生後期				
7	弥生土器	甕	櫛描波状文→櫛描簾状文	弥生後期				
8	弥生土器	甕	櫛描波状文	弥生後期				
9	弥生土器	甕	櫛描波状文	弥生後期				
10	縄文土器		口縁部内折。波状口縁。波頂部に2個の円形貼付文。波頂部の下渦巻状沈線内に磨消縄文LR。その下お玉杓子状区切りを持つ4条の横位沈線区画内に磨消縄文LR。内面4条の横位沈線。	加曾利B1				
11	縄文土器		10と同一個体とみられる。口縁部下にお玉杓子状の区切り持つ沈線。口唇部に連続刻み目。	加曾利B1				
12	縄文土器	深鉢	4条の横位沈線区画内に縄文LR。一部磨消。L字区切り。	加曾利B1				
13	縄文土器		斜行・縦位の集合沈線。	堀之内				
14	縄文土器		横位刻み隆線の下2条の横位沈線区画内に縄文LR充填。	堀之内2				
No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置
15	台石		<13.0>	<15.7>	<6.9>	<1790>	周囲～裏面欠損	No.1

埋蔵文化財センターが実施した中部横断道路関係西近津遺跡群の調査で検出された弥生時代後期の大溝とされる溝状遺構に繋がる可能性が非常に大きい。

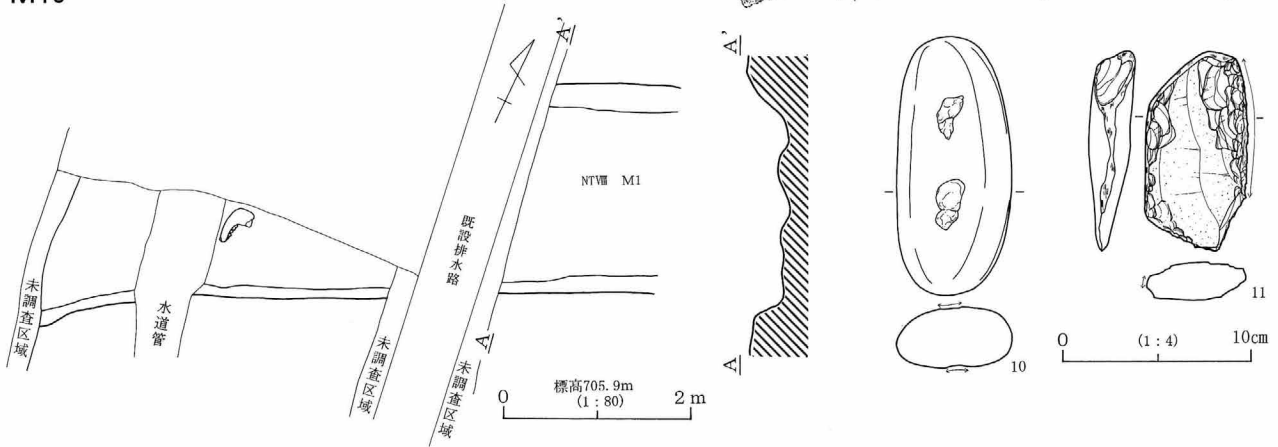
M15号溝状遺構

む-32・33Grにあり、H52・H54・P186・P187を切る。東西方向に延び遺構の両側は調査区域外にあり、東側は東隣で調査された西近津遺跡ⅧのM1と同一遺構で繋がる。断面は凹凸が激しい逆梯子形、規模は検出部分で全長3.68m、幅1.44m、深さ46cmを測る。

遺物は、縄文後期土器・土師器・須恵器、凹石、敲石が出土した。

さらに、ニホンジカの右下顎骨、ウマの右下顎

M15



第155図 M15号溝状遺構

第88表 西近津遺跡Ⅳ M15号溝状遺構出土遺物観察表

(cm・g)

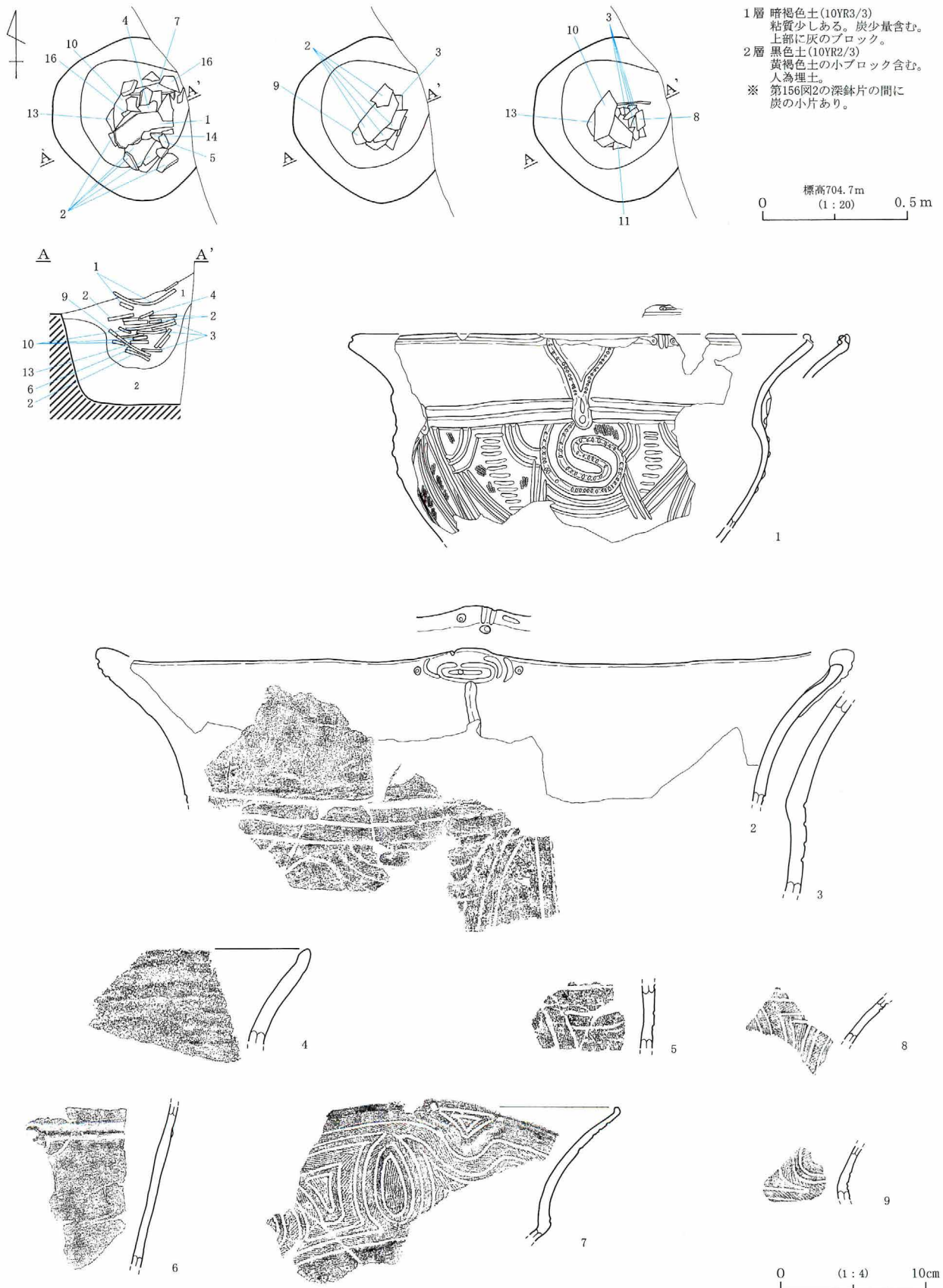
M15			法 量			成形・調整・文様		推定値()	残存値<	>	丸底・
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置		
1	土師器	坏	-	-	-	ヘラミガキ。黒色処理	ナデ	破片実測			
2	須恵器	有台坏? 壺?	-	(9.2)	<1.8>	口クロナデ	底部回転ヘラ切り後高台貼付	回転実測			
3	須恵器	甗	-	-	-						
4	須恵器	甗	-	-	-						
5	縄文土器	深鉢	所謂粗製深鉢。口縁下に横位隆帯。						後期前半		
6	縄文土器	深鉢	所謂粗製深鉢。口縁部内折。口縁直下の横位刻み隆帯から短く垂下する刻み隆帯。						称名寺		
7	縄文土器	深鉢	所謂粗製深鉢。口縁直下に圧痕持つ横位隆帯。						称名寺		
8	縄文土器	深鉢	沈線区画内に縄文LR充填。						後期前半		
9	縄文土器	深鉢	垂下する隆帯上に円形貼付文。沈線による幾何学文。縄文LR充填。						堀之内2		
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見		出土位置		
10	凹石		13.7	6.1	3.3	430.42	正裏に2ヶ所ずつの浅い敲打痕		覆土		
11	敲石?		10.5	5.5	2.0	166.76	上端部~左側に磨滅。右側面つぶれ状		覆土		

第1門歯、ウマの右大腿骨片・遠位端片・脛骨近位端片・四肢骨片、ウマの左下顎第1門歯片、4~5歳程度の大型馬の左右下顎骨が検出された。

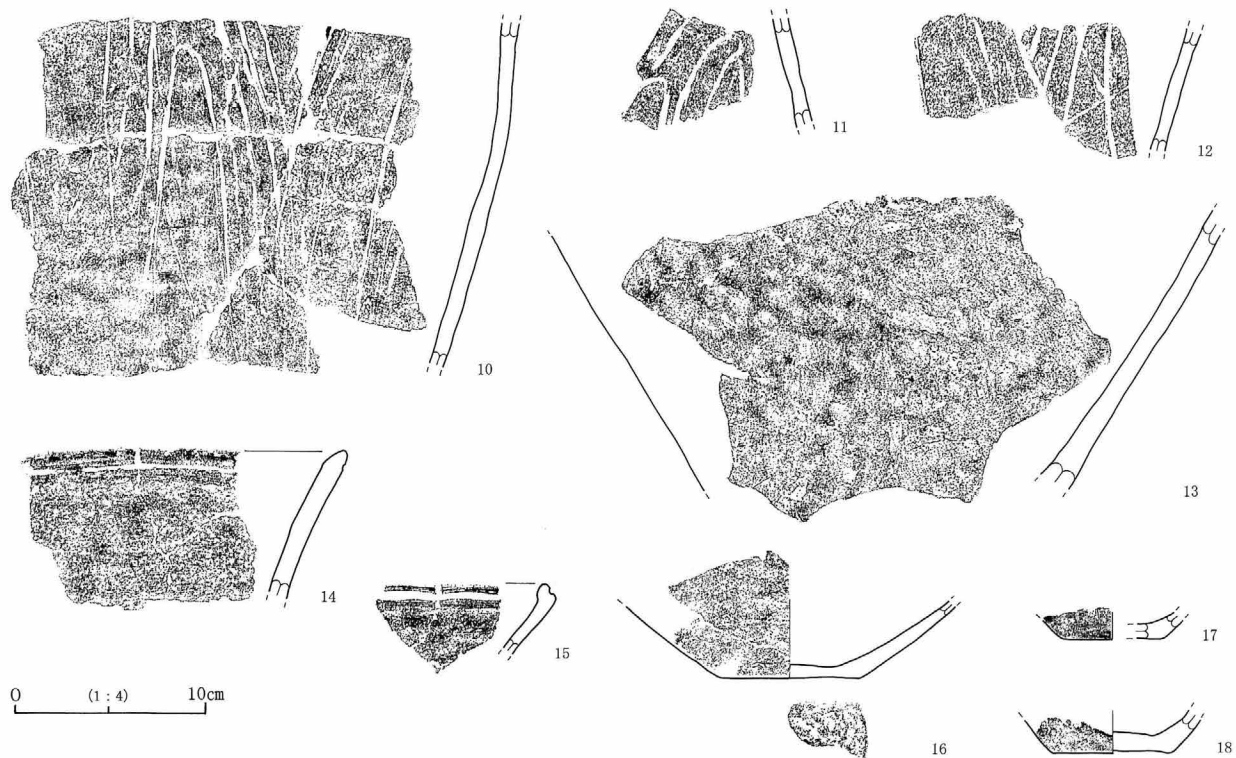
本址の時期は、竪穴住居址等の重複関係や出土遺物から古墳時代後期以降とみられる。

第6節 ピット

総数185基が検出され、そ-16~め-24Grに集中している。縄文時代後期の土坑が多く存在する地点である。大半が何らかの建物に関連した柱穴と思われるが、建物址として把握できなかった。



第156図 P172号ピット(1)



第157図 P172号ピット(2)

P172号ピット

柱穴として扱ったが、土坑としたほうが妥当であろう。平面形は径56cmのほぼ円形、深さは44cmを測る。底面10cmほどから総数82個の土器片を重ね置きしてある。第156図1の鉢が最上部、その下部東側に2~4が西側に10が、2~4に挟み込まれて10がある。覆土は人為埋土で、1層には少量の灰・炭小片が含まれる。2の土器片間に炭片、1の土器上面に接して灰の小ブロックが認められた。

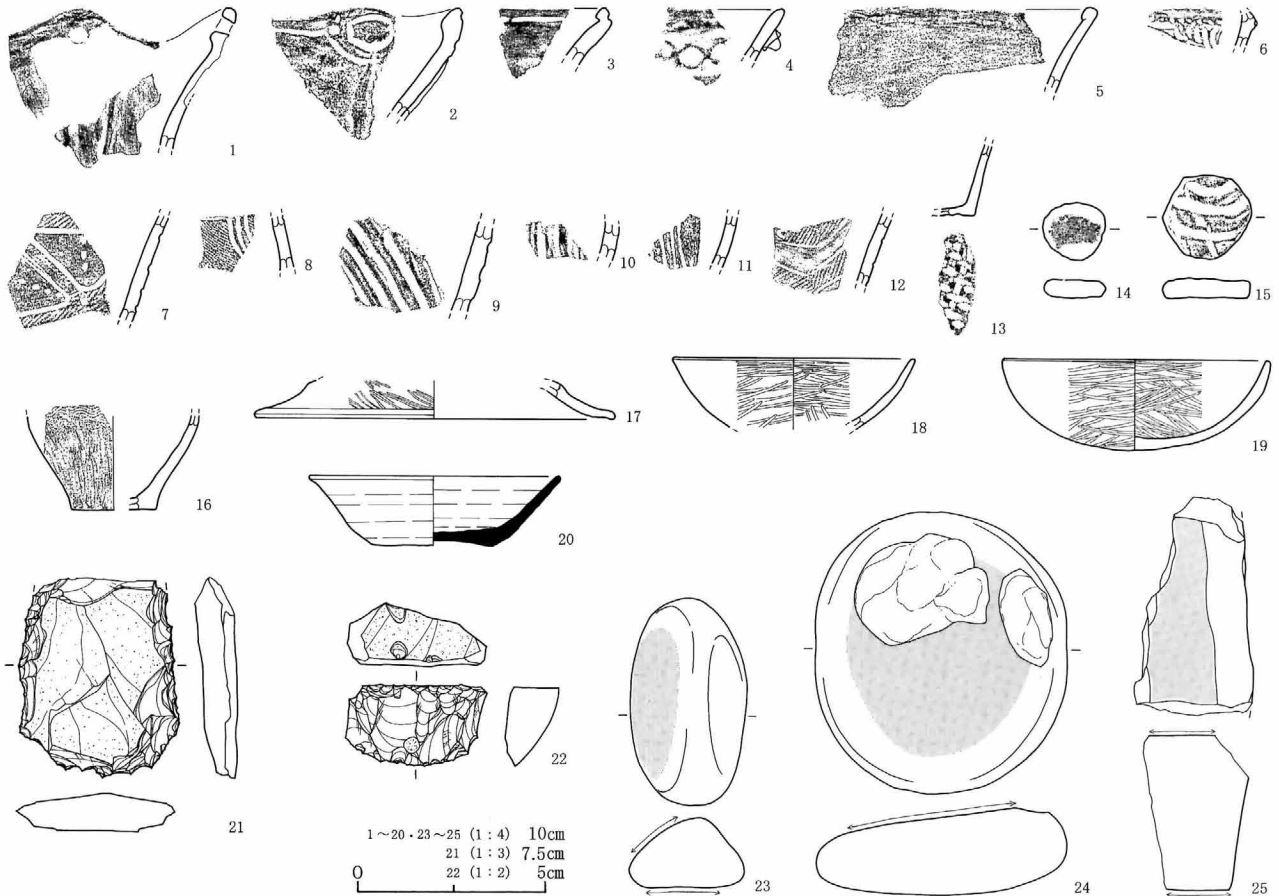
1は口縁部内折する鉢、括れ部8字貼付文下の渦巻き状刻み隆線と紡錘状の集合沈線を斜行集合沈線でつなぐ。これらに形成された槍先状区画内は、横位の短沈線で充填される。

2~5は口縁部内折する深鉢の同一個体。突起部円孔から横引きの短沈線をC字状と弧状の沈線が囲み、両脇に円形刺突。突起内面口唇部から円孔へ縦位沈線、脇に円形刺突と短沈線。

第89表 西近津遺跡IV P172号ピット出土遺物観察表

(cm・g)

No.	種別	器種	文様・調整	備考	出土位置
1	縄文土器	鉢	口縁部内折。突起部縦位2条の沈線両脇の円形刺突から口縁に沿って沈線。この沈線からV字状刻み隆線がくびれ部・横位集合沈線上の8字貼付文に垂下する。8字貼付文の下に渦巻状刻み隆線。下を弧状集合沈線でふさぐ。他の8字貼付文の下に紡錘状の集合沈線。渦巻状刻み隆線と紡錘状の集合沈線を斜行集合沈線で繋ぐ。横位集合沈線と渦巻状と紡錘状は弧状集合沈線で繋がる。これらに形成された槍先状区画内は横の短沈線で充填される。縄文RL充填。口径(32.4)器高<10.9>	堀之内2古	No.12・13・16・17
2	縄文土器	深鉢	口縁部内折。突起部円孔から短い横引き沈線を囲むC字状沈線と弧状沈線。両脇に円形刺突。突起内面口唇部から円孔へ縦位沈線。脇に円形刺突と短沈線。3・4・5と同一個体。口径(52.8)器高<10.9>	堀之内2古	No.11・12・14・17・20・22・23・27・28・49・50
3	縄文土器	深鉢	2・5と同一個体。横位集合沈線から紡錘状と弧状集合沈線。	堀之内2古	No.29・39~41・43・46
4	縄文土器	深鉢	2・3・5と同一個体。口縁部内折。	堀之内2古	No.18
5	縄文土器	深鉢	2~4と同一個体。弧状集合沈線。紡錘状集合沈線。	堀之内2古	No.8
6	縄文土器	深鉢	楕円状隆帯から横位隆帯。	堀之内2古	No.48
7	縄文土器	鉢	8・9と同一個体。口縁部内折。極小突起2個の円形刺突間に二重の逆三角形沈線を持つ逆三角形の突起。2条1組の沈線で楕円形と逆三角形が交互に描かれる。区画内に縄文RL充填。	堀之内2古	No.3・15
8	縄文土器	鉢	7・9と同一個体。逆三角形の2条1組の沈線。区画内縄文RL充填。	堀之内2古	
9	縄文土器	鉢	7・8と同一個体。楕円形の2条1組の沈線。区画内縄文RL充填。	堀之内2古	No.25
10	縄文土器	深鉢	12と同一個体か?逆U字状沈線の両脇に弧状の集合沈線。	堀之内2古	No.24・31・32・34・37
11	縄文土器	深鉢	逆U字状沈線。斜行沈線。	堀之内2古	No.36
12	縄文土器	深鉢	10と同一個体か?弧状と斜行集合沈線。	堀之内2古	H42確認面
13	縄文土器	深鉢	底部付近。	堀之内2古	No.47
14	縄文土器	深鉢	口縁直下横位沈線か?	堀之内2古	No.19
15	縄文土器	深鉢	口縁部内折。口縁直下に横位沈線。	堀之内2古	
16	縄文土器	鉢	網代底。縄方不明(一部磨消)底径(7.4)	堀之内2古	No.2 H42確認面
17	縄文土器	鉢	底径(5.2)	堀之内2古	
18	縄文土器	鉢	底径(6.2)	堀之内2古	No.38



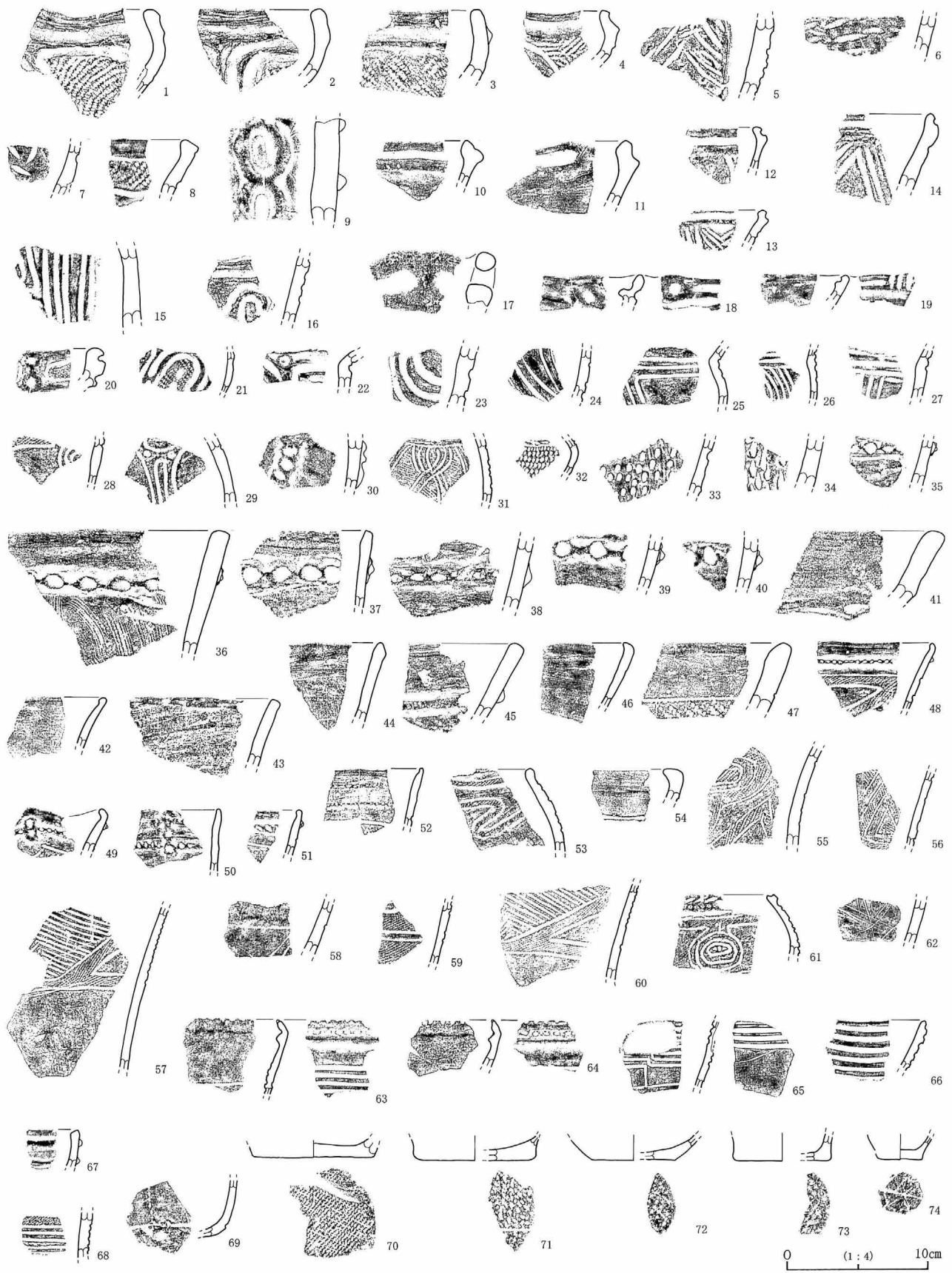
第158図 ピット出土遺物実測図

6は楕円状の隆帯から横位の隆帯。7～9は口縁部内折する鉢、極小突起に2個の円形刺突間に二重の逆三角形沈線を持つ逆三角形の突起を付す。その下部に2条1組の沈線で楕円形と逆台形が交互に描かれ、区画内に縄文LR充填される。10と11は同一個体とみられる。逆U字状沈線の両脇に弧状の集合沈線が施文される。これらは総じて縄文時代後期前葉堀之内2式に比定される。

第90表 西近津遺跡Ⅳピット出土遺物観察表

(cm・g)

No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様		推定値() 残存値< > 丸底・出土位置	
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面		
17	土師器	高杯	-	(19.2)	<2.0>	ナデ	ミガキ	回転実測 P10	
18	無色土器	杯	(12.8)	-	<3.7>	ヘラミガキ。黒色処理	ヘラミガキ。黒色処理	回転実測 P81	
19	土師器	杯	(14.0)	-	4.8	ヘラミガキ。黒色処理	ヘラミガキ	回転実測 P154No.1	
20	須恵器	杯	13.4	6.4	3.7	口クロナデ	口クロナデ。底部右回転糸切り	完全実測 P55	
No.	種別	器種	文様・調整					備考	出土位置
1	縄文土器	深鉢	円孔持つ突起の両脇からV字状に垂下する隆帯。口縁部内折。					堀之内	P95
2	縄文土器	深鉢	口縁部内折。突起部に楕円形に沈線。脇の円形刺突から横引き沈線と弧状沈線。弧状沈線から垂下する隆帯。					堀之内2	P38
3	縄文土器	深鉢	口縁部内折。口縁直下に横位沈線。					堀之内1	P40
4	縄文土器	深鉢	所謂粗製深鉢。口縁直下に圧痕持つ横位隆帯。					後期前半	P93
5	縄文土器	深鉢	口縁部内折。					堀之内	P66
6	縄文土器	深鉢	横位刻み隆線の下弧状集合沈線。					堀之内	P95
7	縄文土器	深鉢	沈線による幾何学文。X字状に平行沈線区画。交点の刺突から縦位と斜位に連続刺突。平行沈線内に縄文LR充填。					堀之内2	P38
8	縄文土器	深鉢	横位沈線。弧状の集合沈線。縄文LR充填。					堀之内	P92
9	縄文土器	深鉢	弧状の集合沈線。10と同一個体。					堀之内	P80
10	縄文土器	深鉢	弧状の集合沈線。9と同一個体。					堀之内	P80
11	縄文土器	深鉢	縦位・弧状沈線(鈎鐘状?)					堀之内	P45
12	縄文土器	深鉢	幾何学文。縄文LR充填。一部磨消。					堀之内2	P50
13	縄文土器	深鉢	網代底。2本越2本潜り。					後期前半	P51
14	縄文土器	土器片円板	円形。無文の深鉢片。剥離痕・研磨痕。最大径3.3厚さ1.0					後期前半?	P56
15	縄文土器	土器片円板	円形。弧状・斜行集合沈線。最大径4.6厚さ1.1					堀之内	P51
16	弥生土器	麴	内面ヘラミガキ。外面櫛描波状文→ヘラミガキ					弥生後期	P153
No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置	
21	打製石斧		<7.9>	<6.4>	<1.5>	<101.84>	上部欠損	P143	
22	石核	黒曜石	2.2	3.7	1.5	11.73	自然面打面	P131	
23	磨石		11.0	6.2	4.4	389.37	正裏にすり面	P168	
24	磨石		15.0	13.4	4.3	1401.92	被熱あり(全体に黒化)正面の剥離は被熱によるもの	P163	
25	台石片		<11.7>	<6.2>	<8.2>	<847.77>	左側以外欠損。正裏に使用面	P177	



第159图 遺構外出土遺物実測図(1)



第160図 遺構外出土遺物実測図(2)

第91表 遺構外出土遺物観察表(1)

(cm・g)

Gr		法 量			成 形 ・ 調 整 ・ 文 様		推定値()	残存値<	> 丸底・
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
74	縄文土器	鉢?	-	3.2	<1.8>		木葉痕	後期	め26
76	縄文土器	深鉢	-	6.4	<2.3>			完全実測 後期	表採
77	縄文土器	深鉢	-	(7.6)	<1.6>			回転実測 後期	み36
86	弥生土器	甕	-	5.9	<2.3>	ミガキ	胴部ミガキ。底部ミガキ	完全実測	は71 カクラン
87	弥生土器	鉢	-	5.1	<3.7>	ヘラミガキ。赤色塗彩	ヘラミガキ。赤色塗彩	完全実測 後期	ふ50 V層上部
88	弥生土器	鉢	-	3.9	<3.2>	ヘラミガキ。赤色塗彩	ヘラミガキ。赤色塗彩	完全実測 後期	ふ60
89	弥生土器	鉢	-	-	-	ヘラミガキ。口縁付近赤色塗彩	ヘラミガキ。口縁部に2孔。赤色塗彩	破片実測 後期	ふ56
90	弥生土器	甌	-	(4.2)	<4.8>	ヘラミガキ。赤彩付着。	ヘラミガキ	回転実測 後期	ふ50 V層上部
91	弥生土器	手捏土器	(7.4)	-	<1.7>	ナデ	ナデ	回転実測	ふ51 V層上部
92	土師器	坏	-	-	-	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ。墨書あり	破片実測	ふ51 V層上部
93	土師器	坏	-	-	-	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ。墨書あり	破片実測	ひ66
94	土師器	坏	-	6.2	<1.7>	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ。底部右回転糸切り	完全実測	ひ54
95	土師器	碗	-	5.2	<1.4>	暗文。黒色処理	ロクロナデ→高台貼付。墨書あり	完全実測	ひ66
96	須恵器	坏	-	(6.6)	<1.3>	ロクロナデ	ロクロナデ。底部回転糸切り	回転実測	け6
97	須恵器	坏	-	(6.8)	<2.2>	ロクロナデ	ロクロナデ。底部右回転糸切り	回転実測	ふ65
99	須恵器	蓋	-	-	<3.3>	ロクロナデ	ロクロナデ。天井部回転ヘラケズリ	回転実測	た・ち17・18
100	灰釉陶器	碗	-	5.2	<3.4>	ロクロナデ。施釉	ロクロナデ。高台貼付	回転実測	ひ66 カクラン
No.	種別	器種	文 様 ・ 調 整				備 考	出土位置	
1	縄文土器	深鉢	波状口縁。微隆起帯文内に地文縄文RL。				中期後半	み40・41	
2	縄文土器	深鉢	隆起部画内に縄文RL。				中期後半	み40	
3	縄文土器	深鉢	横位隆帯。縄文LR。				中期後半	み40	
4	縄文土器	深鉢	波状口縁。弧状沈線。地文縄文RL。				中期後半	ひ65 カクラン	
5	縄文土器	深鉢	垂下する沈線。綾杉状沈線。				中期後半	み42	
6	縄文土器	深鉢	横位の短沈線。				中期後半～後期 前葉	む40	
7	縄文土器	深鉢	綾杉状の短沈線。				中期後半～後期 前葉	み43	
8	縄文土器	深鉢	口縁部内折。沈線区画内に縄文LR充填。				称名寺	め25	
9	縄文土器	釣手土器	楕円状の隆帯。内側をなぞる沈線。				称名寺	ち17	
10	縄文土器	深鉢	口縁部内折。口縁直下横位沈線。				堀之内1	み40	
11	縄文土器	深鉢	口縁部内折。突起部に楕円状隆帯。				堀之内1	み44	
12	縄文土器	深鉢	口縁直下横位沈線。その下弧状沈線。				堀之内1	み40	
13	縄文土器	深鉢	口縁直下に横位沈線。その下斜行する集合沈線。				堀之内1	み44	
14	縄文土器	深鉢	口縁直下横位沈線。斜行集合沈線。				堀之内1	Z 表採	
15	縄文土器	深鉢	垂下・斜行沈線。				堀之内1	み43	
16	縄文土器	深鉢	横位沈線の下渦巻状沈線。				堀之内1	み43	
17	縄文土器	深鉢	2個の円孔持つ突起。				堀之内1	む28	
18	縄文土器	深鉢	突起部内外に円形刺突。内面円形突起から横位沈線。				堀之内1	み41	
19	縄文土器	深鉢	突起部内面に縦位の沈線。そこから横位沈線。				堀之内2	む40	
20	縄文土器	深鉢	口縁部8字貼付文脇楕円状沈線区画内に縄文LR充填。				堀之内1	む40	
21	縄文土器	深鉢	弧状沈線内に磨消縄文LRの上に楕円形の押圧。				堀之内1	な・に19・20	
22	縄文土器	深鉢	円形刺突。弧状沈線。				堀之内	ち17	
23	縄文土器	深鉢	弧状沈線。				堀之内	み43	
24	縄文土器	深鉢	垂下・弧状の集合沈線。				堀之内	み44	
25	縄文土器	深鉢	横位・斜行集合沈線。				堀之内	み44	
26	縄文土器	深鉢	横位・弧状の集合沈線。				堀之内	み44	
27	縄文土器	深鉢	横位集合沈線。斜行集合沈線。				堀之内	ふ50 V層上部	
28	縄文土器	深鉢	同心円文の沈線。沈線区画内に縄文LR充填。				堀之内2	む28	
29	縄文土器	深鉢	2個の円形刺突。U字状・弧状沈線。				堀之内	Z	
30	縄文土器	深鉢	所謂粗製深鉢。垂下する圧痕持つ隆帯。				後期前半	た14	
31	縄文土器	深鉢	横位集合沈線。対弧状集合沈線。縄文LR。				堀之内	ち17	
32	縄文土器	鉢	8字刺突。横位沈線の下連続刺突充填。				称名寺	ふ50 V層	
33	縄文土器	深鉢	多量の刺突文。				称名寺	ふ22 カクラン	
34	縄文土器	深鉢	多量の刺突。				三十稲場	み40	
35	縄文土器	深鉢	所謂粗製深鉢。圧痕持つ横位隆帯。				後期前半	は21	
36	縄文土器	深鉢	所謂粗製深鉢。圧痕持つ横位隆帯。その下櫛歯状工具による垂下沈線。				称名寺	む28	
37	縄文土器	深鉢	所謂粗製深鉢。圧痕持つ横位隆帯。				後期前半	む33	
38	縄文土器	深鉢	所謂粗製深鉢。圧痕持つ横位隆帯。				後期前半	め26	
39	縄文土器	深鉢	所謂粗製深鉢。圧痕持つ横位隆帯。				後期前半	む28	
40	縄文土器	深鉢	所謂粗製深鉢。圧痕持つ横位隆帯。				後期前半	め25	
41	縄文土器	深鉢	所謂粗製深鉢。横位隆帯。				後期	ふ50 V層	
42	縄文土器	深鉢	口縁部内折。				堀之内	た14	
43	縄文土器	深鉢	所謂粗製深鉢。				後期	ふ50 V層	
44	縄文土器	深鉢	口縁部内折。				堀之内	な・に19・20	
45	縄文土器	深鉢	横位隆帯。				中期後半	め26	

西近津遺跡Ⅳ遺構外出土遺物観察表(2)

(cm・g)

No.	種別	器種	文 様 ・ 調 整	備 考	出土位置			
46	縄文土器	深鉢	口縁部内折。	堀之内	む28			
47	縄文土器	深鉢	口縁部下に横位沈線。縄文LR。	中期後半	み40			
48	縄文土器	深鉢	口縁部内折。口縁下横位刻み隆線。幾何学文。縄文LR充填。	堀之内2	ふ50 V層			
49	縄文土器	深鉢	口縁部内切。口縁直下横位刻み隆線状に8字貼付文。沈線区画内縄文LR。	堀之内2	ふ50 V層上部			
50	縄文土器	深鉢	8字貼付文。横位刻み隆帯。	堀之内2	ひ23			
51	縄文土器	深鉢	口縁部内折。口縁下に刻み隆帯。その下横位沈線。	堀之内2	け6			
52	縄文土器	深鉢	口縁部内折。口縁下に刻み隆帯。その下横位沈線。	堀之内2	め25・26			
53	縄文土器	注口土器	口縁直下横位隆帯。その下転行する隆帯。隆帯上に縄文LR。隆帯をなぞる沈線。	堀之内2	ひ64			
54	縄文土器	深鉢	口縁部内折。口縁下横位沈線。	称名寺	ひ23			
55	縄文土器	深鉢	幾何学文。縄文LR充填。	堀之内2	む35			
56	縄文土器	深鉢	幾何学文。磨消縄文LR。	堀之内2	た14			
57	縄文土器	深鉢	60と同一個体。幾何学文。区画内に斜行沈線充填。帯状区画内に縄文LR充填。	堀之内2	な・に19・20			
58	縄文土器	深鉢	横位・斜行沈線。	堀之内2	た14			
59	縄文土器	深鉢	2条1組沈線区画。磨消縄文LR。	堀之内2	た14			
60	縄文土器	深鉢	57と同一個体。幾何学文。区画内に斜行沈線充填。帯状区画内に縄文LR充填。	堀之内2	な・に19・20			
61	縄文土器	注口土器	口唇部連続刻み。口縁直下連続円形刺突。重槽円形沈線。縄文LR。	堀之内2	た・ち17・18			
62	縄文土器	深鉢	斜行する集合沈線。	堀之内	な・に19・20			
63	縄文土器	深鉢	横位隆帯の下位に4条の横位沈線。64と同一個体とみられる。口縁部内折。口唇部に刻み・横位沈線・縄文施文。内面口縁直下に連続刺突。	加曾利B1	め26			
64	縄文土器	深鉢	63と同一個体とみられる。口縁部内折。口唇部に刻み。内面口縁直下に連続刺突。横位隆帯の下横位沈線。	加曾利B1	め25			
65	縄文土器	深鉢	6条の横位沈線。L字区切り。内面4条の横位沈線。	加曾利B1	め26			
No.	種別	器種	文 様 ・ 調 整	備 考	出土位置			
66	縄文土器	深鉢	口縁直下から6条の横位沈線。	加曾利B1	め26			
67	縄文土器	深鉢	口縁部に2条の隆帯。波状口縁。	称名寺	め26			
68	縄文土器	深鉢	5条の横位沈線。磨消縄文LRの下横位沈線。	加曾利B1	た14			
69	縄文土器	深鉢	底部直上に横位沈線。垂下する連続刺突。	堀之内2	む40			
70	縄文土器	深鉢	網代底。2本越2本潜り。底径(8.6)。	後期	け6			
71	縄文土器	深鉢	網代底。2本越2本潜り。底径(8.8)。	後期	み43			
72	縄文土器	深鉢	網代底。2本越2本潜り。底径(6.0)。	後期	み44			
73	縄文土器	深鉢	網代底。編方不明。底径(7.0)。	後期	め26			
78	縄文土器	深鉢	網代底。1本越1本潜り。	後期	ひ55			
79	縄文土器	深鉢	網代底。2本越2本潜り。素材細い。	後期	ふ50 V層上部			
80	縄文土器	深鉢	網代底。2本越2本潜り。素材細い。	後期	は21			
81	縄文土器	土器片円板	円形深鉢片。敲打痕。研磨痕。無文。最大径3.8 厚さ1.0	後期	み43			
82	縄文土器	土器片円板	円形深鉢胴部片。敲打痕。隆帯をなぞる沈線。縄文LR。最大径4.6 厚さ1.0。	中期後半	た・ち17・18			
83	弥生土器	甕	横位羽状の櫛描斜文。	弥生後期	み44			
84	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面櫛描波状文→櫛描簾状文。	弥生後期	む28			
85	弥生土器	壺か深鉢	櫛描簾状文→赤色塗彩。内面頸部上位まで赤色塗彩。焼成前穿孔の2孔あり。	弥生後期	ふ50			
98	須恵器	甕	内面剥離。外面櫛描波状文。		そ13			
101	須恵器	甕	外面敲打痕。		ふ63 カクラン			
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見	出土位置
102	スクレイパー		5.4	3.7	2.8	50.24	右側を刃部とするスクレイパーか?	つ・て 18・19G
103	スクレイパー		4.9	5.6	1.3	38.32	下辺を刃部としたスクレイパーか	ふ63 カクラン
104	削片		4.4	5.3	1.3	27.86		つ・て 18・19G
105	打製石斧		<11.1>	<6.8>	<1.4>	<152.55>	上部欠損。正面は自然面。刃部に使用痕	け6
106	打製石斧		<6.4>	<5.5>	<1.9>	<94.54>	下部欠損。正裏に節理面	め29
107	打製石斧		<7.1>	<5.3>	<1.0>	<55.20>	上部欠損。刃部に使用痕	み42
108	磨製石斧		<5.0>	<3.9>	<1.5>	<48.02>	上部欠損	た13
109	石剣?		<5.2>	<1.4>	<1.2>	<13.60>	上下欠損	た・ち 17・18G
110	台石片		<11.1>	<6.3>	<1.4>	<168.34>	正面が使用面。上側以外欠損か	め26 カクラン
111	台石片		<5.5>	<9.9>	<4.3>	<310.12>	右側以外欠損。正裏に使用面	Z
112	打製石斧		<3.7>	<5.5>	<1.2>	<25.05>	上部欠損。磨減痕から刃部と思われる	み40
113	敲石		<6.4>	<4.9>	<2.4>	<111.08>	下部欠損。上部に敲打痕	そ13
114	磨・敲石		<5.4>	<4.0>	<3.2>	<103.32>	下部欠損。上部部に敲打痕。正裏にすり面	み41
115	磨・敲石		<16.3>	<8.0>	<5.1>	<910.69>	下部欠損。正面にすり面。上部に敲打痕	つ・て 18・19G
116	敲石		10.1	4.9	3.8	252.22	上下端部に敲打痕	Z
117	砥石?		<8.2>	<4.4>	<2.7>	<168.86>	下部欠損。砥面数4。条痕と細かい敲打痕あり	む33
118	砥石?		7.6	8.5	1.4	98.19	正裏に条痕。側面にも使用痕。砥石的な使用と思われる	ひ65

第7節 遺構外出土遺物

遺構確認時に多くの縄文時代中期後半・後期初頭・後期前葉・後期中葉、弥生時代後期、古墳時代後期、奈良時代、平安時代の土器や土製品・石器が出土した。弥生時代後期、古墳時代後期、奈良時代、平安時代の土器は、該期の竪穴住居址覆土上部から出土したものである。縄文時代の遺物は、土坑やピットの上部や周辺から検出された。

縄文時代後期初頭称名寺式土器は、D23・D25・D29・D31のあるGrめ-25～28に集中する。後期中葉加曾利B1式土器は、D26周辺Grめ-25から出土した。後期前葉堀之内1式・2式土器は本調査で最も多く、た-12～む・め-26Gr内で遺構はD8～D25が存在する地点で出土した。この地点は、平成22年度に縄文時代後期前葉の遺構が多く検出された西近津遺跡Ⅷに接する。

ここから60m南方の地点でH44号住居址のあるGrみ-40・41には、縄文時代中期後半・後期前葉堀之内式の深鉢片が集中している。この地点には、堀之内2式土器片82がみられたP172が存在する。

第92表 竪穴住居址・竪穴状遺構一覧表(1)

(残存値) <検出値> (cm)

遺構名	検出位置	平面形					主軸方位 (長軸方位)	備考 柱穴規模・重複・時期等
		北壁長	南壁長	東壁長	西壁長	壁高		
H1	お・か-4	隅丸長方形?					N-14° -W	P1 44×36×59 P2 -x-x×25 P3 28×28×34 P4 20×16×24 P5 16×14×26 P6 20×18×23 P7 P8 P9 P10
		-	400	<246>	<56>	43		
H2	さ・し-7・8	-					-	
		<100>	<90>	-	290	27		
H3	き-5・6	隅丸長方形?					N-19° -W	M2に切られる。P1 32×24×61 P2 36×28×47 P3 40×26×37 P4 34×28×42 P5 56×36×17
		-	(22.8)	<140>	<68>	38		
H4	う-2	方形?					N	P18に切られる。P1 48×34×40 P2 58×26×39
		-	<220>	<150>	-	17		
H5	あ・い-1	方形?					N-33° -W	D6に切られる。壁溝間仕切り。P1 柱痕18φ 60×56×46 P2 柱痕14φ 60×56×60 P3 46×38×45 P4 28×18×37
		-	(420)	<210>	<156>	53		
H6	く・け-5・6	方形?					N-5° -W	M1・M2・M3・D7に切られる。P3~P5床下から。P1 72×(44)×69 P2 108×88×69 P3 柱痕20φ 42×40×53 P4 36×28×48 P5 38×32×26
		-	(216)	<100>	-			
H7	め-26~28	方形?(南北軸長630)					N-5° -W	H8・P148に切られる。D25を切る。南北軸長630cm P1 <22>×30×24 P2 30×<14>×23
		<150>	<66>	(70)	-	72		
H8	め-27	方形?					-	H7を切る。壁溝18cm
		-	<90>	<156>	-	58		
H9	む・め-29・30	方形(主軸長540)					N	H10を切る。溝壁16cm P1 76×66×67 P2 <46>×66×57 P3 64×<24>×60 P4 82×72×69 P5 56×<36>×53 P6 38×30×29 P7 50×<46>×54 P8 <36>×36×15
		328	308	108	-	60		
H10	む-29	方形?					N-6° -W	H9に切られる。壁溝5cm P1 42×39×39 P2 <46>×22×38 P3 <36>×20×42 P4 (34)×(34)×63 P5 32×20×37 P6 38×36×15 P7 <74>×<38>×37 P8 52×48×16 P9 (30)×38×31 P10 (80)×<48>×32 P11 44×<32>×71 P12 50×42×32 P13 54×48×56
		<144>	-	-	-			
H11	は-72~74	隅丸長方形(主軸長668)					N-13° -E	D36に切られる。P1~P3五平状の柱。P1 80×62×85 P2 <70>×72×73 P3 (56)×74×99 P4 74×64×52 P5 柱痕30φ×20φ 78×52×55 P6 <16>×<10>×8 P7 44×38×26 P8 26×<14>×5
		<340>	260	180	-	22		
H12	は・ひ-69・70	隅丸長方形					N-16° -E	P3とP6外へ傾斜。 P1 54×36×87.5 P2 76×43×38 P3 56×20×37 P4 70×60×24 P5 28×22×64 P6 24×22×57 P7 16×16×30
		-	<130>	-	<640>	45		
H13	ひ-69	隅丸長方形?					N-13° -E	P153に切られ、H16を切る。P1 柱痕18φ 32×46×39
		<410>	-	<190>	-	50		
H14	ひ-67・68	方形?					N-35° -W	F2に切られる。P1 柱痕24φ 40×36×40 P2 柱痕20φ 42×42×73 P3 柱痕24φ 32×24×24
		<190>	<60>	-	(240)			
H15	ひ-71・72	長方形?					(N-27° -W)	D36に切られる。
		-	(126)	-	380	22		
H16	ひ-68	方形?					N-4° -W	P1 54×30×9 P2 36×28×18 P3 22×18×13 P4 <70>×<26>×19 P5 <26>×<12>×33
		<70>	-	(250)	-	50		
H17	ひ-67	方形?					N-7° -W	H20を切る。
		<24>	<20>	276	-	26		
H18	ひ・ひ-64~66	方形?					N-10° -W	H19・H20・D37を切る。P1 32×30×6 P2 32×28×16 P3 <22>×30×8 P4 28×24×16 P5 32×30×34 P6 90×70×31
		<360>	<314>	-	-	25		
H19	ひ・ひ-64~66	方形?					N-19° -W	H20を切り、H18・D37に切られる。P1 (38)×44×7 P2 36×(24)×40 P3 20×20×30 P4 16×16×36 P5 (60)×68×23 P6 (80)×120×24
		<150>	<294>	440	-	23		
H20	ひ・ひ-64~67	隅丸長方形(主軸長900)					N-10° -W 炉北寄り	H17・H18・H19・D37に切られる。P1 <16>×<10>×<22> P2 <44>×<50>×46 P3 74×24×84 P4 40×20×62 P5 <70>×<30>×<41> P6 24×22×16 P7 28×26×11 P8 20×18×11 P9 52×34×27 P10 28×24×15 P11 22×20×15 P12 34×36×10 P13 42×<30>×19
		<300>	<270>	<180>	<90>	62		
H21	ひ-63・64	隅丸長方形(主軸長580)					N-9° -W	H24に切られ、H22・P161・P162を切る。P1 34×30×55 P2 50×<32>×33 P3 24×16×38 P4 22×12×35
		<72>	<130>	(344)	-	34		
H22	ひ・ひ-62~64	隅丸長方形(主軸長740)					N-13° -W 炉3	H18・H21・H24・P161~P164・P167に切られる。 P1 66×60×70 P2 64×(54)×83 P3 (84)×70×28 P4 (84)×70×28
		(168)	(186)	-	(56)	32		
H23	ひ・ひ-58~60	隅丸長方形					N-13° -W カマド北壁西寄り	H25・H27・H32・F4を切り、P159に切られる。 P1 70×60×4 P2 70×54×10 P3 104×<44>×33
		<344>	<202>	-	486	29		
H24	ひ63	-					-	H21を切る。壁溝幅8~18、深さ10~14 P1 40×30×21 P2 40×30×31 P3 18×(10)×20
		-	(140)	(160)	-	60		
H25	ひ・ひ-60・61	隅丸長方形					N-83° -E	H23に切られ、H31・F4を切る。北西隅にベッド状遺構。床面に焼込み2ヶ所あり。P1 26×20×43
		<290>	<230>	-	310	40		
H26	む33	方形?					-	H52に切られる。底は鍋底状。
		(16)	(110)	-	150	31		
H27	ひ・ひ-58・59	隅丸長方形?					W (炉2ヶ所)	H23・H32・P・M11に切られる。P1 44×34×86 P2 40×26×86 P3 <48>×<24>×63 P4 58×20×64 P5 32×24×26 P6 60×44×71
		(360)	(188)			42		
H28	ひ・ひ-56・57	隅丸長方形(?)					N-18° -E	H29・M11に切られる。P1 54×<44>×65 P2 48×<32>×8 P3 60×34×55
		-	<220>	-	<492>	32		

竪穴住居址・竪穴状遺構一覧表(2)

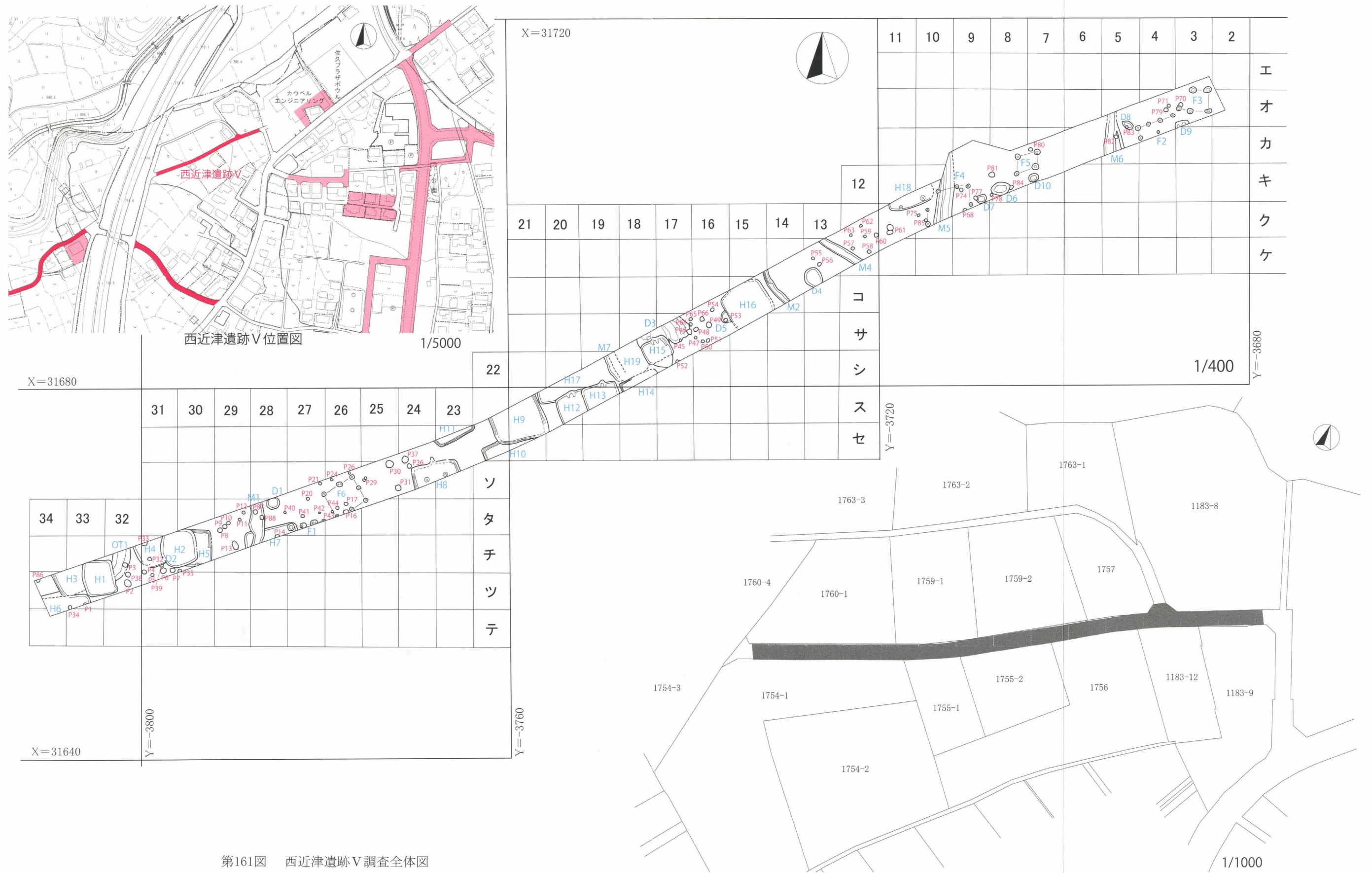
(残存値) <検出値> (cm)

遺構名	検出位置	平面形					主軸方位 (長軸方位)	備考 柱穴規模・重複・時期等
		北壁長	南壁長	東壁長	西壁長	壁高		
H29	ひ-55~57	隅丸長方形?					N-8° -W	F3・P165に切られ、H28を切る。P1 28×14×24 P2 34×20×30 P3 50×24×36 P4 46×24×50 P5 50×(42)×24 P6 24×18×28 P7 18×(8)×35 P8 28×<12>×32 P9 <14>×18×13 P10 16×10×22 P11 20×16×18
		<100>	-	-	<820>			
H30	ひ-54~56	隅丸長方形					N-20° -W	H35・F3・M11に切られる。壁溝10~16幅、深さ3~5cm P1 84×36×76 柱痕28×20 P2 46×20×57 P3 54×44×31 P4 22×20×20 P5 20×18×18
		-	<200>	(344)	-	60		
H31	ひ・ひ-60~62	隅丸長方形?					N-18° -E (炉 埋設炉)	H23・H25・H33・F4・P195に切られる。H32とは不明。P1 <58>×54×
		<320>	-	<950>	-	47		
H32	ひ-58~60	隅丸長方形?					N-18° -W	H23・F4・P159・P195H32・F1に切られ、H27を切る。H31とは? P1 30×28×64柱痕幅16 P2 30×28×64木葉痕幅14 P3 66×36×58 P4 46×36×25 P5 26×20×34 P6 20×18×24 P7 50×34×31
		-	(80)	(406)	-	32		
H33	ひ-62	-					-	H21・H22に切られ、H31を切る。
H34	ひ-51~53	隅丸方形(南北軸長680)					N-13° -W カマド北壁中央	H39を切る。P1 <86>×74×63柱痕径20 P2 <40>×70×46 P3 90×58×52 P4 36×24×28
		<380>	<366>	-	-	59		
H35	ひ-53・54	-					N-8° -W	H38・H39・F3・M12に切られる。梁行・桁行220 P1 50×48×44 P2 82×(48)×48 P3 80×52×79 P4 70×66×72 P5 60×34×55 P6 46×36×43 P7 52×<36>×25
		-	<376>	-	-	77		
H36	ひ-48・49	隅丸長方形					N-25° -W	H37・M13・D55に切られる。桁行230 P1 38×18×77柱痕五平状 P2 40×22×91柱痕五平状
		<190>	<130>	-	550			
H37	ひ-48・49	隅丸方形(主軸長240)					N-9° -W (カマド北壁中央)	H36・D56を切る。
		214	(214)	220	202	33		
H38	ひ-53・54	隅丸方形?					N-14° -W	H35を切り、M12に切られる。
		-	<50>	<340>	-	48		
H39	ひ・ひ-52・53	隅丸長方形(主軸長620)					N-6° -E 炉(地床炉)副炉	H34に切られ、H35を切る。梁行160桁行350壁溝10 P1 <42>×62×74 P2 64×60×60 P3 94×50×67 P4 36×14×56
		<160>	<340>	-	<380>			
H40	ひ-54・55	隅丸方形?					N	H29・M12・P165に切られる。
		<20>	<24>	-	280	50		
H41	ほ・ま-46・47	隅丸方形(主軸長500)					N-15° -W (北壁に焼土)	H42を切る。壁溝4~12深さ P1 76×62×66 P2 48×42×22
		<286>	<360>	-	<264>	49		
H42	ほ・ま-45・46	隅丸?方形(主軸長574)					N-30° -W (北壁中央カマド)	H41に切られ、H47を切る。梁行300桁行300P1 <48>×42×89 P2 64×56×70 P3 70×50×82 P4 76×<56>×75
		<352>	<332>	-	-	55		
H43	ま-44 み-43・44	方形					N-60° -E (カマド東壁中央)	D57に切られる。北壁下に10cm程の焼土堆積。壁溝2~8cm
		<180>	(100)	460	-	17		
H44	み-40・41	隅丸方形?					N	P1 24×24×15 P2 28×24×13
		<70>	<36>	250	-	47		
H45	み-39・40	隅丸方形(南北軸長580)					N-16° -W	H51を切る。壁溝12~16cm。桁行260噴砂あり(P1)。P1 50×40×79 P2 <48>×<26>×43 P3 <70>×64×82
		<150>	<96>	-	(300)			
H46	み・む-37・38	隅丸方形					カマド北壁 N-18° -W	P5・P185に切られる。P1 20×14×14
		<184>	<262>	238	-	51		
H47	ま・み-45	隅丸方形					N-27° -W	H42に切られる。
		<270>	-	(96)	-			
H48	み・む-36・37	方形(南北軸長354)					N-22° -W	M14を切る。P1 25×21×32 P2 <30>×28×15
		<144>	<226>	(230)	-	39		
H49	み・む-34	<194>	<112>	-	268	31	カマド北壁 N-7° -W	H50を切る。
	本址と西近津ⅦH20は同一住居址	隅丸方形 主軸長300 東西軸長340						
H50	み・む-34・35	隅丸方形(主軸長580)					カマド北壁 N-17° -W	H49に切られる。壁溝5~13。桁行340。P1 柱痕径20 40×30×47 P2 柱痕径20 40×38×48 P3 66×52×45
		<330>	<330>	<86>	-	64		
H51	み-39・40	隅丸方形?					(南北軸) N-33° -W	H45に切られる。P1 柱痕五平状 40×24×69
		(40)	<60>	-	<180>	59		
H52	む-32・33	-					N-23° -W	M15に切られ、H26を切る。 主柱穴西近津遺跡ⅦH18に2個。桁行200
	本址と西近津ⅦH18同一住居址	隅丸方形 南北軸長514 東西軸長(514)						
Ta1	た・ち-17・18	<80>	<60>	-	560	35	凹凸激しい まわりのP189・P190・P191・P19・P87も関係ありそう。深さ46・14・17・27・24 P1 34×22×28 P2 30×28×17 P3 60×40×46 P4 60×30×40 P5 30×22×20 P6 56×<22>×27 P7 40×36×26 P8 40×40×32 P9 36×32×26 P10 58×34×19 P11 30×<20>×12	

第93表 ピット計測表

(残存値) <検出値> (cm)

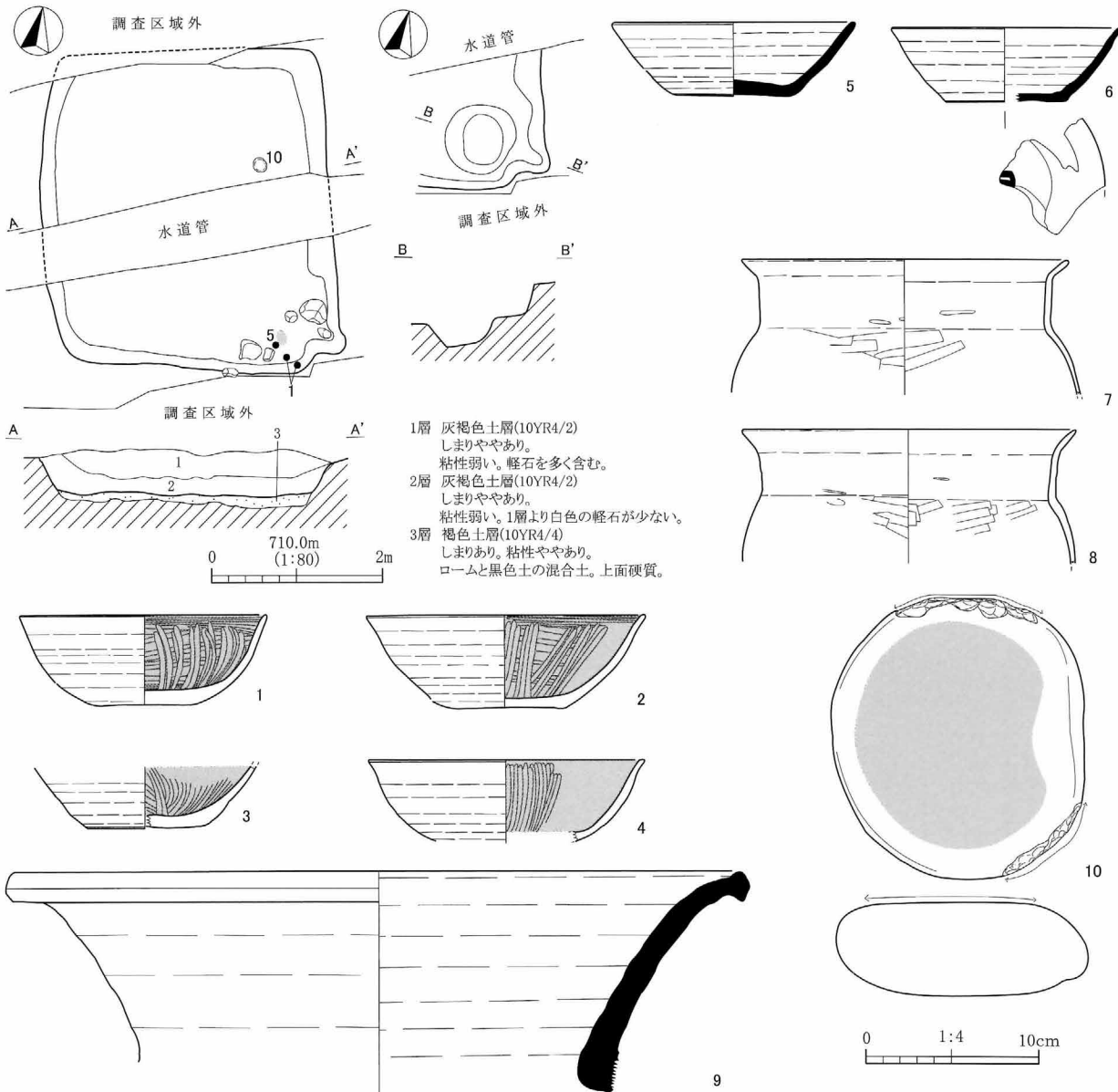
No.	検出位置	長径×深さ	備 考	No.	検出位置	長径×深さ	備 考
1	さ7	35×34	10YR3/1・10YR2/3	100	に20	34×11	
2	さ7	36×11	10YR3/3	101	ぬ21	67×24	
3	さ7	28×27	10YR3/1	102	ぬ21	26×30.5	
4	さ7	<42×34>	10YR3/3	103	に20	54×35	
5	さ7	48×18	テラスあり。P6を切る。10YR3/1	104	ぬ21	<41×52.5>	テラスあり。
6	さ7	<44×17>	テラスあり。P7を切る。P5に切られる。10YR3/1	105	ぬ21	63×13.5	
7	さ7	<43×28>	テラスあり。P6に切られる。10YR3/1	106	ぬ20	44×23	
8	さ6	<34×14>	10YR3/1	107	に20	<38×22.5>	
9	い1・2	46×16.5	10YR2/1・10YR2/2・10YR6/8・10YR6/6	108	ぬ21	31×8	
10	え4	66×36	土師器・高坏。	109	に20	48×21	
11	え4	28×9		110	に20	37×15.5	
12	え3	43×49	テラスあり。	111	ぬ 20・21	28×16	
13	え3	62×21		112	ぬ21	32×23.5	
14	え3	35×17		113	ぬ21	44×45	
15	え3	31×20.5		114	な20	<44×16>	
16	う3	<44×18>		115	ほ21	<104×36>	テラスあり。10YR2/3
17	う3	34×11.5		116	ほ22	(89×16)	10YR2/3
18	う2	40×46	H4を切る。10YR2/3・10YR3/3・10YR3/1	117	ほ22	88×17	10YR2/3
20	け6	<46×47>	テラスあり。M3のホリ方で出た。	118	ほ22	<50×38.5>	10YR2/3
21	そ11	88×43	10YR3/3・10YR4/3	119	ひ22	<71×13.5>	10YR2/2
22	そ11	48×26.5	10YR2/2・10YR3/2・10YR3/4	120	ひ22	36×35	10YR2/1
23	そ11	48×34.5	10YR2/2・10YR3/2・10YR3/4	121	ひ 21・22	31×17	10YR2/2
24	そ11	42×13	10YR2/2	122	ひ 21	51×43	10YR2/2
25	た11	78×74	攪乱か? 10YR4/2・10YR4/3・10YR3/2・10YR2/2・10YR4/4・10YR5/4	123	ひ 21	<46×39.5>	テラスあり。10YR2/2
26	た14	26×18	10YR3/1・10YR3/2・10YR4/3	124	へ22	50×27.5	10YR2/1
27	た15	25×11	10YR3/1・10YR3/2・10YR4/3	125	へ22	53×19	10YR2/1
28	た15	46×13	10YR3/1	126	へ22	<66×16>	10YR2/1
29	た15	34×12	10YR3/1	127	ほ22	51×27.5	テラスあり。10YR2/1
30	そ14	<68×36>	D10に切られる。10YR3/1・10YR3/3・10YR4/3	128	ほ22	60×34	10YR2/2
31	た14	<107×24>	M7に切られる。10YR3/1	129	ほ23	50×49.5	テラスあり。10YR2/2
32	そ15	<72×7.5>	D10に切られる。10YR3/1	130	ま22	30×11	10YR2/1
33	た12	<88×83>	M4に切られる。	131	ほ・ま 23	96×32.5	石核。10YR2/3
34	そ12	<94×75>	M4に切られる。(?)	132	み23	41×35	10YR3/3
35	た16	<63×32>		133	み23	46×37.5	10YR3/3
36	た16	47×22		134	み23	73×28	10YR3/3
37	た16	54×43		135	ほ23	43×31	10YR2/2
38	た16	52×48	縄文後期深鉢。P194を切る。	136	へ22	34×43	10YR2/2
39	た16	45×32.5		137	ま23	50×15.5	10YR2/2
40	た17	82×22	縄文土器。テラスあり。	138	ま23	<50×29.5>	10YR2/2
41	た17	41×36	D12を切る。	139	ま23	34×15	10YR3/1
42	ち17	34×14		140	む24	56×23	10YR3/1
43	た17	64×20		141	む24	<63×24>	10YR3/1
44	ち17	<74×19>		142	む24	55×12	10YR3/1
45	ち17	<58×73.5>	縄文深鉢。	143	ぬ24	73×26	打製石斧。10YR3/1
46	た17	54×41	P139を切る。	144	む 24・25	<52×22>	10YR3/1
47	ち17	47×25		145	ぬ25	58×37	10YR3/1
48	ち17	46×34		146	む24	<44×32>	D23を切る。
49	ち19	<66×26.5>		147	ぬ25	<74×50>	10YR2/2
50	つ19	49×17	縄文深鉢。	148	ぬ27	<47×44.5>	H7を切る。
51	つ19	104×29	縄文土板・テラスあり。	149	ぬ28	44×27	
52	つ19	66×27		150	ぬ28	42×27.5	D29を切る。
53	つ19	48×18		151	ぬ28	43×25	ホリ方より確認。テラスあり。
54	た18	<73×44>	M8に切られる。	152	む24	72×30	
55	ち18	40×22	須恵器坏。	153	ぬ69	91×43	弥生土器・甕。テラスあり。H13・H16を切る。10YR2/2・10YR4/3・10YR7/6
56	つ19	40×39	土器片円板。	154	ぬ67	70×83	土師器・坏。10YR3/1・10YR5/4・10YR2/3
57	つ19	25×39	方形。畑方斜める。P58に切られる。	155	ひ68	<62×52>	10YR3/1・10YR5/4
58	つ19	51×26	テラスあり。P57を切る。	156	ひ68	56×36	H16を切る。10YR3/1・10YR6/6
59	つ19	52×31.5		157	ひ70	29×41.5	
60	つ19	<56×27>	P65を切る。	158	ひ70	<54×55>	
61	て19	51×30.5		159	ぬ60	69×34.5	テラスあり。H23の西壁を破壊。10YR3/1・10YR5/4・10YR2/3・10YR3/3・10YR4/3
62	つ18	84×30.5		160	ぬ57	<71×27.5>	テラスあり。D40に切られる。10YR3/3・10YR2/1
63	つ18	70×8		161	ぬ64	<32×36>	H22を切り、H21に切られる。10YR4/4・10YR5/6
64	つ18	51×13.5		162	ぬ64	<43×31>	H22を切り、H21に切られる。10YR3/4
65	て19	<47×23>	P60に切られる。	163	ぬ64	44×18.5	P164を切る。磨石。
66	つ18	47×19.5	縄文深鉢。	164	ぬ64	<48×28.5>	P163に切られる。
67	つ19	27×6		165	ひ55	<46×20.5>	
68	つ18	92×19.5		167	ぬ64	26×30	H22を切る。
69	て 18・19	<44×28>	テラスあり。	168	ぬ54	111×65	テラスあり。磨石。10YR3/4
70	て19	41×22		169	ぬ54	58×66	10YR3/4
71	て19	57×35	テラスあり。	170	ぬ54	62×46	10YR3/4
72	て19	29×16		171	み44	58×33.5	H35を切る。
73	て19	<64×16>	J字状。	172	ぬ38	<56×44>	縄文深鉢・炭。
74	て19	58×45		173	ぬ37	76×47	F5P2へ変更。テラスあり。P185に切られる。10YR3/2・10YR6/4・10YR4/3・10YR3/4
75	と19	<72×21>	P76と切り合い。テラスあり。	174	み37	<52×53>	10YR3/2・10YR4/3・10YR6/4
76	な19	34×12	P75と切り合い。	175	み37	43×26	F5P1へ変更。10YR3/2・10YR6/4
77	と19	48×15		176	み37	<57×46>	テラスあり。10YR3/2・10YR3/1・10YR4/3・10YR6/4
78	な19	81×31		177	ぬ38	60×26	F5P6へ変更。台石片。10YR3/2・10YR6/4
79	な20	55×8		178	ぬ38	59×18	F5P3へ変更。10YR3/2・10YR6/4
80	な20	82×22.5	縄文土器。	179	み38	<59×14>	10YR3/2・10YR6/4
81	な20	61×30	黒色・坏。	180	み38	<80×21>	10YR3/2・10YR6/4
82	な20	34×14		181	み39	46×14	F5P4へ変更。10YR3/2・10YR6/4
83	な20	30×10		182	み38	<34×20>	F5P5へ変更。10YR3/2・10YR6/4
84	と20	<37×12>		183	み37	51×25	10YR3/2・10YR6/4
85	と20	106×24	テラスあり。	184	み37	48×23	10YR3/2・10YR6/4
86	と20	99×31	テラスあり。	185	ぬ37	<52×34>	H46とP173を切る。10YR5/6
88	な20	53×26		186	ぬ32	48×20	M15に切られる。10YR3/1褐色土ブロック少量。
89	な20	65×42	テラスあり。	187	ぬ32	46×38	M15に切られる。テラスあり。10YR3/1褐色土ブロック少量。
90	に20	64×14.5	D15を切る。	188	ち18	68×39	M8に切られる。
91	に20	78×83	テラスあり。	189	ち18	30×17	
92	に20	90×37	縄文土器。テラスあり。	190	ち18	36×25	
93	な20	<52×33>	P94を切る。	191	ち18	38×27	新旧不明。Ta1に付属するものか?
94	な20	<63×24>	P93・P95に切られる。	192	み38	<40×8>	P180に切られる。
95	な20	<84×66>	縄文深鉢。P94を切る。テラスあり。	193	た17	80×31	P46に切られる。テラスあり。
96	た17	47×47		194	た16	46×39	P38に切られる。
97	に20	38×14					
98	に20	52×28					
99	に20	50×10.5					



第161図 西近津遺跡V調査全体図

第IV章 西近津遺跡V

第1節 竪穴住居址



第162図 H1号住居址及び出土遺物

第94表 H1号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様		推定値()残存値< >丸底・備考	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面		
1	土師器	坏	(14.4)	(5.5)	5.2	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→切り離し方法不明 底部外周回転ヘラケズリ	回転実測	No.5、No.6、Ⅱ区
2	土師器	坏	(16.2)	6.7	5.3	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→回転糸切り	回転実測	Ⅰ区
3	土師器	坏	-	6.7	-	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→回転糸切り	回転実測	Ⅰ区
4	土師器	坏	(8.1)	-	-	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転実測	Ⅱ区、Ⅱ区ホリ方
5	須恵器	坏	(14.1)	7.1	4.3	ロクロナデ	ロクロナデ→回転糸切り	回転実測	No.3
6	須恵器	坏	(13.2)	(7.1)	4.3	ロクロナデ	ロクロナデ→糸切り	回転実測※墨書あり	Ⅰ区
7	土師器	武蔵甕	(9.5)	-	-	横ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区、一括
8	土師器	武蔵甕	(9.7)	-	-	横ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区
9	須恵器		(23.8)	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	Ⅰ区、Ⅱ区、一括
No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見		出土位置
10	磨・敲石		16.1	14.6	5.4	2170.00	上下端部に敲打痕 正面にすり面		

(1) H1号住居址

チ・ツ-32・33Grにあり、H3・OT1を切る。カマドは東壁南隅にあり、礫を芯材とし粘質土で被覆し構築されたとみられる。柱穴等は検出されない。床は僅か凹凸があるが堅く硬質化している。第162図1と5が、カマド付近床面から出土した。

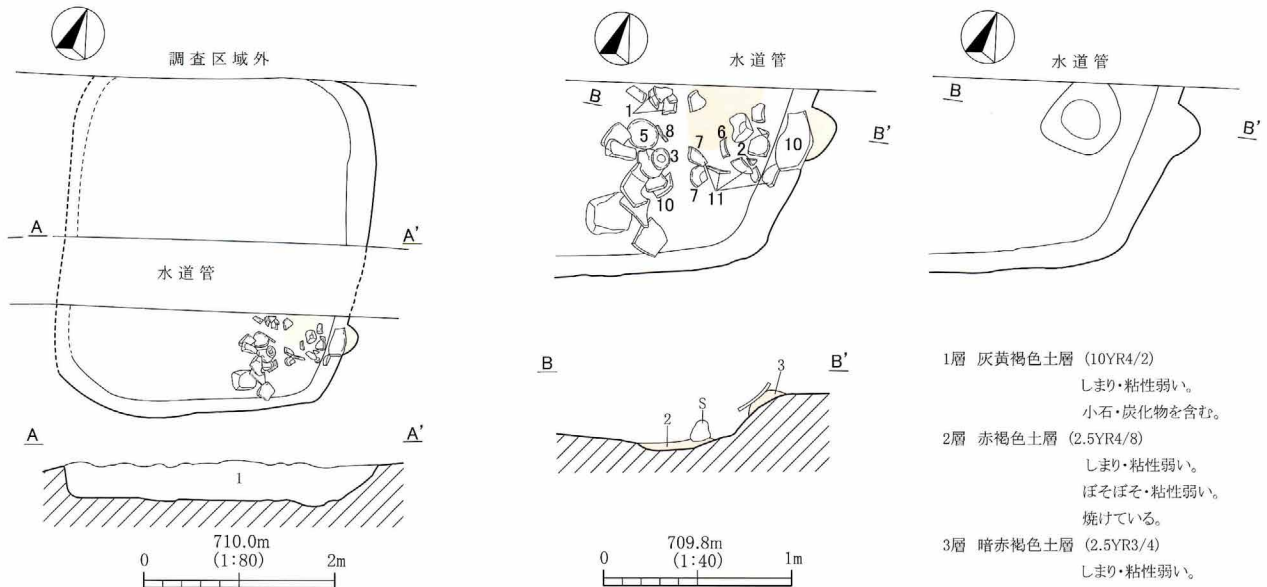
遺物は土師器坏1～4、土師器甕7・8、須恵器坏5・6、須恵器甕9、磨面持つ敲石10が出土した。土師器坏1～4は、内面黒色処理される。土師器坏2・3、須恵器坏5・6の底部は回転糸切り。土師器坏1は底部外周回転ヘラケズリされる。須恵器坏6は、墨書がみえる。7・8は土師器武蔵甕で、「コ」字口縁部を持ち、胴部に最大径がある。

本址は、これらの遺物から小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代VI期-9世紀後半に位置づけられる。

(2) H2号住居址

タ-30、チ-30・31Grにあり、H4・H5を切る。カマドは東壁南隅にあり、礫を芯材とし構築されたとみられる。支脚石が残る火床と煙道の一部が残存するのみである。礫が火床付近に散在する。柱穴等は検出されない。床は平坦で堅く硬質化している。第164図1～8・10・11が、カマド火床や火床前面の床面から集中して出土した。

遺物は土師器坏1・2、土師器高台皿3、土師器蓋4、土師器甕8・9、須恵器坏5～7、須恵器甕

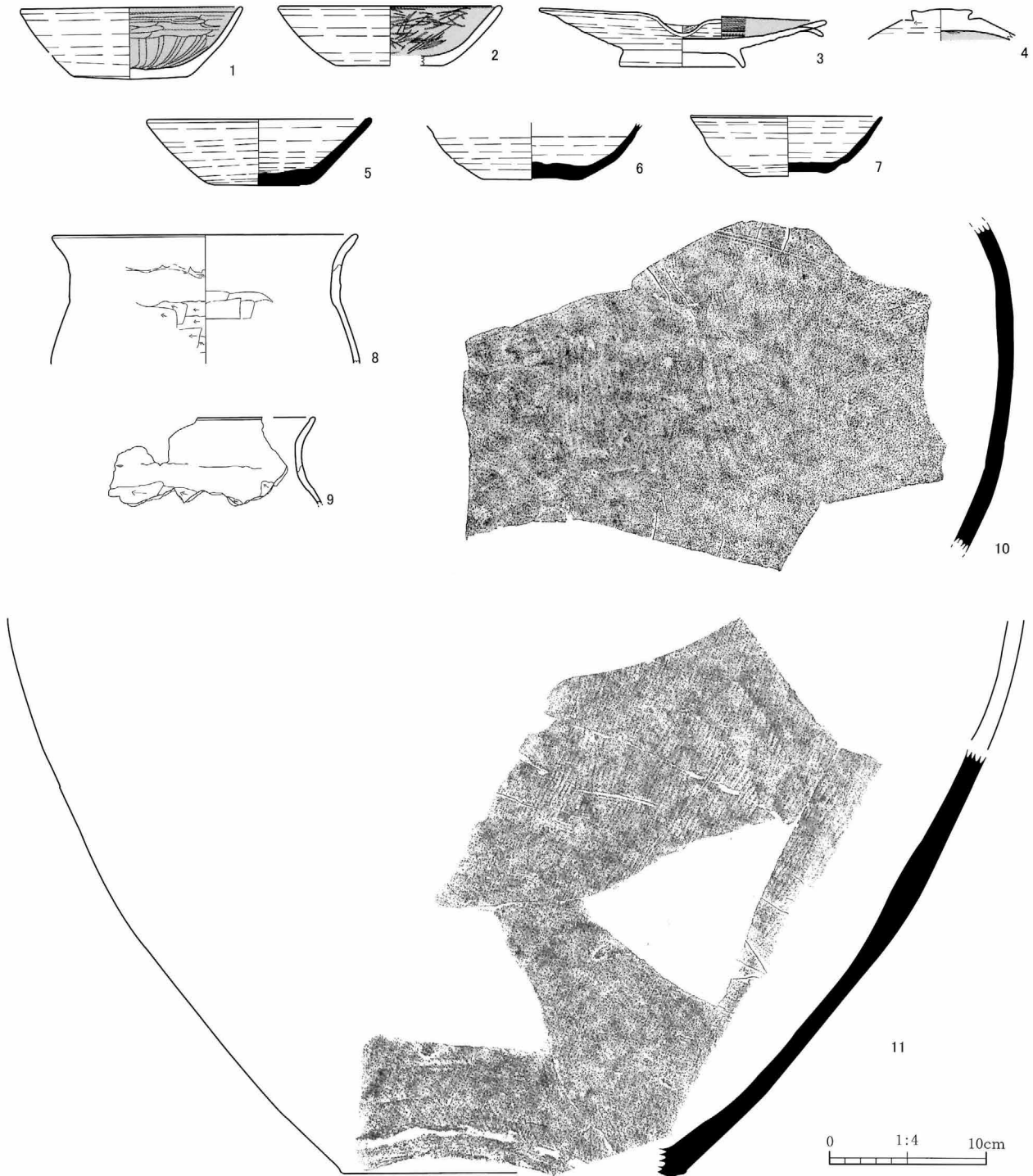


第163図 H2号住居址(1)

第95表 H2号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様		推定値()残存値< >丸底・	
			□径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面		
1	土師器	坏	14.2	7.3	4.6	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部右回転糸切り	完全実測	Ⅱ区、No.10
2	土師器	坏	14.5	7.0	3.8	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部手持ちヘラケズリ	回転実測	No.6
3	土師器	高台皿	18.4	7.9	3.7	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部静止糸切り→付高台口縁部輪花	完全実測	Ⅱ区、No.3
4	土師器	蓋	-	-	-	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→天井部回転ヘラケズリ	完全実測	カマド
5	須恵器	坏	14.6	6.6	4.25	ロクロナデ	ロクロナデ→底部右回転糸切り	完全実測	No.2
6	須恵器	坏	-	6.4	<3.6>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部右回転糸切り	完全実測	Ⅱ区、No.12
7	須恵器	坏	12.4	5.2	3.9	ロクロナデ	ロクロナデ→底部右回転糸切り	完全実測	I区、Ⅱ区、No.1
8	土師器	武蔵甕	19.8	-	-	口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ	口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	回転実測	No.11
9	土師器	甕	-	-	-	口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ	口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	破片実測	Ⅱ区
10	須恵器	甕	-	(22.4)	<36.0>	ナデ	タタキ目	回転実測	No.4、No.7、Ⅱ区、一括
11	須恵器	甕	-	-	-			断面実測	No.7

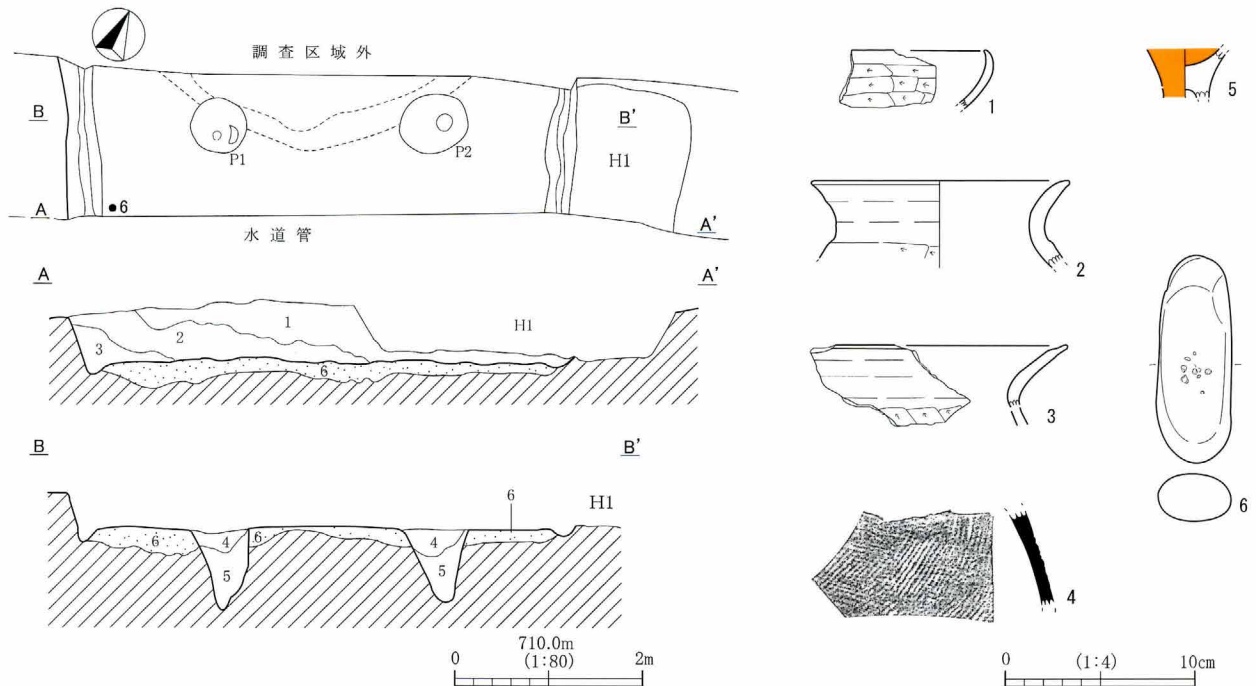


第164図 H2号住居址(2)

10・11が出土した。

土師器1～4は内面黒色処理される。3は片口を有する。土師器坏1と須恵器坏5～7の底部は回転糸切り、土師器坏2は底部手持ちヘラケズリされる。8・9は土師器武蔵甕で、「コ」字口縁部を持ち胴部に最大径がある。

本址は、これらの遺物から小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代VI期- 9世紀後半に位置づけられる。



- 1層 黒褐色土層(10YR3/2)しまりややあり。粘性弱い。黄色の軽石を多量に含む。
 2層 暗褐色土層(10YR3/3)しまり・粘性弱い。小石を多量に含む。
 3層 暗褐色土層(10YR3/4)しまり・粘性弱い。黄色ロームブロックを多量に含む。
 4層 黒褐色土層(10YR3/1)しまり・粘性弱い。軽石を含む。
 5層 黄褐色土層(10YR5/8)しまりややあり。粘性弱い。黒色土とローム土の混合土。
 6層 暗褐色土層(10YR3/4)しまり・粘性ややあり。黒色土とローム土の混合土。上面硬質化。

第165図 H3号住居址

第96表 H3号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様		推定値()残存値<>丸底・	
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	備考	出土位置
1	土師器	坏	-	-	<3.1>	ナデ	ヘラケズリ	破片実測	I区
2	土師器	甕	(13.6)	-	<4.6>	口縁ヨコナデ	口縁クロナデ 胴部ヘラケズリ	回転実測	I区
3	土師器	甕	-	-	<4.2>	ナデ	口縁ヨコナデ 胴部ヘラケズリ	破片実測	I区
4	須恵器	甕	-	-	-		タタキ目	断面実測	I区
5	弥生	高坏	-	-	<2.6>	坏部ヘラミガキ→赤彩 脚部ナデ	ヘラミガキ→赤彩	完全実測	I区
No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見		出土位置
6	磨・敲石?		11.0	4.1	2.5	176.07	被熱あり? (正面黒化) 全体に滑らか すりか? 正面中央は敲打痕		

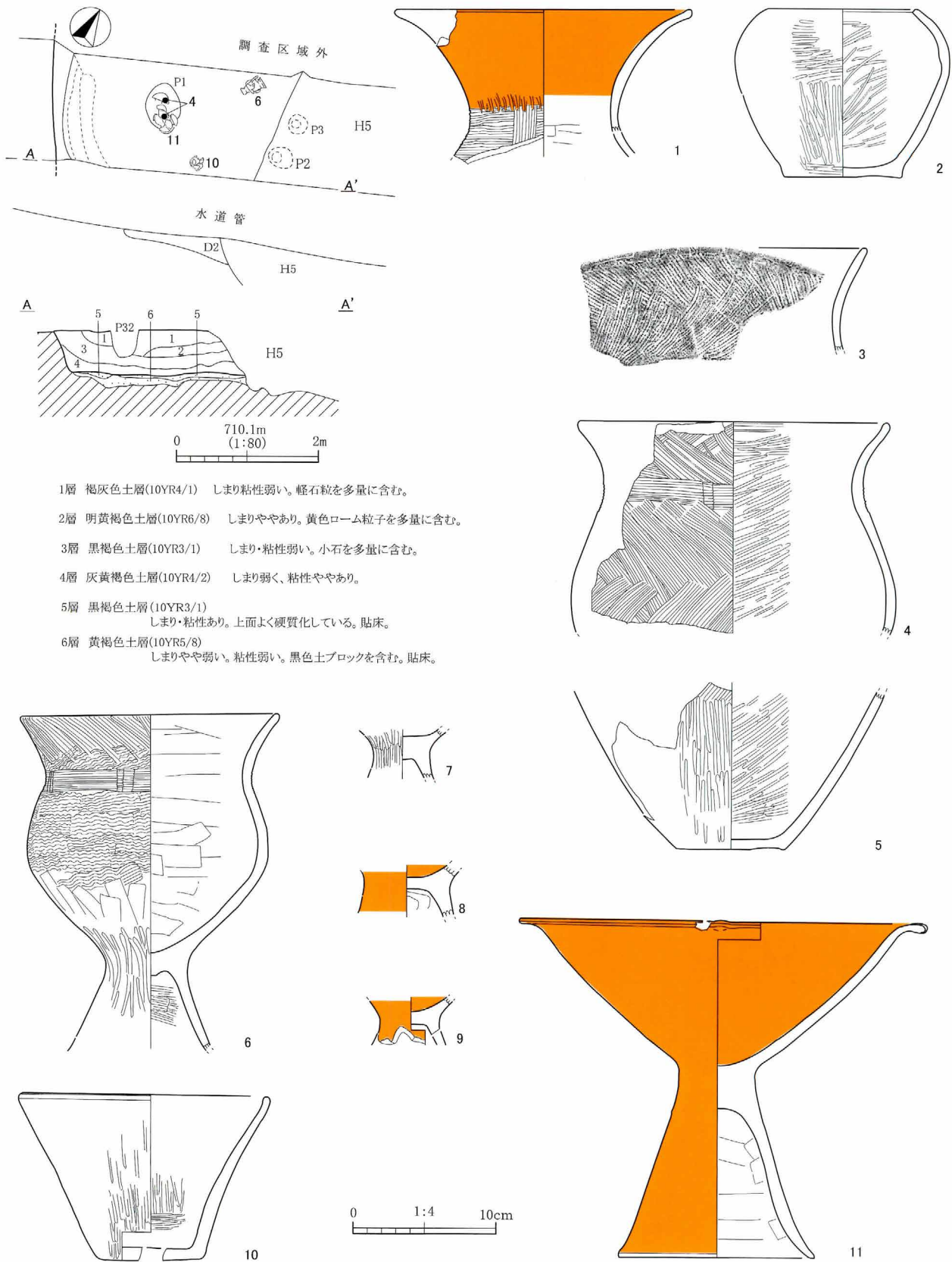
(3) H3号住居址

チ-33、ツ-33・34Grにあり、H1に切られ、OT1を切る。カマドは調査範囲内にはみられない。床は平坦で堅く硬質化している。支柱穴P1・P2間は、240cmを測る。東壁・西壁下に壁溝が巡る。遺物は土師器坏1、土師器甕2・3、須恵器甕4、敲石であろう6、混入遺物である弥生時代後期の赤彩される高坏が覆土中から出土した。本址の時期は、遺物少量で判然としないが、1の半球状の土師器坏、「く」の字口縁の土師器甕3から8世紀初頭であろうか。

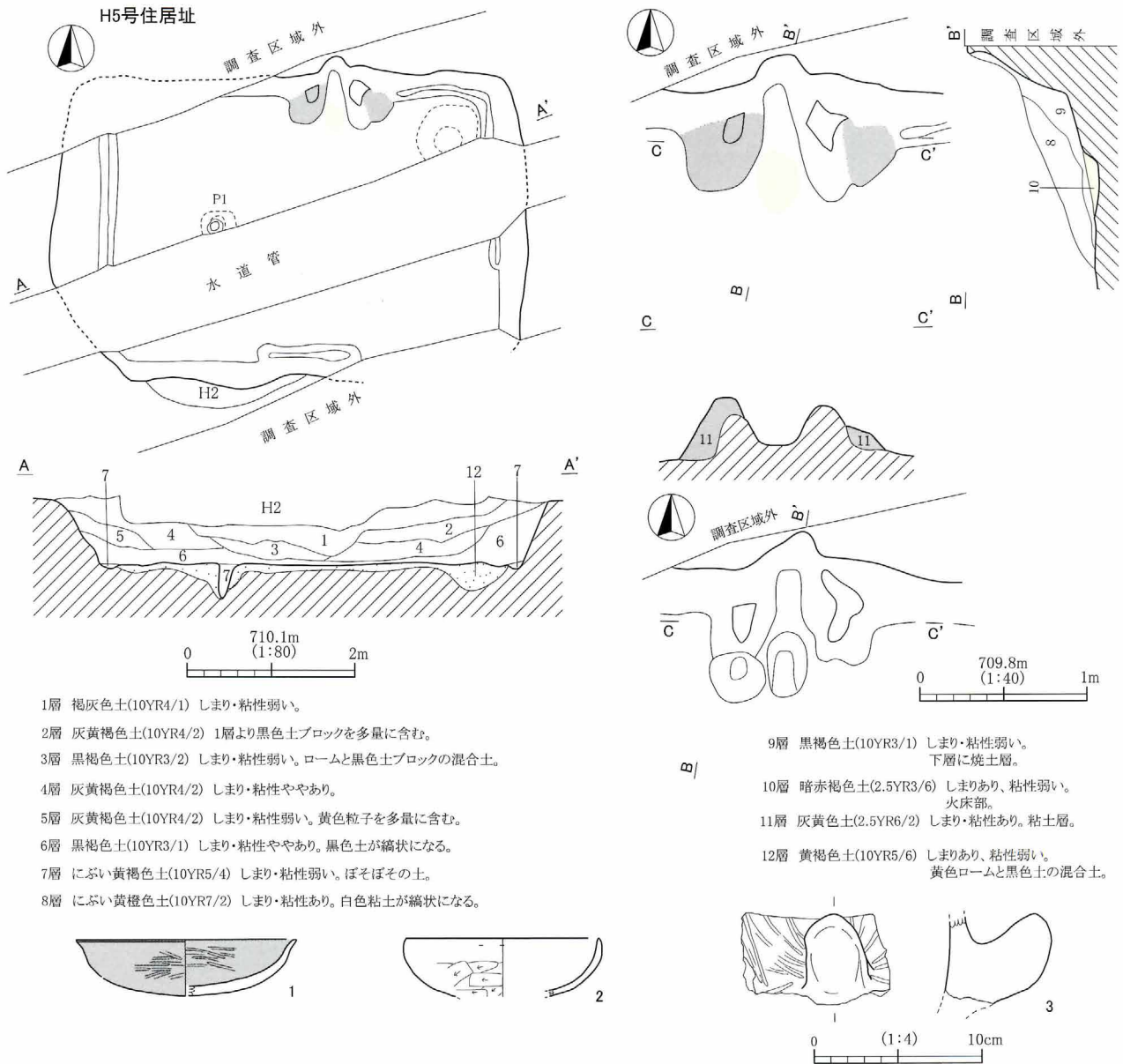
(4) H4号住居址

チ-31・32Grにあり、H2・P32・P33に切られる。D2砵の重複関係は、不明である。炉址は調査範囲内にはみられない。柱穴は3個検出された。P1はテラスを持ち、79cmを測る深さである。床は平坦でよく硬質化している。遺物は、壺1・2、甕3~5、台付甕6・7、高坏8・9・11、甗10の弥生土器、覆土からシカの臼歯片が出土した。4はP1、1はP2、6・10は床面から出土した。1の壺は赤色塗彩され、頸部櫛描T字文が施される。2は無彩の無頸壺である。4の甕は、口縁部横位羽状の櫛描斜走文、頸部櫛描簾状文、胴部横位羽状の櫛描斜走文の順で施文される。6の台付甕は、胴部櫛描波状文、頸部簾状文、最後に口縁部櫛描斜走文が施される。6は口縁部屈曲し鏢状に開く高坏で、内外面赤色塗彩される。

これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。



第166図 H4号住居址及び出土遺物



第167図 H5号住居址及び出土遺物

第97表 H5号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様		推定値()残存値< >丸底・	
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	備考	出土位置
1	土師器	坏	(13.0)	-	<3.4>	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ→黒色処理	完全実測	II区
2	土師器	坏	(11.6)	-	<3.5>	ヨコナデ	ヘラケズリ	回転実測	I区
3	土師器	甌				ヘラミガキ	ヘラミガキ	破片実測	I区

(5) H5号住居址

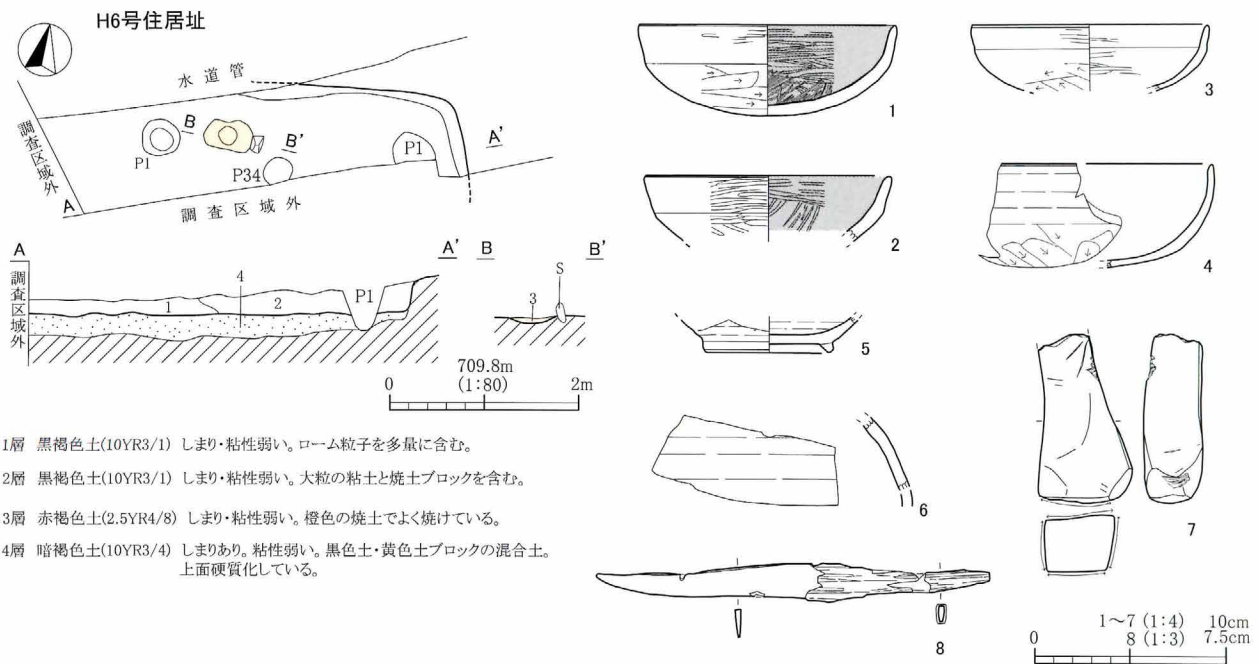
タ・チ-30Grにあり、H2に切られ、D2を切る。カマドは北壁やや東寄りにあり、袖部地山削り出で、灰黄色の粘土で構築されている。袖部先端の小ピットは、礫を芯材としたことを窺わせる。径18cmの柱痕が確認されたP1の位置と、主軸が短い事から2本の主柱であろう。床は平坦である。壁溝がカマド東脇から東壁中央にかけてと南壁中央付近、西壁下にみられる。覆土1～6層は、人為埋土である。

遺物は、土師器坏1・2、土師器甌の把手片が図示できた。1は内外面黒色処理され、半球状で口縁部が短く外反する。本址の時期は、遺物少量で判然としないが、古墳時代後期7世紀代であろうか。

第98表 H4号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法 量			成形・調整・文様		推定値()残存値<>丸底・	備 考	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面			
1	弥生	壺	(20.4)	-	<10.3>	口縁部ヘラミガキ→赤彩 頸部ナデ	頸部櫛描横線文 櫛描垂下文 口縁部ヘラミガキ→赤彩	完全実測	P2	
2	弥生	壺	(10.3)	8.1	11.8	ヘラミガキ	ヘラミガキ 底部ヘラミガキ	完全実測	No.4	
3	弥生	甕	-	-	-	櫛描斜走文	断面実測		I区	
4	弥生	甕	(21.4)	-	<14.8>	ヘラミガキ	頸部櫛描麻状文 口縁、胴部櫛描斜走文	回転実測	No.4、No.5	
5	弥生	甕?	-	7.6	<11.1>	ヘラミガキ	櫛描斜走文? 下部ヘラミガキ 底部ヘラミガキ	完全実測	No.4、No.5	
6	弥生	台付甕	17.9	-	23.5	胴部ヘラミガキ 脚台部ハケ目	口縁部櫛描波状文→櫛描斜走文 胴部櫛描波状文 頸部櫛描麻状文 下半部ヘラミガキ→ヘラミガキ	完全実測	No.3	
7	弥生	台付甕	-	-	<3.5>	胴部ヘラミガキ 脚台部ナデ	ヘラミガキ	完全実測	I区	
8	弥生	高坏	-	-	<3.6>	坏部ヘラミガキ→赤彩 脚部ナデ	ヘラミガキ→赤彩	完全実測	H4	
9	弥生	高坏	-	-	<3.3>	坏部ヘラミガキ→赤彩 脚部ナデ	ヘラミガキ→赤彩	完全実測 透かし3ヶ所	I区	
10	弥生	甕	17.0	7.2	11.7	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測 1孔	No.2、I区	
11	弥生	高坏	28.2	13.6	23.8	坏部ヘラミガキ→赤彩 脚部ナデ	ヘラミガキ→赤彩	完全実測 突起あり	No.1、I区	

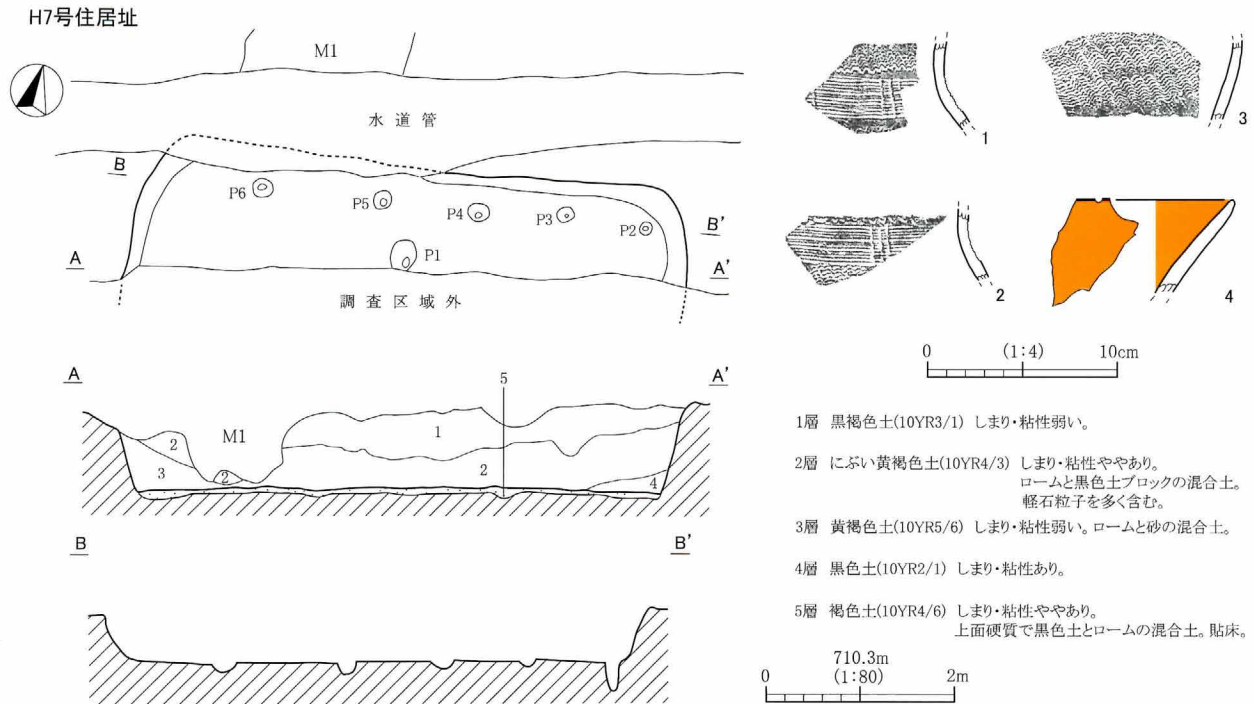


第168図 H6号住居址及び出土遺物

第99表 H6号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法 量			成形・調整・文様		推定値()残存値<>丸底・	備 考	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面			
1	土師器	坏	(13.6)	(13.0)	4.8	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ・ヘラケズリ	回転実測		
2	土師器	坏	(13.0)	(12.2)	<3.5>	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ	回転実測		
3	土師器	坏	(12.4)	(12.2)	<3.5>	ヘラミガキ	ヘラミガキ→ヘラケズリ	回転実測		
4	土師器	坏	-	-	-	ヘラミガキ	ロクロナデ→ヘラケズリ	破片実測		
5	灰釉陶器	碗	-	7.8	<1.8>	ロクロクナデ	ロクロクナデ→底部切り離し後高台貼付→灰釉施釉	完全実測		
6	灰釉陶器	壺	-	-	-	ロクロクナデ	ロクロクナデ→灰釉施釉	破片実測		
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見		出土位置	
7	砥石		<9.0>	<5.0>	<3.0>	<184.14>	上部欠損、砥面数5、右側の稜上と下部に条痕			
8	刀子	金属製品	15.5	1.5	0.6	<15.84>	ほぼ完形、基部に木質残る		P1	



第169図 H7号住居址及び出土遺物

第100表 H7号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様		推定値()残存値< >丸底・	
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	備考	出土位置
1	弥生	甕	-	-	-	ヘラミガキ	櫛描波状文、櫛描簾状文	断面実測・拓本	
2	弥生	甕	-	-	-	ヘラミガキ	櫛描波状文、櫛描簾状文	断面実測・拓本	
3	弥生	甕	-	-	-	ヘラミガキ	櫛描波状文	断面実測・拓本	
4	弥生	高坏	-	-	-	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	破片実測	

(6) H6号住居址

ツ-33・34、テ-34Grにあり、P1・P34に切られ、OT1を切る。埋め込まれた礫がある焼土の堆積がP1の東脇から検出された。この付近の覆土には、粘土と焼土ブロックがみられカマドの火床であろう。床は平坦で堅く硬質化している。覆土土1・2層は人為埋土である。8の刀子はP1から出土。

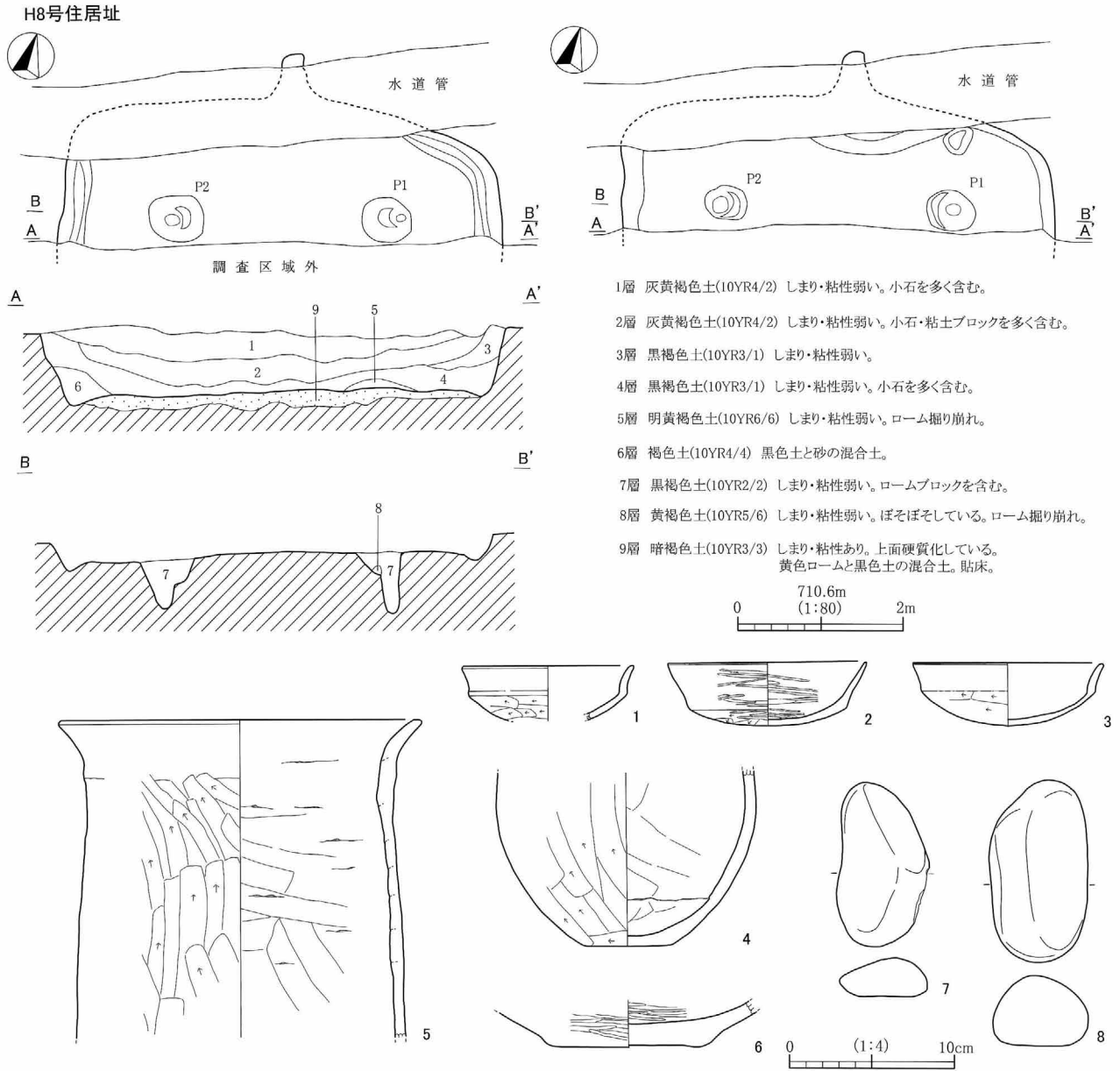
遺物は土師器坏1～4、砥石7、茎部に木質が残存する刀子8、混入遺物の灰釉陶器碗5・壺6がある。1～3は須恵器坏蓋模倣坏で、1・2は内面黒色処理される。4の坏は、丸みを帯びた平底から口縁部が直立する。

これらの遺物から本址の時期は、古墳時代後期7世紀代であろう。

(7) H7号住居址

タ-27～29、チ-28・29Grにあり、F1・M1・P14に切られる。炉は調査範囲には、検出されない。ピットは6個検出された。壁柱穴P2～P6は、北壁下に配列されている。径は16～34cmのほぼ円形で、深さは4.5～28cmを測る。楕円形で深さ55cmのP1は、位置的に棟持柱であろう。床面は、平坦で堅く硬質化している。覆土2層はロームと黒色土ブロックの混合土、3層はロームと砂の混合土で人為埋土である。遺物は、1～3の甕、内外面赤色塗彩される4の高坏がある。1・2は、口縁部・胴部櫛描波状文、頸部に櫛描簾状文が施される。2は櫛描波状文施文後頸部簾状文が施文される。

これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。



第170図 H8号住居址及び出土遺物

第101表 H8号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様		推定値()残存値< >丸底・	
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	備考	出土位置
1	土師器	坏	(10.4)	(9.6)	<3.3>	ナデ	ヘラケズリ、口縁ヨコナデ	回転実測	
2	土師器	坏	(12.0)	(9.4)	3.3	ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	
3	土師器	坏	(11.4)	(10.4)	3.8	ナデ	ヘラケズリ、口縁ヨコナデ	回転実測	
4	土師器	甕	-	(5.4)	<10.6>	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	
5	土師器	甕	(22.0)	-	<19.1	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	P1
6	弥生	甕	-	9.9	<2.8>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	P1
No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見		出土位置
7	編み物石		9.9	5.7	2.5	199.73	右側に摩滅した剥離痕。挟りか？		
8	編み物石		11.0	5.9	4.3	409.01			

(9) H 9号住居址

ス・セ-21・22Grにあり、H10を切る。カマドは調査範囲では確認されない。床はほぼ平坦で強く硬質化している。P1は深さ59cmで位置的にも支柱穴であろう。P2は、掘方から検出された。南壁・東壁・西壁下に壁溝が巡る。

遺物は土師器坏1・2、土師器鉢3、土師器甕4、須恵器高坏5、刀子6、長頸鏃7がある。4・6・7は掘方から出土。1・2とも半球状の坏で、1は内面黒色処理される。3の大型の鉢の内面黒色処理される。4は口縁部に最大径を持ち、長い胴部外面は、縦長にヘラケズリされる。

これらから、小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代I期-8世紀第1四半期に位置づけられる。

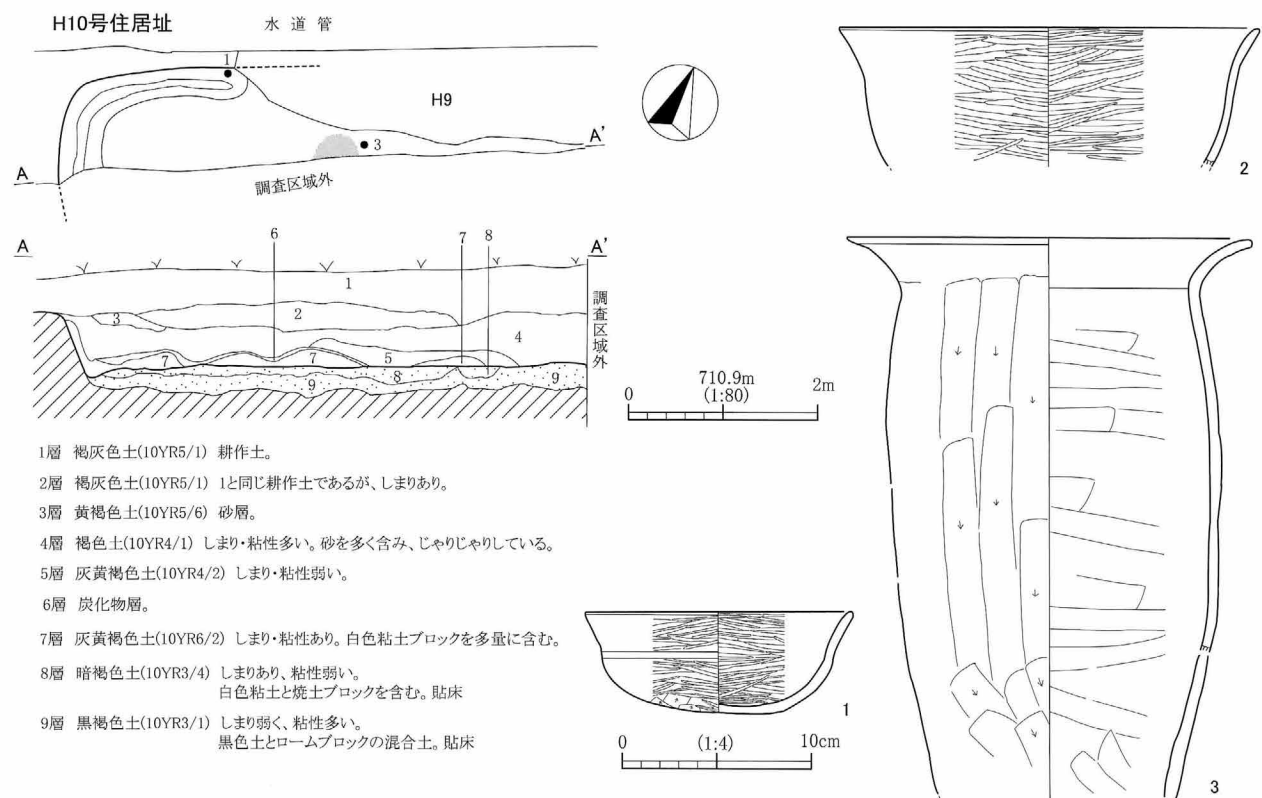
(10) H10号住居址

セ-21・22Grにあり、H9に切られる。カマドおよびピットは、調査範囲では確認されない。が、覆土7層に多量の白色粘土が含まれ、第172図3が出土した地点床面にまとまった白色粘土がみえ、北壁にカマドが存在したと想定できる。床はほぼ平坦で強く硬質化している。覆土7層の上部中央から西にかけて炭化物の堆積がみられた。南壁・東壁・西壁下に壁溝が巡る。

遺物は土師器坏1、土師器鉢2、土師器甕3がある。1は壁溝内、3は床面から出土。

1・2とも内面黒色処理される。1は須恵器坏蓋模倣の坏で、体部と口縁部の境に稜を有する。3は口縁部に最大径を持ち、長い胴部外面は、縦長にヘラケズリされる。

これらの遺物から、古墳時代後期7世紀代に位置づけられる。



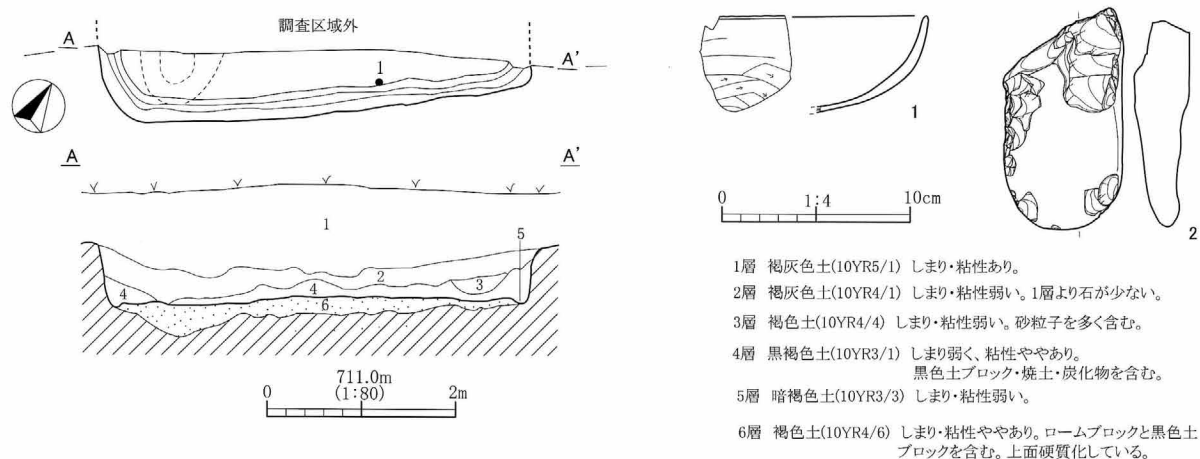
- 1層 褐灰色土(10YR5/1) 耕作土。
- 2層 褐灰色土(10YR5/1) 1と同じ耕作土であるが、しまりあり。
- 3層 黄褐色土(10YR5/6) 砂層。
- 4層 褐色土(10YR4/1) しまり・粘性多い。砂を多く含み、じゃりじゃりしている。
- 5層 灰黄褐色土(10YR4/2) しまり・粘性弱い。
- 6層 炭化物層。
- 7層 灰黄褐色土(10YR6/2) しまり・粘性あり。白色粘土ブロックを多量に含む。
- 8層 暗褐色土(10YR3/4) しまりあり、粘性弱い。白色粘土と焼土ブロックを含む。貼床
- 9層 黒褐色土(10YR3/1) しまり弱く、粘性多い。黒色土とロームブロックの混合土。貼床

第172図 H10号住居址及び出土遺物

第103表 H10号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法 量			成形・調整・文様		推定値()残存値< >丸底・	
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
1	土師器	坏	14.2	12.3	5.4	ヘラミガキ、黒色処理	ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全実測	No.1
2	土師器	鉢	(22.2)	-	<7.3>	ミガキ、黒色処理	ミガキ、黒色処理	回転実測	H10
3	土師器	甕	21.2	-	<29.8>	ヘラナデ	ヘラケズリ	完全実測	No.2



第173図 H11号住居址及び出土遺物

第104表 H11号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様		推定値()残存値< >丸底・	
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	備考	出土位置
1	土師器	坏	-	-	-	ヘラミガキ	ヨコナデ→ヘラケズリ	破片実測	
No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見		出土位置
2	敲き石		11.8	6.4	3.0	286.46	両側から敲打、上部の欠損も敲打によるものか		

(11) H11号住居址

セ-23Grにあり、カマドおよびピットは、調査範囲では確認されない。掘方の埋土にはロームブロックと黒色土ブロックが含まれる。この上面の床は、ほぼ平坦で強く硬質化している。南壁・西壁下に壁溝が巡る。覆土4層には、黒色土ブロック・焼土・炭化物が含まれる。

遺物は土師器半球状の坏1、敲石2がある。

遺物少量であるが本址の時期は、古墳時代後期であろうか。

(12) H12号住居址

ス-20GrにありH13に切られ、H17を切る。北壁中央のカマドは、灰白色の粘土と暗褐色の砂質土で構築されている。袖部先端は礫を芯材としこれらの構築土で被覆している。火床に横たわる横長の礫は、カマド媚石であろうか。床下の掘方埋土は、黄色ローム・黒色土ブロックの混合土で、上面の床は強く硬質化している。ピットは、検出されない。

遺物は土師器坏1・2、土師器甕3～6、須恵器短径壺7がある。1・3～5はカマドから出土。

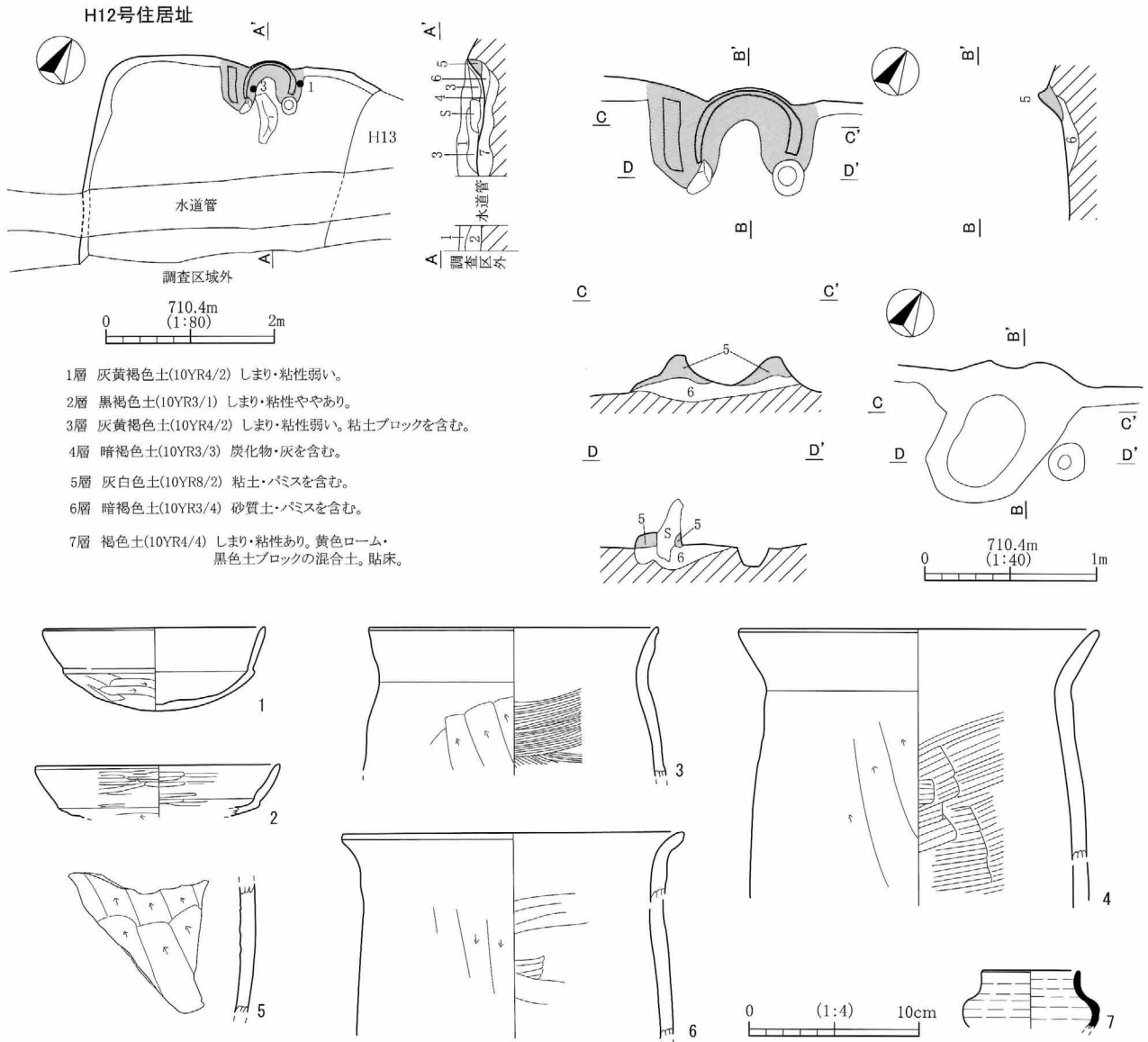
1・2は須恵器坏蓋模倣の坏で、体部と口縁部の境に段を有する。3・6は胴部に最大径を持ち、長い胴部外面は縦長にヘラケズリ、内面ハケメ調整される。

これらの遺物から本址の時期は、小林真寿の編年(2005聖原)古墳時代Ⅲ期-6世紀中葉～7世紀初頭に位置づけられる。

第105表 H12号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様		推定値()残存値< >丸底・	
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	備考	出土位置
1	土師器	坏	(13.0)	(11.8)	4.9	ヨコナデ	ヨコナデ→ヘラケズリ	完全実測	No1 カクラン
2	土師器	坏	(12.4)	(11.8)	<3.5>	ヘラミガキ	ヘラミガキ→ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区
3	土師器	甕	(17.0)	-	<8.6>	ヨコナデ→ハケメ	ヨコナデ→ヘラケズリ	回転実測	No2
4	土師器	甕	(21.2)	-	<16.4>	ヨコナデ→ハケメ	ヨコナデ→ヘラケズリ	回転実測	カマド、Ⅱ区
5	土師器	甕	-	-	-	ハケメ	ヘラケズリ	破片実測	カマド
6	土師器	甕	(20.0)	-	<12.2>	ハケメ→ヘラナデ	ヨコナデ→ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区 H14
7	須恵器	壺	(5.6)	-	<3.4>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	カクラン



第174図 H12号住居址及び出土遺物

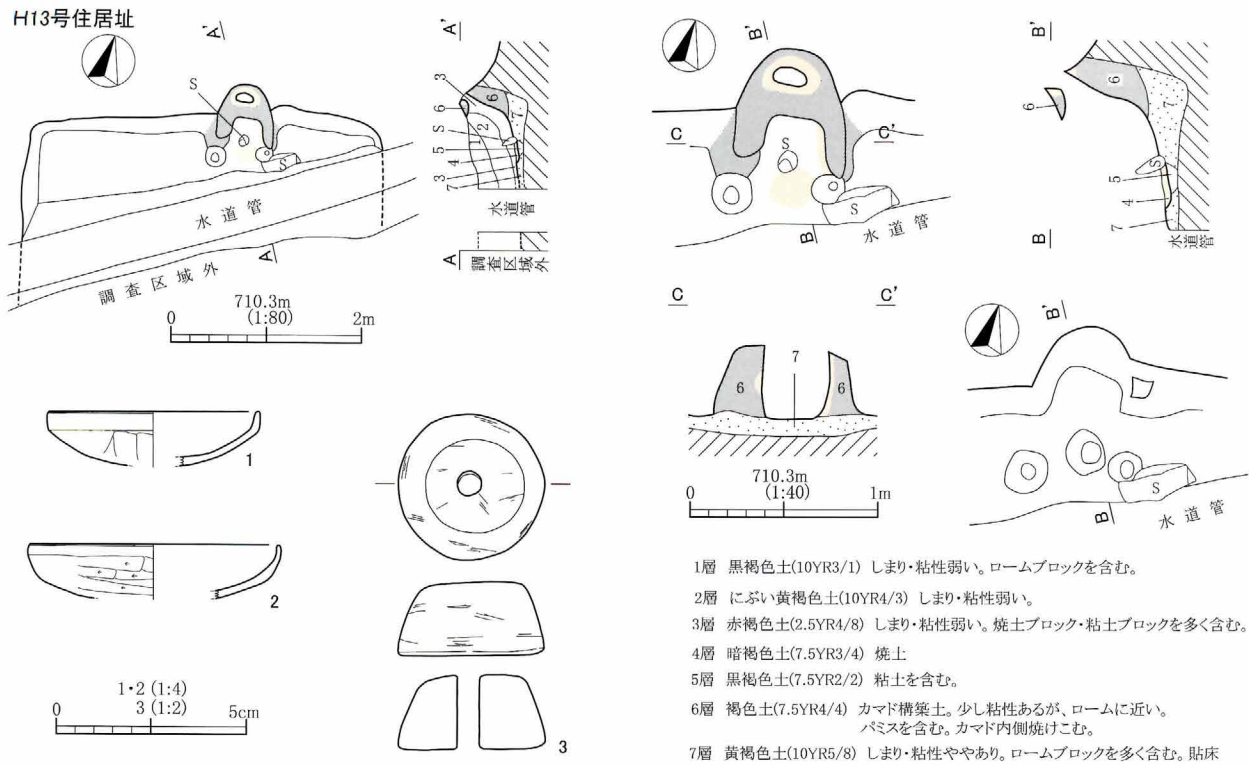
(13) H13号住居址

ス-20GrにありH13に切られ、H17を切る。北壁中央に設置されているカマドは、床下掘方の埋土7層の上面に少し粘性あるがロームに近い褐色土で構築されている。袖部先端の小ピットは、礫を芯材としたことを窺わせる。火床には、支脚石が残存する。斜上方に伸びる煙道部も一部原形を留めていた。煙道残存部の最上面は平面形が楕円形を呈し、長軸18cm短軸10cmを測る。煙道部の立ち上がりは、ほぼ垂直に近く壁の上端あたりで70度の傾斜で住居外上方に延びる。煙道部の内側・左右の袖部内側は、比熱でよく焼け込んでいる。火床にも焼け込みがみられる。

床下の掘方埋土は、ロームブロックを多く含む黄褐色土で、上面の床は堅く硬質化している。柱穴は、検出されていない。

遺物は土師器杯1・2、滑石製の紡錘車がある。1は須恵器杯身模倣杯で、体部と口縁部に稜を有し口縁部が直立する。2は半球状で口縁部内弯する。

これらの遺物から本址の時期は、小林真寿の編年(2005聖原)古墳時代IV期-7世紀代に位置づけられる。



第175図 H13号住居址及び出土遺物

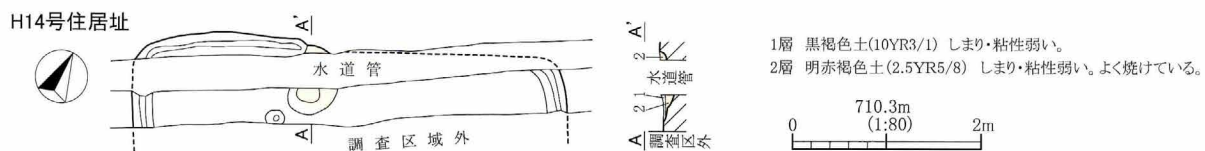
第106表 H13号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様		推定値()残存値< >丸底・	
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	備考	出土位置
1	土師器	坏	(11.2)	(11.0)	<2.9>	ナデ	口クロナデ 口縁ヨコナデ	回転実測	II区
2	土師器	坏	(13.2)	-	<2.9>	ナデ	口クロナデ 口縁ヨコナデ	回転実測	II区
No.	器種	素材	最大径	最小径	最大厚	重量	所見		出土位置
3	紡錘車	石製品	3.9	2.6	2	48.95	孔径0.6		北面コーナー 覆土

(14) H14号住居址

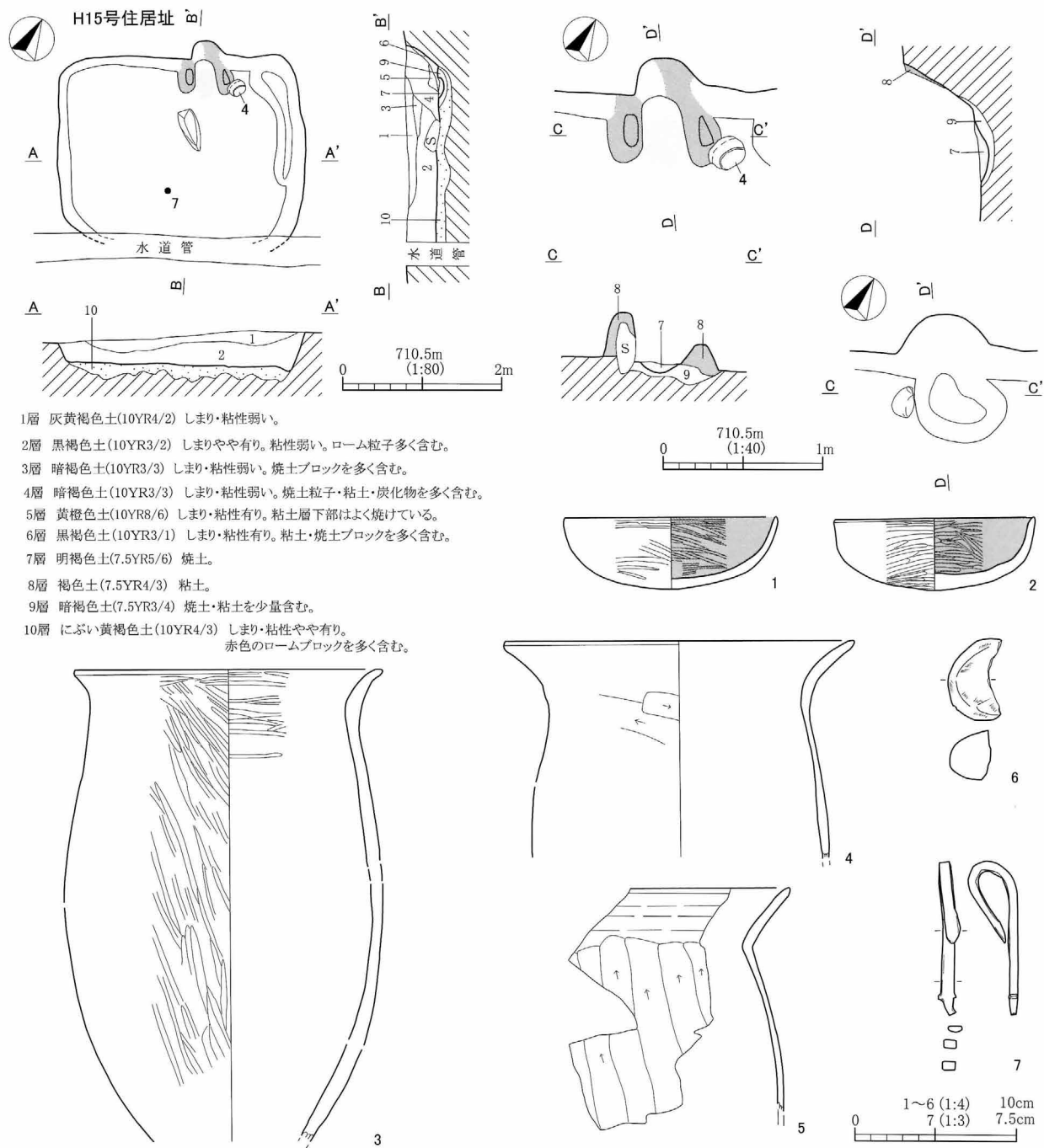
シ・ス-18Grにあ、H19を切る。北壁中央を通り東西に設置された水道管に、カマドの大半が破壊されている。北壁中央よりやや西寄りに床面から16cmの深さによく焼け込んだ部分があり、カマドの火床残存部とみられる。P1は柱穴としたら、カマドに近接しすぎである。北壁から西壁と東壁下を壁溝が巡る。床面はほぼ平坦である。本址の時期は、出土遺物が武蔵甕・須恵器坏小片のみであるが、H19を切っており古墳時代後期6世紀中葉から7世紀初頭以降の平安時代であろうか。



第176図 H14号住居址

(15) H15号住居址

サ・シ-17・18Grにあり、H19・D3を切る。北壁中央やや東寄りのカマドは、礫を芯材とし褐色の粘土で被覆し構築されている。カマド前方に横たわる横長の礫は、カマド媚石であろうか。火床はよく焼けている。覆土5層の粘土下部はよく焼けており、壊れたカマド構築土の一部とみられる。



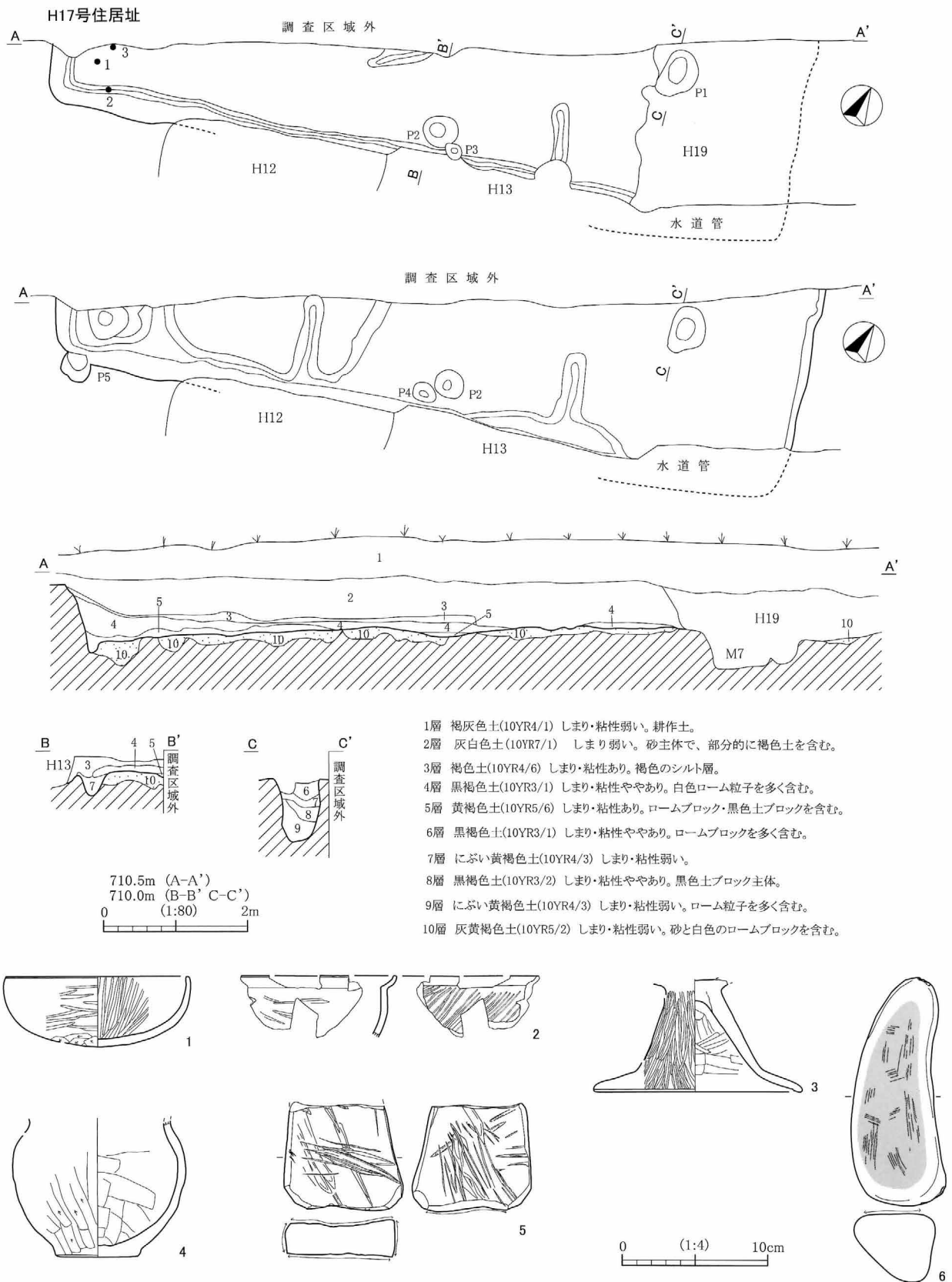
- 1層 灰黄褐色土(10YR4/2) しまり・粘性弱い。
- 2層 黒褐色土(10YR3/2) しまりやや有り。粘性弱い。ローム粒子多く含む。
- 3層 暗褐色土(10YR3/3) しまり・粘性弱い。焼土ブロックを多く含む。
- 4層 暗褐色土(10YR3/3) しまり・粘性弱い。焼土粒子・粘土・炭化物を多く含む。
- 5層 黄褐色土(10YR8/6) しまり・粘性有り。粘土層下部はよく焼けている。
- 6層 黒褐色土(10YR3/1) しまり・粘性有り。粘土・焼土ブロックを多く含む。
- 7層 明褐色土(7.5YR5/6) 焼土。
- 8層 褐色土(7.5YR4/3) 粘土。
- 9層 暗褐色土(7.5YR3/4) 焼土・粘土を少量含む。
- 10層 にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまり・粘性やや有り。赤色のロームブロックを多く含む。

第177図 H15号住居址及び出土遺物

第107表 H15号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法 量			成形・調整・文様		推定値()残存値< >丸底・
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	
1	土師器	坏	13.2	-	4.5	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ	完全実測 II区、一括
2	土師器	坏	12.4	-	4.6	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ	完全実測 I区
3	土師器	甕	19.4	-	<29.7>	ナデ→ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測 I区、II区、III区
4	土師器	甕	22.0	-	<13.7>	ナデ	ヨコナデ→ヘラケズリ	完全実測 No.1、カマド
5	土師器	甕	-	-	-	ロクロナデ→ヘラナデ	ロクロナデ→ヘラケズリ	破片実測 I区、II区
No.	器 種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見	出土位置
6	磨石	軽石	<5.1>	<3.4>	<3.0>	<26.54>	右側欠損 全体にすり	III区ホリ方
7	長頸鍬	鉄製品	7.2	0.8	0.5	10.25	ほぼ完形 折れ曲がる 棘状閃	No.3



第179図 H17号住居址及び出土遺物

第108表 H17号住居址出土遺物観察表

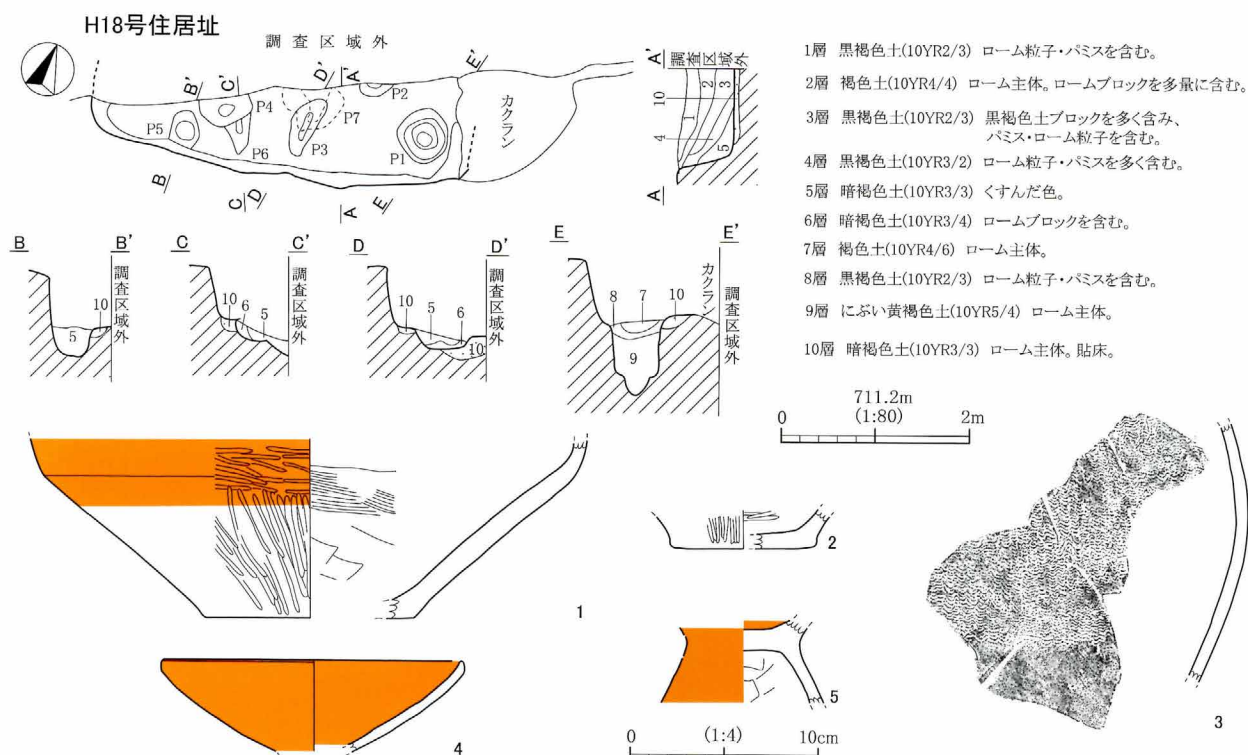
(cm)

No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様		推定値()残存値< >丸底・	
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	備考	出土位置
1	土師器	坏	(12.6)	-	<4.9>	暗文	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	東ハシ
2	土師器	坏	-	-	-	暗文	ヘラミガキ	破片実測	Ⅱ区、一括
3	土師器	高坏	-	(14.4)	<7.8>	ヘラナデ	ヘラミガキ	完全実測	No.1
4	土師器	甕	-	5.7	<9.7>	ヘラナデ	ヘラケズリ	完全実測	No.3

No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置
5	砥石		15.9	6.4	4.8	699.34	上下端部に敲打痕 正面に顕著なすり面	Ⅱ区
6	磨・敲石		<7.6>	<8.2>	<3.0>	<274.06>	上部欠損 砥面数5 正裏に条痕顕著	Ⅱ区

(18) H18号住居址

キ・ク-10・11Gr にあり住居址大半は、北側の調査区域外に延びる。ピットは6個検出された。P1は、南壁下床下から発見された。底面近くに1周するテラスを有し、深さ88cmと深い。位置的に貯蔵穴であろうか。対のP3・P4は、南壁中央下に位置し、入口施設の基礎と思われる。P5・P6も対をなしている。P2は、配置場所から支柱穴とみられる。床面は平坦で堅く締まる。覆土2～5層は、人為埋土であろう。遺物は、1の外面胴部赤色塗彩される壺、3の櫛描波状文施文される甕、内外面赤色塗彩の鉢4、坏部内外面・脚部外面赤色塗彩の高坏がある。多くの遺物が東側覆土から出土。これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

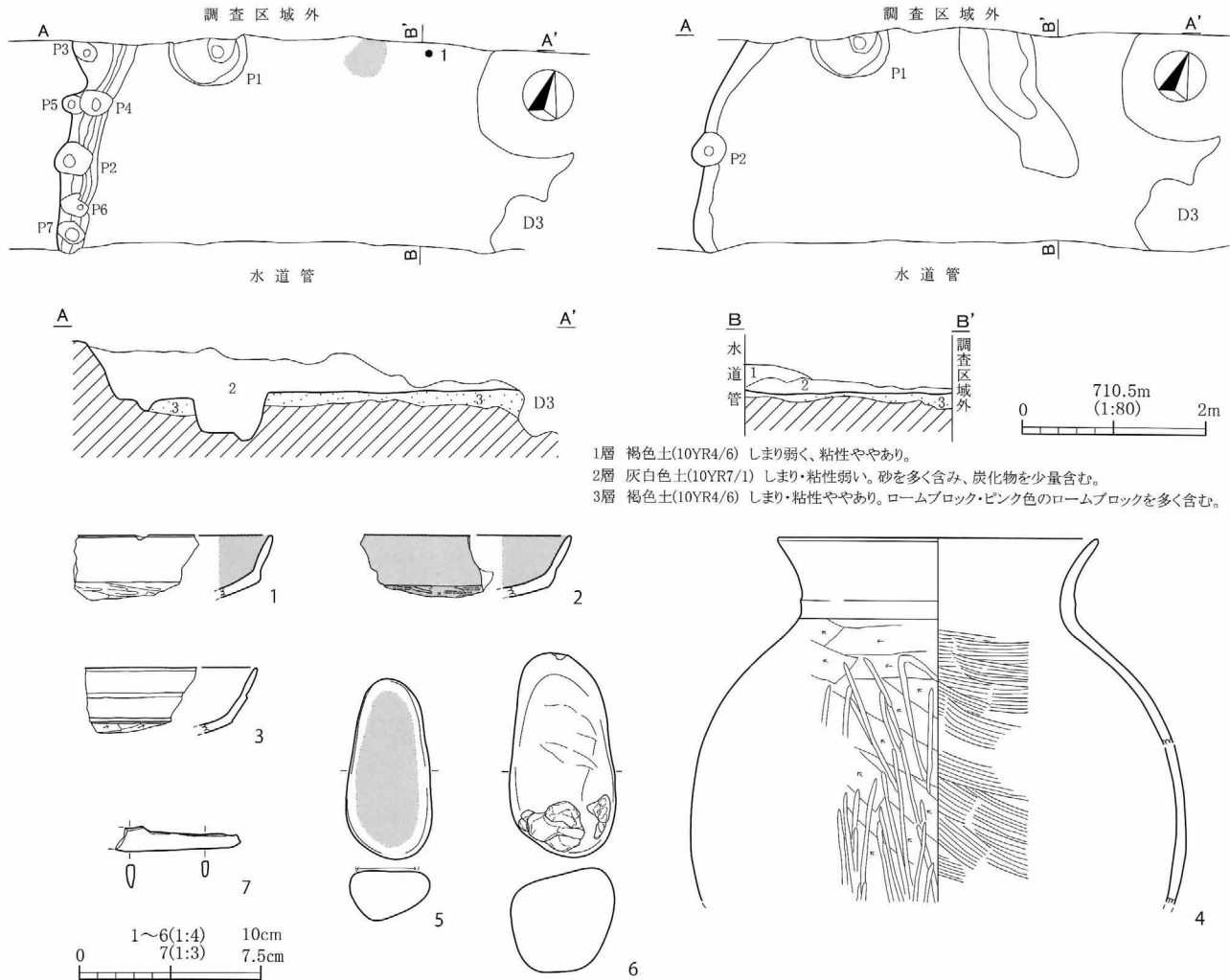


第180図 H18号住居址及び出土遺物

第109表 H18号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様		推定値()残存値< >丸底・	
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	備考	出土位置
1	弥生	壺	-	(11.0)	<9.5>	ハケ目の残るナデ	ヘラミガキ 胴部赤彩	回転実測	E区
2	弥生	甕	-	(7.4)	<2.1>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	W
3	弥生	甕	-	-	-		櫛描波状文	断面実測	E区
4	弥生	鉢	(15.6)	-	<4.9>	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩	回転実測	E区
5	弥生	高坏	-	-	<4.4>	坏部ヘラミガキ→赤彩 脚部ナデ	ヘラミガキ→赤彩	完全実測	E区



第181図 H19号住居址及び出土遺物

第110表 H19号住居址出土遺物観察表

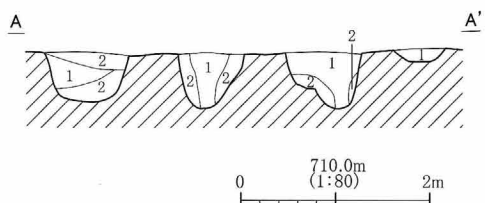
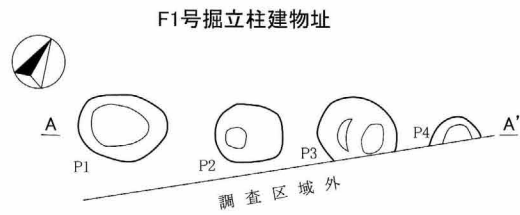
No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様		推定値()残存値<>丸底・出土位置	
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	備考	出土位置
1	土師器	坏	-	-	<3.5>	ヘラミガキ→黒色処理	口縁コナテ 底部ヘラケズリ→ヘラミガキ→黒色処理	破片実測	
2	土師器	坏	-	-	<3.4>	ヘラミガキ→黒色処理	口縁コナテ 底部ヘラケズリ→ヘラミガキ→黒色処理	破片実測	
3	土師器	坏	-	-	<3.6>	ナデ→ヘラミガキ	口縁コナテ 沈線? 底部ヘラケズリ	破片実測	II区
4	土師器	甕	(17.6)	-	<20.1>	口縁コナテ 胴部ハケ目	口縁コナテ 胴部ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	H15II区、一括
No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見		出土位置
5	磨石		9.9	4.8	3.0	194.00	正面にすり面		
6	敲石		11.3	5.8	5.4	506.63	正面に敲打痕		
7	刀子		<5.2>	<1.0>	<0.3>	<4.24>	刃部欠損		

(19) H19号住居址

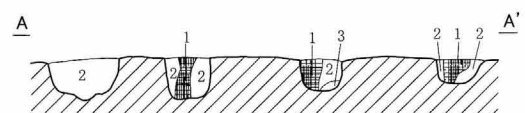
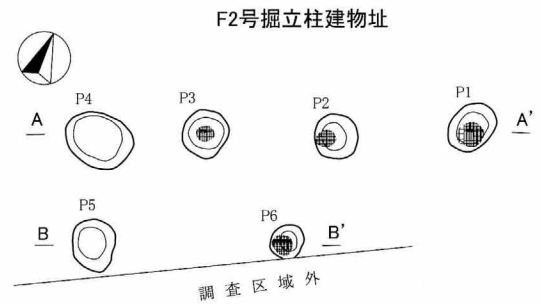
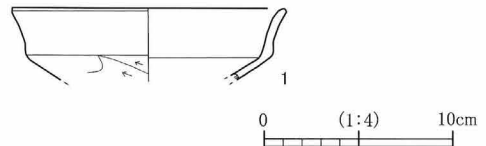
シ-18Grにあり住居址大半は、北側の調査区域外に延びる。H15・D3に切られ、H17・M7を切る。ピットは、7個検出された。P1は支柱穴、西壁・壁溝内に壁柱穴P2～P7がほぼ均等な間隔で並ぶ。P1東の床面に幅40cm厚さ40cmの粘土の塊がみられた。床面はほぼ平坦である。遺物は、須恵器坏蓋模倣の体部と口縁部境に稜を有す土師器坏1～3、土師器壺、刀子7、磨石5、敲石6がある。本址の時期はこれらの遺物から古墳時代6世紀中葉から7世紀初頭に位置づけられる。

第2節 掘立柱建物址

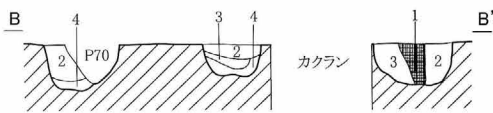
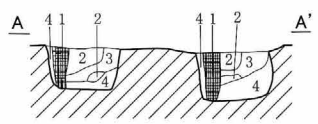
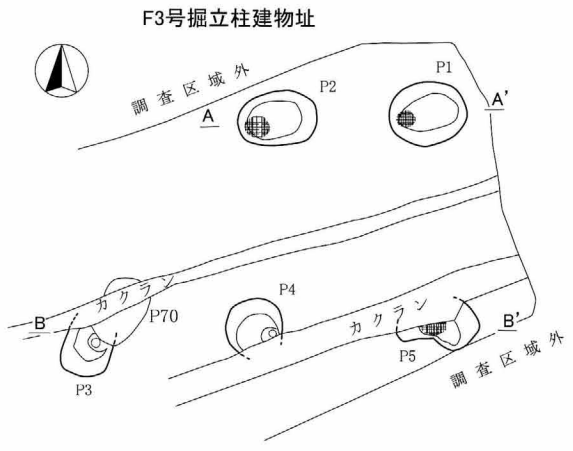
(1) F1号掘立柱建物址



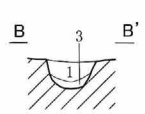
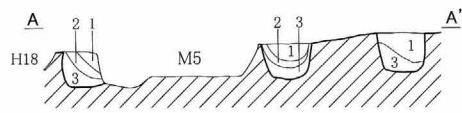
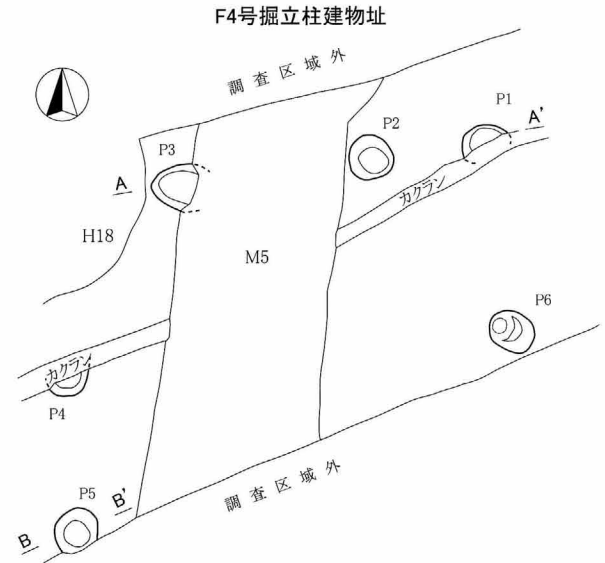
1層 黒褐色土(10YR3/1) しまり・粘性弱い。
 2層 褐色土(10YR4/6) ローム・軽石ブロックを多く含む。
 互層になり、埋め戻し土。



1層 黒褐色土(10YR2/2) 柱痕。
 2層 黒褐色土(10YR2/3) ロームブロックを含む。
 3層 明黄褐色土(10YR6/6) ローム主体。

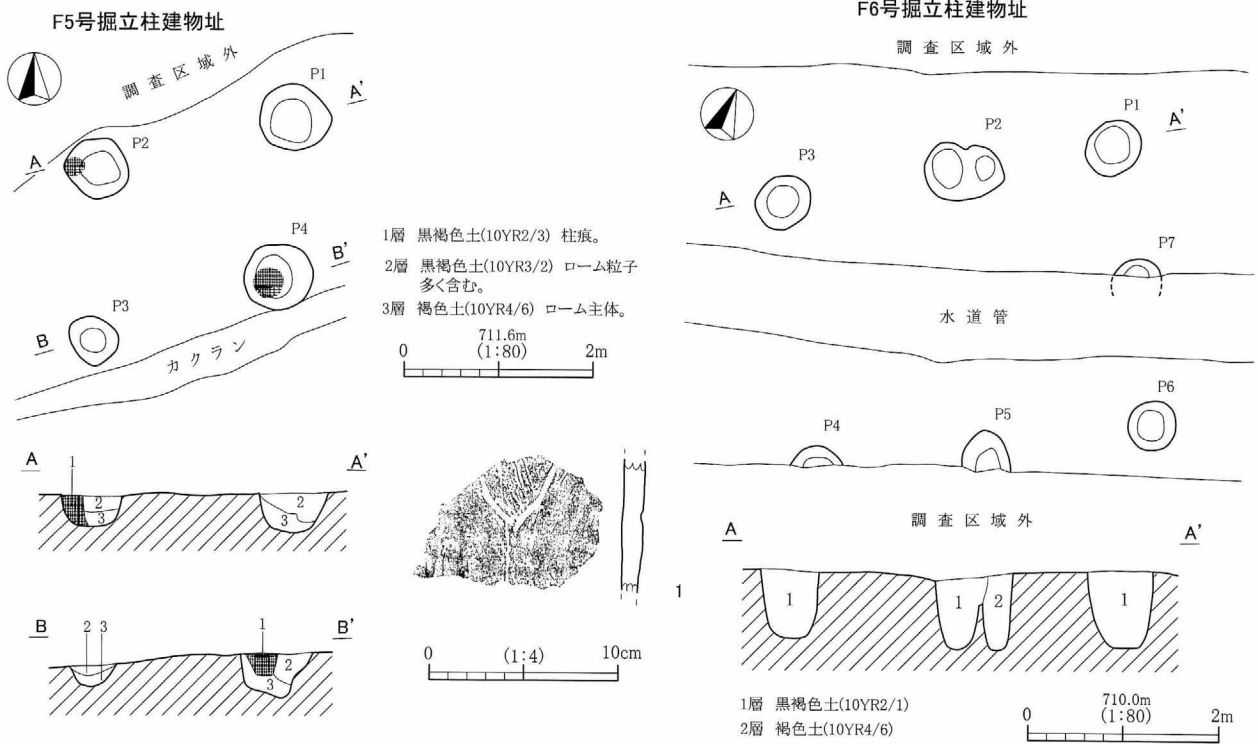


1層 黒褐色土(10YR3/2) 柱痕。
 2層 黒褐色土(10YR2/3) ロームブロック・バミス含む。
 3層 褐色土(10YR4/6) ローム主体。
 4層 黄褐色土(10YR5/6) ローム主体。



1層 黒褐色土(10YR2/3) ローム粒子・バミス含む。
 2層 黒褐色土(10YR2/3) ロームブロック含む。
 3層 黄褐色土(10YR5/6) ローム主体。

第182図 F1号・F2号・F3号・F4号掘立柱建物址



第183図 F5号・F6号掘立柱建物址及び出土遺物

第111表 掘立柱建物址出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様		推定値()残存値<>丸底・	
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	備考	出土位置
1	土師器	甕	(14.4)	(13.0)	<3.8>	ヨコナデ	ヨコナデ→ヘラケズリ	回転実測	F1P2
2	縄文		-	-	-			断面実測 拓本 加管利E IV	F5P2

ター27Grから検出された。南側調査区域外に延び、側柱式建物址か総柱式建物址かは不明である。柱間120cm、柱穴は楕円形で長径68～92cm深さ47～63cm。出土遺物は、P2から1の須恵器坏蓋模倣の体部と口縁部境に稜を有す土師器坏、P1から古墳時代後期の壺片、P2から弥生後期土器片・土師器内面黒色処理される土師器坏片が出土、本址の時期は古墳時代後期遺構である。

(2) F2号掘立柱建物址

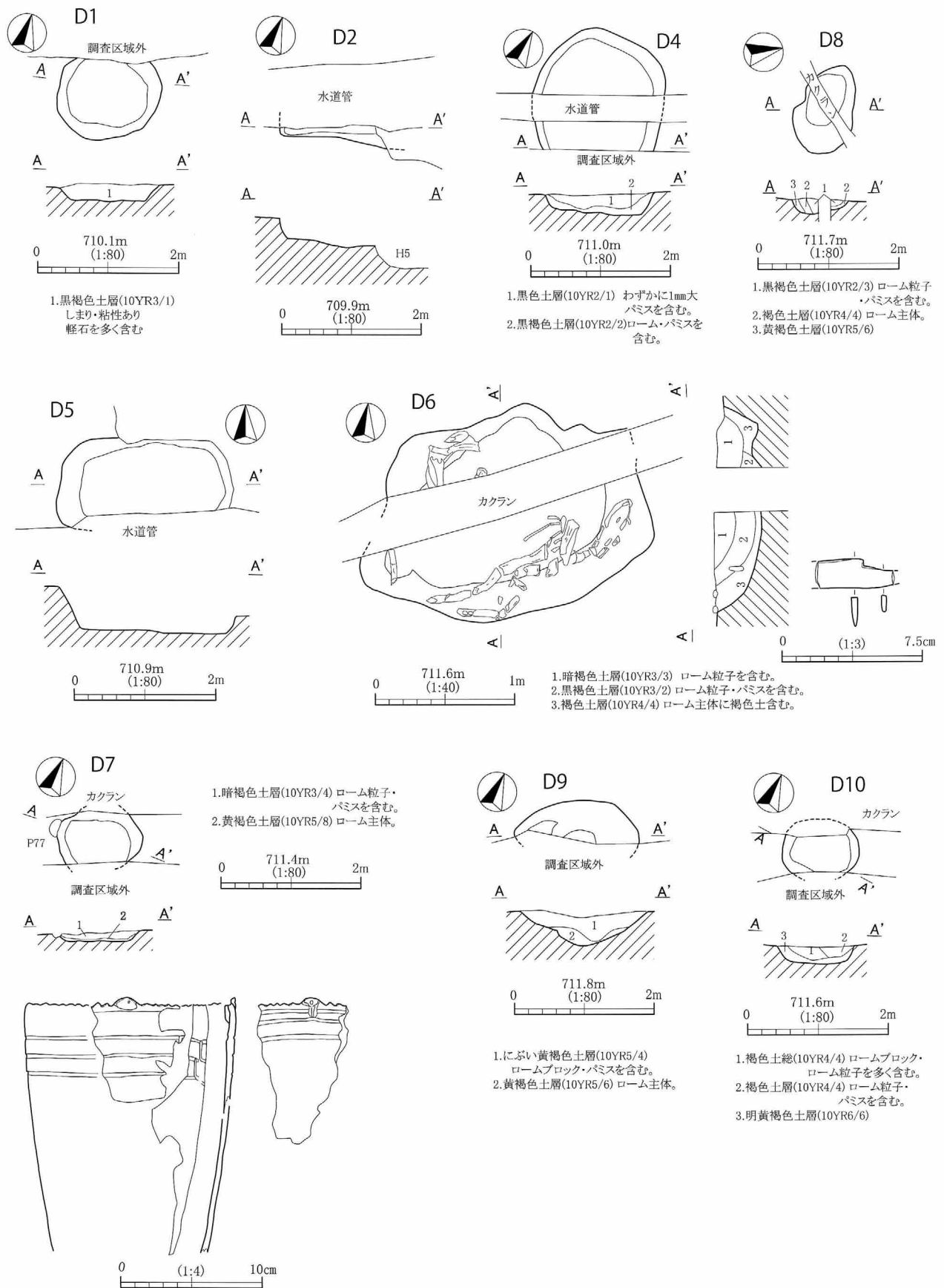
オ・カー4Grから検出された。南側調査区域外に延びる3間×?の側柱式建物址。軸方位はN-70°-Eで、桁行柱間120～140cm梁行柱間120cm。柱穴は長径40～74cmの円形・楕円形で深さ28～55cm断面逆梯子形、柱痕は20～26cm。遺物はP4から古墳後期の土師器坏小片で、本址の時期は不明である。

(3) F3号掘立柱建物址

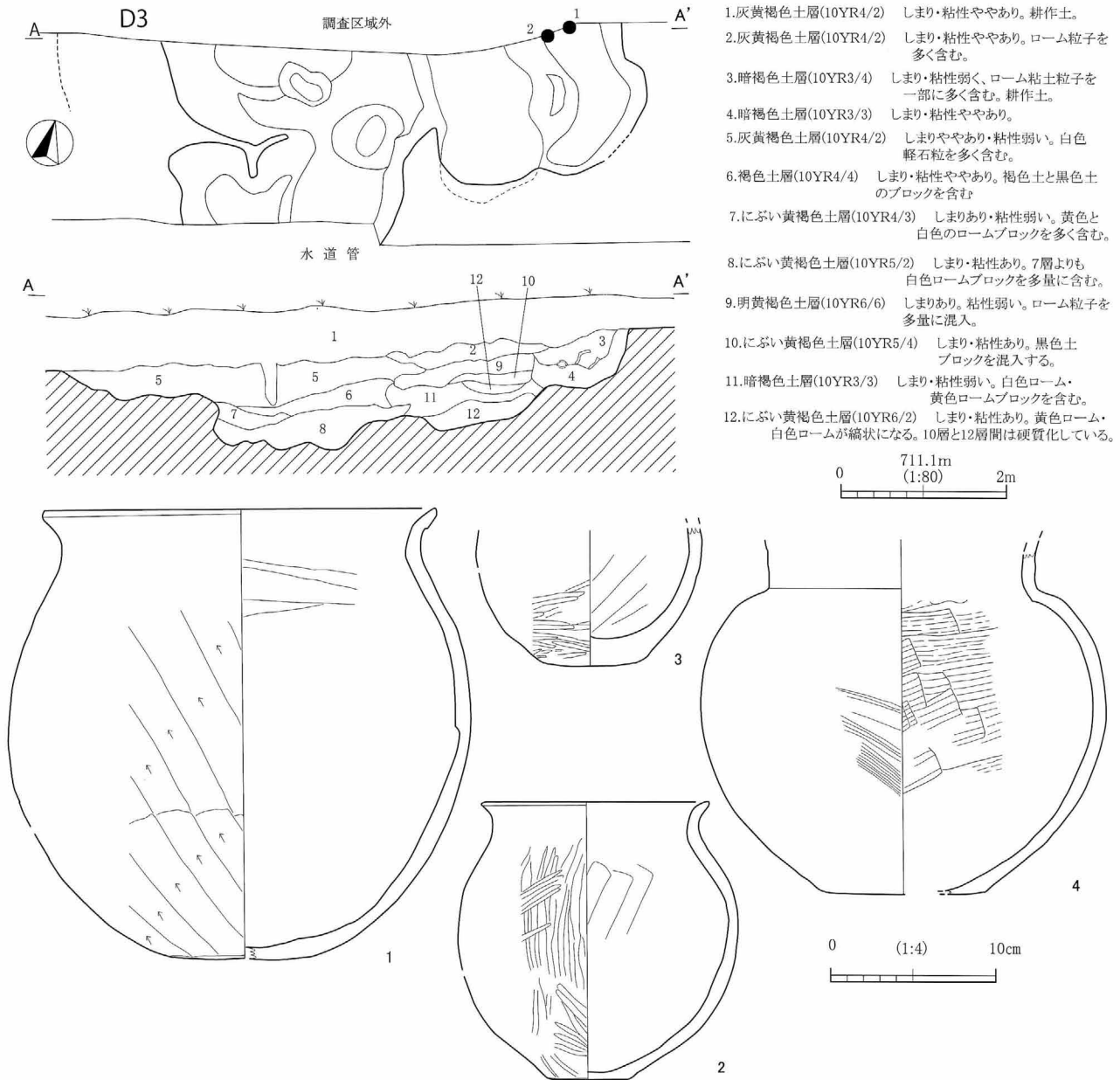
オ-3Grから検出され、1基が欠落か?2間×1間の側柱式建物址。軸方位はN-84°-EでP70に切られる。柱間は桁行160～180cm梁行220cm。柱穴は長径80～90cmの楕円形で深さ47～56cm断面逆梯子形・U字形、柱痕は20～28cm。遺物はP5から古墳後期土師器甕小片あるが、本址の時期は不明。

(4) F4号掘立柱建物址

キ・クー9・10Grから検出され、M5に切られ、一部攪乱にかかる。3間×2間の側柱式建物址。軸方位はN-84°-Eで、桁行480cm梁行360cm、柱間は桁行120・200cm梁行160・200cm。柱穴は長径45～50cmの円形・楕円形で深さ32～49cm断面逆梯子形・U字形。出土遺物は皆無であり、本址の時期は不明。



第184図 D1号・D2号・D4号・D5号・D6号・D7号・D8号・D9号・D10号土坑及び出土遺物

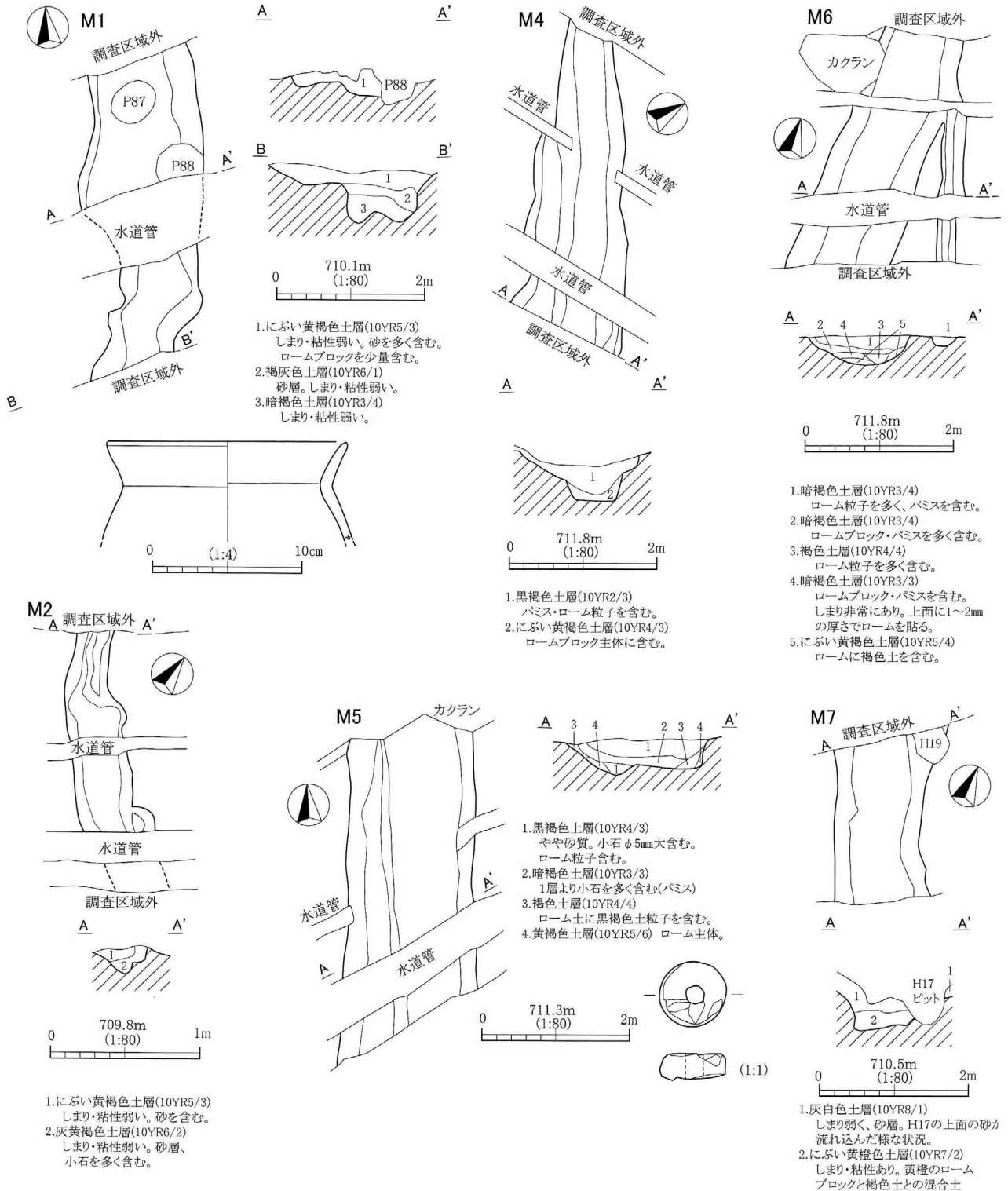


第185図 D3土坑及び出土遺物

第112表 土坑出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様		推定値()残存値< >丸底・	
			□径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	備考	出土位置
1	土師器	甕	24.0	(8.4)	27.3	ヨコナデ→ヘラナデ	ヨコナデ→ヘラケズリ	完全実測	D11
2	土師器	甕	13.8	(4.8)	16.9	ヘラナデ→ヨコナデ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全実測	D1 II区ホリ方
3	土師器	甕	-	6.6	<8.3>	ヘラナデ	ハケ目→ヘラミガキ	完全実測	D1
4	土師器	甕	-	(10.0)	<21.5>	ハケ目	ハケ目 磨耗	回転実測	D1 II区
No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見		出土位置
1	刀子	鉄製品	<4.1>	<1.6>	<0.3>	<6.35>	両端欠損		D6
No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様		推定値()残存値< >丸底・	
			□径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	備考	出土位置
1	縄文	深鉢	(15.0)	-	<18.5>			回転実測 加曾利B1	D7

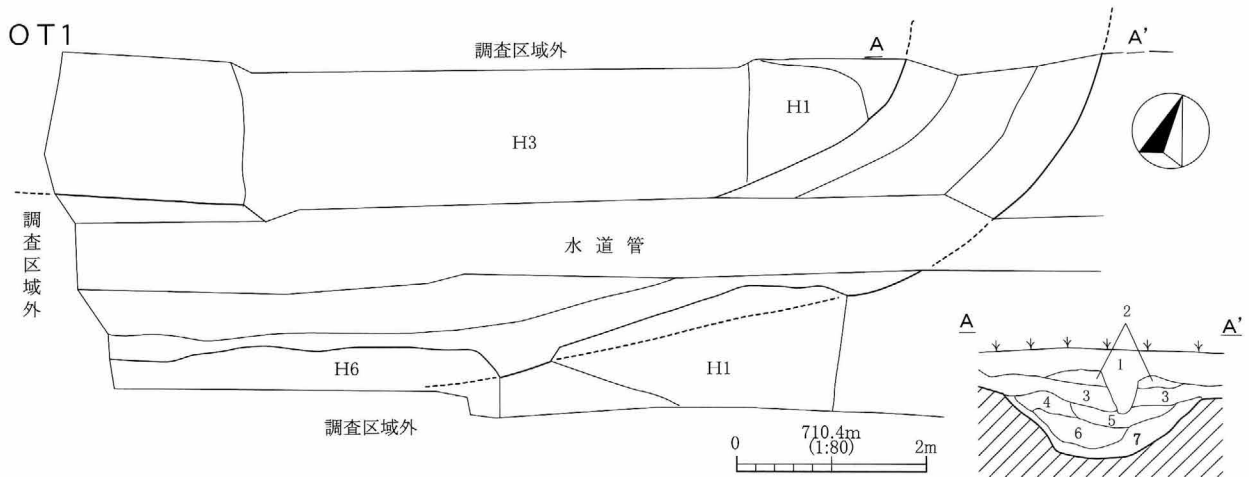


第186図 M1号・M2号・M3号・M4号・M5号・M6号・M7号溝状遺構及び出土遺物

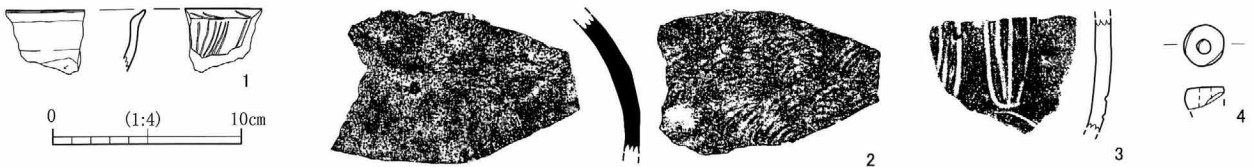
第113表 溝址出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様		推定値()残存値< >丸底・	
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	備考	出土位置
1	土師器	甕	(16.0)	-	<6.7>	磨耗	磨耗	回転実測	M1
No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見		出土位置
1	石製品	白玉	1.1	1.1	0.4	0.90	孔径0.3		M5



- 1. 褐灰色土層(10YR4/1)
- 2. にぶい黄橙色土層(10YR7/3) 火山灰を含む砂層。
- 3. 黒褐色土層(10YR3/1) φ0.5mm大のバミス及び10YR2/2の黒褐色土を少量含む。
- 4. 黒褐色土層(10YR3/2) φ5mm大のバミスを微量含む。
- 5. 黒褐色土層(10YR2/2) 黒褐色土を少量含む。
- 6. 黒褐色土層(10YR2/3) φ1cm大バミス・小石を少量含む。
- 7. 暗褐色土層(10YR3/4) 褐色ローム粒子・φ1cm大バミスを含む。



第187図 OT1号墳及び出土遺物

第114表 OT1号周溝墓出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様		推定値()残存値< >丸底・	
			□径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	備考	出土位置
1	土師器	坏	-	-	<3.4>	暗文	ナデ 底部ヘラケズリ	破片実測	II区
2	須恵器	甕	-	-	-		当て具痕	断面実測	I区
3	縄文		-	-	-			断面実測 堀之内	I区
No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見		出土位置
4	白玉		0.5	0.5	<0.3>	<0.11>	裏面欠損		I区

(5) F5号掘立柱建物址

カ・キ-7・8Grから検出された。1間×1間の菱形の変形側柱式建物址。軸方位は、N-75°-Eで、桁行220cm梁行180cm、柱穴は径50~70cmの円形で深さ21~45cm断面逆梯子形・U字形。柱痕は20・30cm。遺物は、P1から古墳後期土師器坏片、P2・P4から土師器甕片・縄文中期後半深鉢片出土したが、本址の時期は不明。

(6) F6号掘立柱建物址

ソ・タ-25~27Grから検出された。2間×2間の側柱式建物址。軸方位は、N-60°-Eで、桁行360cm梁行300cm、柱間は桁行180cm梁行160cm。柱穴は長径60~84cmの円形・楕円形で深さ30~41cm断面逆梯子形。遺物はP2から古墳後期土師器甕片、P6から弥生後期壺片出土したが、本址の時期は不明。

第3節 土坑

D1号土坑 タ-28Grで検出され、長軸長148cm検出短軸長116cm壁高は25cm長軸方位はN-78°-E。平面形円形、断面逆梯子形。縄文前期土器小片出土したが、時期は不明である。

D2号土坑 チ-31Grで検出され、H5に切られる。残存長軸長150cm検出短軸長28cm壁高33cmを測る。弥生後期鉢小片出土したが、時期は不明である。

D3号土坑 サ・シ-17・18Grで検出されH15に切れ、H19を切る。長軸長574cm検出短軸長228cm壁高89cm。粘土採掘坑で幾度も掘り起こされ、平面形断面形とも不整形。1～4の土師器甕、角幹と第1尖が切断されている角器製作残滓の落角が出土した。本址の時期は、出土遺物と6世紀中葉～7世紀初頭のH19を切り、7世紀終末のH15に切られることから、7世紀中葉に位置づけられる。

D4号土坑 ケ・コ-13・14Grで検出された。長軸長190cm検出短軸長178cm壁高は19cm、長軸方位はN-30°-W。平面楕円形、断面逆梯子形。弥生後期櫛描波状文甕・赤彩土器小片出土、時期は不明である。

D5号土坑 コ・サ-15・16Grで検出されH16・P53に切られる。長軸長242cm検出短軸長104cm壁高56cm長軸方位はN-83°-W。平面楕円形、断面逆梯形。弥生後期甕・武蔵甕小片出土、時期は不明である。

D6号土坑 キ-8Grで検出され、長軸長208cm短軸長148cm壁高28cm長軸方位はN-62°-E、平面楕円形、断面鍋底形。成獣で体高120～125cmの小型ウマ1個体分が、右上側臥姿勢の全身交連状態で出土した。解体されずに埋納されていた。土師器甕や須恵器坏・壺小片、刀子の破片が出土、時期は不明である。

D7号土坑 キ・ク-9Grで検出されP77に切られる。長軸長120cm検出短軸長74cm壁高は14cm長軸方位はN-48°-E。平面形楕円形、断面鍋底形。縄文時代後期加曾利B1式の深鉢出土。時期は縄文時代後期中葉であろう。

D8号土坑 オ・カ-5Grで検出され、P83に切られる。長軸長134cm短軸長78cm壁高10cm長軸方位はN-25°-W。平面楕円形、断面逆梯形。出土遺物なく、時期等不明である。

D9号土坑 オ・カ-3Grで検出され、長軸長176cm検出短軸長60cm壁高20cm長軸方位はN-62°-E。平面楕円形、断面テラス持つ逆U字形。出土遺物なく、時期等不明である。

D10号土坑 キ-7Grで検出され、長軸長108cm検出短軸長48cm壁高12cm長軸方位はN-85°-E。平面楕円形、断面逆梯形。出土遺物なく、時期等不明である。

第116表 西近津遺跡V竪穴住居址一覧表

(残存値)

第4節 溝状遺構

M1号溝状遺構

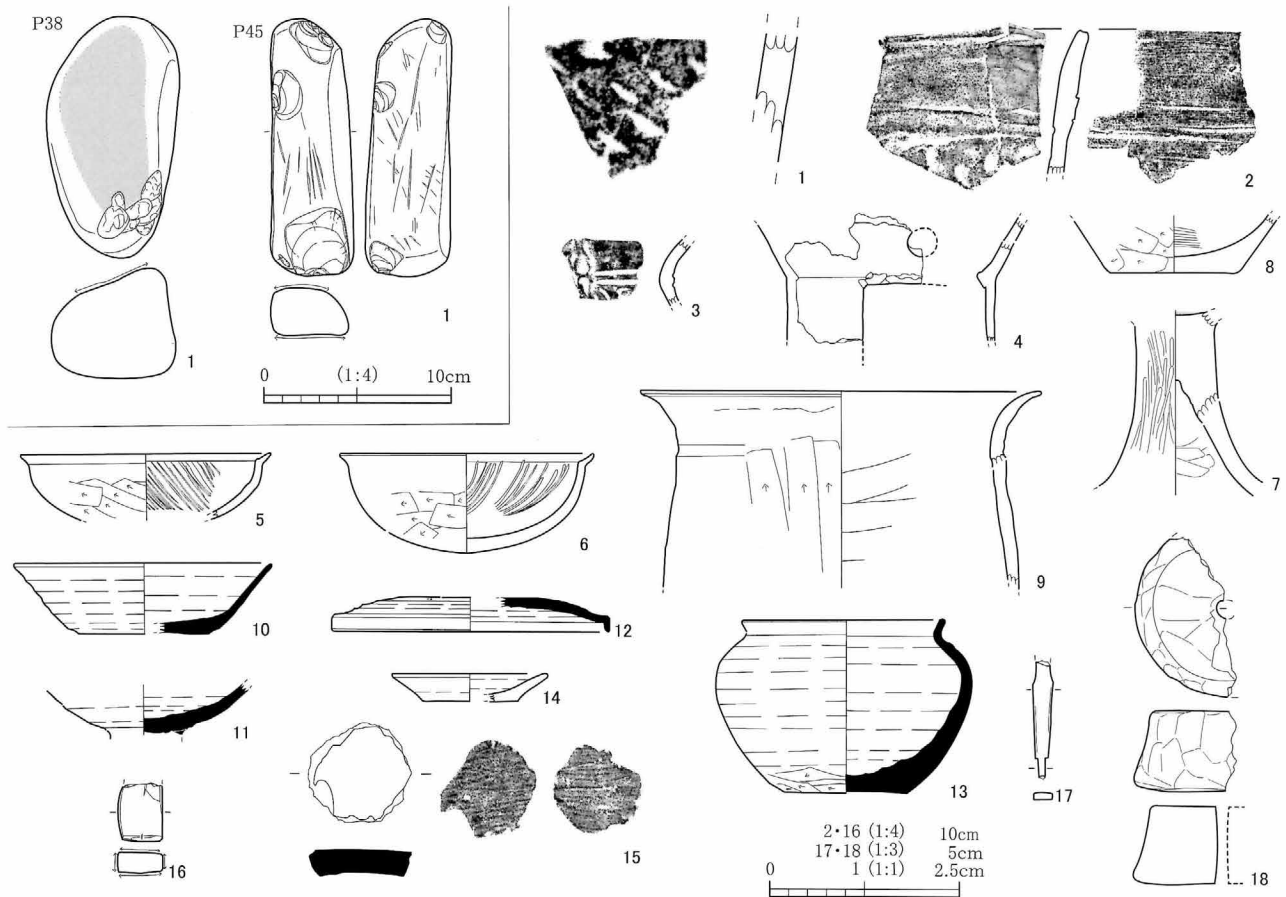
タ・チ-28GrにありP87・P88に切れ、H7を切る。北側と南側が調査区域外に延びる。断面部分的にW字形。覆土に砂が多くみられ、北から南へ流下する河川跡。検出長4.12m、幅1.0～1.6m、深さ29～80cm、南北底面の比高差は20cmを測る。弥生後期壺、土師器甕出土したが、本址の時期は不明。

M2号溝状遺構

ケ・コ-14・15Grにあり、北側と南側が調査区域外に延びる。断面テラス持つU字形。覆土に砂・小礫多くみられ、地形の傾斜と逆に南から北へ流れる河川跡。検出長3.6m、幅0.44～0.8m、深さ29～80cm、南北底面の比高差は10cmを測る。弥生後期壺、土師器甕出土したが、本址の時期は不明である。

M3号溝状遺構

ク11～サ16Grにみられた現道路と畑地との境溝である。



第188図 ピット及び遺構外出土遺物

第115表 ピット・遺構外出土遺物観察表

(cm)

No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置	
1	磨・敲石		12.8	7.0	6.2	717.55	正面にすり面 下端部に敲打痕	P38	
No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置	
1	砥石 転用 敲石		13.7	4.5	2.5	236.33	上下端部に敲打痕 正裏に擦痕 砥石転用の敲石か	P45	
No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様		推定値()残存値< >丸底・	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	備考	
1	縄文							断面実測	一括
2	縄文		-	-	-			断面実測	一括
3	縄文		-	-	-			断面実測	一括
4	弥生	器台	-	-	<6.5>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測 透	一括
5	土師器	坏	(13.2)	-	<3.5>	暗文	ヘラケズリ	回転実測	一括
6	土師器	坏	13.4	-	5.3	暗文	ヘラケズリ	完全実測	一括、OT1 II区
7	土師器	高坏	-	-	<9.7>	坏部ヘラミガキ→黒色処理 脚部ヘラナデ	ヘラミガキ	完全実測	一括
8	土師器	甕	-	6.6	<3.1>	ハケ目	ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	完全実測	一括
9	土師器	甕	(21.2)	-	<10.5>	口縁ヨコナデ 胴部ヘラナデ	口縁ヨコナデ 胴部ヘラケズリ	回転実測	一括
10	須恵器	坏	(13.6)	(6.8)	3.8	ロクロナデ	ロクロナデ→回転糸切り	回転実測 内外面に火だすき痕	一括
11	須恵器	碗?	-	-	<2.7>	ロクロナデ	ロクロナデ	完全実測	一括
12	須恵器	蓋	(14.6)	-	<1.8>	ロクロナデ	ロクロナデ→天井部回転ヘラケズリ	回転実測	一括
13	須恵器	甕	(10.4)	6.4	9.2	ロクロナデ	ロクロナデ→回転糸切り	完全実測	一括
14		カワラケ皿	(8.2)	(5.0)	1.5	ロクロナデ	ロクロナデ→回転糸切り	回転実測	一括
15		土製円盤	5.2	5.5	1.4				一括
No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置	
16	砥石		<3.1>	<2.3>	<1.1>	<14.49>	上部欠損 砥面数5 正面に糸痕	一括	
17	短頸鎌		<4.7>	<0.8>	<0.3>	<4.41>	鎌身部欠損 角関	一括 ケン	
18	土製品	紡錘車	最大径(7.0)	最小径(5.5)	<3.1>	(0.80)	調整 ヘラケズリ→ナデ 約1/2残存	一括	

11> (cm)

第116表 西近津遺跡V 竪穴住居址一覧表

(残存値) <検出値> (cm)

遺構名	検出位置	平面形					主軸方位 (長軸方位)	備考 柱穴規模・重複・時期等
		北壁長	南壁長	東壁長	西壁長	壁高		
H1	チ・ツ-32・33	<118>	<200>	<349>	<317>	35	N-9° -W カマド東壁南隅	H3-OT1を切る。
H2	タ-30 チ-30・31	不正方形					N-79° -E	
H3	チ-33 ツ-33・34	-	-	<148>	<170>	40	N-27° -W	H1に切られ、OT1を切る。壁溝あり。P160×56×83 P272×64×78
H4	チ-31・32	-	-	-	<168>	50	N-27° -W	H2・P32・P33に切られる。P164×46×79 P234×32×60 P327×24×32
H5	タ・チ-30	<268>	<260>	<316>	<256>	75	N カマド北壁中央 やや東	H2に切られ、D2を切る。P140×<24>×33
H6	ツ-33・34 チ-34	<196>	-	<66>	-	45	N-10° -W カマド北壁中央	P1・P34に切られ、OT1を切る。P140×40×20
H7	タ-27・28・ 29チ-28・29	<240>	-	<94>	<144>	58	N-14° -W	F1・M1・P14に切られる。P134×24×55 P216×16×28 P320×16× 26 P424×20×4.5 P520×20×6 P622×20×6
H8	ソ-23・24	<82>	-	<100>	<100>	28	N-18° -W カマド北壁中央	P162×54×75 P264×54×65
H9	ス・セ-21・22	-	<152>	<172>	<132>	49	N-3° -E	H10を切る。P184×(60)×59 P248×32×22
H10	セ-21・22	(178)	-	-	<124>	32	N-22° -W	
H11	セ-23	-	424	<15>	<84>	31	N-29° -W	壁溝あり。
H12	ス-20	<320>	-	-	<236>	30	N-20° -W カマド北壁東寄り	H13に切られ、H17を切る。
H13	ス-19	<362>	-	-	<186>	50	N-19° -W	H12・H17を切る。
H14	シ-18 ス-18	推定436	<460>	<44>	<86>	13	N-28° -W	P120×<15>×19
H15	サ・シ-17・18	282	-	<206>	<186>	46	N-31° -W カマド北壁中央	H19・D3を切る。
H16	コ-14・15・16 サ-15・16	-	-	<308>	<320>	21	N-37° -W	D5を切る。P123×22×56 P267×42×13 P316×16×47 P4<24> ×22×17
H17	シ-19・20 ス-19・20・21	-	<516>	-	<70>	65	N-15° -W	H12・H13・H19に切られる。P168×44×46 P248×44×29 P326×20 ×22 P434×26×13 P542×40×43
H18	キ・ク-10・11	-	<376>	-	<38>	60	N-15° -W	P158×56×88 P2<34>×<14>×21 P368×28×23 P456×<28> ×31 P5<36>×32×28 P6<80>×24×18
H19	シ-18	-	-	-	<236>	26	-	H15・D3に切られ、H17・M7を切る。P188×<54>×57 P244×40×37 P322×22×24 P440×30×35 P526×20×17 P632×26×48 P732×24×42

第117表 西近津遺跡V 土坑計測表

(残存値) <検出値> (cm)

遺構名	検出位置	平面形	長軸方位	長軸長 (東西長)	短軸長 (南北長)	壁高	備考 (重複関係・出土遺物)
D1	タ-28	円形	N-78° -E	148	<116>	25	縄文前期
D2	チ-31	?	-	(150)	<28>	33	H5に切られる。弥生後期鉢。
D3	サ・シ-17・18	不整形		574	<228>	89	H15に切られ、H19を切る。土師器甕・シカの落角。
D4	ケ・コ-13・14	楕円形	N-30° -W	190	<178>	19	弥生甕、赤色塗彩片。
D5	コ・サ-15・16	楕円形	N-83° -E	242	<104>	56	H16・P53に切られる。弥生甕、武蔵甕。
D6	キ-8	楕円形	N-62° -E	208	148	28	須恵器壺・壺、土師器甕。ウマ1個体分。
D7	キ・ク-9	楕円形	N-48° -E	120	<74>	14	P77に切られる。縄文加曾利B1。
D8	オ・カ-5	楕円形	N-63° -W	134	78	10	P83に切られる。
D9	オ・カ-3	楕円形	N-62° -E	176	<60>	20	
D10	キ-7	楕円形	N-85° -E	108	(48)	12	

M4号溝状遺構

ケ-12・13Grにあり、北西と南東側が調査区域外に延びる。検出長3.94m、幅0.64~1.6m、深さ37~64cmを測る。断面形は部分的にテラス持つ逆梯子形。底面平坦で比高差、流水の痕跡ない。弥生後期壺・甕、須恵器甕、灰釉瓶小片出土したが、本址の時期は不明である。

M5号溝状遺構

カ〜ク-10Grにあり、F4を切る。北側と南側が調査区域外に延びる。東側に幅広いテラスを持つ、断面逆梯子形、検出長4.4m、幅1.68~1.84m、深さ43~47cmを測る。南北底面の比高差はない。土師器甕、須恵器甕、灰釉瓶小片、ウマの下顎臼歯2点・足根骨1点、ウマまたはウシの椎骨破片1点、種同定困難なほ乳類の小片3点が出土した。本址の時期は不明である。

第118表 西近津遺跡Vピット計測表

(残存値) <検出値> (cm)

遺構名	検出位置	長径	短径	深さ	形態	備考	遺構名	検出位置	長径	短径	深さ	形態	備考
P1	ツ-33	44	<30>	15	不明	にぶい黄褐色土(10YR4/3)軽石を多く含む。H6を切る。縄文中期土器片、古墳壘片。	P47	サ-16	29	26	15	円形	褐灰色土(10YR4/1)。土師器高坏片?
P2	ツ-32	80	72	37	楕円形		P48	サ-16	56	48	20	円形	褐灰色土(10YR4/1)
P3	チ-32	52	46	52	楕円形	灰黄褐色土(10YR5/2)。OT1を切る。武蔵壘片。	P49	サ-16	68	57	34	楕円形	褐灰色土(10YR4/1)
P4	チ・ツ-31	64	58	41	円形	黒褐色土(10YR3/1)。武蔵壘片、古墳壘片。	P50	サ-16	-	42	29	不明	褐灰色土(10YR4/1)。土師器壘片。
P5	ツ-31	34	30	9	円形	黒褐色土(10YR3/1)。	P51	サ-16	41	37	30	円形	褐灰色土(10YR4/1)
P6	チ・ツ-31	82	60	41	楕円形	黒褐色土(10YR3/1)。古墳坏片、弥生土器片。	P52	サ-16	18	(12)	25	不明	褐灰色土(10YR4/1)
P7	チ・ツ-31	62	58	26	円形	黒褐色土(10YR3/1)軽石多い。	P53	サ-16	70	58	44	楕円形	褐灰色土。D5を切る。土師器坏片。弥生鉢片。
P8	タ-29	70	60	18	円形	灰黄褐色土(10YR5/2)。土師器壘片。	P54	コ-16	42	39	18	円形	褐灰色土(10YR4/1)
P9	タ-29	54	50	53	円形	黒褐色土(10YR3/1)	P55	ケ-13	19	18	14	円形	1.暗褐色土(10YR3/3) 2.暗褐色土(10YR3/4) ロームブロックを含む。
P10	タ-29	48	46	24	円形	黒褐色土(10YR3/1)	P56	ケ-13	53	46	23	楕円形	黒褐色土(10YR2/3)
P11	タ-29	48	40	15	円形	黒褐色土(10YR3/1)	P57	ケ-12	34	31	36	円形	1.黒褐色土(10YR2/2) 2.黒褐色土(10YR2/3) ロームブロックを含む。
P12	タ-29	44	38	25	円形	黒褐色土(10YR3/1)	P58	ケ-12	48	(47)	22	円形	黒褐色土(10YR2/3)ローム粒子を含む。弥生壘片。
P13	チ-29	104	60	31	不整形	黒褐色土(10YR3/1)	P59	ク-12	30	<22>	38	不明	1.黒褐色土(10YR2/2) 2.黒褐色土(10YR2/3) 弥生壘片。
P14	タ-28	44	<14>	44	不明	黒褐色土(10YR3/1)。H7を切る。	P60	ク-12	50	45	28	楕円形	弥生壘片
P15	F6P4に変更					黒褐色土(10YR3/1)	P61	ク-11	129	65	43	不整形	
P16	タ-26	72	<32>	26	不明	黒褐色土(10YR3/1)	P62	ク-12	40	32	22	不整形	黒褐色土(10YR2/3) ロームブロック含む。
P17	タ-26	(52)	44	13	円形	褐灰色土(10YR4/1)	P63	ク-12	37	27	13	楕円形	黒褐色土(10YR2/3) ロームブロック含む。
P18	F6P5に変更					褐灰色土(10YR4/1)	P64	サ-16	24	20	26	円形	褐灰色土(10YR4/1) 色味少ない。
P19	F6P6に変更					褐灰色土(10YR4/1)。弥生壘底部片。	P65	サ-16	22	24	16	円形	褐灰色土(10YR4/1) 色味少ない。
P20	タ-27	48	40	42	円形	褐灰色土(10YR4/1)	P66	サ-16	30	27	34	円形	褐灰色土(10YR4/1) 弥生壘片。
P21	ソ-27	48	40	16	円形	褐灰色土(10YR4/1)。土師器壘片。	P67	F4P6に変更					
P22	F6P3に変更					黒褐色土(10YR3/1)	P68	ク-9	43	<16>	39	不明	
P23	F6P2に変更					褐色土(10YR4/6)。古墳壘片。	P69	F4P3に変更					黒褐色土(10YR2/3) ロームブロックを含む。
P24	ソ-26	36	30	26	円形	黒褐色土(10YR3/1)	P70	オ-3	78	50	37	楕円形	F3P5を切る。
P25	F6P2に変更					黒褐色土(10YR3/1)	P71	オ-4	44	40	37	方形	暗褐色土(10YR3/4)
P26	ソ-26	32	32	13	円形	黒褐色土(10YR3/1)	P72	F4P2に変更					
P27	F6P1に変更					黒褐色土(10YR3/1)	P73	F4P1に変更					
P28	F6P7に変更					黒褐色土(10YR3/1)	P74	キ-9	40	16	23	楕円形	暗褐色土(10YR3/3) 黒褐色土・ローム粒子を多く含む。土師器坏片。
P29	ソ-25	62	30	17	不整形	黒褐色土(10YR3/1)	P75	ク-10・11	44	40	26	円形	
P30	ソ-25	88	79	9	円形	黒褐色土(10YR3/1)	P76	F4P4に変更					土師器高坏片、内黒坏片。
P31	ソ-24・25	72	60	75	楕円形	黒褐色土(10YR3/1)	P77	キ・ク-9	30	21	4	楕円形	黒褐色土(10YR2/3) D7を切る。
P32	チ-31	36	<16>	20	不明	褐灰色土(10YR4/1)。H4を切る。	P78	キ-8	25	23	10	円形	黒褐色土(10YR2/3)
P33	チ-31	26	36	34	不明	褐灰色土(10YR4/1)。H4を切る。	P79	オ-4	54	(44)	27	楕円形	1.黒褐色土(10YR3/2) 2.にぶい黄褐色土(10YR5/4)ローム主体。
P34	ツ-33	34	<30>	24	円形	褐灰色土(10YR4/1)。H6を切る。	P80	カ-7	(72)	50	25	不明	黒褐色土(10YR2/3)
P35	チ-30	-	-	31	不明	黒褐色土(10YR3/1)。縄文中期土器片、弥生土器片。	P81	キ-8・9	70	60	20	円形	暗褐色土(10YR3/3)
P36	ソ-24	48	45	30	円形	褐灰色土(10YR4/1)。ざらざらしている。	P82	カ-5	43	43	52	円形	黒褐色土(10YR2/3) M6を切る。
P37	セ・ソ-24	82	76	23	円形	褐灰色土(10YR4/1)。ざらざらしている。土師器壘片。	P83	カ-5	26	(23)	31	円形	黒褐色土(10YR2/3) D8を切る。須恵器壘片、土師器内黒坏片。
P38	ツ-32	<48>	56	44	不明	褐灰色土(10YR4/1)。土師器内黒坏片、弥生壘片。敲石。	P84	キ-8	(50)	45	20	不明	土師器坏片(5C後半)。
P39	チ-31	<40>	45	48	不明	褐灰色土(10YR4/1)。土師器内黒坏片。	P85	ク-10	26	(26)	24	円形	暗褐色土(10YR3/4)
P40	タ-28	32	<21>	20	不明	黒色土(10YR2/1)。	P86	ツ-33	53	(50)	21	不明	
P41	タ-27	48	<19>	48	不明	黒色土(10YR2/1)。土師器壘片。	P87	タ-28	64	50	27	円形	M1を切る。
P42	タ-27	25	<17>	21	楕円形	黒褐色土(10YR3/1)	P88	タ-28	64	(62)	44	円形	M1を切る。
P43	タ-26	36	30	12	楕円形	黒褐色土(10YR3/1)							
P44	タ-26	28	24	19	楕円形	黒褐色土(10YR3/1)。古墳壘片。							
P45	サ-17	23	22	37	円形	褐灰色土(10YR4/1)。敲石。D3を切る。							
P46	サ-17	71	58	34	不整形	褐灰色土(10YR4/1)。D3を切る。土師器壘片。							

M6号溝状遺構

オ・カー 5GrにありP82に切られ、北側と南側が調査区域外に延びる。幅120cmと幅30cmの二股状に南側へ開く。幅広部分の検出長3.52m深さ25~38cm、幅狭部分の検出長2.3m深さ11~14cmを測る。幅広部分断面形はU字形、底面から15cmに覆土4層の非常に良く締まる暗褐色土上に1~2mのロームが貼られている。流水の痕跡はない。弥生後期壘、土師器壘出土したが、本址の時期は不明である。

M7号溝状遺構

シ-18・19GrにありH19に切られ、H17を切る。北側と南側が調査区域外に延びる。残存長2.3m、幅1.24～1.4m、深さ48～55cmを測る。断面形逆梯子形、底面平坦で比高差ない。本址の時期は、出土遺物皆無であるが、6世紀中葉～7世紀初頭のH19に切られ、5世紀後半～6世紀初頭のH17を切る重複関係から6世紀前半に位置づけられる。

第5節 古墳跡

OT1号墳

チ・ツ-32～34GrにありH1・H3・H6・P3に切られる。遺構の大半は、「中部横断道」の長野県埋蔵文化財センター調査区域にある。詳細は不明であるが、古墳時代前期の方墳といわれている。周溝南東コーナーと西側一部が検出された。周溝検出長11m、幅0.88～0.94m、深さ72cmを測る。断面形逆梯子形、底面平坦である。遺物は、縄文後期・土師器坏・須恵器甕の小片、滑石製の白玉が出土した。本址の詳細は、長野県埋蔵文化財センター調査結果を参照されたい。

第6節 ピット

総数75基が検出され、F6周辺のソ-24～チ-32Grに集中している。大半が何らかの建物に関連した柱穴と思われるが、建物址として把握できなかった。出土遺物等は、第115表に掲載した。

第7節 遺構外出土遺物

遺構確認時に素焼きの紡錘車(18)、短頸鏃(17)、砥石(16)が出土した。土器は縄文時代では、草創期爪形文土器(1)、中期後半(2)・後期前半(3)深鉢片がある。4は弥生時代後期終末の器台であろうか。土師器は古墳時代中期坏(5・6)、後期の甕、高坏等があり、須恵器は平安時代の坏・蓋・短頸壺・土器片円板がある。

第V章 まとめ

西近津遺跡群内で、平成18年～20年度に長野県埋蔵文化財センターにより「中部横断道」用地内の25,000㎡におよぶ広範囲が発掘調査された。(以下、県西近津遺跡群と記す。)佐久市教育委員会実施が実施した昭和46年度の第1次調査以降、平成23年度の第9次調査までの調査地点は、県西近津遺跡群に近接した周辺にあたる。第4次の調査地点は、県西近津遺跡群の西方100mを南北に並行する。第3次・第5次は、東方の周防畑遺跡群との境をなす低地に至る。

県西近津遺跡群の東西に延びる弥生時代後期といわれている大溝は、位置・出土遺物・形態の特徴から第4次のM14号溝状遺構に繋がる可能性が高い。弥生時代後期の竪穴住居址群は、県西近津遺跡群では、この大溝付近からいったん空白地帯があり、150m程北の地点に再び現れる。この2地点の竪穴住居址の在り方は、第3次～第5次の調査でも同様である。ただ、第4次のM14号溝状遺構付近と第8次の竪穴住居址群は、これらと異なったものとみられ、さらに西方へ延びそうである。

多くの竪穴住居址等が検出された古墳時代後期・奈良・平安時代は、県西近津遺跡群の有り様がさらに東西に拡大することを示している。該期の遺構では、第4次調査で検出された平安時代9世紀前半のF4号掘立柱建物址が特異である。大部分が調査区域外であるが、南北長6間12m検出東西長2間3.6mの総柱、柱穴は1mの深さで柱痕は30cmを超える。

特異と言えば、五輪塔の火輪のみ23個を壁面全周に積んだ第4次調査のD38号土坑である。佐久ではもちろん初見であり、覆土の堆積状況から液体物を貯蔵していたのかと推察するしかない。五輪塔は、16世紀頃の所産であろう。

縄文時代では、後期堀之内式期の遺構と遺物が発見された。「田切り」上の平坦地では、稀なことである。第8次調査で検出された敷石住居址と土坑群が、さらに、北方と西方に広がりを見せていることが第4次調査で確認された。西方100mの下長畝遺跡まで繋がる広範囲なものと思われる。

付篇

西近津遺跡Ⅲ・Ⅳの自然科学分析

<目次>

西近津遺跡Ⅲ・Ⅳの自然科学分析

—パリノ・サーヴェイ株式会社—

はじめに

I. 種実同定

表 1. 種実同定結果

表 2. 炭化米の大きさ

II. 骨類同定

表 3. 出土骨の検出分類群の一覧

表 4. 骨同定結果

表 5. D 4 出土人骨の歯式

図 1. ウマ骨格各部の名称

引用文献

図版 1 種実遺体(1)

図版 2 種実遺体(2)

図版 3 出土骨(1)

図版 4 出土骨(2)

図版 5 出土骨(3)

西近津遺跡Ⅴ出土の動物遺体

—樋泉 岳二(早稲田大学)・孔智賢(パレオ・ラボ) —

1. はじめに

2. 資料と分析方法

3. 結果および考察

4. おわりに

表 1. 西近津遺跡Ⅴ出土動物遺体の同定結果

図版

はじめに

西近津遺跡(長野県佐久市長土呂)は、浅間山西南麓を流下する湧玉川左岸の田切り地形によって画された台地に立地する。本遺跡のこれまでの発掘調査では、弥生時代後期～平安時代の集落であることが明らかとされている。今回の西近津遺跡の発掘調査では、古墳～平安時代の竪穴住居跡をはじめとして、掘立柱建物跡、土坑、溝状遺構などが確認されている。

本報告では、西近津遺跡Ⅲ・Ⅳより出土した炭化種実や骨類の同定および動・植物利用に関する検討を目的として、種実同定および骨同定を実施した。

I. 種実同定

1. 試料

試料は、西近津遺跡Ⅲ(以下、NTⅢ)より出土した種実遺体9試料(No.1～9)160個と、西近津遺跡Ⅳ(以下、NTⅣ)より出土した種実遺体9試料(No.10～18)301個の、計18試料461個である。試料は全て乾燥した状態で、プラケースに保管されている。各試料の詳細は一覧として、付表(添付CDに収録)に示す。

2. 分析方法

試料を双眼実体顕微鏡下で観察する。種実遺体の同定は、現生標本および石川(1994)、中山ほか(2000)、小畑(2008)などを参考に実施し、結果を表に示す。なお、本分析では、主に栽培種の種実遺体を対象として、デジタルノギスで長さ、幅、厚さの計測を行っており、計測結果の詳細は付表に示した。分析後は、種実遺体を容器に戻して保管する。

3. 結果

同定結果を表1に示す。全試料(No.1～18)を通じて、被子植物11分類群(木本のオニグルミ、クヌギ、スモモ、モモ、草本のイネ、アワ、オオムギ、コムギ、ホタルイ属、マメ科(アズキ類)、マメ科)430個の種実が同定された。2個は双子葉類と考えられるが、同定至らなかった。種実以外では、炭化材が19個、土粒が10個確認された。

種実遺体は、全て炭化している。栽培種は、スモモの核が1個、モモの核が24個、イネの穎が40個、穎・胚乳が66個、胚乳が264個、アワの穎・胚乳が1個、オオムギの穎・胚乳が4個、コムギの胚乳が11個と、栽培種の可能性を含むマメ科(アズキ類)の種子が1個、マメ科(?含む)の種子が5個の、計417個が確認され、全体の97%を占める。

栽培種を除いた分類群は、落葉広葉樹で堅果類のオニグルミの核の破片が6個と、クヌギの殻斗の破片が3個、果実の破片が1個、子葉が1個、草本のホタルイ属が2個の、計13個が確認された。

以下に、炭化種実の遺跡別出土状況を述べる。

<NTⅢ>

・No.1(H3Ⅱ区床上)

栽培種のモモが2個確認された。完形1個は約1/3個(頂部～側面)を欠損する。破片は1/3個未満で、完形個体とは別個体である。

・No.2(H3Ⅳ区)

栽培種のモモの破片が6個(計1個分)確認された。

・No.3(H3Ⅲ区床上)

栽培種の可能性のあるマメ科(?含む)が3個確認された。

・No.4(H3Ⅲ区床上)

表1. 種実同定結果

分類群	部位	状態	NTV												合計				
			NTIII						NTIV										
			No.1	No.2	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10,11	No.12	No.15	No.13	No.14		No.16	No.17	No.18	
			II区	III区	IV区	H3	H4	H4	H7	No.1	検出面	H12	H1	H12		I区	IV区	H27	H31
木本類																			
オニグルミ	核	炭化													1			5	6
クヌギ	殻斗	炭化			3														3
	果殻	炭化			1														1
	子葉	炭化			1														1
スモモ	核	炭化						1											1
モモ	核	炭化	1						1										2
	核	炭化	1	6					2						1				6
	核+種子	炭化							1										21
草本類																			1
イネ	穎	炭化																40	40
	穎+胚乳	炭化										1							48
	穎+胚乳	炭化					11	4											2
	胚乳	炭化	1				72	8										146	227
	胚乳	炭化					6	5										26	37
アワ	穎+胚乳	炭化						1											1
オオムギ	穎+胚乳	炭化											1					3	4
コムギ	胚乳	炭化					1											3	4
	胚乳	炭化																7	7
ホタルイ属(平滑型)	果実	炭化																	2
マメ科(アズキ類)	種子	炭化						2											2
	種子	炭化						1										1	1
マメ科	種子	炭化	1											1					2
	炭化	破片	1																1
マメ科?	種子	炭化																	1
マメ科?	種子?	炭化	1																1
	不明	炭化																	1
双子葉類	種実	炭化	2	4	6	5	93	21	10	1	4	1	2	265	2	5	5	6	432
	合計																		2

栽培種のイネが1個確認された。

・No.5 (H 4 II区ホリ方)

堅果類のクヌギの殻斗が3個、果実が1個、子葉が1個確認され、同一個体に由来する可能性が高い。

・No.6 (H 7 カマド)

栽培種のイネが89個(うち11個穎附着)、コムギが1個、栽培種の可能性があるマメ科(?)が1個の、計90個と、双子葉類が2個確認された。

・No.7 (H 7 No.1ピット内)

栽培種のイネが17個(うち4個穎附着)、アワが1個、マメ科(アズキ類)が1個の、計19個と、草本のホタルイ属が2個確認された。ホタルイ属の果皮表面は平滑で、フトイやサンカクイの類に似る。

・No.8 (H 7 第16図3の土師器坏墨書)

栽培種のコムギが10個(完形3個、破片7個)確認された。

・No.9 (H12 東)

栽培種のスモモが1個確認された。

<西近津遺跡IV>

・No.10 (H 1)

栽培種のモモが3個確認された。完形1個は約1/3個分(腹面~側面)を欠損し、破片2個は接合して約2/3個分程度、上半部を欠損する。

・No.11 (H 1)

栽培種のモモが1個確認され、核側面~基部欠損の内部に種子がみられた。

・No.12 (H12 北床直上)

栽培種のイネが1個確認された。

・No.13 (H19 IV区ホリ方)

栽培種のイネが262個(うち穎40個、穎附着50個)と、オオムギが3個の、計265個が確認された。

状態が良好なイネの胚乳100個の計測結果は、長さが最小3.2~最大5.5(平均4.17±標準偏差0.44)mm、幅が1.5~3.4(平均2.66±0.40)mm、厚さが1.1~2.5(平均1.85±0.29)mmである。また、粒大(長さ×幅)・粒形(長さ/幅)(佐藤, 1988)は、短粒が78%を占め、円粒が16%、長粒が6%と次ぐ(表2, 3)。さらに短粒は、極小が45%、小型が32%、中型が1%である(表3)。

表2. 炭化米の大きさ(1)

No.13;NTIV H19 IV区ホリ方											
長さ(mm)				幅(mm)				厚さ(mm)			
最小	最大	平均	標準偏差	最小	最大	平均	標準偏差	最小	最大	平均	標準偏差
3.2	5.5	4.17	± 0.44	1.5	3.4	2.66	± 0.40	1.1	2.5	1.85	± 0.29

粒大(長さ×幅)				粒形(長さ/幅)				標本数 (n)
最小	最大	平均	標準偏差	最小	最大	平均	標準偏差	
5.4	16.9	11.13	± 2.28	1.1	2.5	1.60	± 0.28	100

*計測値はデジタルノギスによる。粒大(長さ×幅)、粒形(長さ/幅)は、佐藤(1988)の定義に従う。

表2. 炭化米の大きさ(2)

No.13;NTIV H19 IV区ホリ方											
粒大・粒形											
円粒(1.0-1.4)				短粒(1.4-2.0)				長粒(2.0-)			
極小 (8-12)	小 (12-16)	中 (16-20)	大 (20-)	極小 (8-12)	小 (12-16)	中 (16-20)	大 (20-)	極小 (8-12)	小 (12-16)	中 (16-20)	大 (20-)
8	8	0	0	45	32	1	0	6	0	0	0

*粒大(長さ×幅)、粒形(長さ/幅)は、佐藤(1988)の定義に従う。

・No.14 (H19 カマド)

栽培種のももの破片が1個(約1/5個分)と、堅果類のオニグルミの破片が1個確認された。

・No.15 (H19 I区)

栽培種のおもぎが1個と、栽培種の可能性があるマメ科(ダイズ類?)が1個の、計2個が確認された。

・No.16 (H27 炉)

堅果類のオニグルミの破片が5個(計1/3個分)確認された。

・No.17 (H3 1炉)

栽培種のももの破片が5個(計1/2個分)確認され、1個にネズミ類による食痕がみられた。

・No.18 (H50)

栽培種のももの破片が6個(計1/2～2/3個分)確認された。3個は接合し半分になる可能性がある。

4. 考察

西側近津遺跡Ⅲ・Ⅳから出土した種実遺体群からは、炭化した栽培種のスモモ、モモ、イネ、アワ、おもぎ、コムギと、栽培種の可能性を含むマメ科(アズキ類や別系統を含む)が確認された。栽培種は、種実遺体群全体の97%を占める。一方の栽培種を除いた分類群は、落葉広葉樹で堅果類のオニグルミ、クヌギと、草本のホタルイ属が確認された。オニグルミは、川沿いなどの湿潤な肥沃地に生育し、クヌギは丘陵～山地の二次林などに生育する落葉高木である。オニグルミは、子葉が生食可能で栄養価も高く、長期保存可能で収量も多い有用植物であることから、古くから利用され、遺跡出土例も多い。出土核は破片であることから、当時栽培種とともに利用された食料残滓の可能性はある。クヌギは高度なアク抜き工程を経ることで食用可能となるが、出土果実は殻斗がついた完全な状態と推定され、現地性の高さが示唆される。水生植物のホタルイ属は、周辺の水湿地環境に生育していたと考えられる。

Ⅲ. 骨類同定

1. 試料

試料は、西側近津遺跡Ⅲ・Ⅳの竪穴住居跡、溝、土坑などから出土した骨類62試料である(No.1～62)である。これらの試料の状態は区々であり、乾燥によると思われる収縮やひび割れが生じる試料や、表面に付着した土壌の除去(クリーニング)済の状態のもの、保存状態が極めて悪く、また脆弱であるため土塊として取り上げられた状態の試料などがある。分析に供された試料の詳細は、一覧として結果とともに表4に示す。

2. 分析方法

前処理は、試料の状態を確認した後、砂や泥分は、乾いた筆や竹串、あるいは水に浸した筆で静かに除去する。一部の試料については、一般工作用接着剤を用いて接合する。保存が悪い試料に関しては、バインダーなどを塗布し、補強を行う。

同定は、試料を肉眼および実体顕微鏡で観察し、その形態的特徴から種類および部位の特定を行う。計測は、デジタルノギスを使用する。なお、ヒト歯牙の計測は、藤田(1949)に従った。

3. 結果

西側近津遺跡Ⅲ・Ⅳより出土した骨類より検出した種類は、ヒト、ウマ、イノシシ、ニホンジカ、ウシである(表3)。各試料の同定結果を表4に示す。また、骨格各部位の名称については、ウマを例として図1に示す。以下に、各試料の結果を記す。

<NTⅢ>

- ・ No.1 (H 1 覆土)
ウシの角の可能性のある破片である。
- ・ No.2 (H 4 II区床面)
ウマの左上顎第3門歯の破片である。
- ・ No.3;(H 6 カマド内火床)
獣類の四肢骨の破片、部位不明破片である。獣類四肢骨は焼骨、部位不明破片には焼骨と非焼骨がみられる。
- ・ No.4 (H 6 カマド袖内)
獣類の部位不明破片である。
- ・ No.5 (H 6 カマド袖)
獣類の四肢骨片、部位不明破片などである。四肢骨は、焼骨と非焼骨がみられる。
- ・ No.6 (H 6 カマド東脇床面)
獣類の部位不明破片である。
- ・ No.7 (H 6 カマド)
獣類の四肢骨片である。焼骨である。
- ・ No.8 (H 6 カマド)
イノシシの第2/5中手骨/中足骨の遠位端である。遠位端が未化骨で外れる。
- ・ No.9 (H 6 カマド)
獣類の部位不明破片である。焼骨である。
- ・ No.10 (H 6 カマド)
ニホンジカの中手骨/中足骨の破片である。
- ・ No.10 (H 6 カマド)
獣類の四肢骨の破片である。焼骨である。
- ・ No.11 (H12 東)
ニホンジカの左橈骨、左尺骨である。左橈骨は、近位端の破片であり、近位端幅42.48mmを測る。左尺骨は、遠位端が欠損する。この他、橈骨ないし尺骨の破片がみられる。
- ・ No.12 (H12 床面東)
ニホンジカの腰椎の破損である。椎体板がみられるが、化骨化が終了しておらず、椎体と癒合していない。
- ・ No.13 (H12)
ウマの左上顎第3門歯、左基節骨、左末節骨である。左の基節骨・末節骨は後肢である。末節骨はほぼ完存し、基節骨は近位端が破損する。この他に部位不明破片がみられる。
- ・ No.14 (H12 サブトレ)
イノシシの可能性のある左右上腕骨遠位端片、ウマの左橈骨遠位端片・左橈側手根骨・左副手根骨片・手根骨片、獣類の部位不明破片である。イノシシの可能性のある左右上腕骨は小型のサイズである。
- ・ No.15 (H12)
ニホンジカの左上顎第2前臼歯片、獣類四肢骨片である。なお、四肢骨片の中には、幼獣の可能性のある小型のサイズがみられる。
- ・ No.16 (H12 サブトレ)
大型獣類の肩甲骨の可能性のある破片である。
- ・ No.17 (H12 サブトレ)
ニホンジカの椎骨、左脛骨である。椎骨は、椎体および破片がみられ、椎体では椎体板外れる。また、左脛骨の近位端は、54.37mmを測る。この他、獣類の部位不明破片がみられる。

表3. 出土骨の検出分類群一覧

脊椎動物門	Phylum	Vertebrata
哺乳綱	Class	Mammalia
サル目(霊長目)	Order	Primates
ヒト科	Family	Hominidae
ヒト		Homo sapiens
ウマ目(奇蹄目)	Order	Perissodactyla
ウマ科	Family	Equidae
ウマ		Equus caballus
ウシ目(偶蹄目)	Order	Artiodactyla
イノシシ科	Family	Suidae
イノシシ		Sus scrofa
シカ科	Family	Cervidae
ニホンジカ		Cervus nippon
ウシ科	Family	Bovidae
ウシ		Bos taurus

表4. 骨同定結果(1)

No	遺跡名	遺構名・出土位置	種類	部位	左右	部分・状態	数量	被熱	備考
1	NTⅢ	H1 覆土	ウシ?	角?		破片	21		
2	NTⅢ	H4 II区床面	ウマ	上顎第3門歯	左	破片	1 +		
3	NTⅢ	H6 カマド内火床	獣類	四肢骨 不明		破片	1	○	
						破片	2		
						破片	2	○	
4	NTⅢ	H6 カマド袖内	獣類	不明		破片	16 +		
					5	NTⅢ	H6 カマド袖	獣類	四肢骨
						破片	1	○	
				四肢骨?		破片	1		
				不明		破片	3		
6	NTⅢ	H6 カマド東脇床面	獣類	不明		破片	8		
7	NTⅢ	H6 カマド	獣類	四肢骨		破片	1 +	○	
8	NTⅢ	H6 カマド	イノシシ	第2/5中手骨/中足骨		遠位端	1		遠位端未化骨外れ
9	NTⅢ	H6 カマド	獣類	不明		破片	4	○	
10	NTⅢ	H6 カマド	二ホンジカ	中手骨/中足骨		破片	1		
			獣類	四肢骨		破片	4	○	
11	NTⅢ	H12 東	二ホンジカ	橈骨	左	近位端	1		Bp42.48
				尺骨	左	遠位端欠	1		
				橈骨/尺骨	左	破片	8		
12	NTⅢ	H12 床面東	二ホンジカ	腰椎		破損	1 +		椎体板未化骨
13	NTⅢ	H12	ウマ	上顎第3門歯	左	破片	1		
				基節骨	左	近位端破損	1		
				末節骨	左	破損	1		
				不明		破片	44		
14	NTⅢ	H12 サブトレ	イノシシ?	上腕骨	左	遠位端破片	1		
					右	遠位端破片	1 +		
			ウマ	橈骨	左	遠位端破片	1		
				橈側手根骨	左	ほぼ完存	1		
				副手根骨	左	破片	1		
				手根骨		破片	1		
			獣類	不明		破片	21		
15	NTⅢ	H12	二ホンジカ	上顎第2前臼歯	左	破片	1		
			獣類	四肢骨		破片	3		
						破片	1 +		幼獣?
16	NTⅢ	H12 サブトレ	獣類	肩甲骨?		破片	1 +		
17	NTⅢ	H12 サブトレ	二ホンジカ	椎骨		椎体	4		椎体板外れ
						破片	11		
			獣類	不明		破片	30		
18	NTⅢ	H12 カマド	獣類	不明		破片	1	○	
19	NTⅢ	D13	ウマ	大腿骨	左	破片	1 +		
					左	近位端破片	1		
						遠位端破片	2		
				脛骨	左	遠位端欠	1 +		
					左	遠位端	1		
					右	遠位端欠	1 +		
					右	遠位端破片	1		
				踵骨	左	破片	1		
					右	破片	1 +		
				距骨	左	破損	1		
					右	破損	1		
				中心足根骨	左	ほぼ完存	1		
					右	ほぼ完存	1		
				第1+2足根骨,第4足根骨	左	破片	1 +		
				第4足根骨	右	破片	1		
				第3足根骨	左	ほぼ完存	1		
				第1+2足根骨,第3足根骨,中足骨近位端	右	破片	1		土塊状
				第2中足骨	左	破片	1 +		
				第3中足骨	左	遠位端欠	1		Bp45±
				第4中足骨	左	破損	1		
第2中足骨,第3中足骨	右	破片	1						

<凡例>

P:前臼歯, M:後臼歯, Bp:近位端幅

表4. 骨同定結果(2)

No	遺跡名	遺構名・出土位置	種類	部位	左右	部分・状態	数量	被熱	備考
19	NTⅢ	D13	ウマ	第4中足骨	右	破損	1		
				第3中足骨		遠位端	1		
				基節骨		近位端	1		
				後肢		破片	80+		
20	NTⅢ	D13	ウマ	寛骨	右	破片	1+		No25と同一骨
21	NTⅢ	D13	ウマ	寛骨	左	破損	1+		
22	NTⅢ	D13	ウマ	大腿骨	右	近位端欠	1		
				膝蓋骨	右	破損	1		
23	NTⅢ	D13	ウマ/ウシ	肋骨		破片	30		
24	NTⅢ	D13	ウマ ウマ/ウシ	上顎第1門歯 肋骨	左	破片	1 53		
25	NTⅢ	D13	ウマ	寛骨	右	破片	1+		No20と同一骨
				大腿骨	右	近位端片	1		
				不明		破片	33		
26	NTⅢ	H5 IV区	ニホンジカ	臼歯		破片	10+		同一歯牙の破片
27	NTⅣ	H12 炉内覆土	獣類	下顎骨?		破片	1	○	
28	NTⅣ	H12 南床直上	獣類	不明		破片	4	○	
29	NTⅣ	H19 掘方	獣類	不明		破片	1	○	
30	NTⅣ	H21 炉1	獣類	下顎骨?		破片	1	○	
31	NTⅣ	H22 炉2	獣類	不明		破片	2	○	
32	NTⅣ	H22 炉2	獣類	不明		破片	2	○	
33	NTⅣ	H23 I区覆土	ウマ	下顎臼歯	右	破片	1+		
34	NTⅣ	H27 炉	獣類	不明		破片	6+		
35	NTⅣ	H31内集石(撥乱)	ウシ	下顎第1後臼歯	左	破片	1+		
36	NTⅣ	H31 炉	獣類	不明		破片	2	○	
37	NTⅣ	H34 No2	獣類	四肢骨		破片	40+		
38	NTⅣ	H37 カマド内灰	獣類	不明		破片	1	○	
39	NTⅣ	H50 カマド内	獣類	四肢骨		破片	1	○	
40	NTⅣ	M15	ウマ	下顎第1門歯	右	破損	1		
				大腿骨	右	破片	1		
						遠位端破片	1		
				脛骨		近位端	1		
41	NTⅣ	M15	ウマ	四肢骨		破片	24		
				下顎第1門歯	左	破片	1		
42	NTⅣ	M15	ニホンジカ	門歯		破片	1+		
43	NTⅣ	M15 No.1	ウマ	下顎骨	左	破損	1+		P2-M3補立
					右	破損	1+		P2-M3補立
44	NTⅣ	D4 No.1	ヒト	頭蓋骨		破片	100+		
						破片	1+		
				上顎側切歯	左	破片	1		
				上顎犬歯	左	破損	1		
				下顎第2大臼歯	左	破損	1+		
上顎第3大臼歯	右	破損	1						
下顎第3大臼歯	右	破片	1						
45	NTⅣ	D4 No.2	ヒト	大腿骨?		破片	1+		
46	NTⅣ	D4 No.3	ヒト	四肢骨?		破片	1+		
47	NTⅣ	D4 No.4	ヒト	脛骨?		破片	1+		
48	NTⅣ	D4	ヒト	不明		破片	1+		
49	NTⅣ	D5 No.4	ヒト	脳頭蓋骨		破片	1		
				頭蓋骨		破片	7		
				切歯		破片	1+		
				第1頸椎		破片	1		
50	NTⅣ	D5 No.4	ヒト	頭蓋骨		破片	15+		
51	NTⅣ	D5	ヒト	頭蓋骨		破片	1		
				上顎中切歯	左	ほぼ完存	1		未咬耗、萌出直後
52	NTⅣ	D7 No.1	ウマ	橈骨	左	近位端破片	1		
				尺骨	左	近位端	1+		
				橈骨/尺骨	左	破片	30+		
53	NTⅣ	D7 No.2	ニホンジカ	角		破片	1+		切痕有
54	NTⅣ	D7	獣類	肋骨		破片	2	○	
54	NTⅣ	D7	獣類	四肢骨		破片	3+		

<凡例>

P:前臼歯. M:後臼歯. Bp:近位端幅.

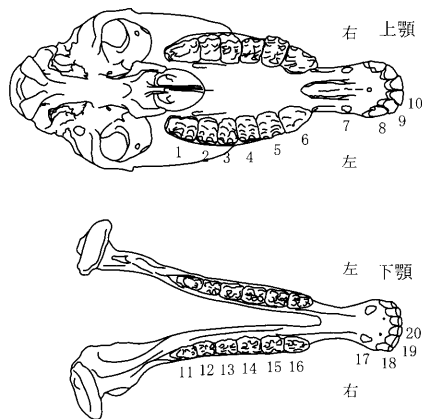
表4. 骨同定結果(3)

No	遺跡名	遺構名・出土位置	種類	部位	左右	部分・状態	数量	被熱	備考
54	NTIV	D7	獸類	四肢骨		破片	3 +		
						破片	1	○	
				不明		破片	7	○	
55	NTIV	D10 No.2	ウマ/ウシ	四肢骨		破片	1 +	土塊状	
56	NTIV	D10 No.3	獸類	四肢骨		破片	70 +		
57	NTIV	D59	獸類	不明		破片	11 +		
						破片	1		土塊状
58	NTIV	M4 No.1	ウシ	中手骨	右	破片	1 +		
59	NTIV	M4 No.2	ウマ	上顎第3/4前臼歯	左	破片	1		
60	NTIV	M4 No.3	ニホンジカ?	角?		破片	9		
61	NTIV	M4 No.4	ニホンジカ	中手骨/中足骨		破片	1		
			ニホンジカ?	角?		破片	7 +		
62	NTIV	ひ64 確認面	獸類	不明		破片	2 +	土塊状	

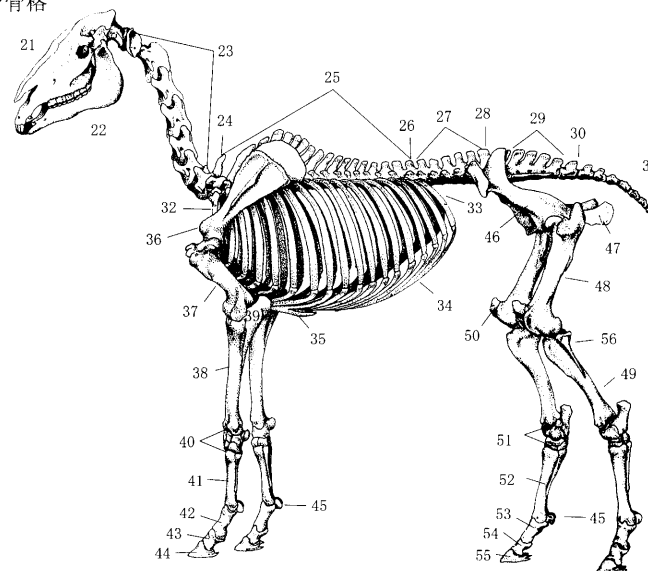
<凡例>

P:前臼歯, M:後臼歯, Bp:近位端幅.

頭蓋



全身骨格



1. 上顎第3後臼歯. 2. 上顎第2後臼歯. 3. 上顎第1後臼歯. 4. 上顎第4前臼歯. 5. 上顎第3前臼歯. 6. 上顎第2前臼歯.
 7. 上顎犬歯(雄のみ). 8. 上顎第3門歯. 9. 上顎第2門歯. 10. 上顎第1門歯. 11. 下顎第3後臼歯. 12. 下顎第2後臼歯.
 13. 下顎第1後臼歯. 14. 下顎第4前臼歯. 15. 下顎第3前臼歯. 16. 下顎第2前臼歯. 17. 下顎犬歯(雄のみ). 18. 下顎第3門歯. 19. 下顎第2門歯. 20. 下顎第1門歯. 21. 頭蓋. 22. 下顎骨. 23. 頸椎. 24. 第一胸椎. 25. 胸椎. 26. 最後位胸椎. 27. 腰椎. 28. 最後位腰椎. 29. 仙骨. 30. 第一尾椎. 31. 尾椎. 32. 第一肋骨. 33. 最後位肋骨. 34. 軟肋骨.
 35. 剣状軟骨. 36. 肩甲骨. 37. 上腕骨. 38. 橈骨. 39. 尺骨. 40. 手根骨. 41. 中手骨. 42. 指骨(基節骨). 43. 指骨(中節骨).
 44. 指骨(末節骨). 45. 基節骨種子骨. 46. 腸骨. 47. 坐骨. 48. 大腿骨. 49. 脛骨. 50. 膝蓋骨. 51. 足根骨. 52. 中足骨.
 53. 趾骨(基節骨). 54. 趾骨(中節骨). 55. 趾骨(末節骨). 56. 腓骨.

図1. ウマ骨格各部の名称(加藤・山内, 2003に加筆)

表5. D4出土人骨の歯式

No.44 NTIV D4 No.1 出土人骨	右								左							
	8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8
出土人骨	M3	M2	M1	P2	P1	C	I2	I1	I1	I2	C	P1	P2	M1	M2	M3
上顎	○	◎	◎					◎	◎	○	○	◎	◎	◎		
下顎	○	◎	◎								◎	◎	◎	◎	○	

<凡例>
 ◎:植立. ○:遊離.

・No.18 (H12 カマド)

獣類の部位不明破片である。焼骨である。

・No.19 (D13)

ウマの後肢である。左大腿骨片、左右脛骨、左右踵骨、左右距骨、左右中心足根骨、左右第1+2足根骨、左右第3足根骨、左右第4足根骨、左右第2中足骨、左右第3中足骨、左右第4中足骨、基節骨などが確認される。踵骨・距骨・足根骨と第2～4中足骨は、それぞれ塊状に取り上げられており、左右が接する状態である。左第3中足骨は、近位端幅約45mm前後を測る。

・No.20 (D13)

ウマの右寛骨の破片である。No.25と同一骨である。

・No.21 (D13)

ウマの左寛骨である。

・No.22 (D13)

ウマの右大腿骨、右膝蓋骨である。大腿骨は近位端が欠損する。

・No.23 (D13)

ウマ/ウシの肋骨の破片である。

・No.24 (D13)

ウマの左上顎第1門歯、ウマ/ウシの肋骨の破片である。

・No.25 (D13)

ウマの右寛骨、右大腿骨である。右寛骨は、No.20と同一骨の破片である。右大腿骨は寛骨臼に納まっており、大腿骨頭部である。この他、部位不明破片がみられる。

・No.26 (H 5 IV区)

ニホンジカの臼歯の破片である。同一歯牙の破片である。

<西近津遺跡IV>

・No.27 (H12 炉内覆土)

獣類の下顎骨の可能性のある破片である。焼骨である。

・No.28 (H12 南床直上)

獣類の部位不明破片である。焼骨である。

・No.29 (H19 掘方)

獣類の部位不明破片である。焼骨である。

・No.30 (H21 炉1)

獣類の下顎骨の可能性のある破片である。焼骨である。

・No.31 (H22 炉2)

獣類の部位不明破片である。焼骨である。

・No.32 (H22 炉2)

獣類の部位不明破片である。焼骨である。

・No.33 (H23 I区覆土)

ウマの右下顎臼歯片である。

・No.34 (H27 炉1)

獣類の部位不明破片である。

・No.35 (H31内集石(攪乱))

ウシの左下顎第1後臼歯片である。

・No.36 (H31 炉)

獣類の部位不明の破片である。焼骨である。

・No.37 (H34 No.2)

獣類の四肢骨の破片である。

- ・ No.38 (H37 カマド内灰)
獣類の部位不明の破片である。焼骨である。
- ・ No.39 (H50 カマド内)
獣類の四肢骨の破片である。焼骨である。
- ・ No.40 (M15)
ウマの右下顎第1門歯である。
- ・ No.40 (M15)
ウマの右大腿骨片、遠位端片、脛骨近位端片、四肢骨片である。
- ・ No.41 (M15)
ウマの左下顎第1門歯片、門歯片である。
- ・ No.42 (M15)
ニホンジカの右下顎骨である。下顎枝部の破片である。
- ・ No.43 (M15 No.1)
ウマの左・右下顎骨である。左右とも第2前臼歯～第3後臼歯までがみられる。土塊状として取り上げられており、右側を上にした状態である。乾燥によるひび割れが生じており、形状を保つものの破片となっていたため、可能な限り復元を行った。なお、復元する際に臼歯高を測定した。右第2前臼歯を測ることができなかったが、それ以外の臼歯高は、左側の第2前臼歯が43.02mm、第3前臼歯が56.74mm、第4前臼歯が66.47mm、第1後臼歯が62.70mm、第2後臼歯が67.23mm、第3後臼歯が67.46mm、右側の第3前臼歯が56.66mm、第4前臼歯が67.21mm、第1後臼歯が61.47mm、第2後臼歯が66.94mm、第3後臼歯が67.17mmを測る。全臼歯列長179mmを測る。
- ・ No.44 (D 4 No.1)
土塊状として取り上げられたヒトの頭蓋骨である。土塊から骨を外すと形質を保てないと判断されたため、ある程度砂・泥分を除去して観察した。左側を上にした状態であるが、土圧を受けて変形しており、脳頭蓋の左側が割れて内側へと陥没する。上顎骨、下顎骨は比較的良好に残り、歯牙も観察される(表5)。なお、左上顎側切歯の歯冠幅(近遠心径)が6.35mm、同歯冠厚(頬舌径)が6.02mm、左上顎犬歯の歯冠幅(近遠心径)が7.61mm、同歯冠厚(唇舌径)が8.34mm、左下顎第2大臼歯の歯冠幅(近遠心径)が11.28mm、同歯冠厚(頬舌径)が10.79mm、右上顎第3大臼歯の歯冠幅(近遠心径)が8.69mm、同歯冠厚(頬舌径)が11.19mm、右下顎第3大臼歯の歯冠幅(近遠心径)が9.78mm、同歯冠厚(頬舌径)が9.77mmを測る。
- ・ No.45 (D 4 No.2)
土塊状として取り上げられた四肢骨である。露出部が粉状となり、土塊から骨を外すと形質を保てないと判断されたため、ある程度砂・泥分を除去して観察した。No.44と同一遺構から出土していることからヒトと判断した。両端が破損した骨体のみが残る。部位を確定できないが、現長260mm程度で径25mm前後あること、さらに断面が丸みを帯びることから、大腿骨の可能性もある。
- ・ No.46 (D 4 No.3)
土塊状として取り上げられた骨である。本試料も土塊から骨を外すと形質を保てないと判断され、No.44と同一遺構から出土していることからヒトと判断した。四肢骨の可能性もある。
- ・ No.47 (D 4 No.4)
土塊状として取り上げられた四肢骨である。本試料も露出部が粉状となり、土塊から骨を外すと形質を保てないと判断された。No.44と同一遺構から出土していることからヒトと判断した。骨体のみが部分的に残る状態である。部位を確定できないが、現長140mm程度、径25mm前後である。平らな面が存在するようにも見えることから、脛骨の可能性もある。
- ・ No.48 (D 4)
粉状となった破片である。No.44と同一遺構から出土していることからヒトと判断した。部位不明破片である。

・No49 (D 5 No.4)

土塊状として取り上げられたヒトの頭蓋骨である。本試料も土塊から骨を外すと形質を保てないと判断されたため、ある程度砂・泥分を除去して観察した。前頭骨、左右頭頂部、第1頸椎が認められ、右頭頂骨を下にした状態である。第1頸椎は眼窩部に位置する。冠状縫合の内側は閉じていない。また、骨質も薄い。この他、頭蓋骨片、切歯片が認められる。

・No50 (D 5)

No49と同一遺構から出土していることからヒトと判断した。頭蓋骨の破片である。

・No51 (D 5)

ヒトの頭蓋骨片、左上顎中切歯である。左上顎中切歯はほぼ完存する。未咬耗で、萌出直後とみられる。

・No52 (D 7 No.1)

ウマの左橈骨、左尺骨である。左橈骨は、近位端の微細片であるが、左尺骨と関節することから判断した。左尺骨も近位端が残る。この他、左橈骨/尺骨の破片がみられる。

・No53 (D 7 No.2)

ニホンジカの角の破片である。切痕がみられる。

・No54 (D 7)

獣類の肋骨、四肢骨、部位不明破片がみられる。肋骨、四肢骨の一部、部位不明破片は焼骨、四肢骨の一部は非焼骨である。

・No55 (D 10 No.2)

ウマ/ウシの四肢骨の破片である。土塊状である。

・No56 (D 10 No.3)

獣類の四肢骨の破片である。

・No57 (D 59)

獣類の部位不明の破片である。一部、土塊状である。

・No58 (M 4 No.1)

ウシの右中手骨の破片である。遠位端は欠損し、近位端も破損する。

・No59 (M 4 No.2)

ウマの左上顎第3/4前臼歯の破片である。

・No60 (M 4 No.3)

ニホンジカの角の可能性がある破片である。

・No61 (M 4 No.4)

ニホンジカの中手骨/中足骨の破片、ニホンジカの角の可能性がある破片である。

・No62 (ひ64 確認面)

獣類の部位不明の破片である。土塊状である。

4. 考察

西近津遺跡Ⅲ・Ⅳより出土した骨類62試料からは、ヒト、ウマ、イノシシ、ニホンジカ、ウシ、種類不明の獣類が確認された。

イノシシやニホンジカは、日本各地の遺跡において古くより出土することが知られている。本遺跡では、イノシシは、NTⅢ H 6 カマドから第2/5中手骨/中足骨の破片が検出された程度であり、個体数としては少ない。遠位端が未化骨で外れており、幼獣とみられる。また、NTⅢ H 12 サブトレで検出されたイノシシの可能性がある左右上腕骨も大きさから幼獣と判断される。ニホンジカは、のべ6遺構(NTⅢ H 6、NTⅢ H 12、NTⅢ H 5、NTⅣ M 15、NTⅣ D 7、NTⅣ M 4)より確認された。ニホンジカは、成獣とともに、NTⅢ H 12で検出された椎骨で椎体板が外れる資料が確認されることから、幼獣も狩猟の対象となっていた可能性がある。また、NTⅣ D 7で検出されたニホ

ンジカの角には、切痕が認められたことから、道具としての利用なども推定される。なお、種類不明の獣類の中には、焼骨が認められた。炉やカマドからの試料を主体とする状況から、食利用の痕跡あるいは残滓処理の状況を示すと考えられる。

ウマおよびウシは、家畜として存在していたものに由来すると考えられる。ウシに関しては、NTⅢH1のウシの可能性のある角、NTⅣH31内集石(攪乱)の左下顎第1後臼歯、NTⅣM4で右中手骨が検出される程度である。出土数が少ないため、利用の形態についての詳細は不明である。一方、ウマは、多くの遺構(NTⅢH4、NTⅢH12、NTⅢD13、NTⅣH23、NTⅣM15、NTⅣD7、NTⅣM4)から出土する。地点別の出土数(試料数)を見ると、NTⅢD13が最も多く、NTⅢH12、NTⅣM15がこれに次ぐ。NTⅢD13では、主に後肢が出土し、左右の踵骨・距骨・足根骨と第2～4中足骨が近接する状態である。このことから、左右の後肢を揃えた状態が埋存していた可能性がある。なお、左第3中足骨の近位端幅が約45mm前後を測る。林田・山内(1957)、西中川ほか(1991)を参考とすると、体高120～125cm程度となり、木曾馬・御崎馬クラスの中型馬に相当する可能性がある。次に、M15で出土した下顎骨は、西中川ほか(1991)を参考とすると、臼歯高の計測値から4～5歳程度のウマと推定される。また、全臼歯列長179mmを測ることから、サラブレッド並みの体高となる可能性があり、大型馬と判断される。なお、ウシ、ウマについては、焼骨がみられず、また解体に伴う切痕も観察されなかった。ただし、出土骨の状況をみると、NTⅢD13が全身骨格、NTⅢH12が前肢、M15が後肢を主体とする。本遺跡周辺(浅間山南麓)には、平安時代以降において、塩野牧や長倉駅といったウマの繁殖・利用に関する施設が置かれていたと推定されている(御代田町教育委員会, 1989)。

ヒトは、NTⅣD4・D5試料に確認された。D4の出土人骨は、左側を上にした状態であることから横臥状態で埋葬されていたことが推定される。本出土人骨には、右上顎第3大臼歯がみられ、また左下顎第3大臼歯も萌出した痕跡が認められることから、16歳程度以上の成人に達していたことがわかる。また、咬耗状況は、左側の上・下第2大臼歯が象牙質が僅かに露出する程度、第3大臼歯がエナメル質咬耗にとどまる。これより、成年(16～20歳程度)後半から壮年(20～39歳程度)前半と推定される。歯牙計測値を権田(1959)と比較すると女性的と判断されるが、眉上隆起、乳様突起、外後頭骨隆起などの性差の特徴が現れる箇所を観察できなかつたため、性別の詳細は不明である。

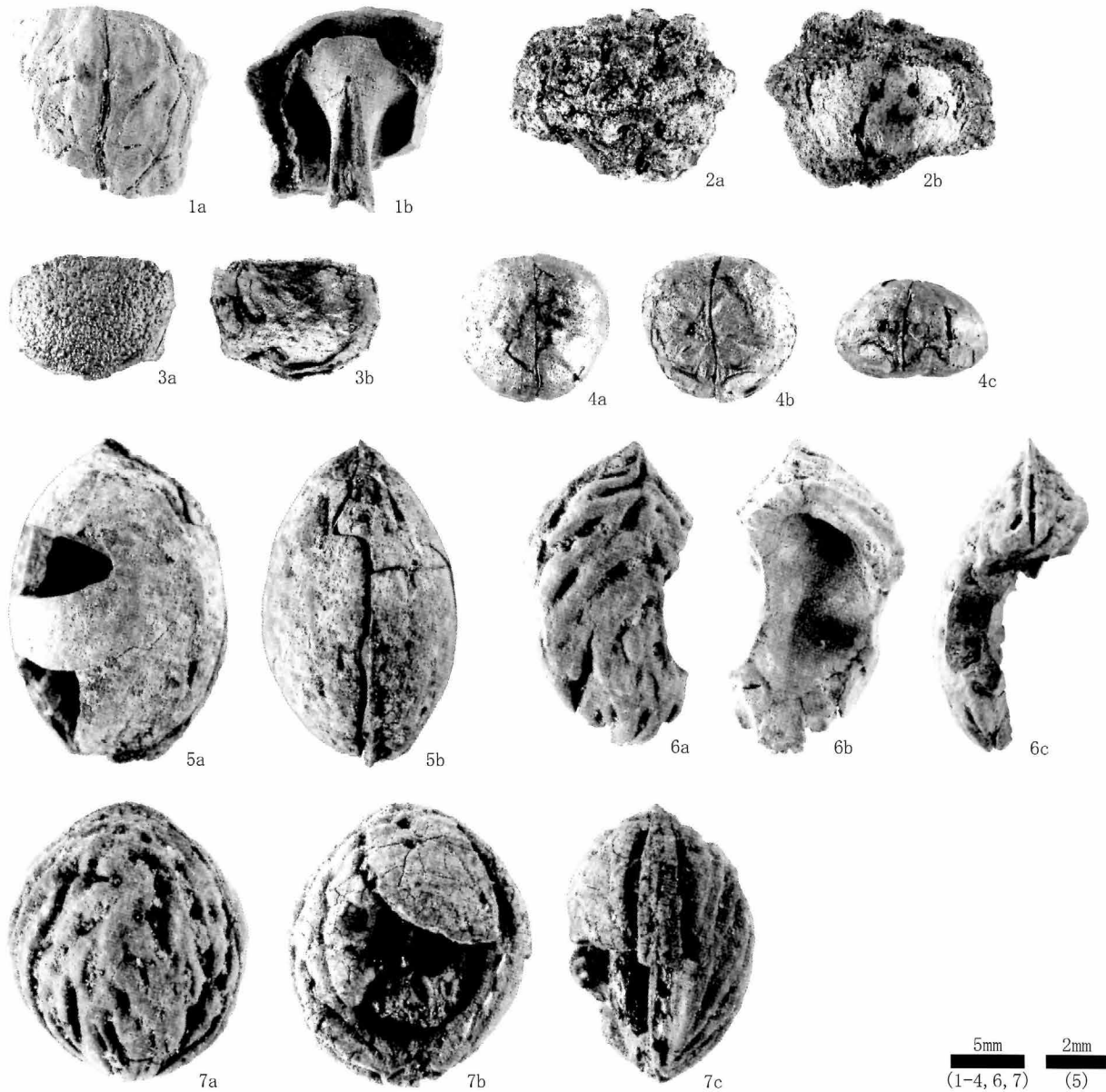
一方、D5の出土人骨は、右頭頂骨が土坑底部に接する状態であったとみられるが、埋葬方法については調査所見による確認が必要である。頭蓋は、全体的に骨厚が薄く、冠状縫合の内側が閉じていない。また、左上顎中切歯がみられるが、未咬耗であり、萌出直後に近い時期であったと思われる。これより、本人骨は8～10歳程度の小児程度と考えられる。性別については不明である。

引用文献

- 藤田恒太郎, 1949, 歯の計測基準について. 人類学雑誌, 61, 27-32.
 権田和良, 1959, 歯の大きさの性差について. 人類学雑誌, 67, 151-163.
 林田重幸・山内忠平, 1957, 馬における骨長より体高の推定法. 鹿児島大学農学部学術報告, 6, 146-156.
 石川茂雄, 1994, 原色日本植物種子写真図鑑. 石川茂雄図鑑刊行委員会, 328 p.
 加藤嘉太郎・山内 昭二, 2003, 新編 家畜比較解剖図説 上巻. 養賢堂, 315 p.
 御代田町教育委員会, 1989, 鋳師屋遺跡群 根岸遺跡. 長野県北佐久郡御代田町根岸遺跡発掘調査報告書.
 中山至大・井之口希秀・南谷忠志, 2000, 日本植物種子図鑑. 東北大学出版会, 642 p.
 西中川駿・本田道輝・松元光春, 1991, 古代遺跡出土骨からみたわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究. 平成2年度文部省科学研究費補助金(一般研究B)研究成果報告書, 99 p.
 小畑弘巳, 2008, マメ科種子同定法. 「極東先史古代の雑穀3」, 日本学術振興会平成16～19年度科学研究費補助金(基盤B-2)(課題番号16320110)「雑穀資料からみた極東地域における農耕受容と拡散過程の実証的研究」研究成果報告書, 小畑弘巳編, 熊本大学埋蔵文化財調査室, 225-252.

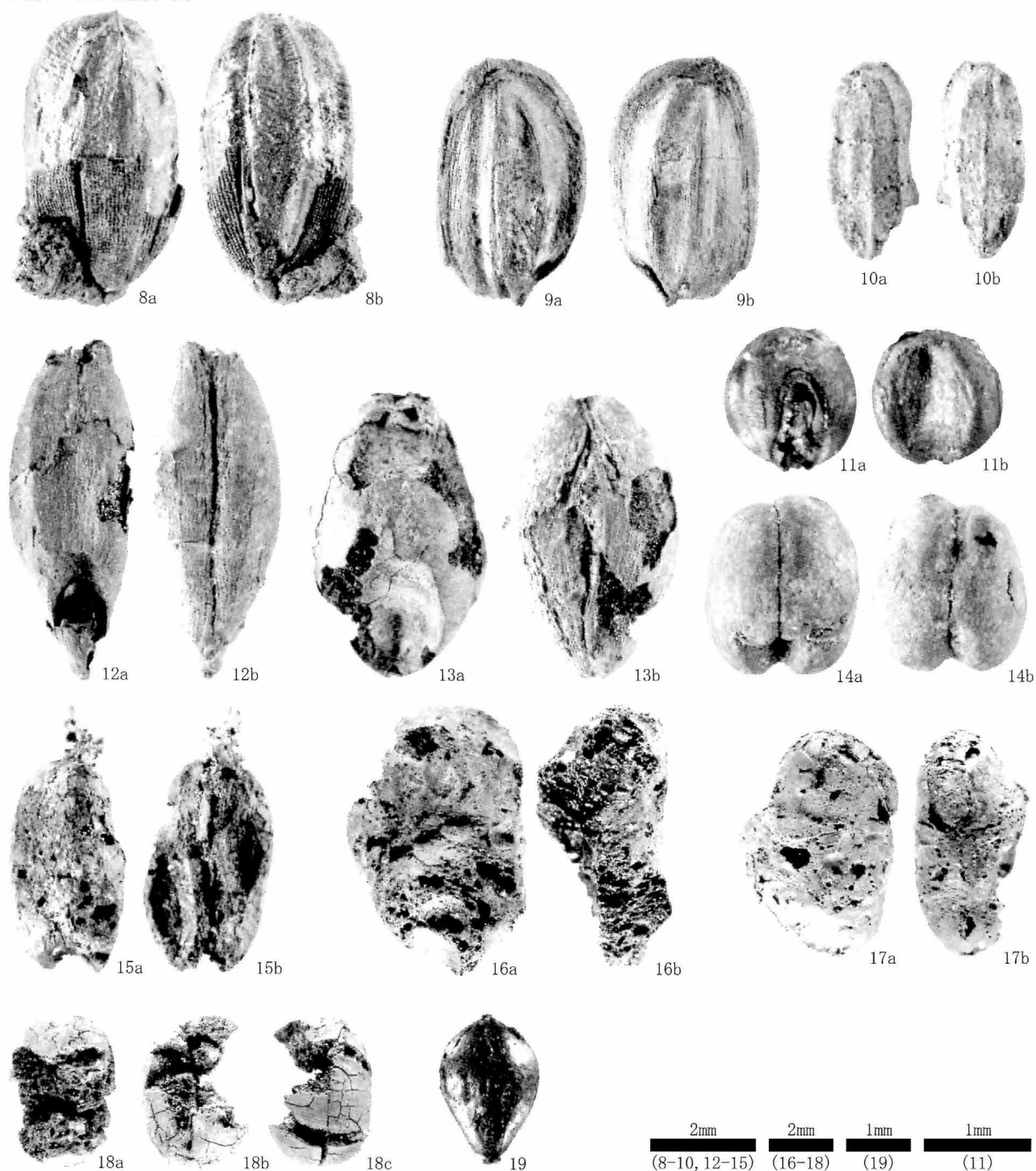
佐藤敏也, 1988, 弥生のイネ. 弥生文化の研究 2 生業, 金関 怨・佐原 真編, 雄山閣, 97-111.

図版1 種実遺体(1)



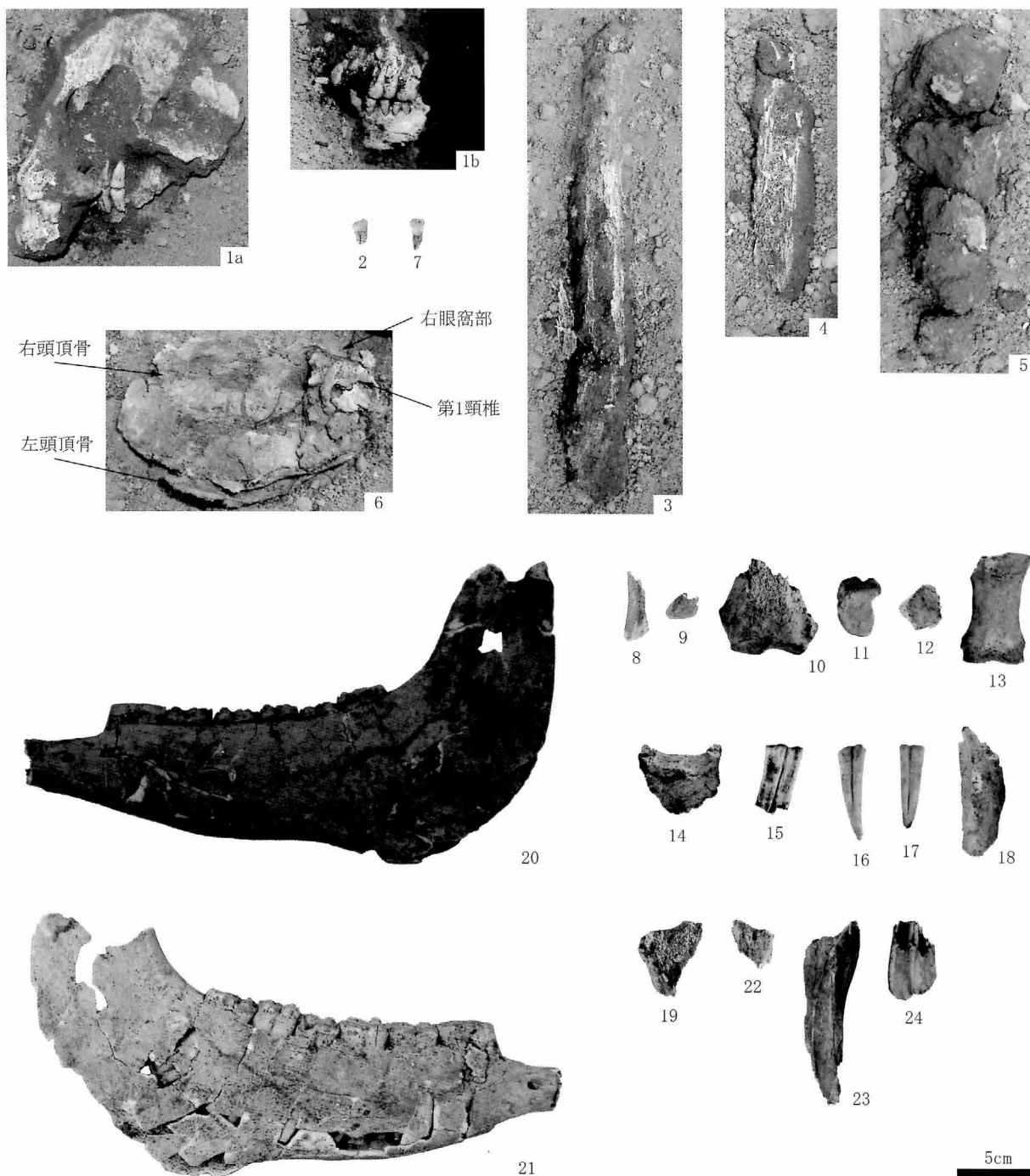
1. オニグルミ 核(NTIV H27 炉;16)
2. クヌギ 殻斗(NTIII H4 II区ホリ方;5)
3. クヌギ 果皮(着点)(NTIII H4 II区ホリ方;5)
4. クヌギ 子葉(NTIII H4 II区ホリ方;5)
5. スモモ 核(NTIII H12 東;9)
6. モモ 核(ネズミ類食痕)(NTIV H31 炉;17)
7. モモ 核・種子(NTIV H1;11)

図版2 種実遺体(2)



8. イネ 穎・胚乳(NTIV H19 IV区ホリ方;13)
 9. イネ 胚乳(NTIV H19 IV区ホリ方;13)
 10. イネ 胚乳(NTIV H19 IV区ホリ方;13)
 11. アワ 穎・胚乳(NTIII H7 No.1ピット内;7)
 12. オオムギ 穎・胚乳(NTIV H19 IV区ホリ方;13)
 13. オオムギ 穎・胚乳(NTIV H19 I区;13)
 14. コムギ 胚乳(NTIII H7 カマド;6)
 15. コムギ 胚乳(NTIII H7 検出面坏墨書内;8)
 16. マメ科 種子(NTIII H3 III区床上;3)
 17. マメ科 種子(NTIV H19 I区;15)
 18. マメ科(アズキ類) 種子(NTIII H7 No.1ピット内;7)
 19. ホタルイ属(平滑型) 果実(NTIII H7 No.1ピット内;7)

図版3 出土骨(1)



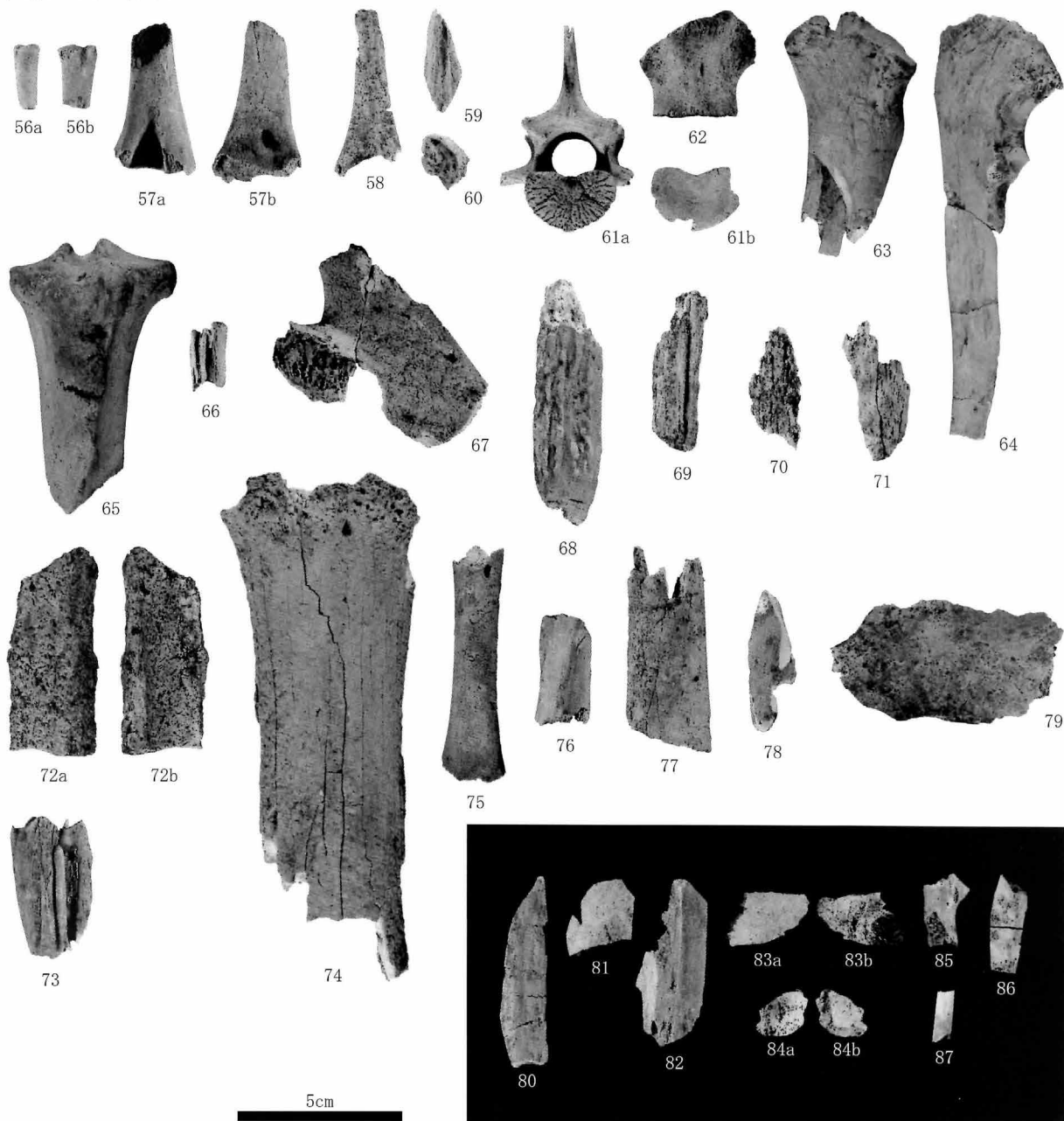
- | | |
|----------------------------------|-------------------------------------|
| 1. ヒト 頭蓋骨(NTIV D4 No. 1;44) | 2. ヒト 右下顎第3大白歯(NTIV D4 No. 1;44) |
| 3. ヒト 大腿骨?(NTIV D4 No. 2;45) | 4. ヒト 脛骨?(NTIV D4 No. 4;47) |
| 5. ヒト 四肢骨?(NTIV D4 No. 3;46) | 6. ヒト 脳頭蓋骨(NTIV D5 No. 4;49) |
| 7. ヒト 左上顎中切歯(NTIV D5;51) | 8. ウマ 左上顎第3門歯(NTIII H4 II区床面;2) |
| 9. ウマ 左上顎第3門歯(NTIII H12;13) | 10. ウマ 左橈骨(NTIII H12 サブトレ;14) |
| 11. ウマ 左橈側手根骨(NTIII H12 サブトレ;14) | 12. ウマ 左副手根骨(NTIII H12 サブトレ;14) |
| 13. ウマ 左基節骨(NTIII H12;13) | 14. ウマ 左末節骨(NTIII H12;13) |
| 15. ウマ 右下顎臼歯(NTIV H23 I区覆土;33) | 16. ウマ 右下顎第1門歯(NTIV M15;40) |
| 17. ウマ 左下顎第1門歯(NTIV H52;41) | 18. ウマ 右大腿骨(NTIV H52;40) |
| 19. ウマ 脛骨(NTIV M15;40) | 20. ウマ 左下顎骨(NTIV M15 No. 1;43) |
| 21. ウマ 右下顎骨(NTIV M15 No. 1;43) | 22. ウマ 左橈骨(NTIV D7 No. 1;52) |
| 23. ウマ 左尺骨(NTIV D7 No. 1;52) | 24. ウマ 左上顎第3/4前臼歯(NTIV M4 No. 2;59) |

図版4 出土骨(2)



- | | |
|--|------------------------------------|
| 25. ウマ 左上顎第1門歯(NTIII D13;24) | 26. ウマ 左寛骨(NTIII D13;21) |
| 27. ウマ 右寛骨(NTIII D13;20) | 28. ウマ 右寛骨(NTIII D13;25) |
| 29. ウマ 左大腿骨(NTIII D13;19) | 30. ウマ 左大腿骨(NTIII D13;19) |
| 31. ウマ 右大腿骨(NTIII D13;25) | 32. ウマ 右大腿骨(NTIII D13;22) |
| 33. ウマ 右膝蓋骨(NTIII D13;22) | 34. ウマ 左脛骨(NTIII D13;19) |
| 35. ウマ 左脛骨(NTIII D13;19) | 36. ウマ 右脛骨(NTIII D13;19) |
| 37. ウマ 右脛骨(NTIII D13;19) | 38. ウマ 左右足根骨等出土状況(NTIII D13;19) |
| 39. ウマ 左踵骨(NTIII D13;19) | 40. ウマ 右踵骨(NTIII D13;19) |
| 41. ウマ 左距骨(NTIII D13;19) | 42. ウマ 右距骨(NTIII D13;19) |
| 43. ウマ 左中心足根骨(NTIII D13;19) | 44. ウマ 右中心足根骨(NTIII D13;19) |
| 45. ウマ 右第4足根骨(NTIII D13;19) | 46. ウマ 左第3足根骨(NTIII D13;19) |
| 47. ウマ 右第1+2足根骨, 第3足根骨, 中足骨近位端(NTIII H16;19) | |
| 48. ウマ 左右第2~4中足骨出土状況(NTIII D13;19) | 49. ウマ 左第2中足骨(NTIII D13;19) |
| 50. ウマ 左第3中足骨(NTIII D13;19) | 51. ウマ 左第4中足骨(NTIII D13;19) |
| 52. ウマ 右第4中足骨(NTIII D13;19) | 53. ウマ 右第2中足骨, 第3中足骨(NTIII D13;19) |
| 54. ウマ 第3中足骨(NTIII D13;19) | 55. ウマ 基節骨(NTIII D13;19) |

図版5 出土骨(3)



- 56. イノシシ 第2/5中手骨/中足骨(NTIII H6 カマド;8)
- 57. イノシシ? 左上腕骨(NTIII H12 サブトレ;14)
- 58. イノシシ? 右上腕骨(NTIII H12 サブトレ;14)
- 59. ニホンジカ 中手骨/中足骨(10:NTIII H6 カマド;10)
- 60. ニホンジカ 左上顎第2前臼歯(NTIII H12;15)
- 61. ニホンジカ 腰椎(NTIII H12 床面東;12)
- 62. ニホンジカ 椎骨(NTIII H12 サブトレ;17)
- 63. ニホンジカ 左橈骨(NTIII H12 東;11)
- 64. ニホンジカ 左尺骨(NTIII H12 東;11)
- 65. ニホンジカ 左脛骨(NTIII H12 サブトレ;17)
- 66. ニホンジカ 臼歯(NTIII H5 IV区;26)
- 67. ニホンジカ 右下顎骨(NTIV M15;42)
- 68. ニホンジカ 角(NTIV D7 No.2;53)
- 69. ニホンジカ 中手骨/中足骨(NTIV M4 No.4;61)
- 70. ニホンジカ? 角?(NTIV M4 No.3;60)
- 71. ニホンジカ? 角?(NTIV M4 No.4;61)
- 72. ウシ? 角?(NTIII H1 覆土;1)
- 73. ウシ 左下顎第1後臼歯(NTIV H31内集石(攪乱);35)
- 74. ウシ 右中手骨(NTIV M4 No.1;58)
- 75. 獣類 四肢骨(NTIII H12;15)
- 76. 獣類 四肢骨(NTIII H6 カマド袖;5)
- 77. 獣類 四肢骨(NTIV H34 No.2;37)
- 78. 獣類 四肢骨(NTIV D7;54)
- 79. 獣類 肩甲骨?(NTIII H12 サブトレ;16)
- 80. 獣類 四肢骨(NTIII H6 カマド内火床;3)
- 81. 獣類 四肢骨(NTIII H6 カマド袖;5)
- 82. 獣類 四肢骨(NTIII H6 カマド;7)
- 83. 獣類 下顎骨?(NTIV H12 炉内覆土;27)
- 84. 獣類 下顎骨?(NTIV H21 炉;130)
- 85. 獣類 肋骨(NTIV D7;54)
- 86. 獣類 四肢骨(NTIV D7;54)
- 87. 獣類 不明(NTIV H19掘方;29)

西近津遺跡V出土の動物遺体

樋泉 岳二(早稲田大学)・孔智賢(パレオ・ラボ)

1. はじめに

佐久市長土呂に所在する西近津遺跡Vからは、弥生時代～中世の集落址が確認された。ここでは、弥生時代後期～古代の遺構から検出された歯および骨片資料の同定結果を報告する。

2. 資料と分析方法

資料は、4遺構から採集された5資料である。各遺構の覆土から取り上げられたものだが、採集方法の詳細は不明である。遺構の情報は以下である。

弥生時代後期のH4号住居址は小鍛冶遺構の可能性もあり、古墳後期と平安の遺構と重複している。D3号土坑は、古墳時代以降の粘土採掘坑である。D6号土坑は、出土遺物がなく時期は不明だが、中世の可能性も想定されている。

クリーニングは、洗浄すると破損するおそれがあったため、付着された土を乾燥し、筆で取り除いた。特に保存状態が悪い資料No.16は、表面の土を除去した後、水に薄く溶かした木工用ボンドを塗って形態を保つようにした。接合可能な資料については、接合を行った。同定は国立歴史民俗博物館西本豊弘氏所蔵の現生標本との比較によって行った。

3. 結果および考察

同定結果を表1に示す。資料はすべて哺乳類の歯または骨である。全般的に溶解が進行しており、保存状態は悪い。以下、遺構ごとに内容を述べる。

H4号住居址(資料No.14. 弥生時代後期)

シカ *Cervus nippon* の臼歯が確認された。エナメル質のみの破片である。

D3号土坑(資料No.15. 古墳時代以降)

シカの落角の角座部分。今回の分析資料の中では、比較的保存がよい。角幹と第1尖は切断されており、角器製作の残滓である。

D6号土坑(資料No.16. 年代不明-古代?)

ウマ *Equus ferus* が1個体分まとまって検出されている。成獣で、性別は不明。中手骨・中足骨の計測値から推定される体高は120~125cm程度で、古代に一般的にみられる比較的小型のウマである。骨は全体的に溶解が進行しており、とくに脆弱な部位(頸椎・肋骨など)はほとんど消滅しているが、肩甲骨・橈骨・中手骨・寛骨などは比較的保存がよい。腰椎と後肢の脛骨～足根骨が欠如しているのは攪乱のためである。同定結果と出土状況の実測図を照合した結果、全身が交連状態(各骨が関節した状態)で埋蔵されていたことが確認された。右を上に向けた側臥姿勢である。死後のウマを解体することなく、そのまま埋納したものと考えられるが、その性格については遺構や伴出遺物の内容などを踏まえて検討する必要がある。

M5号溝状遺構(資料No.17・18. 古代)

ウマの下顎臼歯2点と足根骨1点、ウマまたはウシと思われる椎骨破片1点、および種同定の困難な哺乳類の小片3点が確認された。

4. おわりに

西近津遺跡Vからはウマ・シカを含む哺乳類遺体が出土した。弥生時代後期のH4号住居址ではシカの歯が確認され、シカ猟が行われていた可能性が示された。また古墳時代以降ながら、角器製作の残滓と考えられる鹿角が出土したことから、本遺跡において角器生産が行われていたことが示唆される。古代?のD6号土坑からはウマの全身骨が出土した。死後のウマを解体することなく、そのまま埋納したものと考えられるが、その性格については遺構・遺物などと比較検討したうえで検討する必要がある。

表1. 西近津遺跡V出土動物遺体の同定結果

資料No.	No.	遺構	出土位置	種類	部位	残存位置/残存状態	左右	数	備考・計測
14	1	H4号住居址	-	シカ	臼歯	破片	-	多数	
15	2	D3号土坑	-	シカ	角	角座	L	1	落角, 角幹, 第1尖を切断
16	3	D6号土坑	1	ウマ?	不明	破片	-	多数	
16	4	D6号土坑	2	ウマ?	不明	破片	-	多数	
16	5	D6号土坑	3	ウマ	上顎臼歯(P3~M2のいずれか)	-	R	1	
16	6	D6号土坑	4	ウマ	上顎臼歯(P3~M2のいずれか)	-	R	1	
16	7	D6号土坑	5	ウマ	上顎臼歯(P3~M2のいずれか)	-	L	1	
16	8	D6号土坑	6	ウマ	下顎M3	-	L	1	
16	9	D6号土坑	7	ウマ	下顎骨	[P4・M1・M2・M3 +下顎枝]	L	1	
16	10	D6号土坑	7	ウマ	上顎M2	-	L	1	
16	11	D6号土坑	7	ウマ	上顎M3	-	L	1	
16	12	D6号土坑	7	ウマ	上顎骨	[P3・P4・M1・M2・M3]	R	1	M2は著しく変形
16	13	D6号土坑	7	ウマ	下顎骨	[P3・P4・M1・M2・M3]	R	1	
16	14	D6号土坑	9	ウマ	肩甲骨	関節部	R	1	
16	15	D6号土坑	9	ウマ	肋骨	-	-	2	No.16-14の肩甲骨に付着して出土
16	16	D6号土坑	10	ウマ	手根骨/足根骨	-	-	4	
16	17	D6号土坑	10	ウマ	上腕骨	完存	R	1	
16	18	D6号土坑	15	ウマ	橈骨	遠位端	L	1	
16	19	D6号土坑	16	ウマ	肩甲骨	関節部	L	1	
16	20	D6号土坑	不明	ウマ	上腕骨	近位端	L	1	
16	21	D6号土坑	不明	ウマ	胸椎	-	-	2	
16	22	D6号土坑	不明	ウマ	胸椎	破片	-	1	
16	23	D6号土坑	不明	ウマ?	不明	破片	-	多数	
16	24	D6号土坑	8	ウマ	中手骨	近位端	R	1	SD:31.8mm
16	25	D6号土坑	8	ウマ	基節骨	-	-	1	
16	26	D6号土坑	11	ウマ	橈骨	近位端	R	1	
16	27	D6号土坑	11	ウマ	上腕骨	遠位端	R	1	
16	28	D6号土坑	12	ウマ	橈骨	遠位端	R	1	No.16-26と同一個体
16	29	D6号土坑	12	ウマ	手根骨/足根骨	-	-	1	
16	30	D6号土坑	13	ウマ	中手骨	遠位端	R	1	No.16-24と接合
16	31	D6号土坑	13	ウマ	基節骨	-	-	1	
16	32	D6号土坑	14	ウマ	中手骨	完存	L	1	Bp:45.5mm, SD:30.8mm
16	33	D6号土坑	21	ウマ	中足骨	近位端	L	1	Bp:42.7mm, SD:29.5mm
16	34	D6号土坑	不明	ウマ	頸椎	破片	-	多数	
16	35	D6号土坑	17	ウマ	仙骨	-	-	1	
16	36	D6号土坑	17	ウマ	寛骨	坐骨破片	R	1	
16	37	D6号土坑	17	ウマ	大腿骨	近位端	L	1	
16	38	D6号土坑	17	ウマ?	不明	破片	-	多数	
16	39	D6号土坑	18	ウマ	寛骨	恥骨破片	R	1	No.16-36と接合
16	40	D6号土坑	18	ウマ	大腿骨	骨幹	R	1	
16	41	D6号土坑	18	ウマ?	不明	破片	-	多数	
16	42	D6号土坑	19	ウマ	寛骨	腸骨・坐骨破片	L	1	
16	43	D6号土坑	19	ウマ	寛骨	腸骨破片	R	1	No.16-36と接合
16	44	D6号土坑	19	ウマ?	不明	破片	-	2	
16	45	D6号土坑	20	ウマ	腰椎	椎体	-	1	
16	46	D6号土坑	不明	ウマ	椎骨	椎体	-	1	
16	47	D6号土坑	不明	ウマ?	不明	破片	-	多数	
16	48	D6号土坑	22	ウマ	胸椎	-	-	2	
16	49	D6号土坑	22	ウマ	胸椎	椎体破片	-	2	
16	50	D6号土坑	22	ウマ	胸椎	棘突起破片	-	2	
16	51	D6号土坑	22	ウマ	椎骨	破片	-	2	
16	52	D6号土坑	不明	ウマ?	不明	破片	-	多数	
17	53	M5号溝状遺構	-	ウマ	下顎臼歯(P3~M2のいずれか)	-	L	1	
17	54	M5号溝状遺構	-	ウマ	下顎M3	-	R	1	
17	55	M5号溝状遺構	-	ウマ	足根骨	-	-	1	
17	56	M5号溝状遺構	-	ウシまたはウマ	椎骨	椎体	-	1	
17	57	M5号溝状遺構	-	哺乳類・同定不可	不明	破片	-	3	1点は歯の破片
18	58	M5号溝状遺構	No.1	ウマ	下顎M3	-	L	1	



H4号住居址



D3号土坑



D6号土坑



D6号土坑



M5号溝状遺構



M5号溝状遺構



西近津遺跡Ⅲ (平成18年度調査)



西近津遺跡Ⅲ (平成18年度調査)



西近津遺跡Ⅳ平成20年度調査地点東に近接して中部横断自動車道

図版 2



西近津遺跡Ⅳ (平成19年度調査)



西近津遺跡Ⅳ (平成20年度調査)

西近津遺跡Ⅲ



1 H1号住居址

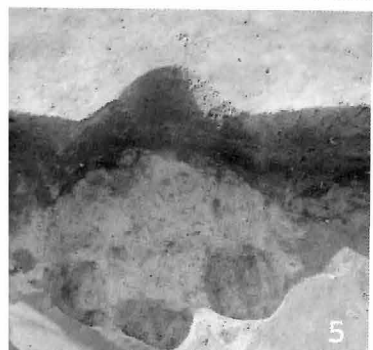
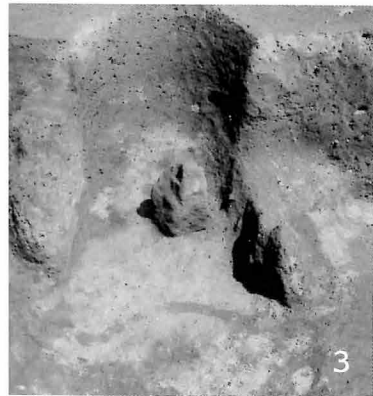
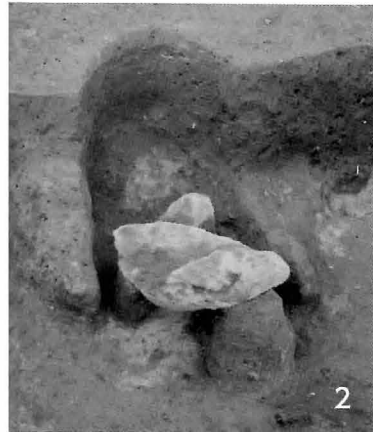
2 H1号住居址

3 H1号住居址
カマド

4 H1号住居址
カマド煙道部

5 H1号住居址
カマド掘方

図版 4



H2号住居址遺物出土状況(南方より)

1 H2号住居址カマド
付近遺物出土状態

2 H2号住居址
カマド

3 H2号住居址
カマド

4 H2号住居址
カマド掘方

5 H2号住居址
カマド掘方

6 H2号住居址
遺物出土状態

7 H2号住居址
掘方

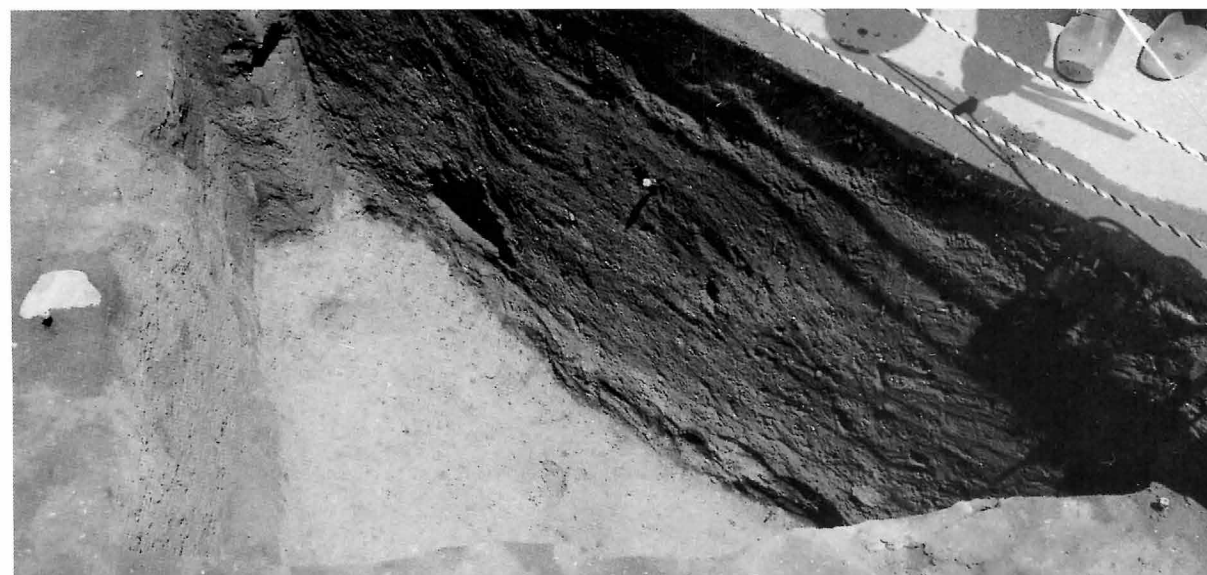
H3号住居址全景



H3号住居址掘方



H3号住居址掘方



図版 6



H4号住居址全景



H4号住居址

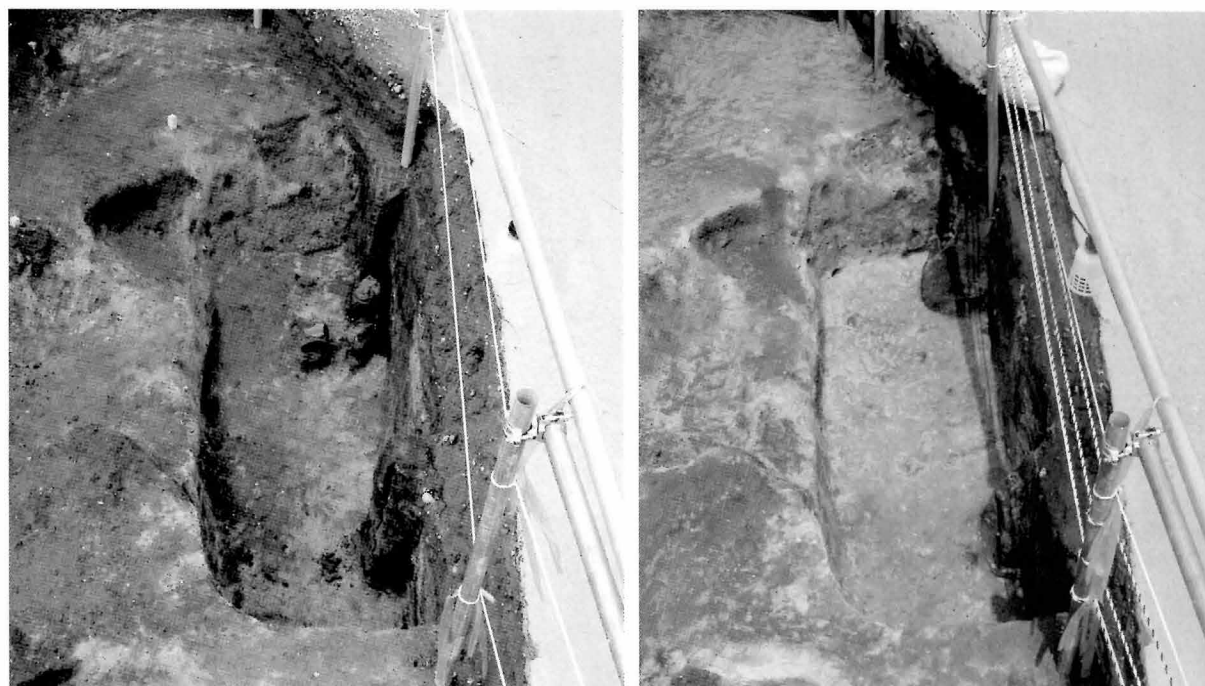


H4号住居址掘方

H4号住居址掘方



H5号住居址全景



H5号住居址掘方

H6号住居址全景





H6号住居址掘方



H6号住居址遺物
出土状態

H6号住居址
カマド掘方

H6号住居址
カマド



H7号住居址
南側部分全景

H7号住居址
南側部分掘方



H7号住居址
北側部分全景



H7号住居址
北側部分掘方





H7号住居址
紡錘車出土状態

H7号住居址
紡錘車出土状態



H7号住居址
P3内遺物
出土状態

H7号住居址
鉄鏃出土状態



H8号住居址掘方

H8号住居址全景

H9号住居址
北側部分

H9号住居址掘方

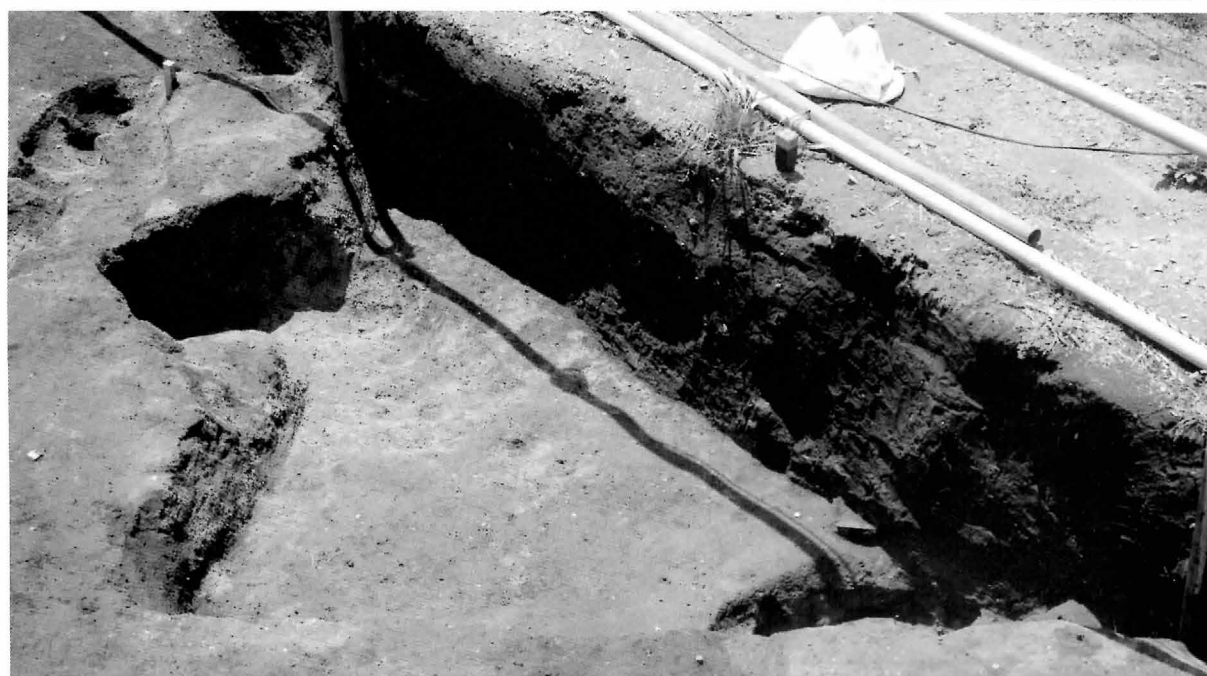


H9号住居址
南侧部分

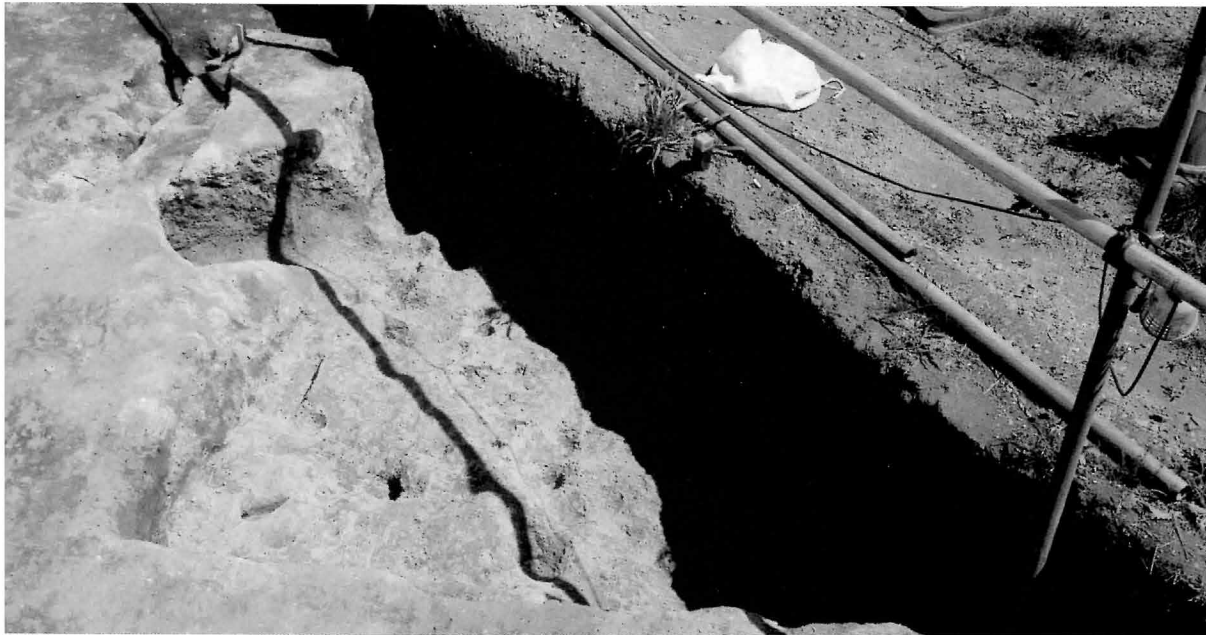
F1号掘立柱建物址
P3



H11号住居址全景



図版12



H11号住居址
掘方



H12号住居址
掘方



D13号土坑
出土獸骨



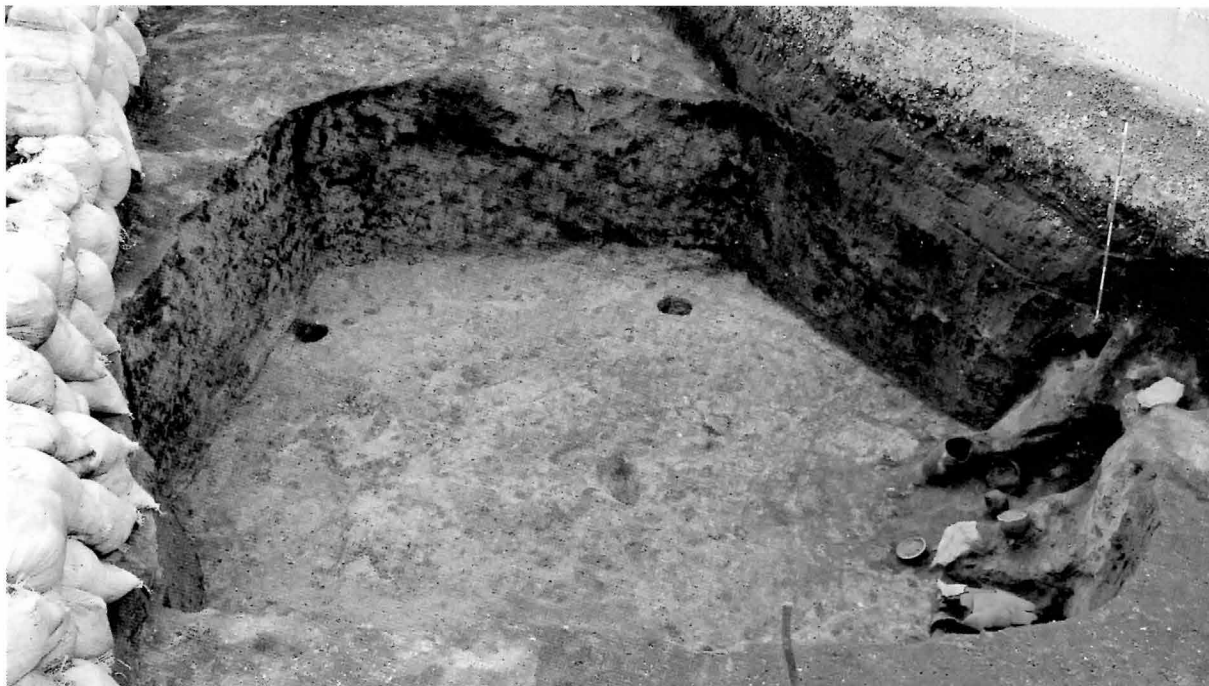
H12号住居址
カマド



D13号土坑
出土獸骨



H13号住居址
全景



H13号住居址
掘方



H13号住居址
カマド



H14号住居址
遺物出土状態





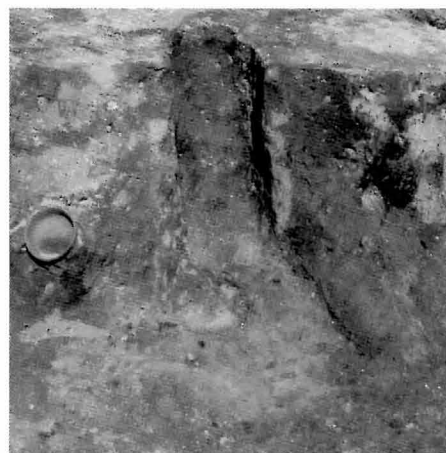
H14号住居址
掘方



H14号住居址
遺物出土状態



H14号住居址
カマド掘方



H14号住居址
カマド



H16号住居址
掘方

H17号住居址
全景



H17号住居址
掘方



H17号住居址
遺物出土状態



H17号住居址
砥石出土状態



H17号住居址
鉄鏃出土状態



H17号住居址
刀子出土状態



図版16



H18号住居址
掘方

H18号住居址
全景



H18号住居址
カマド掘方

H18号住居址
カマド



H19号住居址
掘方

H19号住居址
全景

H20号住居址
全景



H20号住居址
掘方



H21号住居址
掘方



図版18



H22号住居址
カマド



H22号住居址
カマド掘方



H22号住居址
全景



H23号住居址
カマド



H23号住居址
全景



H24号住居址
全景

H24号住居址
掘方



H24号住居址
カマド



H24号住居址
カマド掘方



H25号住居址
全景



H25号住居址
P3



H25号住居址
P1内出土状態



H25号住居址
遺物出土状態



H26号住居址
全景





H27号住居址
掘方

H27号住居址
全景



H27号住居址
鉄鏝出土状態

H27号住居址
カマド掘方

H27号住居址
カマド



H15号住居址
掘方

H10号住居址
全景

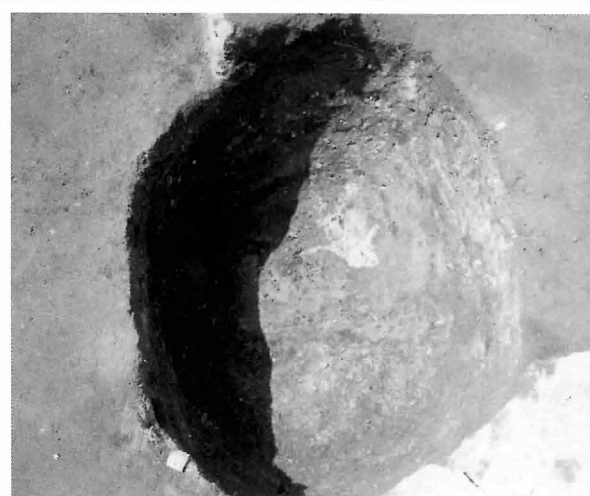
お12Gr
ピット群

西近津遺跡Ⅲ
H6号住居址
付近近景



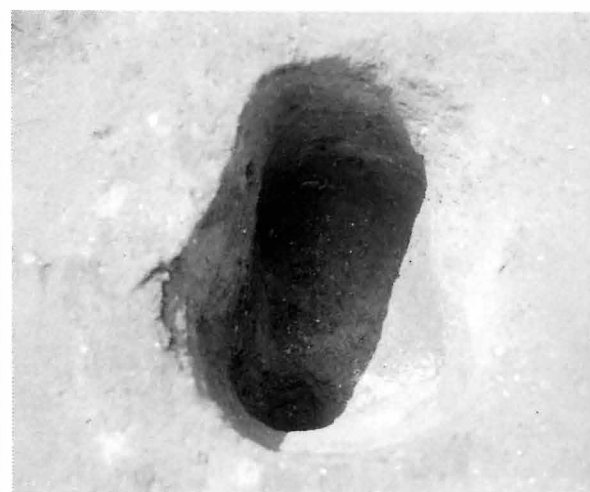
D1号土坑

D2号土坑



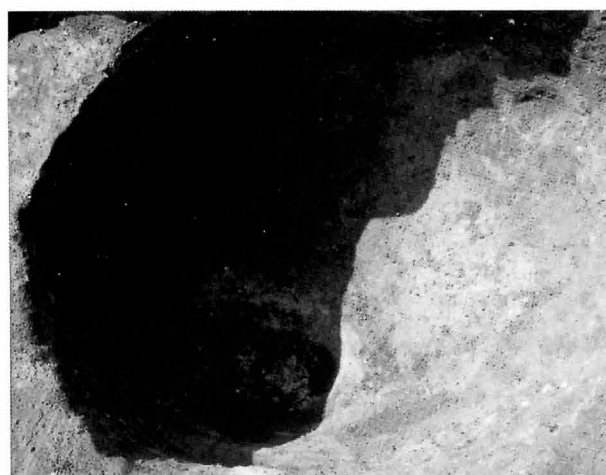
D3号土坑

P6



D5号土坑

D6号土坑



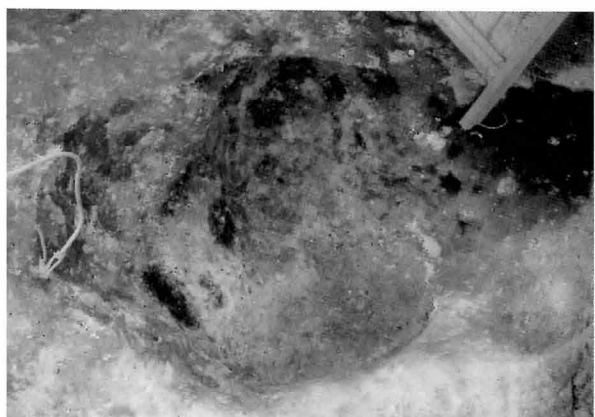
图版22



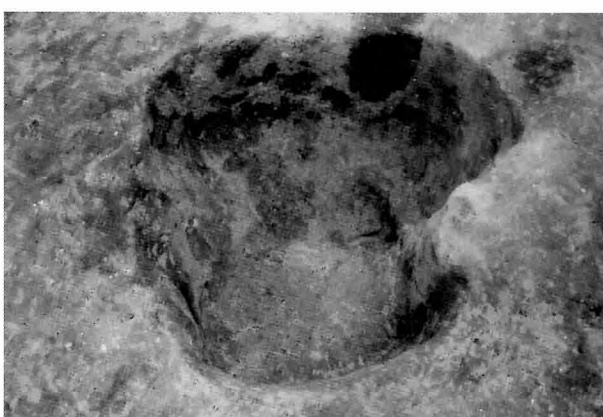
P20



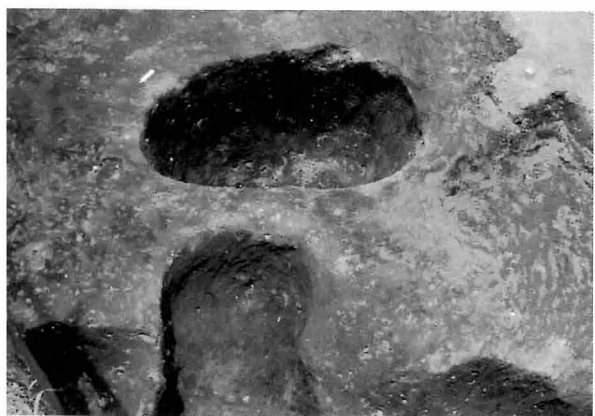
D7号土坑



F1号掘立柱建物址
建物址P2



F1号掘立柱建物址
建物址P1



D9号土坑



F1号掘立柱建物址
建物址P4



D10号土坑



D11号土坑

D13号土坑



M1号
溝状遺構



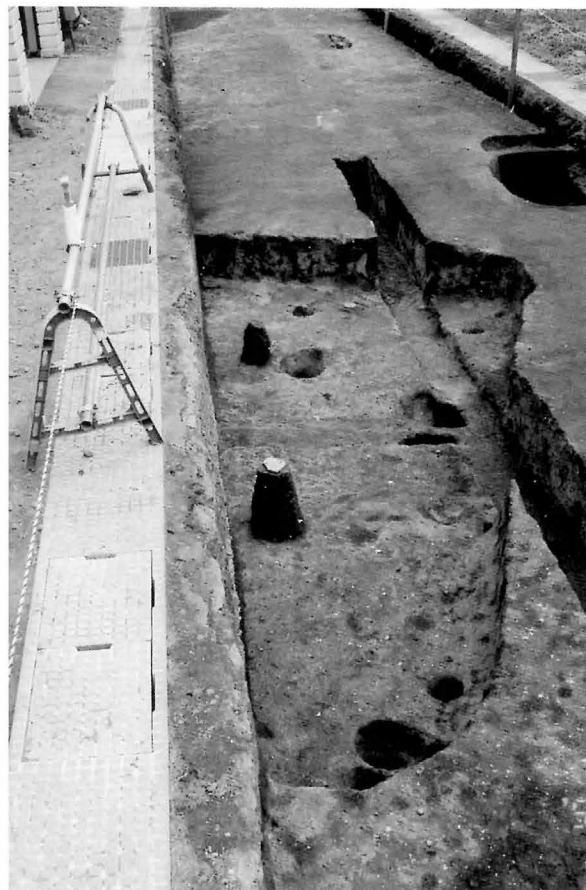
M2号
溝状遺構



M2号
溝状遺構付近
ピット群



西近津遺跡Ⅳ



H1号住居址
全景



H1号住居址
掘方



H2号住居址
全景

H3号住居址
全景



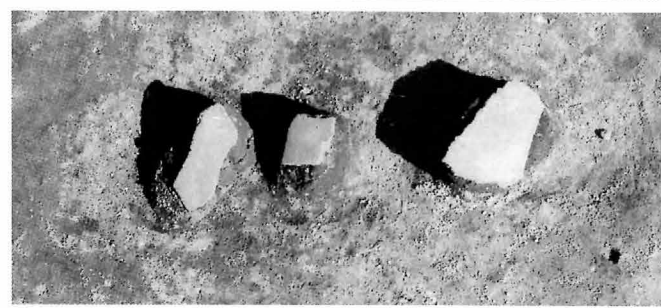
H3号住居址
掘方



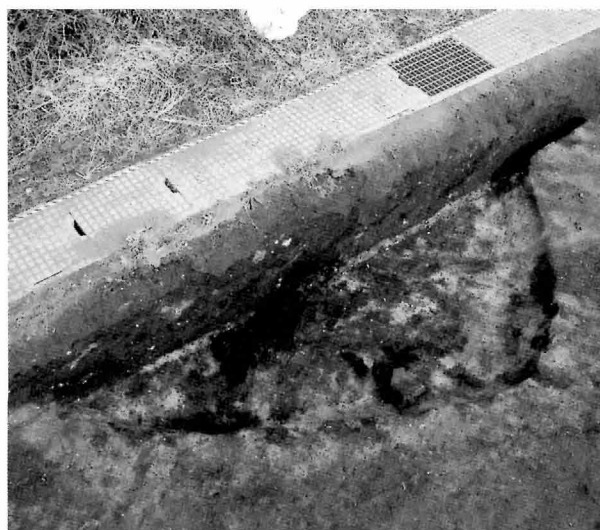
H3号住居址
遺物出土状態



H3号住居址
遺物出土状態



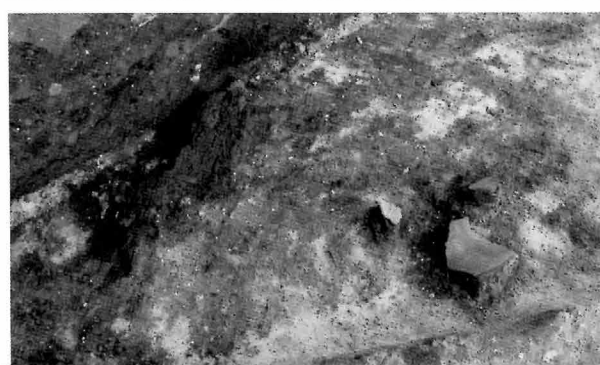
H4号住居址
全景



H4号住居址
掘方



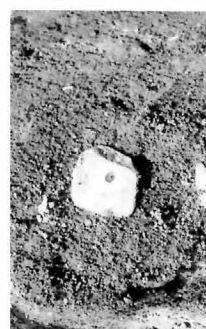
H4号住居址
遺物出土状態





H5号住居址
掘方

H5号住居址
全景



H5号住居址
遺物出土狀態



H6号住居址掘方

H6号住居址
遺物出土狀態

H6号住居址
全景



H7号住居址
全景



H7号住居址
全景



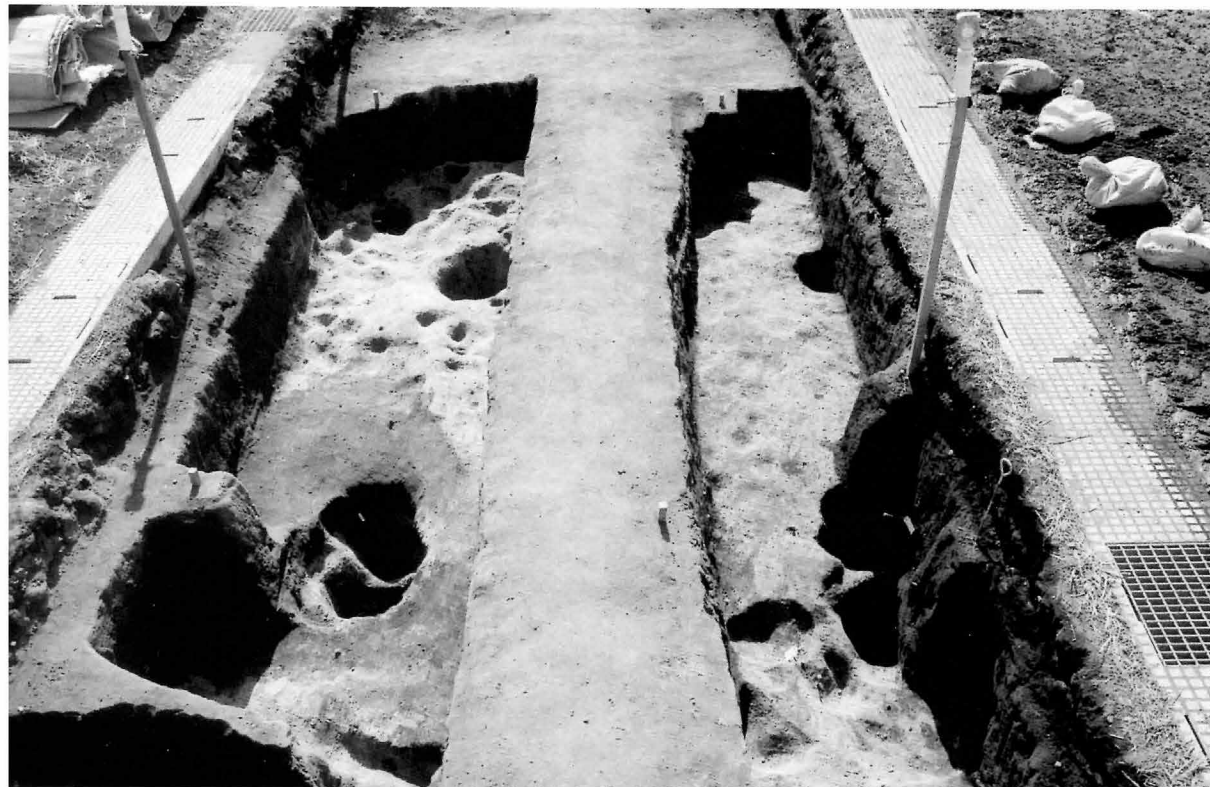
H8号住居址
全景



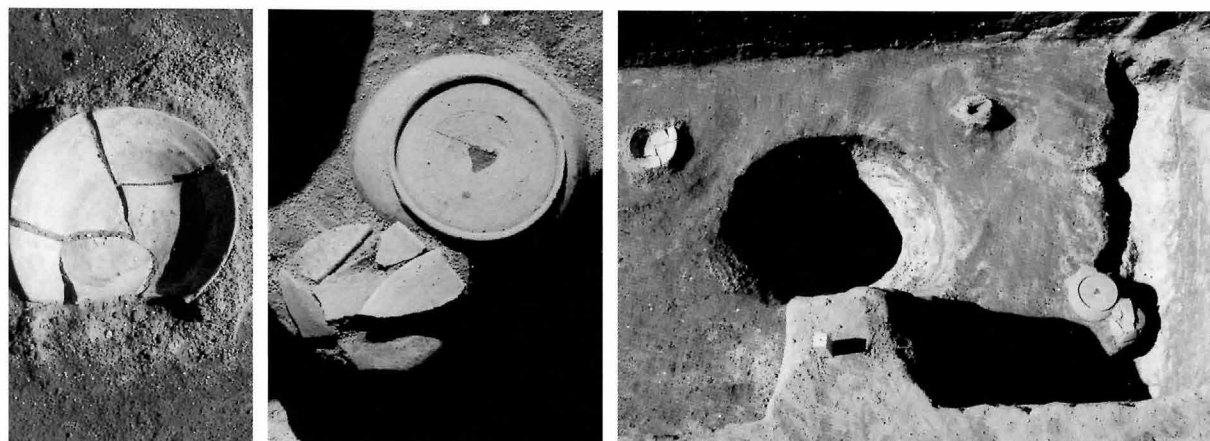
H9号住居址
全景

H9号住居址
遺物出土状态





H9号住居址
掘方



H9号住居址
遺物出土状態



H10号住居址
全景

H10号住居址
カマド



H10号住居址
カマド掘方

H10号住居址
遺物出土状態

H11号住居址
全景

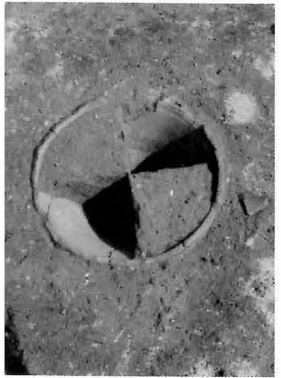


H11号住居址
全景





H11号住居址
全景



H11住居址
炉址



H11住居址
炉址

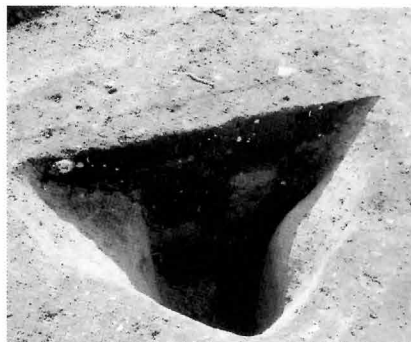


H11住居址
炉址

H11号住居址
P1



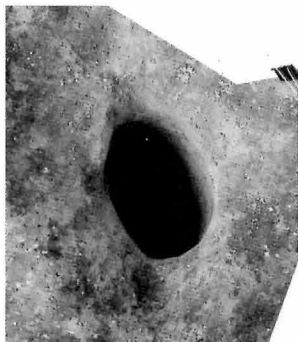
H11号住居址
P2



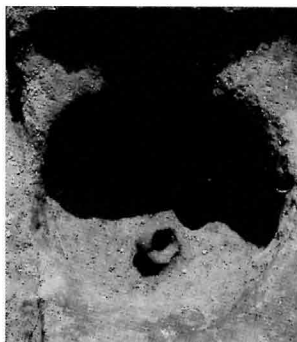
H11号住居址
P3



H11号住居址
P4



H11号住居址
P7



H11号住居址
P5



H12号住居址
全景



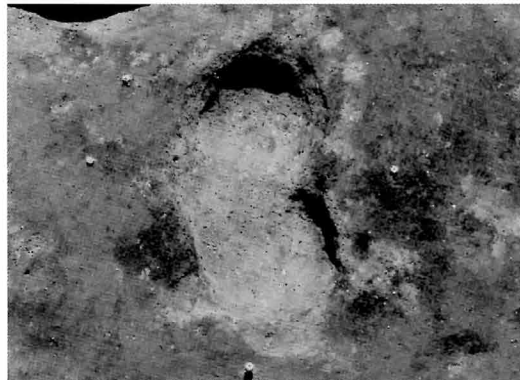
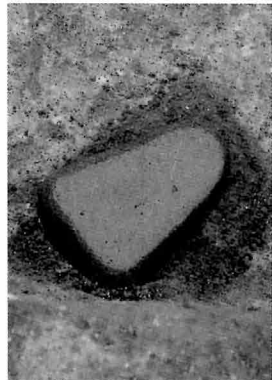
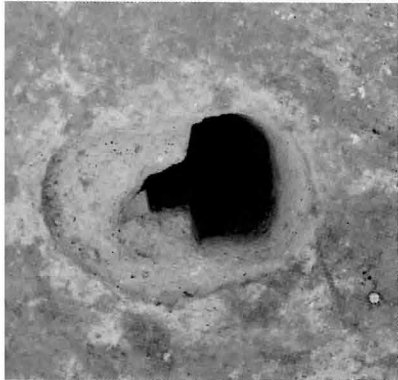
H12号住居址
掘方





H12住居址
炉址

H12住居址
入口施設
P2～P4



H12住居址
ピット

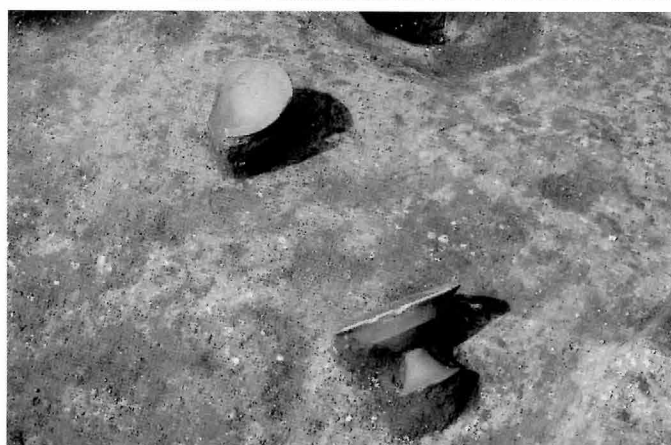
H12住居址
遺物出土状態

H12住居址
炉址掘方



H14号住居址
全景

H13号住居址
全景



H14号住居址
カマド

H14号住居址
遺物出土状態

H14号住居址
掘方



H15号住居址
全景

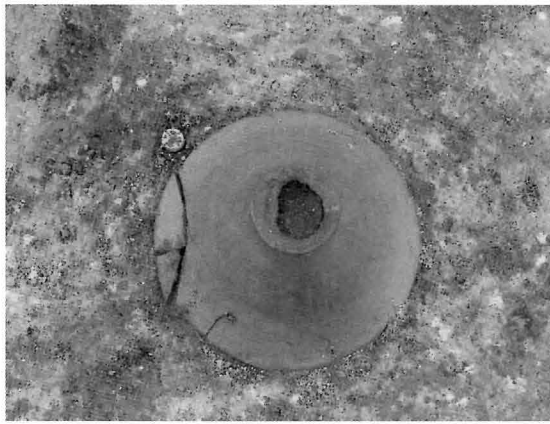


H15号住居址
掘方

H16号住居址
全景



图版34



H17号住居址
全景

H16号住居址
遺物出土状態

H17号住居址
遺物出土状態



H18号住居址
全景



H20号住居址
付近

H18号住居址
掘方

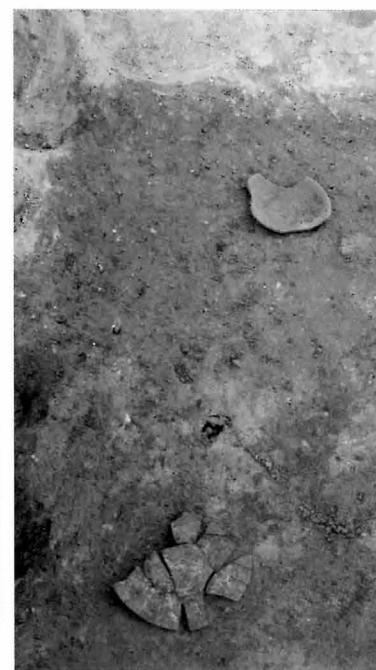
H19号住居址
全景



H19号住居址
掘方



H19号住居址
遺物出土状態

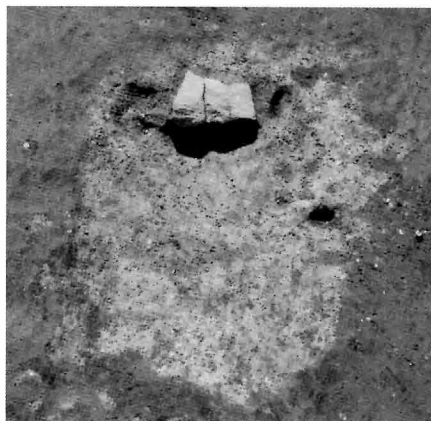


H20号住居址
全景





H20号住居址
P3



H20号住居址
炉址



H20号住居址
遺物出土状態



H22号住居址
全景



H21号住居址
全景

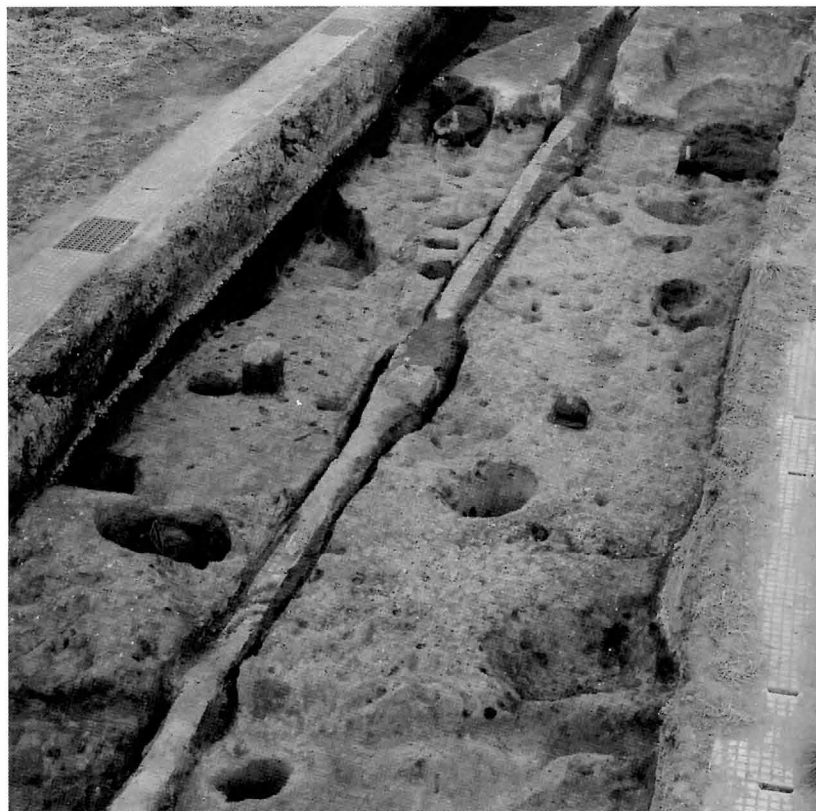


H22号住居址
炉址1·P1



H21号住居址
遺物出土状態

H22号住居址
掘方



H22号住居址
P1内
遺物出土状態



H22号住居址
遺物出土状態



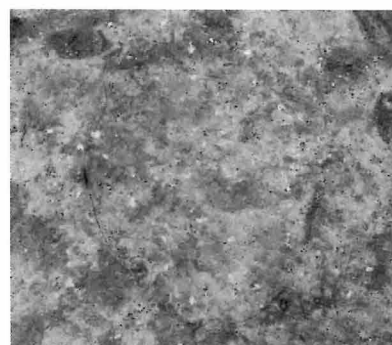
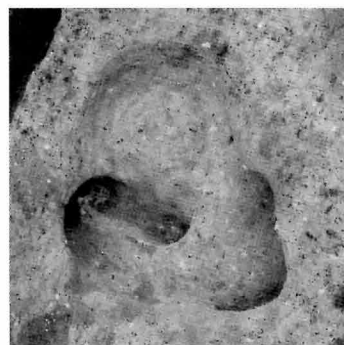
H22号住居址
炉址1



H22号住居址
炉址1

H22号住居址
炉址1

H22号住居址
炉址2



H22号住居址
炉址2

H22号住居址
炉址2

H23号住居址
全景



H23号住居址
カマド



H23号住居址
遺物出土状態





H24号住居址
全景



H26号住居址
全景

H24号住居址
掘方



H25号住居址
全景

H27号住居址
全景



H27号住居址
炉址



H27号住居址
炉址

H27号住居址
炭化材
出土状态





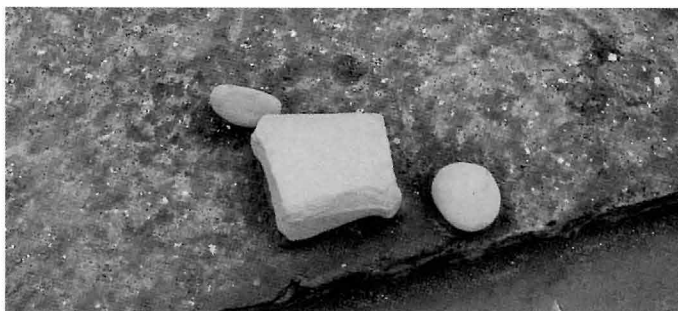
H28号住居址
全景



H29号住居址
全景



H29号住居址
掘方



H29号住居址
P3·P4



H28号住居址
遺物出土状態



H30号住居址
全景



1 H31号住居址
全景



2 H31号住居址
P1·P2



3 H31号住居址
遺物出土狀態



4 H31号住居址
掘方



5 H31号住居址
炉址

6 H31号住居址
炉址掘方



7 H32号住居址
全景

8 H32号住居址
炭化材
出土狀態

9 H32号住居址
掘方

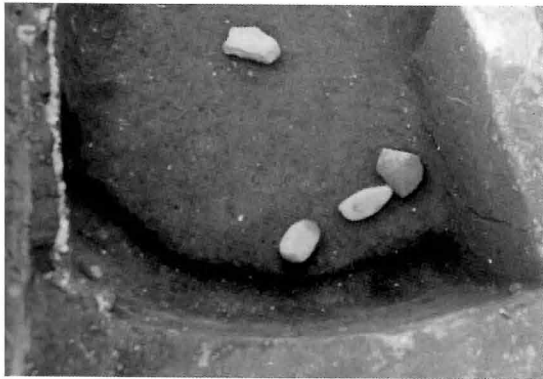




H34号住居址
全景



H33号住居址
全景



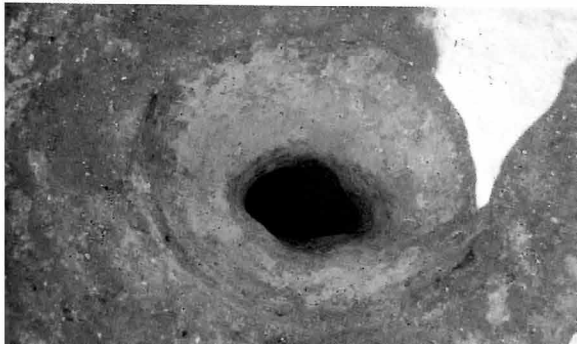
H34号住居址
遺物出土状態



H34号住居址
カマド



H35号住居址
全景



H35号住居址
P4



H35号住居址
P5・P6

H36号住居址
全景



H37号住居址
全景



H37号住居址
掘方



H37号住居址
カマド内
遺物出土状態

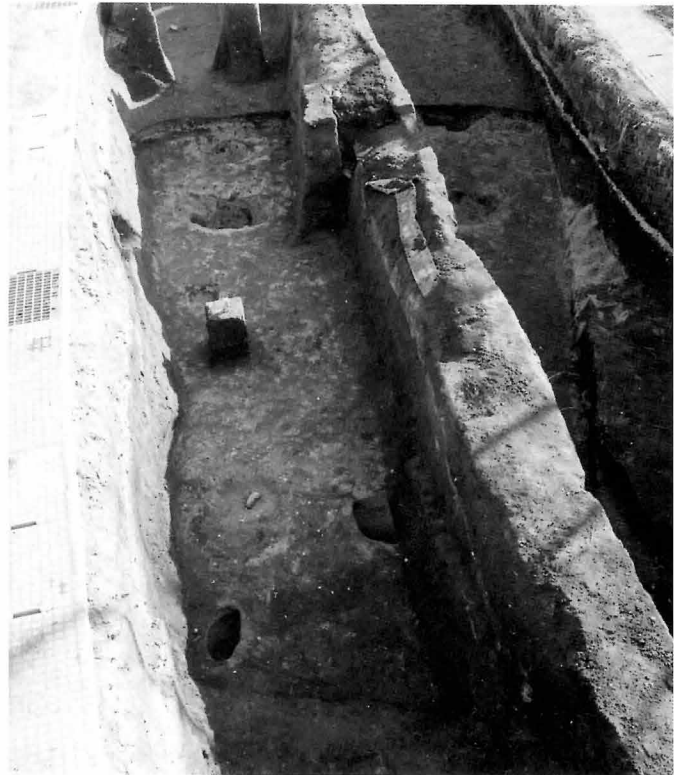


H37号住居址
遺物出土状態



H37号住居址
カマド





H39号住居址
全景



H38号住居址
全景



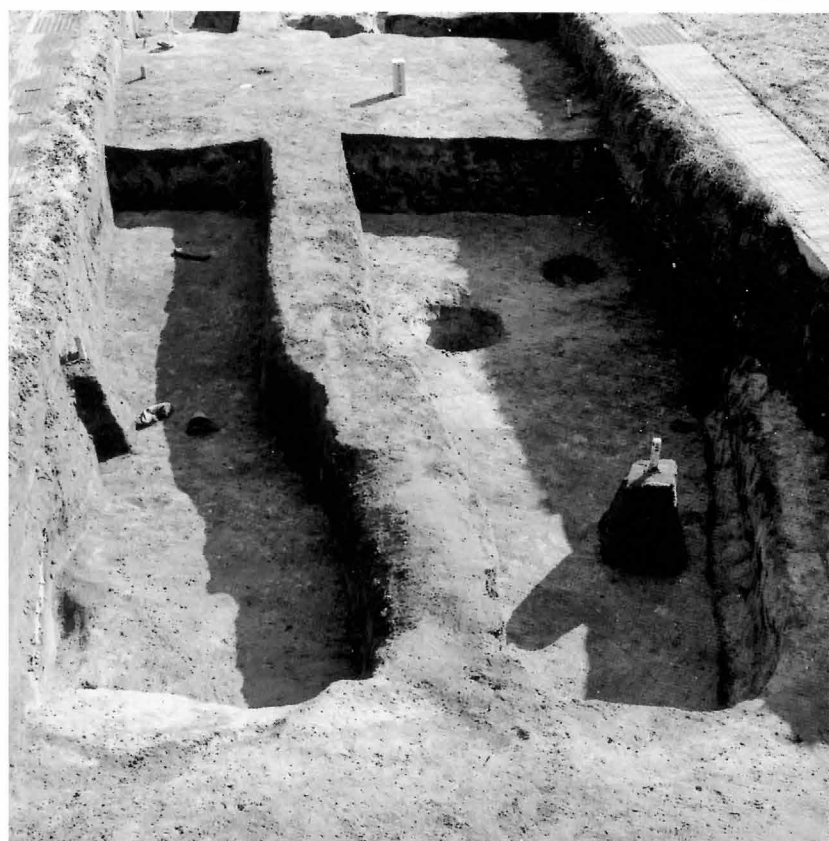
H39号住居址
炉址



H39号住居址
炉址



H39号住居址
炉址



H41号住居址
全景



H40号住居址
全景

H42号住居址
全景

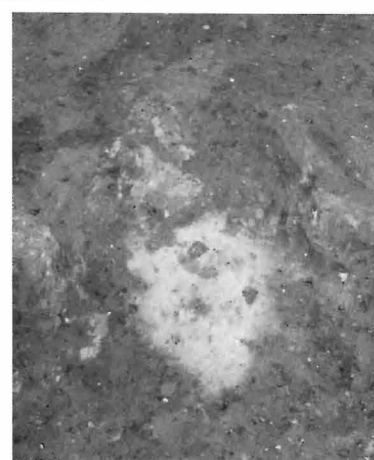


H42号住居址
カマド



H42号住居址
カマド

H43号住居址
全景



H43号住居址
カマド

H44号住居址
全景



西近津遺跡IV
平成20年1月
調査地点





H45号住居址
掘方



H45号住居址
全景



H45号住居址
墳砂
遺物出土狀態



H45号住居址
墳砂
遺物出土狀態



H45号住居址
墳砂



H45号住居址
墳砂

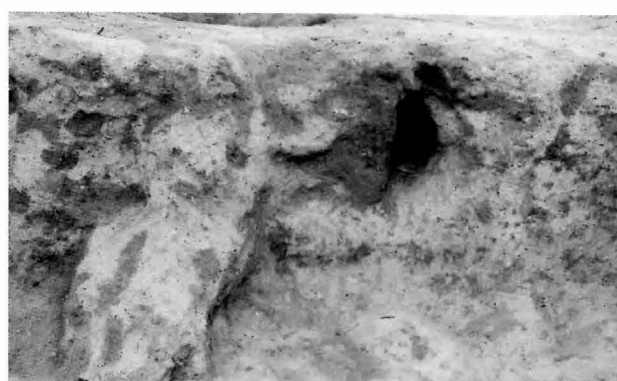
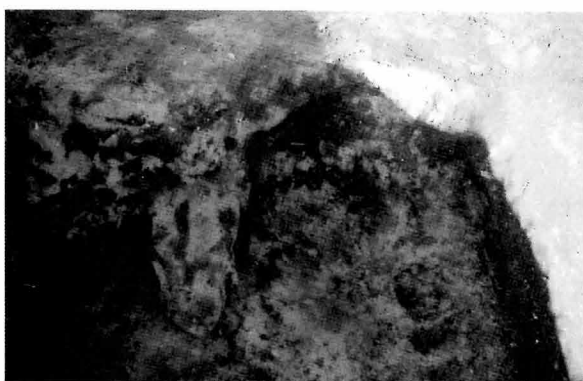


H45号住居址
墳砂

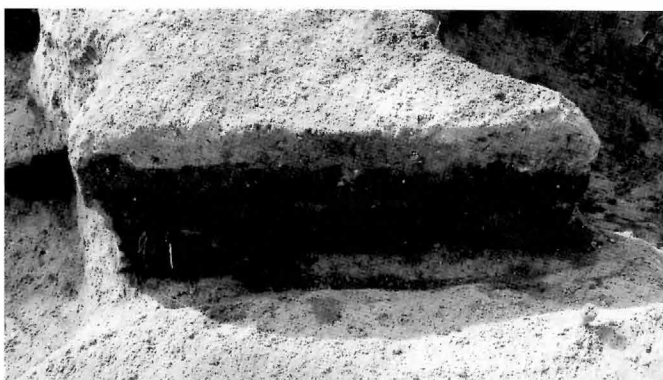
H46号住居址
全景



H46号住居址
カマド



H46号住居址
カマド煙道部



H46号住居址
カマド煙道部

H46号住居址
P1



H47号住居址
全景



H48号住居址
全景



H49号住居址
全景



H49号住居址
遺物出土状態



H49号住居址
カマド

H50号住居址
全景



H50号住居址
カマド



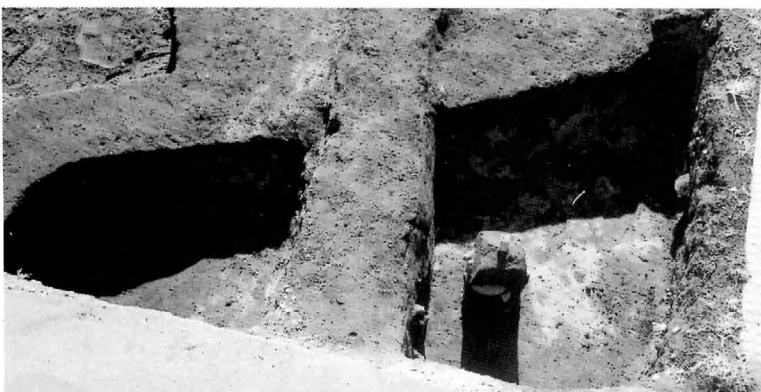
H50号住居址
カマド

H51号住居址
全景



H52号住居址
全景

M15号
溝状遺構
全景



M15号
溝状遺構
獣骨出土状態





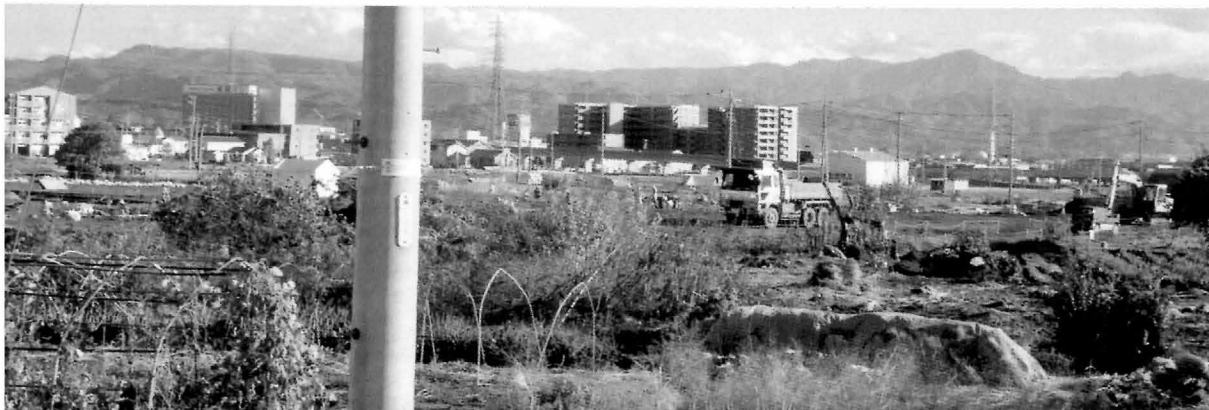
F1号
掘立柱建物址

Ta1号
竪穴状遺構



F3号
掘立柱建物址

F2号
掘立柱建物址



西近津遺跡IV
から
南東を望む

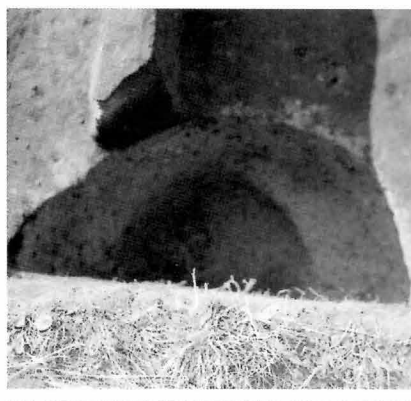
F4号
掘立柱建物址



F4号
掘立柱建物址
P1



F4号
掘立柱建物址
P9



F4号
掘立柱建物址
P2



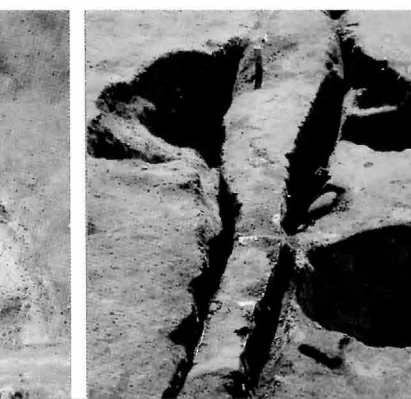
F4号
掘立柱建物址
P10



F4号
掘立柱建物址
P11

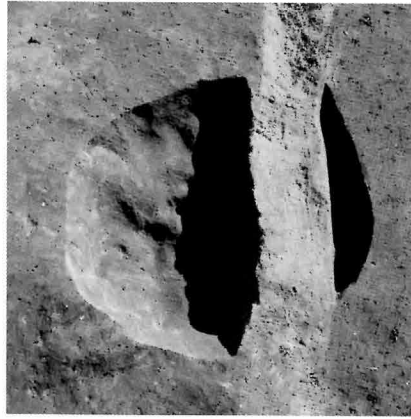


F4号
掘立柱建物址
P11·P12
·P13



F4号
掘立柱建物址
P12

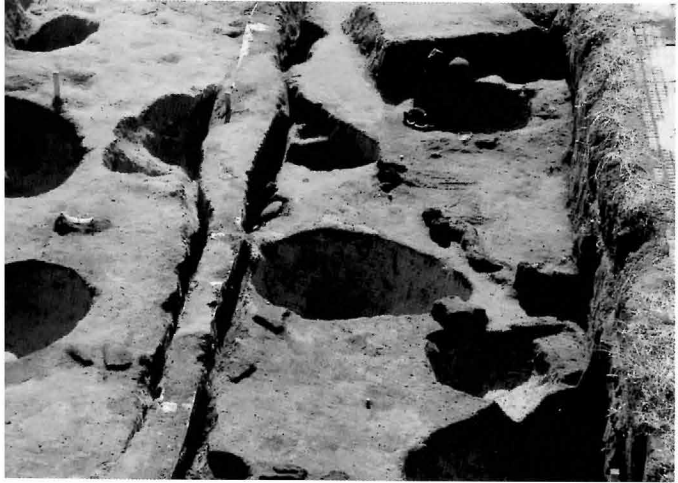
F4号
掘立柱建物址
P4·P5



F4号
掘立柱建物址
P8

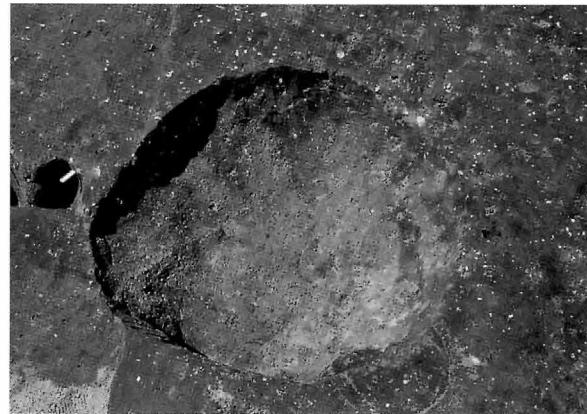
F4号
掘立柱建物址
P6

F4号
掘立柱建物址
P3



F4号
掘立柱建物址
P11·P12·P4
P5·P3·P13

F4号
掘立柱建物址
P8·P13
·P7·P6



D2号土坑

D1号土坑

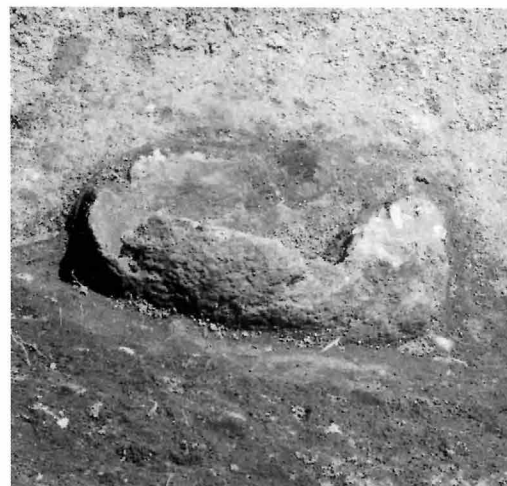


D4号土坑

D5号土坑

D5号土坑
小児頭蓋骨

D5号土坑
小児頭蓋骨下
刀子出土状態

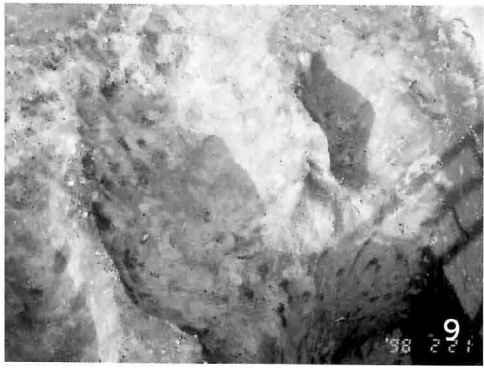


D5号土坑
南側の刀子・
鎌出土状態

D5号土坑
南側の刀子・
鎌出土状態

D5号土坑
南側の刀子・
鎌出土状態





1 D7号土坑
 2 D6号土坑
 3 D7号土坑
 兽骨出土状态
 4 D9号土坑
 5 D8号土坑
 6 D10号土坑
 遗物出土状态
 7 D10号土坑
 遗物出土状态
 8 D10号土坑
 遗物出土状态
 9 D11号土坑
 10 D10号土坑
 11 D13号土坑
 12 D12号土坑

D14号土坑



D15号土坑



D16号土坑



D17号土坑



D17号土坑



D18号土坑



D20号土坑



西近津遺跡Ⅳ
平成20年1月
調査地点





D21号土坑
遺物出土状态



D21号土坑



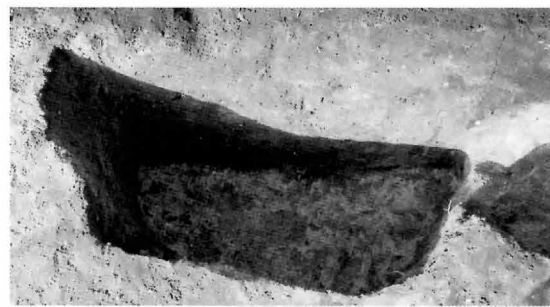
D23号土坑



D22号土坑



D25号土坑



D24号土坑



D26号土坑



D28号土坑



D27号土坑

D29号土坑



D30号土坑



D31号土坑



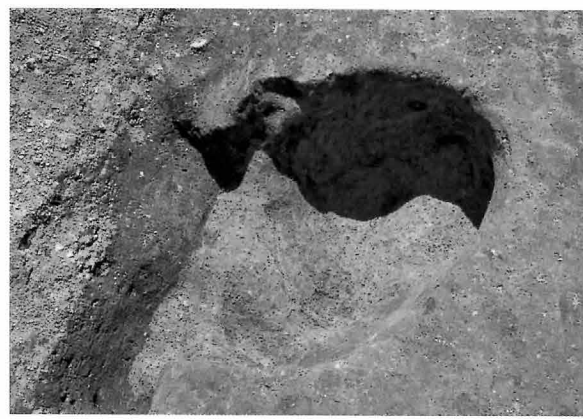
D32号土坑



D33号土坑



D34号土坑



D35号土坑



D36号土坑



D37号土坑



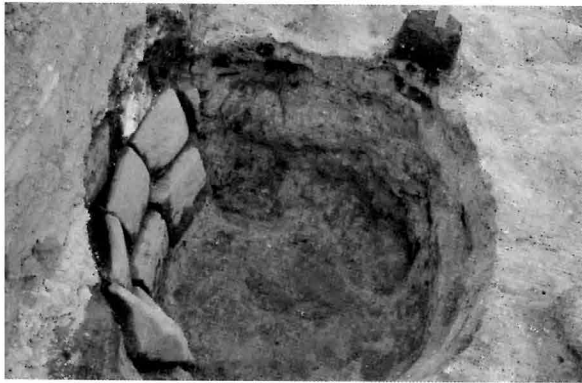
西近津遺跡Ⅳ
平成20年1月
調査地点





D38号土坑
五輪塔火輪
使用の石積み

D38号土坑
五輪塔火輪
使用の石積み



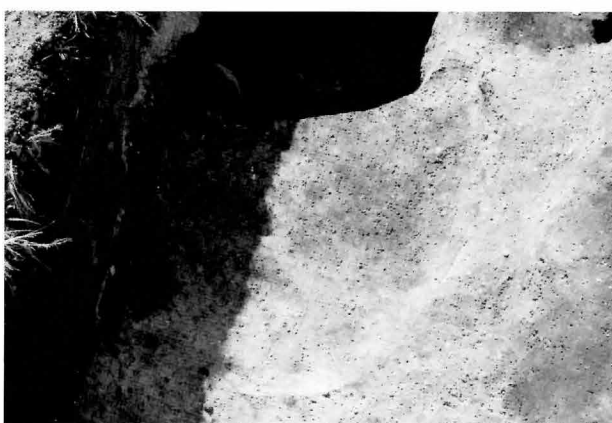
D38号土坑
五輪塔火輪
使用の石積み

D38号土坑
五輪塔火輪
使用の石積み



D38号土坑
五輪塔火輪
撤去後

D38号土坑
五輪塔火輪
使用の石積み



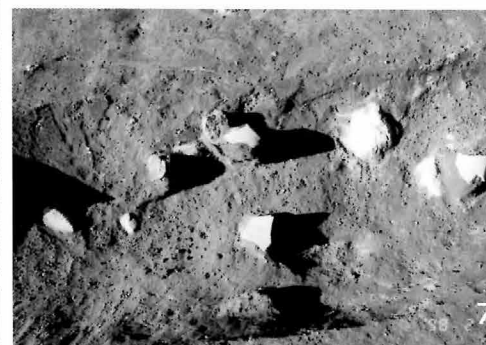
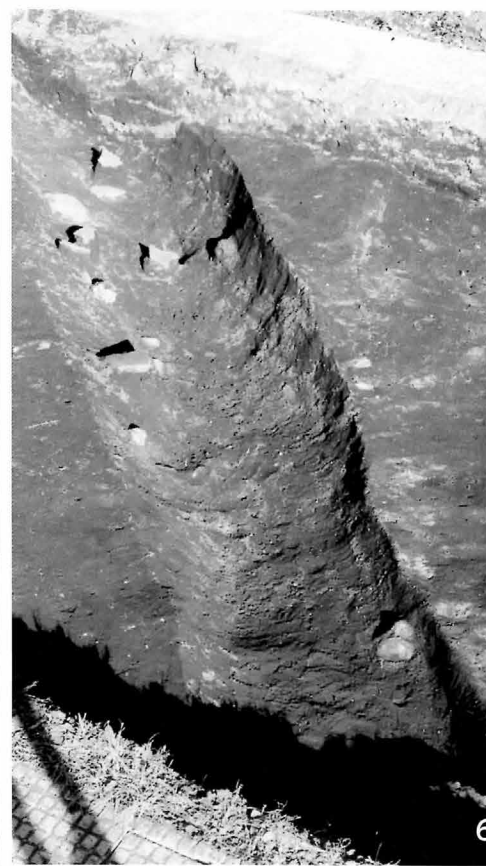
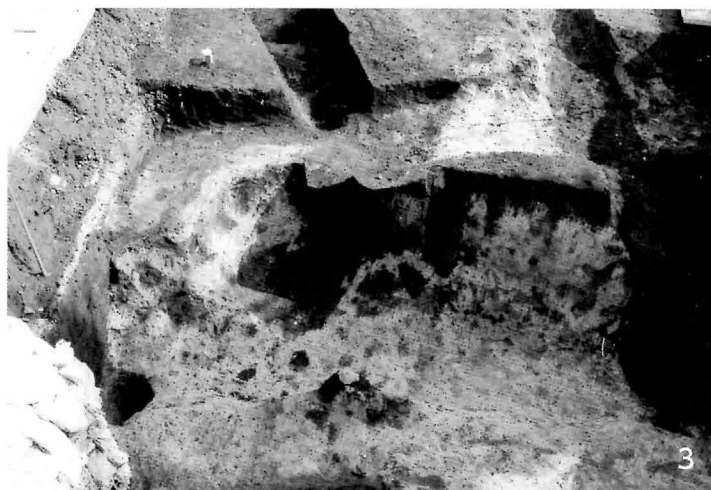
D54号土坑

D43号土坑



D56号土坑

D55号土坑



1 D57号土坑

2 D57号土坑
·D58号土坑

3 M1号溝状遺構
M3号溝状遺構

4 M2号溝状遺構

5 M4号溝状遺構

6 M5号溝状遺構

7 M5号溝状遺構
遺物出土状態

8 M4号溝状遺構
獸骨出土状態



M7号溝状遺構



M6号溝状遺構



M9号溝状遺構



M8号溝状遺構



M11号溝状遺構



M10号溝状遺構

M12号沟状遗构



M13号沟状遗构



M13号沟状遗构



M14号沟状遗构



M14号沟状遗构
遗物出土状态

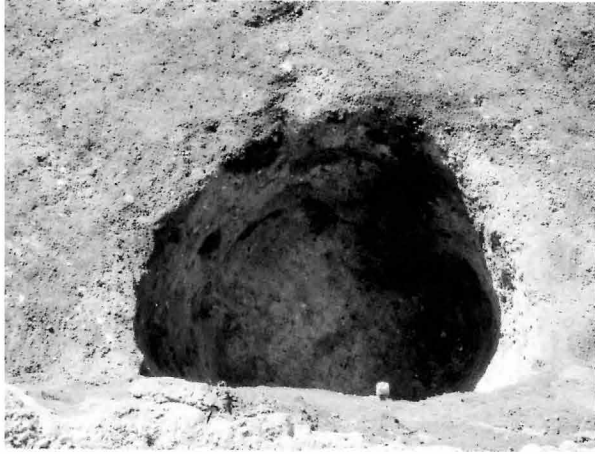


P172号
遗物出土状态



P172号
遗物出土状态





P172号ピット

P172号ピット
遺物出土状態



西近津遺跡Ⅳ
つ18～な20
グリッド
ピット群



H46号住居址
付近
ピット群

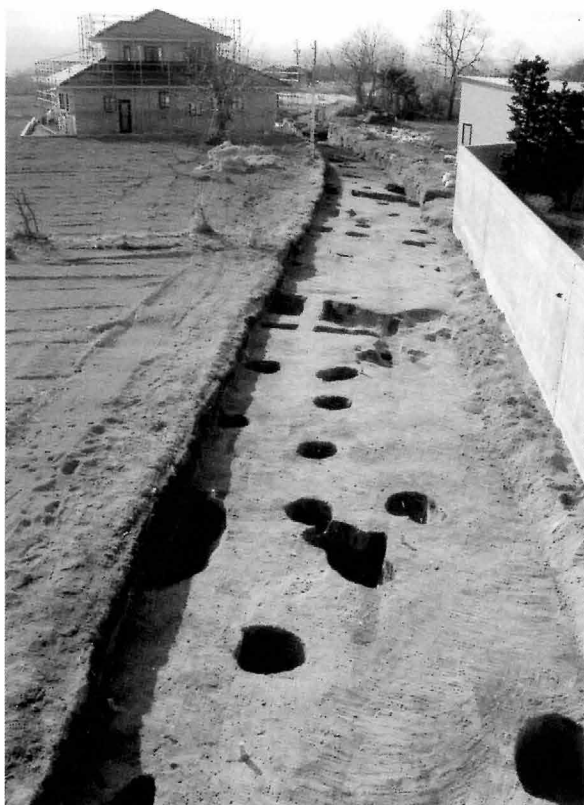
西近津遺跡Ⅳ
ふ52～ほ48Gr
平成20年11月
調査地点

西近津遺跡Ⅳ
つ18～な20
グリッド
ピット群



西近津遺跡 V

西近津遺跡V
調査区全景



H1号住居址

H1号住居址
遺物出土状態



H2号住居址

H2号住居址
カマド

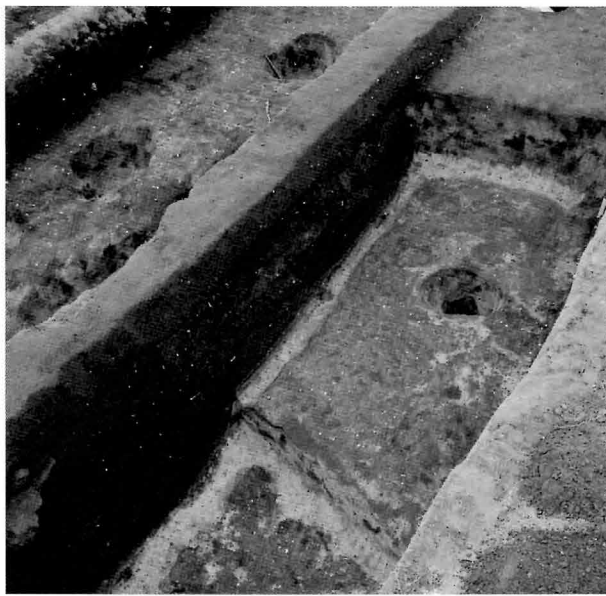
H2号住居址
遺物出土状態



H3号住居址

H3号住居址
掘方





H4号住居址
掘方

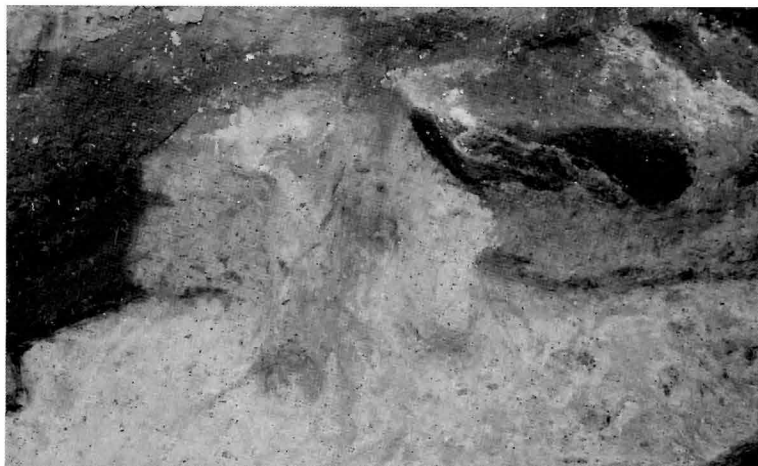
H4号住居址
全景



H5号住居址
掘方

H5号住居址
全景

H5号住居址
遺物出土状態

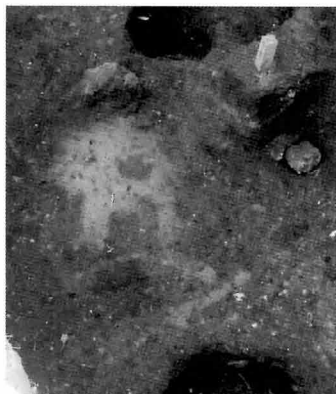


H6号住居址
全景

H5号住居址
カマド

H5号住居址
カマド掘方

H6号住居址
炉址



H6号住居址
全景

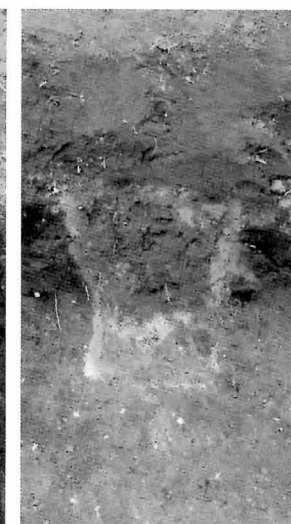


H6号住居址
掘方

H8号住居址
全景



H8号住居址
カマド



H9号住居址
全景



H9号住居址
掘方



H10号住居址
全景

H10号住居址
掘方



H11号住居址
全景

H11号住居址
掘方





H12号住居址
掘方

H12号住居址
全景



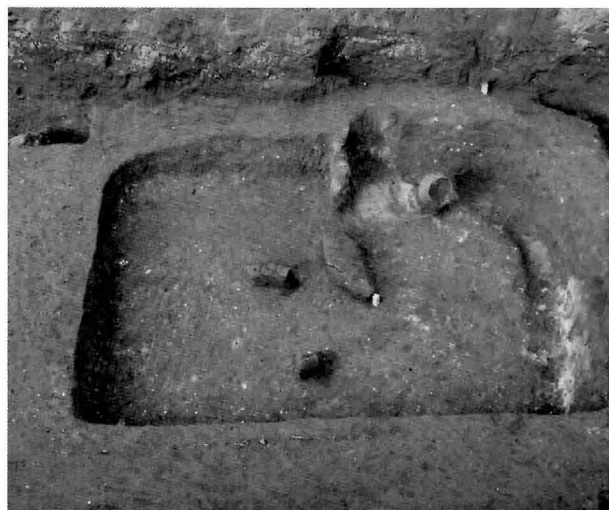
H13号住居址
全景

H13号住居址
カマド



H13号住居址
掘方

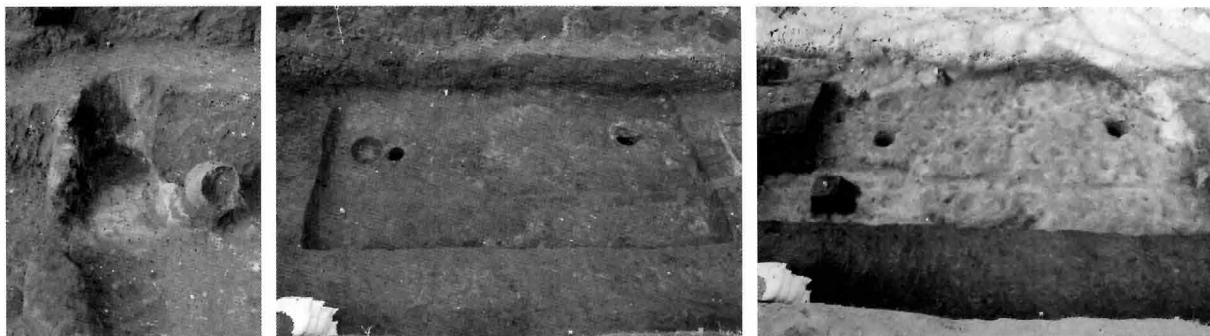
H13号住居址
カマド



H15号住居址
掘方

H15号住居址
全景

H15号住居址
カマド



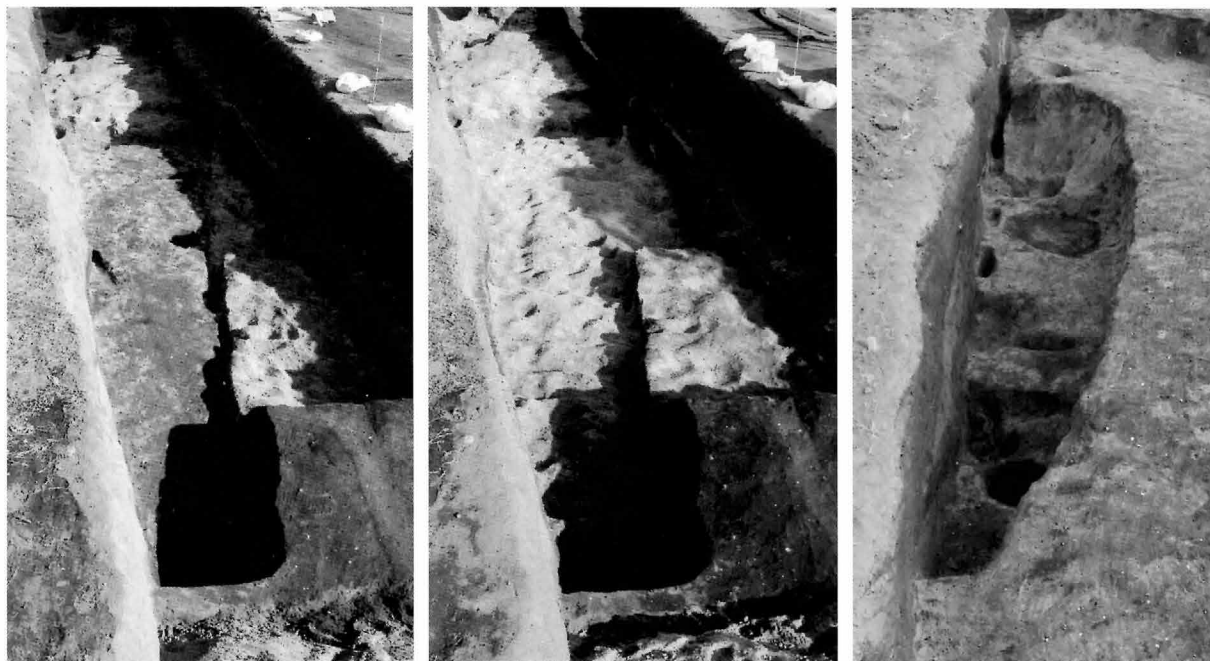
H16号住居址
全景

H16号住居址
掘方

H17号住居址
全景

H17号住居址
掘方

H18号住居址
全景



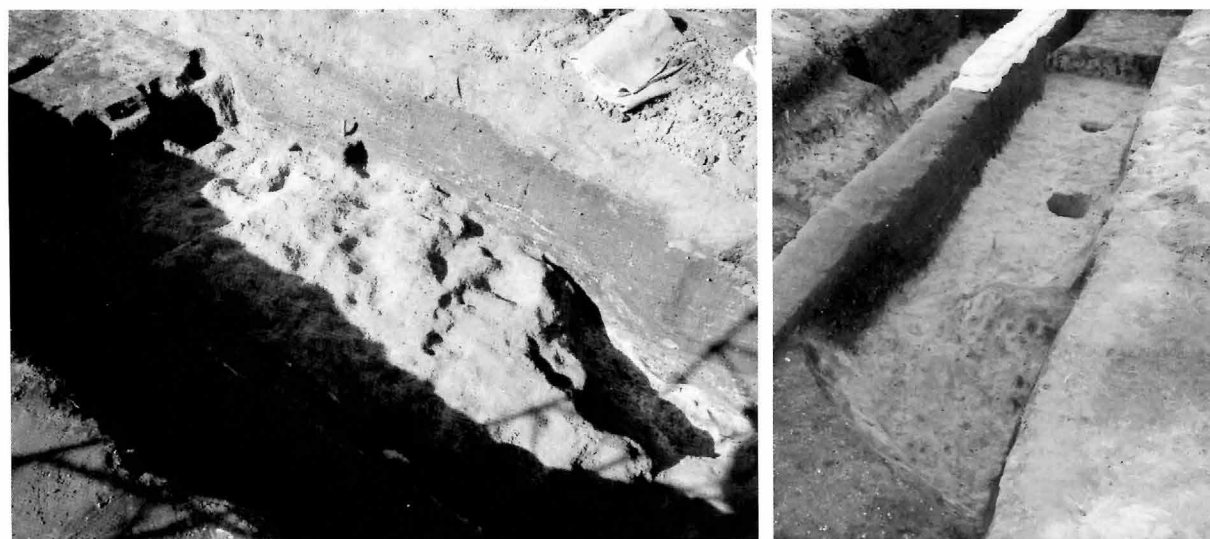
H18号住居址
掘方

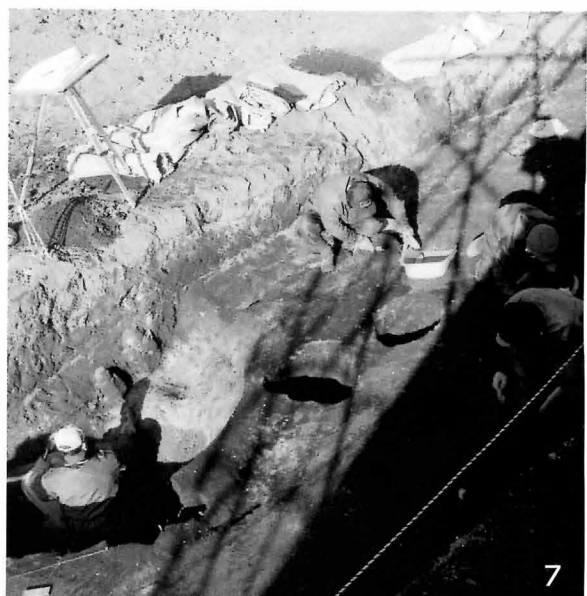
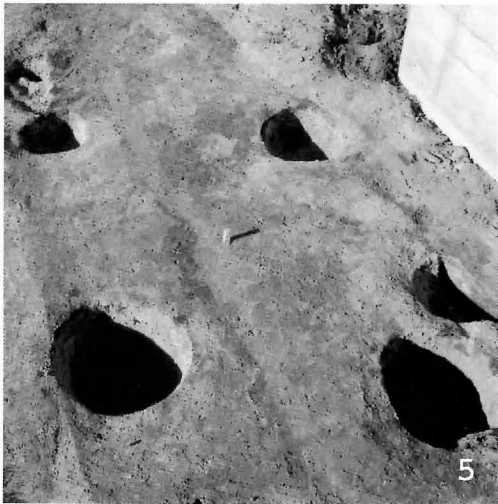
H19号住居址
全景



H19号住居址
掘方

OT1号古墳





1 F2号
掘立柱建物址

2 F3号
掘立柱建物址

3 F1号
掘立柱建物址

4 F4号
掘立柱建物址

5 F5号
掘立柱建物址

6 西近津遺跡Ⅴ
調査風景

7 西近津遺跡Ⅴ
調査風景

D1号土坑



D2号土坑



D3号土坑



D4号土坑



D5号土坑



D7号土坑



D6土坑



ウマ
出土状態

D6号土坑



图版70



D10号土坑

D9号土坑

D8号土坑



M2号
沟状遗构

M1号
沟状遗构



M5号
沟状遗构

M4号
沟状遗构



M7号
沟状遗构

M6号
沟状遗构



5-9 (H1)



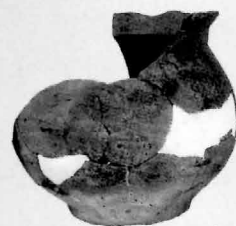
5-10 (H1)



5-8 (H1)



4-1 (H1)



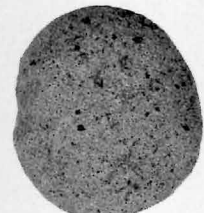
4-6 (H1)



5-14 (H1) 1:2



5-13 (H1) 1:3



5-15 (H1) 1:6



7-14 (H2)



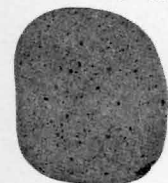
8-11 (H3)



8-5 (H3) 1:2



8-2 (H3) 1:2



10-32 (H3)



10-31 (H3) 1:2



10-30 (H3) 1:1



10-29 (H3) 1:1



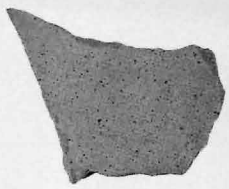
10-37 (H3) 1:3



10-36 (H3) 1:3



10-33 (H3)



10-35 (H3) 1:6



10-34 (H3)



11-8 (H4)



11-1 (H4)



11-9 (H4)



11-5 (H4) 1:2



12-28 (H4) 1:1



12-30 (H4) 1:1



12-29 (H4) 1:3



14-1 (H6)



14-3 (H6)



14-7 (H6)



14-2 (H6)



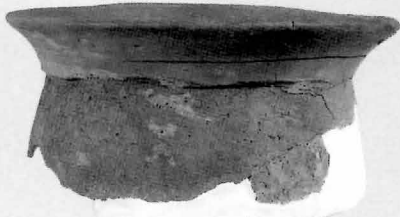
14-10 (H6)



15-17 (H6)



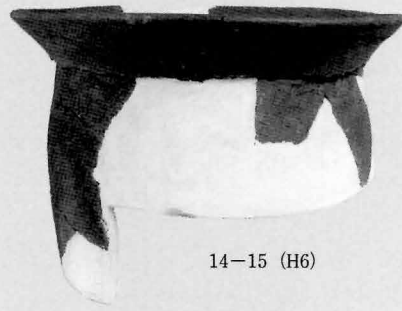
15-18 (H6)



14-16 (H6)



15-21 (H6)



14-15 (H6)



15-29 (H6)



15-30 (H6)



16-17 (H7)



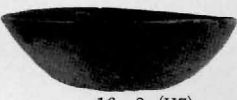
16-4 (H7)



16-8 (H7)



16-7 (H7) 1:2



16-2 (H7)



16-3 (H7)



16-5 (H7)



17-36 (H7)



16-1 (H7)



17-26 (H7)



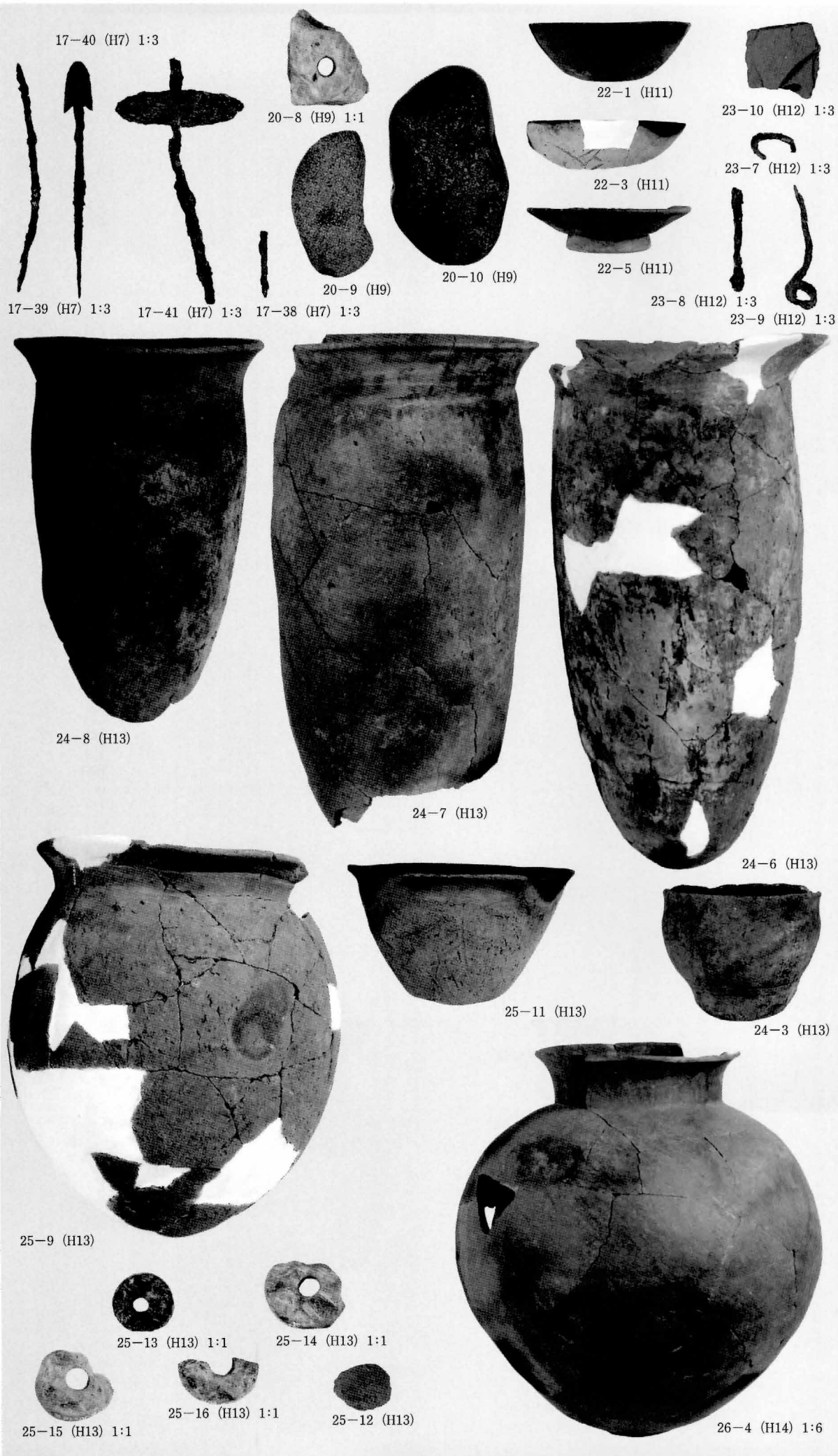
17-27 (H7)



17-37 (H7)



17-35 (H7)





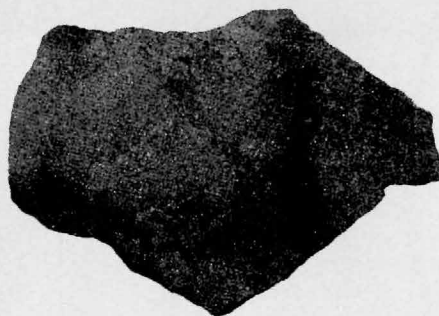
26-3 (H14)



26-1 (H14)



27-9 (H14)



27-10 (H14) 1:6



28-1 (H15) 1:1



29-1 (H16)



29-7 (H16)



30-12 (H17)



30-11 (H17)



30-13 (H17) 1:3



30-14 (H17) 1:3



32-8 (H18)



31-2 (H18)



32-15 (H18)



32-17 (H18)



32-14 (H18)



32-16 (H18)



31-3 (H18)



32-26 (H18) 1:6



32-25 (H18)



36-3 (H22)



34-1 (H20) 1:3



36-16 (H22) 1:3



36-17 (H22) 1:3



37-1 (H23)



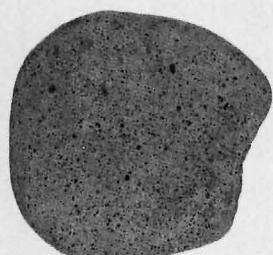
41-7 (H25)



41-3 (H25)



41-6 (H25)



37-8 (H23)



41-4 (H25)



41-5 (H25)



41-9 (H25)



40-1 (H25)



41-10 (H25)



41-8 (H25) 1:1



43-4 (H27) 1:3



47-4 (M2)

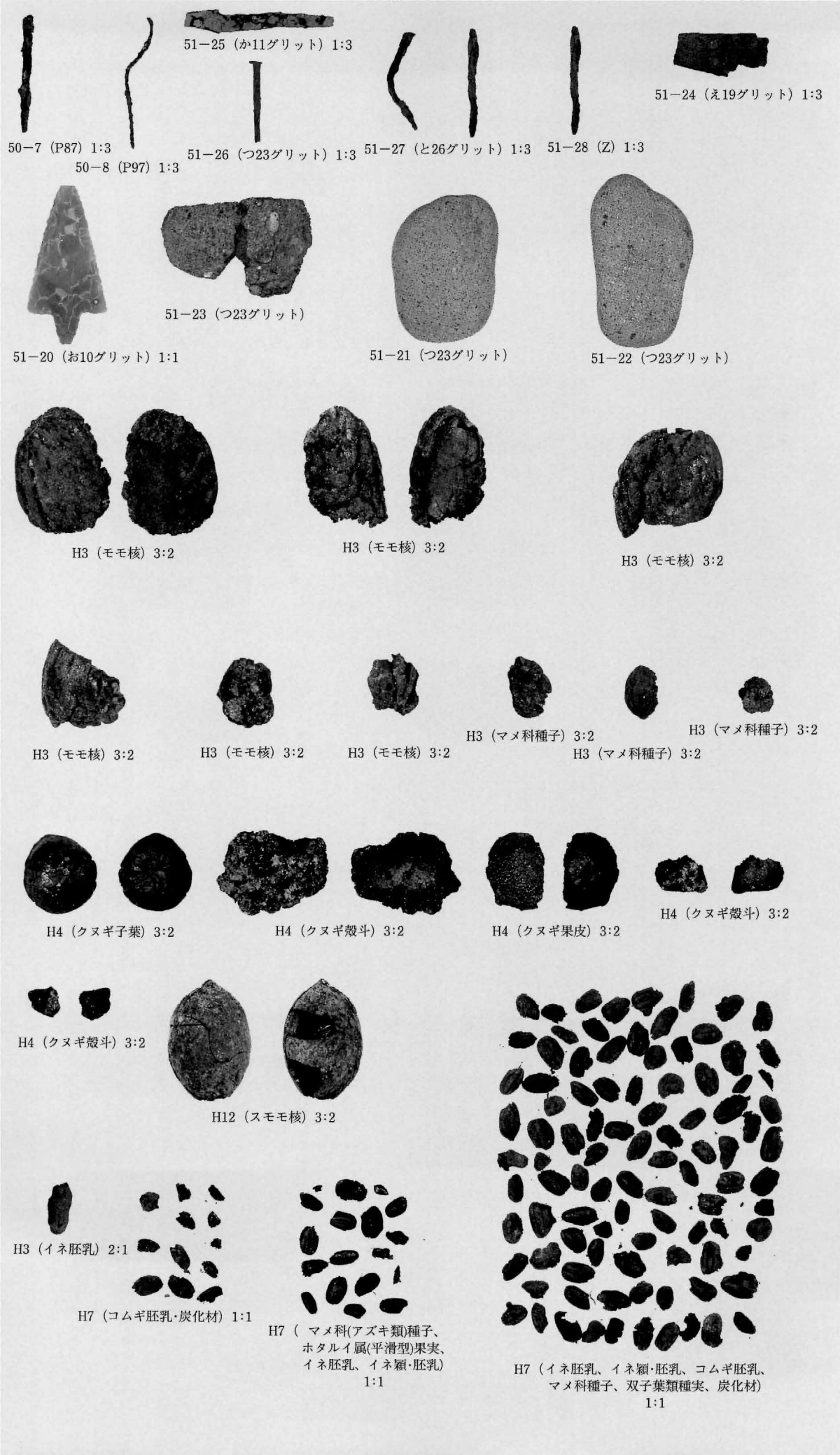


50-5 (P36)



50-6 (P61) 1:2







53-7 (H1) 1:1



58-4 (H5)



58-10 (H5) 1:1



58-16 (H5)



58-17 (H5) 1:2



58-19 (H5) 1:2



58-18 (H5) 1:1



58-21 (H5) 1:1



58-20 (H5) 1:3



58-15 (H5)



59-1 (H6)



59-3 (H6)



59-2 (H6)



61-11 (H7)



59-4 (H6) 1:1



64-7 (H9)



64-2 (H9)



64-4 (H9)



64-3 (H9)



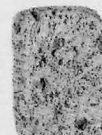
64-20 (H9)



64-25 (H9)



64-10 (H9) 1:1



64-21 (H9)



64-22 (H9)



64-23 (H9)



64-24 (H9)



64-26 (H9) 1:1



66-12 (H10)



65-8 (H10)



65-9 (H10)



67-4 (H11)



68-15 (H11)



68-16 (H11) 1:1



70-8 (H12)



70-25 (H12)



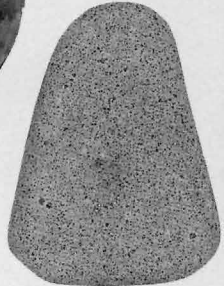
70-24 (H12)



71-8 (H13)



68-17 (H11) 1:1



70-26 (H12)



70-27 (H12)



71-7 (H13)



72-11 (H14)



72-14 (H14) 1:6



72-13 (H14)



73-3 (H15)



74-1 (H16)



72-12 (H14)



74-18 (H16)



75-4 (H17) 1:3



77-36 (H18)



76-12 (H18) 1:2



76-6 (H18) 1:2



79-17 (H19)



76-16 (H18)



77-43 (H18)



77-44 (H18)



77-45 (H12) 1:3



79-18 (H19)



79-19 (H19)



79-14 (H19)



79-29 (H19) 1:3



79-30 (H19) 1:3



79-28 (H19) 1:3



81-14 (H20)



79-24 (H19)



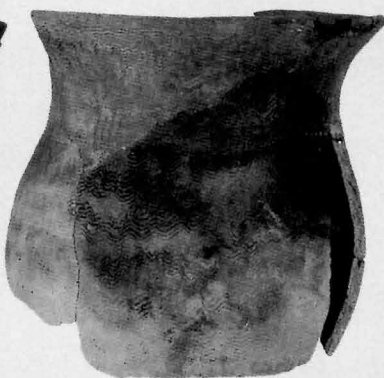
81-16 (H20)



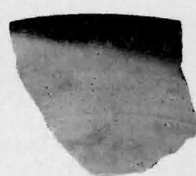
81-7 (H20)



81-9 (H20)



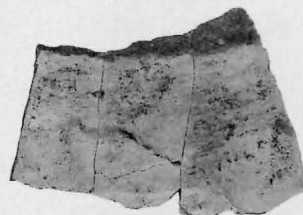
81-8 (H20)



81-46 (H20) 1:2



81-49 (H20)



81-50 (H20) 1:6



81-48 (H20)



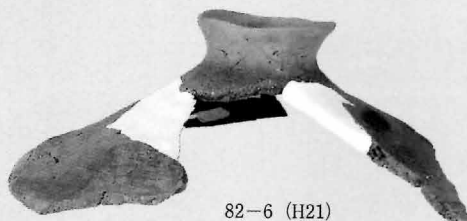
82-1 (H21)



82-2 (H21)



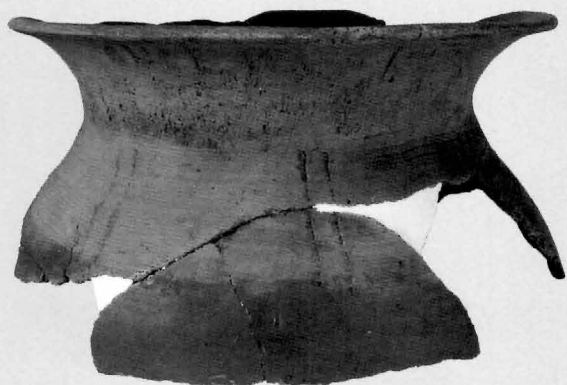
81-47 (H20)



82-6 (H21)



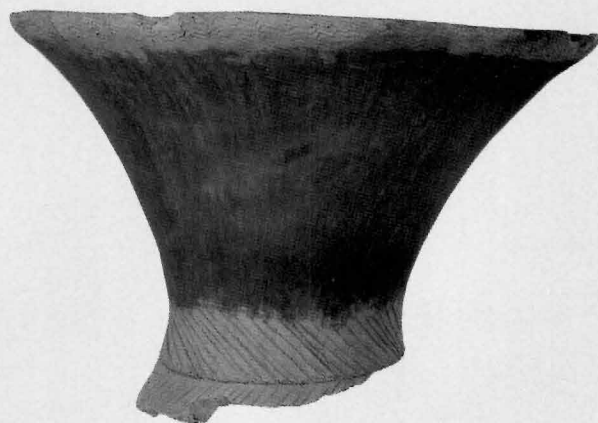
82-19 (H21) 1:3



83-4 (H22)



83-2 (H22)



83-1 (H22)



84-19 (H22) 1:2



84-20 (H22)



84-21 (H22)



84-23 (H22) 1:6



84-22 (H22) 1:6



84-24 (H22) 1:6

图版80



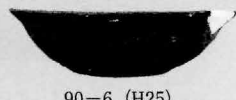
86-1 (H23)



86-10 (H23)



86-7 (H23)



90-6 (H25)



87-42 (H23)



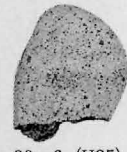
87-41 (H23)



87-40 (H23)



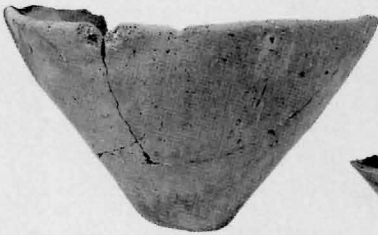
90-14 (H25)



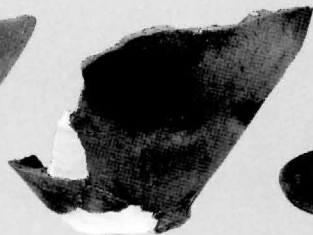
90-6 (H25)



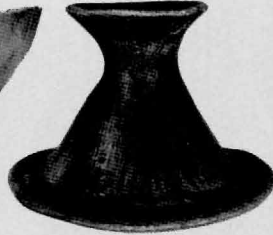
91-7 (H26) 1:2



93-12 (H27)



92-5 (H27)



93-15 (H27)



93-43 (H27)



93-42 (H27) 1:2



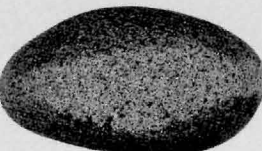
92-9 (H27)



93-44 (H27)



94-15 (H28)



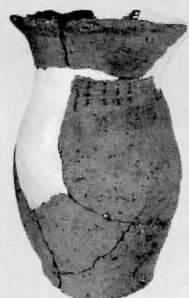
94-14 (H28)



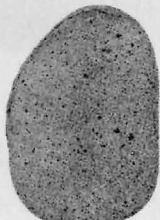
94-13 (H28)



94-16 (H28) 1:6



95-1 (H29)



95-12 (H29)



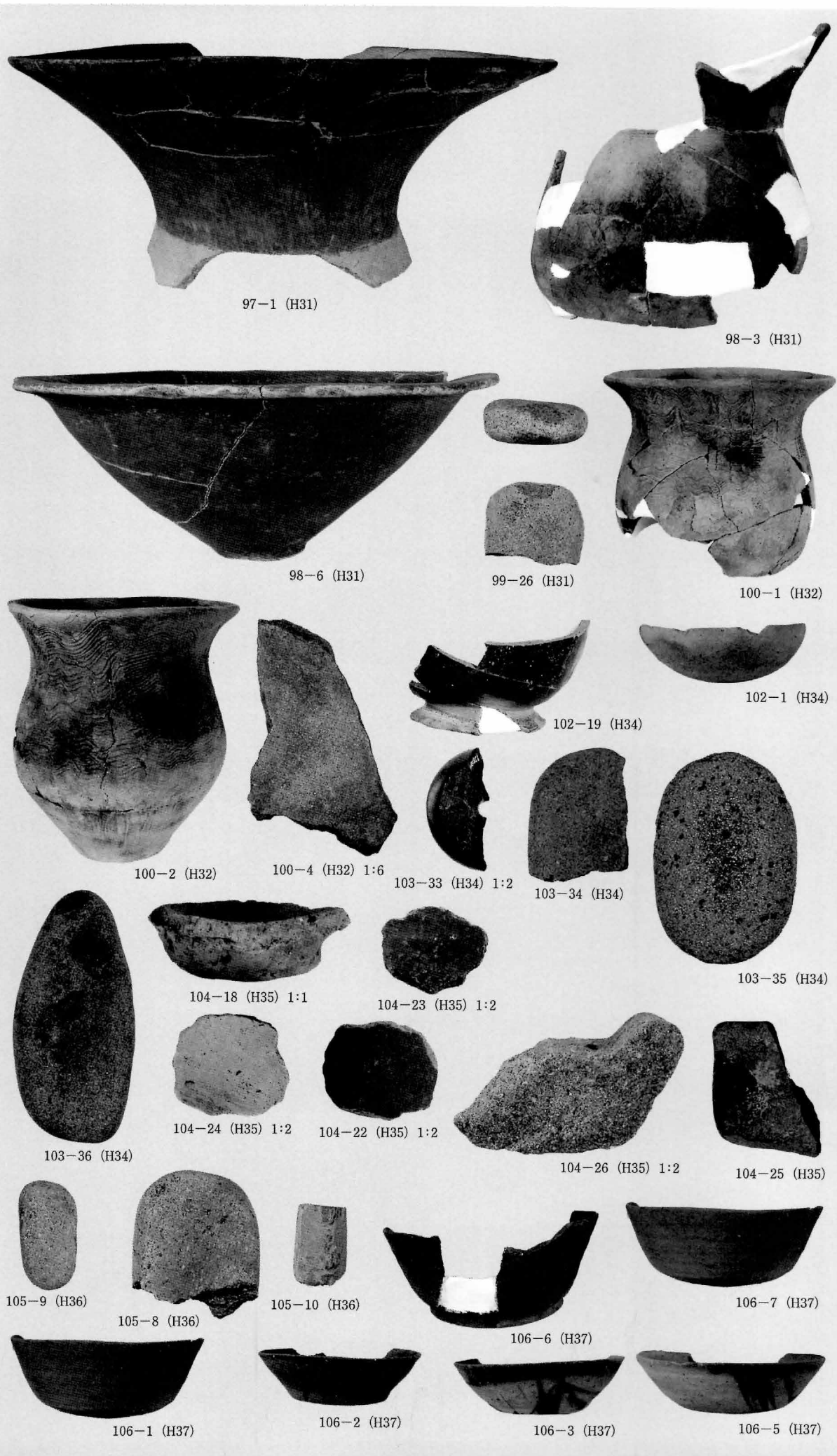
96-2 (H30)



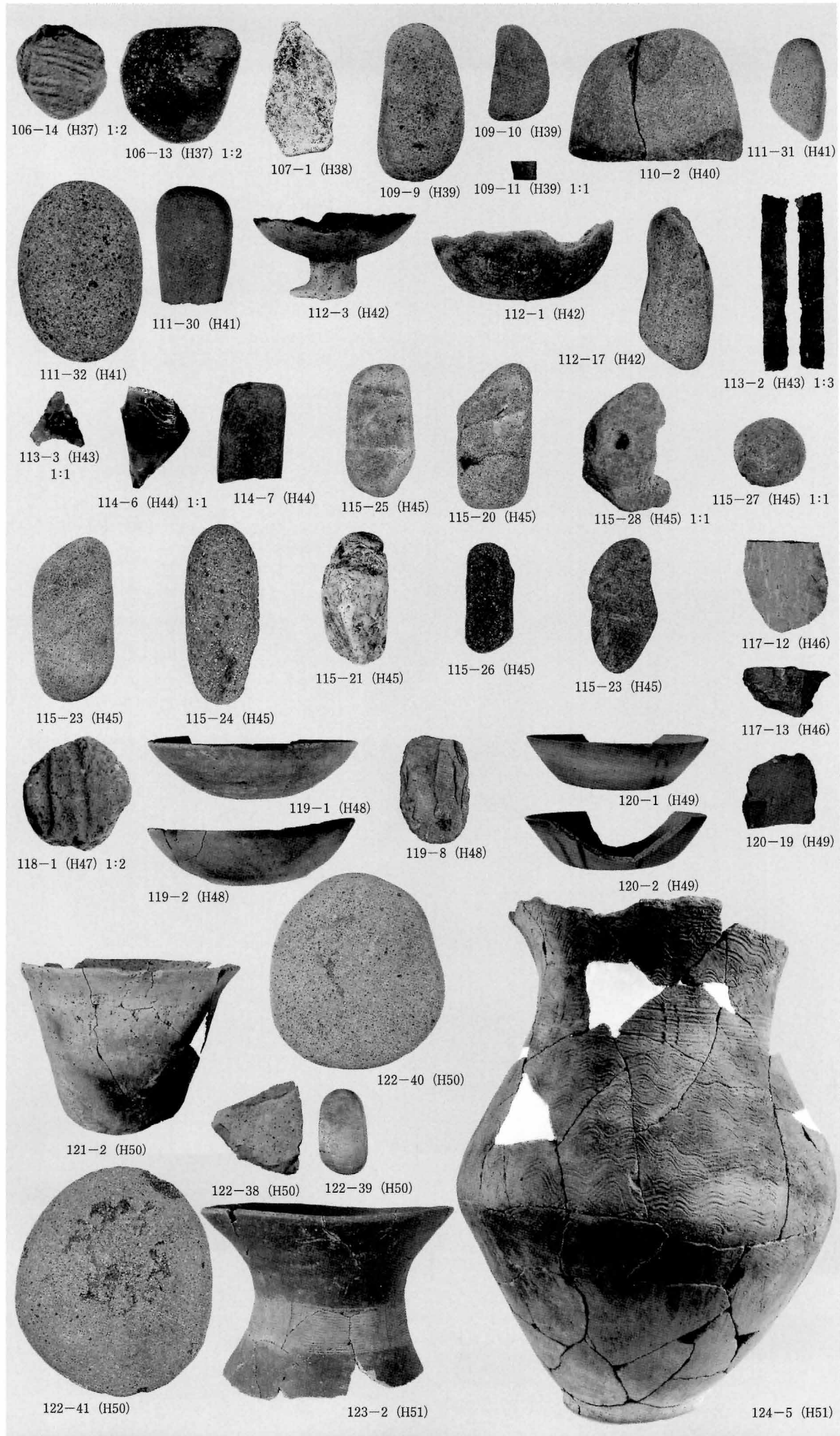
96-27 (H30)

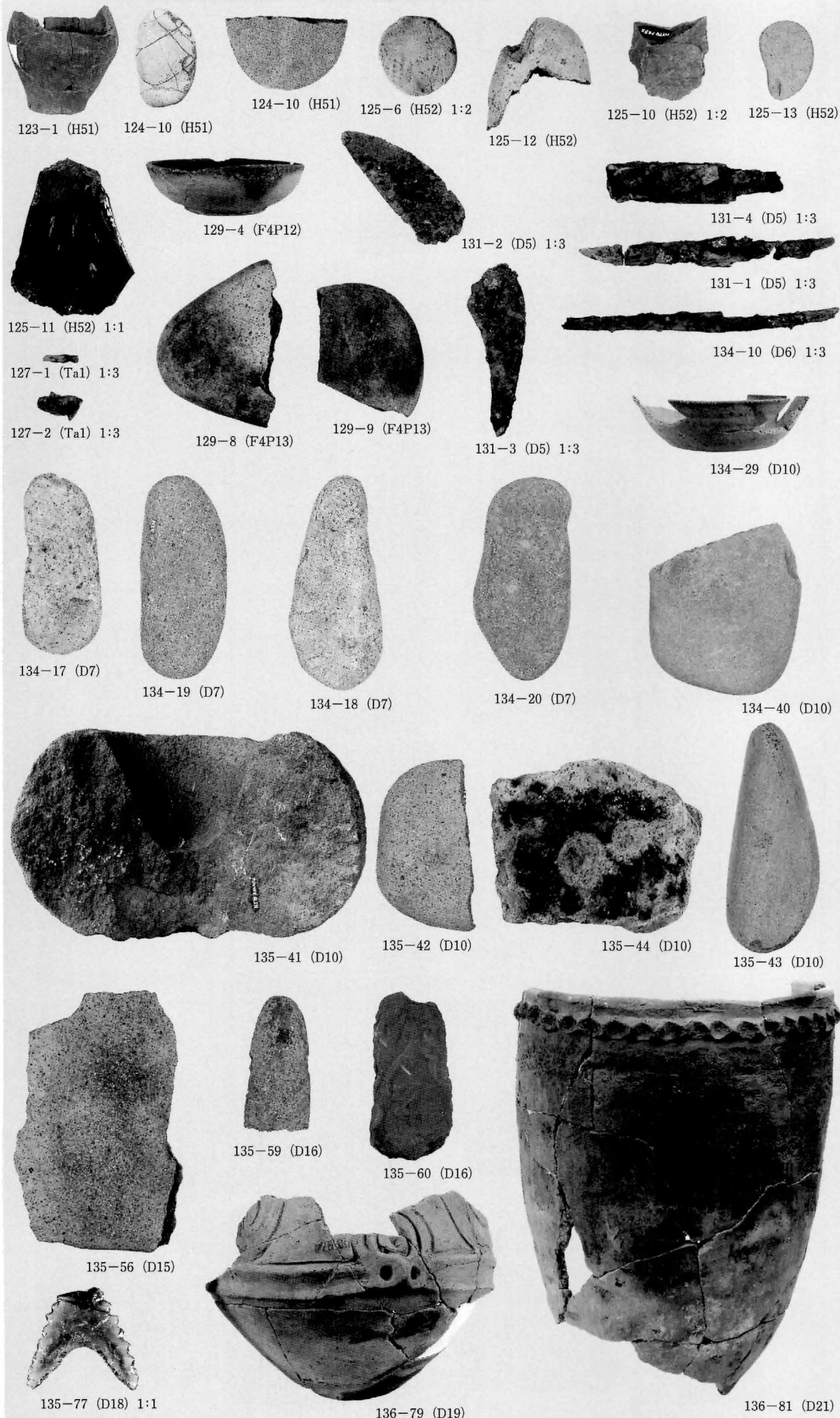


96-28 (H30)



图版82







136-97 (D21)



136-98 (D21)



137-120 (D23)



136-119 (D23)



137-121 (D23)



137-122 (D23)



136-118 (D23)



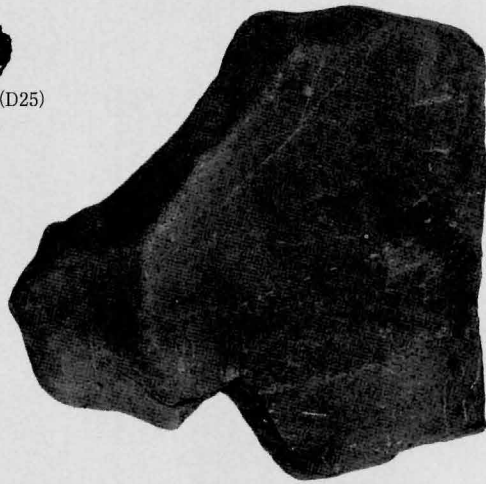
137-126 (D25)



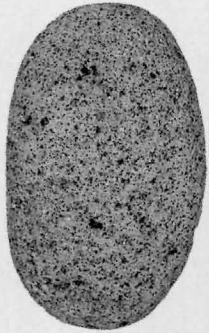
137-133 (D25) 1:6



137-132 (D25)



138-153 (D26) 1:8



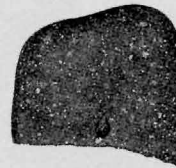
137-152 (D26)



138-154 (D26) 1:6



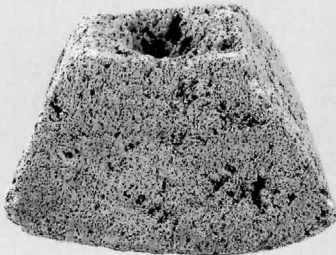
138-165 (D29)



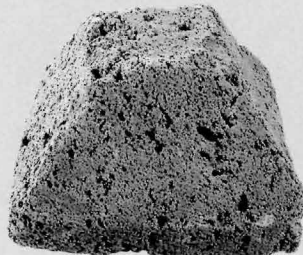
139-177 (D36)



138-182 (D38) 1:8



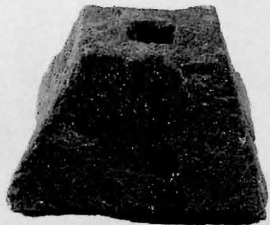
139-185 (D38) 1:8



139-186 (D38) 1:8



139-190 (D38) 1:8



140-193 (D38) 1:8



139-188 (D38) 1:8



139-187 (D38) 1:8



138-181 (D38) 1:8



139-189 (D38) 1:8



140-192 (D38) 1:8



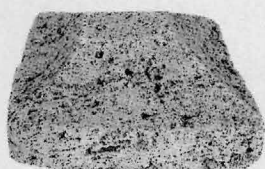
140-194 (D38) 1:8



139-191 (D38) 1:8



138-183 (D38) 1:8



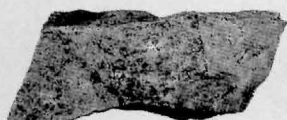
138-184 (D38) 1:8



140-219 (D58)



141-234 (D58) 1:2



141-233 (D58) 1:1



141-232 (D58)



144-1 (M3)



145-17 (M4)



146-38 (M4)



146-32 (M4) 1:1



146-33 (M4)



146-35 (M4)



146-37 (M4)



146-36 (M4)



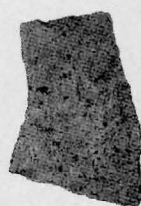
146-39 (M4)



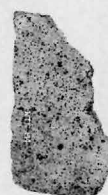
146-34 (M4) 1:2



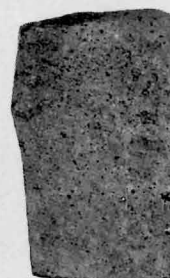
146-41 (M4)



146-43 (M4)



146-44 (M4)



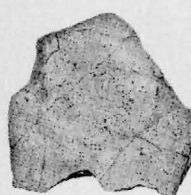
146-40 (M4)



146-45 (M4)



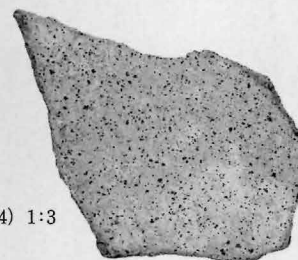
146-42 (M4)



146-46 (M4)



146-47 (M4) 1:3



147-7 (M5) 1:6



149-12 (M8)



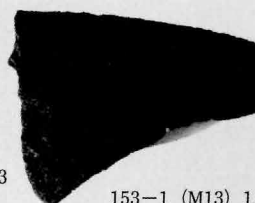
151-3 (M10)



151-2 (M10)



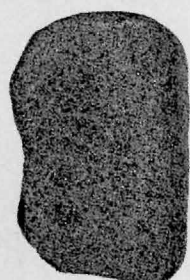
152-40 (M11) 1:3



153-1 (M13) 1:1



153-11 (M13)



153-12 (M13)



153-10 (M13)



153-13 (M13)

153-14 (M13) 1:3



154-15 (M14)



155-11 (M15)



155-10 (M15)



158-15 (P51) 1:2



158-20 (P55)



158-14 (P56)



158-22 (P131) 1:2



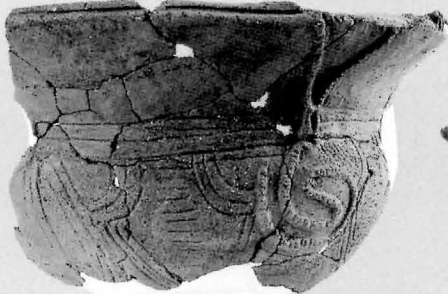
158-21 (P143)



158-23 (P168)



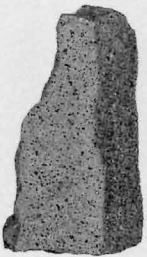
158-24 (P163)



156-1 (P172)



156-2 (P172) 1:6



158-25 (P177)



160-102 (つ・て18・19)



160-104 (つ・て18・19)



160-103 (ふ63)



160-112 (み40)



160-105 (H6)



160-106 (め29)



160-107 (み42)



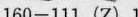
160-108 (た13)



160-109 (た・ち17・18) 1:6



160-110 (め26) 1:6



160-111 (Z) 1:6



160-113 (そ13)



160-114 (み41)



160-116 (Z)



160-117 (む33)



160-118 (ひ65)



160-115 (つ・て18・19)



H1 (モモ核・種子) 3:2



H1 (モモ核) 3:2



H1 (モモ核)



H1 (モモ核)



H19カマド (モモ核) 3:2



H19カマド (オニグルミ核) 3:2



H27 (オニグルミ核) 3:2



H27 (オニグルミ核) 3:2



H27 (オニグルミ核) 3:2



H27 (オニグルミ核) 3:2



H27 (オニグルミ核) 3:2



H50 (モモ核) 3:2



H50 (モモ核) 3:2



H31 (モモ核) 3:2



H31 (モモ核) 3:2



H31 (モモ核) 3:2



H19 (オオムギ類・胚乳, マメ科種子) 3:2

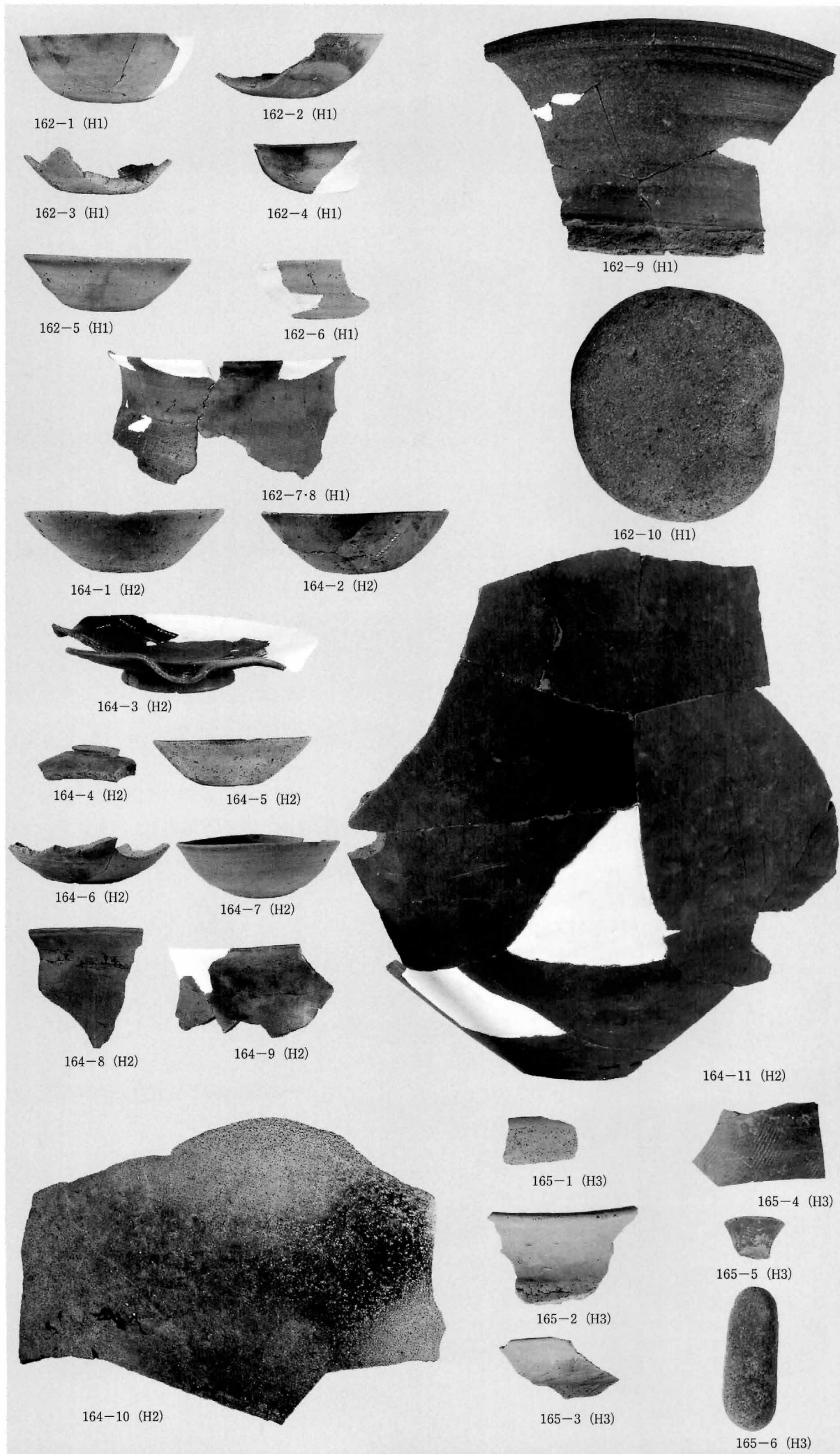


H12 (イネ類・胚乳) 3:2



H19 (イネ胚乳, イネ類, イネ類・胚乳, オオムギ類・胚乳, 炭化材) 3:2

西近津V出土遺物

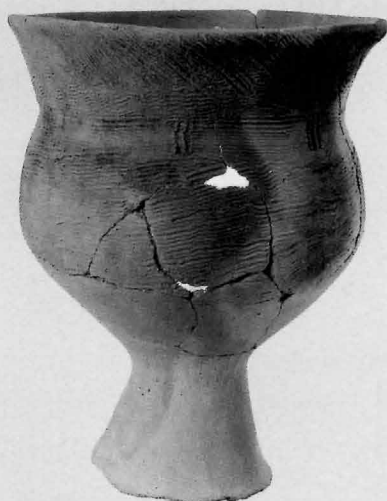




166-1 (H4)



166-2 (H4)



166-6 (H4)



166-3 (H4)



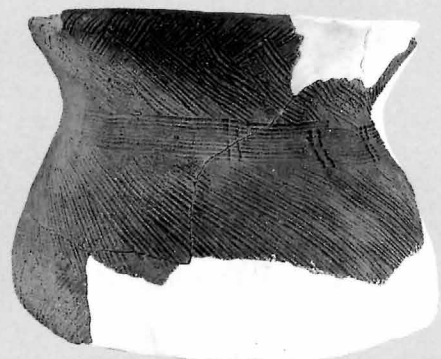
166-7 (H4)



166-8 (H4)



166-9 (H4)



166-4 (H4)



166-11 (H4)



166-5 (H4)



166-10 (H4)



167-1 (H5)



167-2 (H5)



167-3 (H5)



168-7 (H6)



168-1 (H6)



168-3 (H6)



168-6 (H6)



168-2 (H6)



168-4 (H6)



168-5 (H6)



168-8 (H6) 1:3



169-1 (H7)



169-3 (H7)



170-1 (H8)



170-3 (H8)



169-2 (H7)



169-4 (H7)



170-2 (H8)



170-6 (H8)



170-4 (H8)



170-5 (H8)



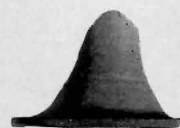
170-7 (H8)



171-1 (H9)



171-2 (H9)



171-5 (H9)



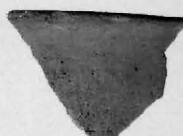
171-6 (H9) 1:3



170-8 (H8)



171-3 (H9)



171-4 (H9)



171-7 (H9) 1:3



172-1 (H10)



172-2 (H10)



173-1 (H11)



172-3 (H10)



174-1 (H12)



173-2 (H11)



174-2 (H12)



174-3 (H12)



174-6 (H12)



174-4 (H12)

174-7 (H12)



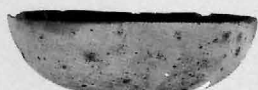
175-1 (H13)



175-2 (H13)



175-3 (H13) 1:2



177-1 (H15)



177-2 (H15)



177-5 (H15)



177-3 (H15)



177-4 (H15)

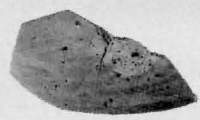


177-6 (H15)



177-7 (H15) 1:3

图版90



179-1 (H17)



179-3 (H17)



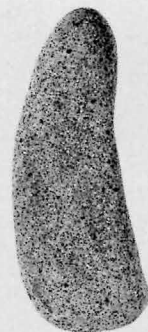
179-4 (H17)



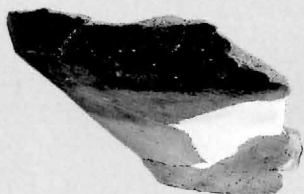
179-5 (H17)



179-2 (H17)



179-6 (H17)



180-1 (H18)



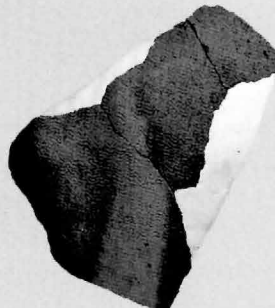
180-4 (H18)



180-2 (H18)



180-5 (H18)



180-3 (H18)



181-1 (H19)



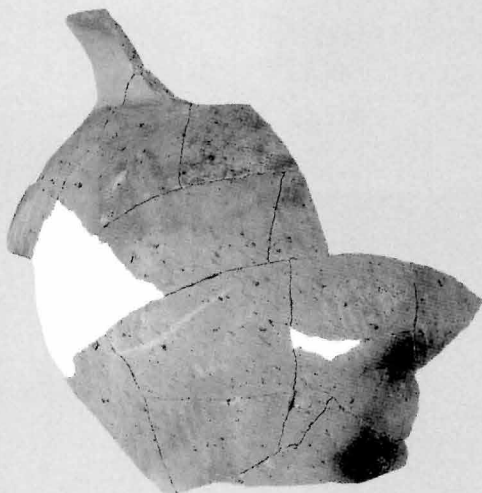
181-2 (H19)



181-3 (H19)



182-1 (F1)



181-4 (H19)



181-5 (H19)



181-6 (H19)



181-7 (H19) 1:3



183-1 (F5)



185-2 (D3)



185-1 (D3)



185-3 (D3)



185-4 (D3)



184-1 (D6) 1:3



186-1 (M1)



187-1 (OT1)



187-3 (OT1)



184-1 (D7)



186-1 (M5) 1:1



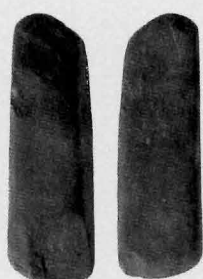
187-2 (OT1)



187-4 (OT1)



188-1 (P38)



188-1 (P45)



188-1 (遺構外)



188-2 (遺構外)



188-3 (遺構外)



188-4 (遺構外)



188-5 (遺構外)



188-6 (遺構外)



188-8 (遺構外)



188-11 (遺構外)



188-10 (遺構外)



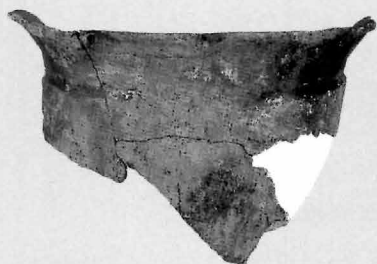
188-12 (遺構外)



188-14 (遺構外)



188-15 (遺構外)



188-9 (遺構外)



188-13 (遺構外)



188-7 (遺構外)



188-16 (一括)



188-17 (遺構外)



188-18 (遺構外) 1:2

報 告 書 抄 録

ふりがな	にしちかついせきぐん にしちかついせきさんよんご		
書名	西近津遺跡群 西近津遺跡Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ		
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書 第208集		
編著者名	林 幸彦		
編集機関	佐久市教育委員会		
発行機関	佐久市教育委員会		
発行年月日	20140331		
郵便番号	385-0006		
住所	長野県佐久市志賀5953		
所在地	〒385-0006 長野県佐久市志賀5953 TEL 0267-68-7321 FAX 0267-68-7323		
ふりがな遺跡名	にしちかついせきぐん にしちかついせきさん	にしちかついせきぐん にしちかついせきよん	にしちかついせきぐん にしちかついせきご
遺跡名	西近津遺跡群西近津遺跡Ⅲ	西近津遺跡群西近津遺跡Ⅳ	西近津遺跡群西近津遺跡Ⅴ
ふりがな遺跡所在地	ながのけんさくしながとろ 長野県佐久市長土呂		
遺跡番号	29		
北緯	36°16'51"	36°17'04"	36°17'08"
東経	138°27'40"	138°27'23"	138°27'30"
発掘期間	20060612～20060920	20071011～20081219	20071112～20080108
発掘面積㎡	680	1,510	580
発掘原因	市道S1-94号線改良工事	市道S1-101号線舗装工事	市道S-103号線改良工事
種別	集落跡	集落跡	集落跡
主な時代	縄文時代後期、弥生時代後期、古墳時代後期、奈良時代、平安時代	縄文時代後期、弥生時代後期、古墳時代後期、奈良時代、平安時代	縄文時代後期、弥生時代後期、古墳時代中期・後期、奈良時代、平安時代
主な遺構	竪穴住居址27、土坑13、溝状遺構2、ピット113	竪穴住居址52、竪穴状遺構1、掘立柱建物址5、土坑46、溝状遺構15、ピット187	竪穴住居址19、土坑10、溝状遺構7、古墳址1、ピット88
主な遺物	弥生土器(後期)、土師器(古・奈・平)、須恵器(奈・平)、石器、石製品、土製品、鉄製品、獣骨、炭化種実	縄文土器(中期・後期)、弥生土器(後期)、土師器(古・奈・平)、須恵器(奈・平)、石器、石製品、土製品、鉄製品、人骨、獣骨、炭化種実	縄文土器(草創期・後期)、弥生土器(後期)、土師器(古・奈・平)、須恵器(奈・平)、石器、石製品、土製品、鉄製品、獣骨、炭化種実
特記事項	ウマの埋葬土坑が検出された。	縄文時代後期の土坑群、弥生時代後期の溝、平安時代の大型掘立柱建物址、16世紀の五輪塔が壁面に積まれた土坑が検出された。	古墳時代前期の古墳周溝が検出された。
要約	西近津遺跡群の東域を南北に縦断する「中部横断自動車道路」の調査で検出された弥生時代後期・古墳時代後期・奈良・平安時代の大規模な集落が、今回の3次にわたる調査地点まで東西におよんでいることが確認された		

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第208集

西近津遺跡群西近津遺跡Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ

2014年3月

編集・発行 長野県佐久市教育委員会

長野県佐久市中込3056

文化財課

長野県佐久市志賀5953

電話 0267-68-7321

FAX 0267-68-7323

印刷所 株式会社 佐久印刷所

